

御経塚遺跡 II

1989

石川県野々市町教育委員会

御経塚遺跡 II

1989

石川県野々市町教育委員会

例 言

- 1 本書は昭和55～58（1980～1983）年度にかけて石川県野々市町教育委員会が実施した、野々市町御経塚（第1）土地区画整理事業に関連する御経塚遺跡第14・16・17・19・20次の緊急発掘調査事業の報告書である。このうち、第14・17・19・20次調査における弥生～古墳時代については1984年刊行の『野々市町御経塚ツカダ遺跡（御経塚B遺跡）発掘調査報告書Ⅰ』で報告している。
- 2 各次調査における発掘調査期間と調査面積は以下のとおりである。調査は、第14次を野々市町教育委員会社会教育課 高本 実（現住民課係長）と吉田 淳（同主事）が担当し、第16次以降は吉田が担当した。調査面積は合計4,630㎡である。

第14次調査	1980年9月23日～11月17日	面積	840㎡
第16次調査	1981年6月8日～10月31日	面積	2100㎡
第17次調査	1981年10月27日～12月28日	面積	680㎡
第19次調査	1982年10月12日～12月25日	面積	700㎡
第20次調査	1983年5月24日～7月21日	面積	310㎡
- 3 第14次調査は御経塚（第1）土地区画整理組合から委託を受けて実施した。第16次調査は野々市町都市整備課から委託を受け建設省の補助事業として実施した。第17・19・20次調査は街区内の緊急発掘調査事業として国庫及び県費補助事業として行った。
- 4 調査及び整理作業にあたり、次の各氏に御指導を賜った。（敬称略）
高堀 勝喜（石川考古学研究会常任顧問）、荒木 繁行（同会顧問）
橋本 澄夫（石川県立埋蔵文化財センター次長）、湯尻 修平、小嶋 芳孝（石川県文化課）
南 久和（金沢市文化課）、西野 秀和、久田 正弘（石川県立埋蔵文化財センター）
- 5 本書の執筆・編集は横山貴広（野々市町教育委員会社会教育課調査員）の協力を得て吉田が行い、石器の石質等について、金沢大学教授藤 則雄氏より玉稿を受けている。
- 6 図版の縮尺はすべて図上に標示し、水平基準線レベルは海拔高である。なお方位はすべて磁北を指す。また、調査で用いたグリッドの方位は磁北に対して北3度西である。建物における柱穴間等の距離は心間である。
- 7 出土した遺物および諸記録は野々市町教育委員会が一括して保管している。

目 次

第1章 位置と環境	5
第1節 地理的環境と遺跡の位置	5
第2節 遺跡の名称について	5
第3節 周辺の歴史的環境	5
第2章 調査の経緯と経過	7
第1節 これまでの調査	7
第2節 調査の経緯と経過	8
第3節 遺構の名称変更	9
第3章 第14・17・19・20次調査	11
第1節 遺構	11
1 土坑	11
2 土器棺	11
3 河道跡	11
第2節 遺物	13
1 縄文時代の土器・土製品	13
2 弥生時代の土器	15
3 石器・石製品	15
遺物一覧表（河道跡出土土器、石器・石製品）	55
第4章 第16次調査	57
第1節 概要と層序	57
第2節 縄文時代	76
1 遺構	76
2 遺構出土土器	78
3 包含層出土土器	82
4 土製品	93
5 石器・石製品	94
土器出土位置表	226
石器一覧表	231
第3節 弥生時代以降	236
1 弥生時代初頭の土器	236
2 弥生時代後期～古墳時代前期	236
3 古墳時代後期	238
土器観察表	
第5章 御経塚遺跡出土の石器の石器圏についての考察	269
第6章 まとめ	273
写真図版 第14・17・19・20次調査	
第16次調査	

第1章 位置と環境

第1節 地理的環境と遺跡の位置

野々市町は石川県の中央、県都金沢市の南に接して位置し、町域は手取川によって形成された広大な手取川扇状地東部の北端から扇央部を占めている。白山連峰を源とする手取川は鶴来町付近より流路を北から南西方向に転じ、日本海へそそいでいる。手取川扇状地はこの県下最大の河川の堆積作用により扇径約12km、展開度約110度の規模を有し、広大な穀倉地帯として恩恵を与えてきた。近年野々市町は、金沢市のベッドタウンとしての性格を強め、農地を宅地とする土地区画整理事業の施行が進行しており、開発の活発化は必至である。

御経塚遺跡は、石川郡野々市町字御経塚町の東部一帯に分布し、JR野々市駅から北北東へ約500mの地点が遺跡のほぼ中心部となる。縄文時代後晩期から古代にかけての複合遺跡として扇状地北端部に立地し、海拔は約10mを測る。現在は遺跡を東西に分断する形で北陸と関西を結ぶ一級国道8号線が南北に走り、また石川広域農道によって遺跡は南北に分断されている。遺跡の中心部である国道8号線御経塚交差点の南西側14,897㎡は国指定史跡として現在は史跡公園化し、隣接する野々市町埋蔵文化財収蔵庫とともに昭和58年5月から一般公開している。



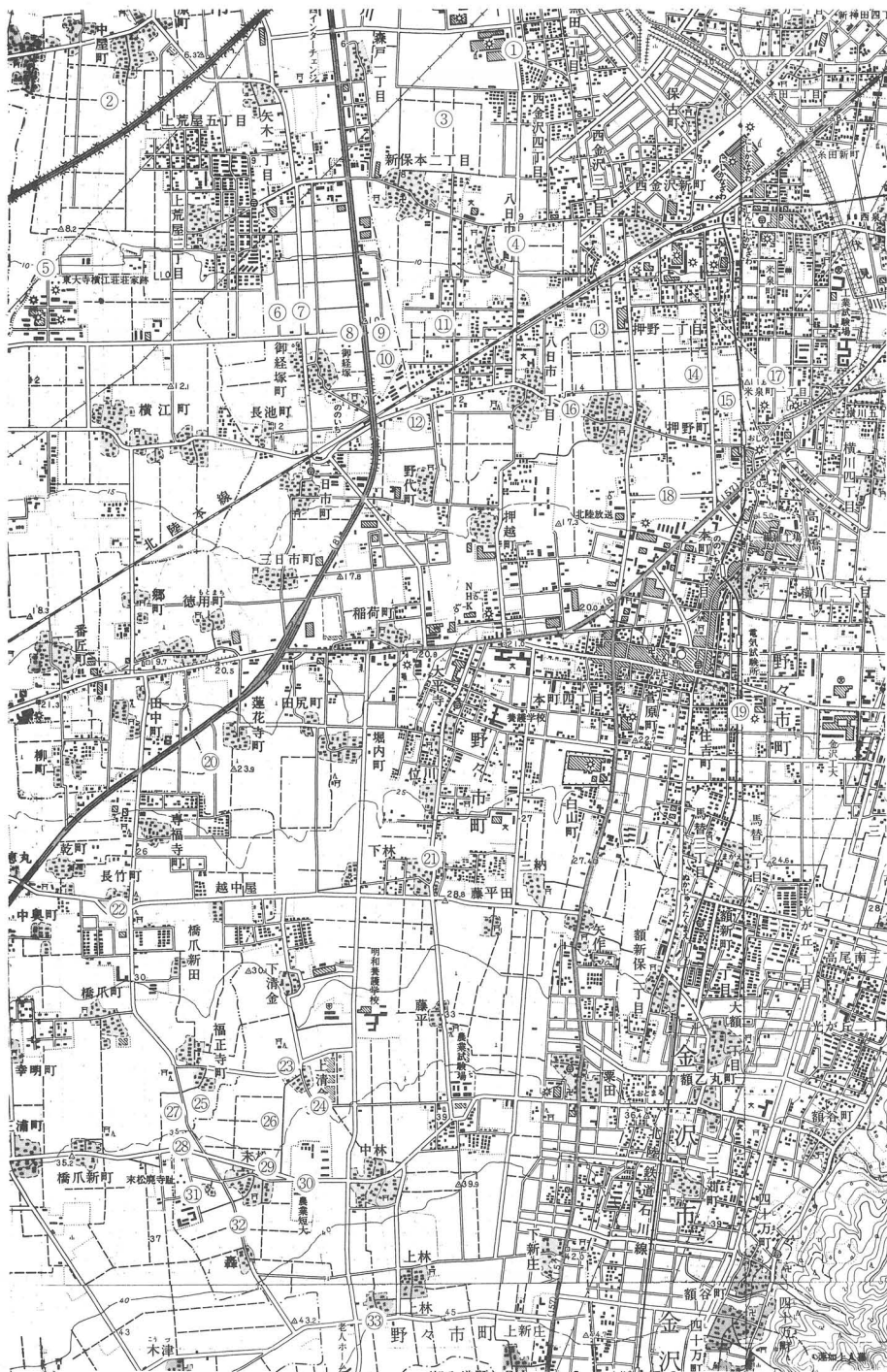
第1図 遺跡の位置

第2節 遺跡の名称について

御経塚町地内の遺跡としては従来から、縄文時代後晩期の御経塚遺跡、古墳時代～平安時代は御経塚B遺跡として『石川県遺跡地図』に登録されている。昭和55～56年度の調査において、弥生時代末期～古墳時代前期の集落が国道8号線の東側一帯で確認されたことから、報告書（野々市町教委1982・1984）では、御経塚B遺跡の弥生時代末期～古墳時代前期を御経塚ツカダ遺跡として報告し、古墳～平安時代を御経塚アスナロ団地遺跡と区別することとした。しかし、御経塚遺跡の分布が御経塚ツカダ遺跡と重複すること、国道8号線の東側全域に古墳時代後期以降の遺構分布があることなど三つの遺跡が互いに複合することは、同一地点で遺跡名が異なる矛盾した状況が生じてきた。このため今後は、御経塚・ツカダ・アスナロ団地遺跡を同一の遺跡として扱い、全体を「御経塚遺跡」と呼称して混乱を避けることにしたい。また、遺跡の範囲が広大となるため便宜上、国道8号線東側をツカダ地区・アスナロ団地地区とし、国道8号線の西側では石川広域農道を境として、北をブナラシ地区、南をデト地区として小字名を用いた地区の設定しておくことにする。

第3節 周辺の歴史的環境

手取川扇状地の扇端部を弧状に走る標高10m付近の地帯は、地下水の自噴地帯として県内でも



1. 古府ヒビタ遺跡 (縄文)
2. 中屋遺跡 (縄文)
3. 新保本町チカマリ遺跡 (縄文)
4. 八日市ヤスマル遺跡 (古墳)
5. 東大寺領横江荘遺跡 (平安)
6. 御経塚シンデン遺跡
(縄文～中世)
7. 御経塚塚腰遺跡 (中世)
8. 御経塚遺跡 (縄文)
9. 御経塚遺跡ツカガ地区
(弥生～古墳)
10. 御経塚遺跡アスナロ団地地区
(奈良から平安)
11. 八日市B遺跡 (奈良～平安)
12. 野代遺跡 (縄文・古墳)
13. 押野西遺跡 (弥生～古墳)
14. 押野大塚古墳
15. 押野大塚遺跡 (縄文・弥生)
16. 上宮寺跡 (室町期)
17. 米泉遺跡 (縄文)
18. 押野タチナカ遺跡
(縄文・弥生・室町)
19. 富樫館跡 (縄文・平安～)
20. 田中ノグ遺跡 (弥生)
21. 三林館跡 (安土桃山)
22. 長竹遺跡 (縄文・～中世)
23. 清金アガトウ遺跡
(平安～中世)
24. 末松信濃館跡 (古墳)
25. 末松福正寺遺跡 (古墳)
26. 末松B遺跡 (弥生)
27. 末松ダイカン遺跡
(奈良～中世)
28. 末松廃寺跡 (白鳳～鎌倉)
29. 末松遺跡
30. 末松A・C遺跡 (縄文・平安)
31. 大館館跡 (平安～室町)
32. 法福寺跡
33. 上林遺跡 (弥生・古墳)

第2図 周辺の遺跡

有数の遺跡密集地として知られ、縄文時代の北陸における標識遺跡として、御経塚遺跡をはじめ古府ヒビタ遺跡、北塚遺跡、新保本町チカモリ遺跡、中屋遺跡が所在するなど先人の生活の足跡を窺い知ることができる重要な地域である。

縄文時代 周辺における最初の人々の営みは中期に比定される古府ヒビタ遺跡である。後期に入ると遺跡は増加し、前葉後半では押野大塚遺跡、中葉から集落が始まる御経塚シンデン遺跡、米泉遺跡、富樫館跡ノダ地区、御経塚遺跡がみられる。後葉から晩期にかけては新保本町チカモリ遺跡、中屋遺跡、野代遺跡などが営まれる。ほとんどが標高6 m～12 mの地域に集中しており、生活水の確保と河川の氾濫に対し比較的安定している扇状地端部に集落地を求めたことを窺わせる。また、新保本町チカモリ遺跡では巨大な樹木を半した環状列木を持つ遺構が検出されており(南1983)、御経塚遺跡において大型土坑群とされた環状に巡る土坑群(高堀ほか1983)は、木柱痕こそ検出されていないが、環状列木であった可能性が高い。米泉遺跡では環状に廻る半截の柱根をもつ住居跡が検出されている。

弥生時代 農耕が主生産となった弥生時代の中期までは遺跡の数は少なく、前期後半に比定される柴山出村式土器が押野タチナカ遺跡、御経塚遺跡において少量ではあるが検出されている。その後中期の初頭では矢木ジワリ遺跡(増山1987)があり、後半には押野タチナカ遺跡の営みが始まる。後期にはいと、遺跡は増加、拡大をみせる。この時期の遺跡として押野大塚遺跡、押野タチナカ遺跡をはじめとして御経塚シンデン遺跡、御経塚遺跡ツカダ地区、押野西遺跡などが営まれる。農耕技術の発達とともに経済基盤が確立されつつあることを示している。

古墳時代 周辺の古墳時代の遺跡では八日市ヤスマル遺跡、押野西遺跡、押野大塚古墳が知られている。また、昭和61年から63年にかけて調査された御経塚シンデン遺跡では古墳時代初頭に比定される前方後方墳1基と方墳11基(総数12基)を検出しており、この地区一帯にかなりの権力を持った首長の存在を窺わせるものである。昭和62年と63年に金沢市教育委員会が上荒屋地内で行った調査で該期の集落跡が検出されおり、両遺跡が距離約800 mと近接することから関係が目されることである。後期では御経塚ツカダ地区、御経塚シンデン遺跡の調査で7世紀初頭を前後する時期の集落を確認している。

奈良時代以降 奈良時代以降では御経塚遺跡アスナロ団地地区(奈良～平安)、八日市B遺跡(奈良～平安)、東大寺領横江荘遺跡(平安)、富樫館跡(平安～)、御経塚塚越遺跡(中世)、上宮寺跡(室町)などみられる。また、押野タチナカ遺跡の所在する通称『タチナカ』は富樫氏庶流の藤原家善(押野氏祖)が居館を構えたことによるもので、関連する堀跡が検出されている。

第2章 調査の経緯と経過

第1節 これまでの調査

遺跡の名称に関し従来の御経塚ツカダ遺跡、御経塚アスナロ団地遺跡を含めて御経塚遺跡とすることから、これまでの調査について整理するため下記の調査一覧表を作成した。

調査一覧表（調査機関の調査団は石川考古学研究会を主体として組織されたものである）

調査次	旧遺跡名等	調査年	調査機関	原因等	文献
第1次	御経塚（1次）	昭和31年3月（1956）	押野村史編集委員会	村史編集	高堀1964
第2次	御経塚（2次）	昭和43年10月（1968）	調査団	金沢バイパス工事（現8号線）	高堀他1983
第3次	御経塚（3次）	昭和47年8月（1972）	調査団・石川県教委	農道拡幅工事（現石川広域農道）	高堀他1983
第4次	御経塚（4次）	昭和47年7～8月（1972）	調査団・石川県教委	金沢バイパス拡幅工事	橋本他1973
第5次	御経塚（5次）	昭和48年9～12月（1973）	調査団・野々市町教委	保存区域及び整備策定	高堀他1983
第6次	御経塚B	昭和48～49年（1973～74）	石川県教委	県営住宅建設	湯尻1983
第7次	御経塚（6次）	昭和49年9～11月（1974）	調査団・野々市町教委	保存区域及び整備策定	高堀他1983
第8次	御経塚（7次）	昭和50年9～12月（1975）	調査団・野々市町教委	保存区域及び整備策定	高堀他1983
第9次	御経塚（8次）	昭和50年11～3月（1975～76）	調査団・石川県教委	国道8号線拡幅	高堀他1976
第10次	御経塚（9次）	昭和51年9～12月（1976）	調査団・野々市町教委	保存区域及び整備策定	高堀他1983
第11次	御経塚（10次）	昭和52年9～11月（1977）	調査団・野々市町教委	分布確認、住宅新築	高堀他1983
第12次	御経塚（11次）	昭和53年12月（1978）	野々市町教委	国道8号線東側遺構確認	高堀他1983
第13次	御経塚（12次）	昭和55年3月（1980）	野々市町教委	国道8号線東側分布確認	高堀他1983
第14次	ツカダ	昭和55年9～11月	野々市町教委	御経塚（第1）土地区画整理事業	野々市1984
第15次	御経塚（13次）	昭和56年3月（1981）	野々市町教委	国道8号線東側分布確認	高堀他1983
第16次	ツカダ	昭和56年6～10月（1981）	野々市町教委	御経塚（第1）土地区画整理事業	野々市1982
第17次	ツカダ	昭和56年10～12月（1981）	野々市町教委	御経塚（第1）土地区画整理事業	野々市1984
第18次	御経塚	昭和56年4～6月（1981）	野々市町教委	埋蔵文化財収蔵庫建設	
第19次	ツカダ	昭和57年10～12月（1982）	野々市町教委	御経塚（第1）土地区画整理事業	野々市1984
第20次	ツカダ	昭和58年5～7月（1983）	野々市町教委	御経塚（第1）土地区画整理事業	野々市1984

第2節 調査の経緯と経過

今回報告する調査は、第1節調査一覧表の第14・16・17・19・20次調査にあたるものである。以下調査の経緯と経過について概略を記す。

遺跡周辺の開発は、昭和43年の金沢バイパス（現国道8号線）築造を最初とし、その後大型広域農農道路建設工事及び国道拡幅工事、県営あすなる団地造成など都市化が進む兆しを見せた。これを反映して、本遺跡地内の国道東側が昭和45年7月1日付けで金沢市を中心とする金沢都市計画区域に入り市街化区域に区分された。その後昭和54年9月に同地域の土地区画整理事業計画が策定され、昭和55年度より区画街路の造成工事を実施することとなった。この街路造成工事区域が遺跡地内であるため、野々市町教育委員会は、昭和55年3月に国道東側における開発区域の遺跡分布調査を実施した。遺物および遺構の分布範囲を確認したことから事業主体である御経塚土地区画整理組合と協議を行い、町教育委員会は組合からの委託を受けて、昭和55年9月23日～11月17日にかけて街路造成部分について面積840㎡の緊急発掘調査を行なった（第14次調査）。この調査で弥生時代後期の住居5棟、古墳時代後期の住居1棟を検出している。翌56年には都市計画街路疋田－御経塚線と区画街路の築造を完了させる工事計画となった。このため昭和56年6月8日～10月31日にかけて面積2100㎡の緊急調査を実施し、縄文時代後晩期の住居3棟と多量の土器、石器を検出した。また弥生時代後期の住居1棟、古墳時代後期の竪穴住居2棟・掘立柱建物6棟を発見した（第16次調査）。以上の調査は道路築造に係るものであったが、遺構の未検出部分の残る第14次調査区周辺については、国庫補助事業の採択を受けた街区内の緊急調査として昭

和56～58年にかけて実施することとなった。これらは第17・19・20次調査にあたり、新たに弥生時代後期の住居5棟と古墳時代前期の住居2棟を検出している。詳細は報告書（野々市町教委1984）を参照されたい。

屋外及び屋内の作業では次の方々の協力を得た、記して謝意を表する。

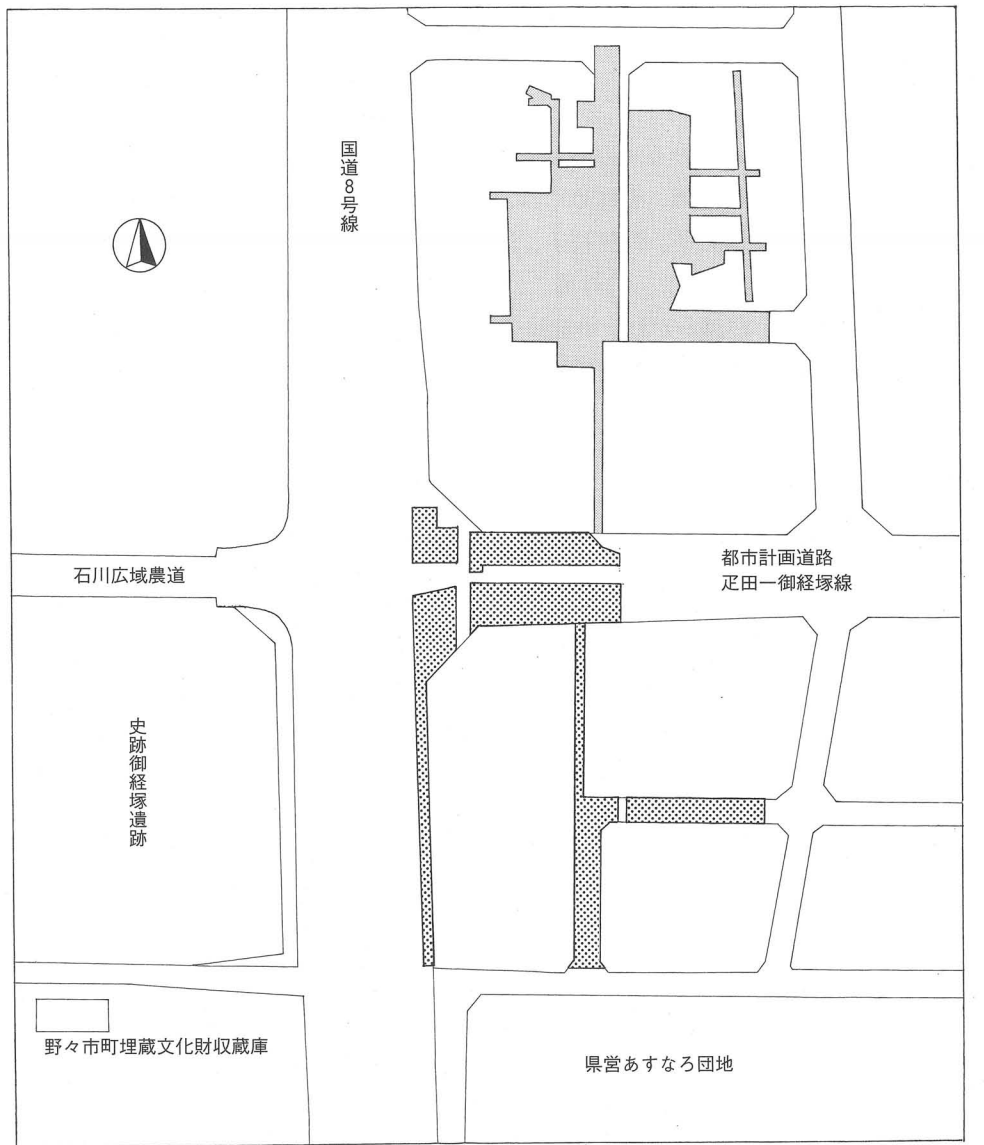
浅野豊子、荒川たか、池幡 誠、石浦めぐみ、大山俊也、今川敏之、今川照一、加藤雄己、金子良平、川 正子、川端敦子、河村裕子、河原俊夫、菊野庸三、北川_子、北川弘子、木村玉子、北村 昭、北村照子、口村英二、斎藤和代、七社直樹、新宅美代子、塚本しよん、塚本久枝、辻森由美子、戸澗かがり、中敷静子、中出正子、橋本富代子、平野重子、藤田英太郎、前田晴彦、松田知恵子、宮崎次納、安嶋均、山岸英昭、宮本洋子、森田貞喜、矢口秀幸、渡辺洋子



第3節 遺構の名称変更

1984報告書での遺構名は各年度の西暦を冠して報告した。この名称は第4章の第16次（1981年）調査との誤解を生じることや、今後の調査において混乱をまねく恐れがあるため、1984報告書の遺構名を変更しツカダ地区のなかで遺構名称を統一するものである。以下は変更した遺構の新旧対称表である。以下、文中の遺構記述は新遺構名を使用している。

新旧遺構名対照表

新遺構名	旧遺構名	新遺構名	旧遺構名	新遺構名	旧遺構名
1号住居	80-1号住居	1号溝	80-1 T溝	P 16	81-9 D土坑
2号住居	80-2号住居	2号溝	81-1 T溝	P 17	81-10D土坑
3号住居	80-3号住居	3号溝	81-2 T溝	P 18	81-11D土坑
4号住居	80-4号住居	4号溝	81-3 T溝	P 19	81-12D土坑
5号住居	80-5号住居	5号溝	81-4 T溝	P 23	82-1 D土坑
6号住居	80-6号住居	P 01	80-1 D土坑	P 24	82-2 D土坑
7号住居	80-7号住居	P 02	80-2 D土坑	P 25	82-3 D土坑
8号住居	81-1号住居	P 03	80-3 D土坑	P 26	82-4 D土坑
9号住居	81-2号住居	P 04	80-4 D土坑	P 27	82-5 D土坑
10号住居	82-1号住居	P 05	80-5 D土坑	P 28	82-6 D土坑
11号住居	82-2号住居	P 08	81-1 D土坑	P 29	82-7 D土坑
12号住居	82-3号住居	P 09	81-2 D土坑	P 33	83-1 D土坑
13号住居	82-4号住居	P 10	81-3 D土坑	P 34	83-2 D土坑
14号住居	83-1号住居	P 11	81-4 D土坑	P 35	83-3 D土坑
1号掘立柱建物	82掘立柱建物	P 12	81-5 D土坑	P 36	83-4 D土坑
1号竪穴状遺構	83小竪穴状遺構	P 13	81-6 D土坑	P 37	83-5 D土坑
1号区画溝	「8の字」溝状	P 14	81-7 D土坑		
2号区画溝	81-「方形」溝状	P 15	81-8 D土坑		



- | | |
|--|--|
| <p> 第14・17・19・20次調査区</p> <p> 第16次調査区</p> | <p>第14次 (1980年度)</p> <p>第16次 (1981年度)</p> <p>第17次 (1981年度)</p> <p>第18次 (1982年度)</p> <p>第20次 (1983年度)</p> |
|--|--|

第3図 調査区位置図 (1/2000)

第3章 第14・17・19・20次調査

第3章は調査区の関係から第14・17・19・20次調査（1980～1983年度）を一括したもので、第16次調査は第4章に分離して報告する。弥生時代後期以降に関しては報告済みのため、今回は未報告である縄文時代と河道跡出土遺物について記述するものである。

調査の概要について若干触れておきたい。調査地は東西を河道で挟まれた南北方向の微高地の幅が50～60mに狭まった地区にあたる。検出された主な遺構は、弥生時代後期の竪穴住居11棟（1～4・6・7・9・10～13号住居）、古墳時代前期の住居2棟（8・14号住居）と掘立柱建物跡1棟（1号掘立）、同後期7世紀前半の竪穴住居1棟（5号住居）などである。

第1節 遺構

縄文時代の遺構密度は希薄であり土坑8基、土器棺1基を検出したに過ぎない。これに記述を加えるものは東西河道跡である。

1 土坑（第5図）

土坑は調査区に散らばり検出したが、P06・07及びP20～22はそれぞれ近接する。平面形は楕円形と略円形が見られる。規模等を一覧表としたので参照願いたい。

土坑一覧表 （ ）内は推定値

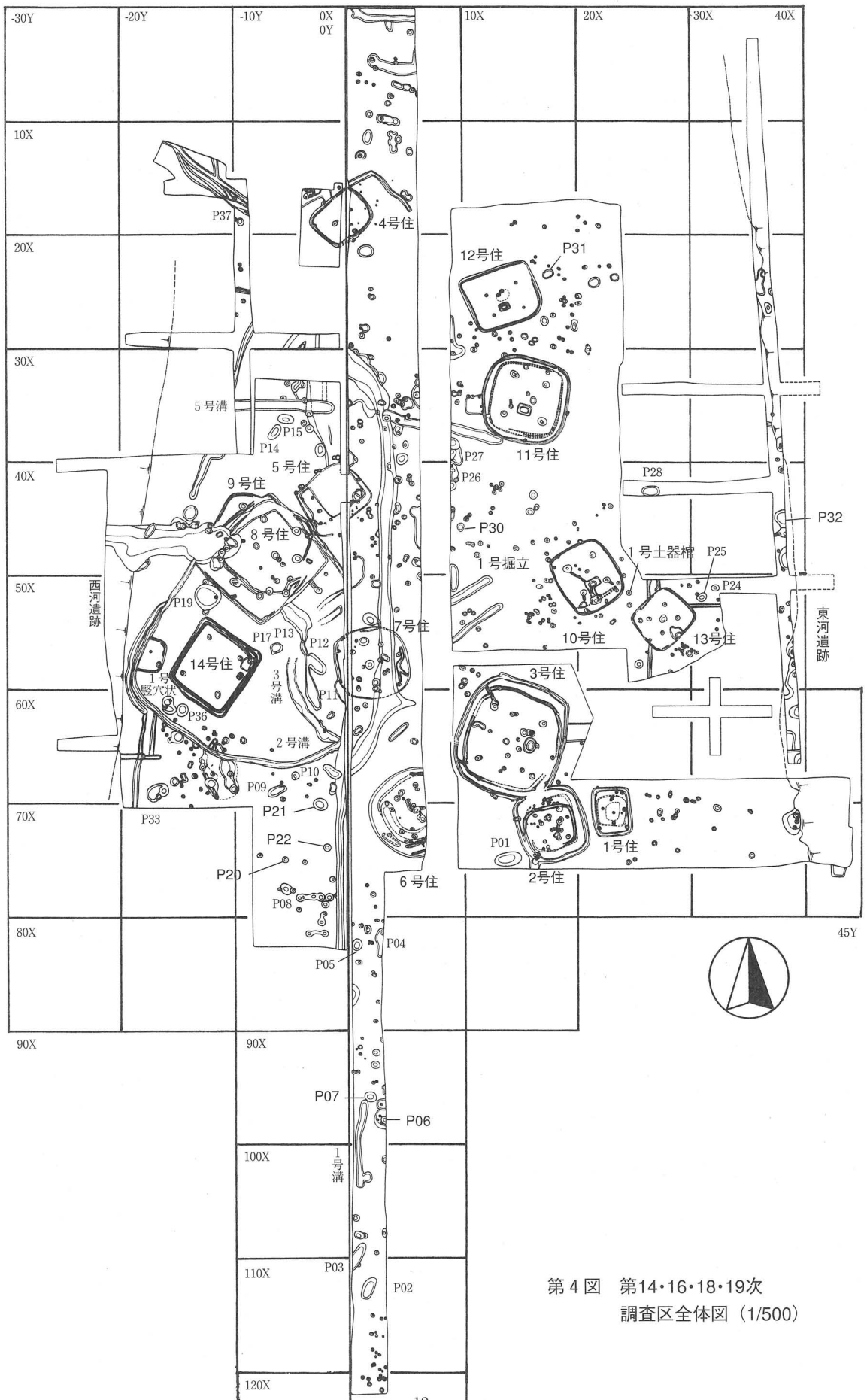
土坑No.	調査	平面形	平面(cm)	坑底(cm)	深さ(cm)	検出グリッド
P06	14次	略円形か	180×?	145×?	29	90～100 X・0～10 Y
P07	14次	楕円形	105×90	62×40	28	〃
P20	17次	略円形	80×80	40×35	33	70～80 X・0～10 Y
P21	17次	略円形	117×112	70×70	30	〃
P22	17次	略円形	67×65	45×43	48	〃
P30	19次	楕円形	80×63	53×35	28	40～50 X・0～10 Y
P31	19次	楕円形	90×75	67×53	18	20～30 X・10～20 Y
P32	19次	楕円形か	(160)×?	40×?	70	40～50 X・30～40 Y

2 土器棺

1号土器棺（第5図、第9図8、第10図）は、調査区中央東側の50～60 X 20～30 Yグリッドで検出した横位の土器棺である。上面は開墾や耕作により同じレベルで壊されている。下部の口縁部がしっかり残っていることや他の土器が無いことから単体の土器棺であろう。土器の胴部径は38cmあり、棺全体が地中に埋まっていた場合は少なくとも検出面から30～40cm上が当時の生活面と想定できよう。

3 河道跡（第6・7図）

東河道の土層は弥生時代後期の土器を含む黒色粘質土が底面まで緩く落ち込む状況を呈し、肩



第4図 第14・16・18・19次
調査区全体図 (1/500)

部や底面からは同期の土器が多量に出土している。底面では礫層となり、深さは検出面から1mを測る。前述の黒色粘質土はトレンチ調査区で縄文時代の遺構を梳っていることから、東河道は弥生時代後期～古墳時代前期頃に流れていた河道と位置づけたい。

西河道では弥生時代末期の土器を多量に包含する明黒褐色粘質土層（第7図土層断面図⑩層）が落ち込み、その下層からは縄文時代晩期後葉の土器が出土した。試掘により河道の底面の状況を調べたが、縄文土器出土レベルより低いところでは無遺物となり炭化物を含む薄い層と、灰淡褐色で厚さ10cm程度の細粒砂層が相互に続く状況であった。このため検出は砂層の濁りが取れた段階で止めている。河道底面の深さは平坦面から1mを測る。

第2節 遺物

1 縄文時代の土器・土製品

出土した縄文土器はパンケースにして5箱で、弥生土器の出土量と比較すると1/6程度の量にすぎない。主体は晩期後葉の所産であり、以下主なものについて記述する。

(1)土坑出土土器（P06・07・20・21・32、第8～10図）

P06（第8図1～7）1の浅鉢は口縁部の半隆起帯に沈線と連続短沈線を施し、屈折部に沈線2条を入れた眼鏡状隆帯をもつ。2は区画工字文を施す鉢で、口唇部を刻み口縁部直下を刺突する。3は西日本凸帯文系の深鉢で口縁部は内折する。ヘラ状具で刻む凸帯は口縁上部と肩部を廻り、これを「V」字状の凸帯でさらに繋ぎ、外面には煤が付着する。4の浅鉢は楕円状の突起をもち、外面に幅広の沈線1条が廻り、赤彩痕が残る。5・7の浅鉢は内面に幅広の沈線が2条施される。5の推定口径は170mm。6は条痕文の粗製深鉢の底部で、底径86mm、簾状圧痕をもつ。

P07（第8図8）胴部下方に方形を意識した緩やかなふくらみを持つ浅鉢で、内外面とも丁寧に研磨され、赤彩が残る。

P20（第8図9～11）9の深鉢は口唇部を面取りし、内外面を条痕調整する。10の鉢は口径106mm、胴部径117mmで内外面を条痕調整する。

P21（第9図1）口唇部をヘラ状具により押圧し、外面は粗いケズリである。

P32（第9図2～8・第10図2）2は半精製の深鉢で、外反する波状口縁の波頂端部を小さく半円状に押圧するもので、7単位波状か。口縁部をナデて無文化を図るが、斜条痕の痕跡が残る。頸部には刻目半隆帯が廻り以下は縦の条痕調整で、内面は横方向の条痕調整である。色調は淡黄橙色であり、推定口径340mm、胴径345mm。3の鉢は横位綾杉文をもち、外面は良く研磨される。粗製深鉢の4・5は口唇部をヘラ状具で押圧するもので、6は面取りされている。5・6は内面横条痕調整。7の底部は簾状圧痕をもち底径70mmである。

(2)1号土器棺（第9・10図8）胴上部から口縁部が大きく内湾する器形の半精製の深鉢である。口唇部を楕円状に連続押圧して端部を外側へ折り返す。口縁部と肩部に2条の沈線を施す。口径340mm、胴部380mm、底径85mm、器高385mmを測る。底面は網代庄痕（2-2-1）。

(3)河道跡出土土器

東河道（第11図1～5）土器の出土位置は第6図に番号で表したが、混入したものである。1は横位多条沈線と縦位沈線を施す浅鉢の口縁部である。5はコップ形の小型土器で、底端部に沈線2条と同心半円状文をもつ。底径33mm。2の底部圧痕は簾状圧痕である。3は底径98mm、網代

圧痕（2-2-1）。

西河道（第11～14図6～27・第14・15図）

土器の出土位置については第7図に土器番号を用い表示した。土器は河道の落ち込みと平行する状態、言い換えれば落ち込む土層の同一面上からの出土状況である。とくに北側でまとまる一群は河道跡の出土であるが一括性の高いものと考えられる。

6の浅鉢は、眼鏡状隆帯下に菱形状の工字状文を施す。口径354mm、胴部径391mm、底部径80mm、器高200mmを測る。7は凸帯文系の浅鉢か。体部が内湾する鉢の8は、口唇部の面取りと沈線3条を施し、以下は条痕調整の後ナデられており、口径130mm、胴径151mmを測る。12～13は小波状口縁となる浅鉢で、内面には沈線を施す。12は6単位と推定する楕円工字状文をもち、口径290mmを測る。深鉢15は内外面とも条痕調整だが内面の条痕は浅いもので、口径240mmを測る。口縁部が内湾する深鉢16は外面条痕調整で口径335mm、胴径365mmを測る。大型の壺17は口縁端部を幅18mmで外側に肥厚させ沈線2条が施される。条痕調整の後、口縁部を無文として最後に肩部の沈線を施す。口径180mm、胴径442mmである。18は凸帯文系の壺で胴上部に段をもつ。口径92mm、胴径146mm、底径60mm、器高166mmを測る。口縁部に穿孔途中の円形凹がある。19～26は底部である。外面RL縄文の19は底径78mmで網代圧痕（2-2-1）。21はコップ形土器の底部で約2cmの短沈線が見られ、底径60mmである。

(4)調査区出土土器（第16・17図1～44）

調査区の大部分は耕作土直下が地山となるため、多くの土器は弥生時代後期の遺構覆土から出土したものである。1号住（13・14）、3号住（2・4・5・10・21～23・26・31・34・35）、6号住（7・8・38・41～44）、7号住（39）、10号住（9・11・17～20・25・28・37・40・45）、12号住（27）、14号住（24）である。3・12・15・30・36は30～50X0～15Y付近から出土した。

1の深鉢は凹線文土器である。2の浅鉢は口縁部沈線を三角状文で寸断している。3は沈線の上下を竹管で連続刺突する浅鉢。4は独立三叉文をもつ波状口縁の深鉢である。5は口唇部隆帯間にLRの細縄文を充填する浅鉢で赤彩痕が残る。6はRL縄文が施される深鉢である。鉢7・8は肩部に眼鏡状凸帯をもち、胴部文様は工字状文であろう。鉢9は工字状文と楕円区画工字状文が施文される。壺10は沈線間の押引列点文をもち、胴部は綾杉文か。口径112mmである。11の壺はごく緩い波状口縁となり波頂間の口唇部に沈線を入れ、口径98mmである。12～16は大きく内湾する器形の鉢である。12は浮線網状文系の土器で工字状文風の文様を施す。13はごく緩い波状口縁を呈す。15には綾杉文が見られ、14・16は口唇部が面取りされる。17～20は皿形に近い浅鉢で内面に沈線や列点を施す。17は工字状文をもつ。22・23は横位綾杉文をもつコップ形の底部である。鉢底部の24は工字状文と横位綾杉文を施す。25～46は深鉢で、口縁部がやや外反するもの、内湾ぎみに立ち上がるもの、内屈するものがある。25～27は浅い沈線が引かれ、口縁端部を外側に折り返すようにする。28～32は列点文をもつ。33～36は沈線文をもつ。28・32・34・36の列点や沈線は幅広で施文は指頭によるものと考えられる。32の波頂端部は小半円状に押圧される。30～42・44は条痕文、43・45・46は無文である。

(5)小 結 土坑及び河道出土土器は長竹遺跡（中島・湯尻1977）と類似性をもち、晩期後葉の所産と考えられる。晩期後葉～弥生中期初頭の久田編年（久田1988）の1期に該当し、晩期最終の下野式後半の位置づけがなされている。調査区出土の土器についても後期後葉の第16図1～3、

晩期前葉の4・5と粗製深鉢の一部を除き、土坑出土と同じ晩期後葉の所産であろう。一方、後出的な様相の土器が一部見られる。第9図8の大きく内湾する土器の器形は長竹遺跡では見られず、しいてあげるならば八田中遺跡落ち込み出土の柴山出村式1式期とされる甕に類似する。また指頭で施文する第17図28・32・34・36と波頂端部と同様に小半円状の押圧をもつ第9図2も後出的で、小半円状の押圧手法は東北地方大洞A式に類似する。28は八田中遺跡(久田1988)、32は小島六十苜遺跡(土肥・久田1986)の出土例に類似性が見られるが断面形状や条痕の方向に違いがある。以上から主体となる土器群は長竹遺跡出土のものと同様で時期は概ね併行するが、これに後続し柴山出村式期の直前に位置する段階の土器群を含むものと理解しておきたい。

(6)土器底部(第18図1~12)

簾状圧痕(1~6)、網代圧痕(7~12)を図示した。網代圧痕の7~9は2本越え2本潜り1本送りの編み方であるが、10~12は不明である。1・3~9・13・14の外側は条痕文、他は無文である。底径は、1は73mm、2は82mm、3は89mm、4は95mm、5は84mm、6は76mm、7は122mm、8は100mm、9は100mm、10は79mm、11は99mm、12は75mm、13は87mm、14は79mmである。

(7)土 偶(第19図1・2)

1は横長の楕円状を呈する頭部の左側にあたるものであろう。径2.5mmの貫通孔が見られ、下部には小さな半円状凹がある。厚さは現状31mm、推定幅は10cmとなる。2は黥面を表現した顔部で、本体から剥がれたものである。眉を隆帯とするが、鼻を欠く。長さ6.15mm、幅4.25mm、厚さはほぼ10mmを測る。裏面は高堀他1983年報告書図5-136の1の剥落面の大きさと合致し、これと接合する可能性をもつ。ちなみに出土位置は約80m離れる。

2 弥生時代の土器

(1)弥生時代前~中期の土器(第20図)

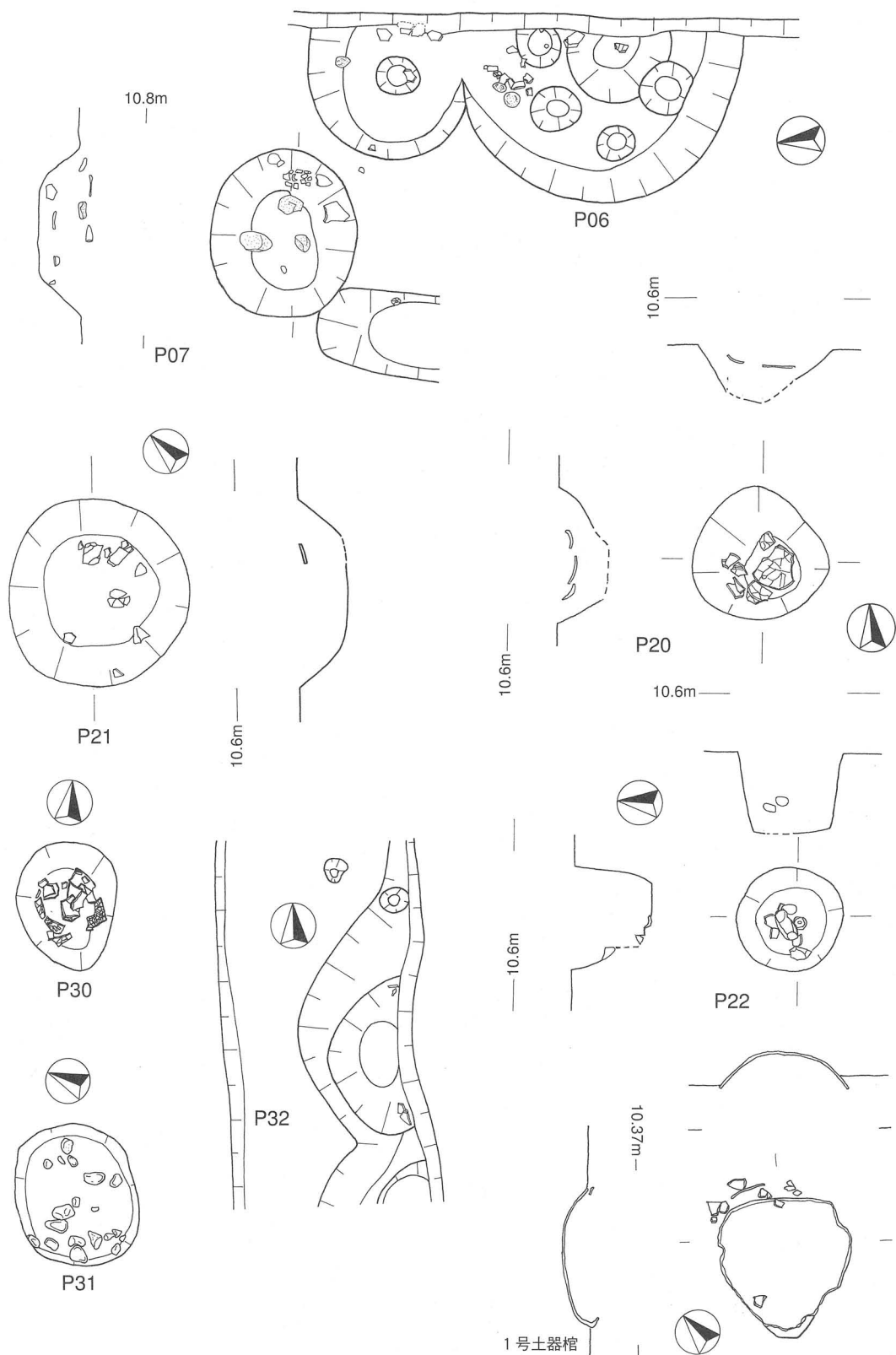
1は壺の肩部破片で指頭による押圧文と押圧凸帯をもち、条痕は施されない。甕の2は遠賀川式系の甕と考えられる。口縁端部を三角形状に肥厚させ幅12mmほどの面を作る。端部に浅い刻目、面と沈線上下には竹管による円形刺突を連続する。4条の沈線は櫛状具様なもので引かれるため平行を保つ。3は壺の肩部で、ヘラ状具による4条の沈線間に山形の沈線を引く。4・5は条痕文系の壺の破片で東海地方の岩滑式土器に類似する。1~4とも縄文土器と混在して出土している。1・2は前期、3~5は中期初頭に位置づけられよう。

(2)東河道跡(第21~22図)・西河道跡(第23~28図)出土土器

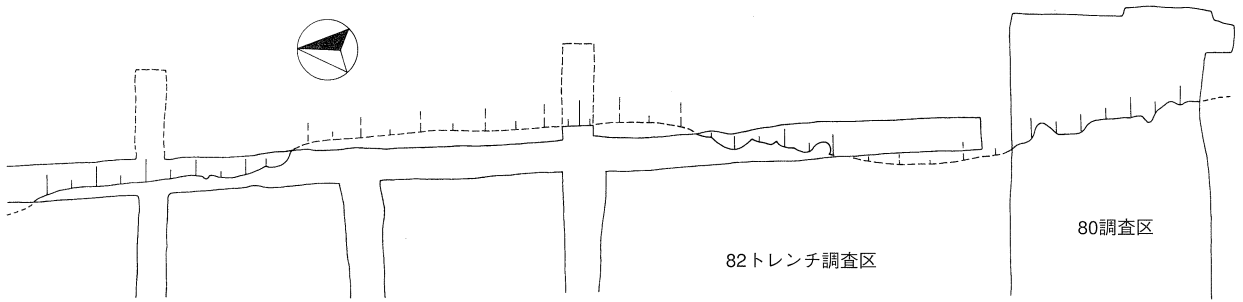
両河道跡から弥生時代後期月影Ⅱ式土器が出土した。西河道ではE・Hトレンチの第⑩層黒褐色粘質土層から検出し、位置を第7図に土器番号で示した。詳細は観察表を参照願いたい。

3 石器・石製品

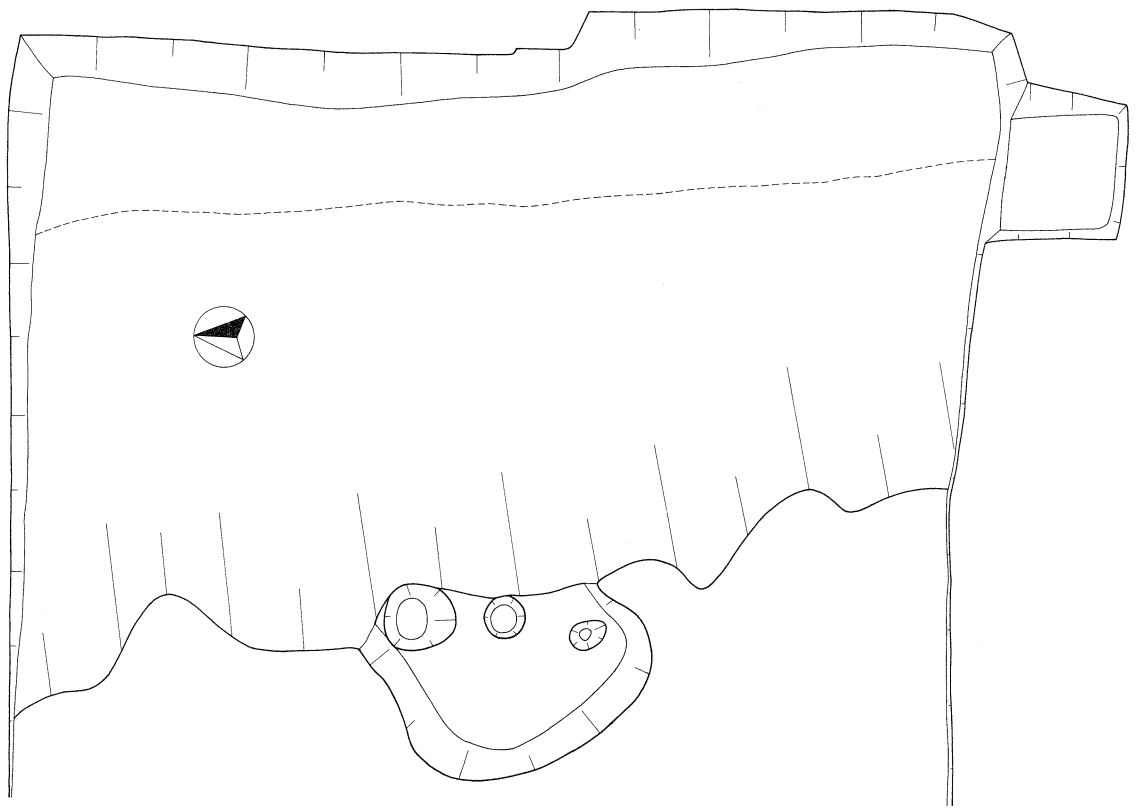
石器・石製品については第29~40図に報告する。それぞれの報告点数と出土点数の()内は、打製石斧31点(123点)、磨製石斧8点(〃)、石鏃26点(〃)、石錐11点(〃)、石匙・刃器3点(〃)、敲石14点(〃点)、磨石3点(〃点)、砥石6点(〃)、石錘1点(〃)、石皿3点(〃)、石冠1点(〃点)、玉類2点(〃点)、出土点数の合計は201点である。大きさや石質などは一覧表を参照されたい。



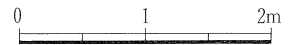
第3图 土坑P06·07·20~22·30·32 (1/40)·1号土器棺 (1/20)



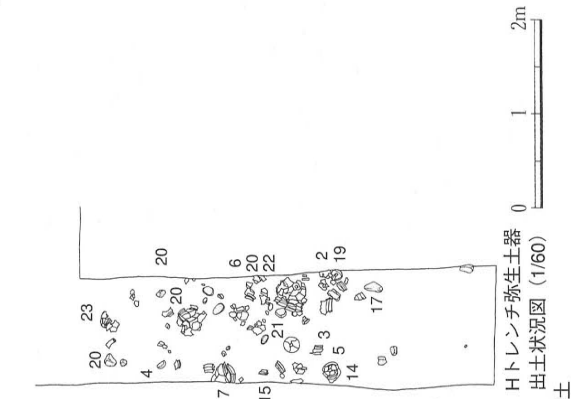
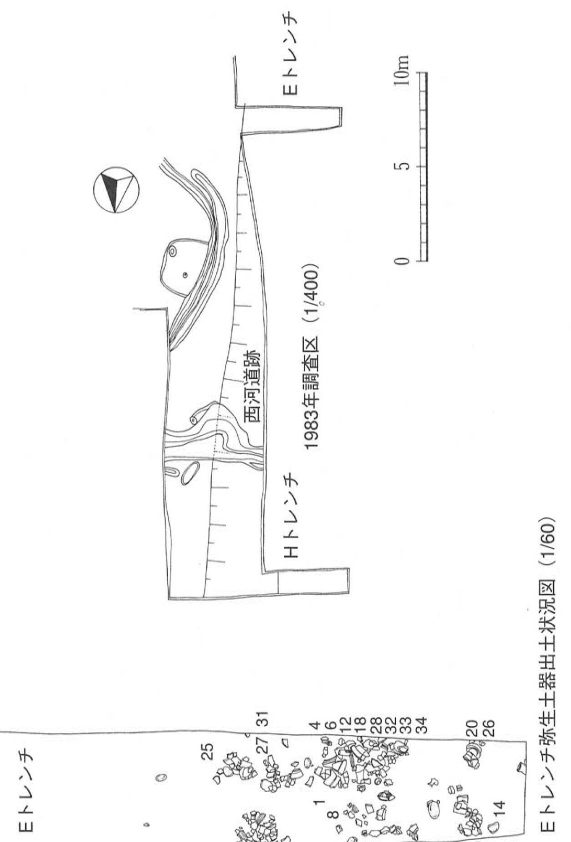
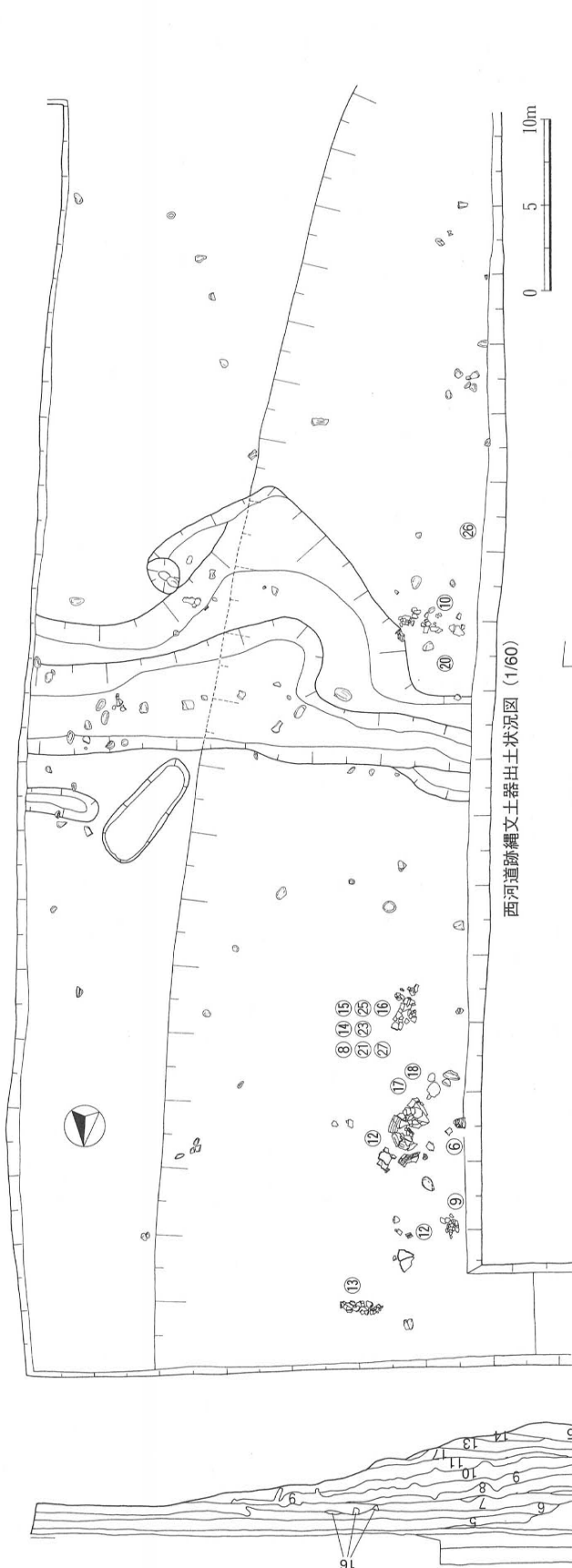
東河道跡 (1/300)



1980年調査区 (1/60)

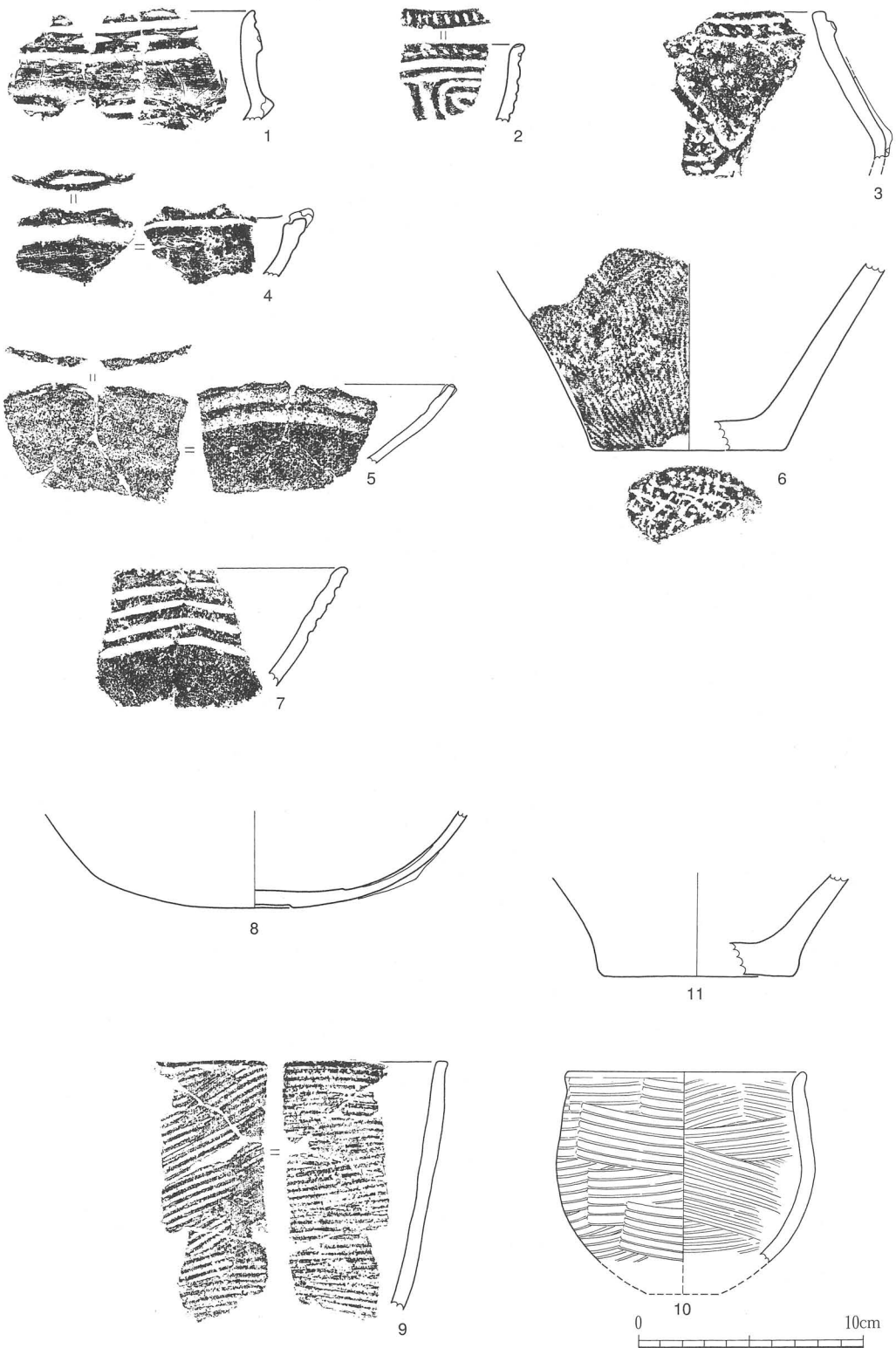


第6図 東河道跡

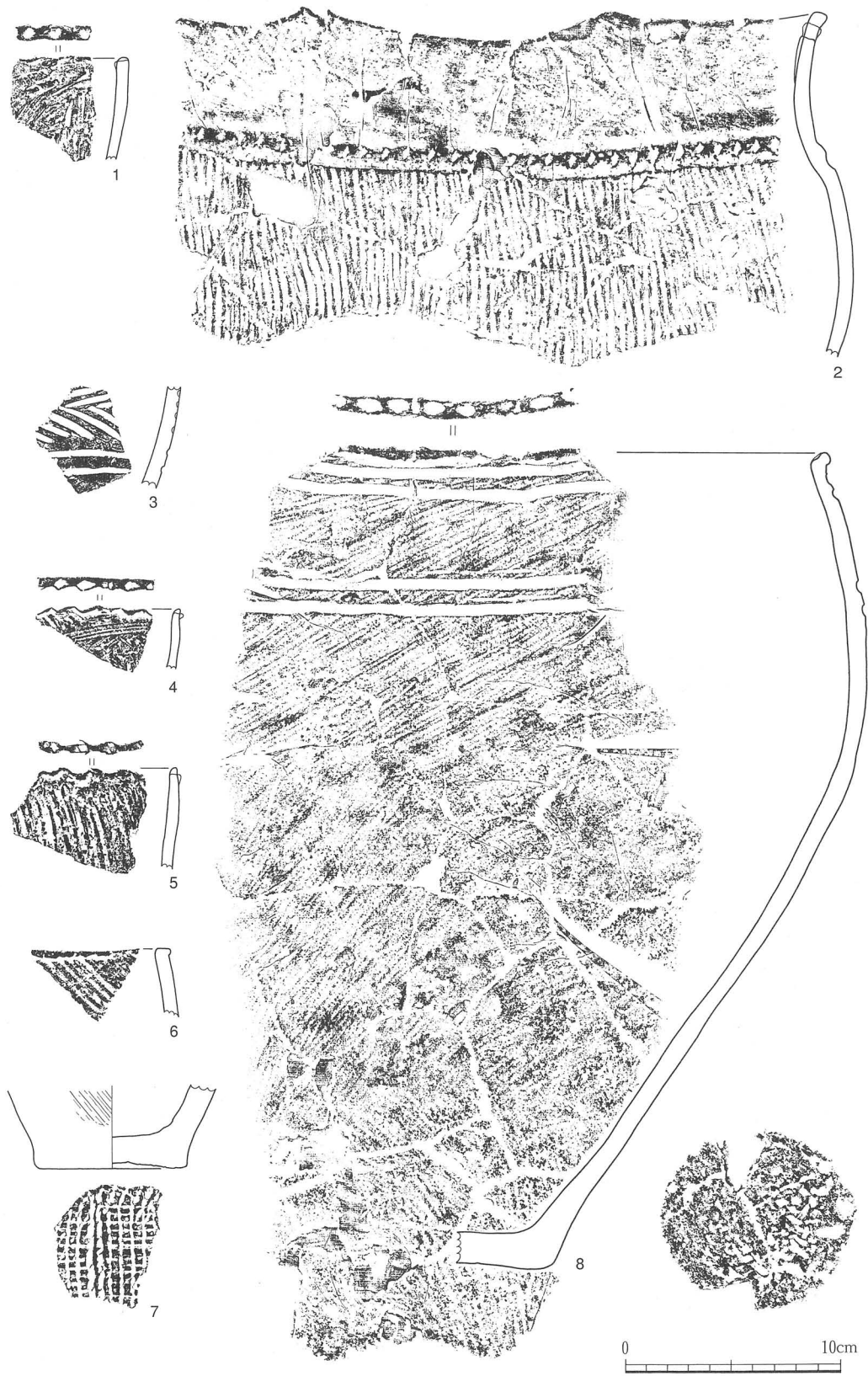


- 1 盛土
- 2 耕土
- 3 耕土下粘質土 (明灰色)
- 4 河川堆積粗粒砂層
- 5 茶褐色粘質土
- 6 淡茶褐色粘質土
- 7 灰茶褐色粘質土
- 8 黒褐色粘質土
- 9 黒色粘質土
- 10 明黒褐色粘質土
- 11 黄味褐色粘質土
- 12 灰色砂質 (炭化物混入)
- 13 明灰色砂質 (炭化物混入)
- 14 淡灰色砂質 (炭化物混入)
- 15 青緑灰色砂質 (炭化物混入自然木堆積層)
- 16 乳白色砂質
- 17 乳褐色砂質
- 18 茶色中粒砂炭化物混入土
- 19 紫灰色中粒砂炭化物混入土
- 20 灰褐色粗粒砂自然木混入堆積土

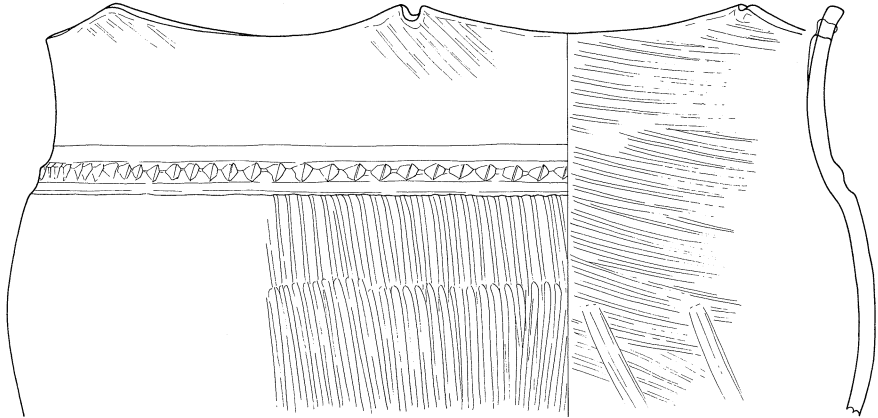
第7図 西河道跡 (1/60)



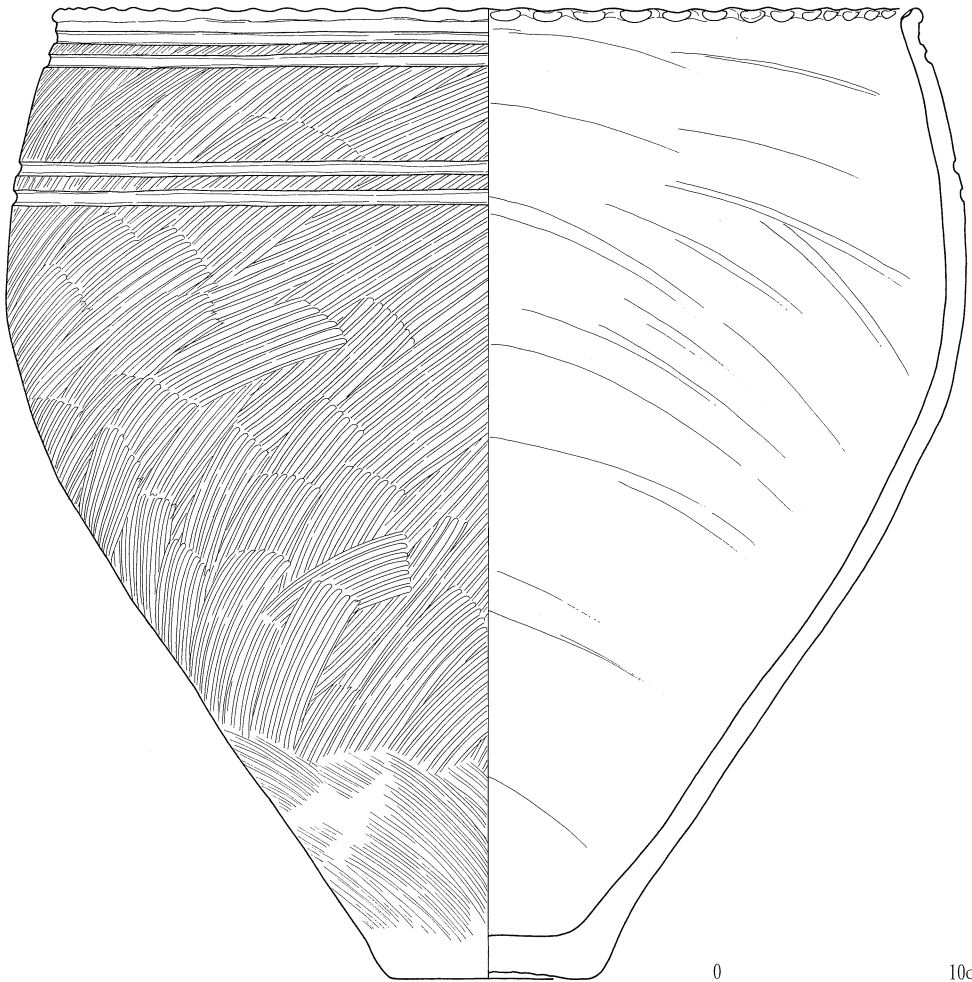
第8图 土坑出土土器① (1/3) P06(1~7)·P07(8)·P20(9~11)



第9图 土坑出土土器②·1号土器棺 (1/3) P21(1)·P32(2~7)·1号土器棺(8)



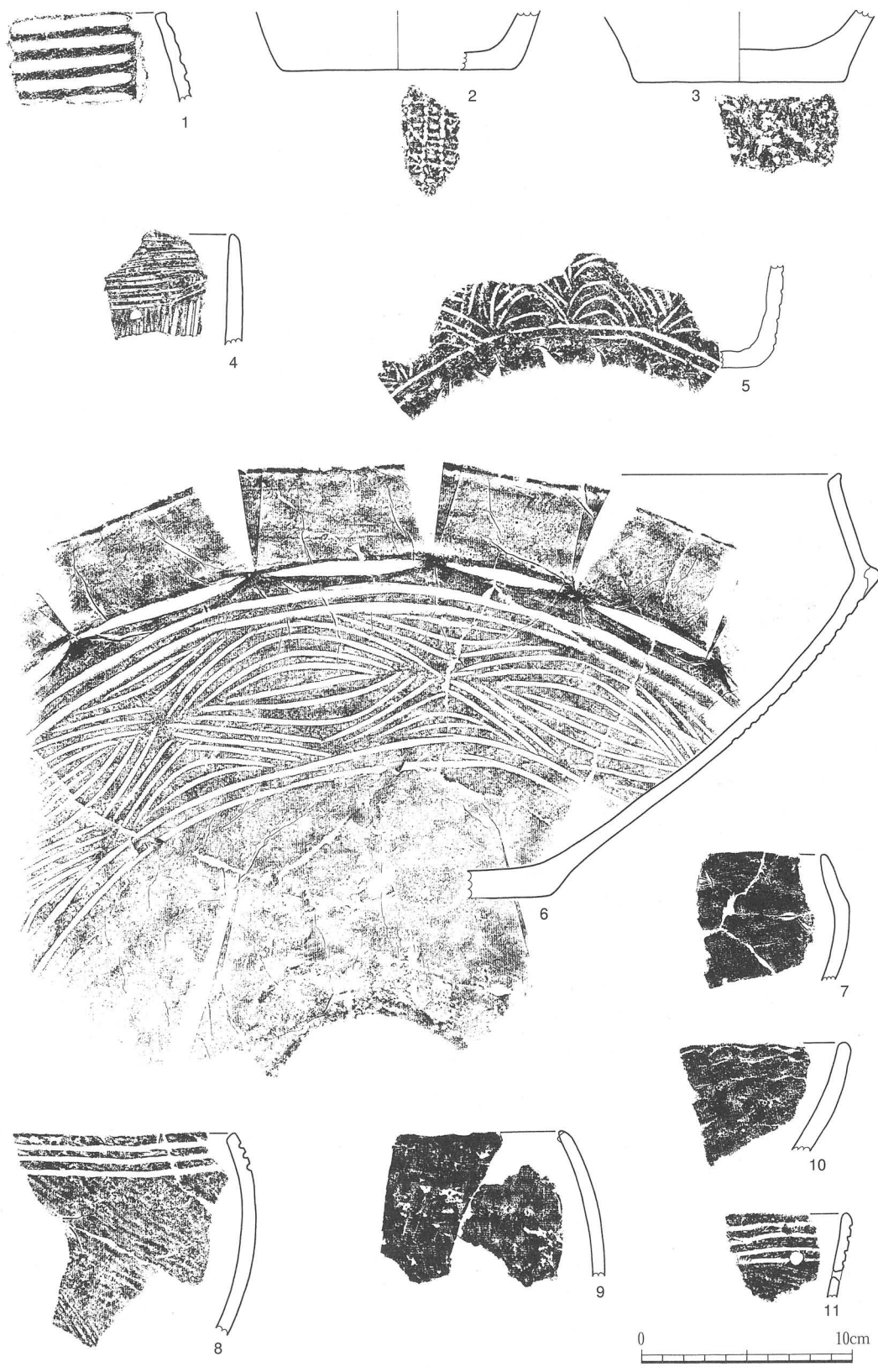
2



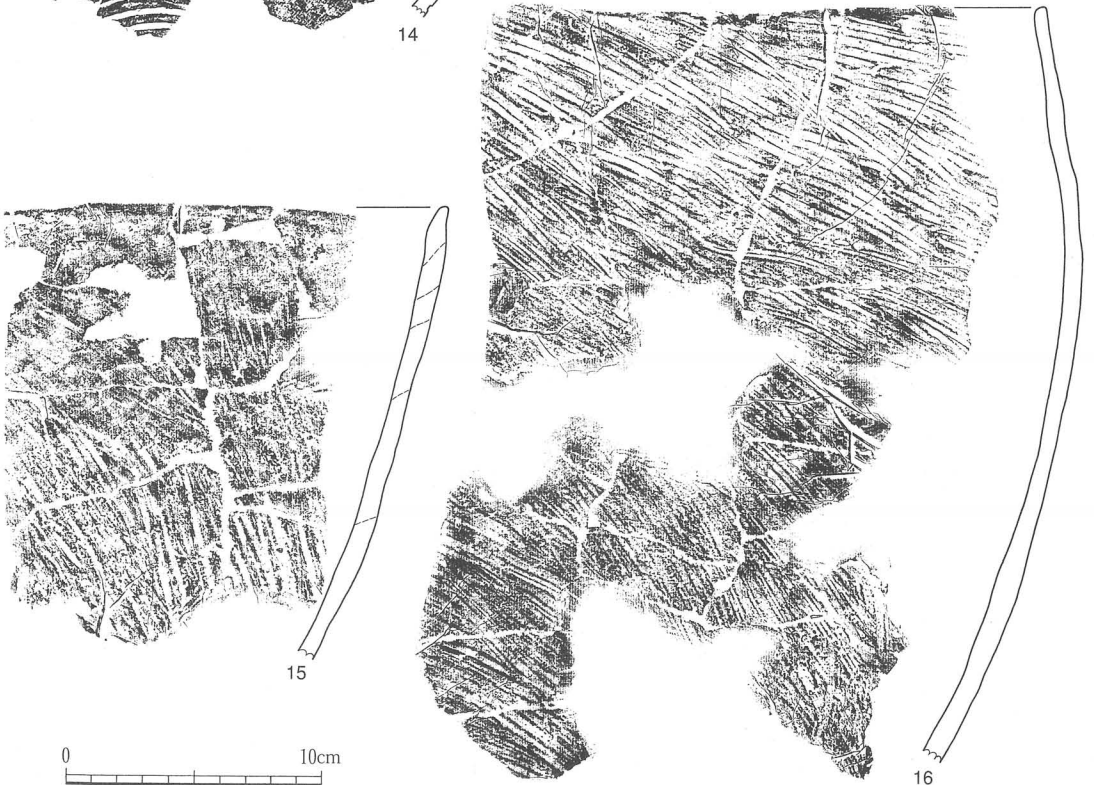
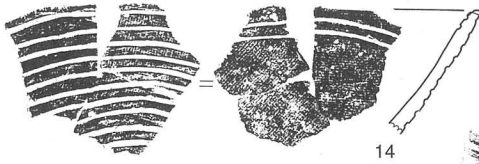
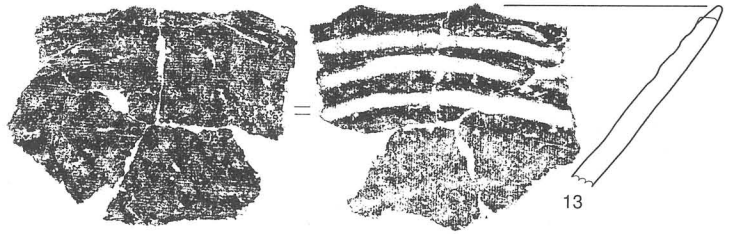
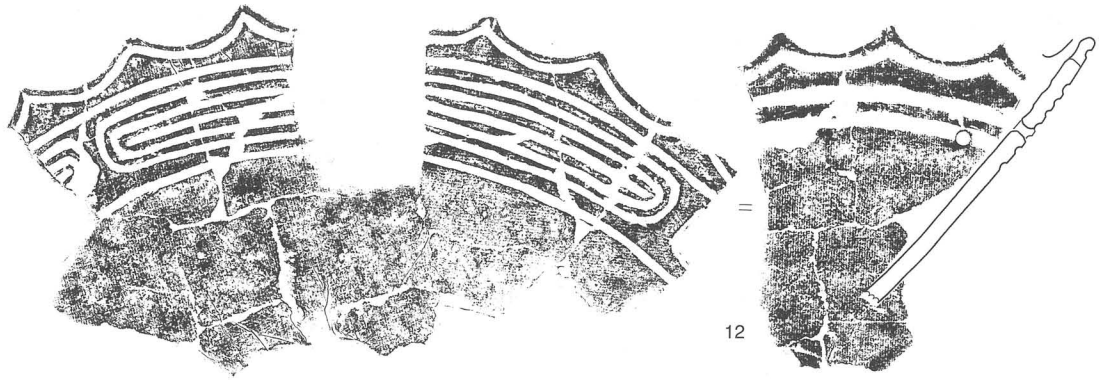
8

0 10cm

第10図 土器実測図 (1/3) P32(2)・1号土器棺(8)



第11図 河道跡出土土器① (1/3) 東(1~5)・西(6~11)

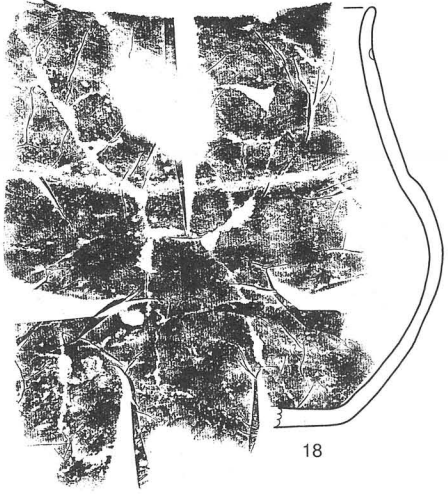


0 10cm

第12图 河道跡出土土器② (1/3) 西(12~16)



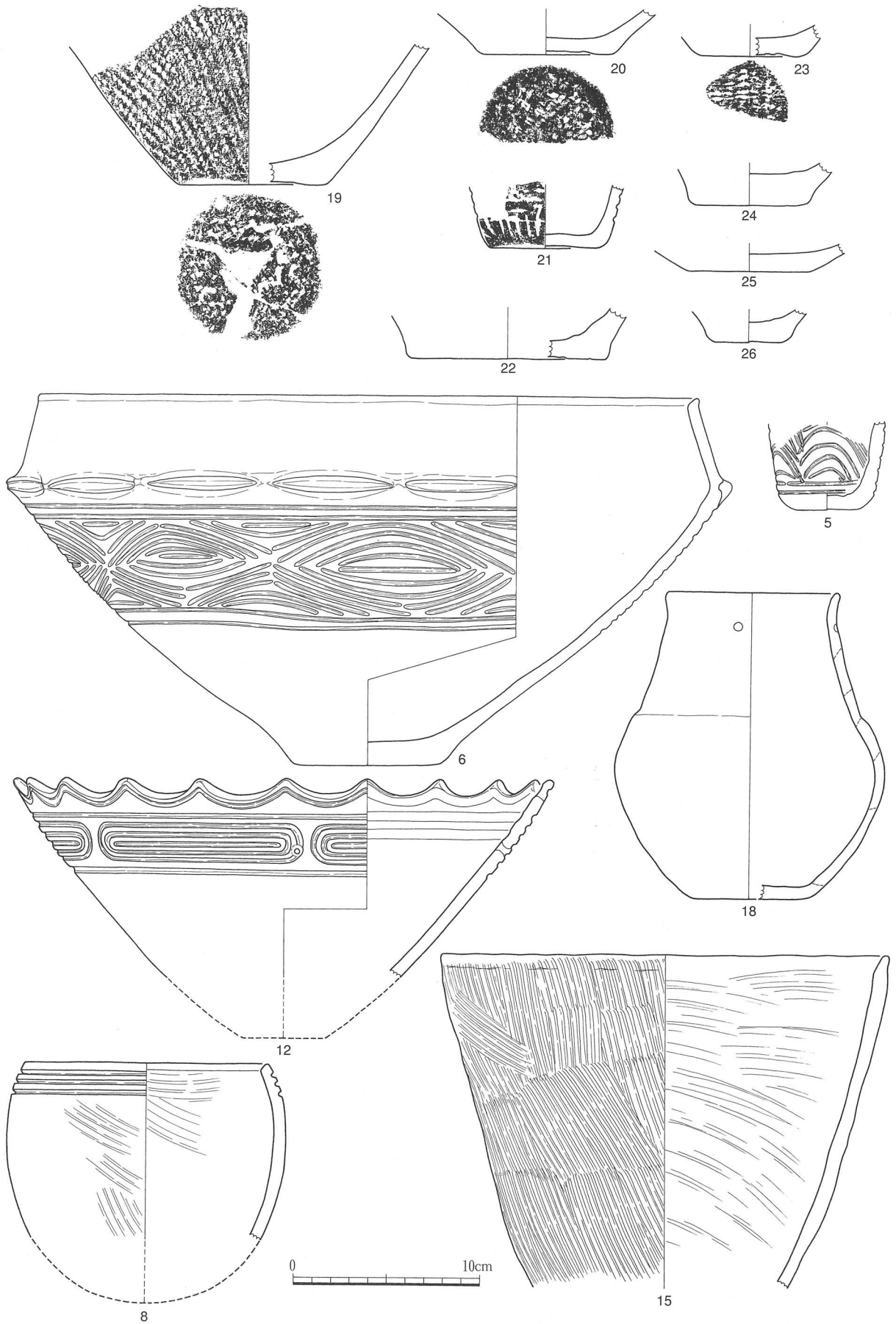
17



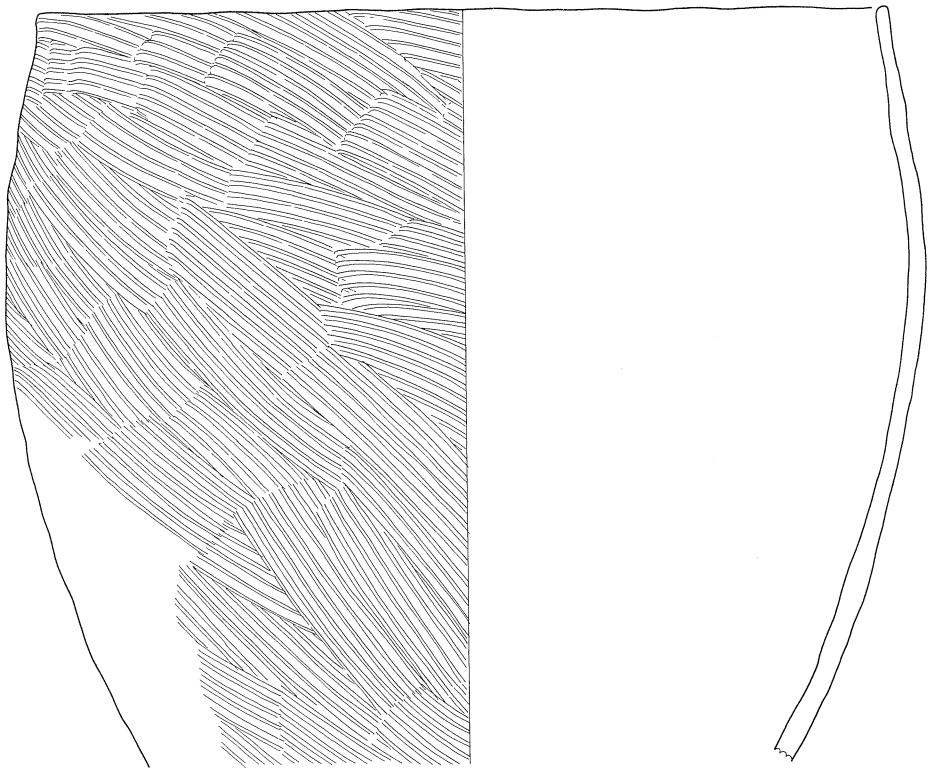
18



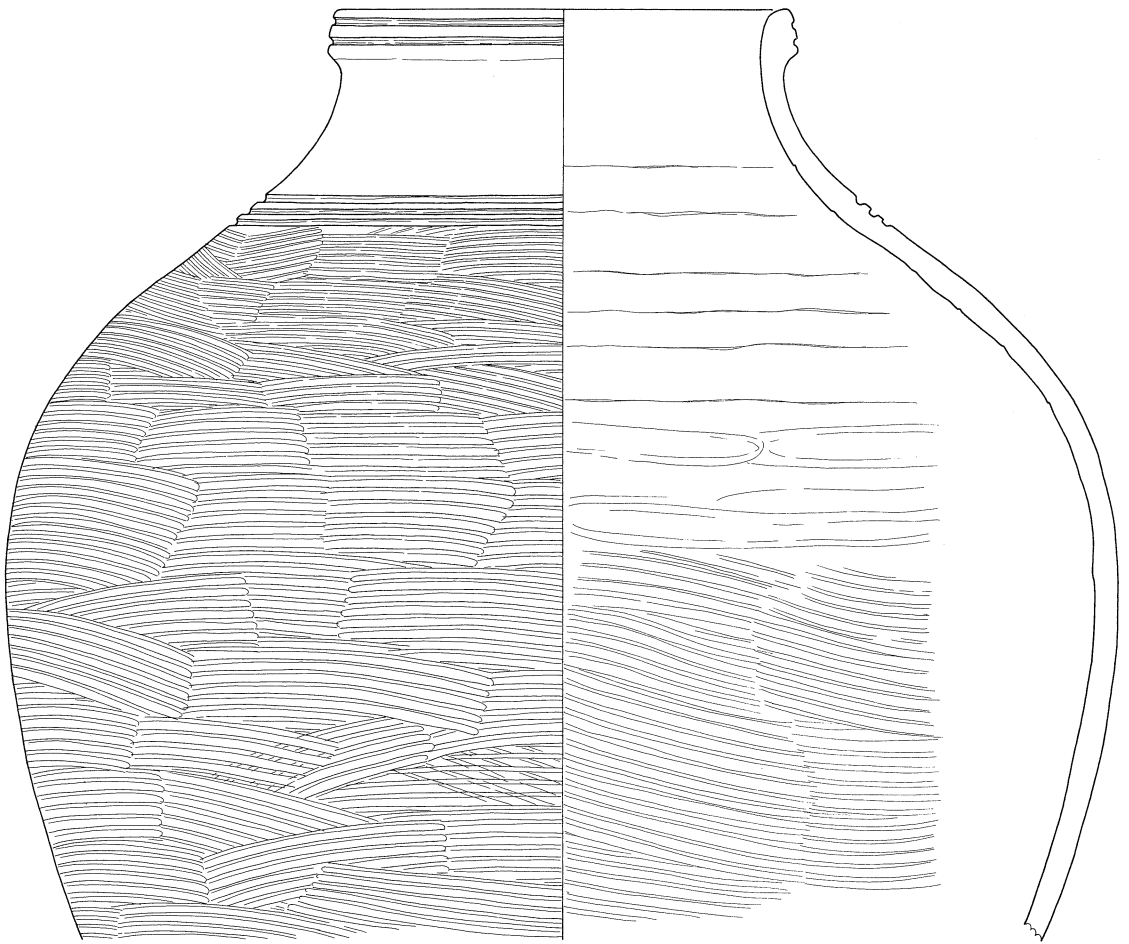
第13图 河道跡出土土器③ (1/3) 西(17·18)



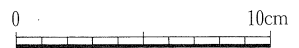
第14図 河道跡出土土器④ (1/3) 西 (19~26)・河道跡出土土器実測図 (1/3) (番号は土器番号と対応する)



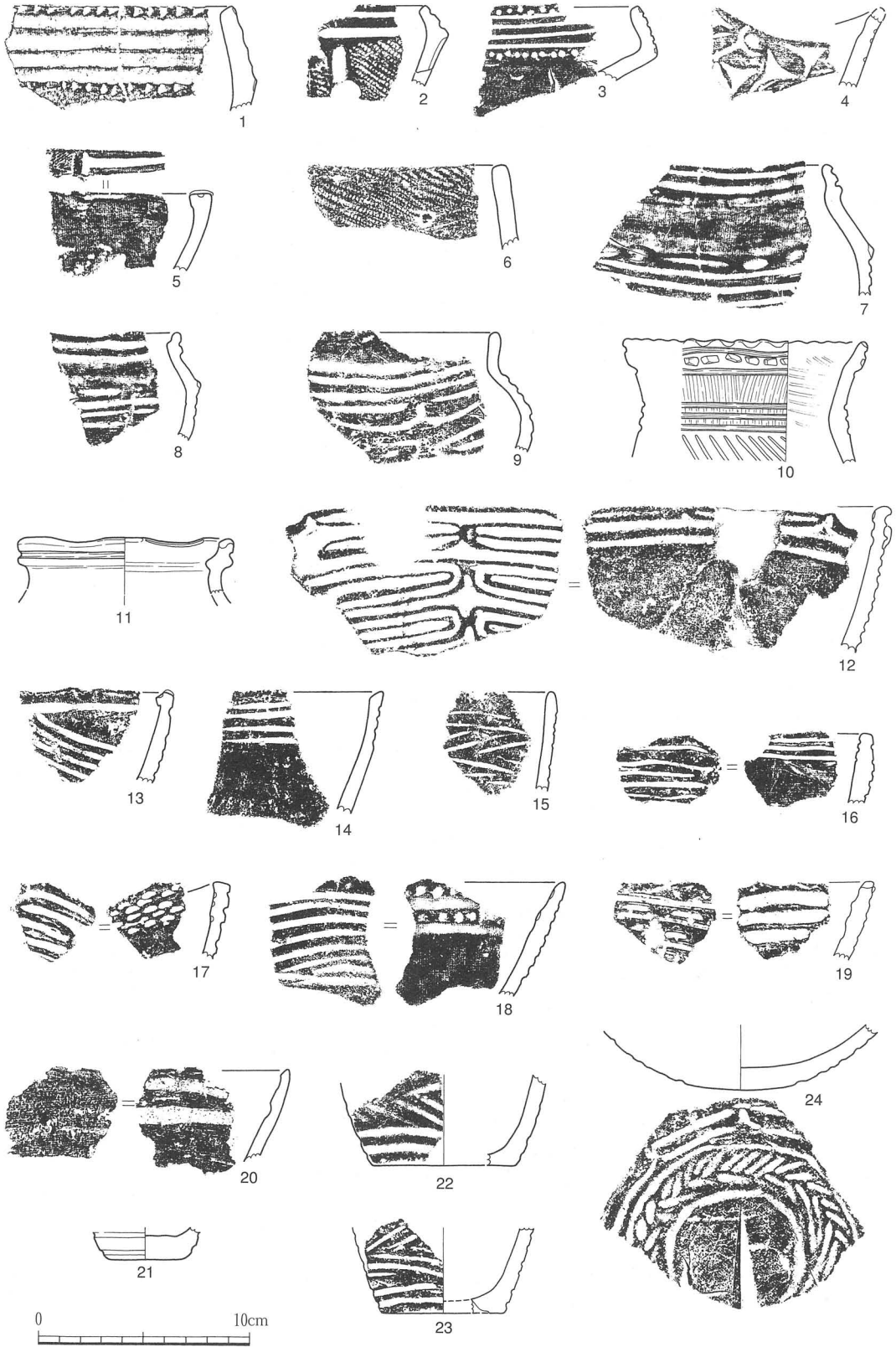
16



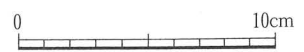
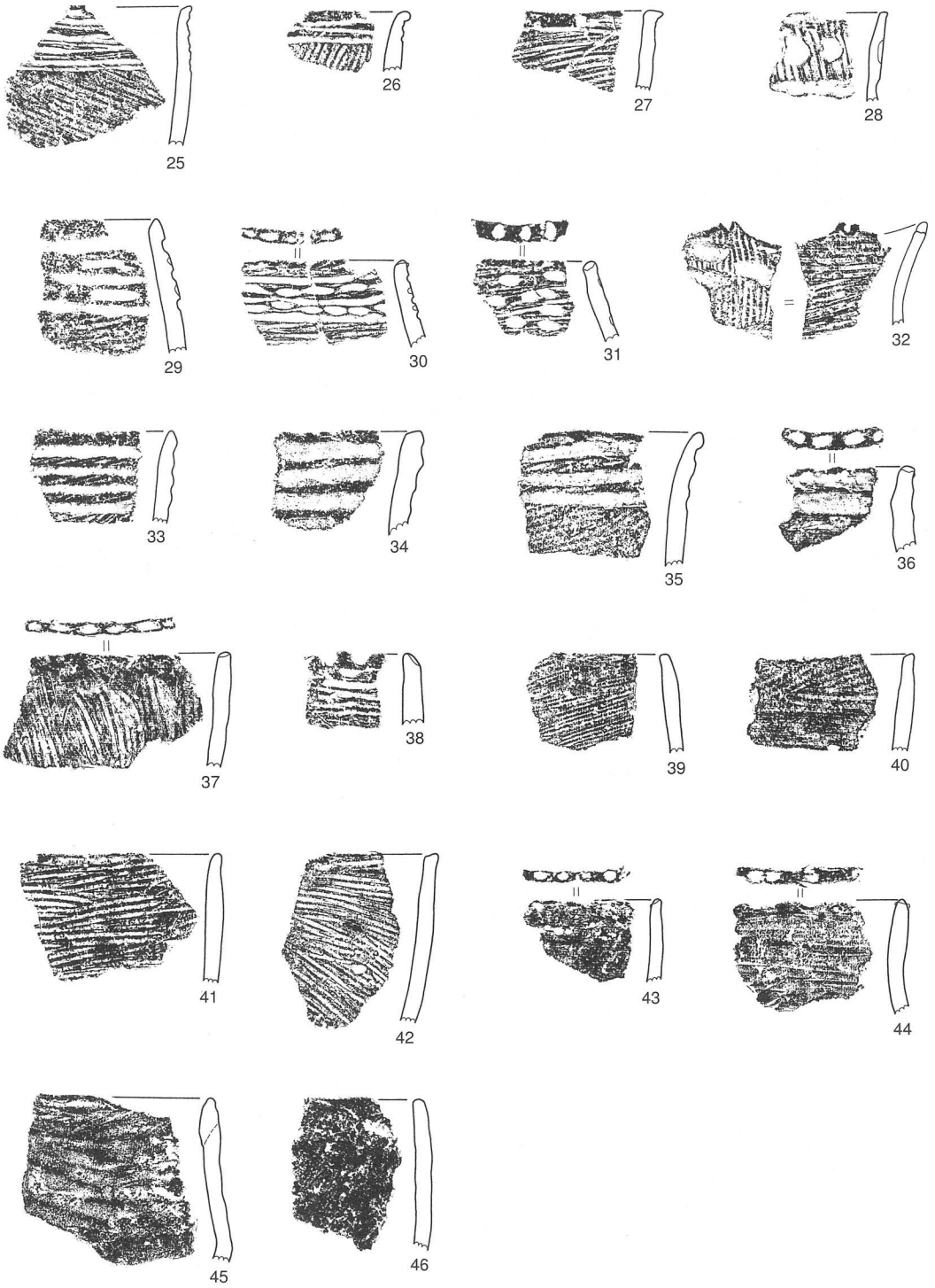
17



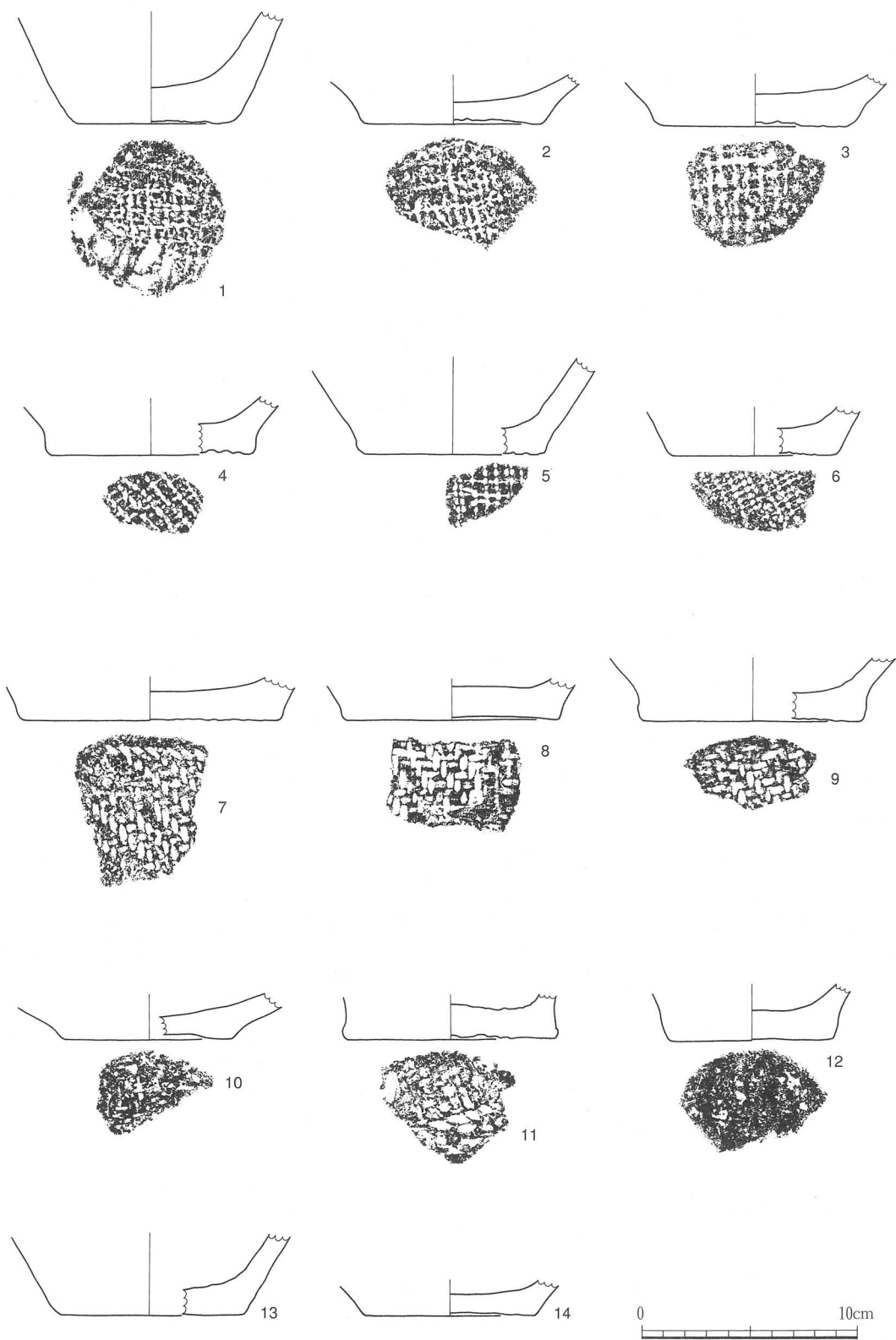
第15図 河道跡出土土器実測図 (1/3)



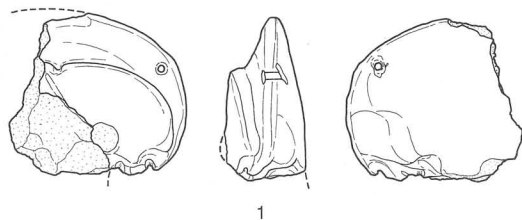
第16図 調査区出土土器① (1/3)



第17図 調査区出土土器② (1/3)



第18図 調査区出土土器③ (1/3)



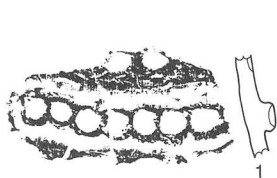
1



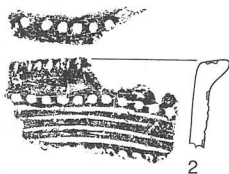
2



第19図 土偶(1/2)



1



2



4



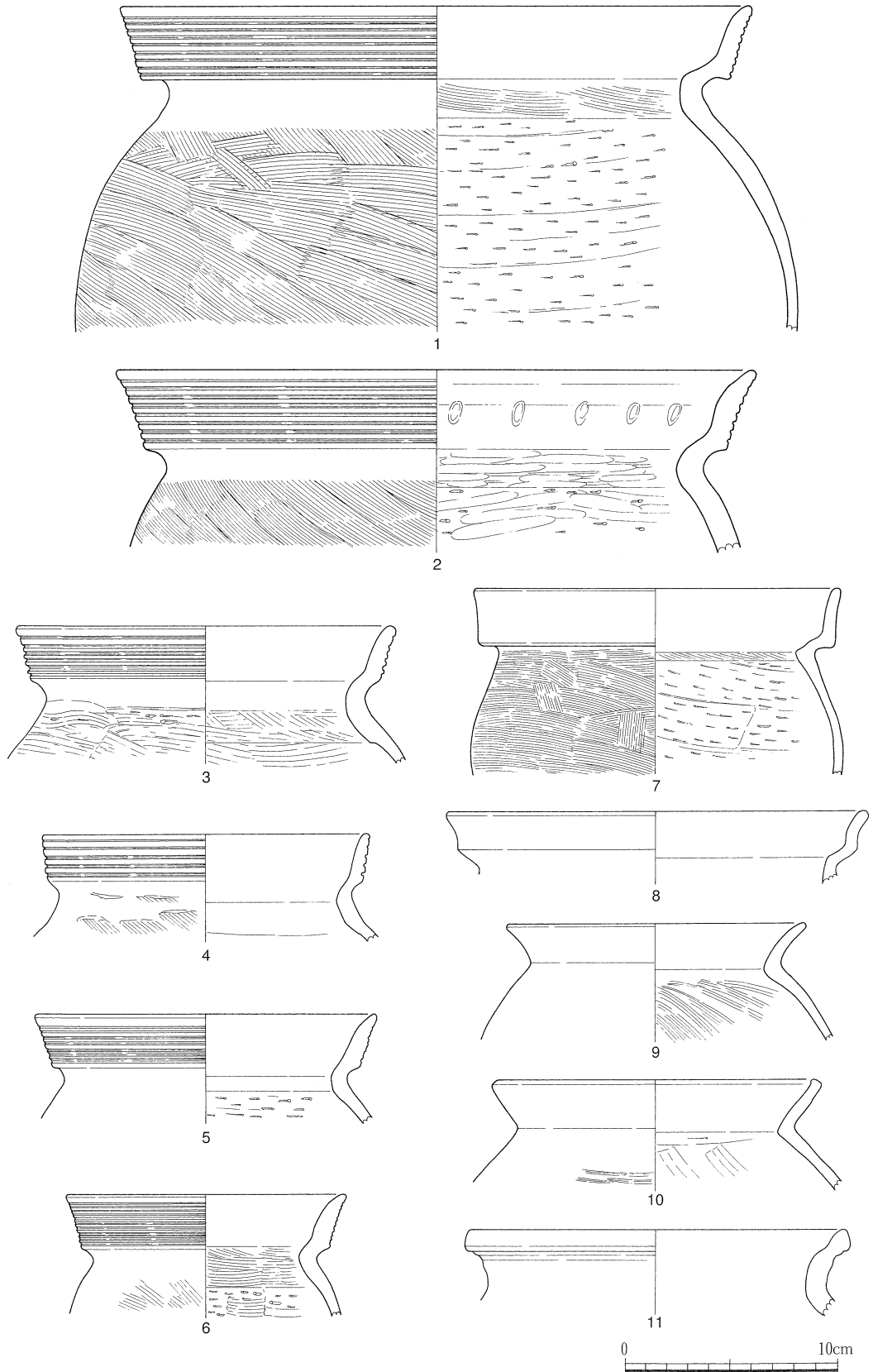
5



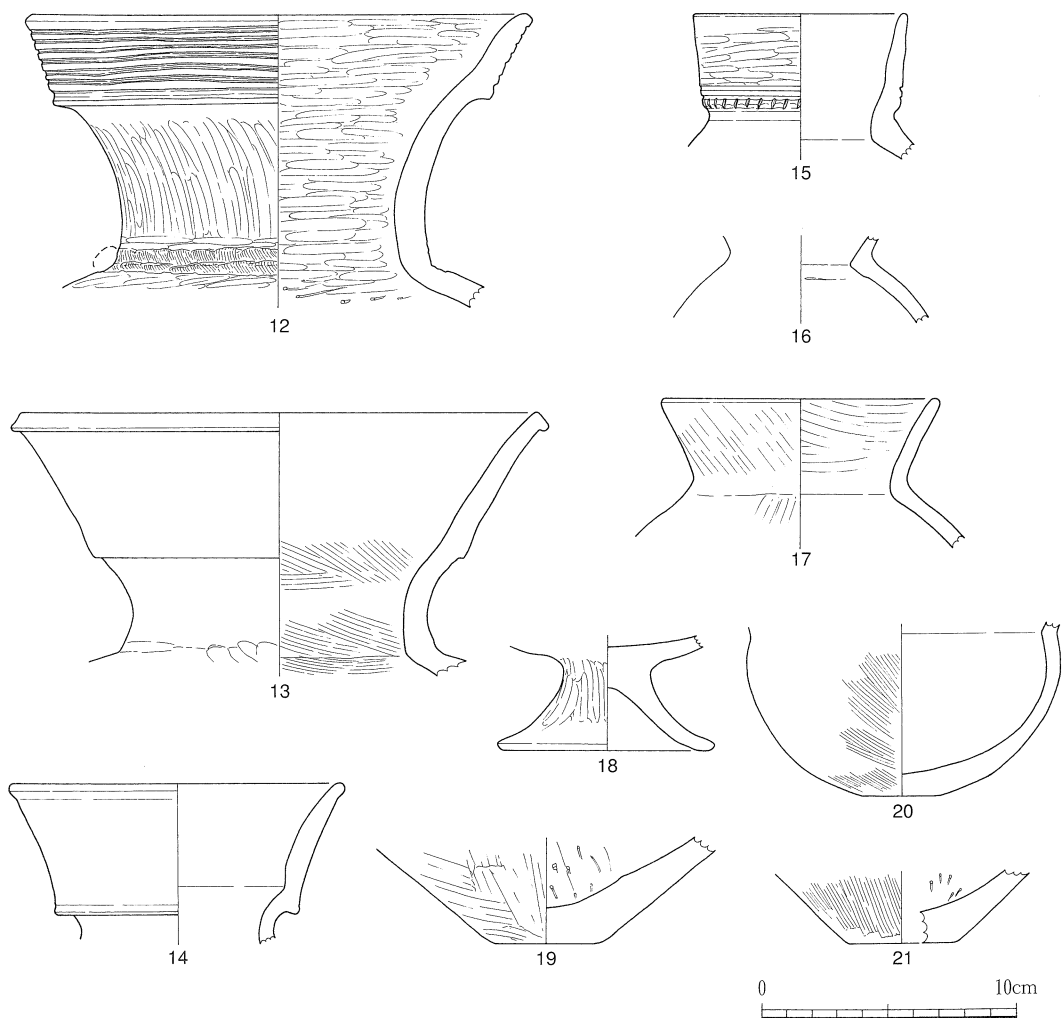
3



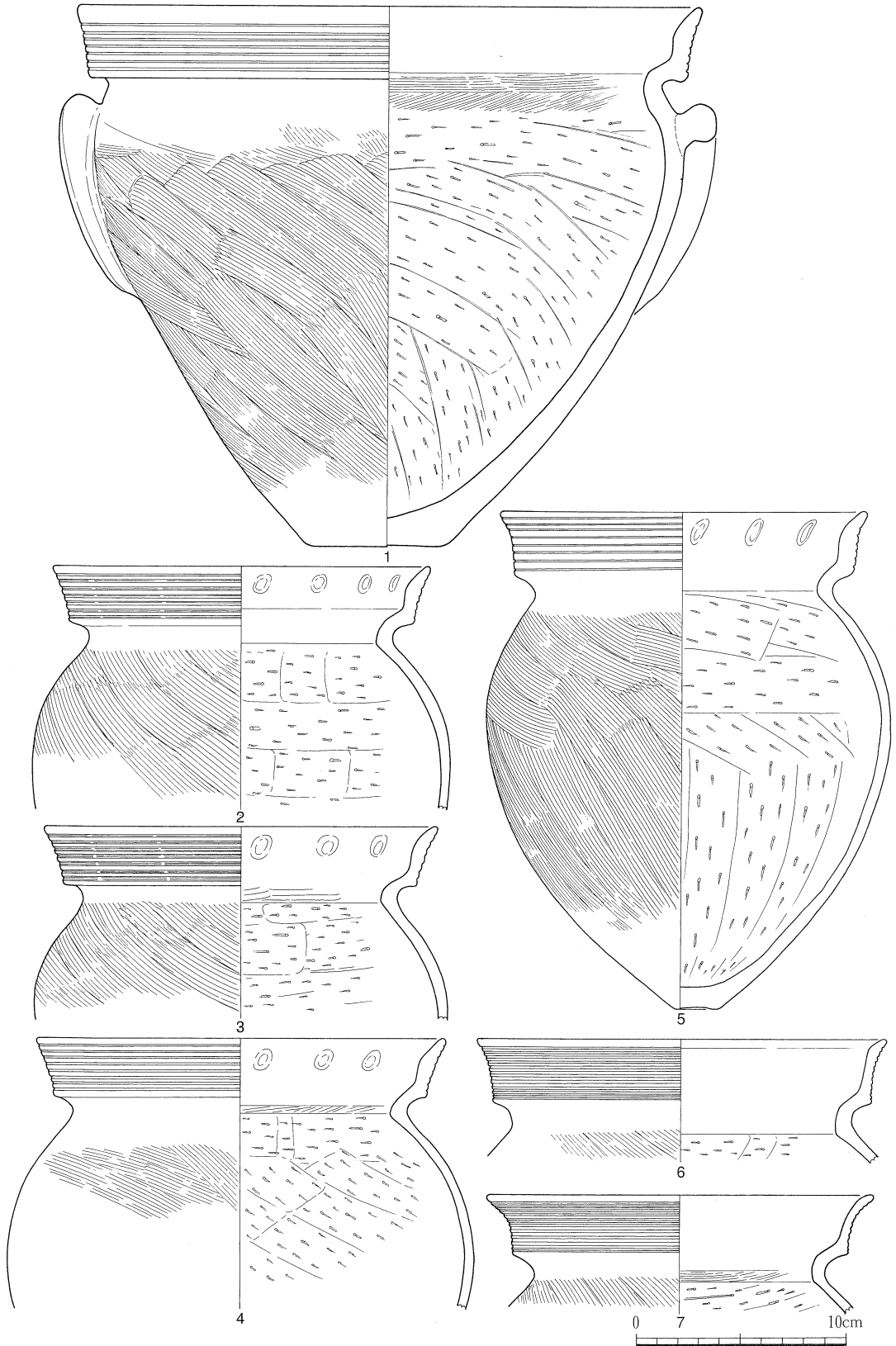
第20図 調査区出土土器④ (1/3)



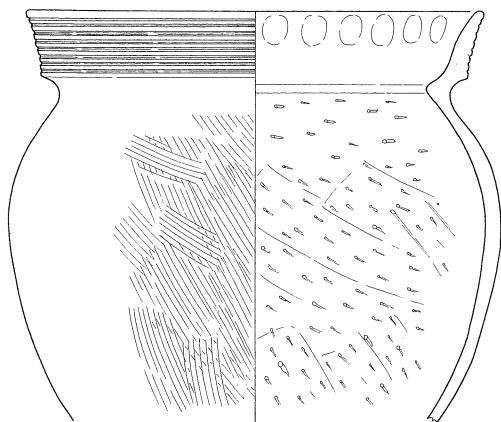
第21図 東河道跡出土土器① (1/3)



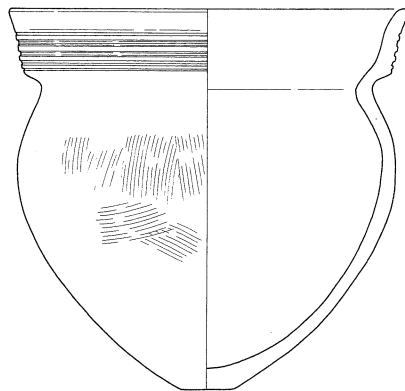
第22図 東河道跡出土土器② (1/3)



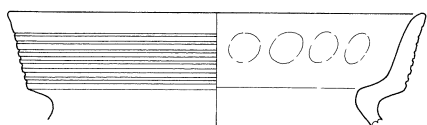
第23図 西河道跡出土土器① (1/3) Eトレンチ (1~7)



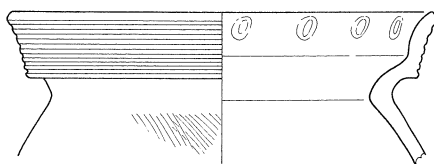
8



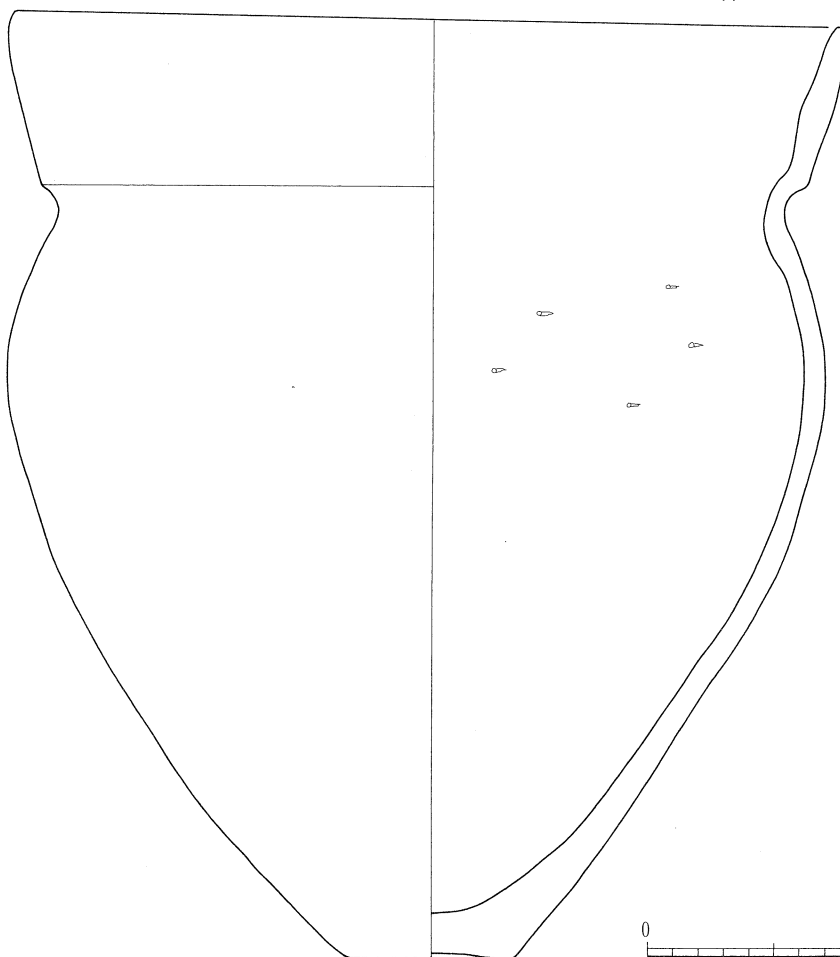
10



9



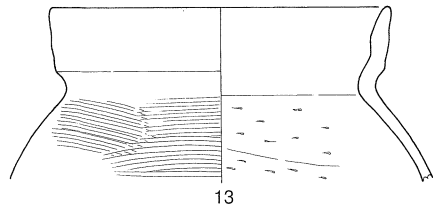
11



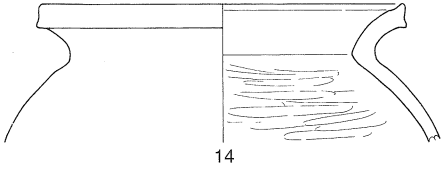
12



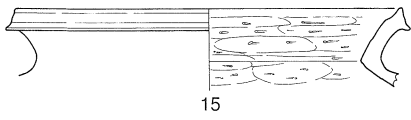
第24図 西河道跡出土土器② (1/3) Eトレンチ(8~12)



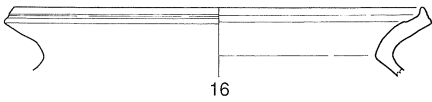
13



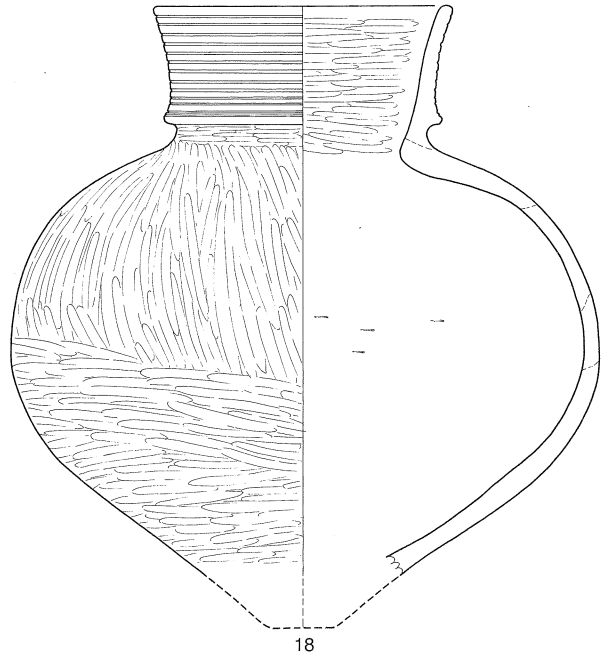
14



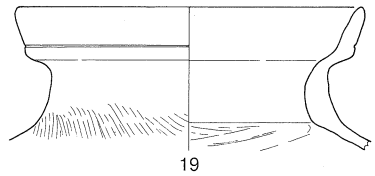
15



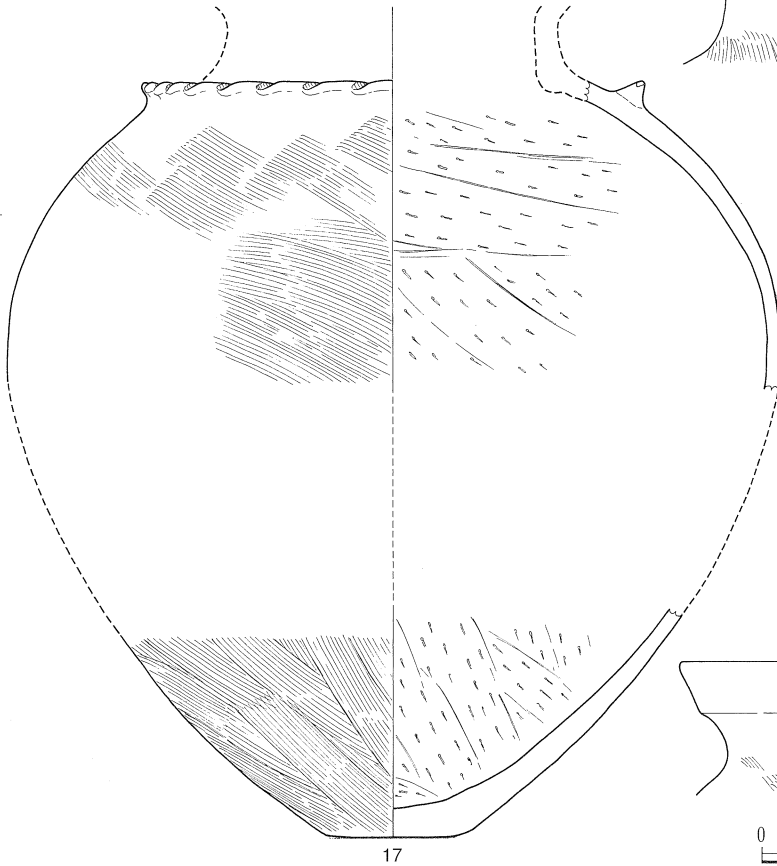
16



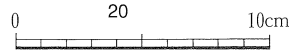
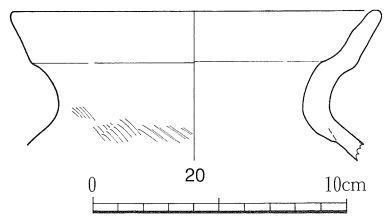
18



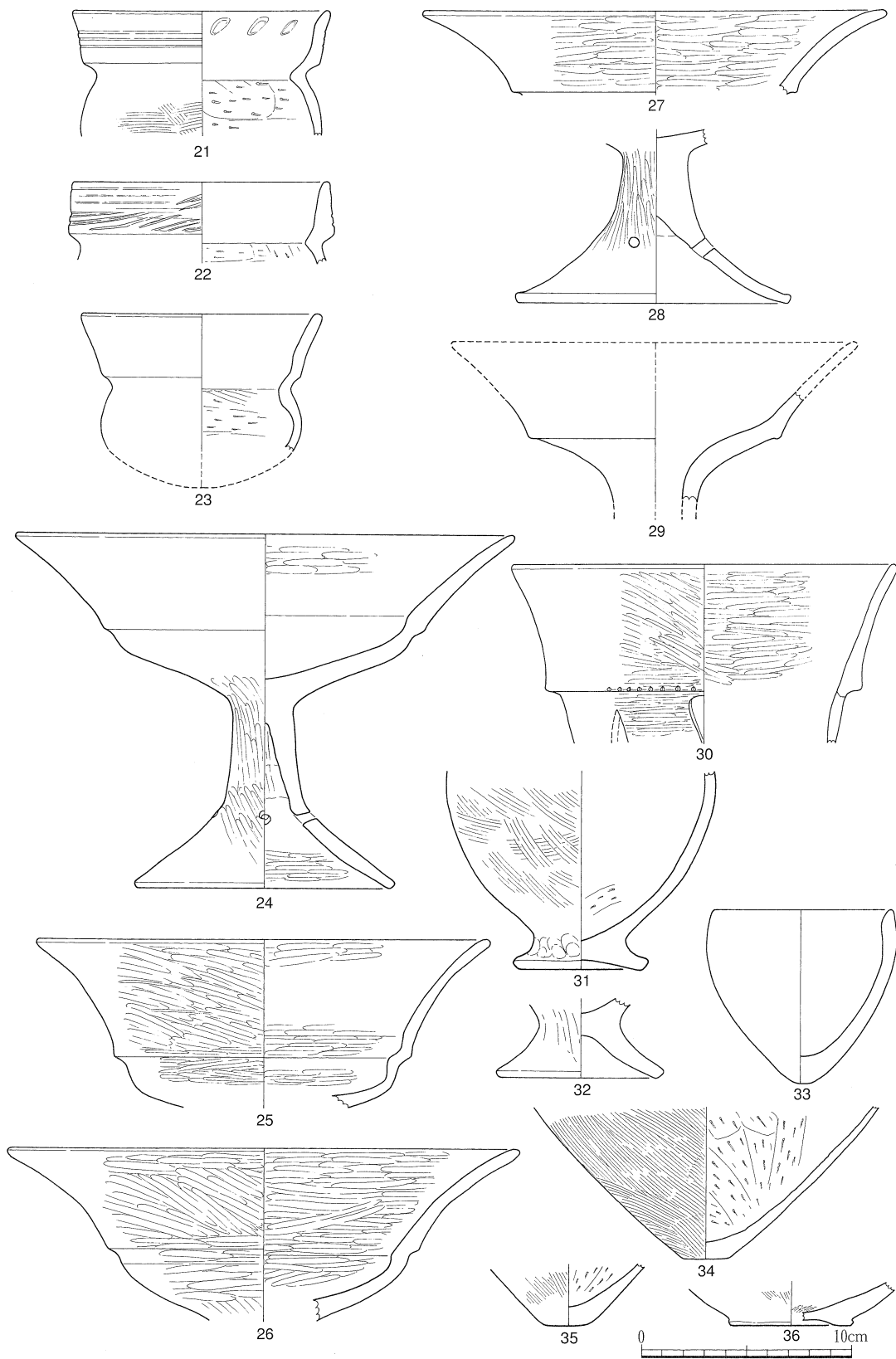
19



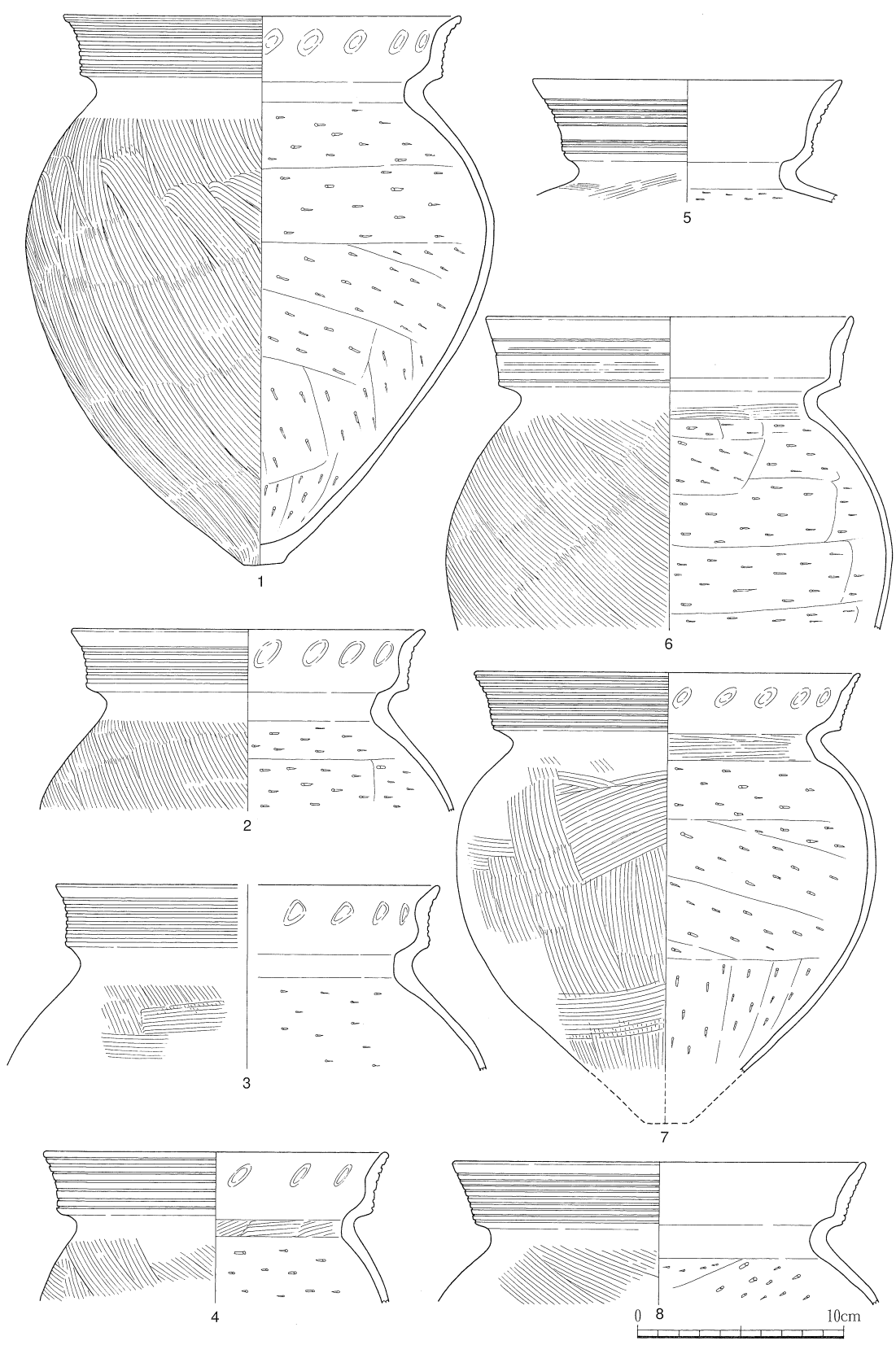
17



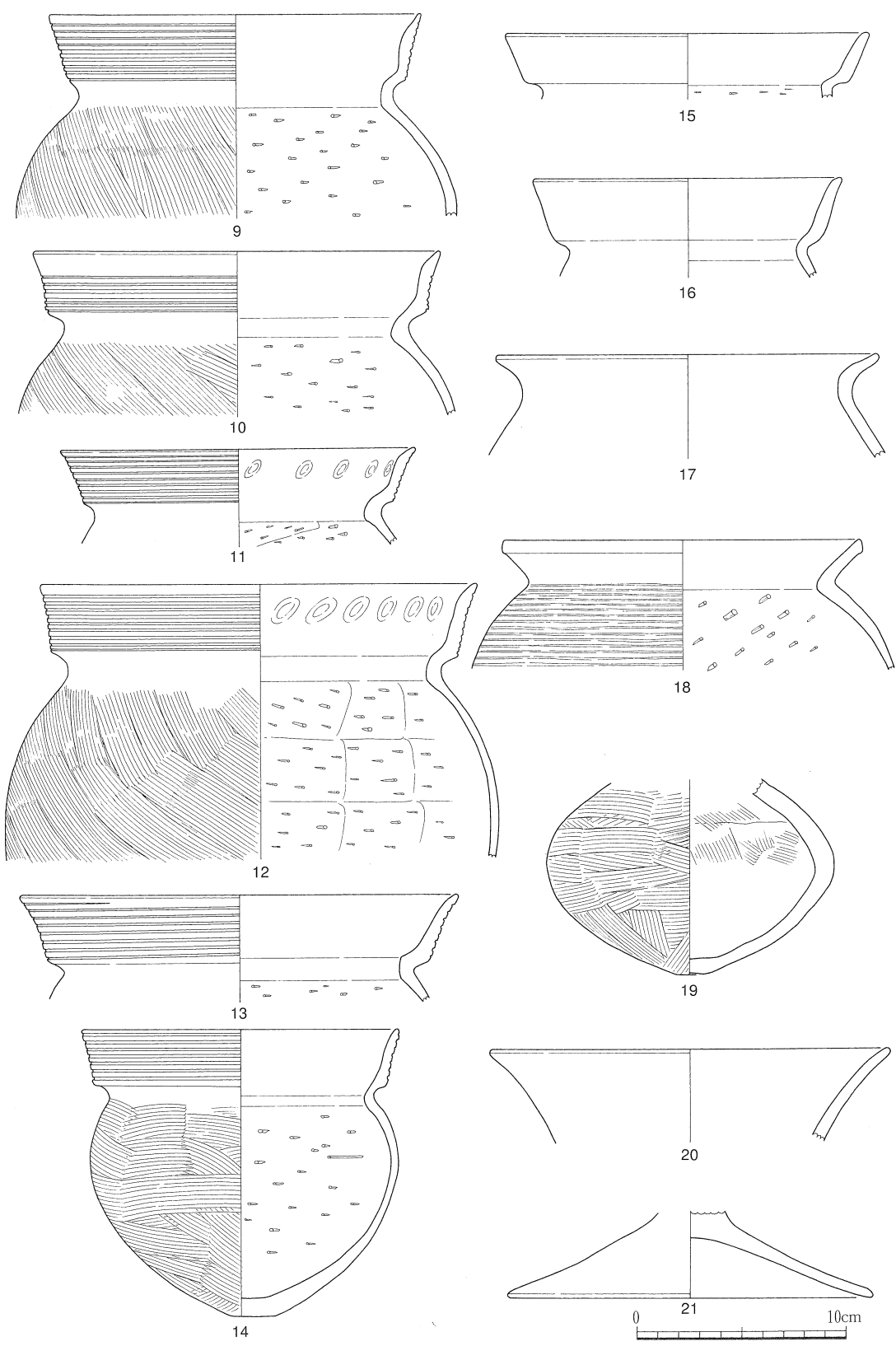
第25図 西河道跡出土土器③ (1/3) Eトレンチ(13~20)



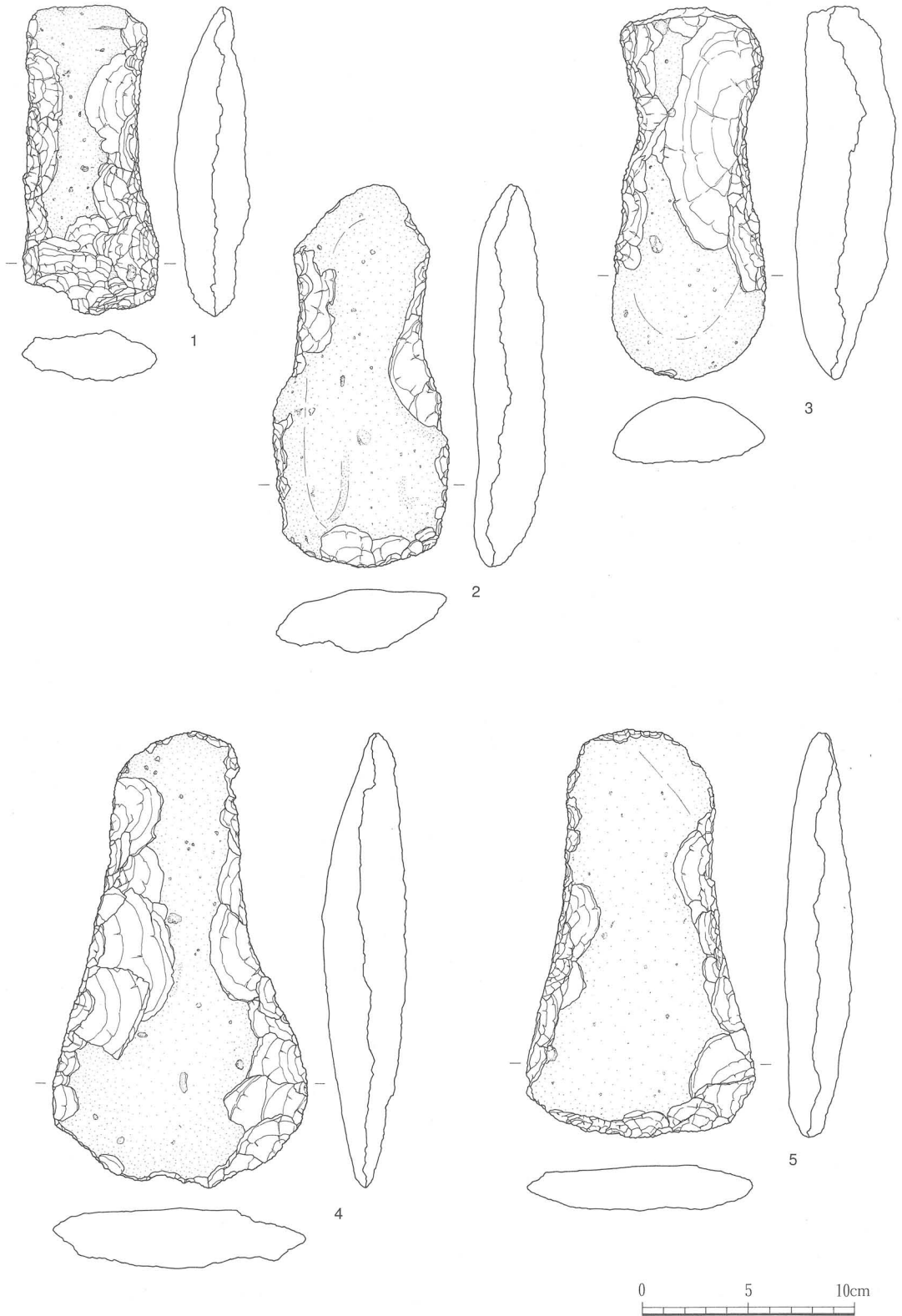
第26図 西河道跡出土土器④(1/3) Eトレンチ(21~36)



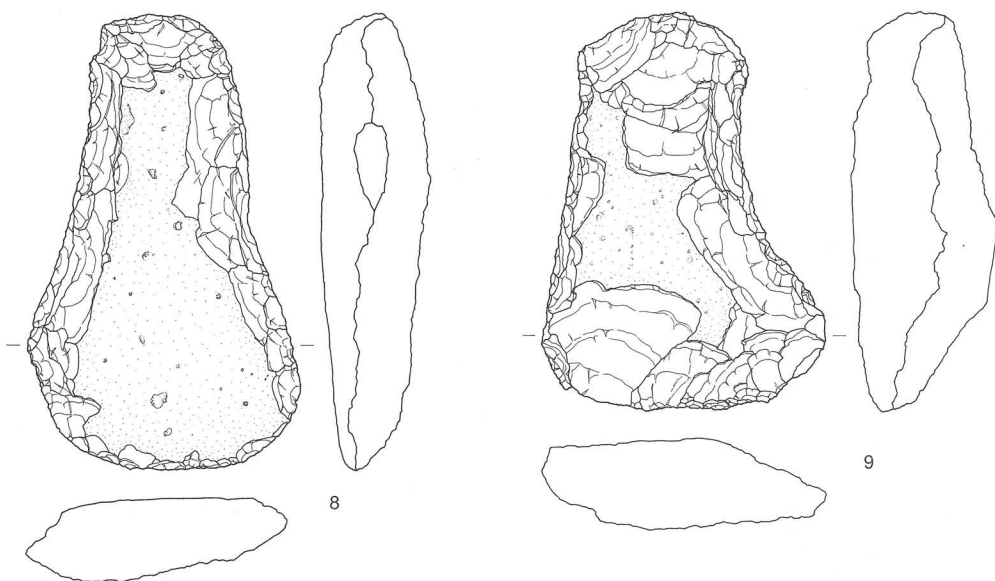
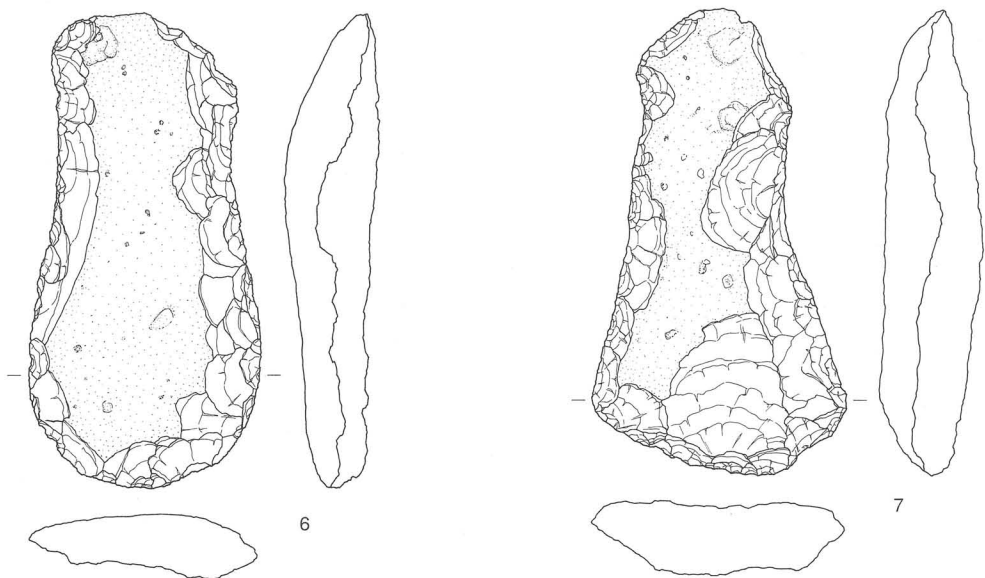
第27図 西河道出土土器⑤ Hトレンチ(1~8)



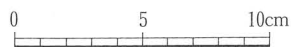
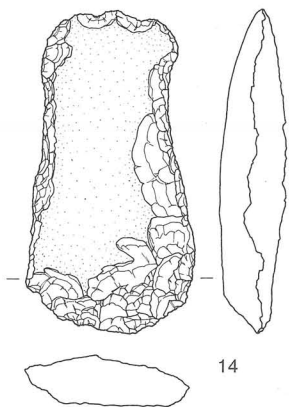
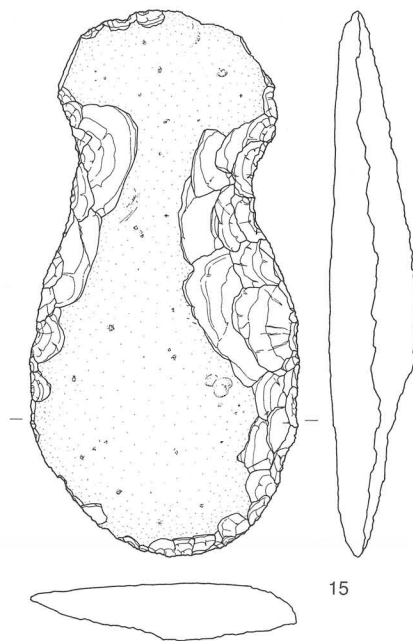
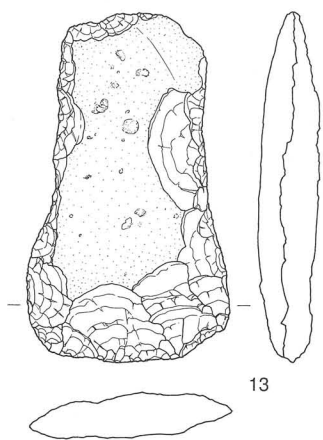
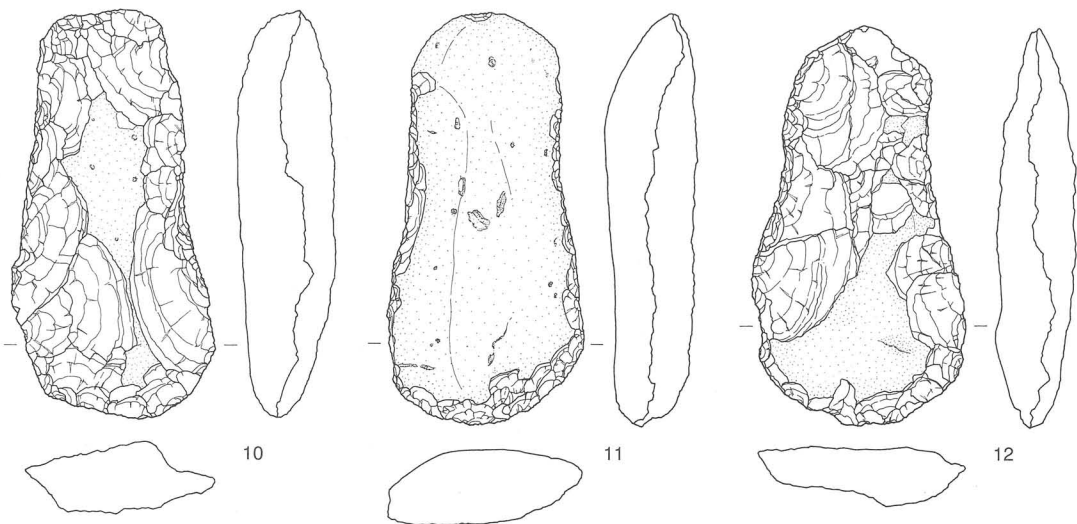
第28図 西河道跡出土土器⑥ (1/3) Hトレンチ(9~21)



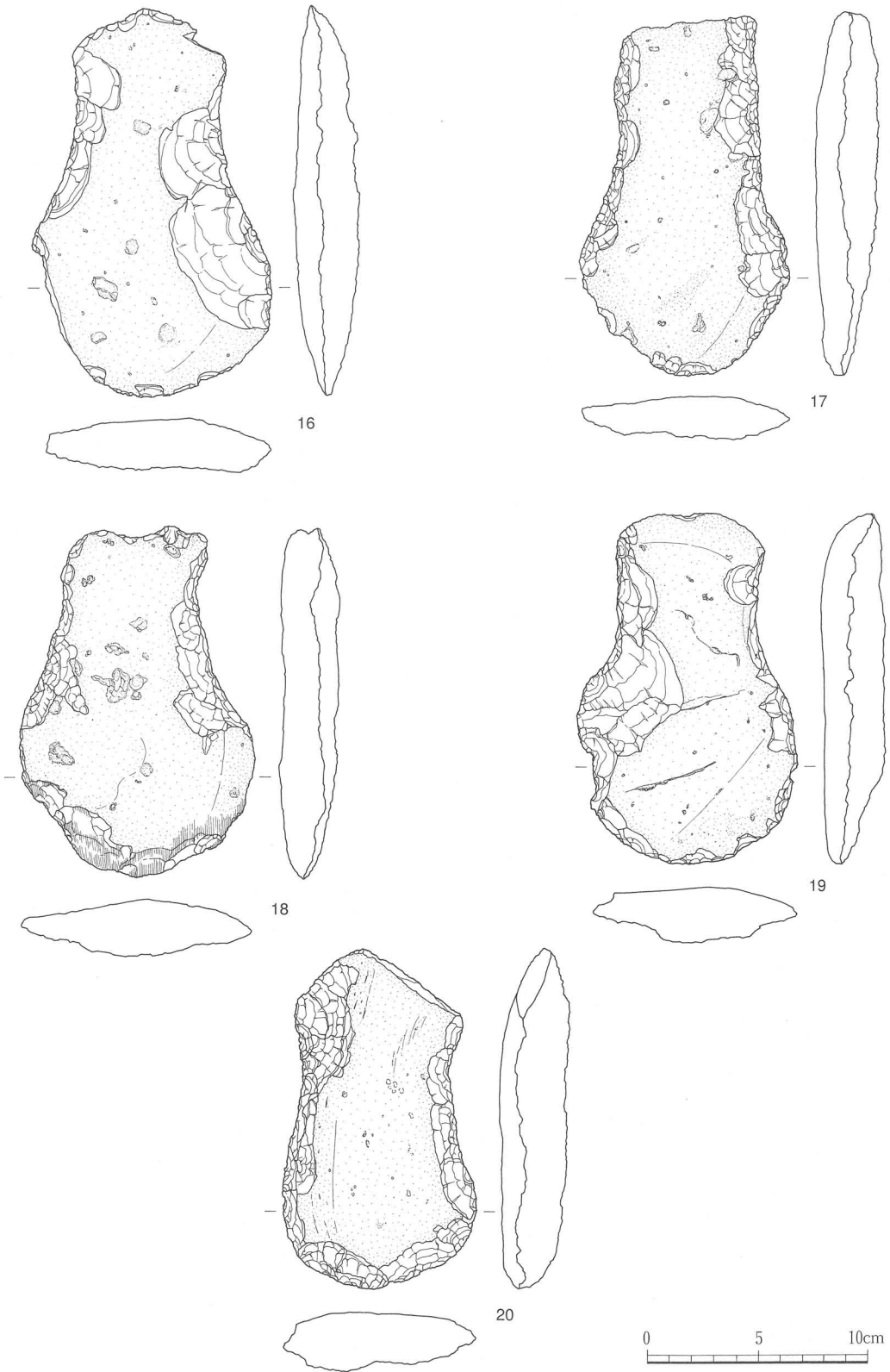
第29図 打製石斧① (1/3)



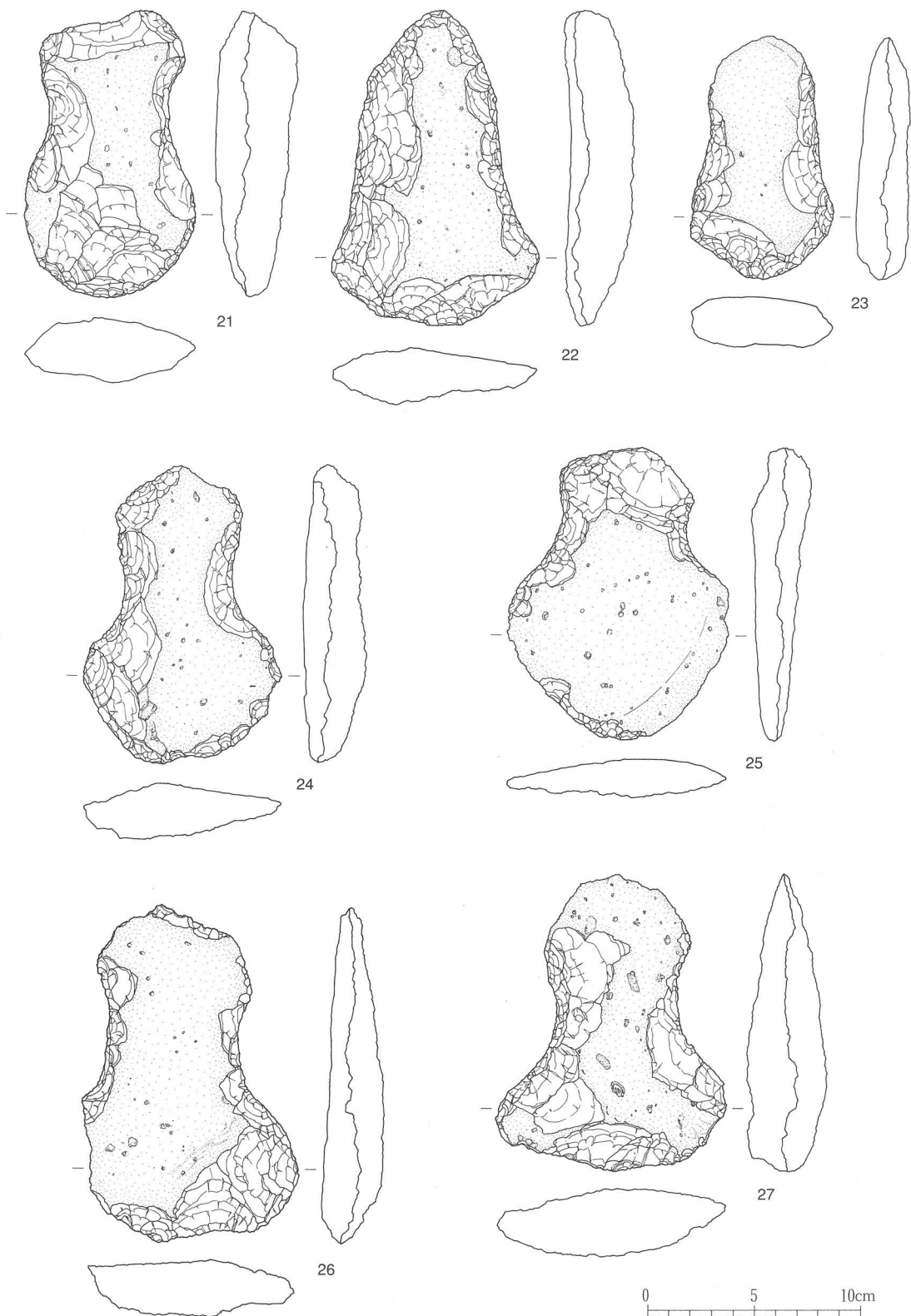
第30図 打製石斧② (1/3)



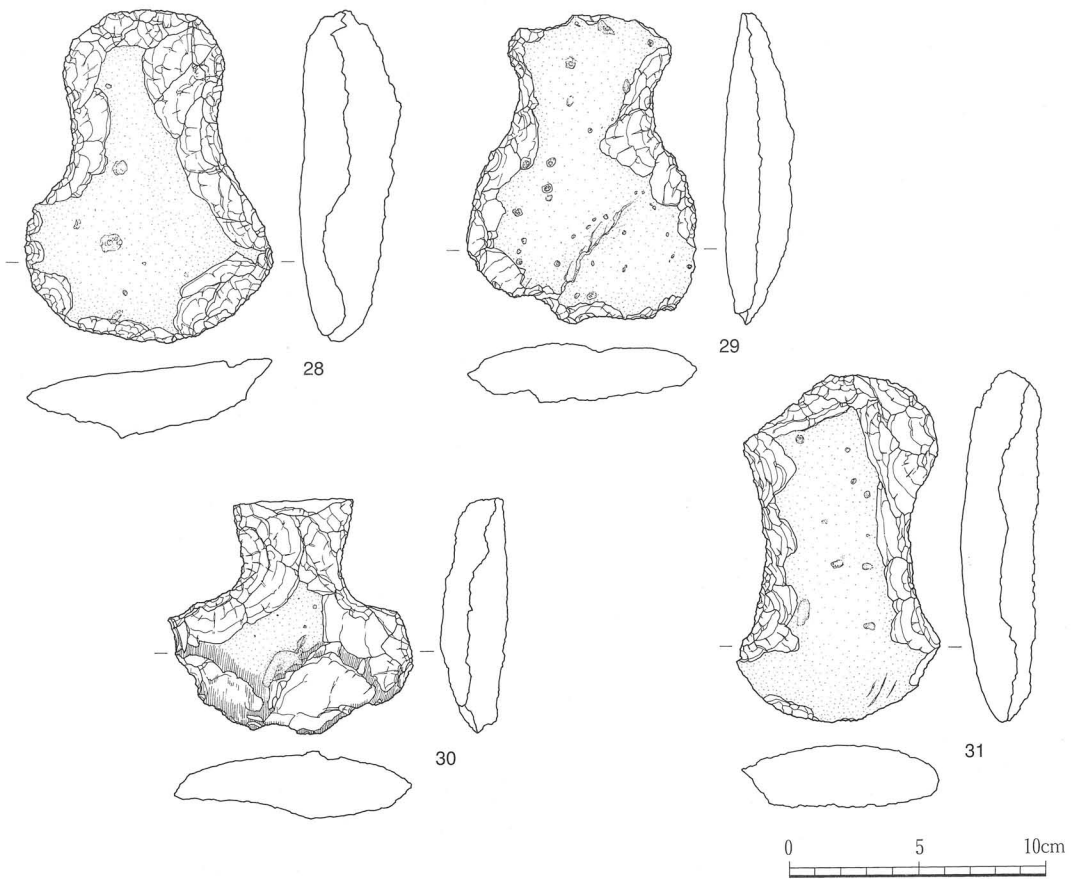
第31図 打製石斧③ (1/3)



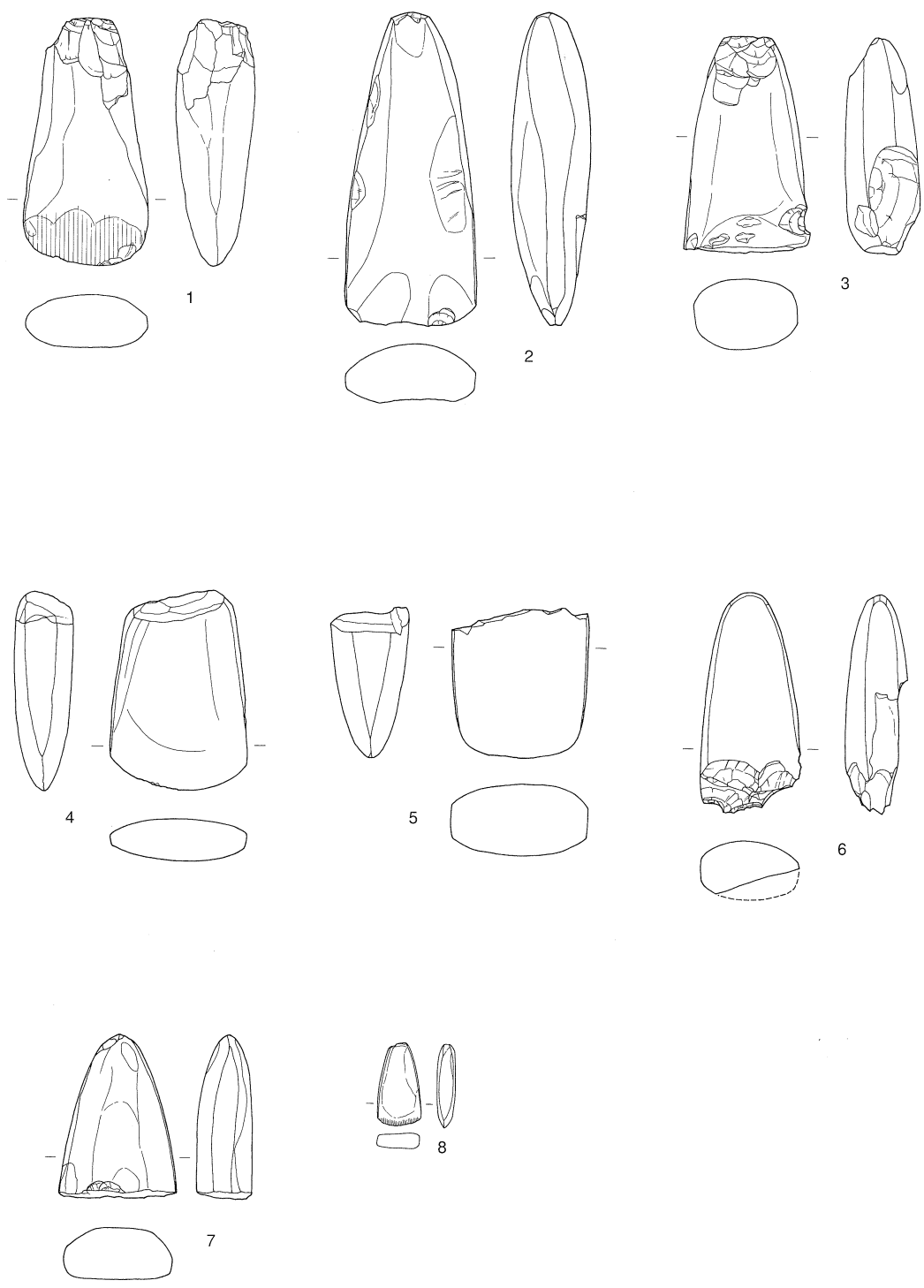
第32図 打製石斧④ (1/3)



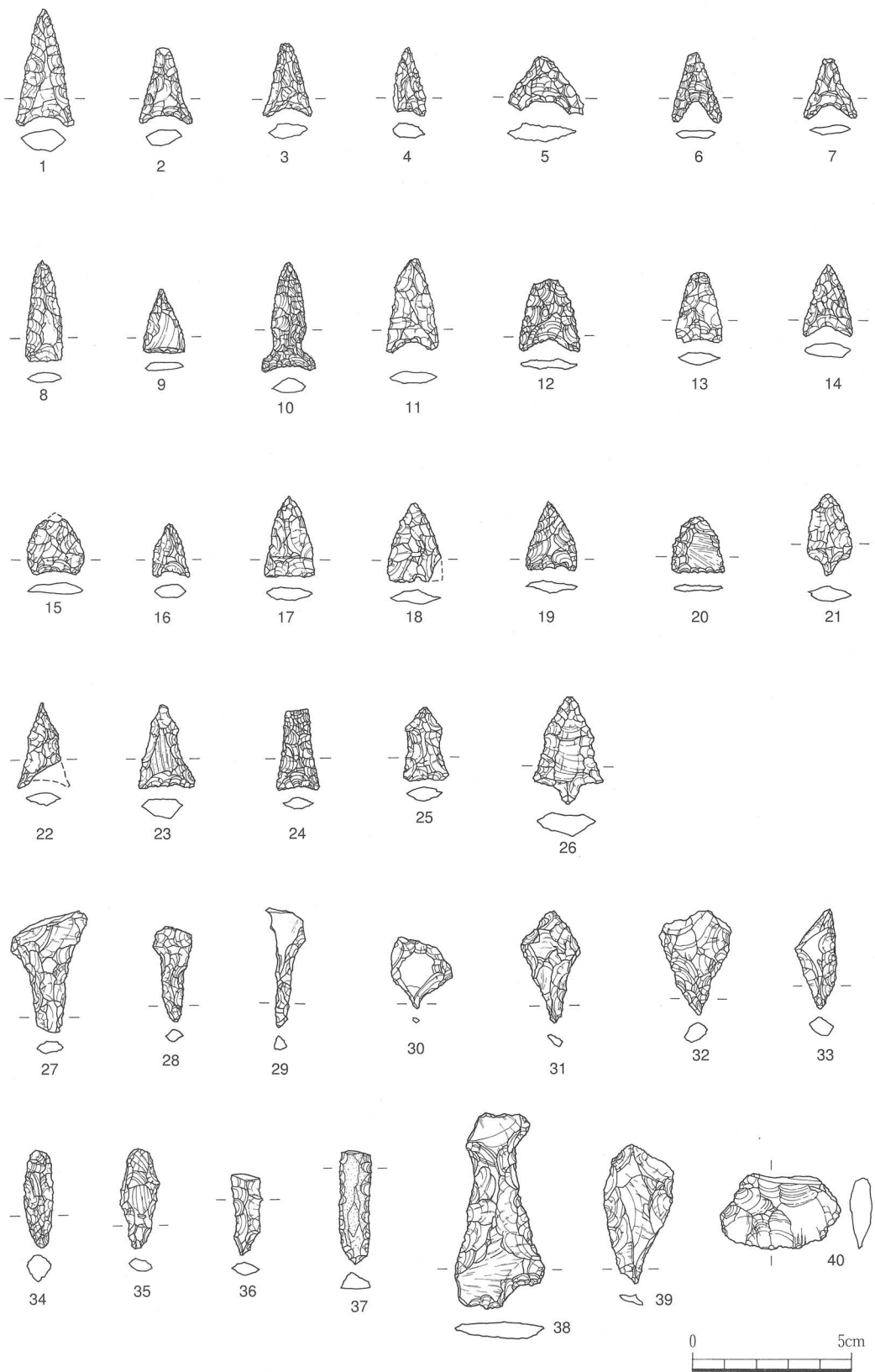
第33図 打製石斧⑤ (1/3)



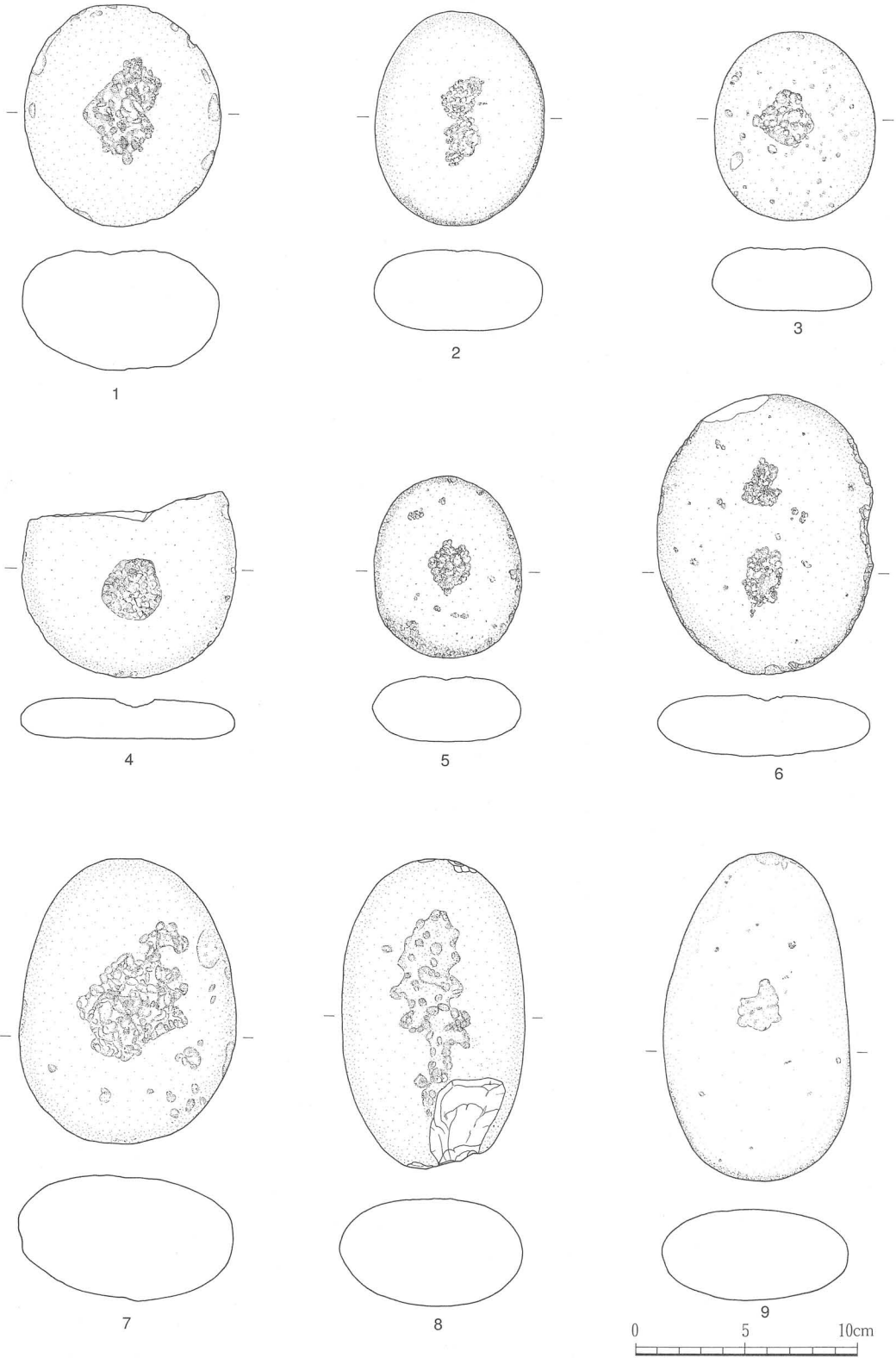
第34図 打製石斧⑥ (1/3)



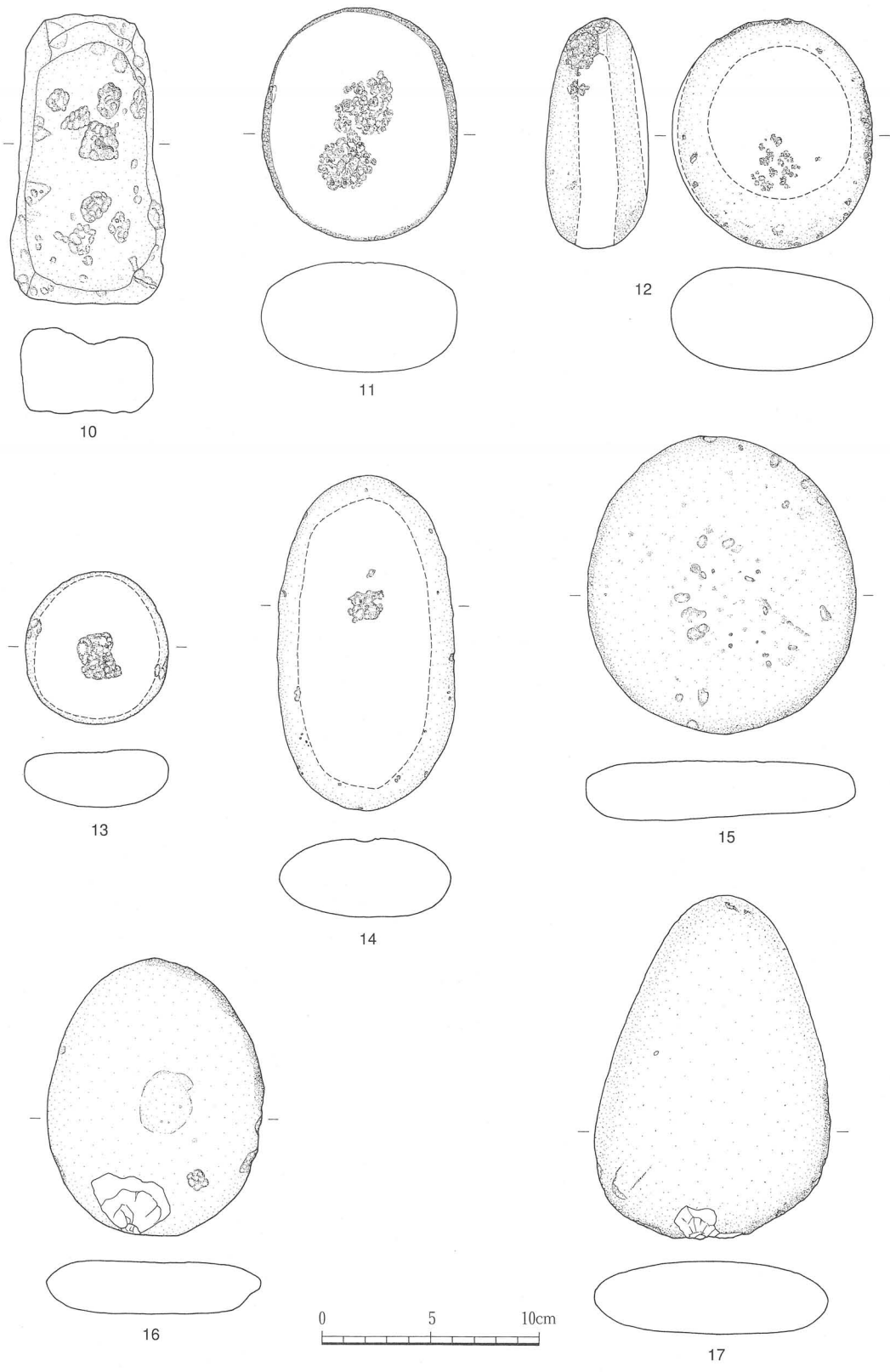
第35図 磨製石斧 (1/3)



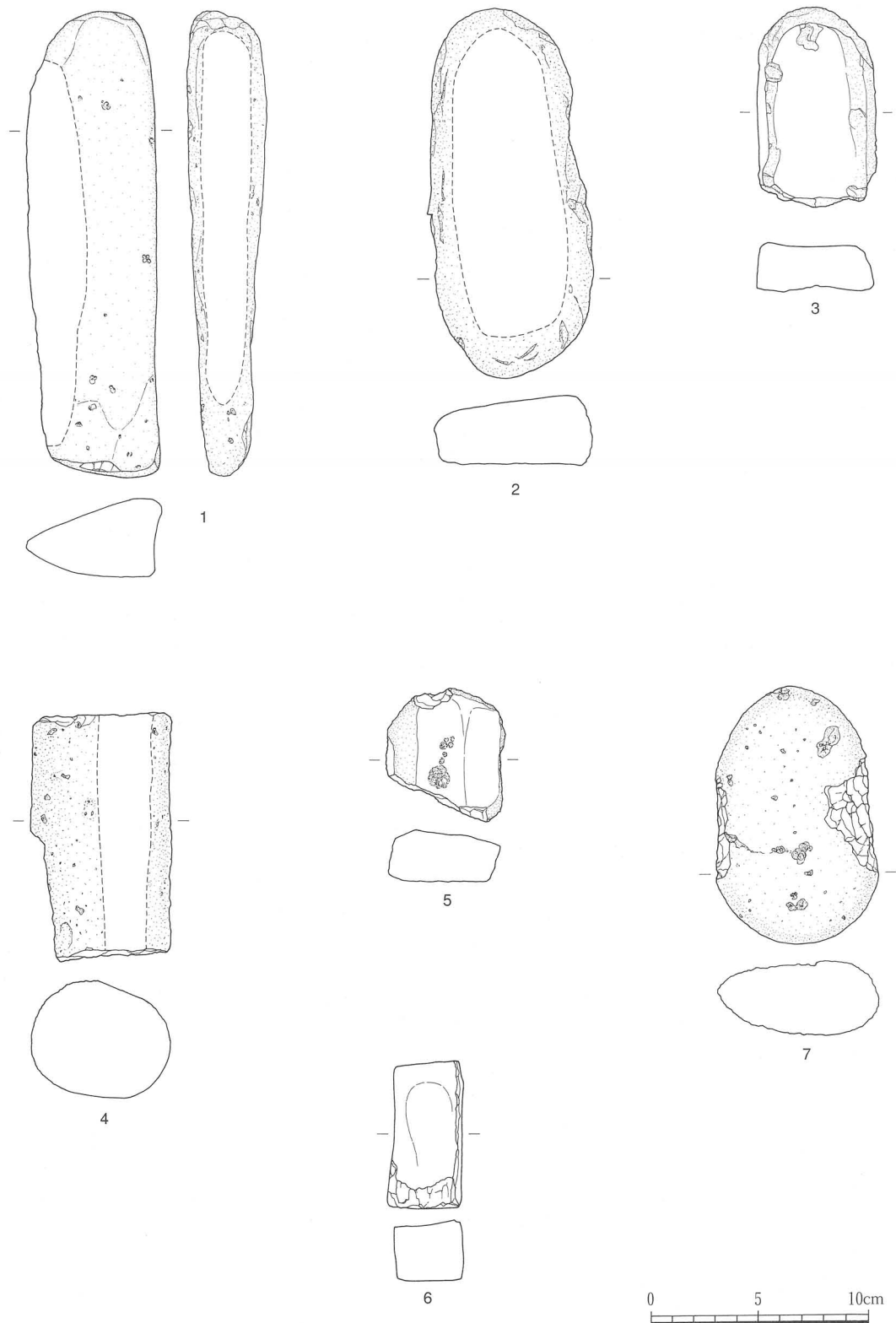
第36図 石鋸・石錐・石匙・刃器 (1/2) 石鋸(1~26)・石錐(27~37)・石匙(38)・刃器(39・40)



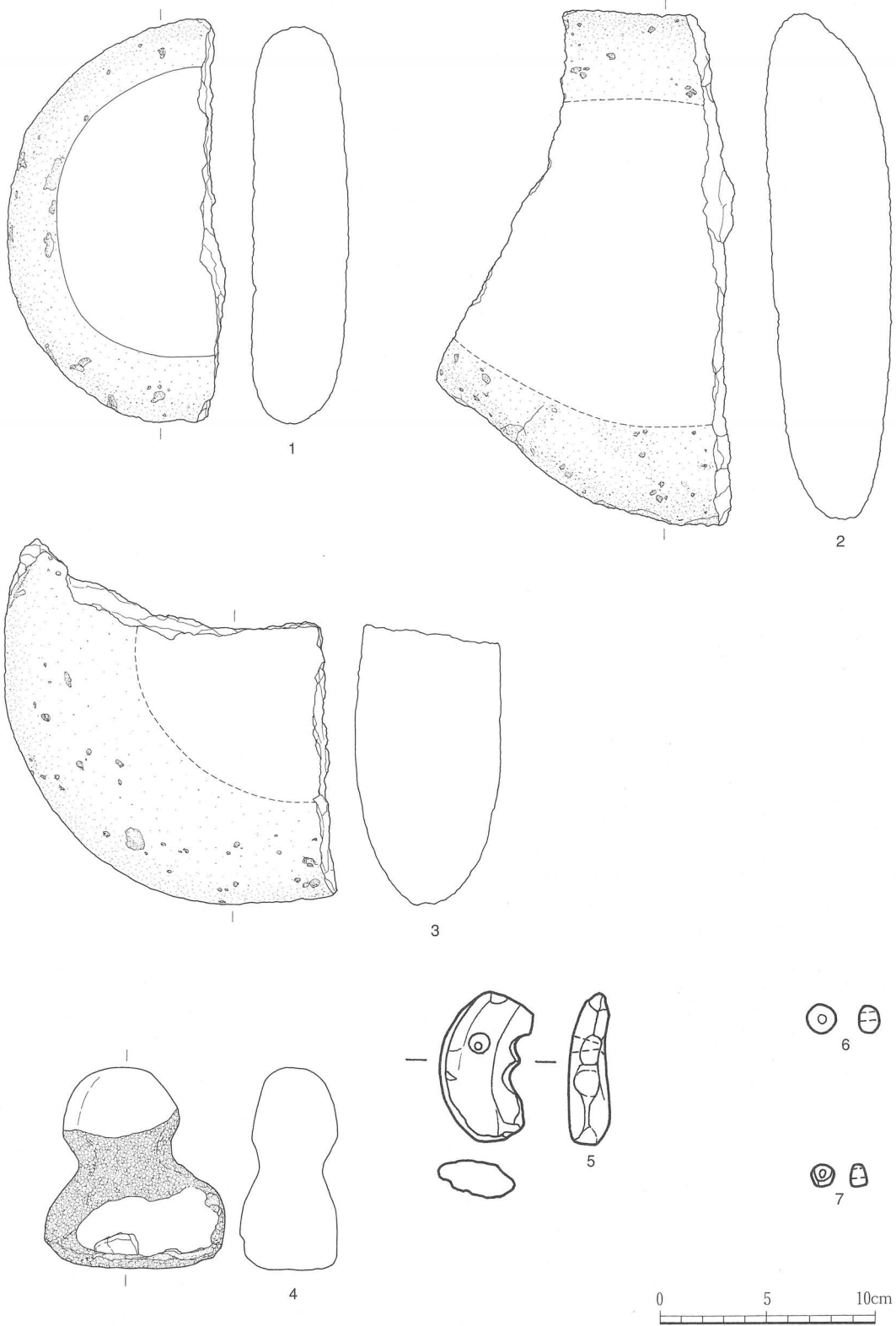
第37図 敲石 (1/3)



第38図 敲石・磨石 (1/3) 敲石(10・11・15~17)・磨石(12~14)



第39図 砥石・石錐 (1/3) 砥石(1~6)・石錐(7)



第40図 石皿・石冠(1/3)石皿(1~3)・石冠(4) 玉類(1/1)(5~7)

河道跡出土土器観察表

()内は推定値

胎土は、大礫(3~4mm)、中礫(2~3mm)、細礫(1~2mm)、微礫(0.5~1mm)、細粒砂(0.2~0.5mm)、微粒砂(0.2mm以下)として観察したものを表示している。

東河道跡(第21・22図)

番号	器種	大きさ(mm)	口頸部	体部	胎土	色調	焼成
1	甕	頸径242 口径298	外 擬凹線9、横ナデ 内 横ナデ、ハケ	外 ハケ 内 丁寧なケズリ	中礫多	茶褐色	不良
2	甕	頸径255 口径303	外 擬凹線8、横ナデ 内 横ナデ、ハケ後ヘラミガキ	外 肩部ハケ 内 肩部ケズリ後ヘラミガキ、指頭圧	大礫多 中粒砂多	橙褐色	良
3	甕	頸径152 口径178	外 擬凹線6、横ナデ 内 横ナデ、横ナデ	痕 外 肩部ケズリ	中礫多 細礫多	淡橙色	良
4	甕	頸径140 口径154	外 擬凹線5、横ナデ 内 横ナデ、ナデ	内 肩部ハケ 外 肩部ケズリかハケ	中礫多 細礫少	橙淡褐色	良
5	甕	頸径135 口径161	外 擬凹線7、横ナデ 内 横ナデ、ナデ	外 不明 内 肩部ケズリ	中礫多 中粒砂多	淡茶褐色	不良
6	甕	頸径107 口径133	外 擬凹線10、横ナデ 内 横ナデ、ハケ	外 肩部ハケだが磨耗 内 肩部ケズリ	粗大礫少 細礫多	茶褐色	不良
7	甕	頸径150 口径172 胴部径177	外 横ナデ、横方向のハケ 内 横ナデ、ハケ	外 横方向のハケ 内 ケズリ	細礫多 中粒砂多	淡茶褐色	良
8	甕	頸径170 口径198	外 横ナデ、横ナデ 内 横ナデ、横ナデ		細礫多 微粒砂多	橙茶褐色	良
9	甕	頸径120 口径140	外 不明 内 横ナデ、ハケ	外 不明 内 肩部ハケ	細礫多 中粒砂少	橙色	良
10	甕	頸径132 口径152	外 横ナデ 内 横ナデ	外 肩部ハケか 内 肩部ケズリか	中礫多 中粒砂少	褐色	不良
11	甕	頸径160 口径178	外 横ナデ、横ナデ 内 横ナデ、横ナデ	内 肩部ナデ	粗大礫少 中粒砂少	灰茶褐色	良
12	壺	頸径120 口径195	外 ヘラ状工具による擬凹線、頸部 上端横ナデ、頸部ヘラミガキ 内 横方向のヘラミガキ	外 肩部に凸帯取り付けのハケの痕 内 肩部ケズリ	細礫多 微粒砂多	褐色	良
13	壺	頸径117 口径204	外 横ナデ、横ナデ 内 ハケ後横ナデ、ハケ後横ナデ	外 肩部ヘラかケズリか	中礫多 微粒砂多	淡茶褐色	良
14	壺	頸径76 口径130	外 横ナデ、横ナデ 内 横ナデ、横ナデ		中礫多 中粒砂多	灰茶褐色	良
15	壺	頸径73 口径83	外 口縁端部に2本の凹線斜方向の 約5.5mmの間隔の刻目、ヘラミガキ とナデ 内 横ナデ、ナデ	外 肩部ナデ 内 肩部ナデ	中粒砂少 精良	褐色	良
16	埴型土器	頸径56			微粒砂微 精良	橙色	良
17	壺	頸径84 口径108	外 ハケ後横ナデ 内 荒いハケ	外 肩部ハケか 内 肩部ケズリ後かナデか	細礫少 微粒砂多 精良	橙乳褐色	良
18	高坏	頸径34 脚部径85	外 ヘラミガキ 内 坏底部ヘラミガキ	外 ヘラミガキ 内 ナデ	粗大礫少 細礫多 微粒砂多	褐色	良
19	底部	底径40		外 ケズリ、外底面ケズリ 内 ケズリ	大礫少 中礫多 中粒砂多	黒茶褐色	不良
20	鉢	頸径120 底径30 体部高65		外 ハケ後ヘラミガキか 内 不明	細礫多 中粒砂多	橙褐色	良
21	底部	底径42		外 ハケ、外底面ハケ 内 ケズリ	大礫少 細礫多 中粒砂多	橙褐色	良

西河道跡Eトレンチ(第23~26図)

番号	器種	大きさ(mm)	口頸部	体部	胎土	色調	焼成
1	把手付甕	口径296 頸径263 胴部径280 底径63 器高260	外 擬凹線7、横ナデ 内 横ナデ、ハケ	外 肩部横ナデ・ハケ、胴下部ハケ後 ナデか、外底部ケズリ、把手の長さ約 10.6cm、媒附着 内 ケズリ	大礫多 中礫多 細礫多 中粒砂少	橙褐色	良

番号	器種	大きさ(mm)	口頭部	体部	胎土	色調	焼成
2	甕	口径178 頸径146 胴部径200	外 擬凹線7、横ナデ 内 横ナデで指頭圧痕、横ナデ	外 荒いハケ、媒付着 内 横方向のケズリ	中礫多 細礫多 中粒砂少 細粒砂少	淡茶褐色	良
3	甕	口径187 頸径151 胴部径198	外 擬凹線7、横ナデ 内 横ナデ、ハケ	外 ハケ、媒付着 内 ケズリ	細礫多 中粒砂少	橙褐色	良
4	甕	口径194 頸径160 胴部径223	外 擬凹線8、横ナデ 内 横ナデで、指頭圧痕、ハケ	外 ハケだが磨耗 内 ケズリ	中礫多 細礫多 中粒砂少	橙褐色	良
5	甕	口径172 頸径142 胴部径192 底径20 器高238	外 擬凹線8、横ナデ 内 横ナデで、指頭圧痕、ナデ	外 ハケ、底部付近ハケ後ナデ、外底 部ケズリ、媒付着 内 ケズリ	中礫多 細礫多 中粒砂多	橙褐色	良
6	甕	口径193 頸径162	外 擬凹線11、横ナデ 内 不明	外 肩部ハケ、媒付着 内 肩部ケズリ	細礫多 中粒砂多	明褐色	良
7	甕	口径182 頸径139	外 擬凹線11、横ナデ 内 横ナデ、ハケ	外 肩部ハケ、媒付着 内 肩部ケズリ	細礫多 中粒砂多	明褐色	並
8	甕	口径178 頸径154 胴部径194	外 擬凹線8、横ナデ 内 横ナデで密に浅い指頭圧痕	外 肩部横ナデ、ハケだが磨耗 内 ケズリ	中礫多 細礫多 中粒砂多	褐色	良
9	甕	口径162 頸径128	外 擬凹線7、横ナデ 内 横ナデで指頭圧痕、ナデ		細礫多 中粒砂多	褐色	良
10	甕	口径155 頸径130 胴部径149 器高151	外 擬凹線5、横ナデ 内 横ナデ、ナデ	外 ハケだが磨耗、媒付着 内 丁寧なケズリか	大礫多 中礫多 細礫多 中粒砂多	茶褐色	良
11	甕	口径165 頸径134	外 浅い擬凹線6、横ナデ 内 横ナデ、横ナデ	外 肩部ハケ、媒付着 内 肩部ケズリ後ナデか	細礫多 中粒砂多	褐色	良
12	甕	口径324 胴部径323 底径64 器高376	外 横ナデ、横ナデ 内 ナデか	外 ハケか 内 ケズリか	大礫微 細礫多 細粒砂多	橙褐色	並
13	甕	口径132 頸径122	外 横ナデ、横ナデ 内 横ナデ、横ナデ	外 ハケ 内 ケズリ	細礫多 中粒砂少	淡褐色	良
14	甕	口径143 頸径119	外 横ナデ、横ナデ 内 横ナデ後ナデ	外 不明 内 ケズリ後ナデと軽いヘラミガキ	中礫少 細礫少 中粒砂多	灰褐色	良
15	甕	口径152 頸径135	外 横ナデ、横ナデ、口縁下方つま み出し薄い 内 横ナデ、ヘラ状工具によるケズ リか	内 肩部ケズリ	中礫少 細礫少 中粒砂少	灰褐色	良
16	甕	口径162 頸径138	外 横ナデ、横ナデ 内 横ナデ、ナデ	内 肩部ケズリ	細礫少 微粒砂少	茶褐色	良
17	壺	胴部径304 底径55	外 ハケ、頸基部に断面三角形の突 帯で約2cm間隔の刻目 内 ケズリ	外 ハケ 内 ケズリ	中礫少 細礫多 中粒砂多	明淡橙色	良
18	壺	口径116 頸径99 胴部径230	外 ヘラ状工具による手描き擬凹 線、丁寧なヘラミガキ 内 ヘラミガキ、ヘズリ後丁寧なナ デ	外 丁寧なヘラミガキ 内 ケズリ後、丁寧なナデ	中礫多 細礫多 微粒砂少 精良	淡茶褐色	並
19	壺	口径135 頸径109	外 横ナデ、横ナデ 内 横ナデ、横ナデ	外 肩部ハケ 内 肩部板状工具によるケズリナデ	細礫少 中粒砂少	褐色	良
20	壺	口径143 頸径107	外 横ナデ、横ナデ 内 横ナデ、横ナデ	外 肩部ハケ 内 不明	細礫少 細粒砂多	橙褐色	並
21	甕	口径120 頸径100 胴部径114	外 かすかに擬凹線3、横ナデ 内 横ナデ、横ナデ	外 ハケだが磨耗、媒付着 内 ケズリ	細礫多 中粒砂多 細粒砂多	茶褐色	並

番号	器種	大きさ(mm)	口頭部	体部	胎土	色調	焼成
22	甕	口径120 頸径114	外 横ナデで不規則な斜方向の擬凹線、ナデ 内 横ナデ	内 肩部ケズリ	細礫多 中粒砂少	褐色	良
23	埴型土器	口径113 頸径84	外 横ナデ、横ナデ 内 横ナデ、横ナデで一部ケズリ	外 不明 内 ケズリ	細礫少 中粒砂多	褐色	良
24	高坏	杯部径236 脚部径124	外 ヘラミガキだが磨耗 内 ヘラミガキ	外 ヘラミガキだが磨耗、円形透穴4 内 ハケ後ヘラミガキだが磨耗	細礫多 中粒砂多	橙褐色	良
25	高坏	杯部径214	外 ヘラミガキだが杯部ハクリ著し 内 ヘラミガキ		大礫少 中礫少 中粒砂多	橙淡茶褐色	良
26	高坏	口径242	外 ヘラミガキ、わずかに赤彩痕 内 ヘラミガキ		大礫少 中礫少 微粒砂多	橙乳褐色	良
27	高坏	口径218	外 ヘラミガキ 内 ヘラミガキ		中礫少 細礫少 微粒砂多	橙褐色	良
28	高坏脚部	脚高70 脚径128	外 坏底部ヘラミガキだがハクリ著し	外 ヘラミガキ、円形透穴3 内 ナデと横ナデ	中礫少 細礫多 微粒砂多	橙褐色	良
29	器台	底径120		外 細いハケ後ミガキか 内 細いハケ後ミガキか	細礫多 中粒砂少 微粒砂少	橙褐色	良
30	装飾器台	口径180	外 口縁下端部に刻み、細いヘラ先のミガキ、透穴は2個1対で5組か、赤彩 内 ヘラミガキ		細礫微 微粒砂多	淡茶褐色	良
31	台付小型甕	胴部径127 台部径58		外 ハケだが磨耗、台部つけ根は指頭 のしめつけ台部端部及底面はナデ 内 底部付近はケズリ	細礫多 中粒砂多	灰褐色	並
32	台部	台部径78		外 ヘラミガキ 内 横ナデ	大礫少 中礫少 細礫多 細粒砂少	橙褐色	良
33	砲弾型土器	口径83 胴部径90 器高83		外 不明 内 不明	大礫少 中礫少 細礫多 中粒砂多 微粒砂多	橙褐色	並
34	底部	底径22		外 ハケ、外底面ハケ、媒付着 内 ケズリ	中礫多 細礫多	淡茶褐色	良
35	底部	底径20		外 ハケ、媒付着 内 ケズリ	中礫少 細礫多 中粒砂多	茶褐色	良
36	底部	底径58		外 ナデ、外底面ケズリ後ナデか 内 ナデ	粗大礫少 中礫多 細礫多 微粒砂少	灰褐色	良

西河道跡日トレンチ (第27～28図)

番号	器種	大きさ(mm)	口頭部	体部	胎土	色調	焼成
1	甕	口径192 胴部径226 底部径19 器高267	外 擬凹線8、横ナデ 内 横ナデで指頭圧痕	外 ハケ、ハケ 内 ケズリ	細礫少 微礫多 細粒砂多	淡茶褐色	良
2	甕	口径170	外 擬凹線5、横ナデ 内 横ナデで指頭圧痕、横ナデ	外 肩部ハケ 内 肩部ケズリ	中礫微 微礫多 微粒砂多	淡褐色	良
3	甕	口径 (184)	外 擬凹線7、ナデ 内 横ナデで指頭圧痕、横ナデ	外 肩部ハケ 内 肩部ケズリ	細礫少 微礫少 微粒砂多	乳褐色	良
4	甕	口径 (165)	外 擬凹線7、ナデ 内 横ナデで指頭圧痕、ハケ	外 肩部ハケだが不明瞭 内 肩部ケズリ	細礫少 微礫多 細粒砂多	橙乳褐色	並

番号	器種	大きさ(mm)	口頸部	体部	胎土	色調	焼成
5	甕	口径148	外 擬凹線8、横ナデ 内 横ナデ、横ナデ	外 肩部ハケだが不明瞭 内 肩部ケズリ	微礫多 微粒砂多	茶褐色	良
6	甕	口径176 胴部径215	外 擬凹線ゆるく数本、横ナデ 内 横ナデ頸部下部ハケ	外 ハケ、媒付着 内 ケズリ	中礫微 細礫多 微粒砂多	淡茶褐色	良
7	甕	口径184 胴部径202	外 擬凹線10、ナデ 内 ナデで指頭圧痕、ハケ	外 ハケ、媒付着 内 ケズリ	細礫多 微粒砂多	橙乳褐色	良
8	甕	口径198	外 擬凹線9、ナデ 内 ナデ、口縁部下部に3本の薄い ハケ状線、ナデ	外 肩部ハケ 内 肩部ケズリ	細礫微 微礫多 微粒砂多	淡茶褐色	良
9	甕	口径(176) 頸径150	外 擬凹線9、横ナデ 内 横ナデ、横ナデ	外 肩部ハケ 内 肩部ケズリ	細礫微 微礫多 微粒砂多	橙乳褐色	良
10	甕	口径192	外 擬凹線6、ナデ 内 ナデ、ナデ	外 肩部ハケ、媒付着 内 肩部ケズリ	細礫多 微礫多 微粒砂多	橙淡褐色	良
11	甕	口径168	外 擬凹線9、ナデ、媒付着 内 ナデで指頭圧痕、ケズリ		細礫少 細粒砂多	橙褐色	良
12	甕	口径208 胴部径236	外 擬凹線9~10、ナデ 内 ナデで指頭圧痕、ナデ	外 ハケ 内 ケズリ	細礫多 微礫多 微粒砂多	橙乳褐色	良
13	甕	口径208	外 右回りの擬凹線8、横ナデ 内 横ナデ、横ナデ	外 肩部横ナデ、媒付着 内 肩部ケズリ	微礫多 細粒砂多	橙褐色	並
14	甕(小型)	口径150 胴部径148 器高138	外 擬凹線7、ナデ 内 ナデ、ナデ	外 ハケ、体底部ハケ、媒付着 内 ケズリ	中礫多 微礫多 微粒砂多	橙褐色	良
15	甕	口径172	外 横ナデ、横ナデ、媒付着 内 横ナデ、ケズリ		微礫多 細粒砂多	橙褐色	並
16	甕	口径146	外 不明 内 ナデか	外 不明 内 肩部ケズリか	細礫多 微礫多 細粒砂多	橙淡褐色	並
17	甕	口径(180)	外 ナデ 内 ナデ	外 肩部ナデ 内 肩部ナデ	微礫多 微粒砂多	乳褐色	良
18	甕	口径170	外 口唇面取り、ナデ 内 ナデ	外 肩部弱い条痕、媒付着 内 肩部ケズリ	中礫多 細礫多 細粒砂多	淡茶褐色	良
19	壺	胴部径137 底径12		外 肩部ハケか、ハケ、ハケ 内 肩部ハケで接合痕、ナデ	微礫多 細粒砂多	橙淡茶褐色	良
20	高坏	口径188	外 不明、黒斑 内 不明		中礫多 微礫多 微粒砂多	橙淡茶褐色	良
21	蓋	底径172		外 ミガキか 内 ミガキか	細礫微 微礫多 細粒砂多	橙乳褐色	並
22	甕	底径26 胴部径225		外 ハケ、胴部上部は不明瞭、ハケ、 媒付着 内 ケズリ	細礫少 微礫多 微粒砂多	褐色	良
23	底部	底径38		外 底端部付近で指ナデ 内 ケズリ 外 ハケだが不明瞭	細礫多 微礫多 細粒砂多	淡黄褐色	並
24	底部	底径18		内 ケズリ	微礫多 細粒砂多	淡褐色	良
25	底部	底径22		外 ハケか 内 不明	微礫多 細粒砂多	淡褐色	良
26	底部	底径36			中礫多 細礫多 細粒砂多	橙淡褐色	良

石器・石製品一覧表 ()は欠損部の数値

打製石斧 (第29・34図)

番号	長さcm	巾cm	厚さcm	重量g	加撃値g/cm	石質	出土位置
1	14.7	6.4	3.5	367	57.3	火山礫凝灰岩	-7.8X58.1Y
2	18.3	8.3	3.4	595	71.7	火山礫凝灰岩	80調査
3	17.8	7.2	4.4	664	92.2	火山礫凝灰岩	24.9X8.3Y
4	21.8	12	3.9	873	72.8	火山礫凝灰岩	3号住
5	19.4	10.8	3.2	739	68.4	火山礫凝灰岩	39.7X8.9Y
6	18.9	9.2	3.7	671	72.9	火山礫凝灰岩	3号住
7	18.6	11.0	3.9	721	72.1	火山礫凝灰岩	54.4X-17.1Y
8	18.1	10.9	4.3	836	76.7	火山礫凝灰岩	6号住
9	15.8	11.2	5.7	908	81.1	火山礫凝灰岩	3号住
10	16.3	8.0	3.8	580	72.5	変朽安山岩	50.1X-20.4Y
11	16.4	7.8	3.7	543	69.6	輝緑岩	3号住柱穴
12	15.9	8.4	3.2	438	52.1	緑色凝灰岩	81調査
13	13.9	8.0	2.4	303	37.9	火山礫凝灰岩	63.8X-19.2Y
14	12.9	6.6	2.6	268	40.6	火山礫凝灰岩	60.2X-15.5Y
15	21.7	10.6	3.4	793	74.8	火山礫凝灰岩	55X-22.4Y
16	17.9	(11.0)	3.0	526	(47.8)	火山礫凝灰岩	65.1X-12.5Y
17	16.6	9.5	2.8	455	47.9	火山礫凝灰岩	10号住
18	16.2	10.8	2.6	530	49.1	火山礫凝灰岩	47.9X0.2Y
19	16.2	10	20.9	540	54.0	凝灰岩	53X31Y
20	15.7	9	3.0	525	58.3	花崗岩	11号住
21	13.7	8.2	3.7	469	57.2	変朽安山岩	9号住
22	15.1	9.8	3.0	439	44.8	火山礫凝灰岩	3号住
23	11.6	6.7	2.5	244	36.4	変朽安山岩	28.8X-20.5Y
24	14.2	9.4	3.0	347	36.9	石英安山岩	22.7X4.4Y
25	14.0	10.5	2.8	325	30.9	変朽安山岩	35.2X4.2Y
26	16.1	(10.3)	2.9	448	(37.3)	火山礫凝灰岩	77.9X0Y
27	14.1	10.9	3.8	421	38.6	火山礫凝灰岩	P33
28	13.3	9.9	3.8	471	47.6	火山礫凝灰岩	27.5X3.8Y
29	12.3	9.1	2.7	340	37.4	石英安山岩	11号住
30	9.4	9.6	2.2	192	20.0	輝石安山岩	55X-13Y付近
31	13.8	7.9	3.0	375	47.5	火山礫凝灰岩	西河-Eトレンチ

打製石斧 (第29・34図)

番号	長さcm	巾cm	厚さcm	重量g	加撃値g/cm	石質	出土位置
1	11.1	5.7	3.5	273	47.9	角閃石安山岩	9号住土層
2	14.0	5.9	3.5	390	66.1	角閃石安山岩	67.1X-11.1Y
3	9.8	5.6	3.1	227	40.5	凝灰岩	74.2X43Y東河
4	8.7	6.2	2.7	222	35.8	凝灰岩	88.9X0.5Y
5	6.8	(6.2)	3.4	195	-	凝灰岩	8号住床面
6	9.7	(4.4)	(2.5)	139	-	安朽安山岩	西河-Eトレンチ
7	(7.3)	(5.3)	2.3	133	-	角閃石安山岩	3号住壁溝
8	3.8	2.0	0.8	10.3	5.2	珪質岩	82調査区

石鏃 (第36図)

番号	長さcm	巾cm	厚さcm	重量g	加撃値g/cm	石質	出土位置
1	3.7	1.9	0.7	3.1	34.5	フリント	33X-5Y付近
2	(3.0)	1.6	0.5	1.4	(28.0)	フリント	81調査区
3	2.3	1.6	0.5	1.3	31	輝石安山岩	82調査区
4	2.2	1.0	0.4	1.0	37	フリント	-2.9X73.7Y
5	(1.8)	(2.4)	0.5	1.6	72	輝石安山岩	37X8.5Y溝
6	(2.5)	1.6	0.3	0.7	(37.5)	フリント	42X12Y
7	1.9	1.7	0.2	0.7	36	輝石安山岩	10X4.2Y
8	3.2	1.2	0.3	1.4	20	輝石安山岩	12号住床面
9	2.0	1.3	0.3	0.6	44	輝石安山岩	1号住 上層
10	3.4	1.7	0.5	1.8	46	黒曜石	12号住
11	2.9	1.6	0.4	1.5	47	輝石安山岩	82調査区
12	(2.6)	1.9	0.3	1.7	(66)	フリント	14号住
13	(2.5)	1.5	0.4	1.1	(51)	輝石安山岩	33X-5Y付近
14	2.2	1.6	0.4	1.2	59	輝石安山岩	72X37.1Y
15	(2.0)	1.8	0.4	1.1	87	輝石安山岩	10号住 上層
16	1.7	1.2	0.4	0.5	58	輝石安山岩	56X7Y
17	2.6	1.6	0.4	1.5	67	輝石安山岩	56X7Y

番号	長さcm	巾cm	厚さcm	重量g	加撃値g/cm	石質	出土位置
19	2.2	1.6	0.4	1.2	58	変質珪質岩	P34土坑
20	1.8	1.6	0.2	0.9	88	輝石安山岩	82調査区
21	2.6	1.9	0.5	1.4	73	輝石安山岩	82調査区
22	2.7	(1.4)	0.4	0.7	47	輝石安山岩	11号住
23	2.6	1.8	0.6	2.7	51	輝石安山岩	-14X493Y
24	2.5	1.4	0.4	1.2	—	プリント	67X-16Y付近
25	2.4	1.5	0.4	1.1	78	輝石安山岩	55X14Y
26	3.4	2.2	0.7	3.8	57.5	チャート	3号住

石錐・石匙・刃器 (第36図27~40)

番号	長さcm	巾cm	厚さcm	重量g	加撃値g/cm	石質	出土位置
27	石錐	3.8	2.4	0.4	5.2	輝石安山岩	3号住
28	石錐	3.0	1.2	0.4	1.6	輝石安山岩	56X.14Y
29	石錐	3.8	1.2	0.4	1.2	輝石安山岩	3号住
30	石錐	2.3	1.9	0.2	1.6	輝石安山岩	7号住
31	石錐	3.5	1.9	0.3	4.6	輝石安山岩	7号住
32	石錐	3.3	2.3	0.5	3.8	変質珪質岩	11号住下層
33	石錐	3.1	1.3	0.5	3.0	輝石安山岩	14号住
34	石錐	3.0	0.9	0.8	2.2	輝石安山岩	62X-13Y付近
35	石錐	3.2	1.2	0.4	2.7	輝石安山岩	29X8Y
36	石錐	2.6	0.9	0.4	1.0	輝石安山岩	33X-5Y付近
37	石錐	3.5	1.0	0.5	1.9	輝石安山岩	81調査区
38	石匙	6.2	2.8	0.5	10.3	輝石安山岩	43X19Y
39	刃器	4.4	2.2	0.3	7.6	輝石安山岩	2号住
40	不定形刃器	2.4	3.8	0.7	3.7	変質珪質岩	10号住

敲石・磨石 (第37~38図)

番号	長さcm	巾cm	厚さcm	重量g	加撃値g/cm	石質	出土位置
1	敲石	10.3	9	5.5	633	凝灰岩	65X38.2Y
2	敲石	9.9	7.7	3.7	417	砂岩(中生代)	3号住
3	敲石	8.7	7.2	2.9	276	砂岩(中生代)	61.2X-9.6Y
4	敲石	7.7	9.8	1.8	246	細粒砂岩(中生代)	30.2X2.9・Y
5	敲石	8.4	6.7	3.0	244	砂岩(中生代)	10号住
6	敲石	12.9	8.6	2.8	485	砂岩(中生代)	61.3X37.8Y
7	敲石	13.2	9.9	5.7	961	粗粒砂岩(中生代)	47X-17Y
8	敲石	14.3	8.3	4.9	866	砂岩(中生代)	2号住
9	敲石	15.1	8.4	4.2	761	緑色凝灰岩	42.9X13.7Y
10	敲石	13.6	7.1	3.9	620	新期安山岩	61.9X38.3Y
11	敲石	10.9	9	5.1	735	粗粒砂岩(中生代)	8号住
12	磨石	10.8	9.2	4.8	676	粗粒砂岩(中生代)	46.5X-18Y
13	磨石	7.1	6.7	2.6	160	緑色凝灰岩	50X-21Y
14	磨石	15.6	8.1	3.4	683	火山礫凝灰岩	84.4×1.8Y
15	敲石	13.9	12.4	2.7	732	砂岩(中生代)	2号住
16	敲石	13	10	2.5	503	粗粒砂岩(中生代)	3号住
17	敲石	16	10.9	3.4	864	細粒砂岩(中生代)	81調査区

砥石・石錘 (第39図)

番号	長さcm	巾cm	厚さcm	重量g	加撃値g/cm	石質	出土位置
1	砥石	21.9	6.2	3.7	710	石英安山岩	83調査区
2	砥石	17.6	7.2	2.9	702	変朽安山岩	47X20.2Y
3	砥石	9.4	5.4	2.4	162	火山礫凝灰岩	45X-20Y
4	砥石	11.3	6.6	5.6	746	石英斑山岩	西河Eトレンチ
5	砥石	6.2	5.3	2.4	99	砂岩	10号住
6	砥石	6.9	3.4	2.9	99	白色凝灰岩	82調査区
7	石錘	12.2	7.4	3.5	467	安山岩	10号住

石皿・石冠 (第40図)

番号	長さcm	巾cm	厚さcm	重量g	加撃値g/cm	石質	出土位置
1	石皿	19.0	9.9	4.1	1200	石英安山岩	P01土坑
2	石皿	23.9	13.4	5.1	2390	玲岩	1号溝
3	石皿	14.9	13.1	6.9	2260	石英安山岩	83調査区
4	石冠	9.4	8.4	4.6	400	細粒砂岩(中性代)	56.5X29.2Y
5	勾玉	2.4	1.2	0.7	2.6	含ヒスイ珪質岩	5号溝
6	丸玉	径0.45	穿孔径0.1	0.32	—	含ヒスイ珪質岩	60X5Y用水溝
7	ガラス玉	径0.35	孔径0.15	0.25	—	ガラス(濃紺色)	-3.8X36Y

第4章 第16次調査

第1節 調査の概要と層序

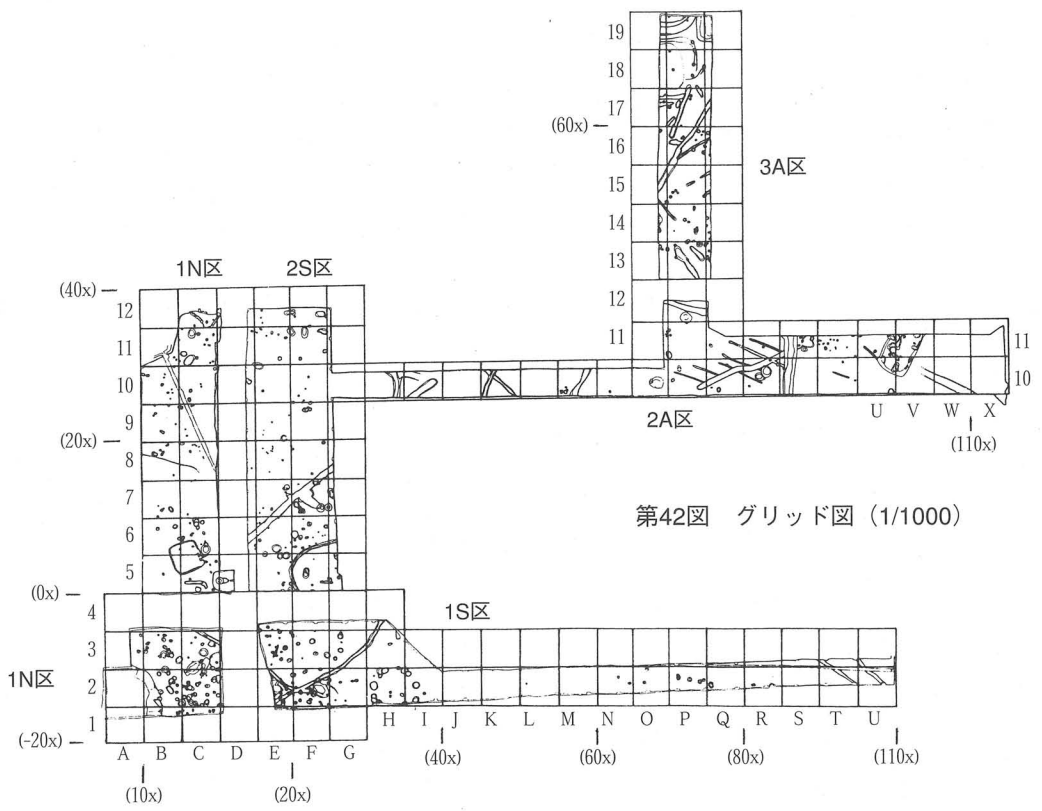
都市計画道路と区画街路及び水路築造部分の調査から、調査区は約100m四方に分布することになった。このため調査は、発掘区を位置と形状から便宜上6区に分けて実施している。国道8号線から東の方向へ水田区画の順序で、1区、2区、3区とし、これにN(北)、S(南)の性格を与えた。A区は近接する県営あすなろ団地の頭文字を付けただけのもので他意はない。グリッドの任意原点は2N区西北端の隅に設け、東西方向をX、南北方向をYとし、平面的位置はX、Y座標を用いて記録する調査を行なった。しかし、平面的位置の記述に關しての煩雜を避けるため本報告では、調査で用いたX Y座標を基準とした5m四方のグリッドへ便宜的に名称をつけたものである(第42図)。なお、グリッドの方位は磁北に対して北3度西となる。

縄文時代の遺構は1N区、1S区の北部、2N区西側・2S区において分布し、住居3棟、石囲炉1基、竪穴状遺構2基、落ち込み状遺構1基、埋甕3基、土坑30基以上を検出した。国道西側に中心をもつ集落の東端部の状況を示すものである。弥生時代後期の遺構では、竪穴住居1棟、竪穴状遺構2基、土坑7基、溝4条を調査区全般で検出したが、遺構の密度は低いものである。古墳時代後期では竪穴住居2棟、掘立柱建物6棟、溝2条を検出した。調査区全般に分布する状況が見られるもので、アスナロ団地地区での遺構群と関連するものである。

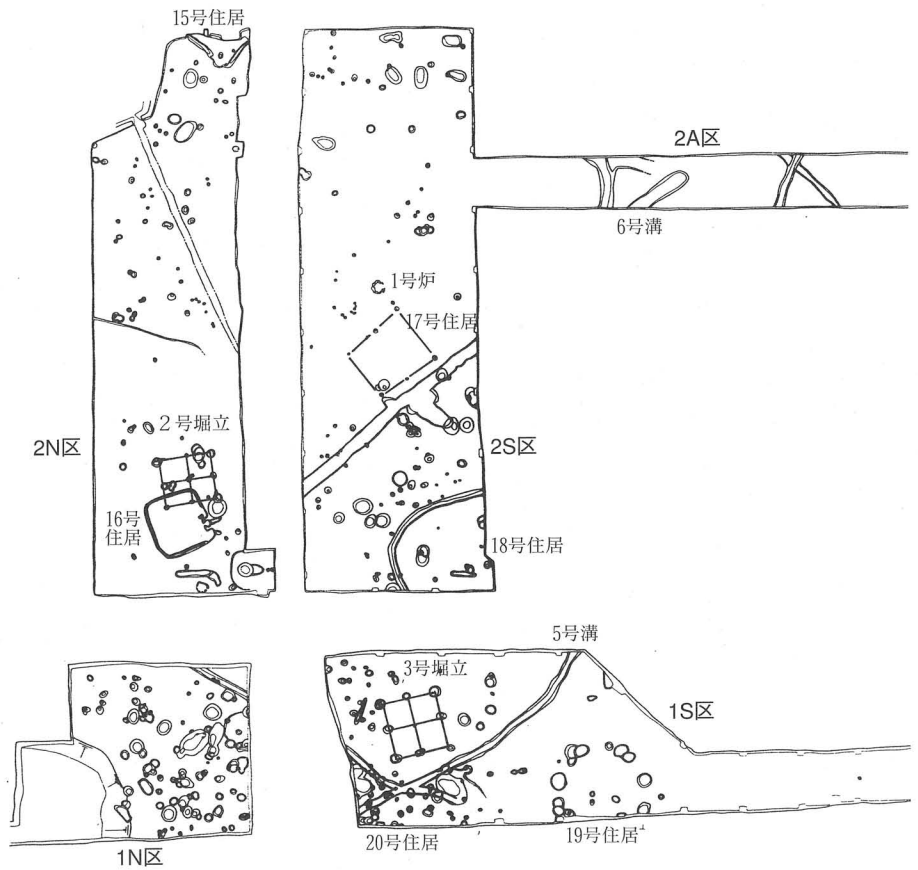
層序は地山が西へ緩く落ち込む1S区を除くと、他の調査区は平坦で比較的単純な様相である。代表的な調査区の1N区の基本層序は、上位から①水田耕作土、②水田床土、③茶褐色粘質土、④暗褐色粘質土、⑤濁灰色粘質土となる。2N・2S区は、西端から東10mの付近までには⑤層が見られるが、南の2A・3A区では③・⑤層は拡がっていない状況であった。なお③層の茶褐色粘質土は遺物を含まないものである。

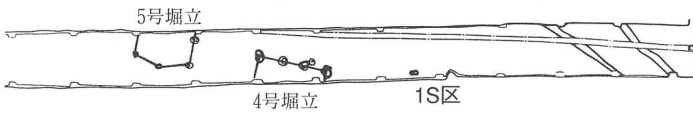
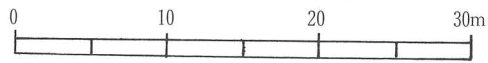
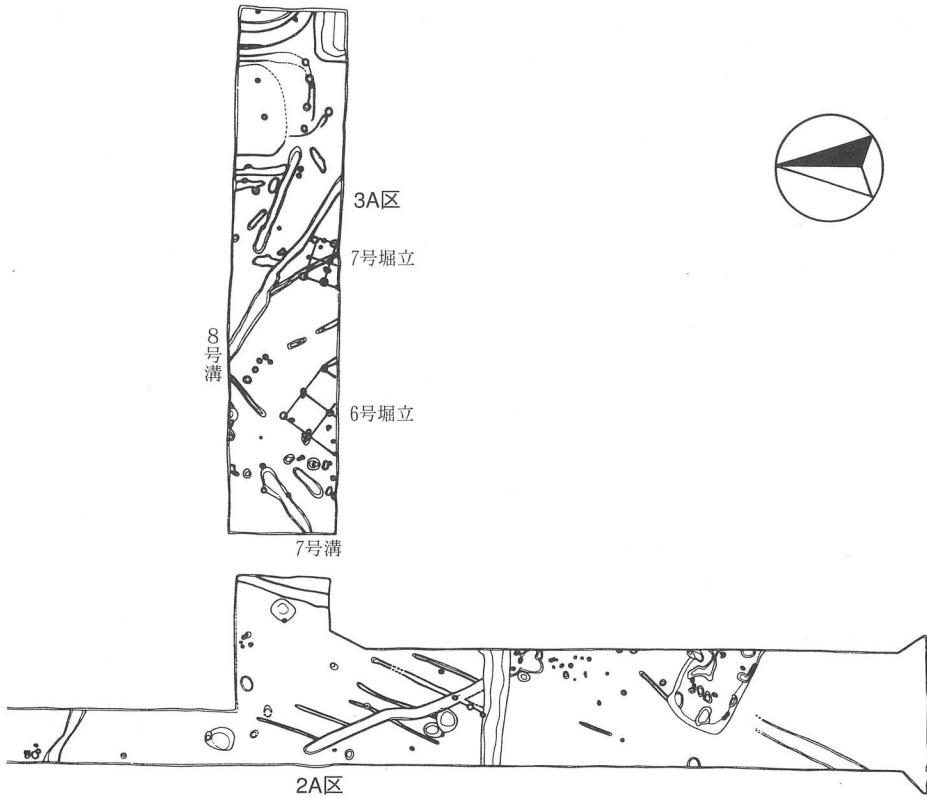
1S区の土層観察から、土層図第58図8層暗褐色粘質土は前述の④層に、12層の濁灰色粘質土が同⑤層に対応する。この間に9層黒褐色粘質土、10層黒灰色粘質土、11層明黒灰色粘質土が見られる。1S区の地山傾斜部分では縄文時代後期に属する確実な遺構の存在が認められてないことから、この時期まで凹地であった可能性が高く、遺物包含層の状態から晩期にはこの地点が埋まりつつあったものと推定している。そして、この凹地は第3章で報告した西河道跡との関連を考えるものである。また、耕土下には褐色砂層と土層図7層の砂礫層が見られ、幾たびか冠水にみまわれた状況が窺われ、第6層より須恵器細片が出土したことは、古墳時代後期以降も緩やかに凹地が存在していたものと考えられよう。

遺物の一覧表などで表記する包含層出土層位について触れておきたい。1S区を除いた調査区での表記層位と先述の基本土層との対応関係は、2層→④暗褐色粘質土、3層→⑤濁灰色粘質土となるもので、1層は無遺物層である①～③層を包括したもので分離していない。1S区では西へ緩く落ち込むことや掘進時の際には、黒色土系の遺物包含層である第58図9～11層の分層判断に困難を伴い正確性を欠くこととなった。問題は残るが、1S区での表記層位と第58図土層の関係は、2層→8層、3層→9層、4層→10・11層、5層→12層に対応するものと考えて頂きたい。表記層位の数字に加えて上または下の記述は、同一層においての上部と下部を表したものである。

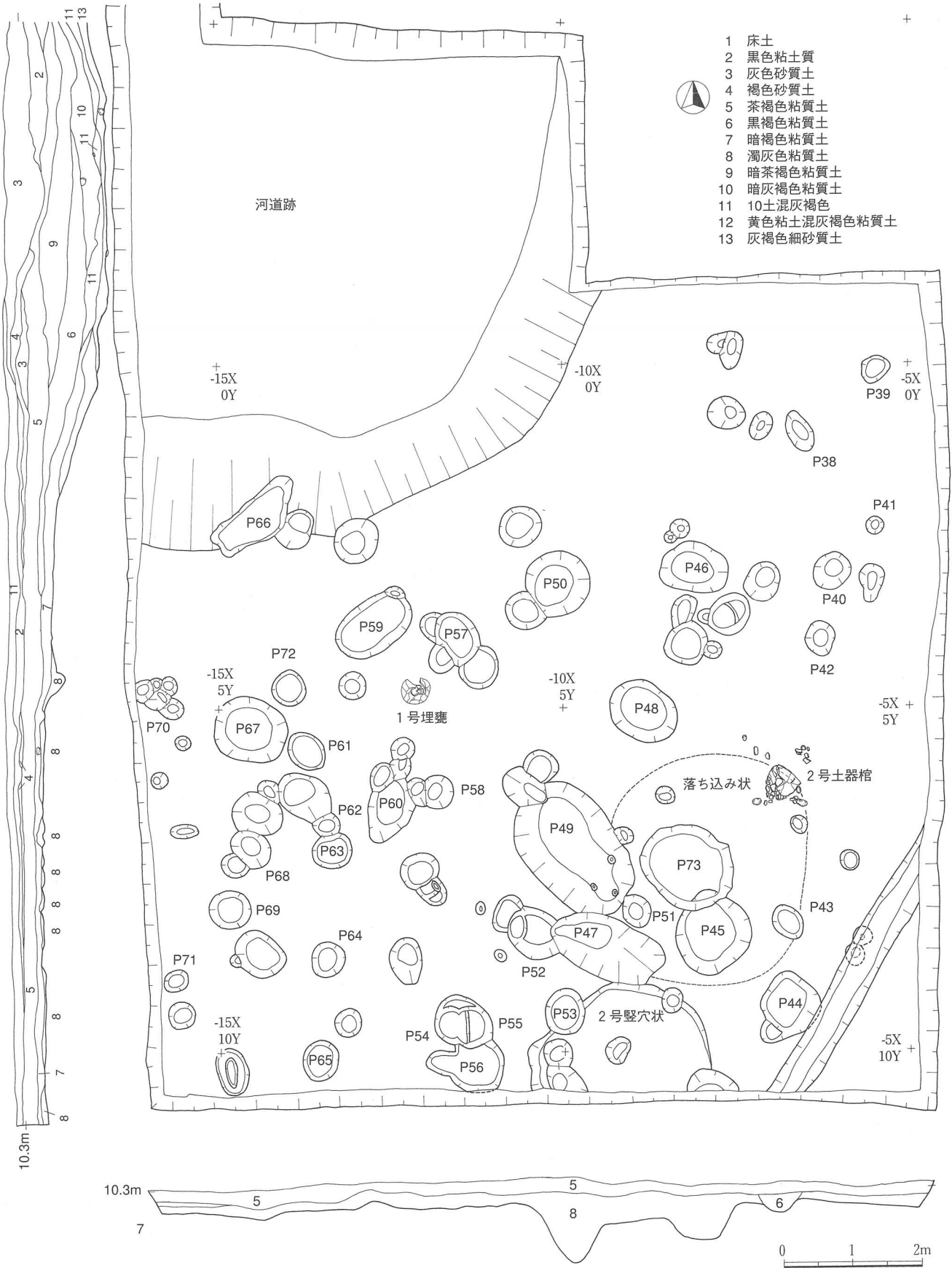


第42図 グリッド図 (1/1000)



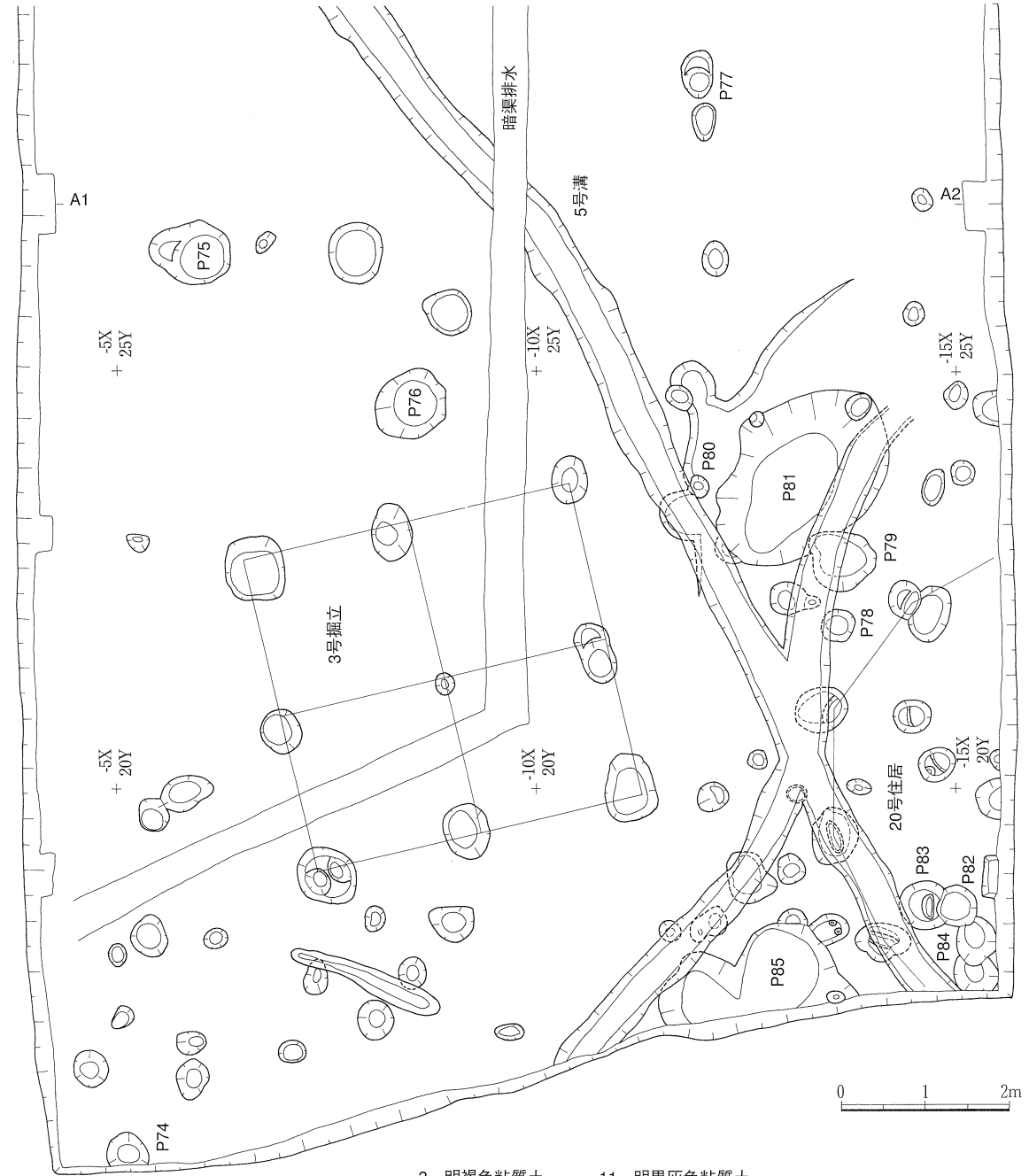


第41图 遺構全体图 (1/500)



- 1 床土
- 2 黒色粘土質
- 3 灰色砂質土
- 4 褐色砂質土
- 5 茶褐色粘質土
- 6 黒褐色粘質土
- 7 暗褐色粘質土
- 8 濁灰色粘質土
- 9 暗茶褐色粘質土
- 10 暗灰褐色粘質土
- 11 10土混灰褐色
- 12 黄色粘土混灰褐色粘質土
- 13 灰褐色細砂質土

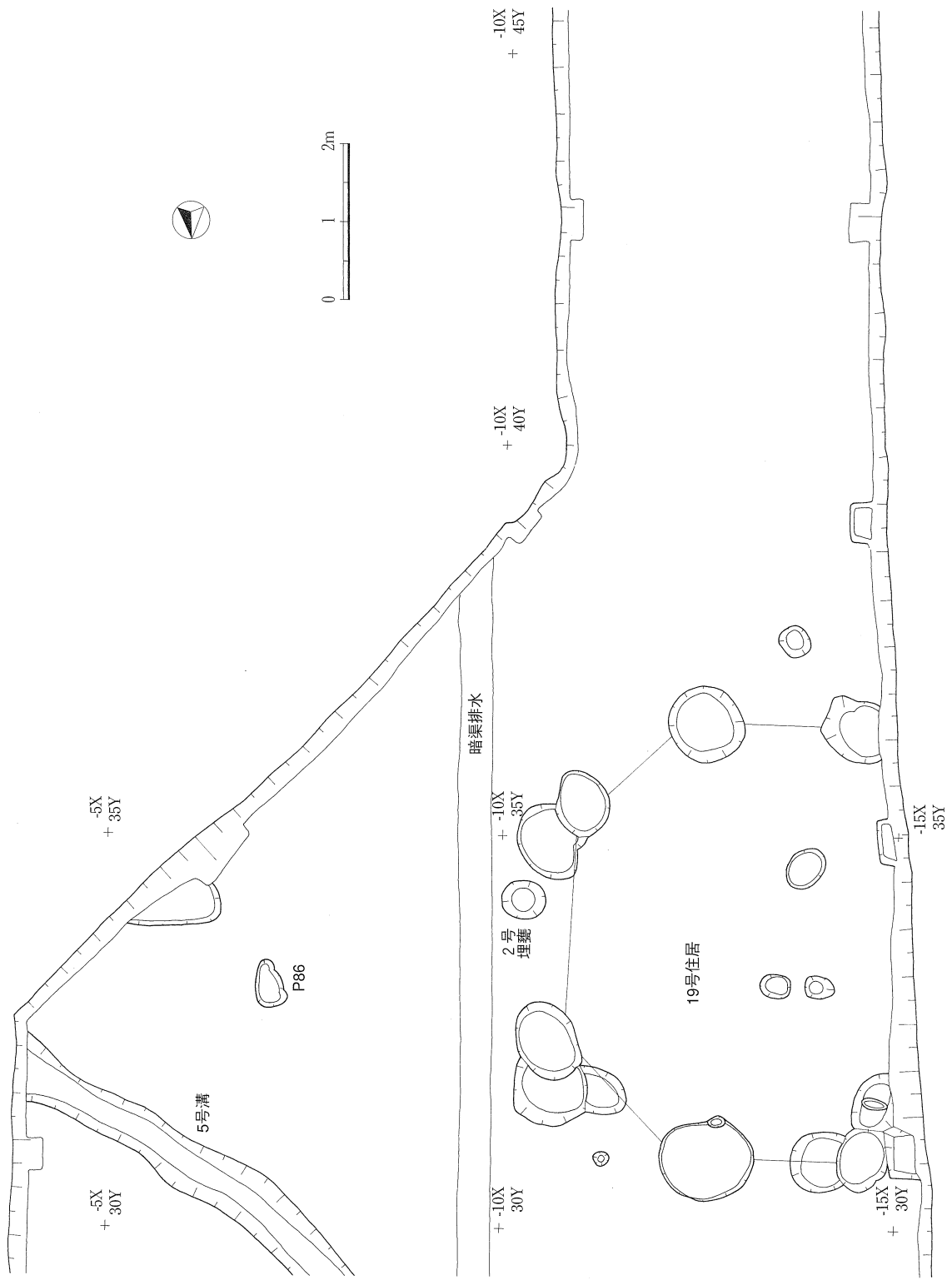
第43図 1N区 (1/80)

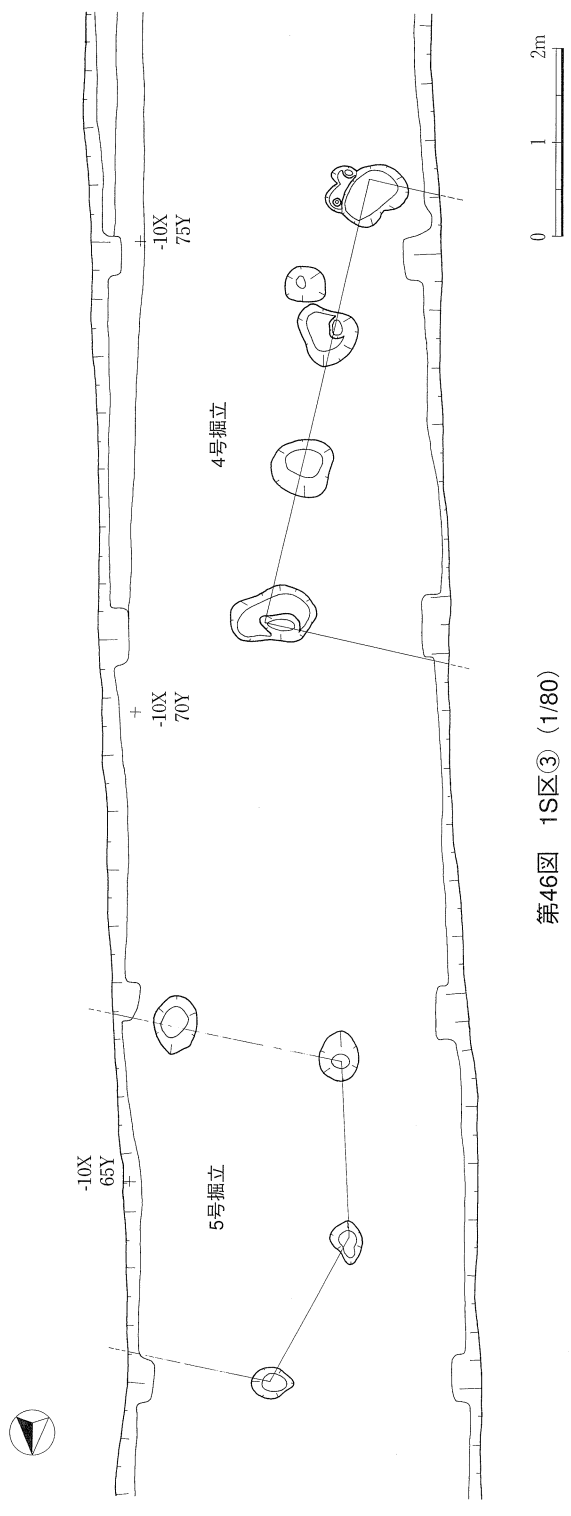
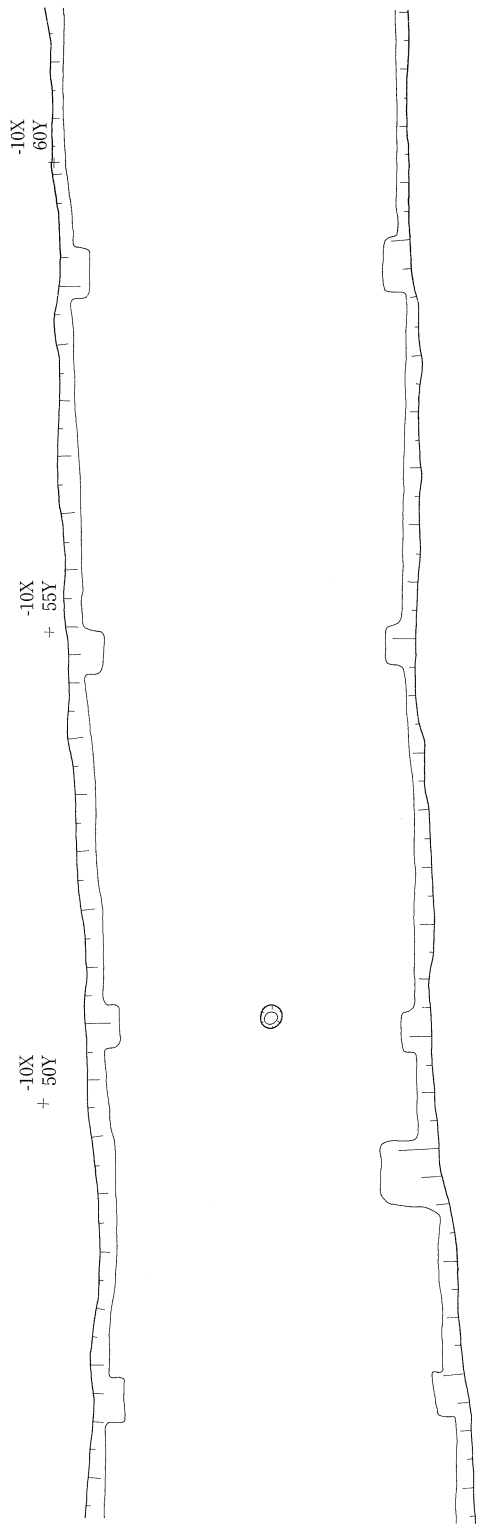


第44图 1S区① (1/80)

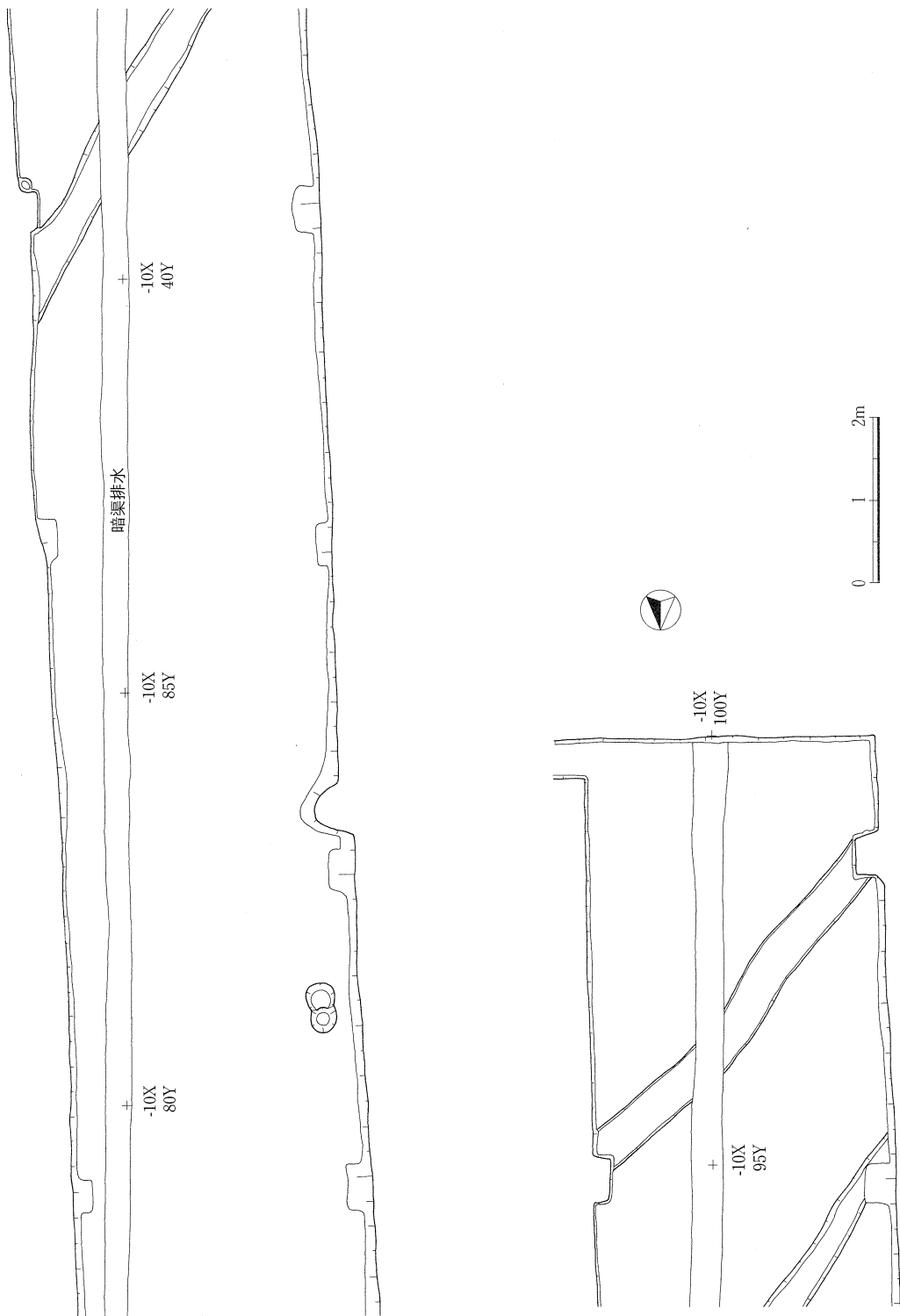
- | | |
|-----------|------------|
| 3 明褐色粘質土 | 11 明黒灰色粘質土 |
| 5 明褐色粘質土 | 12 濁灰色粘質土 |
| 6 褐色粘質土 | 15 黒褐色粘質土 |
| 8 明黒褐色粘質土 | 16 黒褐色粘質土 |
| 10 黒灰色粘質土 | |



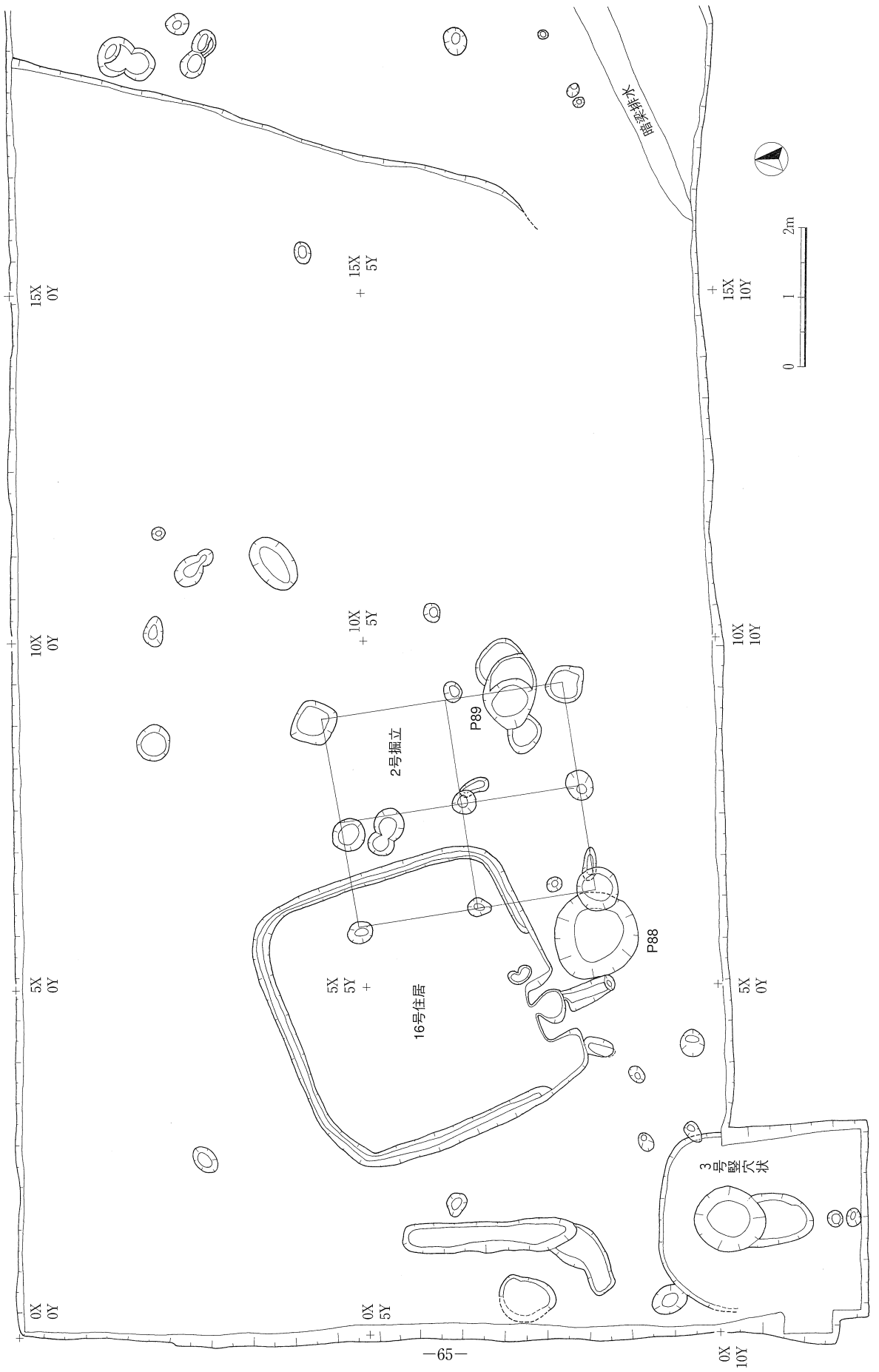




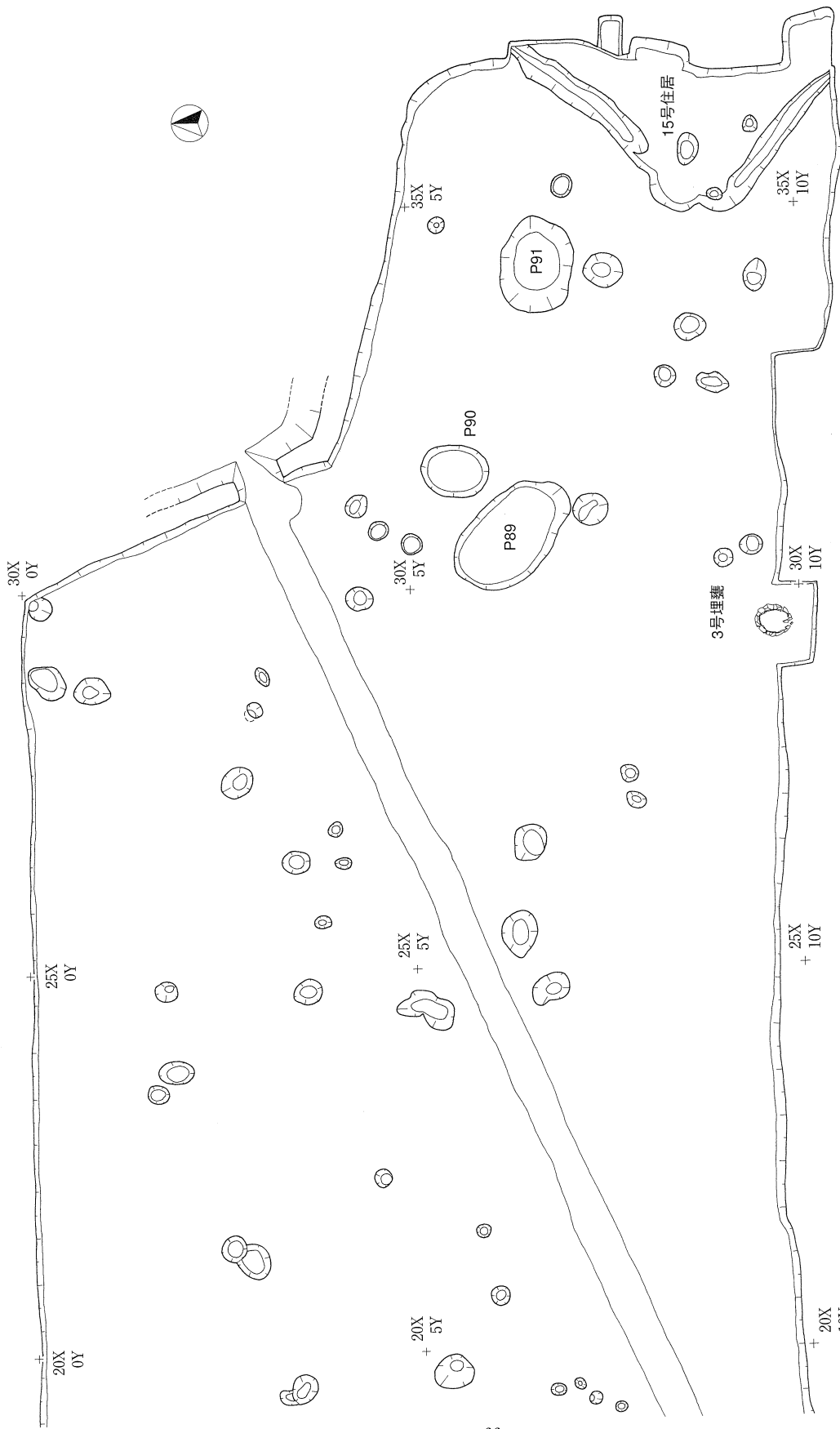
第46图 1S区③ (1/80)



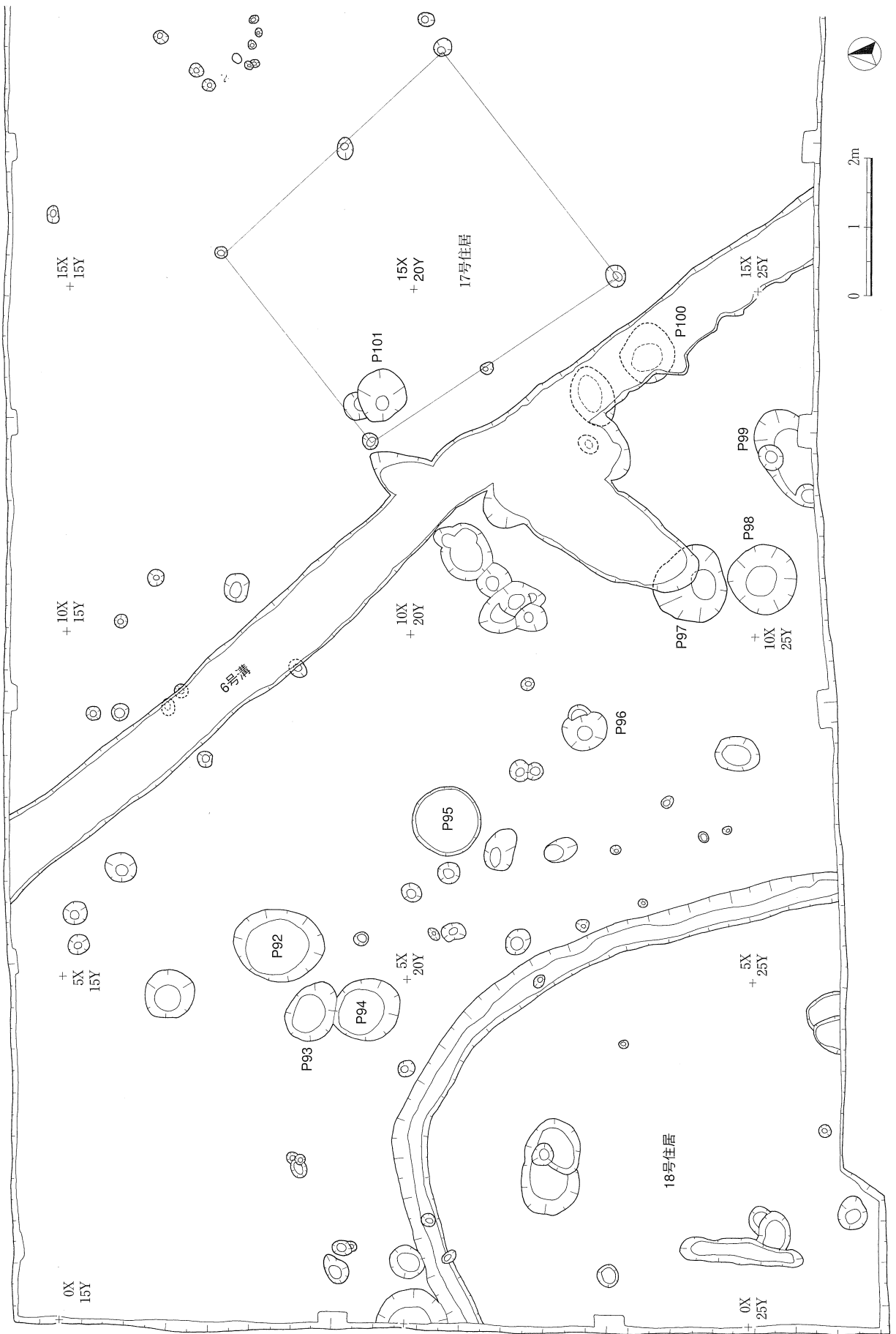
第47图 1S区④ (1/80)



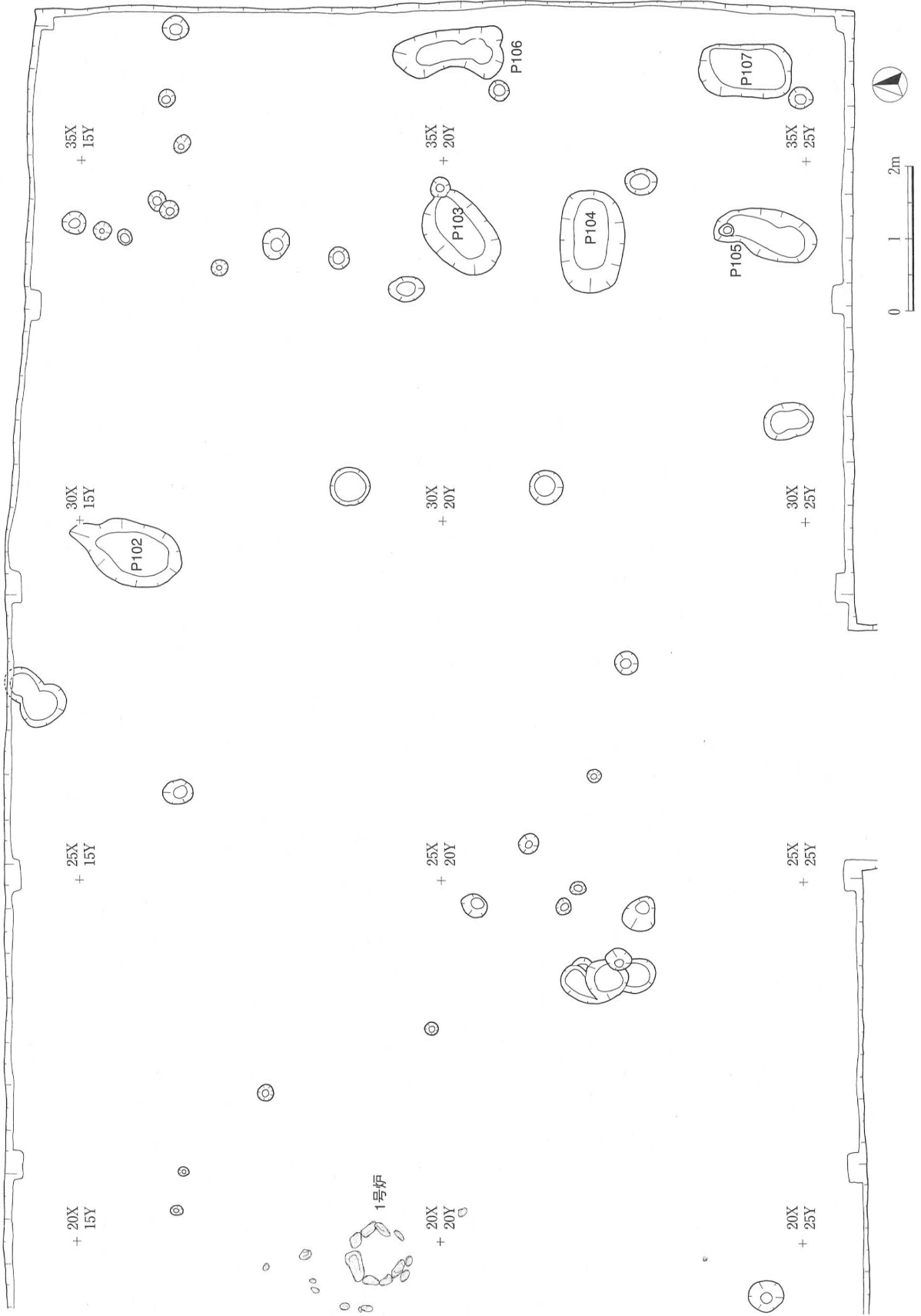
第48図 2N区① (1/80)



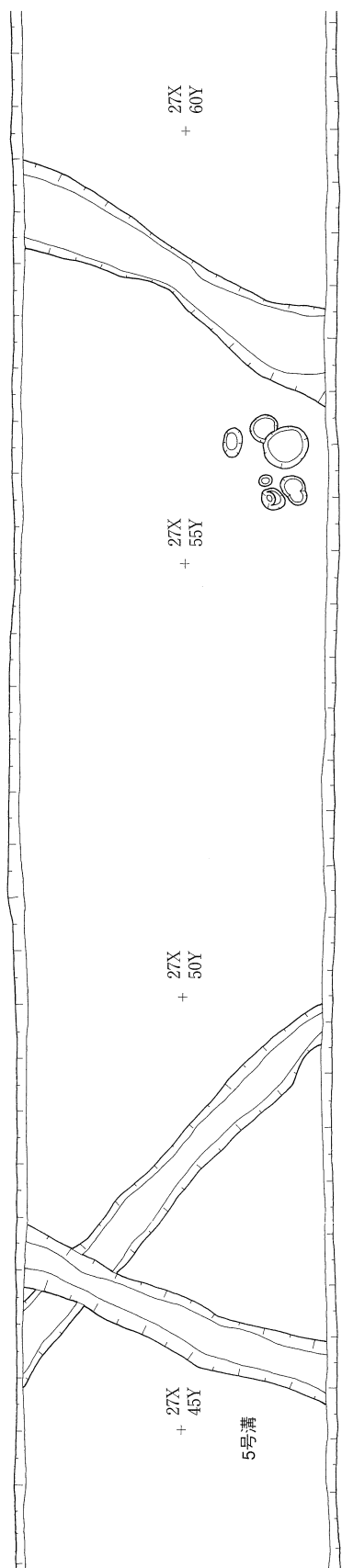
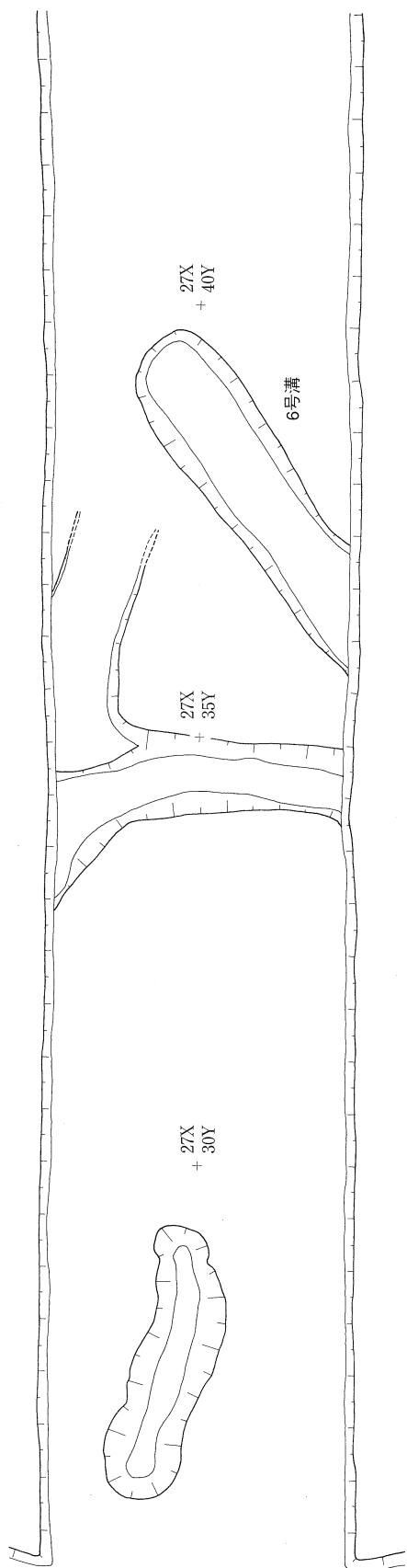
第49图 2 N区② (1/80)



第50图 2 S区① (1/80)



第51图 2S区② (1/80)



11.0m

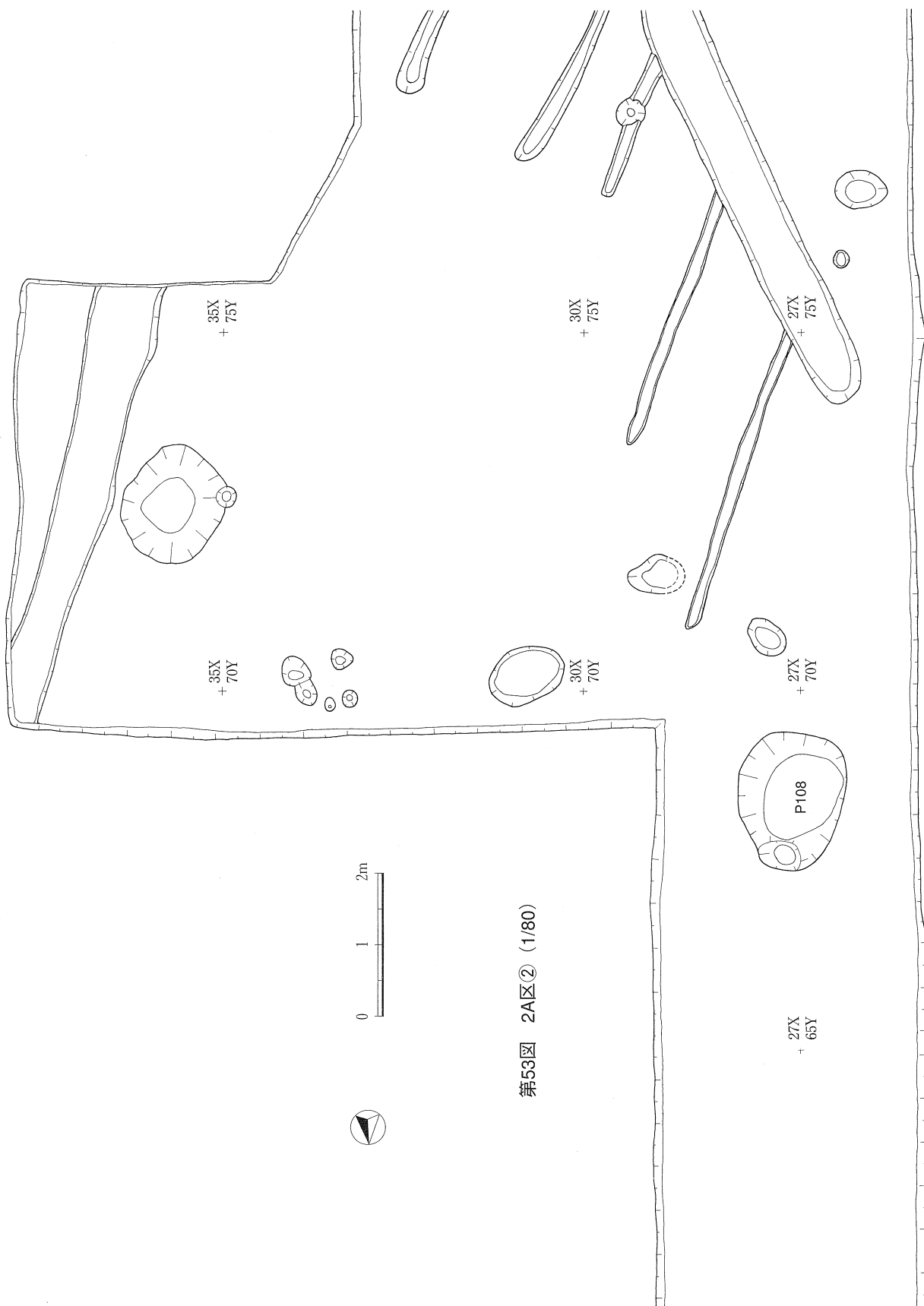


11.0m

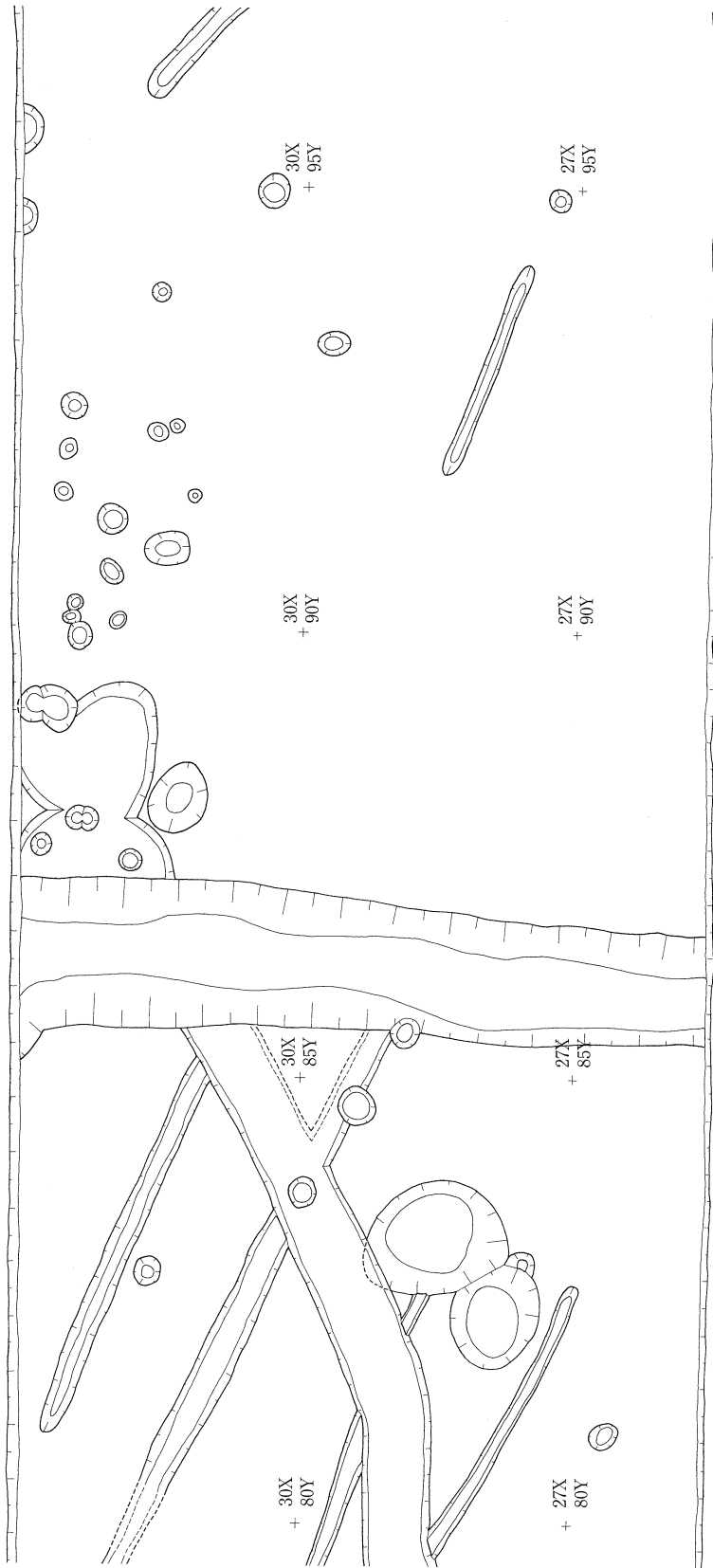


- 1 耕作土
- 2 暗褐色粘質土
- 3 地山漸移層

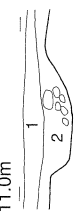




第53图 2A区② (1/80)



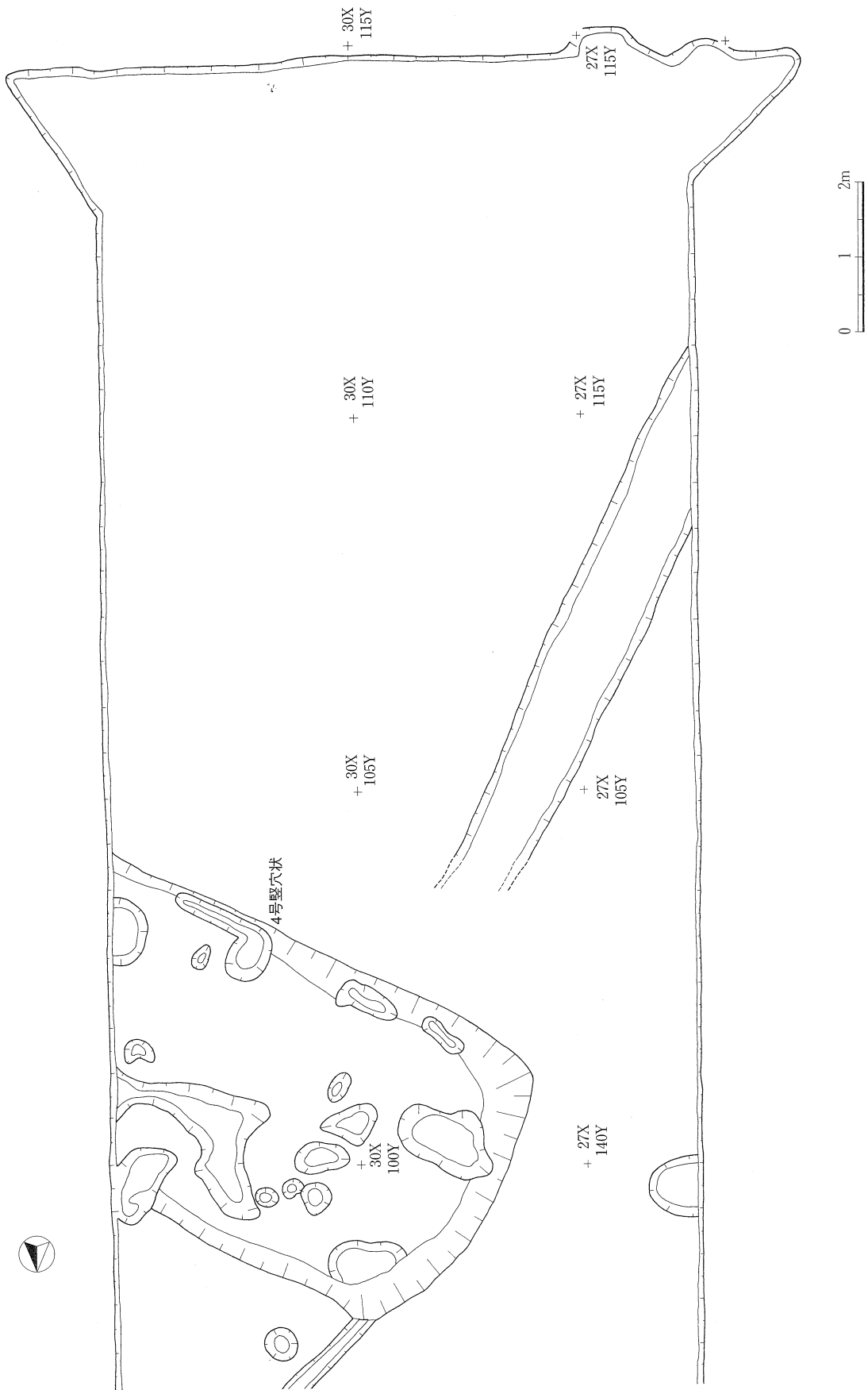
11.0m



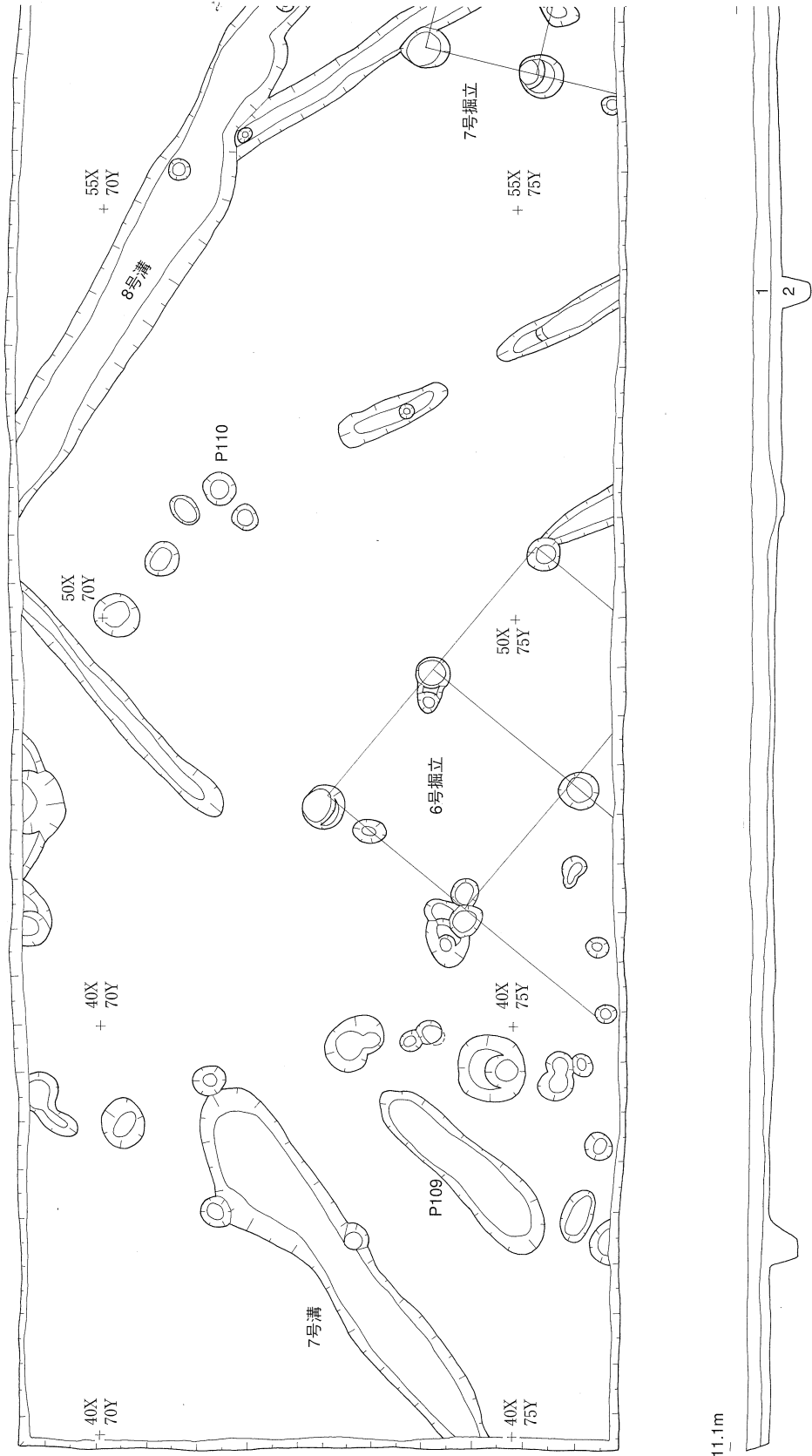
- 1 耕作土
- 2 暗褐色粘質土
- 3 地山漸移層



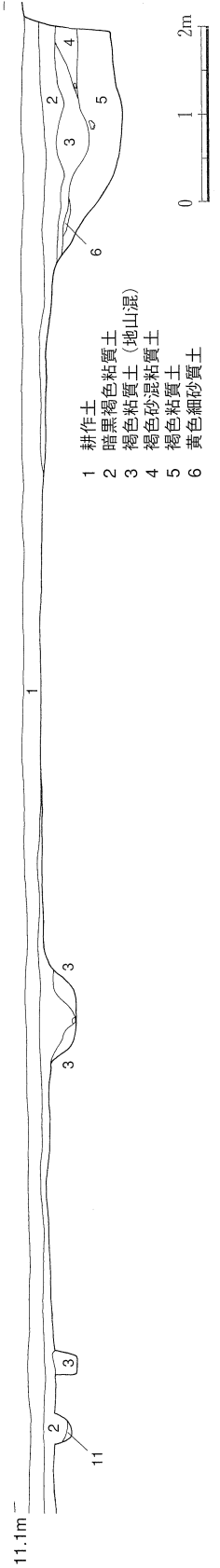
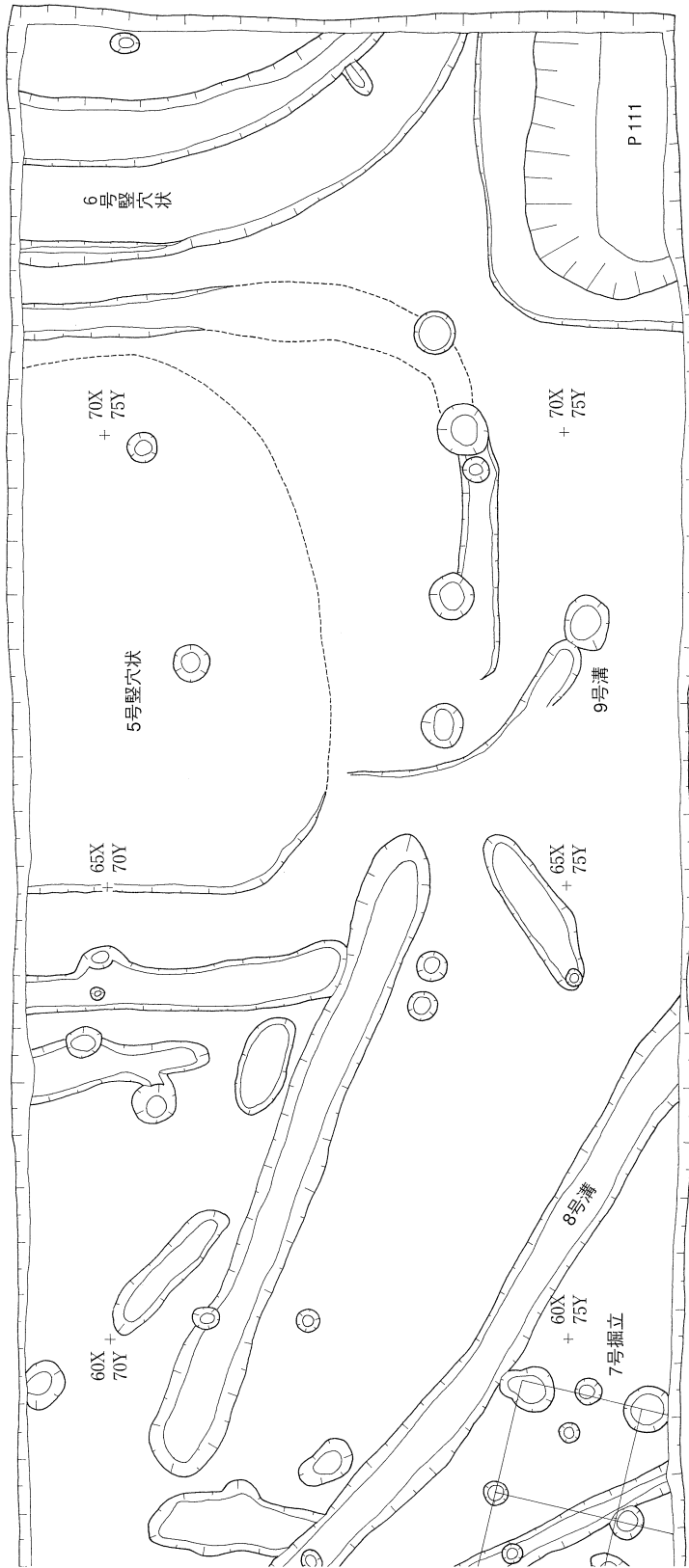
第54図 2A区③ (1/80)



第55图 2A区④ (1/80)

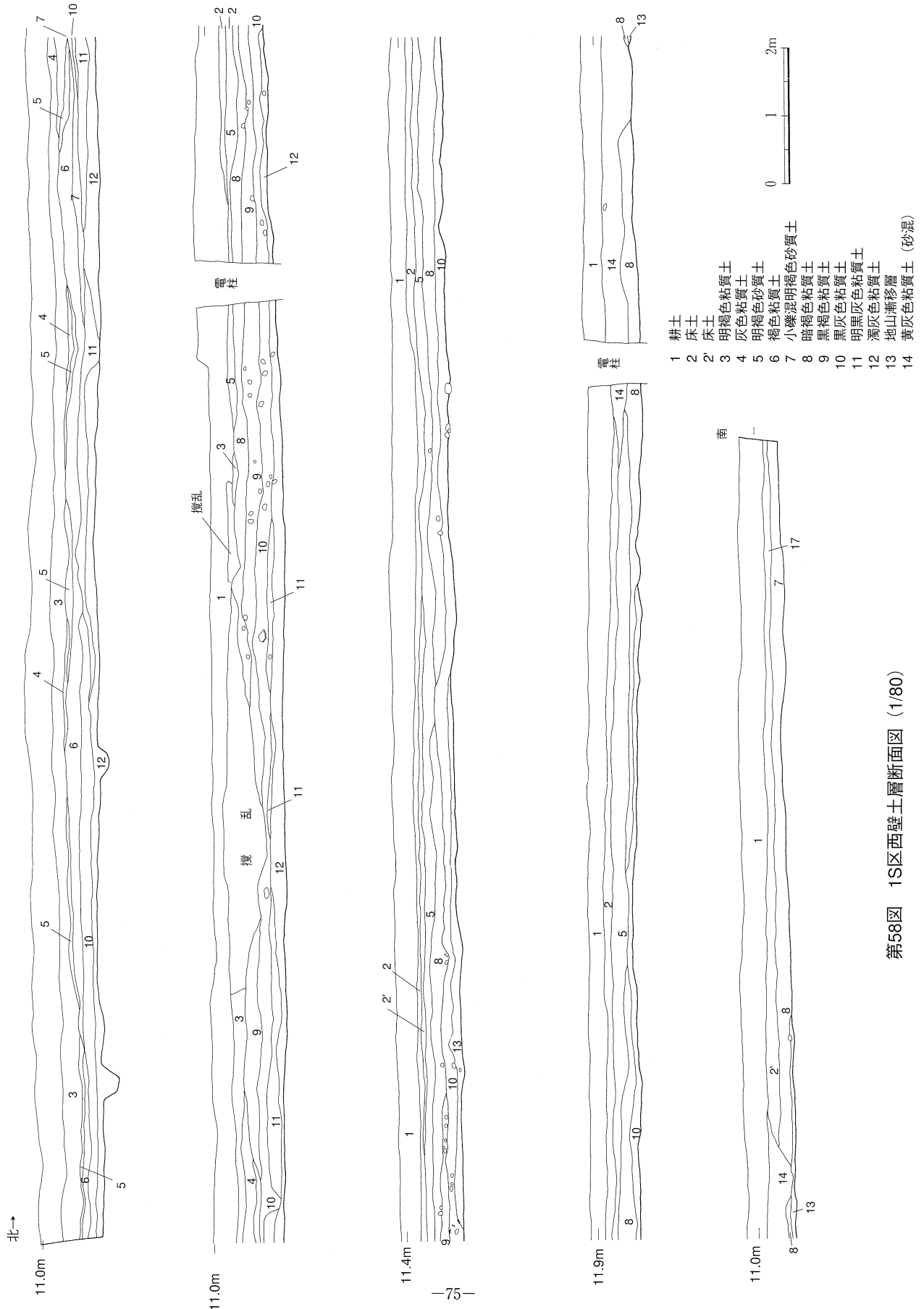


11.1m



- 1 耕作土
- 2 暗黒褐色粘質土
- 3 褐色粘質土(地山混)
- 4 褐色砂混粘質土
- 5 褐色粘質土
- 6 黄色細砂質土

第57図 3A区② (1/80)



第58图 1S区西壁土层断面图 (1/80)

第2節 縄文時代

1 遺構

遺構は、1N区、1S区の北部、2N区西側・2S区においてまとまって分布するが、他では3A区で土坑1基を検出したに過ぎない。住居跡は1S区北部の19・20号住居、2S区中央部では17号住居と1号炉を検出した。竪穴状遺構としたものは1N区と2N区南西端に位置し、土坑は1N区と2S区の東と西において集中する。また、Pを使用した穴遺構のうち、遺物が比較的多く伴い大きめのものを土坑と判断して記述対象としたが、判断は難しく柱穴の場合やその逆も有りうることを含みおき頂きたい。

(1) 1N区 (第59図)

土坑 (P44～47・49・50・59・60・66・67) P44はC3グリッドに位置し、隅丸方形を呈する。規模は80×80cm、深さ30cmを測る。P45はC3グリッドに位置し、不整な隅丸方形を呈する。規模は112×110cm、深さ92cmを測る。P46はB3グリッドに位置し、楕円形を呈する。規模は97×70cm、深さ53cmを測る。P47はC3グリッドに位置し、不整な楕円形を呈する。規模は推定173×87cm、深さ32cmを測る。P49はC2・C3グリッドに位置し、楕円形を呈す。規模は210×135cm、深さ47cmを測る。覆土の最上部は地山質の黄灰色砂質土を埋め戻したような状況が見られる。P50はB2・B3グリッドに位置し、略円形を呈する。規模は95×90m、深さ30cmを測る。P59はB2グリッドに位置し、楕円形を呈する。規模は120×72cm、深さ23cmを測る。P23はC2グリッドに位置し、不整な楕円形を呈する。規模は100×65cm、深さ30cmを測る。P29はB2グリッドに位置し、不整形を呈する。規模は145×60cm、深さ20～35cmを測る。P30はC2グリッドに位置し、略円形を呈する。規模は103×93cm、深さ53cmを測る。

2号竪穴状遺構 C3グリッドに位置し、略円形を呈するものか。推定径約270cm、深さ10～30cmを測る。プランと重なるピットとの切り合い関係は不明である。

落ち込み状遺構 第59図の破線で示した範囲は深さ20cmの落ち込み状となる。規模は約330×270cmで小判状を呈する。緩く落ち込むため明確な遺構とは言いがたい。灰褐色粘質土の覆土は2号竪穴状遺構を被う状況であり、これより新しい時期階の落ち込みであろう。

2号土器棺 C3グリッドの落ち込み状遺構の北東端に位置する単体の横位土器棺である。土圧により上方から押し潰されている。

1号埋甕 B2グリッドに位置する。底の部分は打ち欠かされている。遺存状態は悪く図示していない。

(2) 1S区 (第60図)

19号住居・2号埋甕 1S区中央部のH2・I2グリッドにまたがり柱穴を検出した。竪穴式となるかは不明である。径5.8mの円形に並ぶP1～6を一時期の柱穴と推定した。柱穴は南北に線対称の配置になるものと考えられ、入口は西側になろう。P10には2号埋甕が設置されていた。柱穴の平面形は略円または楕円形を呈する。最も大きいP2は120×103cmを測り、他の柱穴の規模は70～100cmに収まる。深さは30～50cmとばらつく。P1～6柱穴の心間距離はそれぞれ順に、2m・2.4m・3m・2m・2mである。これらと複合するピットP7～12は、建替えに関係する柱穴と考えられる。柱穴検出面上層の遺物出土状況から、柱穴は晩期の土器を多く包含する暗褐色粘

質土より掘り込まれた可能性が高い。

20号住居 1S区北西端、E2・F2グリッドにまたがり柱穴を検出した。P1～4の柱穴内は半円状に一段深くなり、新保本町チカモリ遺跡（南1983）で多量に検出をみた半截木柱根の痕跡と推定している。この半円状となる深みの大きさは長さ30～45cm、幅15cm前後、段差は7～22cm内である。柱穴は不整な楕円形を呈し、大きさは40～70cm内に収まるものである。P1～4柱穴の距離は一段深い部分でそれぞれ順に、1.4m・1.5m・1.6mを測る。柱穴の配置を円上とし、柱間距離を1.5mとして推定すると、全部で10本柱、径約5mの構造と規模になる。19号住居同様、竪穴式となるかは不明である。

土坑（P81・82） P81はF2グリッドに位置し、不整な楕円状を呈する。規模は250×175cm、深さ30cmを測る。確実な遺構とは断定しがたいものである。P82はE3グリッドに位置し不整な形状を呈する。深さ43cmを測るが規模は不明である。

(3) 2N区（第62図）

土坑（P87・88） P87はC6グリッドに位置し、略円形を呈す。規模は推定75×75cm、深さ45cmを測る。P88はC6グリッドに位置し、略円形を呈する。深さ60cmを測る。

3号竪穴状遺構 2N区南西端C5・6グリッドに位置する。隅丸長方形の平面形と推定する。高さ10cmの壁を持ち短軸は2.5mほどか、長軸は不明である。内部には100×90cm、深さ40cmのP2と、楕円形で深さ10cm、幅75cm、現状の長さ70cmを測る土坑状のP1が複合する。プラン直上と覆土及びP1からは多量の土器が出土している。P1出土土器は覆土のものと接合している。1N区の2号竪穴状遺構とは8m隔てるが、規模や遺構方向の類似は注意する点である。

3号埋甕 C10グリッド南西隅で検出した。深鉢の胴上半部を用いた埋甕であるが、上部は大きく削られ、土器の残存は8cmほどである。遺存状態は悪く図示していない。

(4) 2S区（第61・63図）

17号住居 E7・8、F7・8グリッドにまたがり、1間×2間に配置される6個の柱穴を検出した。台形状を呈する平面形は、北38度西の方位軸で線対称形となる。北東側P1・P2・P3の柱間は順に2.3m・2.0m、南西側P4・P5・P6の柱間は順に2.0m・2.3m、P1～P4間は3.45m、P3～P6間は4.1mを測る。柱穴が囲む面積は16.2㎡である。柱穴は略円形を呈し、径は18～32cm、深さは比較的浅いP3が38cmで、他は51～68cmである。柱穴の確認面と覆土の状況から縄文時代の住居と判断した。周辺から出土する土器の様相から住居の時期は晩期後葉頃と推定している。

1号炉 E8・E9グリッドの境界に位置する単式の石囲炉である。検出レベルは高めであり、包含層上位の掘進段階で早くに確認していたものである。平面形は南東側が平らとなる蒲鉾状を呈し、大きさは80×80cmを測る。炉石は長さ20～25cm、7kg前後の自然石を用いるが、ひとつは長さ45cmの大きなもので30kgほどの重量がある。炉内からの遺物はなく、深鉢の埋設も見られない。また炉を取り囲む柱穴は確認できなかった。1号炉の軸は17号住居の軸と平行し、位置はP6とP3を結ぶ線上のP3から1.5m離れるもので、17号住居と組み合わせとなる可能性は否定できない。

土坑（P92～98・97～99・102～107） P92はE6グリッドに位置し、楕円形を呈する。規模は142×105cm、深さ45cmを測る。P93はE5グリッドに位置し、楕円形を呈する。規模は90×70cm、深さ32cmを測る。P94はE5グリッドに位置し、略円形を呈する。規模は100×90cm、深さ50cmを測る。P95はF6グリッドに位置し、略円形を呈する。規模は95×90cm、深さ35cmを

測る。P97はF7グリッドに位置し、略円形を呈する。規模は110×100cm、深さ42cmを測る。P98はF7・8グリッドに位置し、略円形を呈する。規模は径97cm、深さ46cmを測る。P99はG7グリッドに位置し、楕円形を呈する。規模は推定150×90cm、深さ38cmを測る。P102はE10グリッドに位置し、一部不整な楕円形を呈する。規模は158×88cm、深さ35～45cmを測る。P103はE11・F11グリッドにまたがり、小判形を呈する。規模は125×83cm、深さ34cmを測る。P104はF11グリッドに位置し、小判形を呈する。規模は142×88cm、深さ33cmを測る。P105はF11グリッドに位置し、不整な楕円形を呈する。規模は138×70cm、深さ24cmを測る。P106はE12・F12グリッドにまたがり、C字状にかかるく曲がる不整な楕円形を呈する。規模は150×55cm、深さ34～40cmを測る。P107はF12グリッドに位置し、隅丸長方形を呈する。規模は128×73cm、深さ15cmを測る。

(5)3A区 (第63図)

土坑 (P72) P13グリッドに位置し、長楕円形を呈する。規模は254×72cm、深さ18cmを測る。

2 遺構出土の土器

遺構出土の土器約360点を掲載した。記述は主要なものに限り、かつ土器図版では理解しがたい文様の施文などについて説明を加えたい。住居柱穴及び出土遺物の多い竪穴状遺構などはそれぞれ区分を設けたが、土坑とピット出土土器は遺構名を土器図版に記したので図毎に一括して記述する。なお、土器の法量は推定したものも含めており胴部最大径は胴径と略した。網代圧痕の編み方は越え、潜り、送りの順に () 内に表す。この表記は以下同様に使用するものである。

(1)1N区 (第64～69図)

土坑 (P44～47・49・50・59・60・66・67)・ピット (P38～43・48・51～58・61～65・68～72)

P38～45 (第64図) 1の浅鉢には浅い凹線が5条施される。2は羽状縄文が施されており、器種は注口土器であろう。3は口径166mmの深鉢で、波頂部位の口縁部と胴部に巻貝による下向きの扇状圧痕文をもつ。口縁部の凹線は丁寧な施文で胴部のは幅が広く浅いものである。6の深鉢は棒状具の扇状圧痕文が見られる。浅鉢8には凹線と巻貝の殻頂刺突が施される。12は凹線の上下が連続して刻まれている。14の凹線は雑な施文である。15はごく浅い凹線か。16は円形押圧文で沈線を切りこの上下にRL縄文を施している。17の深鉢には2つの巻貝殻頂刺突を縦に並べて施される。口径326mmの粗製深鉢の18は、口縁部に2条の凹線をもち口縁部はRL縄文を斜行させ以下は縦行としている。6・16の外面には赤彩痕が残る。

P45～49 (第65図) 1・6はRL縄文が施され、2・3・5の外表面は条痕文である。口径390mmの7は内外表面が条痕調整される。深鉢8の凹線上下の刻みは浅いものである。9の口縁部の上下にはLR縄文が施される。11は口径175mm、底径60mm、器高63mmを測る浅鉢で、口縁部に浅い凹線が3条施される。浅鉢12の隆帯口唇部と沈線区画の隅には巻貝の殻頂刺突が施される。13の外表面は細かいLR縄文である。14は口径340mmを測る。15の注口土器は口径124mm、胴部径166mmを測り推定器高は150mmとなり、凹線の幅は10mmと広い。9・13の外表面には赤彩痕が残る。

P49～53 (第66図) 1は口径170mmで口縁部に浅い沈線が廻り、胴部文様には三角状挟りと巻貝の刺突が見られる。2の外表面全体には1段のLr縄文が施される。弧線と三角状挟り文様は、口縁部では単位文、胴部では区切文となる。6は眼鏡状凸帯文の浅鉢である。7～9は縄文、9

～12は条痕文が施される。14・15は口唇部に三角状挟りを連続させる「く」の字状口縁の深鉢である。16は入組三叉文が施される蓋である。19は波頂端部を欠くもので、刺突の方向は斜めからとなる。20の波頂部中央には三角状の挟りが施され、沈線両端の刺突は巻貝の破損した殻頂部を使用している。21の口径は246mmである。

P54～64（第67図）1の正文様は入組弧線文で器種は注口土器か。2はRL縄文が施され口径は243mmである。3の推定口径は224mmである。5は突起部に巻貝の扇状圧痕文をもつ。6の単位文は円形刺突と三角状の挟りである。8・9の器形は不明である。10は口唇部が肥厚する浅鉢である。12は巻貝の扇状圧痕文をもつ。14の口唇部は指頭により浅く押圧されている。15は口径224mm、頸径202mm、胴径214mmを測る半精製の深鉢で、口唇部の挟りは台形状となる。22は内外面に条痕文が施される。26は沈線間が刻まれるもので、口唇部も上方から刻まれている。6・8・10の外面には赤彩痕が残る。

P65～72（第68図）1は楕円区画工字状文が施され、壺様の器形となるものか。2は凸帯文系の浅鉢で推定口径は220mmである。4の口唇部は斜め上から刺突されている。5は内外面に条痕文が施される。14は口径248mmの浅鉢で口唇部に細い沈線が見られ、凹線上には縦位の短沈線とこの両脇に斜めから押圧する短沈線をもつ。15は雲形文の浅鉢で図は上下逆である。17は波頂部に巻貝の扇状圧痕文をもつ。18の浅鉢は2つの縦隆帯を貼付し三叉状連結文をもつ。21はRL縄文の地文に弧線が見られる。

2号竪穴状遺構（第68図22～30）22は口径204mmの浅鉢で凹線は浅く広い。23は口径200mmを測り幅広の凹線をもつ。焼成が悪く判断が難しいが凹線上の押圧は巻貝によるものであろう。25は小さな突起をもつ無文の浅鉢である。28～30はRL縄文が施される。

2号土器棺（第69図1）口径390mm、頸径360mm、底径84mm、器高432mmを測り、横位条痕文を施す粗製の深鉢である。口縁部はやや波を打ち明確な平縁にはならない。底部の圧痕は簾状圧痕である。晩期中葉の所産であろう。

落ち込み状遺構（第69図2～13）浅鉢2の口縁部に連続する縦短沈線は雑な施文で巻貝の殻頂刺突文も施される。5の沈線下にはRL縄文が施される。6～8の外表面はRL縄文である。

1号埋甕 遺存が悪いため土器は図示しなかった。

(2) 1 S区（第70～74図）

19号住居柱穴（P1～9・11）

P1～5（第70図）2の粗製深鉢はB字状突起をもち、口縁端部の外側は押圧されている。5には細い縦位条痕文が施される。6～8・11は御経塚式土器で、玉抱三叉文や独立三叉文が見られる。10の文様は入組三叉文である。14の浅鉢内面にはごく浅い沈線が1条見られる。18は口径156mm、頸径138mm、胴径176mmを測る。口縁は先細りし口唇部は刻まれている。外面の肩部まではナデでられるが以下はケズリとなる。19の内面に肥厚する口唇部には楕円状の浮文が見られる。21の口唇部は面取りされ長楕円形ぎみの押圧が施される。22の口唇部には楕円状の小突起が見られる。25の文様は入組三叉文であろう。4・9の外表面と13の内外面には赤彩痕が残る。

P6～9・11（第71図）2は口径280の無文浅鉢で口唇部は面取りされ、B字状突起はしまりがない。5の文様は羊歯状文である。8の口唇部は外側から押圧されている。11の頸部はごく低い段状となる。12の口唇部には小突起が貼付される。13は突起上に円文が施される。15の頸部

には沈線間の刻みが見られる。16は鍵の手状の文様をもち沈線内には押引短線を加えている。21の内面には「ハ」字状となる幅広の沈線が見られる。24の内面にはごく浅い沈線1条が廻る。26の文様は入組三叉文か。27の口唇部は楕円状に浅く押圧されている。29の口唇部は三角状に挟られている。30の文様は不明である。2の内外面と3・10・15の外面には赤彩痕が残る。

ほとんどが晩期の所産で占められる柱穴からの土器には御経塚式や中屋式後半のものを多く含むが、下野式のものが見られたため住居の時期は晩期後半頃に位置づけておきたい。

20号住居柱穴（P1～3）

P1～3（第72図）1の沈線帯下部には浅い円形の押圧文が見られる。深鉢2の外面は無文で、内面は条痕調整され赤彩痕が残る。P3に混入した後期中葉後半の土器は酒見式の所産と考えられる。3は4単位の波状口縁となる深鉢で波頂部は舌状となり、その中央と下部の隆帯を楕円状に押圧している。波底部とその下の胴部の凹線には棒状具による三角状押圧と斜め方向からの刺突が施され、口径288mm、胴径200mmを測る。9の底面は網代圧痕である。

図示した土器は後期中葉と後葉のものであるが、下野式の特徴である縦条痕を施す破片が見られたことから、住居の時期は晩期後半期に位置づけておく。

土坑（P79・85）・ピット（P75～78・80～84）

P74・75（第72図）12の内面にはごく浅い沈線1条が廻る。14は口縁端部外側を指頭により押圧している。18は先細りとなる口縁端部の内側に幅広の面が見られる。

P39～45（第73図）1は内面に三叉文をもつ浅鉢である。4は口縁部端内側に幅広の面を持つ。弓なりに屈曲する9は蓋のつまみ部で、細い粘土紐が貼付されている。11は沈線間に短沈線を入れている。12は縦位の条痕文で口縁部に2条の沈線を施す。13は縦位の条痕文で口縁部の沈線間に短沈線を入れる。15は凸帯文系の浅鉢である。16の外表面は斜行する条痕文である。17は波頂下部を浅く略円形に押圧し、凹線上には円形の押圧文が見られる。18は波頂部に扇状の巻貝を放射状に施す。19は、口縁下部の刻み部とこれを挟む押圧は巻貝が用いられる。22の口径は194mmである。23は波状口縁の深鉢で大波状部には連結三叉文、小波状部に円形押圧文をもつ。24は浅鉢で多条沈線の下に横長の列点文をもつ。14・15の外表面と19の内面には赤彩痕が残る。

P83～85（第74図）1には三叉文が施される。9は網代圧痕（2-2-1）。12は沈線3条と楔形の挟りが見られる。14の外表面は縄文である。19は口径416mmを測る大型の浅鉢で、第94図5と同一のものである。20は雲形文をもつ浅鉢である。23～25にはRL縄文が施される。

(3)2N区（第75～80図）

3号竪穴状遺構（P1・覆土・遺構直上）

P1（第75図）1の個体はP1からの出土量は少数だが、覆土からのものと接合した波状口縁の深鉢で推定口径約35cm、胴径288mmを測り器高は40cmほどになろう。口縁部には沈線を3条施し、波頂部の縦位列点は上方斜めから押され、口縁下端部には列点を加える。胴部の瘤に沈線端を回り込ませており、この瘤は8単位になるものであろう。外面の条痕文は特徴的で、斜行条痕を施文した後、3目の条痕を2cmほどの間隔で縦位の弧を描くように加えている。2の口縁部楕円区画の上下には縄文が施されている。3の沈線帯には円形の押圧文が見られる。凹線文深鉢4の圧痕は巻貝の扇状圧痕である。5は口径196mm、胴径170mm、底径57mm、器高186mmの深鉢である。P1と覆土から約1/2づつ検出しほぼ完形に復元できたもので、口縁部と胴部の2段に廻らす

円形刺突は巻貝の破損した殻頂を使用している。ひび割れを挟み穿孔が見られる。浅鉢の6・7は対弧となる弧線文をもつ。6には巻貝の殻頂刺突が見られ、7には縦位隆帯が貼付されている。(第76図) 1は胴部から3回屈曲して口縁部にいたる平縁の深鉢で口径は388mm、屈曲部の径は上から452mm・444mm・404mmである。口唇部と屈曲部に2個1対の突起を貼付する。文様は沈線と刻みが見られるが大雑把な施文である。2の無文深鉢は口径294mm、底径100mmで推定器高は30cmである。(第77図) 1～4は緩く内湾する粗製の深鉢である。1は口径253mm、胴径274mmを測り、RL縄文が施される。

覆土(第77図) 5は口径160mm、胴径132mm、底径42mm、器高153mmを測るほぼ完形の深鉢である。波頂部位の沈線上に粘土を貼付し、口縁部では円形に、胴部では縦長状に押圧する。6の波状口縁の深鉢は口縁波頂部上下に扇状の圧痕が見られ、内面に沈線を引く。9・10は1段のLr縄文を施す。(第78図) 1はLR縄文、2は1段のLr縄文を施す。3は口径186mm、底径98mm、器高134mmを測る。3・5の底面は網代圧痕(2-2-1)である。

遺構直上(第78図) 包含層出土と覆土出土の土器が一部接合したことから抽出したものである。6～8・9は波状口縁の深鉢である。6は波頂部断面が3角形状になるもので、巻貝の殻頂刺突が大小2個見られる。7の波頂部での円形押圧と下向き扇状圧痕文は巻貝で施文され、胴部は条痕文を施す。8の押圧は円形押圧文である。9は小突起をもち口縁部が「S」字状に屈折する深鉢で巻貝の扇状圧痕文を施し、凹線の断面は「レ」字状となる。10は波頂端部と沈線上に巻貝の下向きの扇状圧痕文を施す。11の胴部横位沈線は縦位短沈線により区切られる。12の小突起部には円形押圧文が施される。13の浅鉢は幅広の隆帯とその口唇部に巻貝の殻頂刺突が見られる。15は口径142mm、胴径126mmを測る丁寧なつくりの鉢で、2条の沈線と円形押圧文を胴部に施す。17は円形に粘土を貼付し縦位短線を施している。注口土器の18には棒状具による下向きの扇状圧痕文が見られる。(第79図) 1～8は浅鉢で、4・5には赤彩痕が残る。2は弧線文と巻貝の殻頂刺突文をもつ。3は口縁部に縦短線の連続と巻貝の殻頂刺突が施される。4は弧線文の起点と弧線頂部に小さな円形刺突が見られる。5の隆帯には巻貝の殻頂刺突が施される。6は口縁部の縦位隆帯の上下に円形刺突が見られる。9は連結三叉文をもつ注口土器であろう。13は口径418mmを測る。(第80図) 1・4・5の口径は順に314mm、294mm、256mmである。

P1からの第75図5と第76図1は出土状況から共伴は確実で、5の寸詰まる器形や口縁部の形状は八日市新保式に類似するものである。また、P1と覆土の土器は接合例からも一括性の高い土器群と考えられ、井口Ⅱ式のものと同量の八日市新保式類似のものが見られる。土器群は井口Ⅱ式の新しい様相を示し、八日市新保式への過渡的な一群として捉えておきたい。

土坑(P87・88 第72図) 7はX字状の隆帯をつくり文様帯の上下はRL縄文を施す。浅鉢8の外面には赤彩痕が残る。9の浅鉢は口縁部の上下に丸い突起を貼付し沈線と刺突文を施す。10の注口土器は口径138mm、胴径152mmを測る凹線文土器で、縦位の短凹線を単位文とする。

(4)2S区(第81・82図)

土坑(P92～95・97～99・102～107)・ピット(P96・100・101)

P92・94・96・97(第81図) 1の浅鉢は眼鏡状凸帯をもち、外面には赤彩痕が残る。2～4は凸帯文系の浅鉢で、3の口径は222mmである。8は内外面に沈線が見られる。11・12は簾状圧痕の底部で底径は60mm、102mmである。13は列点文をもつ2条沈線を起点として上下に弧線文を

施す。14の鉢は口縁部上部を薄くし口唇部は玉縁状となる。18・20は縦位の条痕文が見られる。

P98・100～107（第82図）1は口径177mm、頸径144mmを測る深鉢で口唇部にB字状突起をもち、頸部の無文帯は1段低くなり胴部文様は鍵の手状文であろう。LR縄文が施される。3は口径105mmを測る小型の浅鉢で文様は雲形文の一種か。6は口径280mm、底径80mm、器高151mmの浅鉢で文様は工字状文を重層している。口縁内面は肥厚部に沈線を入れ段状となる。9は沈線間に列点が施される深鉢の細片である。10の内面には幅広の沈線が見られる。

(4)3A区

土坑P109（第82図）緩い波状口縁となる深鉢13の沈線は指頭によるものと考えられる。14の底部は径86mmで底面は簾状圧痕。15の口唇部は折り返され、内面には指頭の圧痕が見られる。

3 包含層出土土器

土器は後期の酒見式から晩期の下野式まで断絶なく出土したものと考えており、これら約1550点を図示した。また各調査区によって出土量や様相の違いが見られるため、出土地区名を図版下部に記し、出土したグリッドと層位を一覧表にまとめた。層位については第1節を参照頂きたい。分類は後期と晩期に大別し、器種を基準とした時期幅の広いもので複数の型式含む概観的分类とした。型式内容と土器変遷の把握や器形の判断が十分でないため、細分は行なわなかった。図版が相前後するものや分類には矛盾を生じているものもある。ご寛容願いたい。

(1)後期の土器

中葉の土器である酒見式の出土量は少なく、後葉の井口Ⅱ式・八日市新保式ではまとまった量が見られる。中葉～後期前半は酒見式（中葉後半）～井口Ⅱ式（後葉前半）、後葉後半は八日市新保式におおむね対応するものである。

《中葉～後葉前半》

1類（第83図1～25）磨消縄文や縄文を施す深鉢・浅鉢をまとめた。

1～4・12は口縁部が内側に肥厚する。4は半肉彫的な渦巻き帯に羽状縄文を施す。5には凹線が施文される。10・11は後期後葉か。

2類（第83図26～29）中葉の注口土器をまとめた。

26は口径66を測り突起は2単位である。西日本の元住吉山Ⅰ式に比定できよう。

3類（第84～89図1～7）波状口縁の深鉢。

A（第84図1～12）波頂部が台形状や舌状となるもので特異な形状のものも含めた。1～9の波頂部の側面は内側に曲がり、上から見るとC字状の形態となる。1の波頂部には円形押圧文が見られ、巻貝による沈線端部を渦巻き状にしたり、巻貝の殻頂刺突を施している。2は口径269mmで6単位の波頂部となり巻貝の殻頂刺突をもつ。4～8・11には巻貝の殻頂刺突が施される。3・5・9・10・12は文様の施文に巻貝が使用されない。11の外面に赤彩痕が残る。

B（第85～86図）波頂部が山形状となり刺突・押圧文と沈線を施文するもの。波頂部断面が三角形に肥厚するものが多く、肥厚の厚いものや薄くなるものが見られる。また口縁部の屈折が弱く波頂部が内湾ぎみになるものがある。巻貝の殻頂刺突は第85図と第86図1～9・11～13に見られ、他は棒状具による刺突や円形押圧文である。また巻貝の腹縁圧痕は第86図5の口縁部の上下と同図6の胴部に見られる。口縁部の肥厚が薄く、また内湾するものには円形押圧文が多くなる傾向

を示す。85図2は口径300mm、胴径264mmを測る。

C（第87図1・2）口縁部沈線文様帯に円形押圧文をもち、上下には縄文が施される。井口Ⅱ式から八日市新保式にかけての過渡的な土器であろう。

D（第87図～88図1～18、89図1～5・7）凹線文土器とその系統と考えられるもので、巻貝の殻頂部での刺突文が施される例は見られない。87図3～6は幅広の凹線が施されるもので、他の器形は同類のBに類似するが、内屈の強いものは少ない。押圧文の施文や方法には幾つかの種類がある。円形押圧文は87図8～10・12～13、88図6、巻貝の腹縁を押圧するものは87図6・7、88図7・9・12・13・15、89図1～4で88図9は殻頂部を下に向けたものである。このうち89図1～3は粘土を貼付した後に施される。巻貝の螺層がはっきり見えない扇状圧痕文は、87図11、88図2～5・10である。88図1は棒状具によって扇状圧痕文を施している。下向きの扇状圧痕文や三角状文を器壁に対してほぼ平行するように押圧して施すものは88図8・11・14、89図5に見られる。87図5の凹線に平行する押圧は斜め方向から施されている。87図8は口径231mm、同図12は口径185mm、胴径150mm、底径35mm、器高160mmを測る。

4類（第88図19・20、89図6）その他の波状口縁となる深鉢をまとめた。

19は対弧文状の隆帯を貼付する。20は沈線内に押引列点を加えている。6は突起状の波状部となるもので、沈線の多条施文と円形押圧文をもち、推定口径は311mmを測る。

5類（第89図8～14、90～92図1～6・10・11）平縁の深鉢。

A（第89図8～14、90図）口縁部がラップ状に大きく外反するもので、直線的なものも含めた。外面は無文になるものと沈線や押圧文を施すものがある。内面に沈線や刻みをもつものは、外面を無文とするものに多く見られる。89図10の沈線には巻貝の殻頂刺突が施される。90図2は巻貝の殻頂刺突、10・16～18には巻貝の腹縁文が見られ、9は円形押圧文である。同図20・21は口縁部には隆帯が廻り、22・23は口唇部が内面にせり出している。22は外面に赤彩痕が残る。

B（第91図、92図1～3・6・10）口縁部が内折する凹線文土器とその系統と考えられるもの。口縁部破片だけでの器種判断は困難で、浅鉢F類1と混同しているものもあろう。幅の広い凹線の上下に刻みを入れるものや、沈線上に押圧文を入れるものがある。91図4・5は扇状の押圧文で、92図1は巻貝腹縁文、同図2・3は円形押圧文である。91図1は口径400mm、同図6は口径288mm、同7図は口径340mm、92図10は口径311mm、同図11は口径110mmを測る。

C（第92図4・5・11～13）その他の平縁深鉢と胴部。4・5は口縁部が内湾し短沈線を施すもの。11は円形浮文と綾杉状の浅い沈線が見られる。

6類（第93図）波状口縁を呈するものや半円状の突起をもつ浅鉢。

A（第93図1～15）凹線文土器とその系統のものである。内折する口縁部の上部は外反する形態が多いが、幅広の沈線を施す1・2はこれに含まれない。内面に沈線や刺突文を施すものがある。外面の押圧文は、1・10・11・15が巻貝の腹縁文、3～9・12は巻貝の扇状圧痕文、13は棒状具による扇状文である。14の縦位隆帯間は無文となる。15の内面沈線には小さな巻貝の腹縁が押圧されている。6は口径474mm、15は口径240mmを測る。3・15の外面と6の内面に赤彩痕が残る。

B（第93図16・17）弧線文を施すもの。16には巻貝の腹縁文、17には三角形の押圧文が見られる。

7類（第92図7～9、94～99図）平縁の浅鉢。

A (第92図7・7、第94図1～6・11) 口縁部が屈折する凹線文土器とその系統と考えられるもの。94図5は1S区P48土坑から出土したものであり注意して頂きたい。幅の広い凹線の上下を刻むものや、凹線間を刻むもの、沈線上に押圧文を入れるものがある。94図1・6・14・15は凹線端部を斜方向から押圧するもので、口縁部の屈曲はやや強い。巻貝の腹縁文は94図1・16、円形押圧文は92図7、94図2～4・13、95図1・6、巻貝の殻頂刺突は94図7・8、95図3に見られる。95図11は粘土貼付後三角形状に押圧している。94図1は口径227mm、同図4は口径294mm、95図1は口径296mm、同図5は口径150mm、同図6は口径246mm、同図11は口径151mmを測る。

B (第95図7～10・12～25、98図1・2・20・21) 屈折する口縁部は短くここに沈線や列点を施すもので、円形の押圧を加えた円形浮文を施すものや、文様帯の上下に縄文を施文するものが見られる。口縁部が外反するものは縄文が施文されるものが多い。16・17は丁寧なつくりで外面に赤彩痕が残る。98図1・2は口縁部上下の浮文と巻貝の殻頂刺突をもつ。

C (第96図1～18、98図18・19) 屈折する口縁部に多条の平行沈線を施文するもの。口縁部全体に沈線を入れるものと上下に分けて施文するものがある。96図1～4・6・7は巻貝の殻頂刺突を施し、5・12・17には小さな円形刺突が見られる。同図8は口径300mm、15は口径155mmを測り、5の外面、15の内面には赤彩痕が残る。97図12、98図18・19の口縁部上下には縄文が施文される。

D (第92図8、96図19～24) 口縁部に沈線による横長の区画文をもつもの。96図19・20は大きな巻貝の殻頂刺突が見られる。同図21の内外面に赤彩痕が残る。92図8、96図23・24は縦位隆帯の両側の区画隅に円形刺突を加えている。

E (第97図1～21) 口縁部に縦位の隆帯をもつもの。口縁部の幅は短いものが多く、隆帯を連続して廻らすものや、一部で施文するものがある。1は連続する隆帯の間に巻貝の殻頂刺突を施しこれを沈線で囲むもので、2は連続する隆帯間に小さな円形刺突を施している。他のものは平行沈線を数条入れるもので、縄文の施文だけのものもある。巻貝の殻頂刺突は14・15・18で、円形刺突は10・16である。1は口径335mm、2は口径141mm、16は口径330mmを測る。8・11の外面には赤彩痕が残る。

F (第98図3～10、107図3) 弧線文や「ハ」字状文をもつもの。弧線文は10を除き、口縁部上下の刺突文を起点に対弧とするもので、5・7・10の刺突は巻貝の殻頂刺突である。6の内外面、9・10の外面に赤彩痕が残る。

G (第98図11～21) 屈折する口縁上部の外反がきついもの。11は肥厚する口唇部と屈曲部を刻み、口縁部の縦位隆帯両側の沈線端部に巻貝の殻頂刺突を施し、外面には赤彩が残っている。15の外面はごく浅い凹線文状に磨かれ、2個1対の円形押圧文が見られる。11は口径273mm、底径52mm、器高125mm、15は口径334mm、16は口径307mmを測る。

H (第99図1～11・13) 口縁部がやや内湾しながら広がる皿状や壺状器形のもの。外面は無文で内面端部に刻みや沈線、押圧文などが見られる。11は円形押圧文である。13は口径215mm、底径40mm、器高50mmを測る片口状の器形と推定するもので、内側の幅広の面に沈線と円形押圧文を施す。1の内面には赤彩痕が残る。

I (第99図10・12・14～17) 口縁部が屈曲する無文のもの。10は口径235mm、14は口径151mm、17は口径230mmを測る。

8類（第100図、107図1～2）平縁の鉢をまとめた。

器形は体部が大きく内湾するものが多い。1・2には巻貝の扇状圧痕文が施される。3には楕円状の挟りが見られる。5・6は口縁部の隆帯や肥厚する口縁端部に小さな巻貝の腹縁文を連続して施すものである。8～11は東北地方の瘤付土器に見られる弧線連結文に類似する文様が施文されるもので、弧線区画内に沈線を充填し連結部には円形押圧文を施す。7には円形押圧文が見られる。8は口縁部が内折する丁寧なつくりのものであるが、11は胴上部で内湾し内傾する器形で沈線や円形押圧文は浅く施文はやや雑である。107図1・2は同じく弧線連結文が施文されるが1の連結部に押圧は見られない。100図1は口径271mm、胴径301mm、5は口径141mm、胴径181mm、11は口径315mm、胴径360mmを測る。

9類（第101図）注口土器をまとめた。

1・2の凹線は幅広で3はやや狭い。1・2・3・5・7は巻貝の扇状圧痕文だが、7の圧痕には螺層が見られない。6・8は巻貝の腹縁文である。10～15は瘤付土器と注口土器である。14・15には瘤が見当たらないが、文様構成が瘤付土器に類似することから含めている。10の瘤は沈線で囲まれ縦に刻まれる。12は隆線による弧線文である。1は口径146mm、2は胴径118mm、底径45mm、3は胴径290mm、6は口径114mm、胴径155mm、10は胴径127mm、13は口径104mm、14は胴径160mmを測る。11・15の外面に赤彩痕が残る。

《後葉後半》

10類（第102～103図1～13、104～105図1～11・20～27、106図1）波状口縁の深鉢。

A（第102～103図1～8、106図1）波頂部に円形押圧文を施文するものや、口縁部に沈線文帯と縦短線、円形押圧文、楔形文、「X」字状文をもつものや楕円区画文が施文されるもの。102図1は口径292mm、19は口径174mmを測り、15は内外面に赤彩痕が残る。103図7の内外面、8の外面には赤彩痕が残る。106図1は口径315mmを測る。

B（第103図9～13）連結三叉文をもつもの。9の口縁部の楔形挟りは下部が深くなり、沈線5条の中央線は太くなる。9は口径236mmを測る。9・13の外面には赤彩痕が残る。

C（第104～105図1～11）口縁部の破片で、波頂部に一文字・連結三叉文・山字状文・三叉状文などを施すもので、文様の構成のわからないものも含めた。104図9には赤彩痕が残る。

D（第105図20～22）外面が無文のもの。20の波頂部には円形押圧文が施される。

11類（第103図14～29、106図2）平縁の深鉢。

A（第103図14～23・25・26）口縁部が屈曲し、沈線を短線や楔形文、「X」字状文で区切るもので、楕円区画文や連結三叉文のものを含めた。

B（第103図24・28・29、106図2）口縁が外反して立ち上がり、口縁下部が肥厚するもの。106図2は口径356mmを測り、一部で口縁端部を内側に押し込む部分をもつ。

12類（第105図23～27）深鉢の胴部破片をまとめた。

13類（第107図4～29）平縁の鉢をまとめた。

連結弧線文の区画外の部分を太い沈線にし連結部を挟るようにするもの、「ハ」字状文、楕円区画文、連結三叉状文を施すものがある。25は口径122mm、胴径160mmを測り、口縁端部には刻みの入った瘤をもつ。26は口縁端部に瘤を連続して施すものであろう。28・29は口唇部が尖り内折ぎみとなる器形である。12～14・20・23・26には赤彩痕が残る。

14類（第105図12～19、108図1～14）口縁部で屈折する波状口縁の浅鉢をまとめた。

108図では沈線を短線や、楔形文、「X」字状文で区切る寸断文のもの、105図では楕円区画文、連結三叉文、玉抱三叉文が見られる。108図3・4では粘土貼付後縦短線が施されている。同図13は巻貝の殻頂刺突を施す円形浮文を沈線がとりまき玉抱三叉文風となっている。同図14は口径220mm、底径60mm、器高107mmを測る。105図15・16、108図14の外面に赤彩痕が残る。

15類（第108図15～18、109図1～32）平縁の浅鉢。

A（第108図15～18、109図1～5）口縁部が屈曲するもの。楕円区画文や連結三叉文が見られる。108図15は口径245mmを測り、口縁部に縦位隆帯を貼付しその中央に楕円状押圧文を施す。109図1は口径236mm、底径25mm、器高88mmを測り、口縁部は途中で直角に折れ、両側が橋状となる大きな突起をもつ。突起や内面は山字状文や連結三叉文で飾られる。口縁下部ではつづみ形の挟り、楕円区画文、小さな円形押圧文が見られる。

B（第109図6～32）皿状の器形のをまとめた。口縁端部が肥厚するものとしめないものがある。口唇部に文様をもち、この面は外側の器壁に対し直角から鈍角になるものが多い。縦位隆帯や連結三叉文が施されるものが多い。21・29・30には赤彩痕が残る。

16類（第109図33～35）注口土器をまとめた。

注ぎ口は不明だが器形から注口土器と判断した。33・34は連結三叉文、35は対弧文をもつ。

(2)晩期の土器

前葉前半は御経塚式期、前葉後半～中葉は中屋式期～下野式前半期、後葉は下野式後半期におおむね対応するものである。

《前葉前半》

17類（第110～第114図） 波状口縁の深鉢。

A（第110図～112図10）波頂部が台形状となるものや、波頂端部を上方から押圧し円形や楕円形にするもので、連結三叉文、玉抱三叉文、三叉文、入組文、「T」字状文、鍵の手文が施文され、ほとんどの口縁部内面には沈線が廻る。1は口径253mm、胴部220mm、底径63mm、器高295mmを測り、4単位の波状となる。口縁部は、LR縄文を地文とし連結三叉文が見られ、内面には一条の沈線が廻るが、波頂部の文様は不明。2は3単位の波状口縁と推定するもので、胴部文様は鍵の手文と三叉文が施文される。胴径は255mmである。3は6単位の波状口縁になるもので口径265mm、胴径195mmを測る。口縁部文様は楕円状文を三叉文で挟んでおり、内面には三叉文と波状に沿う沈線が見られる。胴部文様の楕円文は弧線文と三叉文で挟まれ、楕円文の一部には横位沈線を入れる部分がある。4は口径222mm、胴径185mmを測る3単位波状の波頂部が低くなるもので、口唇部には刻みの入る隆帯をもつ。胴部文様には弧線文と連結三叉文で玉を抱いている。111図2～3は波頂端部が円形や楕円形に押圧され玉抱三叉文や三叉文が施されている。玉抱三叉文をもつ同図12の胴径は130mmである。112図5～7は波頂部に単独の三叉文をもつ。7の口径は238mm、胴径は186mmを測る。赤彩痕は111図5・13・14、112図2の外面に残る。

B（第112図11～114図4）口縁部の文様が簡素になるもので、内面に三叉文や円形押圧文を施すものもあるが、外面を沈線や縄文帯、無文とするものがある。口縁部縄文帯を段で画する113図7や沈線で画する114図1が見られる。113図7は口径350mm、胴径280mm、114図1は口径305mm、

胴径273mmを測る。

18類 (第114・115図) 大きく外反する平縁の深鉢をまとめた。

A (第114図5～8) 弧線文や三叉文などの文様帯をもつもの。5・6は弧線文と三叉状挟りが見られ、内面は段状となっている。7は三叉文、8は縦短線の区画内に沈線を施す。7は口径195mm、8は口径160mmを測る。

B (第114図9～10、115図) 口縁部の文様が簡素なもので、外面は平行沈線、縄文帯、無文となるものがある。口縁部内面に沈線を入れるものや段状にするものがある。114図9は口径223mm、11は口径348mm、115図5は口径188mm、8は口径170mm、10は口径290mm、胴径270mmを測る。

19類 (第116図1～5) 口縁部がくの字状に屈折する中型の鉢をまとめた。

口縁部は、1がやや外反し、2・5は直線的で3・4は内湾気味となる。1は玉抱三叉文、2は対向する三叉文、3は磨消三叉文の入組まないもので、4は磨消状文帯による長方形、菱形、人形状となる文様を繋げ、三叉状文を充填する特徴的な個体である。2は口径190mm、胴径188mm、3は胴径161mm、4は口径160mm、胴径170mmを測る。2・4の外面に赤彩痕が残る。

20類 (第116図6～22・第117図) 深鉢の胴部片をまとめた。

玉抱三叉文、三叉文と鍵の手文、弧線文または楕円状文と三叉文、連続する「T」字状文、列点文などの文様を施文する。116図14・16、117図1・3・6の外面に赤彩痕が残る。

21類 (第118図) 波状口縁の浅鉢をまとめた。

口縁部は内湾する2～5と直線的な7・11・13や、やや外反する15～19・23がある。文様は玉抱三叉文の3や、入組文と三叉文の7、内面に玉抱三叉文の9・19、内面に単独の三叉文を施す15～18が代表的である。6・7は口唇部に隆帯を貼付する。3・5の外面と15～17・23の内面に赤彩痕が残る。

22類 (第119図) 平縁を呈し口縁部が内湾するもので、外面が有文の浅鉢をまとめた。

玉抱三叉文や磨消入組三叉文、弧線文と三叉文、「T」字状文、鍵の手文などが施される。16は19類116図4の文様に類似する。5は口径172mm、16は口径175mm、17は口径137mmを測る。4～6・20・22・24・25の外面には赤彩痕が残る。16・17・20は蓋であろうか。

23類 (第120図) 浅鉢の胴部片と考えられるものをまとめた。

21・22類と同様な文様が施文される。1・6・8・10・13・15・16・20～24の外面には赤彩痕が残る。

24類 (第121図1～12) 蓋をまとめた。

1は玉抱三叉文、2・3は人形状の磨消縄文帯を繋げるものか。7は口径153mm、10は口径132mmを測る。2～4・7・10の外面に赤彩痕が残る。

25類 (第121図13～19) 注口土器をまとめた。

13・14は磨消縄文帯を全体に施すもので、文様意匠は24類の蓋3や5と類似するものである。入組文と三叉文の17や「T」字状文の18がある。13は口径84mmを測る。13・14・18・19の外面には赤彩痕が残る。

26類 (第122～124図) 外面は無文となり、口唇部や内面に文様が施文される平縁の浅鉢。

A (第122～124図1～3、136図1～5) 口縁部が内湾ぎみに立ち上がり、口唇部の面に沈線や隆帯を貼付するもので、口唇部があまり肥厚しない122図1などや肥厚の大きい同図16などがあ

る。渦巻き状隆帯は斜行隆帯に扶まれて施される123図16の例があり、口唇部からはみ出す136図2～5への変化を想定できよう。口唇部の面は外面の器壁に対し鋭角となるものが多い。122図4・8・10・11・13・14・16～19、123図2・4・7・10・11・16・17、124図1・3、136図1・3に赤彩痕が残る。

B（第124図4～12）口縁端部が先細りとなり内面に沈線などを施すもので、細い沈線の5などや幅広沈線の8などがある。4は内面に幅広の面をもつものでごく緩い波状口縁となる。この面には三叉文を施し、これを扶む文様は連結三叉文と考えられる。口径283mmを測る。4・11は内外面、5は内面に赤彩痕が残る。

《前葉後半～中葉》

27類（第125～133図）平縁の深鉢。

A（第125～128図）羊歯状文が施文されるもので、その文様が直線化して退化した例と考えられるものも含めた。退化した例は2条沈線間の刻みや列点文、沈線内を連続刺突するものとした。羊歯状文の施文は、口縁部と胴上部の両方に施すものと、そのどちらかのものがある。器形がほぼ窺えるものを125～126図にまとめた。125図1を除いて器形は「く」の字状の口縁部となり、胴部文様帯の胴上部への移動と併に胴最大径部も上方へ上がっている。125図2～6、126図2・3の羊歯状文は彫刻的な施文である。125図1は御経塚式の器形を受け継ぎ、胴部文様は鍵の手文の上下に短線を入れ羊歯状文としている。鍵の手状の屈曲部に110図2の胴部文様例のように三叉文が添えられる部位があり、127図1の口縁部文様にも同様な三叉文が見られる。羊歯状文の古い様相であろう。125図1は口径166mm、胴径140mm、2は口径224mm、胴径217mm、3は口径112mm、胴径125mm、4は口径193mm、胴径176mm、5は口径173mm、胴径169mm、底径41mm、器高167mm、6は口径221mm、胴径220mm、底径45mmを測る。126図1は口径260mm、胴径237mm、2は口径252mm、胴径232mm、3は口径175mm、胴径194mmを測る。127図9は口径233mm、11は口径187mm、13は口径125mmを測り、同図15・18は外面に赤彩痕が残る。128図11は口径162mm、胴径182mm、16は口径307mm、胴径323mm、26は口径120mm、胴径106mm、27は口径123mmを測り、1・2・7・9・16・20の外面に赤彩痕が残る。

B（第129～130図）入組三叉文や入組文が施文されるものと、その退化例と考えられるもので、口縁部に施文されるものと胴上部に施文されるものがある。129図1は口径152mm、4は口径230mm、胴径200mm、13は口径240mm、胴径210mm、14は口径180mm、15は胴径155mm、20は胴径252mmを測り、同図8・11の外面と9の内外面に赤彩痕が残る。130図3は口径232mm、胴径224mm、12は胴径117mm、14は胴径248mmを測る。

G（第131～132図9）入組鍵の手文や鍵の手文が施文されるもの。入組鍵の手文では入組内に列点や縄文を施すものが見られる。131図1は口径180mm、胴径161mm、2は口径192mm、3は口径253mm、7は口径233mm、胴径238mm、14は胴径240mmを測り、7の外面に赤彩痕が残る。132図1は口径120mm、胴径119mm、底径54mm、器高127mm、4は口径308mmを測り、6には赤彩痕が残る。

D（第132図10～133図5）弧線文や「S」字状文が施文される胴部片をまとめた。132図12、133図3・5に赤彩痕が残る。

E（第133図7～9）口縁部が屈折しない器形で、沈線と列点文が施文されるもの。7・9には条痕文が見られる。

F (第146図～148図8) 口縁部に縄文を施すもの。口唇部は内側に肥厚し内面が低い段となるものと口唇部に三角形の挟りを入れるものが多い。146図2は口径193mm、5は口径114mm、6は口径144mm、7は口径230mm、9は口径86mm、10は口径180mm、12は口径176mm、14は口径152mm、18は口径162mmを測り、3・8・9・11・16・17の外面に赤彩痕が残る。147図5は口径237mm、9は口径314mm、胴径347mm、12は口径146mm、14は口径106mmを測り、8の外面に赤彩痕が残る。148図1は口径159mm、2は口径186mm、4は口径176mm、胴径212mm、6は口径154mm、8は口径120mmを測る。

G (第148図9～149図10、151図4～10・12・13・15～17・21・22) 横位や斜位の条痕文を施すもの。148～149図のものでは、口唇部の内側への肥厚は小さくなり「ハ」の字状沈線を口唇部に施すものが多い。151図は口縁部の屈曲が弱くなり、頸部に沈線内連続刺突文や2条沈線間に押引列点などを施すものである。149図1は口径352mm、5は口径137mm、6は口径156mmを測る。151図12は口径185mm、17は口径128mm、21は口径116mm、胴径120mm、底径65mm、器高121mm、22は口径327mmを測る。

H (第150図17・18、151図1～3・11・14・18～20) 縦位の条痕文を施すもの。屈曲部に列点文や沈線内連続刺突文を施文するものと、2条沈線間に押引列点などを入れるものが見られる。150図17は口径266mm、18は口径140mm、151図1は口径129mm、2は口径104mm、3は口径170mm、胴径178mm、14は口径170mm、19は口径128mm、20は口径100mmを測る。

I (第149図11～14、150図1～16) 口縁部が無文となるもの。前述の条痕施文のものと同様な文様が施文されるが、150図7には幅広の蛇行沈線文が見られる。149図12は口径169、150図5は口径180mm、7は口径118mm、胴径156mm、8は口径173mm、胴径177mmを測る。

28類 (第134図1～3・5・144図5～7) 波状口縁の浅鉢。

G (第134図1～3・5) 口縁部が「く」の字状に屈曲するもの。口縁部には縄文が施文され、1・2は三叉状入組文が施される。1は推定口径325mmで胴径は238mmを測る。2の外面に赤彩痕が残る。

B (第144図5～7) 外面が無文地となるもの。

29類 (第134図4・6～10、135図、136図、139図1～21・23～29、140図1) 平縁の浅鉢。

A (図134図4・6～10、135図7・11) 口縁部は「く」の字状に屈曲し外反ぎみとなり、底部は丸底状になるものと考えられる。134図6は口唇部に弧状の隆帯をもち、8は内面に珊瑚状装飾が見られる。4は口径319mm、器高126mm、10は口径235mmを測る。134図8の内外面、同図7・10と135図7の外面に赤彩痕が残る。

B (第134図11、135図1～6・8～10・12～14) 屈曲しない口縁部は内湾気味となる器形のもの。口縁部は縄文帯でその以下を無文とし、この境は段状となる。135図1は口径280mm、3は口径304mm、4は口径236mmを測る。134図11・135図1・3・12～14の外面に赤彩痕が残る。

G (第136図6～11) 外面を無文や条痕文とし、口唇部や内面に隆帯を貼付して飾るものをまとめた。6・9には珊瑚状装飾が施される。9は推定口径226mm、10は口径176mm、11は口径193mm、器高57mmを測り、6の口唇部と9の内面に赤彩痕が残る。

G (第137～138図) 外面が無文となる浅鉢をまとめた。口縁部は内湾ぎみとなり口唇部が内側に肥厚するものが多い。137図14は口径243mm、15は口径168mmを測る。138図1は口径360mm、9は

口径332mm、器高85mm、11は口径229mm、12は口径198mm、13は口径160mm、14は口径155mm、器高48mm、15は口径117mm、16・17は口径91mmを測り、16は内面に赤彩痕が残る。

G（第139図1～21・23～29、140図1）多様な施文の浅鉢をまとめた。口縁部が内湾し碗状の器形となるものや、口縁部が直線的なもの外反するものが見られる。小片が多く器形や文様の全体を窺われるものは少ない。139図1は羊歯状文が施されるもので、2～5はその退化文様であろう。同図8・10には雲形文が見られる。140図1は雲形文が直線化したものであろう。139図1は口径158mm、2は口径116mmを測り、11の内外面と3・5・7・8・15・17～20・28の外面に赤彩痕が残る。140図1は口径264mmを測る。

F（第140図2～5）口縁部が内湾し胴の張るもので、壺様のものも含めた。口縁部に雲形文風の文様が施文される2～4には磨消縄文手法が見られる。2・3は赤彩痕が残る。

G（第140図7～13）口縁端部を縄文帯としその以下は無文となるもので、区画沈線が施されるものが多い。やや身の深いものであろう。口径は11が128mm、12は152mmを測る。7・8・11・13の外面に赤彩痕が残る。

H（第139図22、140図14～141図）口縁部に平行沈線を施すもので、ほとんどの体部は無文となる。口縁部は内湾し身の深いものと浅いものに分けられる。口唇部や内面上部に沈線を施文するものが見られる。141図1・4は突起状の例と判断した。140図14は口径120mm、15は口径149mm、16は口径214mm、17は口径286mmを測り、15には赤彩痕が残る。141図12は口径175mmを測り、2の内外面、3・7・9・15・17・23・25の外面に赤彩痕が残る。

30類（第142～143図）蓋をまとめた。

文様は深鉢で見られる羊歯状文や入組三叉文、鍵の手文などが施される。つまみ部上面には三角形に挟まれるものが多い。143図8は中葉後半期の所産であろう。142図12は口径152、13は口径200mm、24は口径136mmを測り、2・4～8・10・12・16・20・23・24・26の外面に赤彩痕が残る。143図3は口径92mm、6は口径255mm、7は口径130mm、11は口径140mmを測り、3～8・10・11・13・14・16・19・22・27・28の外面に赤彩痕が残る。

31類（第133図6・10、144図1～4・8～12、145図）壺や壺様の器形と考えられるもの。

133図6は口径220を測り口縁部に縄文帯と列点文を施す。同図10は肩部に縄文帯をもち外面に赤彩痕が残るものである。144図1・2はくの字状口縁で内面に入組三叉文風の装飾が施され、3も含めて口縁部には2個一対の穿孔をする。同図8は雲形文が施される丁寧な作りである。東北地方からの搬入品であろう。同図9は筒状の頸部とくの字口縁の口縁部に1個の穿孔をするものである。頸部中央には刻み入の凸帯がめぐる。同図10・11・12は外面が丁寧に磨かれる無文のもので、11は新潟県寺地遺跡に類例が見られ中葉前半に位置づけられている（石川1987）。第144図1は口径132mm、胴径178mm、器高107mm、2は口径94mm、3は口径73mm、4は口径68mm、胴径106mm、9は口径55mm、頸径42mm、10は口径72mm、胴径106mm、11は口径73mm、胴径87mm、12は口径162mm、13は口径33mmを測り、9・10の外面に赤彩痕が残る。145図7～12は頸部破片で沈線区画内に弧線文や蛇行沈線文、工字状文が施文されるもので、中葉後半の所産であろう。13～15は壺様の器形と推定するものである。145図1は口径122mm、2は口径136mm、3は口径122mm、4は口径90mm、5は口径89mm、6は口径180mmを測り、3・6・9の外面には赤彩痕が残る。

32類（第144図14～21）注口土器の注口部をまとめた。16には赤彩痕が残る。

33類 (第140図6) 器形の不明なもの。

牙状の沈線文が向かい合う特徴的な文様が2段に施文される。また縦位隆帯の両側は渦巻き文となる。

《中葉後半～後葉》

34類 (第152～153図) 平縁の深鉢。

A (第152図1～3) 口縁部に刻目凸帯をもつもの。2は口唇部にゆるい「S」字状の押圧が見られる。

B (第152図4～24、153図1～17) 口縁部や頸部に2条沈線間の押引列点文や列点、または沈線を施文するもの。口唇部は面取りするもの、先細りとなるもの、外側へ折り返すものがある。器形は口縁部が外反するものと大きく内湾するものがある。口縁部の外反するものでは上方に立ち上がるものと内傾するものに分かれる。大きく内湾する器形の153図1(2は同一個体)や3は第3章第10図8に類似するものである。152図20は口径146を測り、4・17の外面に赤彩痕が残る。153図1は口径268mm、15は口径156mmを測る。

C (第153図18・19) 「く」の字状の口縁部が緩く内湾するもので、口縁部と頸部に2条の沈線が施される。

D (第153図20～22) 外反する口縁部の端部がやや肥厚し、櫛状のもので外側から刻むもの。22は刻みの下に指頭による幅広の沈線が施文される。富山県上市町眼目新丸山A遺跡に類例が見られる(酒井1975)。

E (第153図23) 外反する口縁端部を縦に刻み沈線を施すもので、浮線網状文系の土器であろう。

35類 (第154図、157図1～5) 壺。

A (第154図1～4) 工字状文の施文など東日本の影響を受けたもの。1は、いわゆるA突起を有し大洞C2式段階に位置づけられるもので、搬入土器であろう。2～3は口縁端部を肥厚させ工字状文とするものである。4は口径187mm、胴径263mmを測る。

B (第154図5～12) 凸帯文系の土器である。東海や西日本地域の影響を受けたもので、口縁部は外反しつつ内傾し、端部を肥厚させ凸帯状とする。11は口縁端部と肩部の2条沈線間を凸帯とするものである。肩部では上の沈線部の器壁を薄くして凸帯を強調させている。6は口径203mm、11は口径139mm、胴径204mm、12は口径187mmを測り、10の内外面と8・9・11の外面に赤彩痕が残る。

C (第154図13～15) 外反する口縁端部に沈線を入れるもので、口唇部は肥厚しない。13は口径96mm、14は口径128mm、15は口径150mmを測る。

D (第154図16・17) 口縁部の隆帯を押圧するもので、17には赤彩痕が残る。

E (第157図1～5) 口縁部に幅広の沈線を施文し浮線状とするもの。1は口径103mm、3は口径90mm、4は口径160mm、5は口径173mmを測り、1の外面に赤彩痕が残る。

G (第157図15) 筒状の器形となり、で肥厚する口縁部内面を凹線状とするもので、口径は158mmである。

36類 (第155～157図7～9・12～14・16～21、158～159図) 浅鉢。

G (第155図1～12・17) 眼鏡状凸帯を持つ浅鉢とその系統のもので、胴部には工字状文が施される。11・12は口縁部の内傾がきつくなり、端部は肥厚し三角状の挟りを連続する。11は屈折部

に凸帯が残るものの刻まれていない。17は口縁部が屈折しない碗状の器形である。眼鏡状凸帯は刻みに退化したものと考えられ、弧線連結状となる工字状文内には明確な靱圧痕が見られる。5は口径236mm、6は口径235mm、11は口径228mm、17は口径285mmを測り、2・8・10・16の外面に赤彩痕が残る。

B（第155図13、156図1～33）口縁部が内湾ぎみとなり碗状の器形のもの。32・33の文様構成は不明であるが他には工字状文が施文される。楕円区画工字状文が多く、なかには菱形状のものも見られる。2・3・14は浮線状となる。155図13は肥厚する口縁部を菱形状に浅く抉るものである。156図1・2・5・8・15・16・25・30の外面に赤彩痕が残る。

C（第155図14～16）口縁部は外反するが体部全体は内傾し胴の張る器形のもの。

D（第155図18）口縁部に幅広の凹帯をほどこすもので、外面には下向きの「U」字形の剥離痕があり把手状のものが付いていたものと推定する。内外面には煤が付着する。

E（第157図7・8、158図1・2）皿状の器形で弧線文を施文するもの。内面には沈線が施されている。157図8の内外面に赤彩痕が残る。158図1は口径255mm、底径68mm、器高69mm、2は口径206mm、底径75mm、器高49mmを測り、2の内外面に赤彩痕が残る。

F（第157図9）口縁部が「逆ハ」の字状に大きく広がる器形のもので、口縁部と胴部に2条の沈線、口唇部と内面にも沈線が見られる。口径275mm、底径80mm、器高128mmを測る。凸帯文土器の影響を感じる土器である。

G（第156図34・35、157図12～14・16）口縁部が内湾し外面に沈線や列点を施文するもの。16の外面に赤彩痕が残る。

H（第157図17～21、159図8）胴上部で屈折し口縁部が外反するもので、口縁部に沈線が施される。157図では口縁端部の内外面に沈線を施すものが多く凸帯文土器の影響を受けた例であろう。

I（第158図3～15）皿状の器形で外面や内面に沈線をほどこすもの。

J（第159図1～7）凸帯文系の土器で東海や西日本地域の影響を受けたもの。1は片口状の器形で丸底ぎみになるものと推定する。2～6は胴上部で屈折するものである。1は推定口径150～160mmで、外面全体と内面は口縁から2cmほどが赤彩されている。5は口径173mmを測る。6の外面に赤彩痕が残る。

37類（第157図6・10・11）コップ形の形態のもの。

6・10には弧線文が施文される。6の外面は3段の文様構成となり、口径98cmを測る。

(3) 縄文・条痕・無文の土器

縄文が施文される粗製深鉢の代表的なものを第160・161図にまとめた。器形は胴部上部から内湾し立ち上がる。また口縁部内面を押圧するものが見られる。口径は160図3の399mm、161図11の377mmが大きく、他は30cm前後である。160図では4・6がLR縄文、他はRL縄文が施される。161図では5が1段のLr縄文、3・6・7・10・11はLR縄文、他はRL縄文が施される。図示した25点の内LR縄文が7点、RL縄文は19点である。

条痕文が施文される粗製深鉢を第162図～165図にまとめた。器形は胴部上部から内湾し立ち上がるもの、直線的に立ち上がるもの、口縁部が外反するもの、くの字状の口縁になるものがある。口径の最も大きなものは47cmほどの164図2・3があるが40cmを超えるものは少ない。ほとんどは口径27～33cmの範囲に収まり、これ以外は38cm前後と20cm前半代、15cm前後あたりとな

る。

無文となる深鉢を第166・167図にまとめた。器形は波状口縁となるもの以外は条痕施文と同様である。口径40cmほどの大きなものもあるが、20cm前後のものが多い。

(4)土器底部

土器底部の出土点数は合計1925点であるが、図版では底部圧痕の代表的なものの提示とする。圧痕種別集計表を作成したので参照いただきたい。第168図は網代圧痕のもので編み方は全点2本越え2本潜り1本送りである。169図は簾状圧痕のものである。170図1～6は編布圧痕と判断したものである。7はタテ条が放射状になることからカゴ底圧痕とした。8・9は木葉痕で広葉樹の圧痕が観察できる。10は柵圧痕が見られる底部である。柵の圧痕は縦6mm、幅3mmを測る。細片のため時期は不明だが、胎土は縄文土器のものである。

地区	層位	網代	簾状	木葉	編布	カゴ底	その他	無文
1S	2	76	47	1	3	1	12	126
	3	96	55	2	6			377
	4・5	80	29	7	3			211
2S	2	24	34				18	75
	2～3	4	3	5	1			10
	3	17	7				5	30
1N	2	34	29				9	77
	2～3	5	4	7			2	10
	3	22	5					48
2N	2～3	60	21	7			14	129
2A	2	14	8		1	1	3	29
3A	2	8	3	1				9
合計	1925	440	245	30	14	2	61	1131
%	100	22.9	12.7	1.6	0.7	0.1	3.2	58.8

4 土製品

(1)土偶 (第171図)

1は1S区H2グリッド最下層の5層から出土した頭部である。顔面はやや平坦であるが、頭部全体としてはほぼ球状となる。眉と目は沈線で表現され、隆帯を貼付した大きめの鼻には鼻腔を刺突する。耳の部分には剥離痕がある。頭頂には沈線を1条施す。2は肩から腰の部分で1S区J2グリッド最下層の5層から出土した。沈線の起点に巻貝の殻頂刺突を施す。1・2は出土状況と施文手法から後期後葉の所産である。3は左側の胸から腕にあたる部分で、2N区B5グリッドの2層下位から出土した。乳房を突出させ、沈線の起点に巻貝の殻頂刺突を施すもので後期後葉の所産である。4は肩の部分と考えられる。2S区E5グリッド3層からの出土である。5は2N区C7グリッドから出土した半球状の頭部である。顔面は平坦で眉と鼻は隆帯で表現し、後頭部には同心円文を施す。6は中空土偶の左胸部で1S区H2グリッド4層から出土した。半球状の乳房と磨消縄文帯が見られ、赤彩痕が残る。7は中空土偶の頭部から左胸の部分で1S区L2グリッド3層から出土した。顔面は上部が半円状となり頬から顎にかけてややすぼまる平面形で、頭部は半球状となる。眉と鼻は「T」字状の隆帯を貼付し、眼球部は浅く挟り中央を刺突している。肩の2条沈線間には縄文が施され、その下に乳房を表す突起がある。器壁は6よりも厚い。6・7は晩期の所産であろう。外面には赤彩痕が残る。2・7は高堀他1983年の報告書に誤って掲載された

もので訂正して頂きたい。

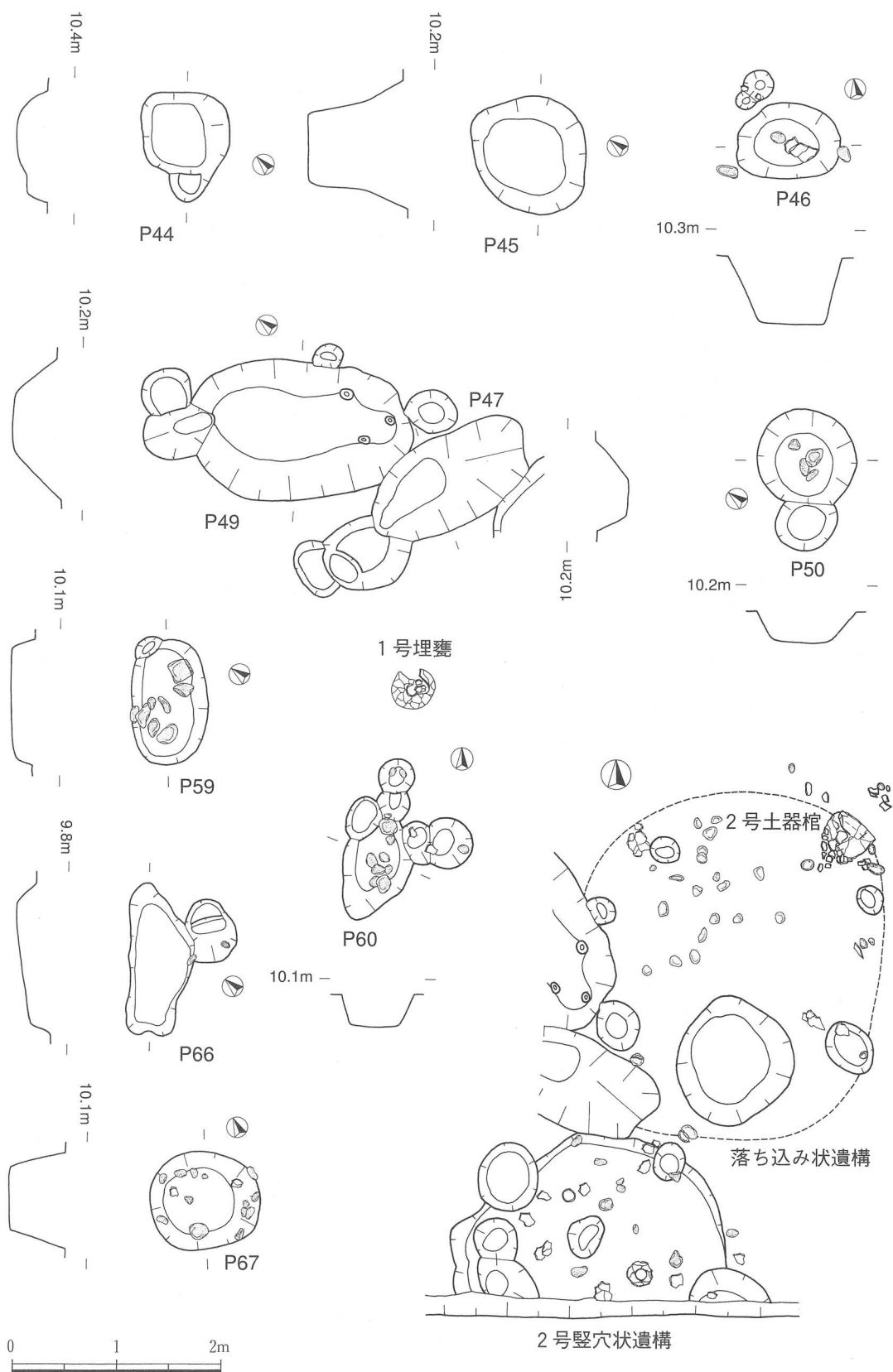
(2)土製円盤・有孔球状土製品 (第172図)

土製円盤は土器片を円形や隅丸方形状、楕円状に整形されたものである。1・2は中央部が穿孔される。3は穿孔途中のものである。最も大きい15は58×55mm、最も小さい20は34×30mmを測る。

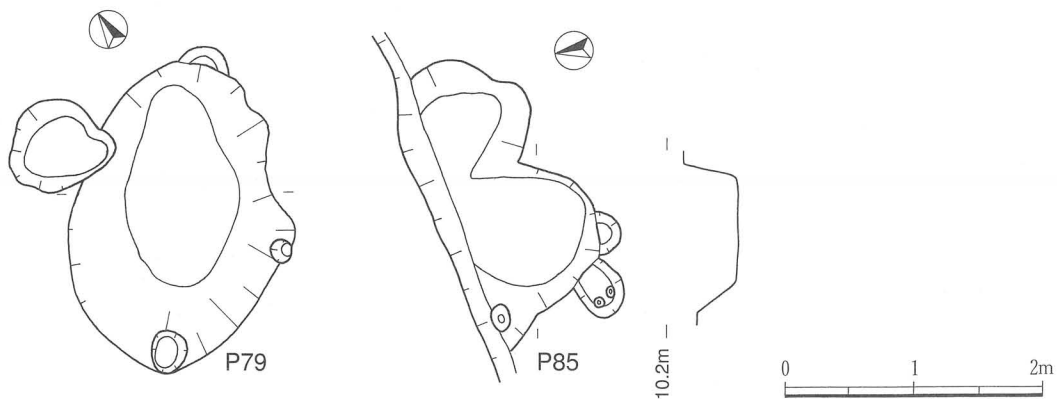
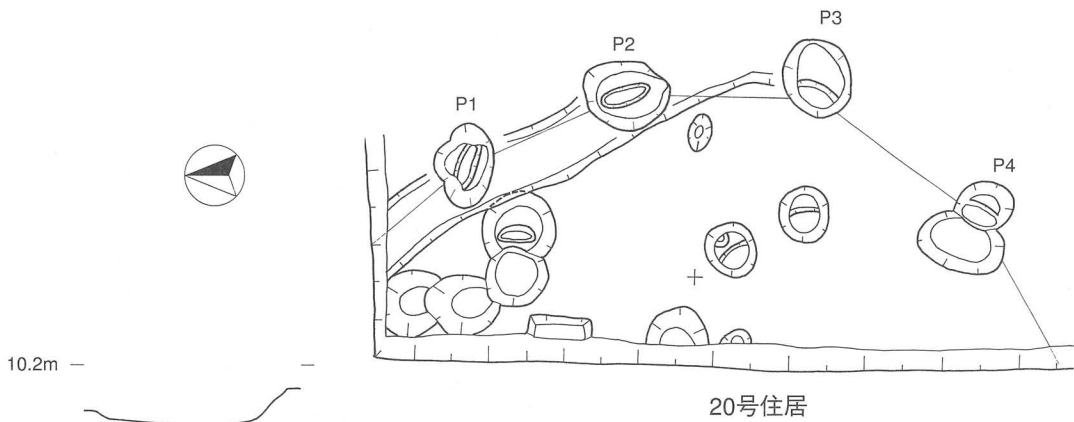
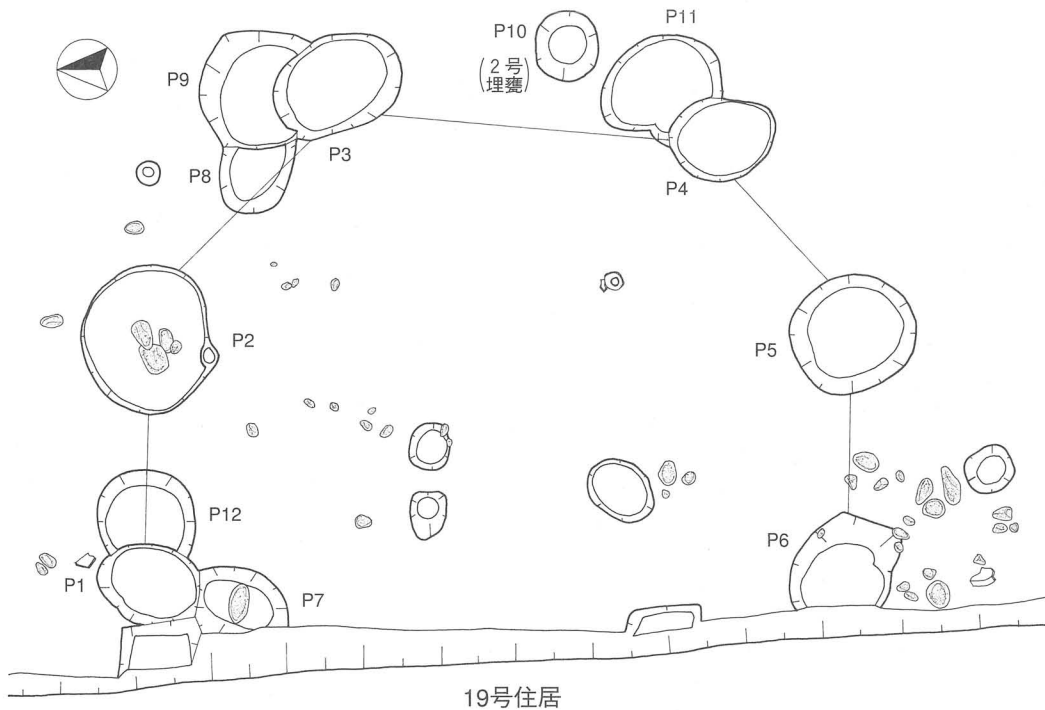
有孔球状土製品21はほぼ球体の形状となるもので直径は78mmとなる。孔径は6mmである。

5 石器・石製品

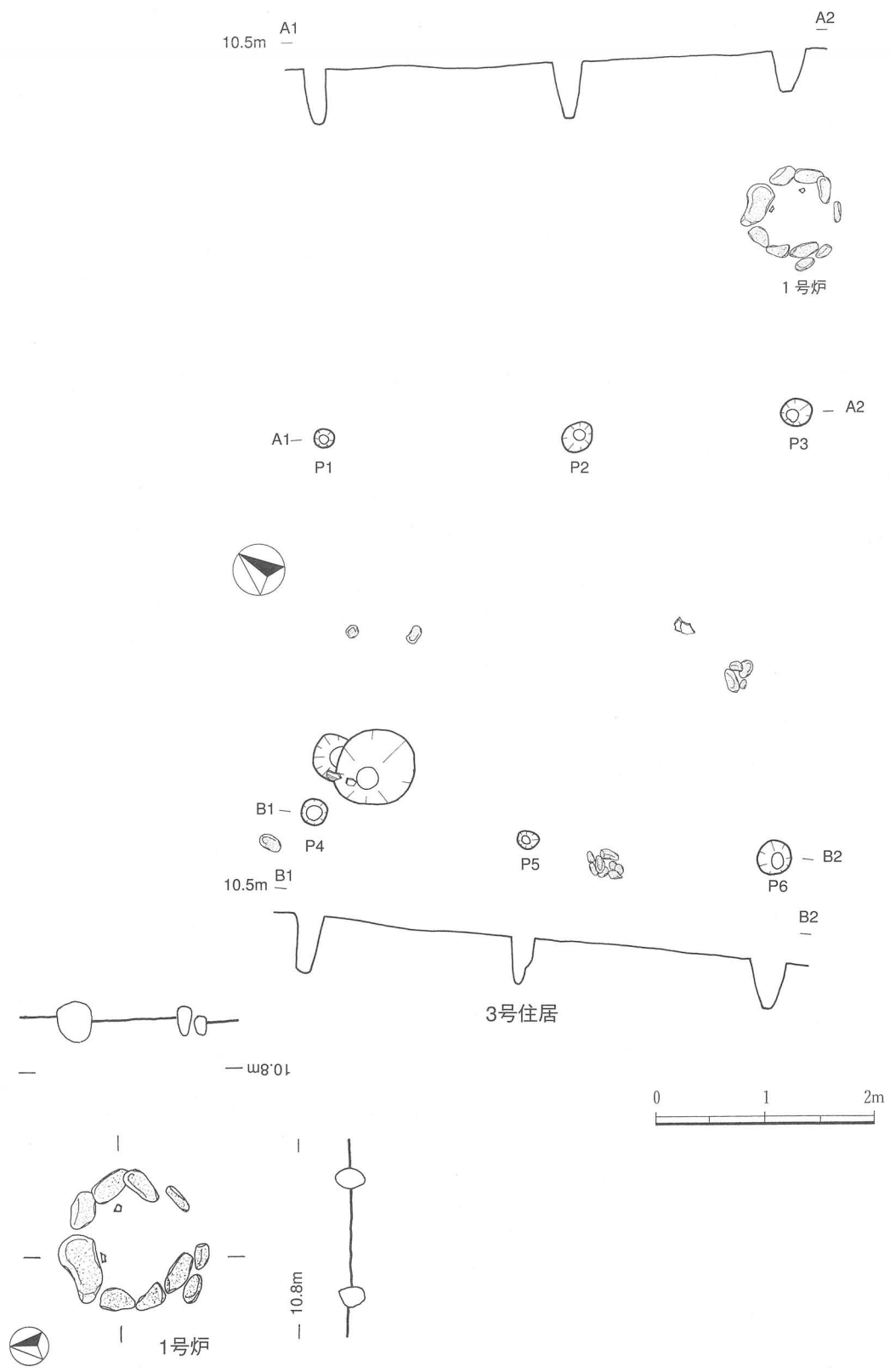
石器・石製品については第173～189図に掲載した。それぞれの報告点数と（ ）内の出土点数は、打製石斧50点（306点）、磨製石斧16点（29点）、石鍬74点（224点）、石錐28点（34点）、石匙・刃器3点（〃）、敲石19点（97点）、磨石19点（44点）、砥石点（12点）、石錘7点（〃）、石皿5点（62点）、石棒類21点（〃）石冠12点（〃）、玉類13点（〃）、その他不明のもの3点（〃）である。出土点数の合計は867点である。大きさや石質、出土地点などは一覧表を参照されたい。



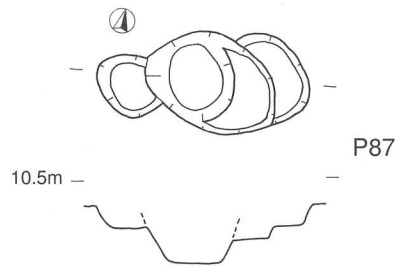
第59図 1N区 土坑 (P44~47・49・50・59・60・66・67)・2号竖穴状遺構・落ち込み状遺構 (1/60)



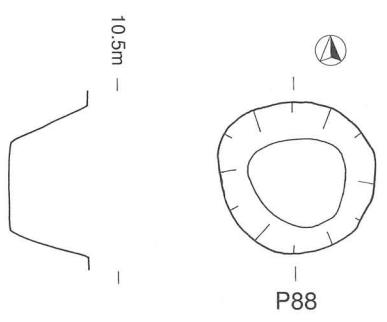
第60图 1S区 19·20号住居 P79·85土坑 (1/60)



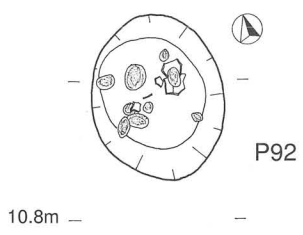
第61图 2S区 3号住居 (1/60) · 1号炉 (1/40)



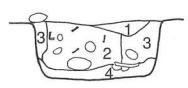
P87



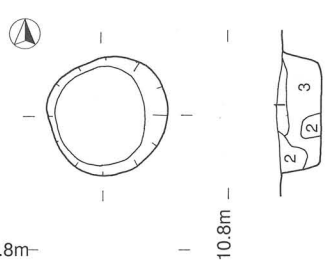
P88



P92

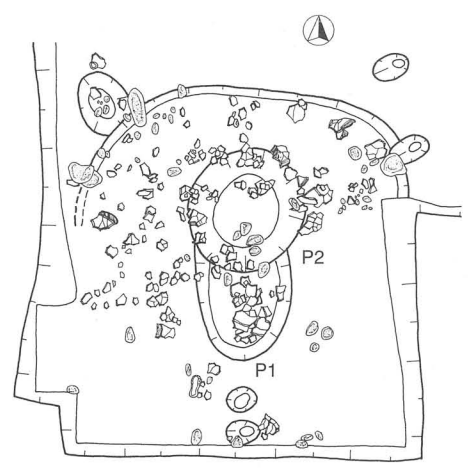


- 1 暗灰褐色質土
- 2 灰褐色粘質土 (炭化物混)
- 3 灰褐色粘質土 (地山混)
- 4 暗褐色粘質土 (炭化物混)

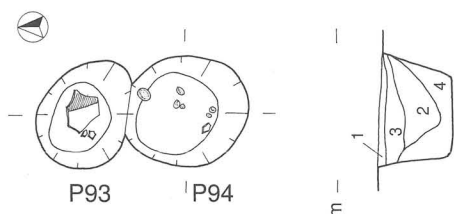


P95

- 1 灰褐色粘質土
- 2 灰褐色粘質土 (地山混)
- 3 黑褐色粘質土

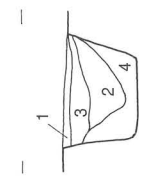


2号竖穴状遺構



P93

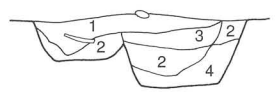
P94



10.8m

10.8m

- 1 灰褐色粘質土
- 2 灰褐色粘質土 (他山混)
- 3 黑褐色粘質土
- 4 黑褐色粘質土 (他山混)



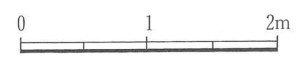
P99

P97

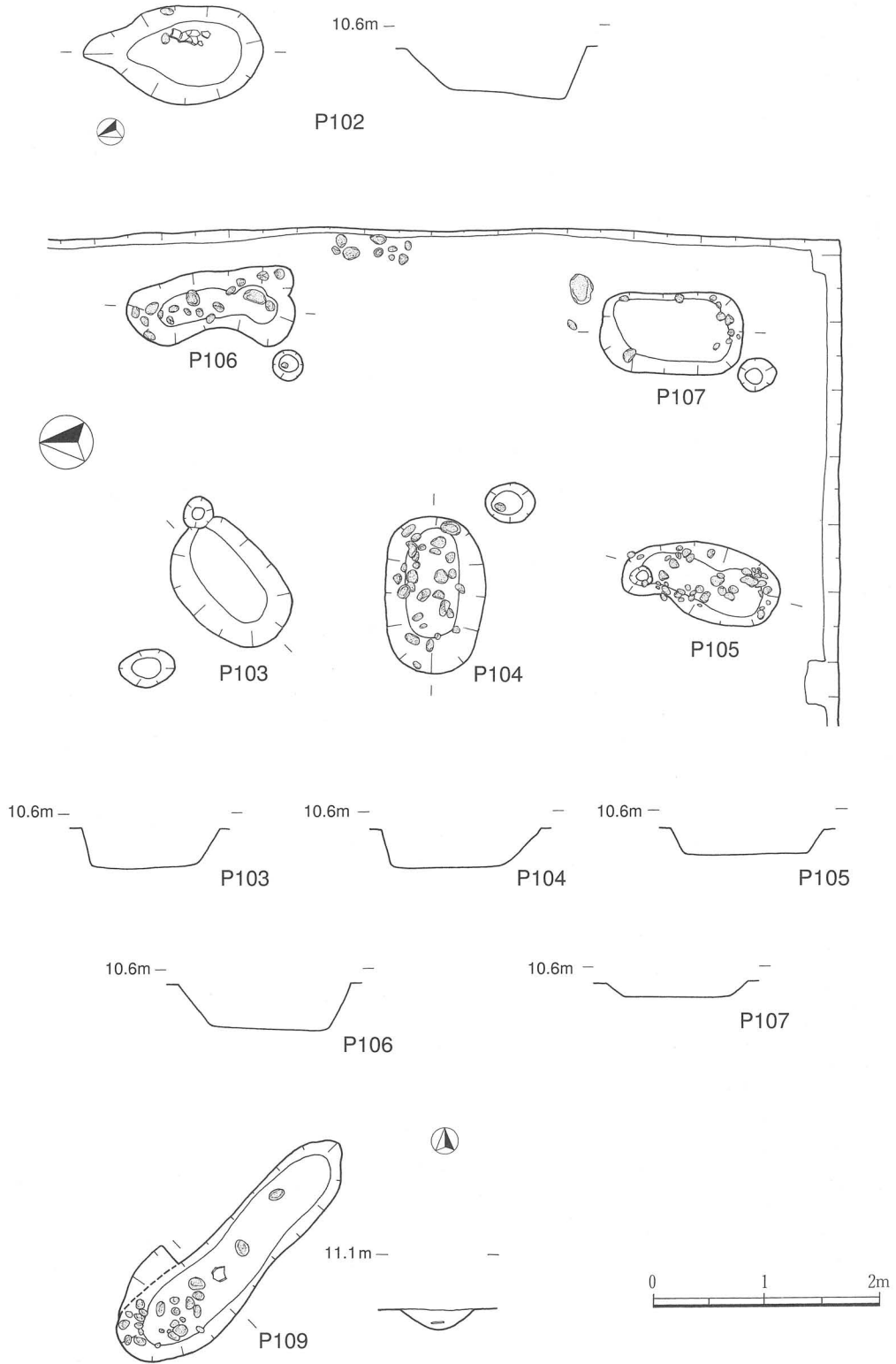
P98

10.6m

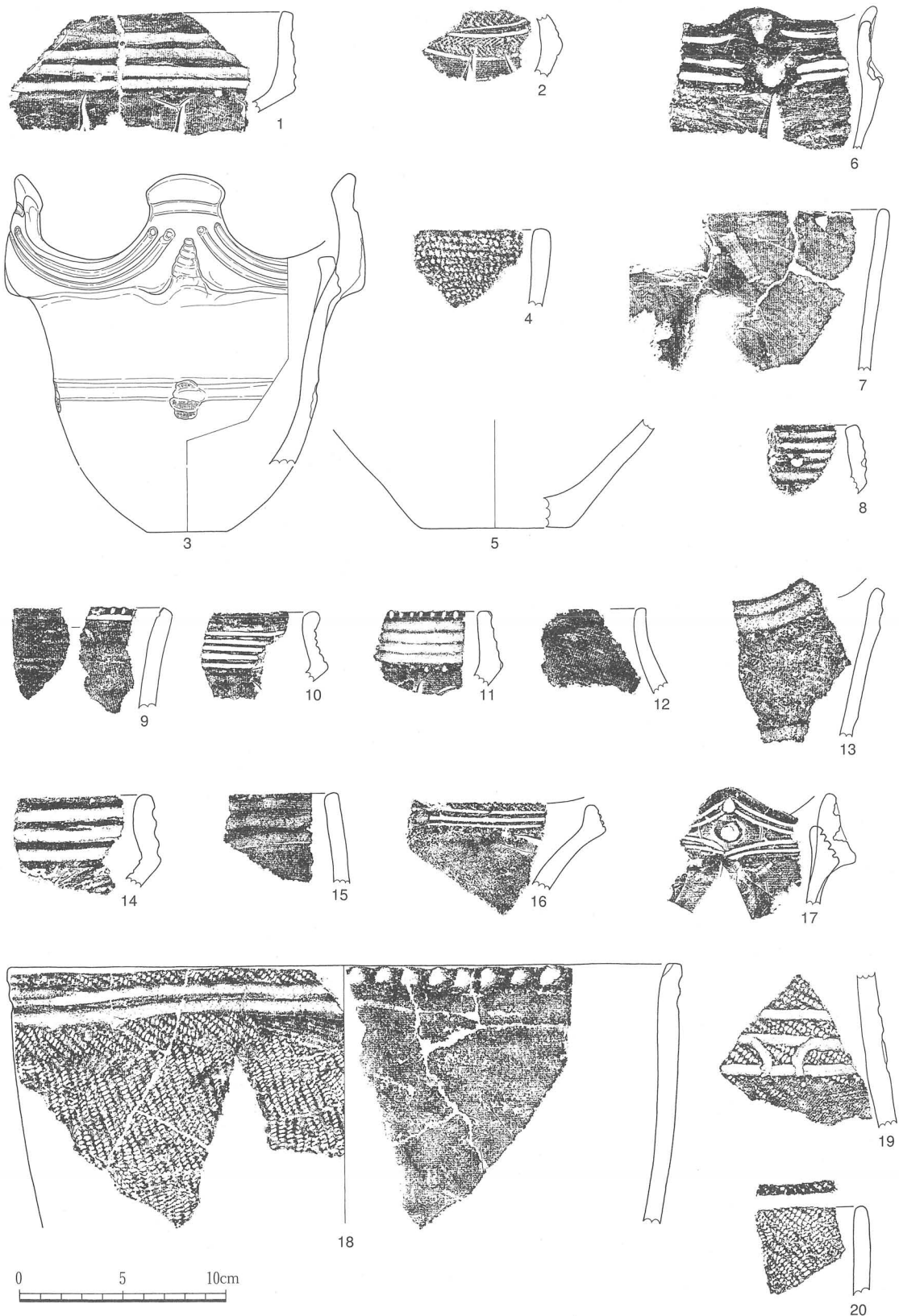
10.6m



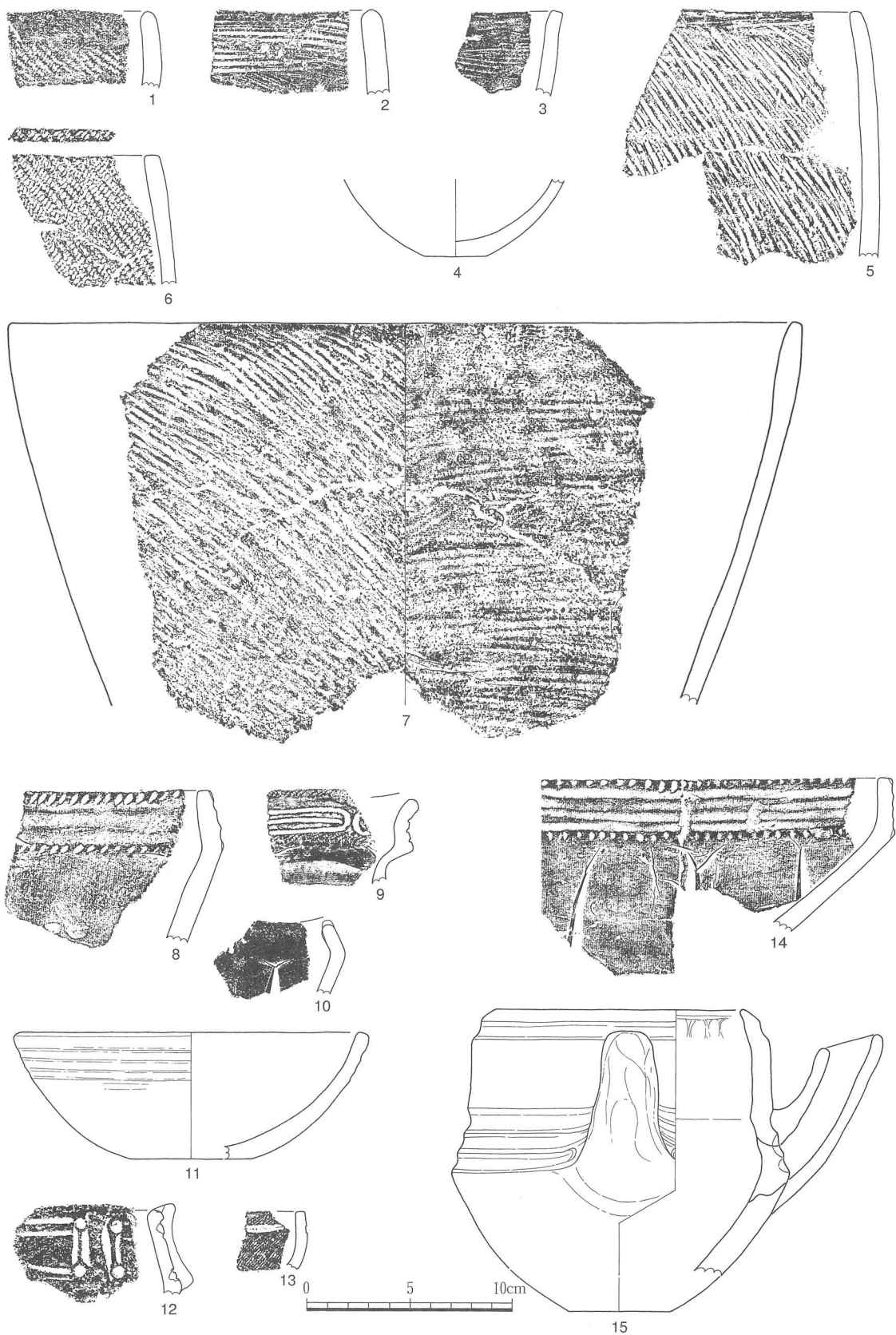
第62図 2N区 P87・88・2号竖穴状遺構 2S区 P92~95・97~99 (1/3)



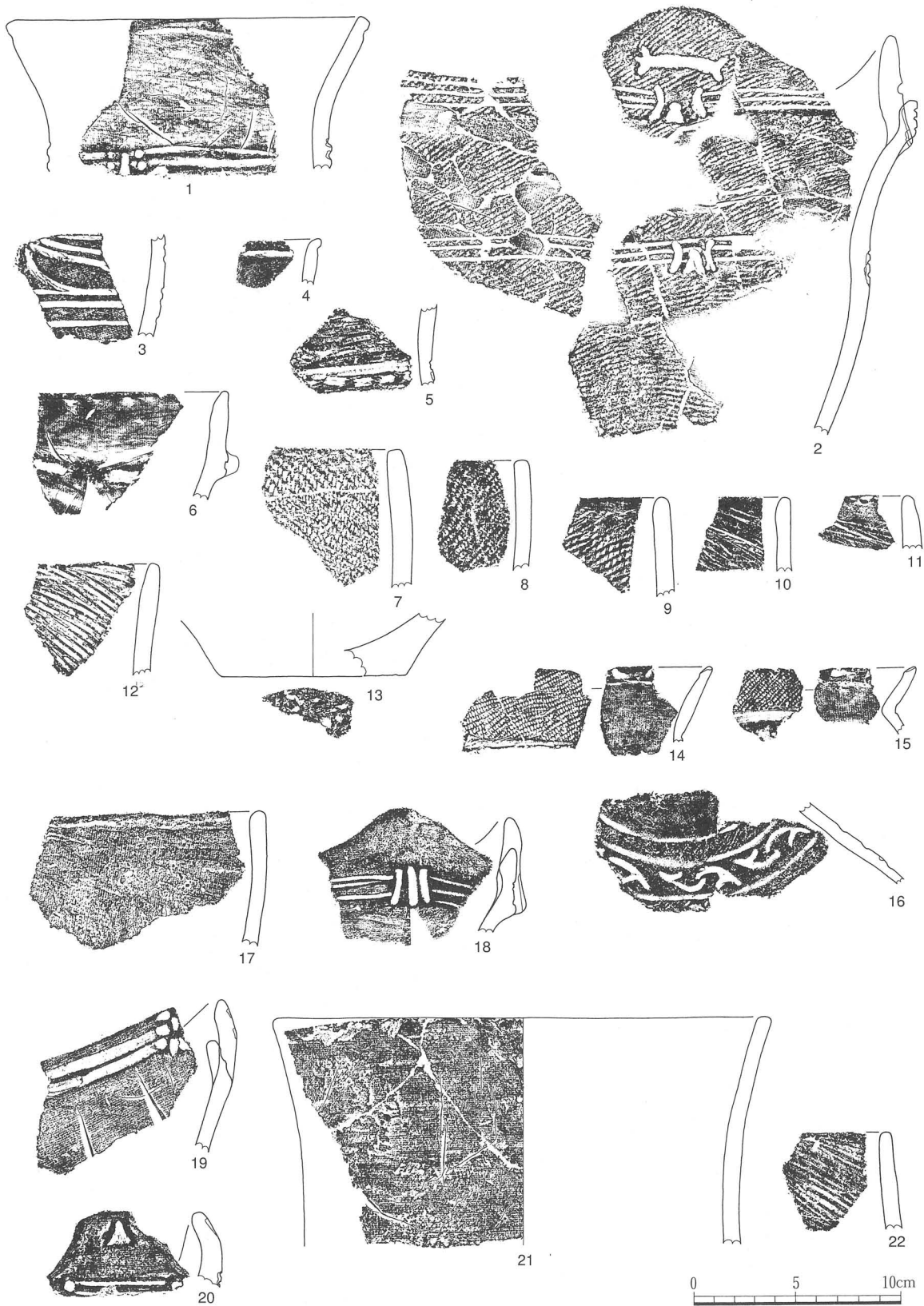
第63图 2S区 P102~107、3A区 P109 (1/60)



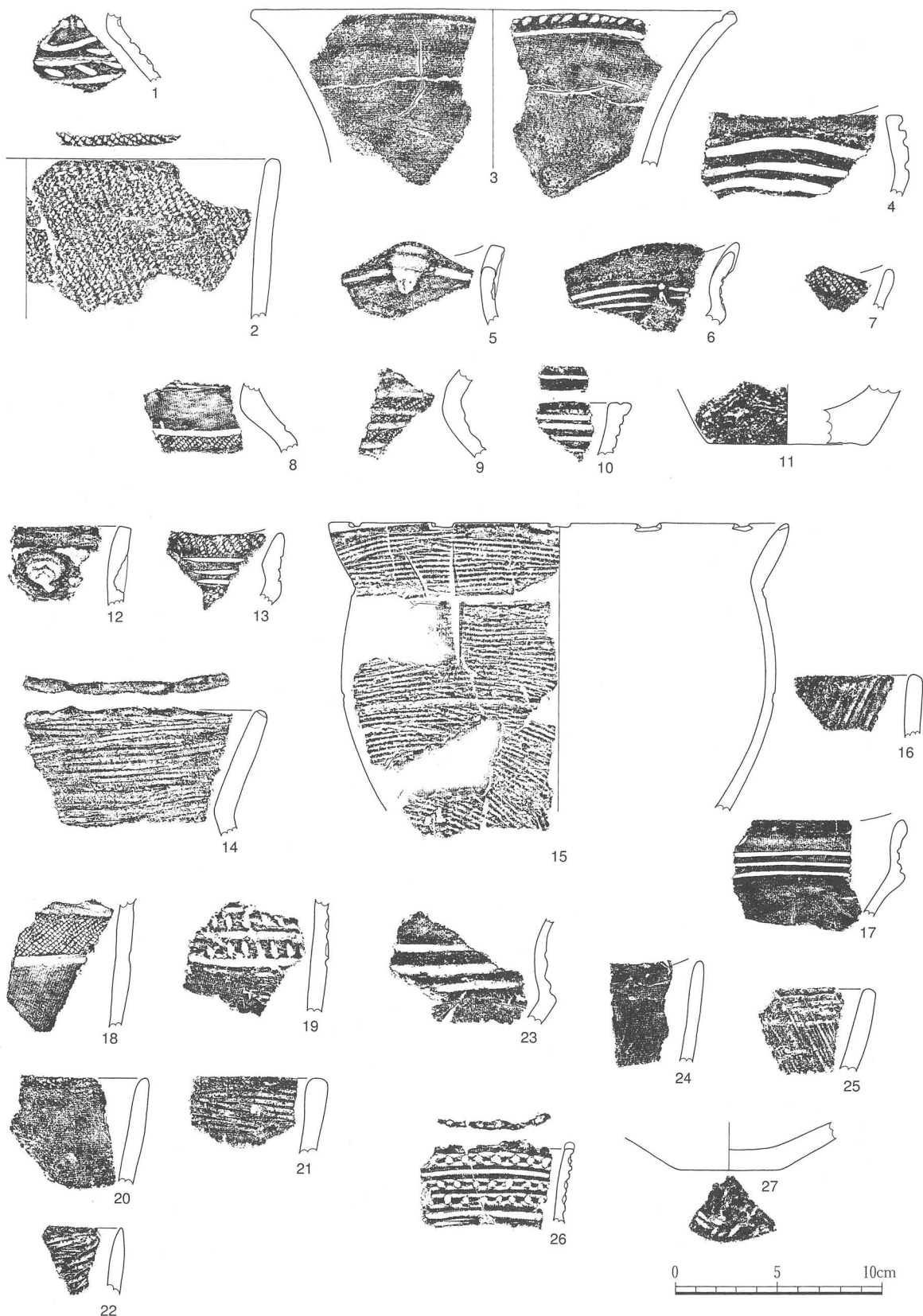
第64图 1N区遺構出土土器① (1/3) P38(1)·P39(2)·P40(3~5)·P41(6)·P42(7·8)·P43(9·10)·P44(11·12)·P45(13~20)



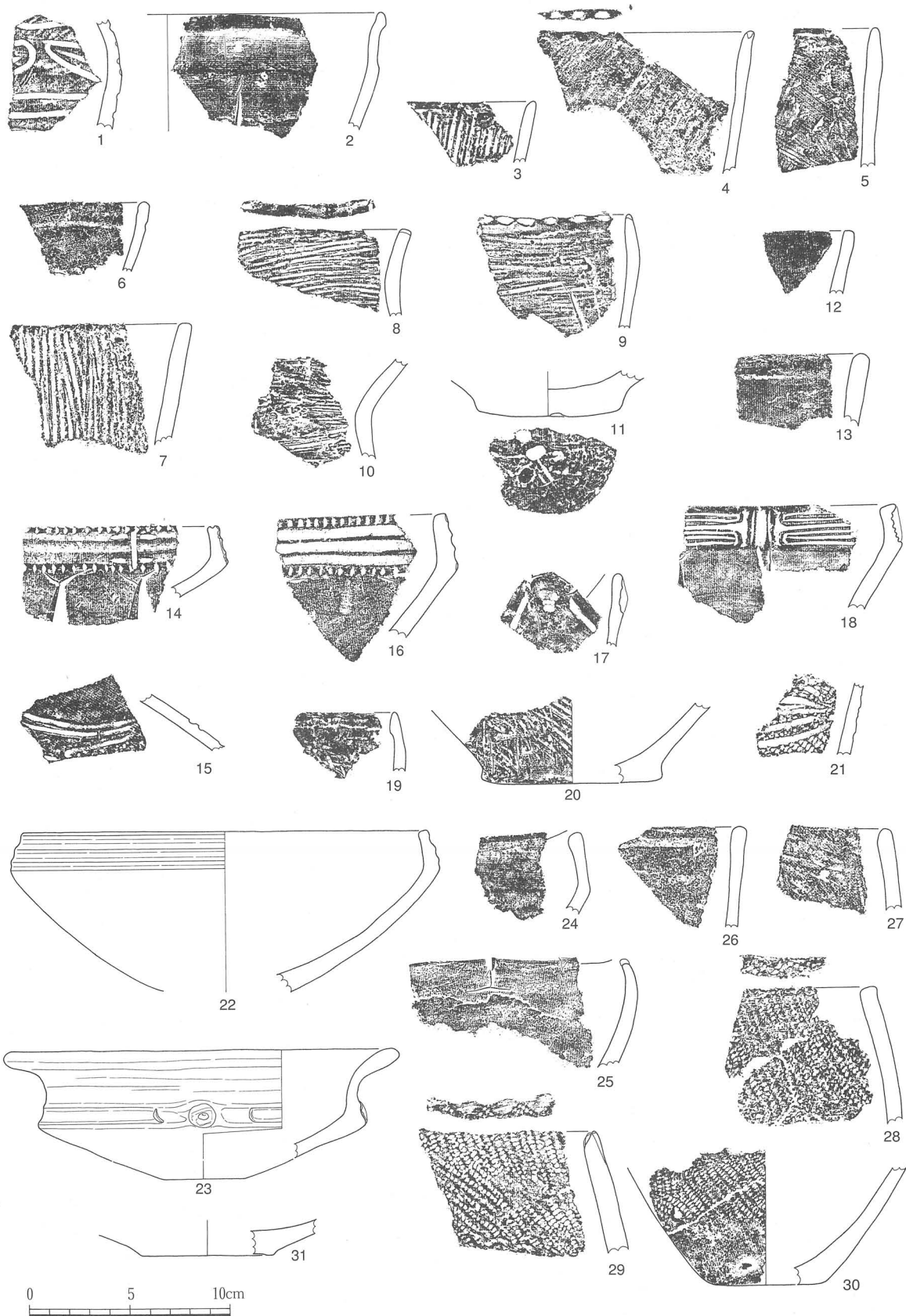
第65図 1N区遺構出土土器② (1/3) P45(1~5)・P46(6・7)・P47(8~11)・P48(12・13)・P49(14~15)



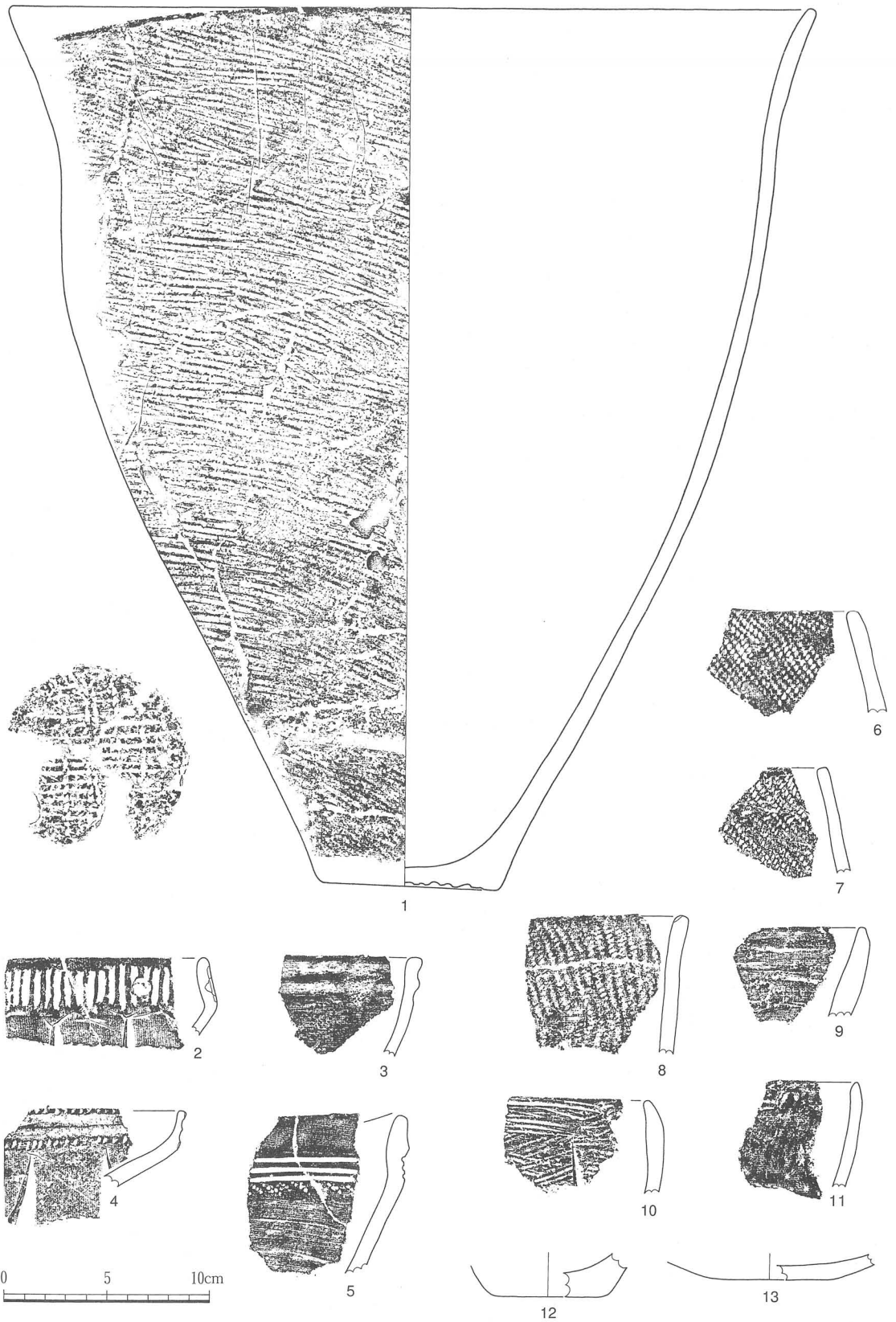
第66图 1N区遺構出土土器③ (1/3) P49(1~13)·P50(14~16)·P51(17)·P52(18)·P53(19~22)



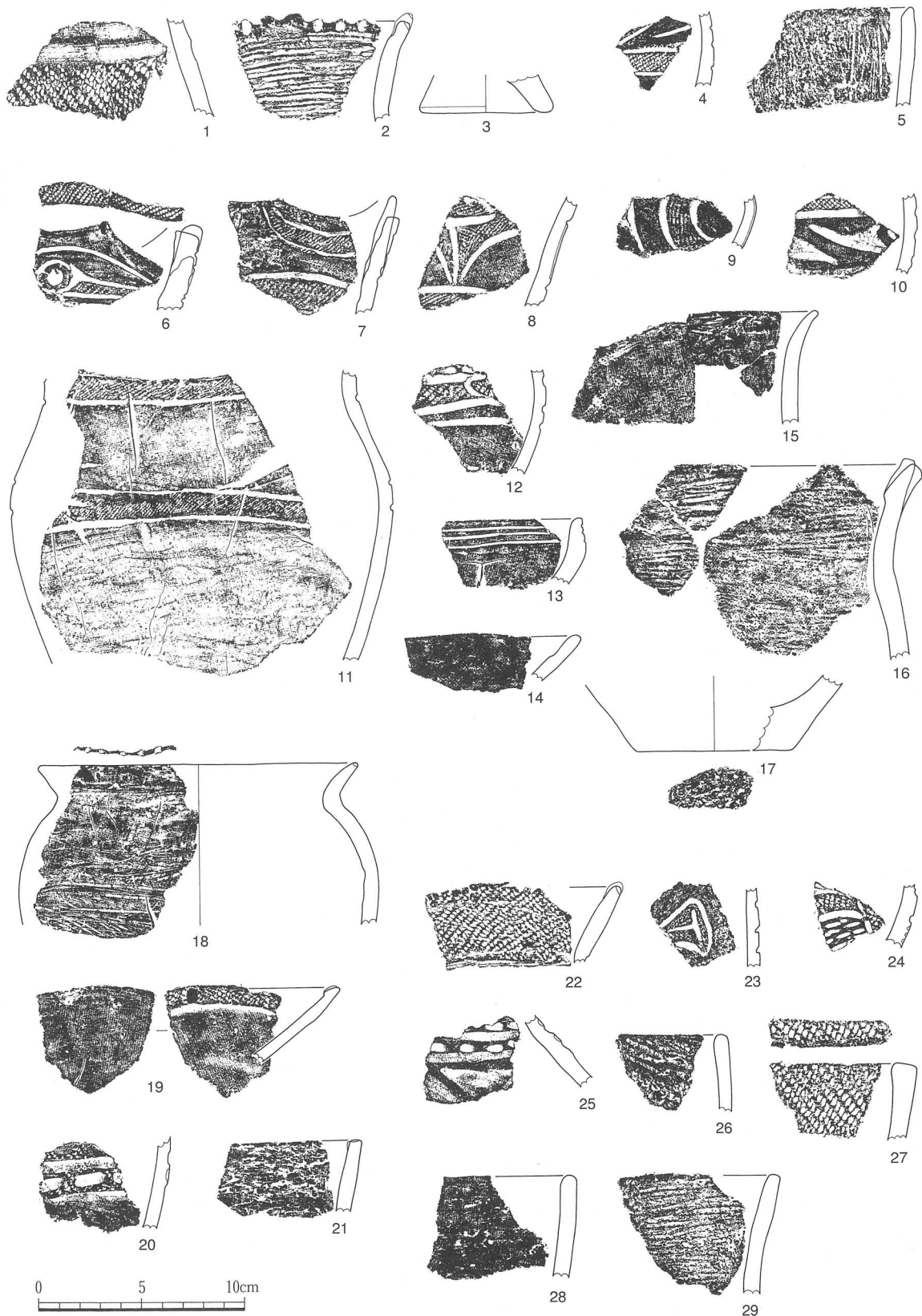
第67图 1N区遺構出土土器④ (1/3) P54(1·2)·P55(3~11)·P56(12~14)·P57(15)·P58(16)·
P59(17)·P60(18~22)·P61(23)·P62(24)·P63(25)·P64(26·27)



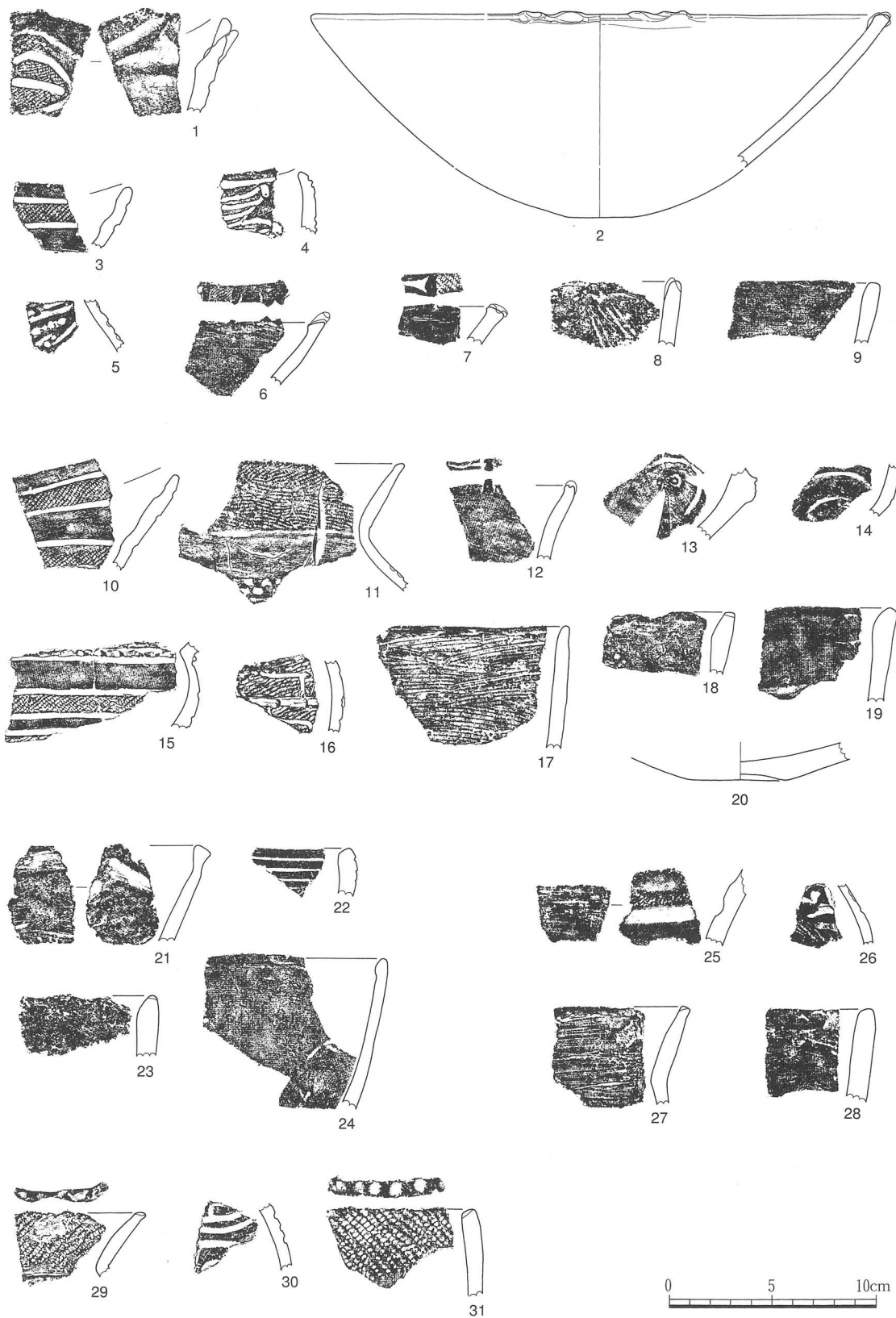
第68图 1N区遺構出土土器⑤ (1/3) P65(1~5)·P66(6·7)·P67(8~11)·P68(12~13)·P69(14)·
P70(15)·P71(16~20)·P72(21)·2号竖穴状遺構(22~31)



第69図 1N区遺構出土土器⑥ (1/3) 2号土器棺(1)・落ち込み状遺構(2~13)



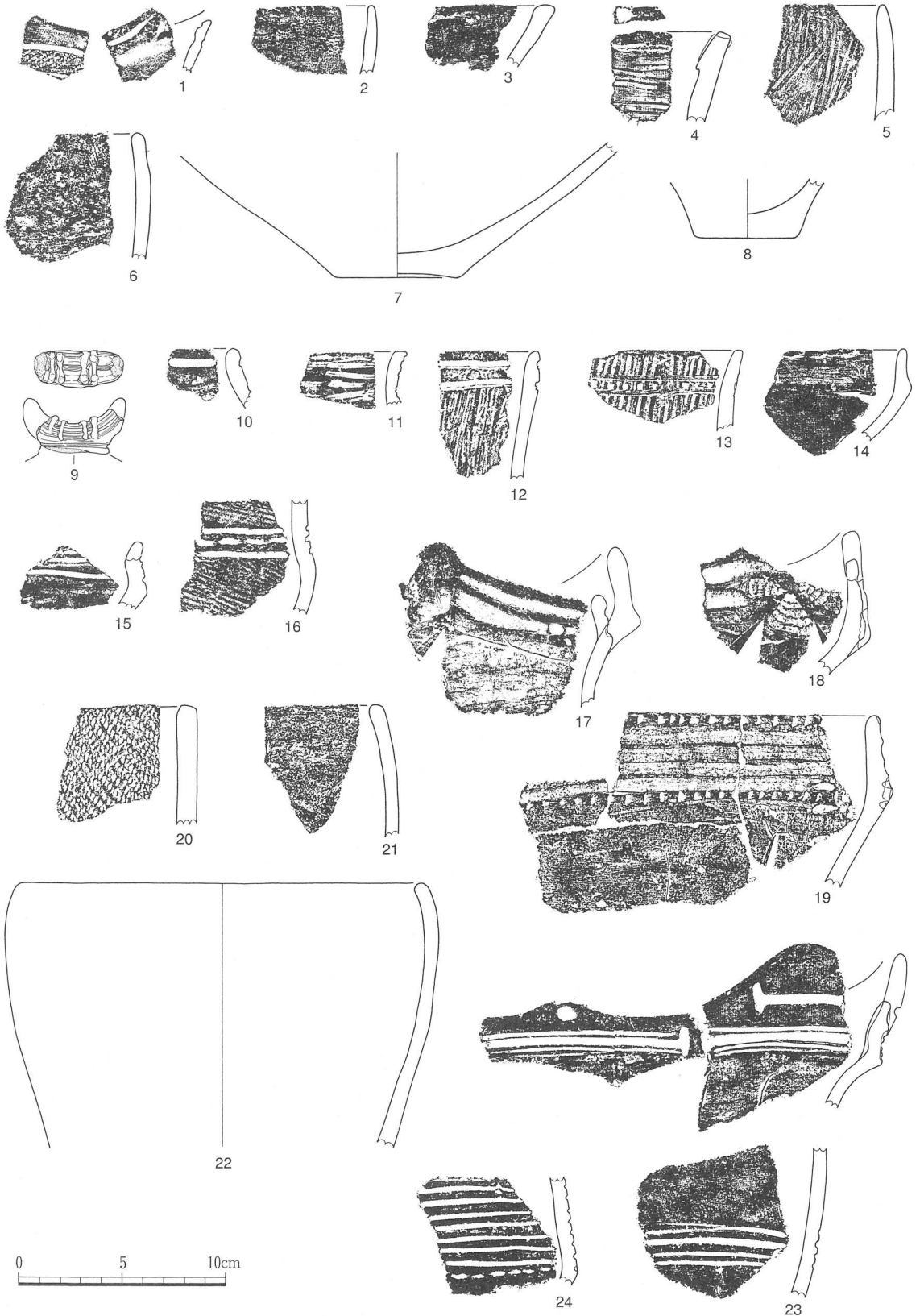
第70图 1S区遺構出土土器① (1/3) 19号住居 P1(1~3)·P2(4·5)·P3(6~17)·P4(18~21)·P5 (22~29)



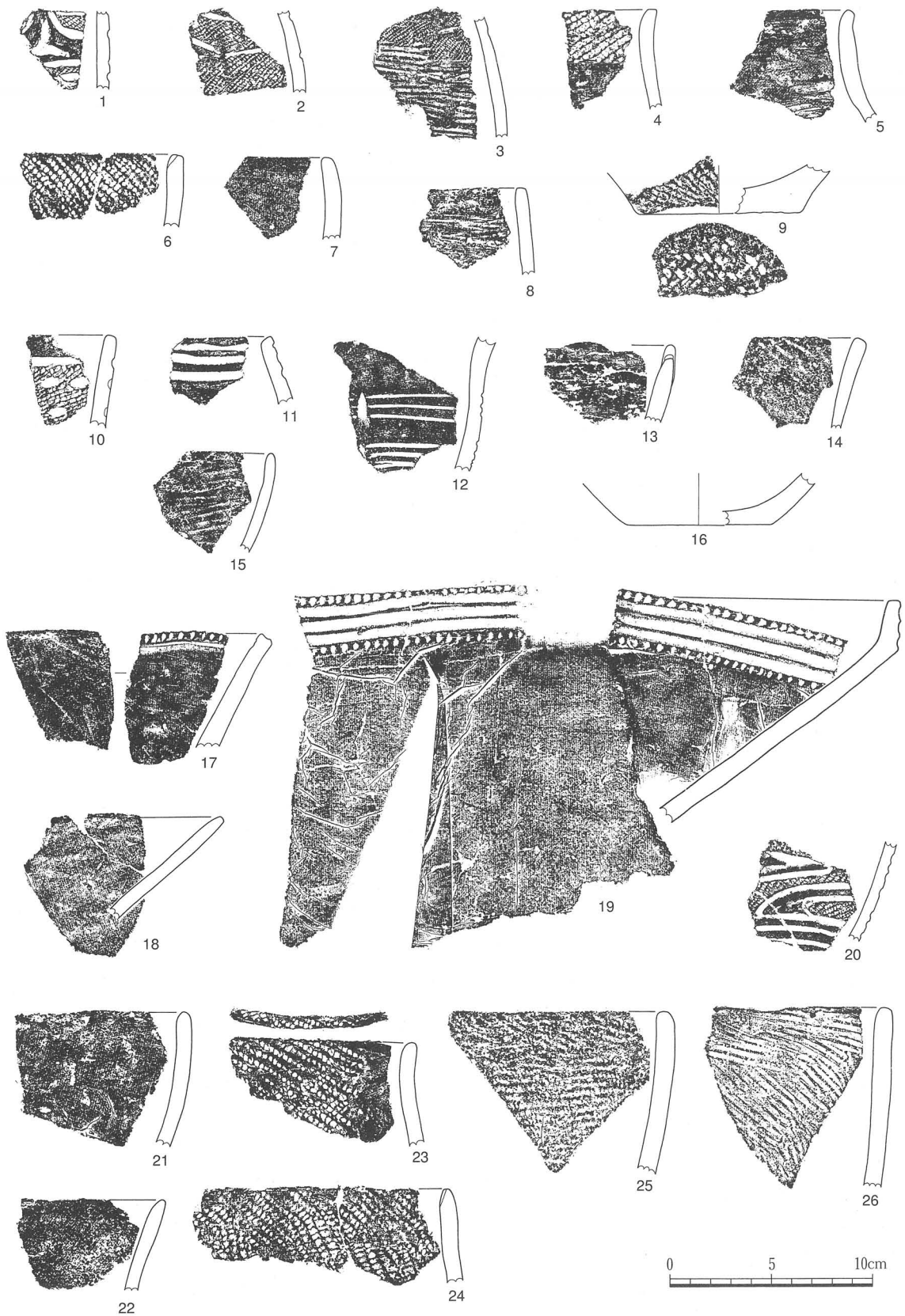
第71图 1S区遺構出土土器② (1/3) 19号住居 P6(1~9)·P7(10~20)·P8(21~24)·P9(25~28)·P11(29~30)



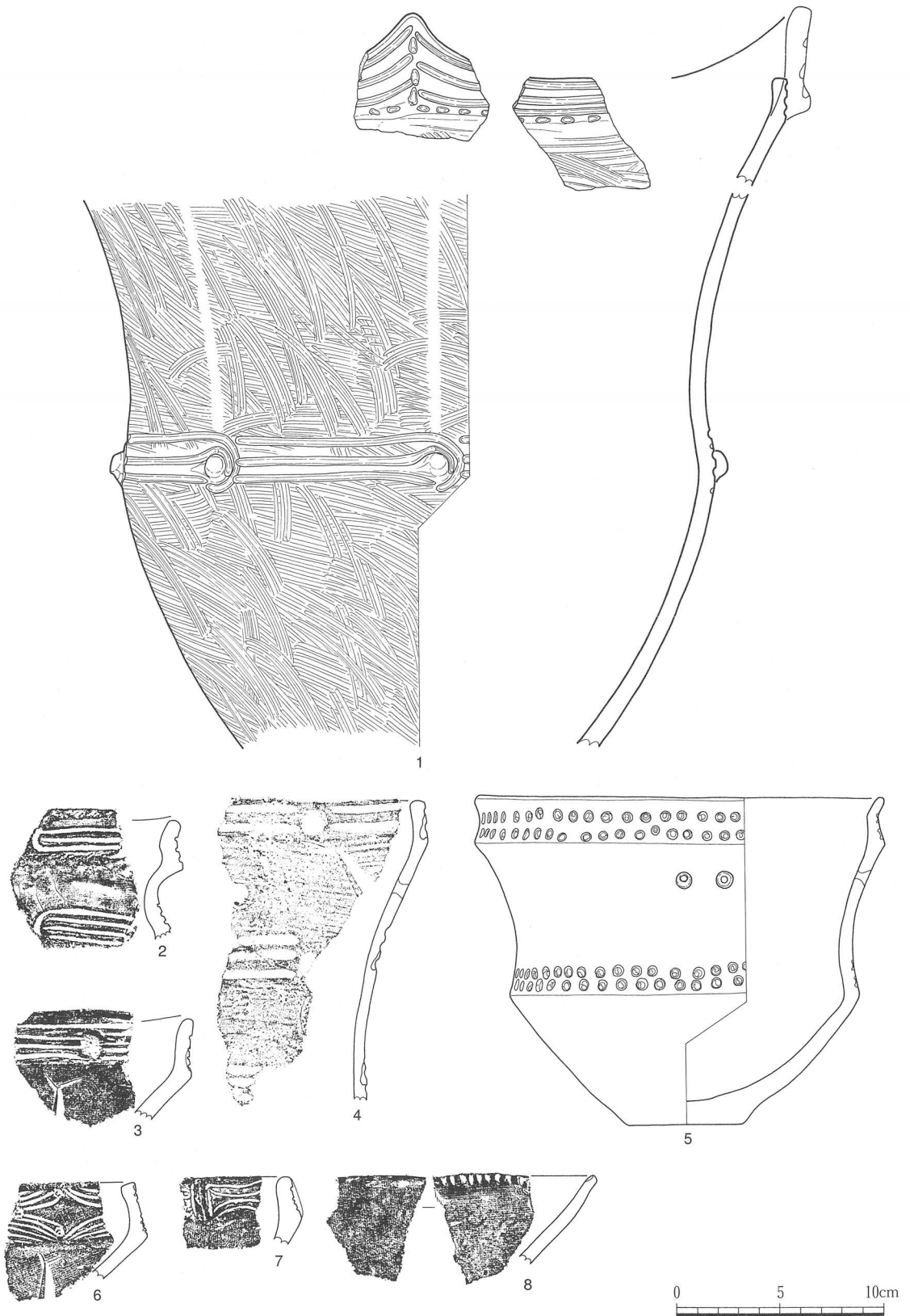
第72図 1S区遺構出土土器③ (1/3) 20号住居 P1(1)・P2(2)・P3(3~9) P74(10~12)・P75(13~19)



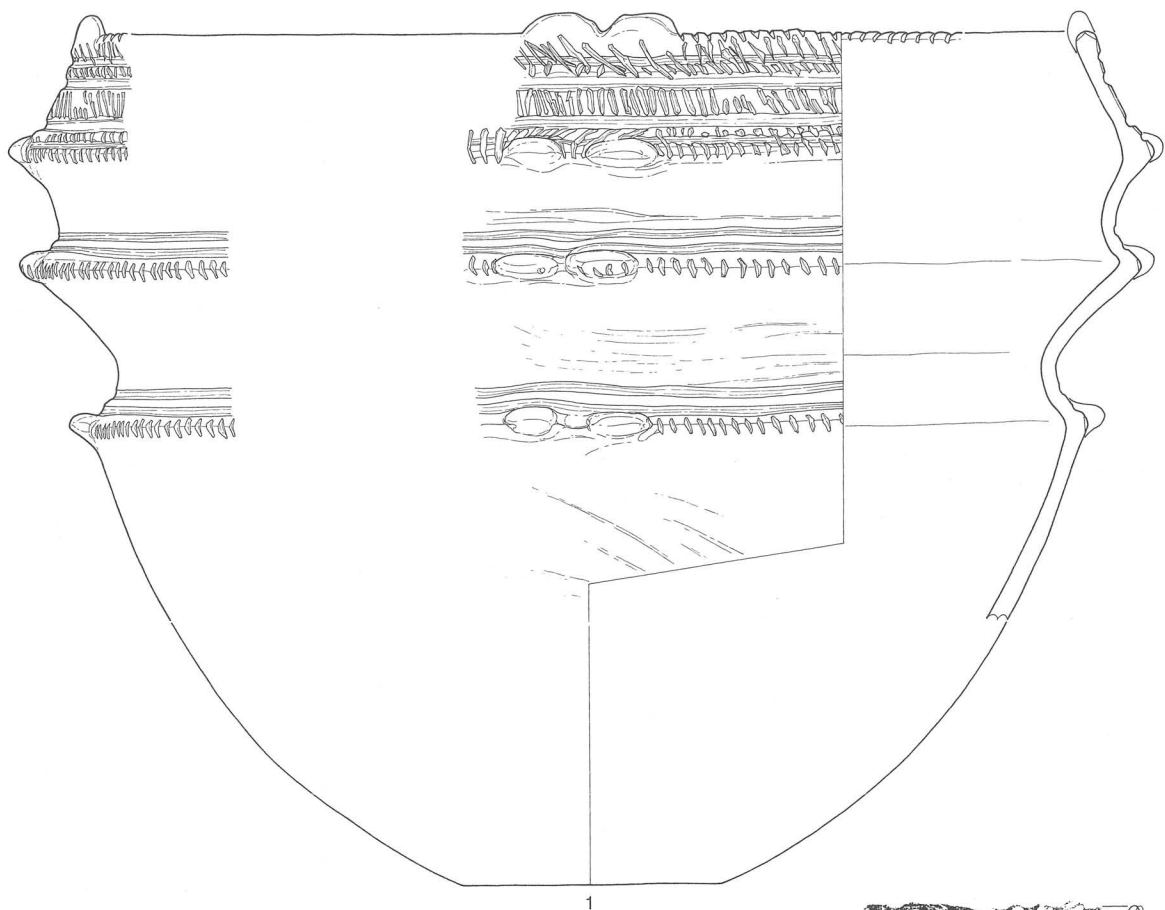
第73図 1S区遺構出土土器④ (1/3) P76(1~8)・P77(9・10)・P78(11・12)・P79(13・14)・P80(9・10)・P81(17~22)・P82(23・24)



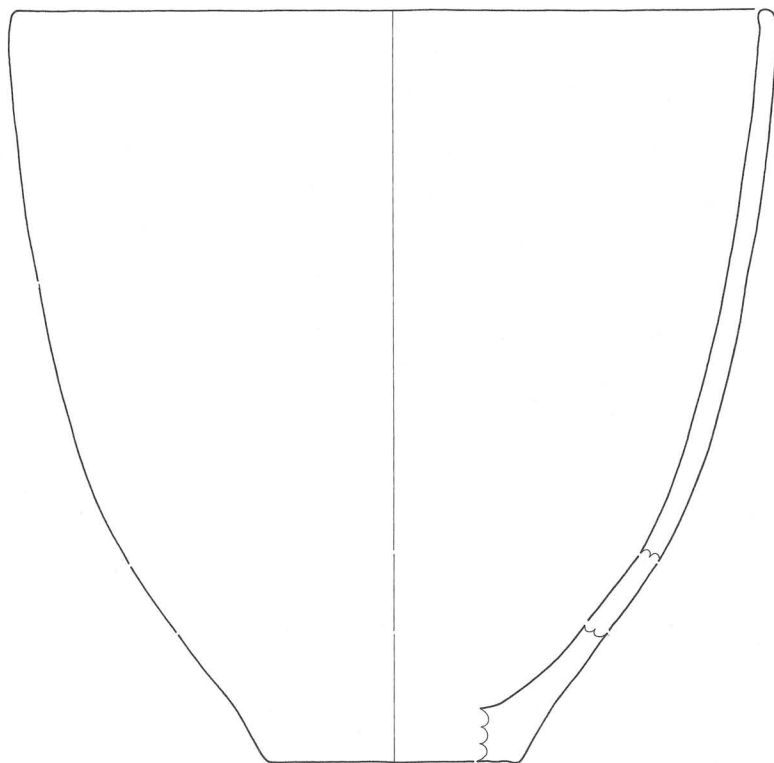
第74图 1S区遺構出土土器⑤ (1/3) P83(1~9)·P84(10~16)·P85(17~26)



第75图 2N区遺構出土土器① (1/3) 3号竖穴状遺構 P1(1~8)



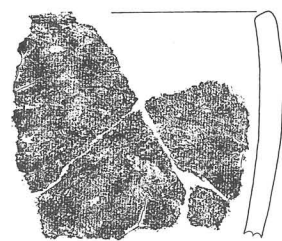
1



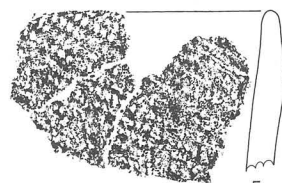
2



3



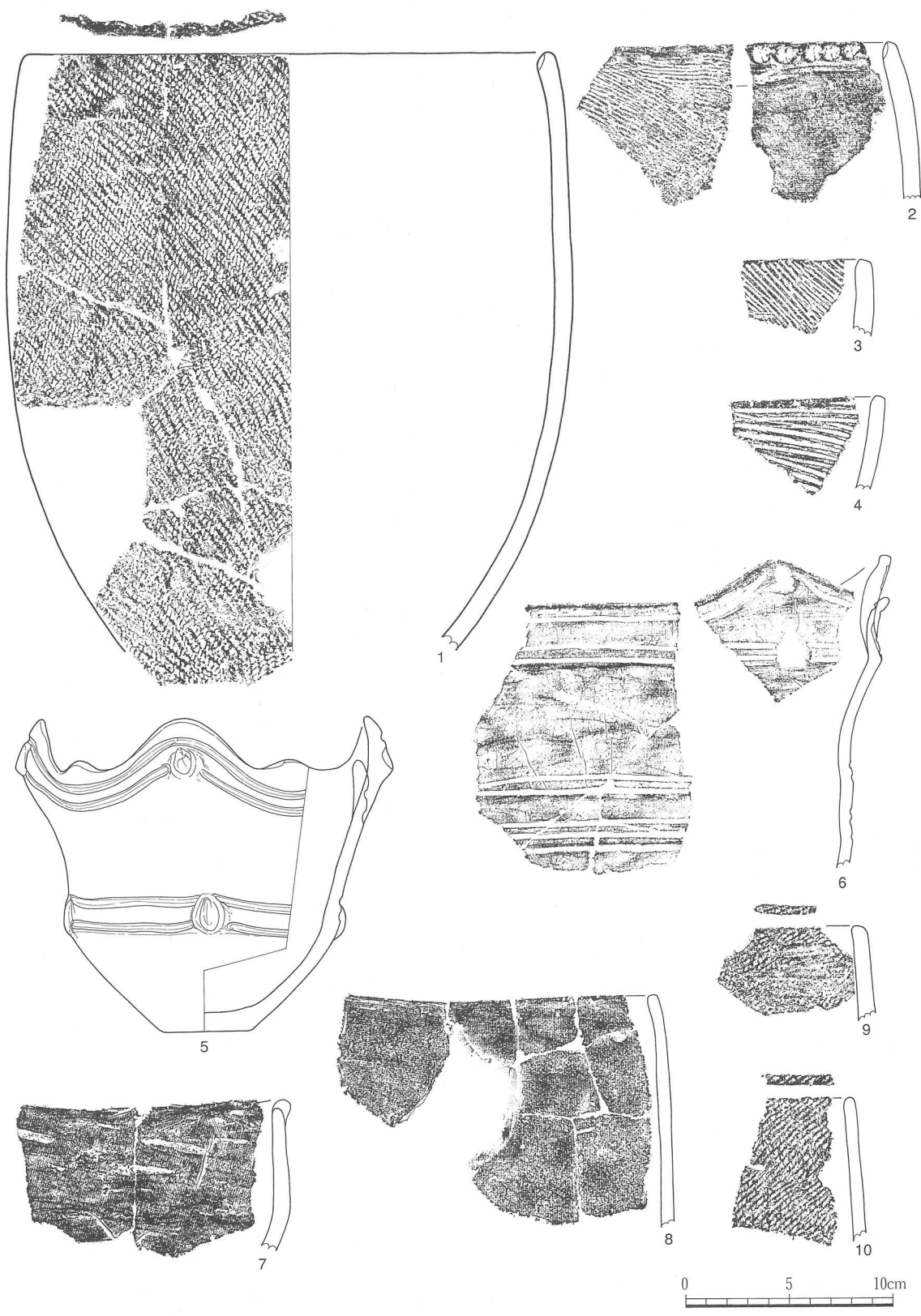
4



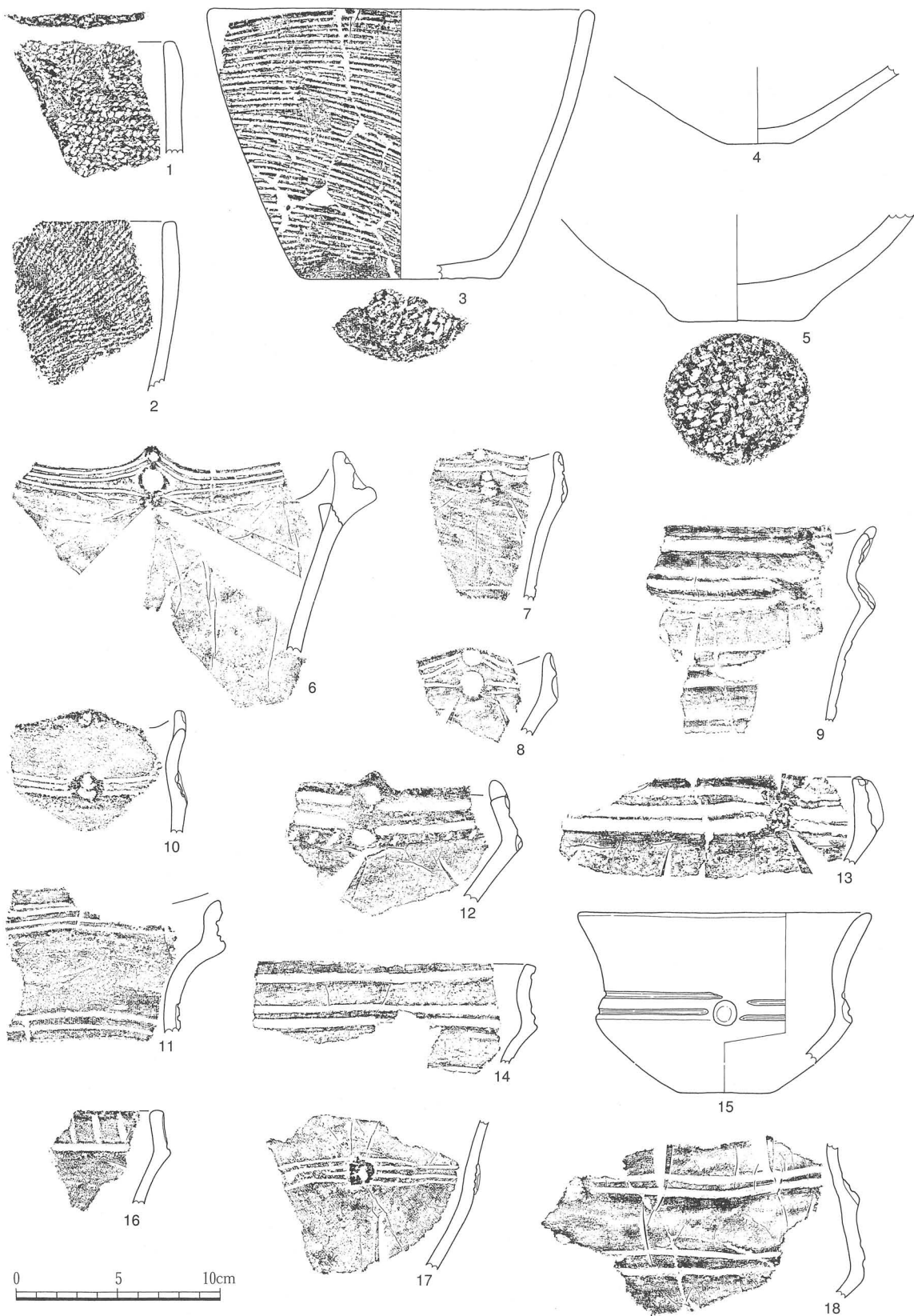
5



第76图 2N区遺構出土土器② (1/3) 3号竖穴状遺構 P1(1~5)



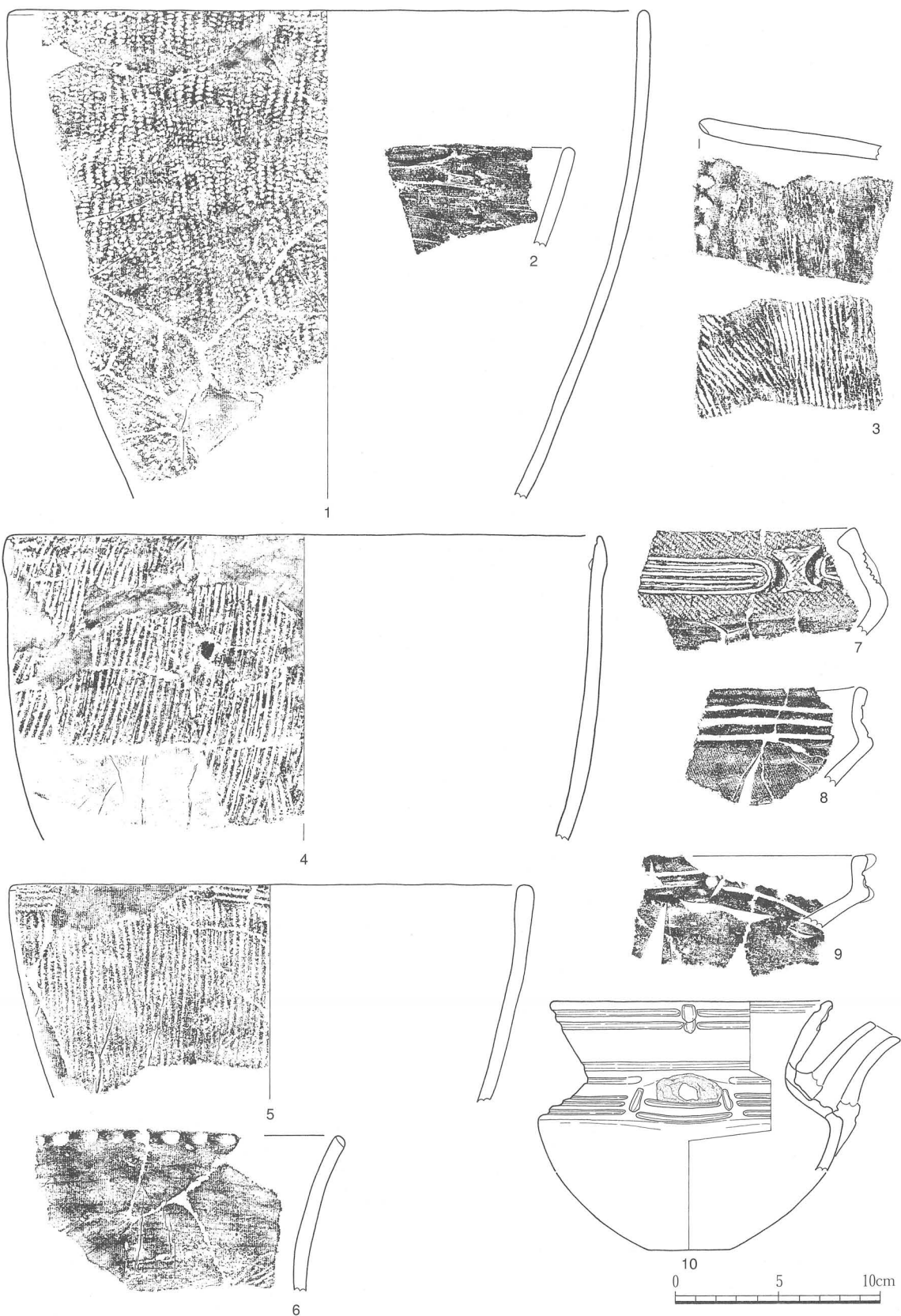
第77图 2N区遺構出土土器③ (1/3) 3号竖穴状遺構 P1(1~4)·覆土(5~10)



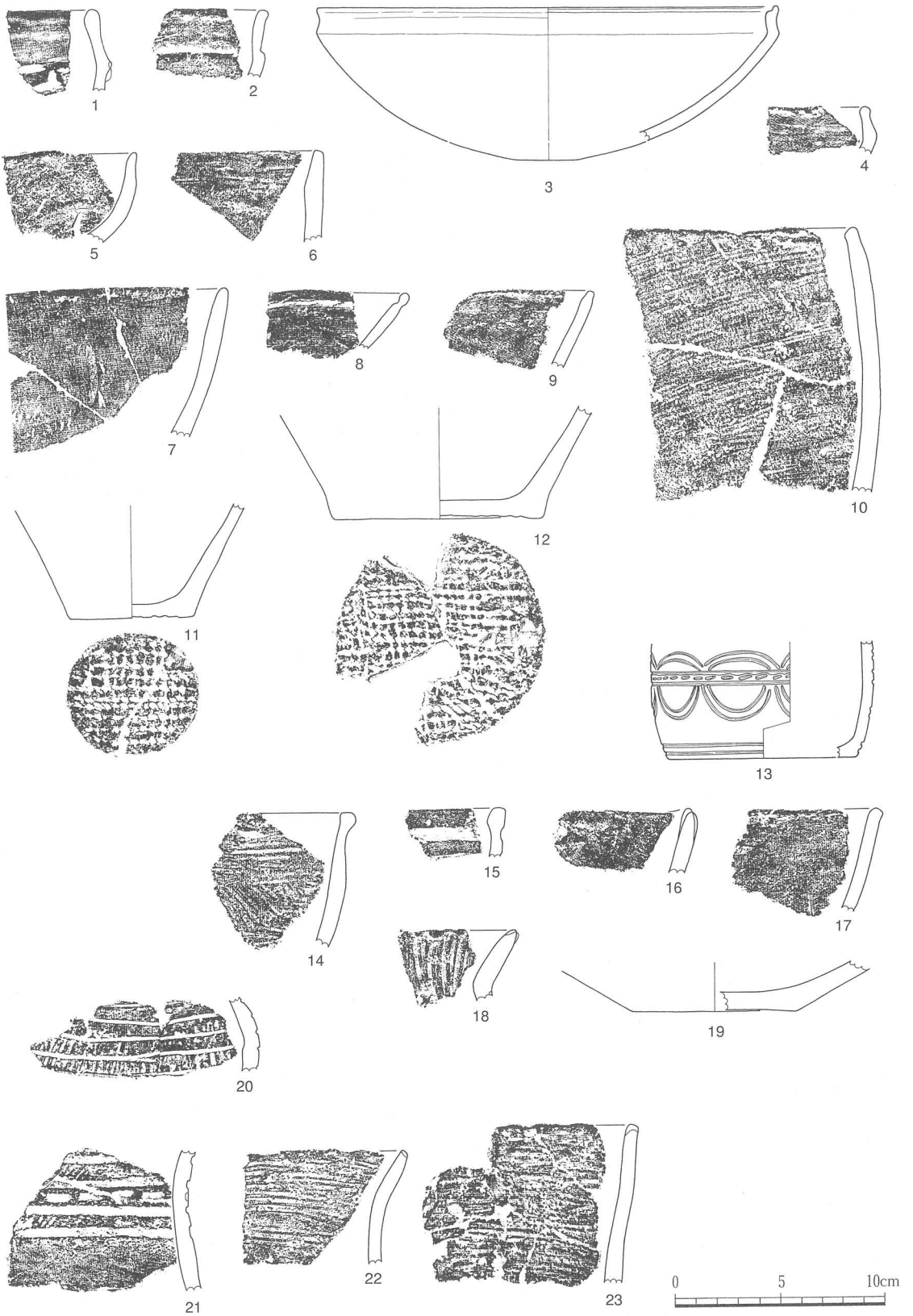
第78图 2N区遺構出土土器④ (1/3) 3号竖穴状遺構 覆土(1~5)·遺構直上(6~18)



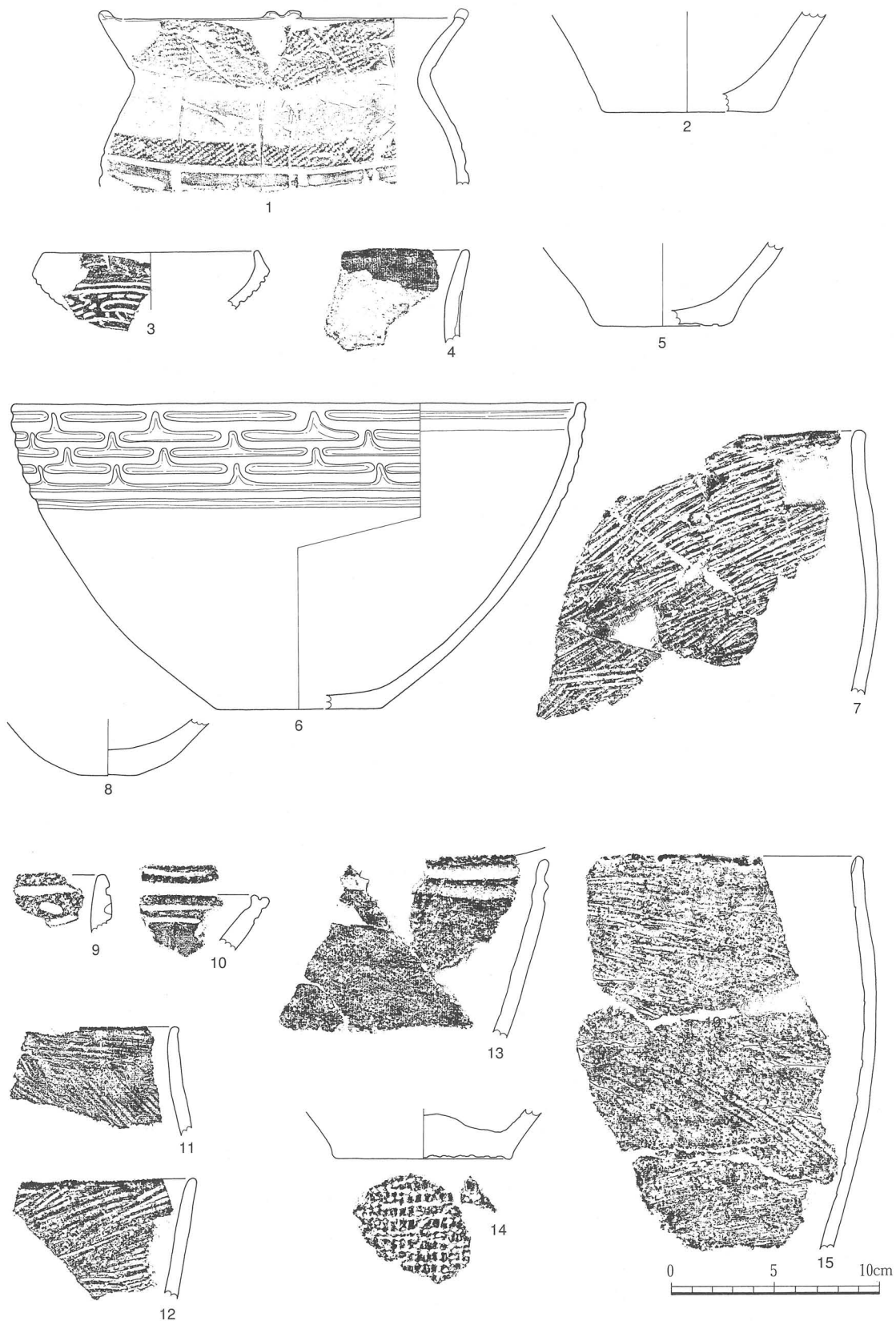
第79图 2 N区遺構出土土器⑤ (1/3) 3号竖穴状遺構直上(1~19)



第80图 2 N区遺構出土土器⑥ (1/3) 3号竖穴状遺構直上 (1~6)·P87(7·8)·P88(9·10)



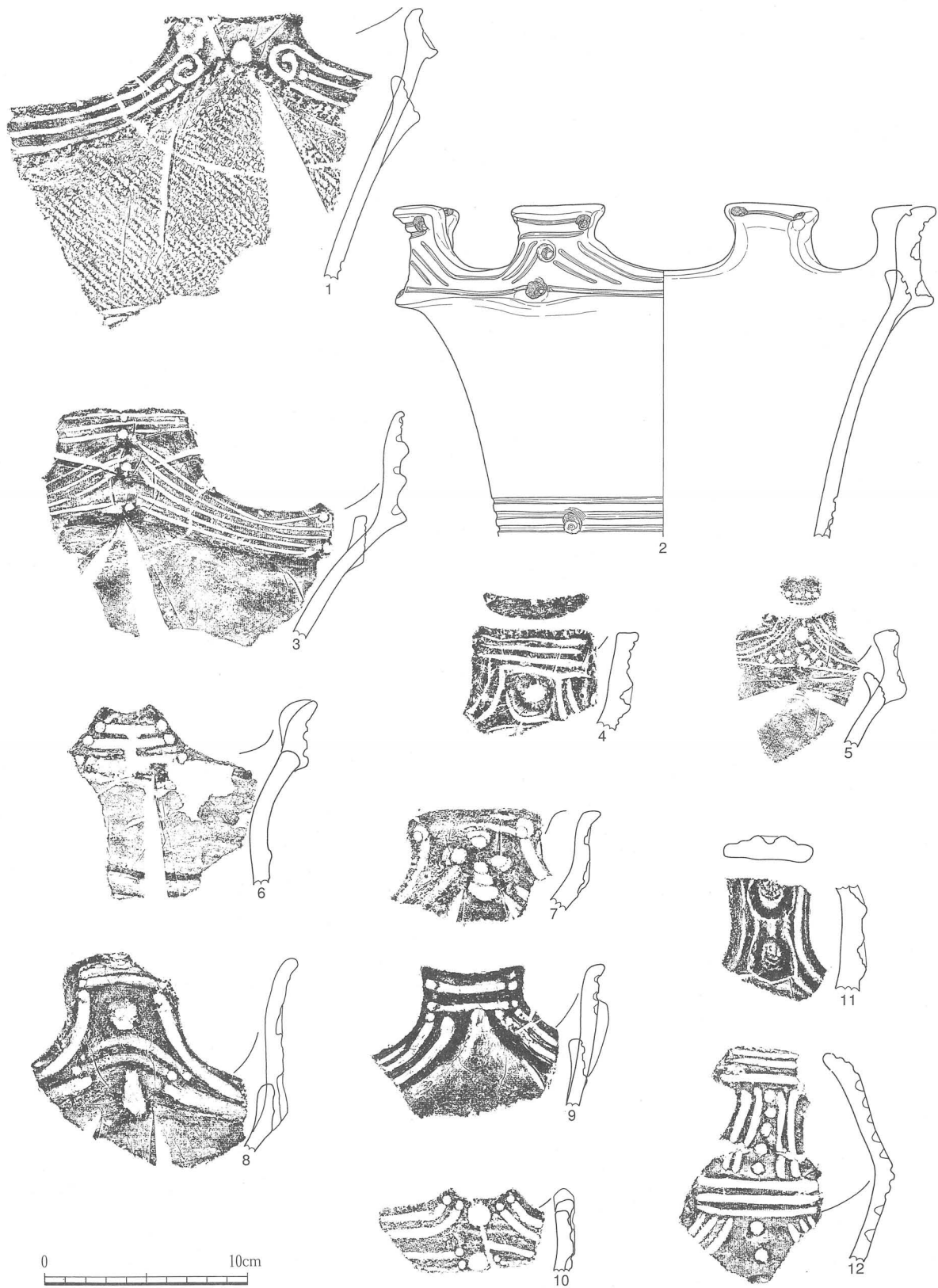
第81图 2S区遺構出土土器① (1/3) P92(1~12)·P94(13~19)·P96(20)·P97(21~23)



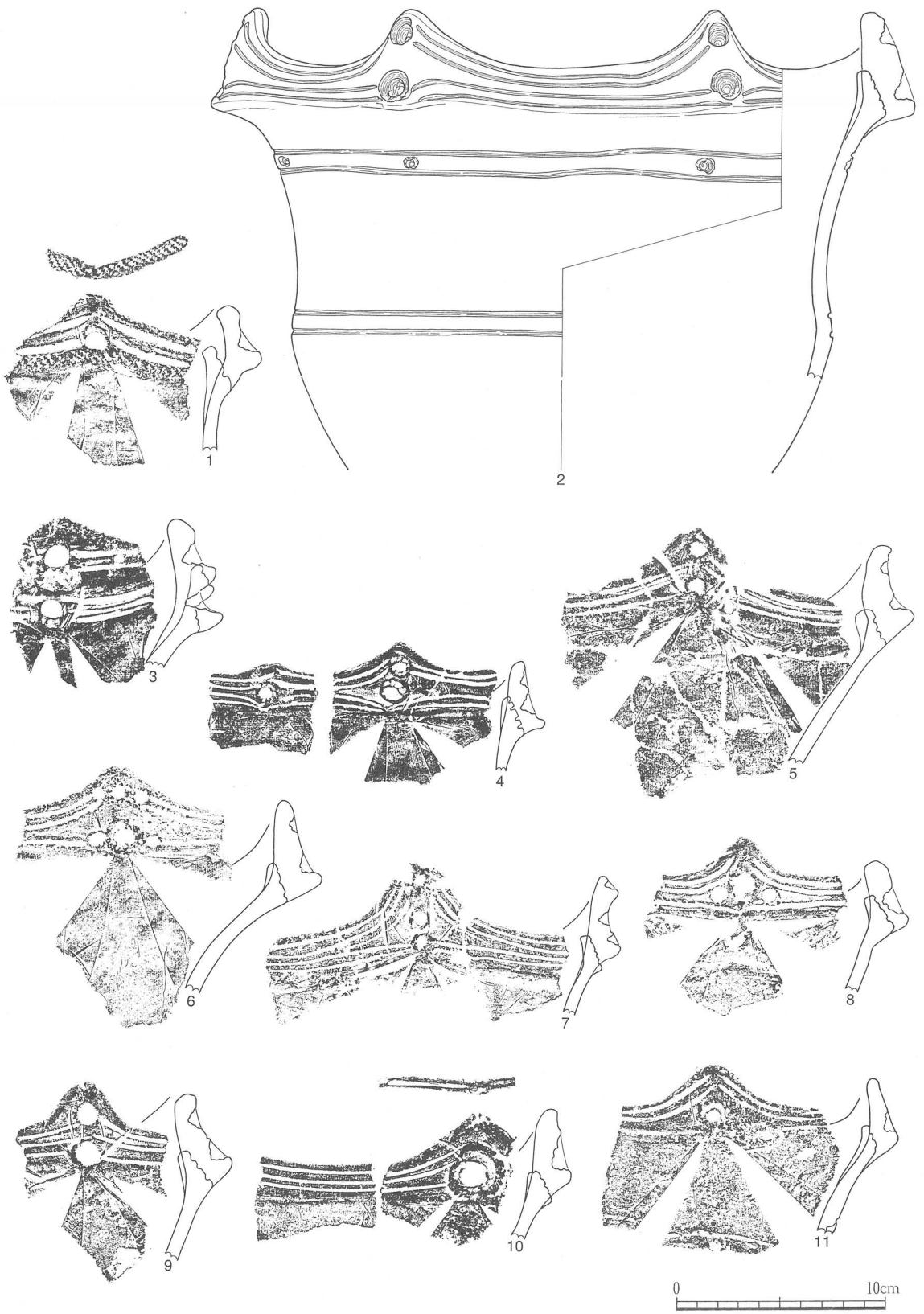
第82図 2S区・3A区遺構出土土器 (1/3) 2S区 P98(1)・P100(2)・P101(3~5)・P102(6~8)・
P103(9・10)・P104(11・12)・3A区 P109(13~15)



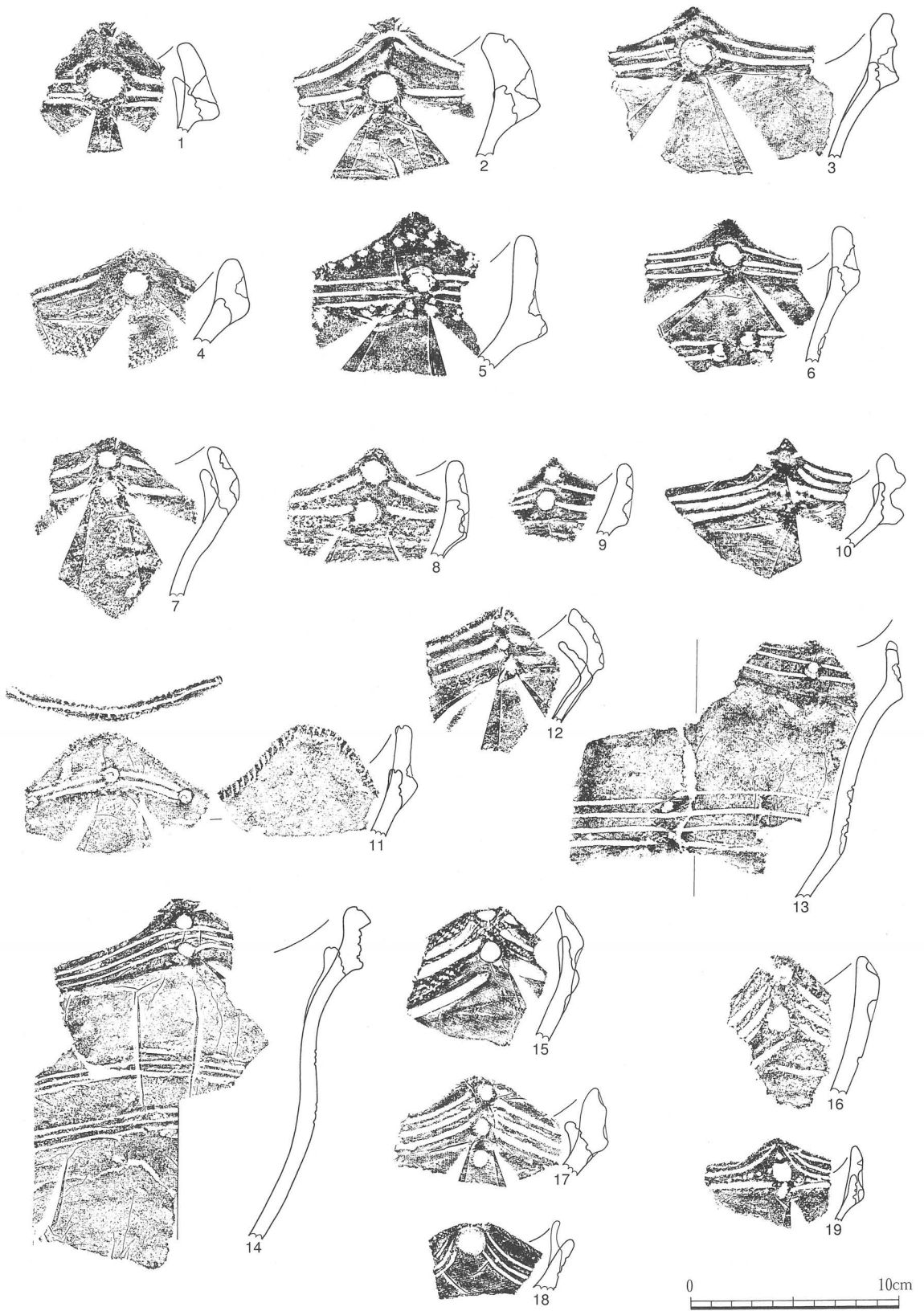
第83图 包含層出土土器① (1/3) 1N区(4·5·9·15·29)·1S区(1~3·6·7·10~14·16~22·23·25)·2N区(8)·
2S区(24·26~28)



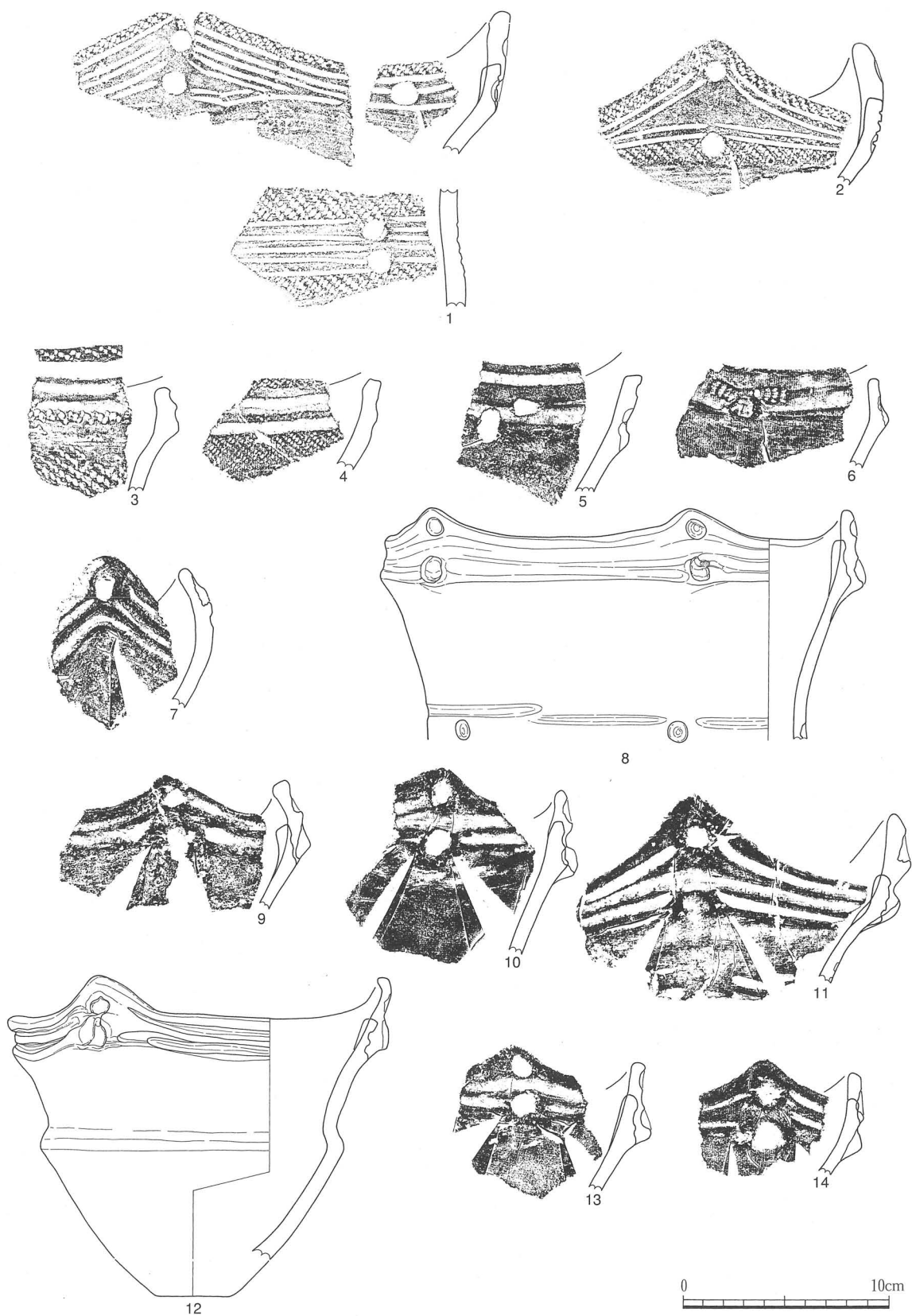
第84图 包含層出土土器② (1/3) 1N区(1~4·10·13)·1S区(6·8·9·11·12)·2N区(5)·2S区(7)



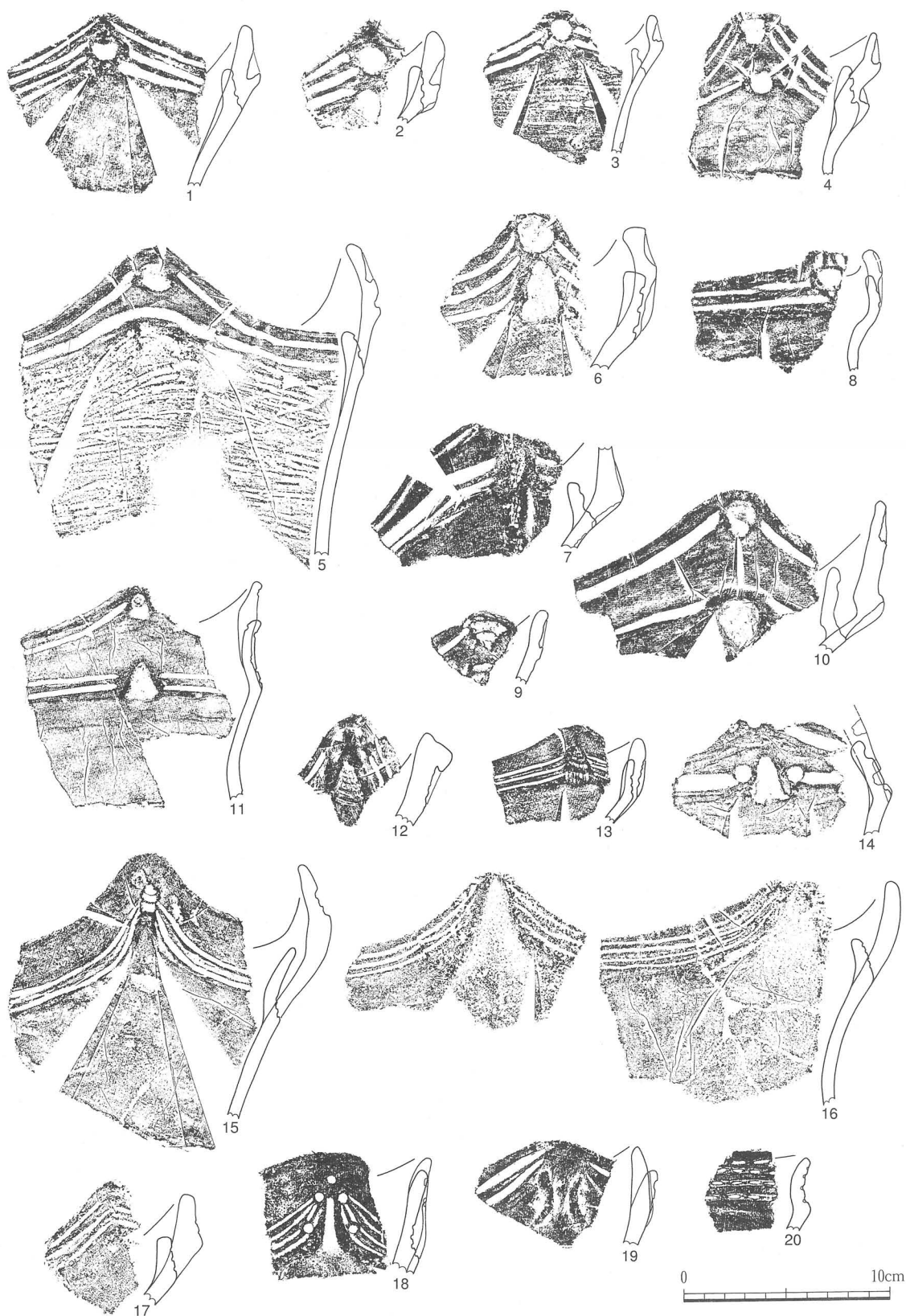
第85图 包含層出土土器③ (1/3) 1N区(2~5·10)·1S区(1·9·11)·2N区(6~8)



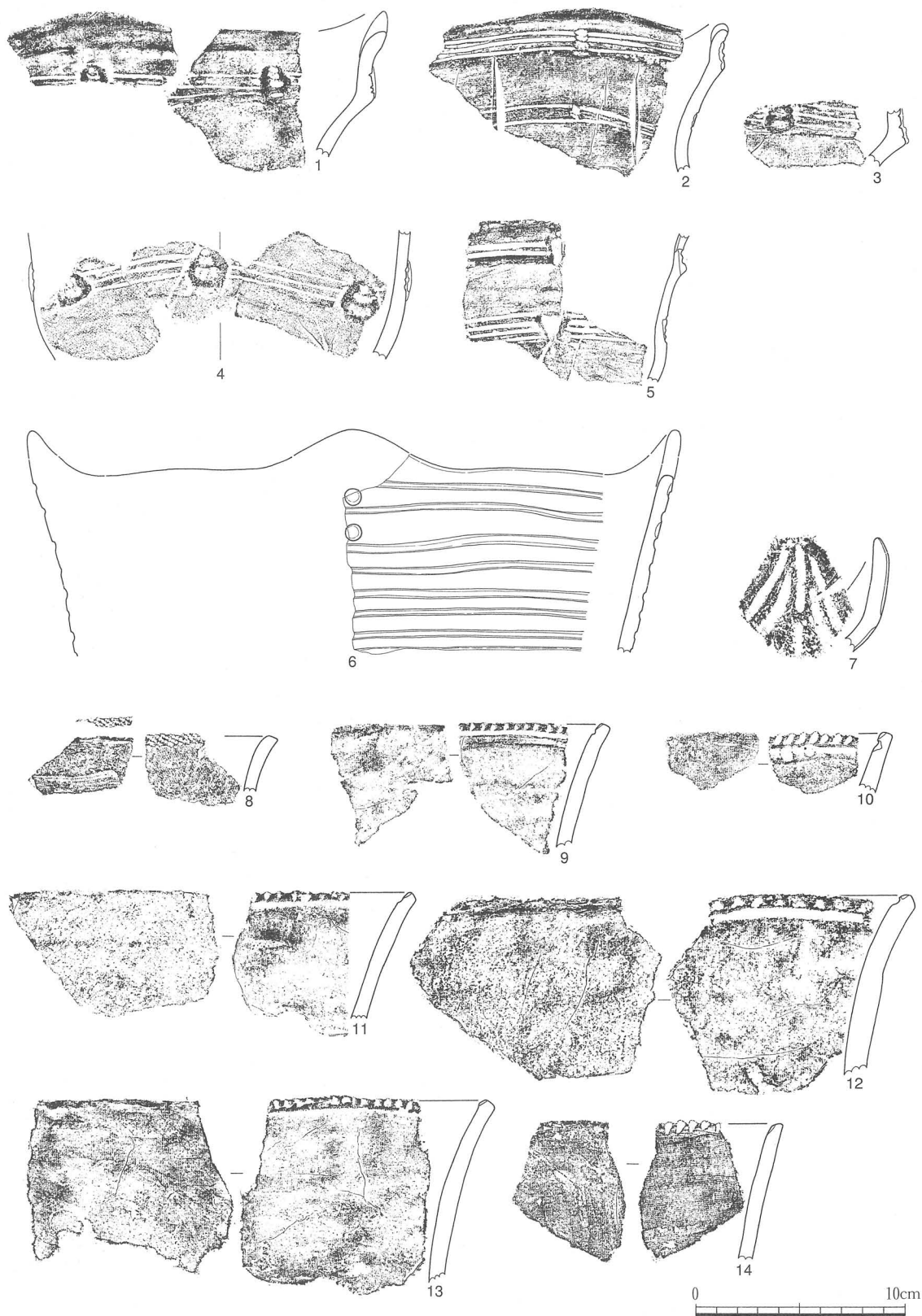
第86图 包含層出土土器④ (1/3) 1N区(5·6·15·18)·1S区(1~4·7~10·12~14·19)·2N区(11·16·17)



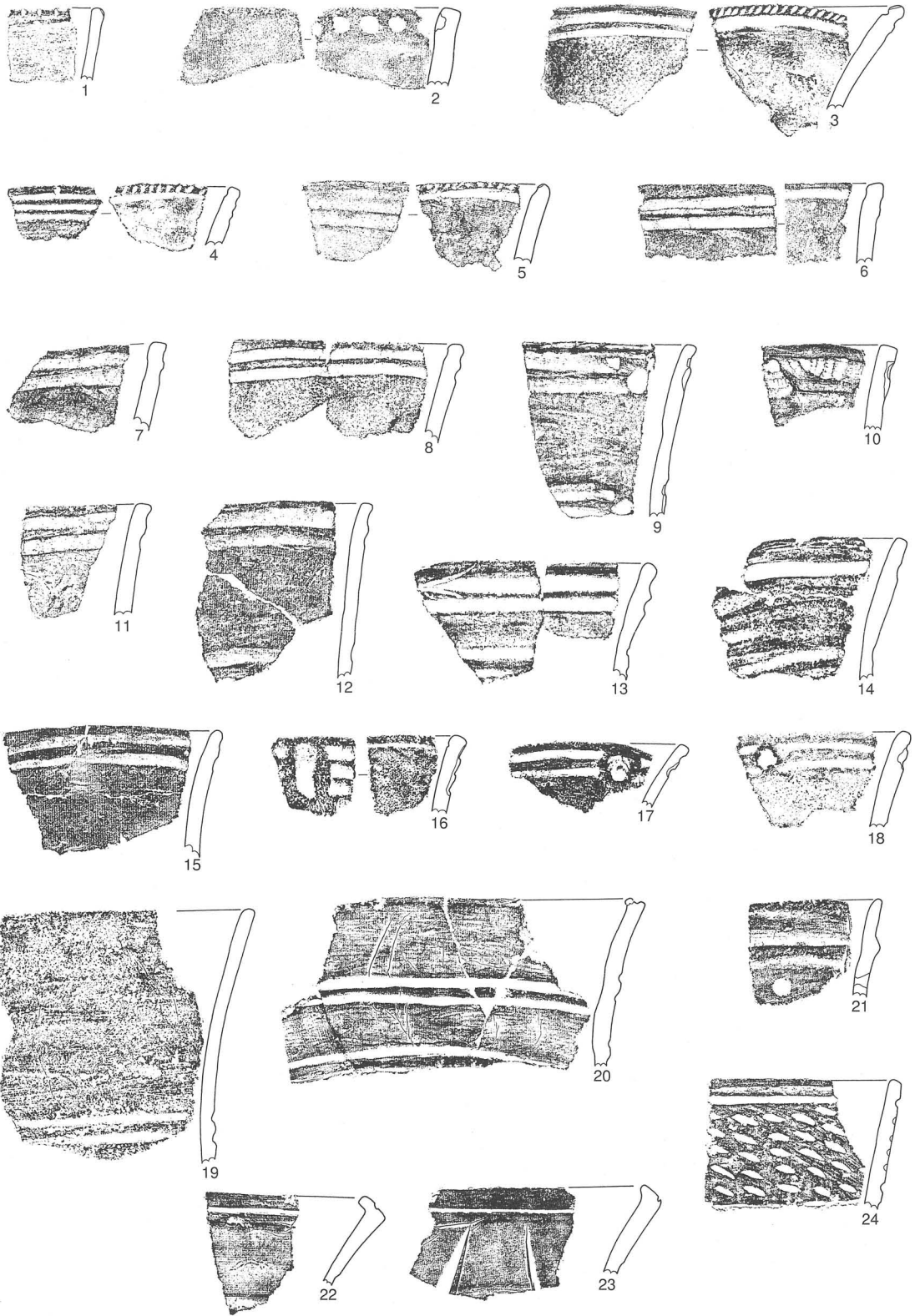
第87图 包含層出土土器⑤ (1/3) 1N区(8~11·13)·1S区(2~7·12·14)·2N区(1)



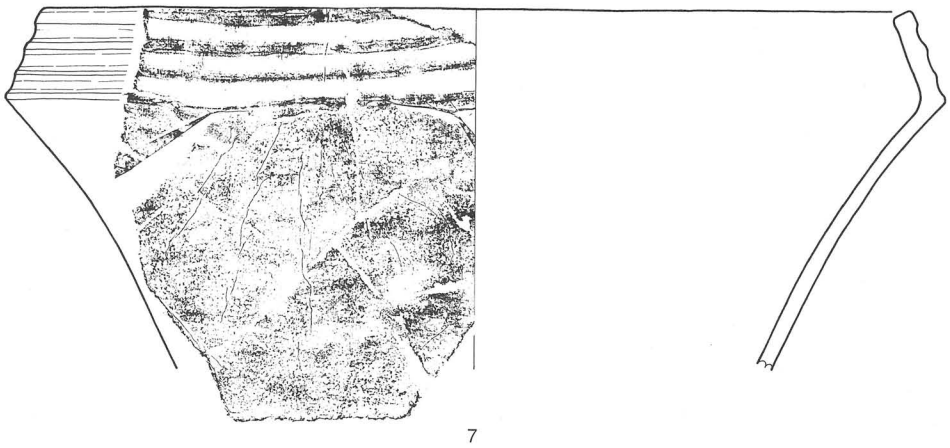
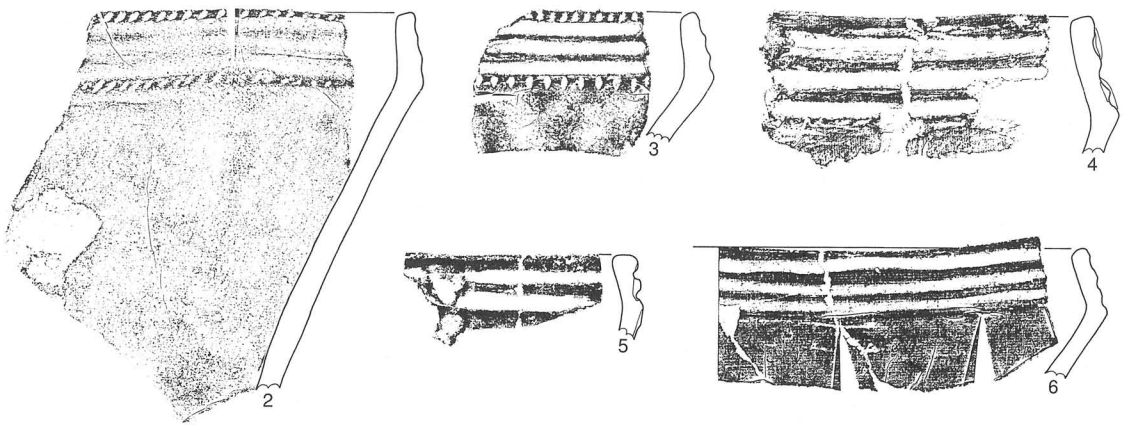
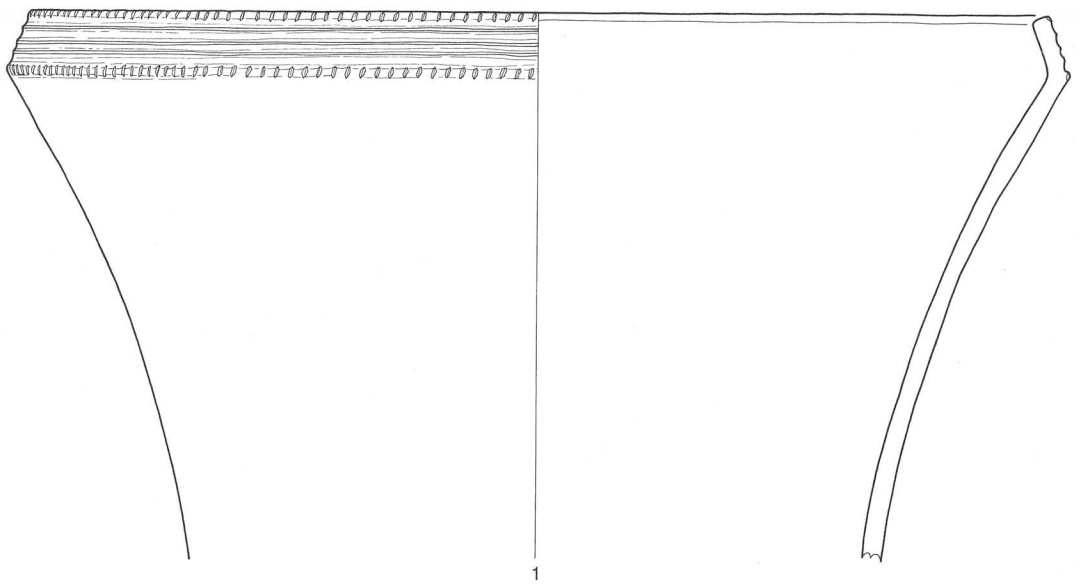
第88图 包層出土土器⑥ (1/3) 1N区(1·3·8)·1S区(2·4·5·7·9~15·18·20)·2S区(6)·
2N区(16·17)·2A区(19)



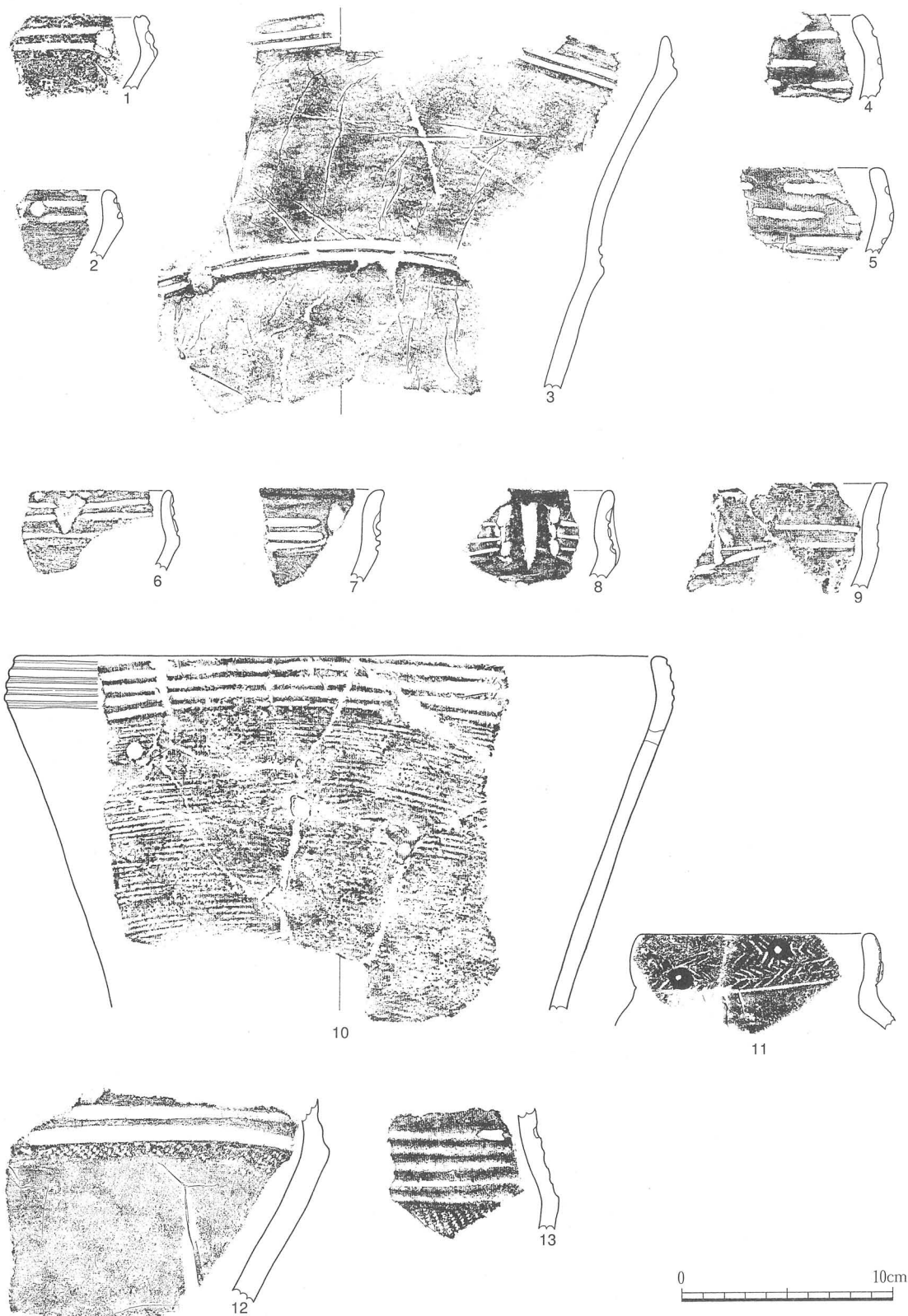
第89图 包含層出土土器⑦ (1/3) 1N区(9·11)·1S区(1~8·12~14)·2N区(10)



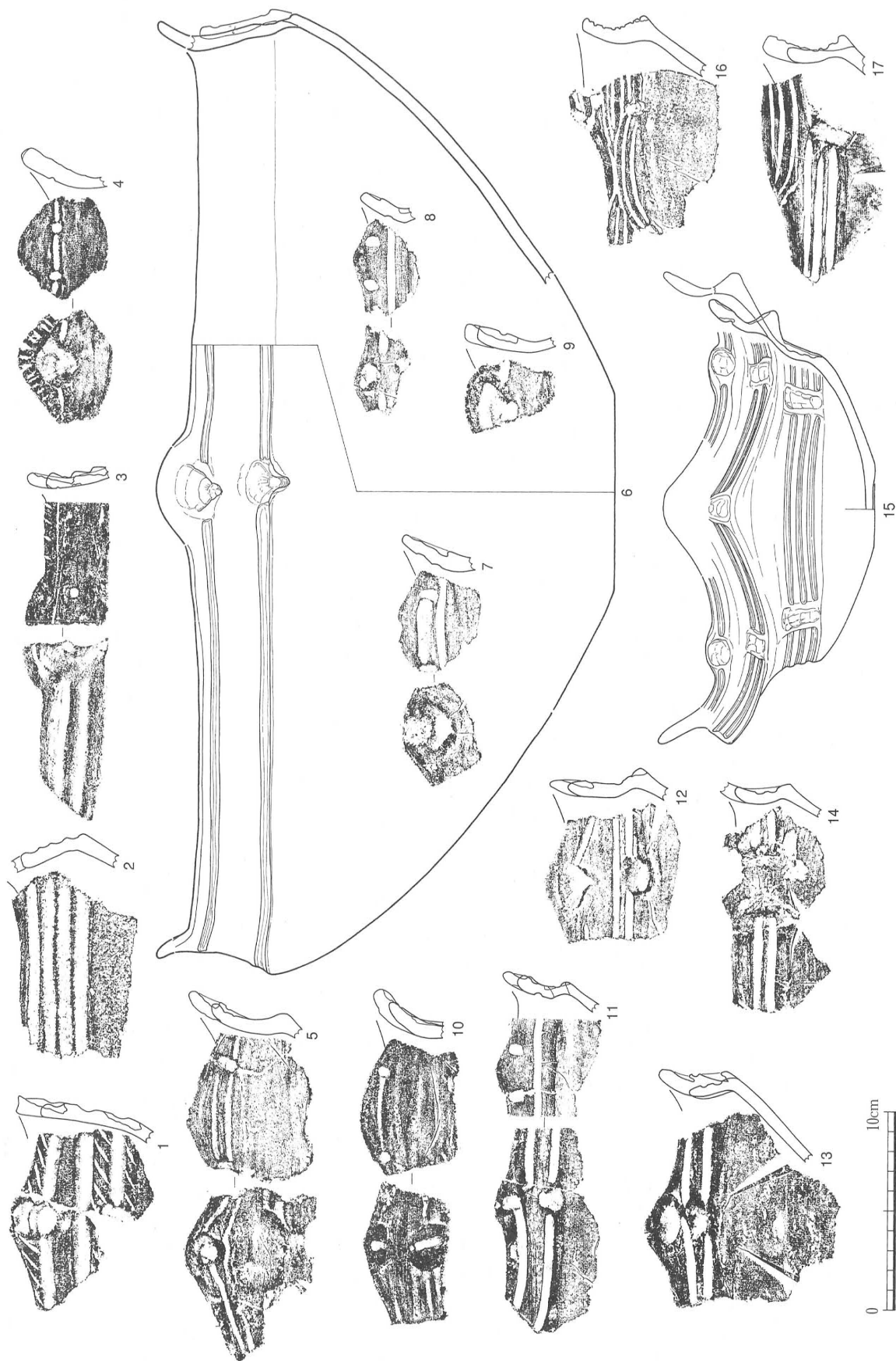
第90图 包層出土土器⑧ (1/3) 1N区(14·16~19)·1S区(2~9·11~13·15·20~24)·2N区(1)·2S区(10)



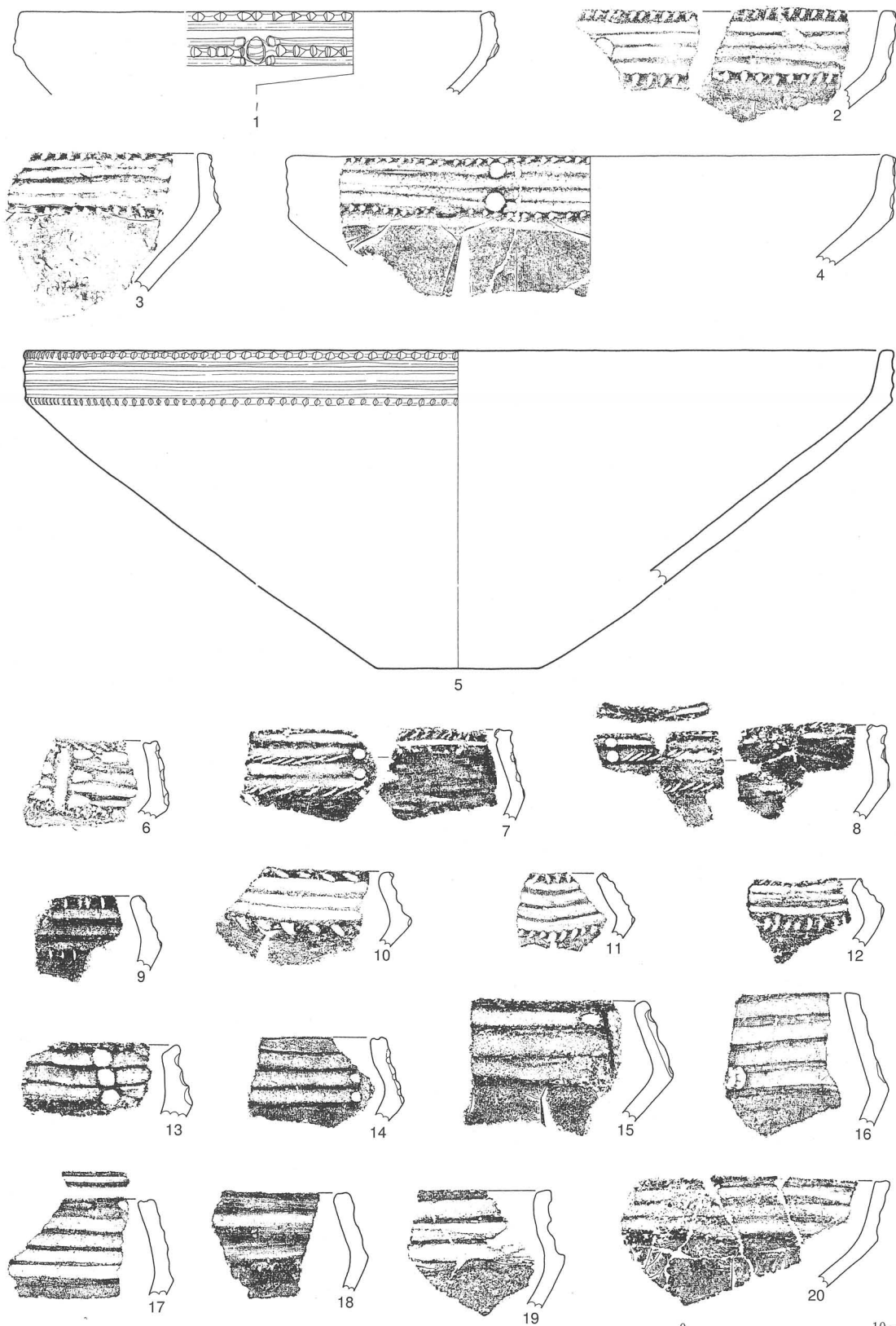
第91图 包含層出土土器⑨ (1/3) 1N区(5)·1S区(1~4·7)·2A区(6)



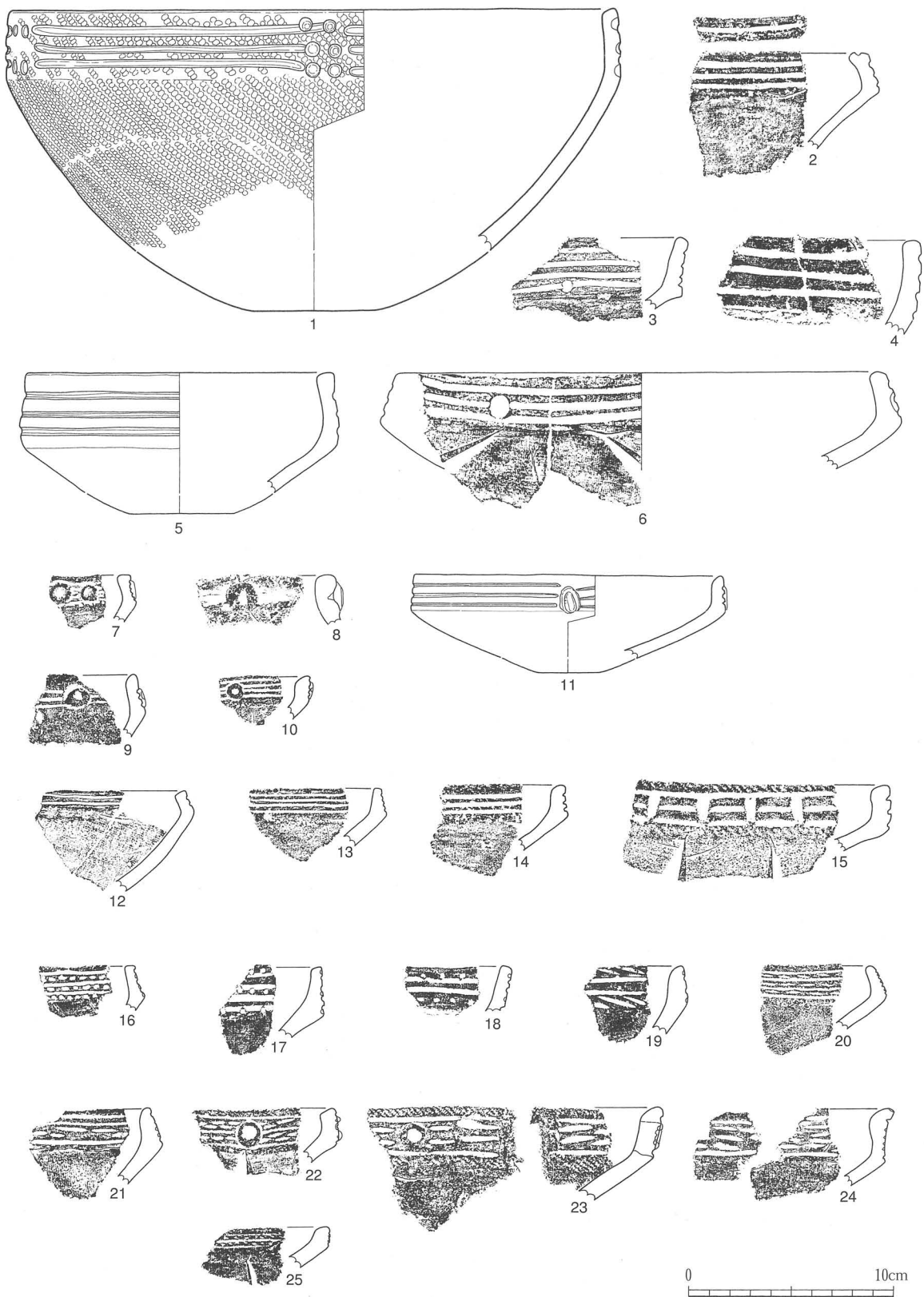
第92图 包含層出土土器⑩ (1/3) 1N区(5·9)·1S区(1·3·4·6~8·10~13)·2S区(2)



第93图 包含層出土器① (1/3) IN区 (1·13)·1S区 (2~8·10·11·15~17)·2N区 (12·14)·2S区 (9)



第94图 包含層出土土器⑫ (1/3) 1S区P85(5) 1N区(1·3·7·12·13)·
1S区(4·8·9·11·14~16·18)·2N区(2·17)·2S区(6·10·19·20)

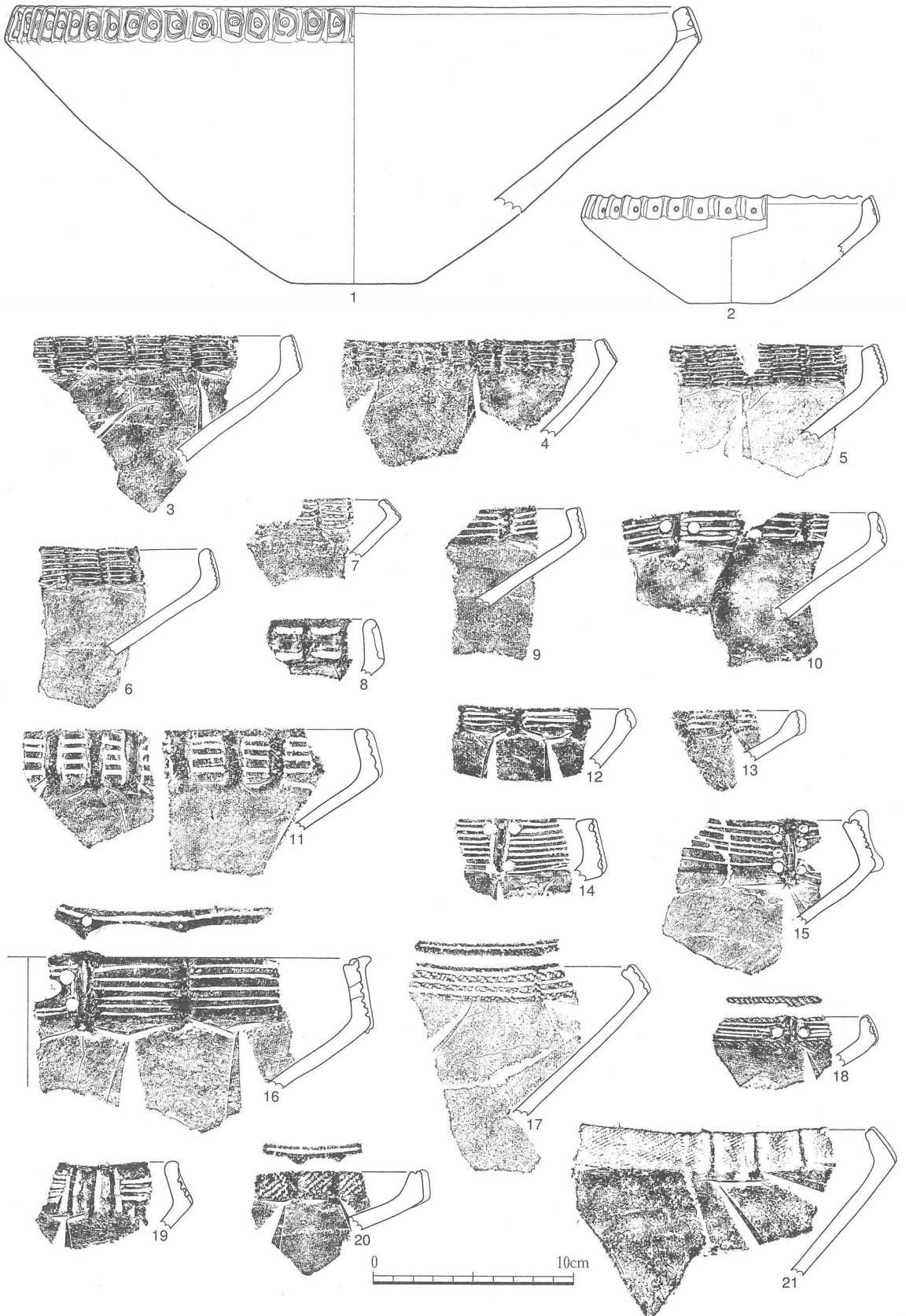


第95図 包含層出土土器⑬ (1/3) 1N区(1·5·11·12·15)·1S区(2~4·6·7·9·10·14·16~23)·
2N区(24)·2S区(8·13)

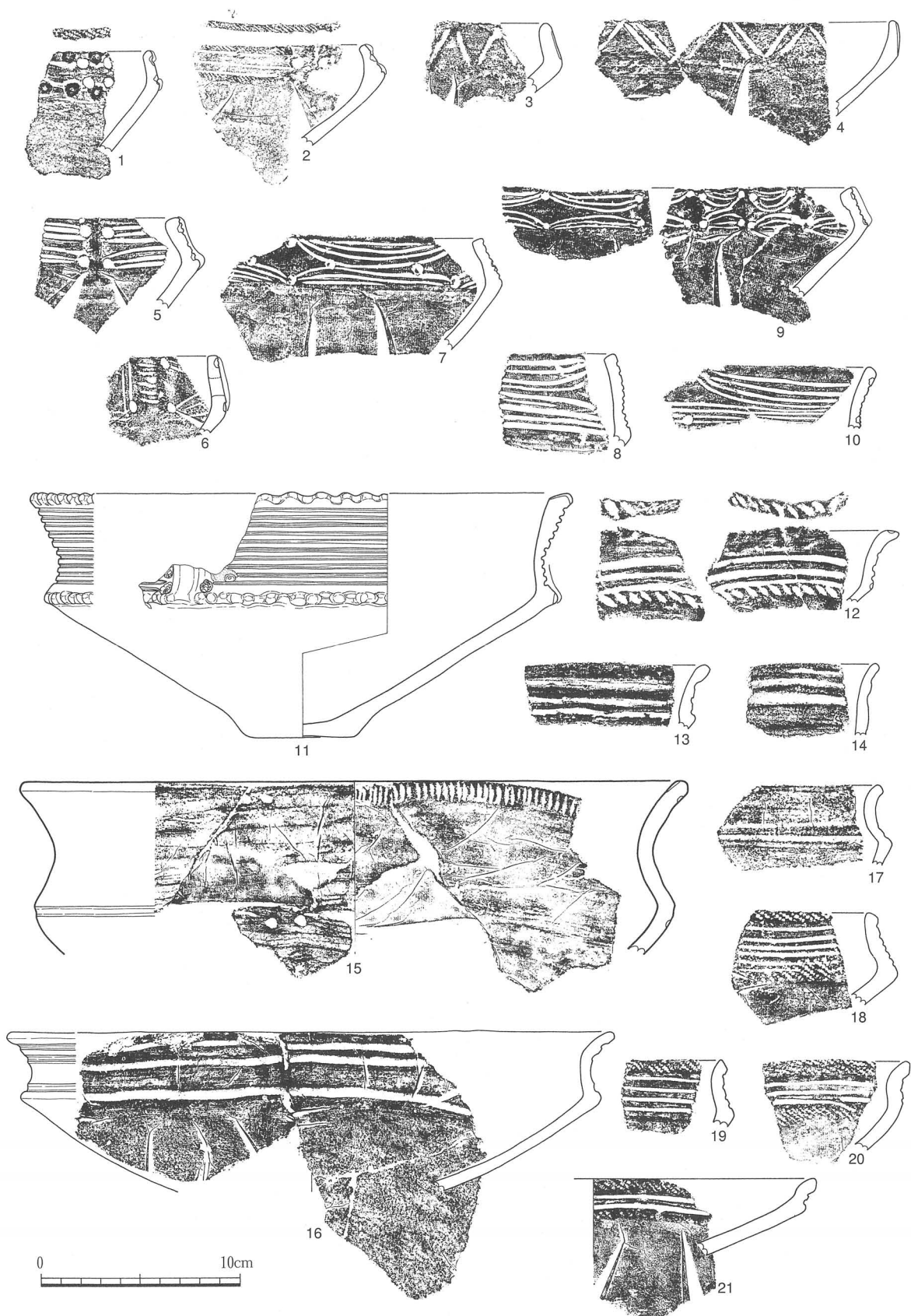


第96图 包含層出土土器⑭ (1/3)

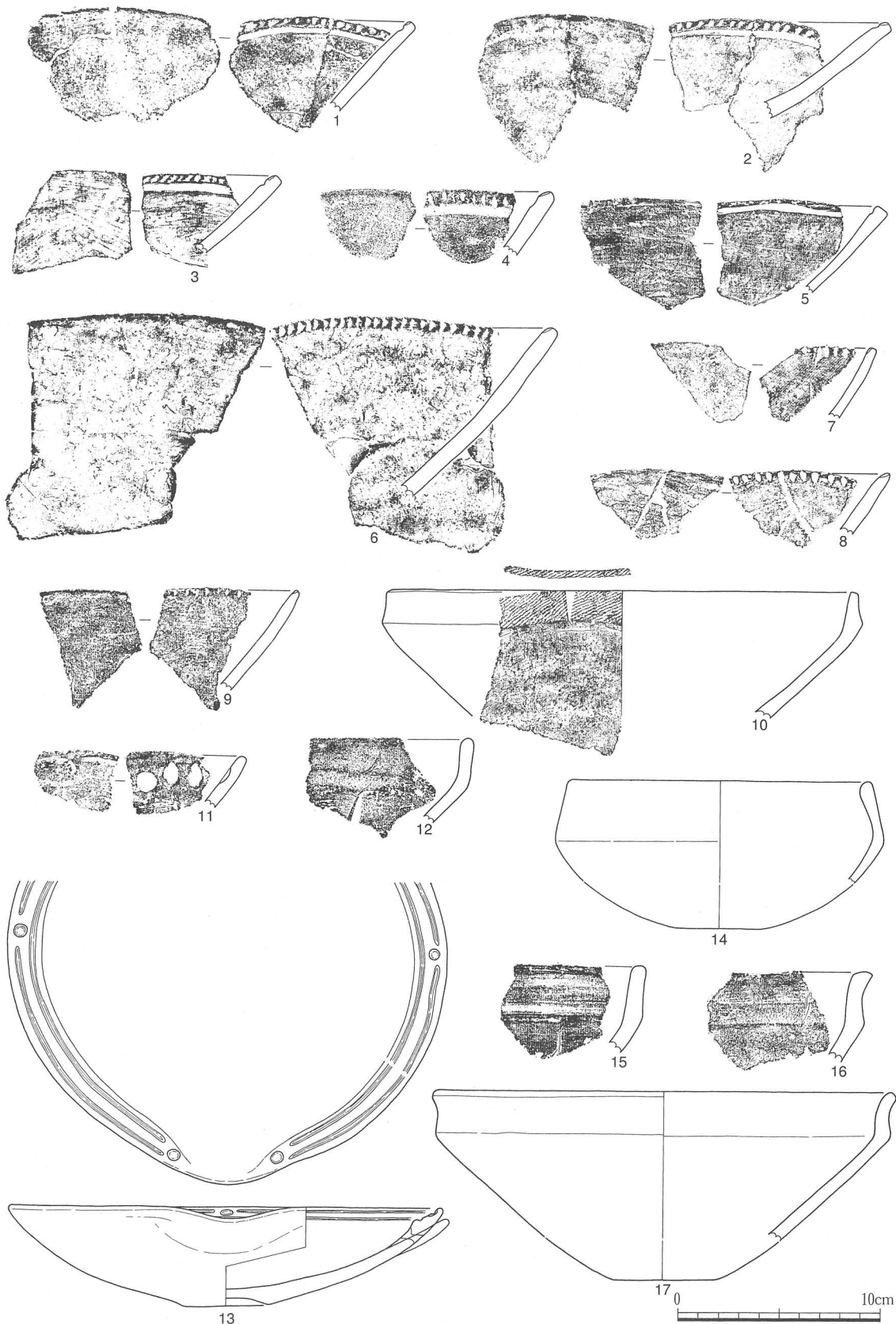
1N区(1·12·24)·1S区(2·5·7~9·11·15·16·18~21·23)·
2N区(4·6·10·14·17)·2S区(3·13·22)



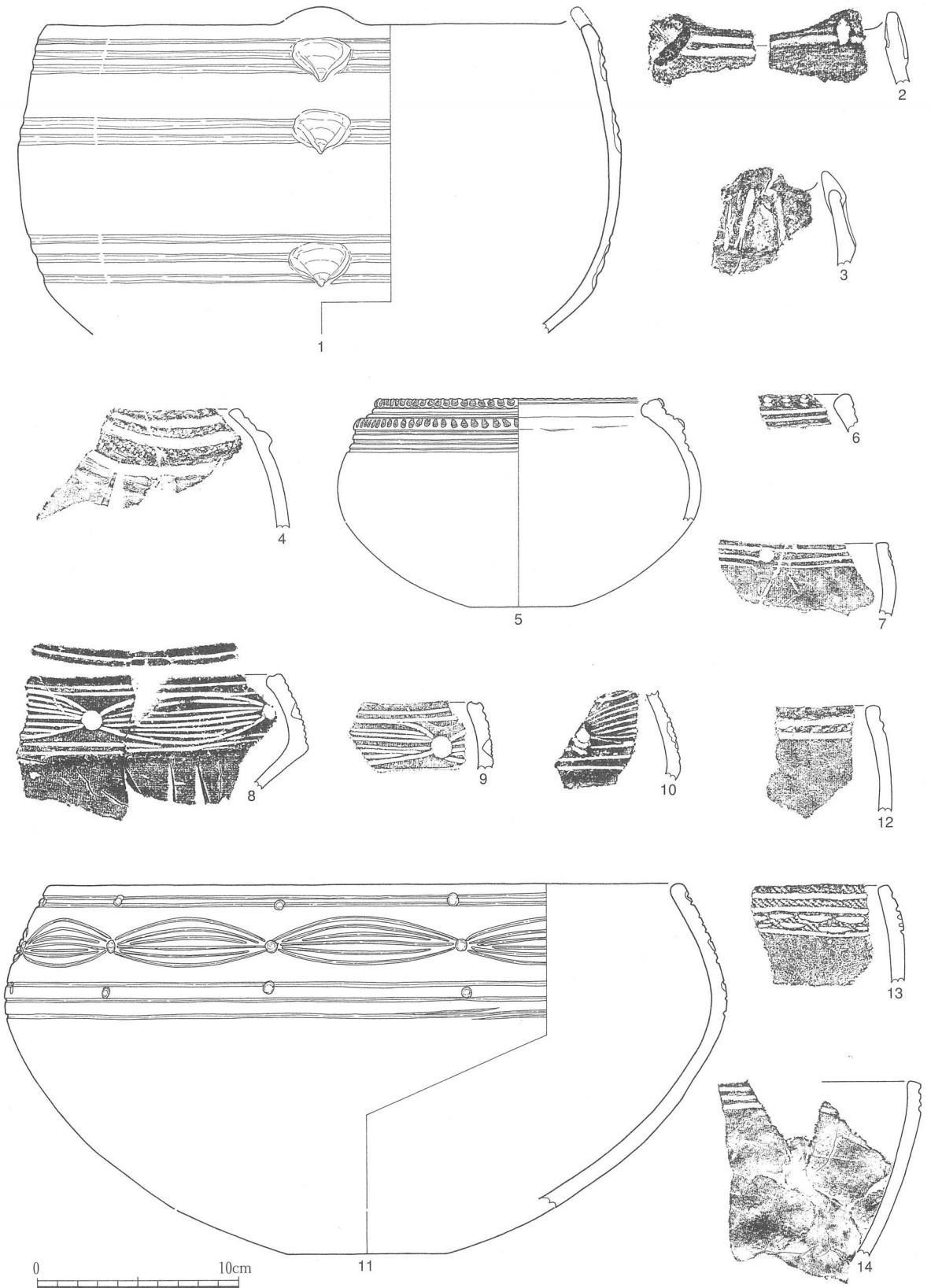
第97图 包含層出土土器⑮ (1/3) 1N区(1·3·12)·1S区(4~6·8~11·14~16·18~21)·
2N区(2·7·17)·2S区(13)



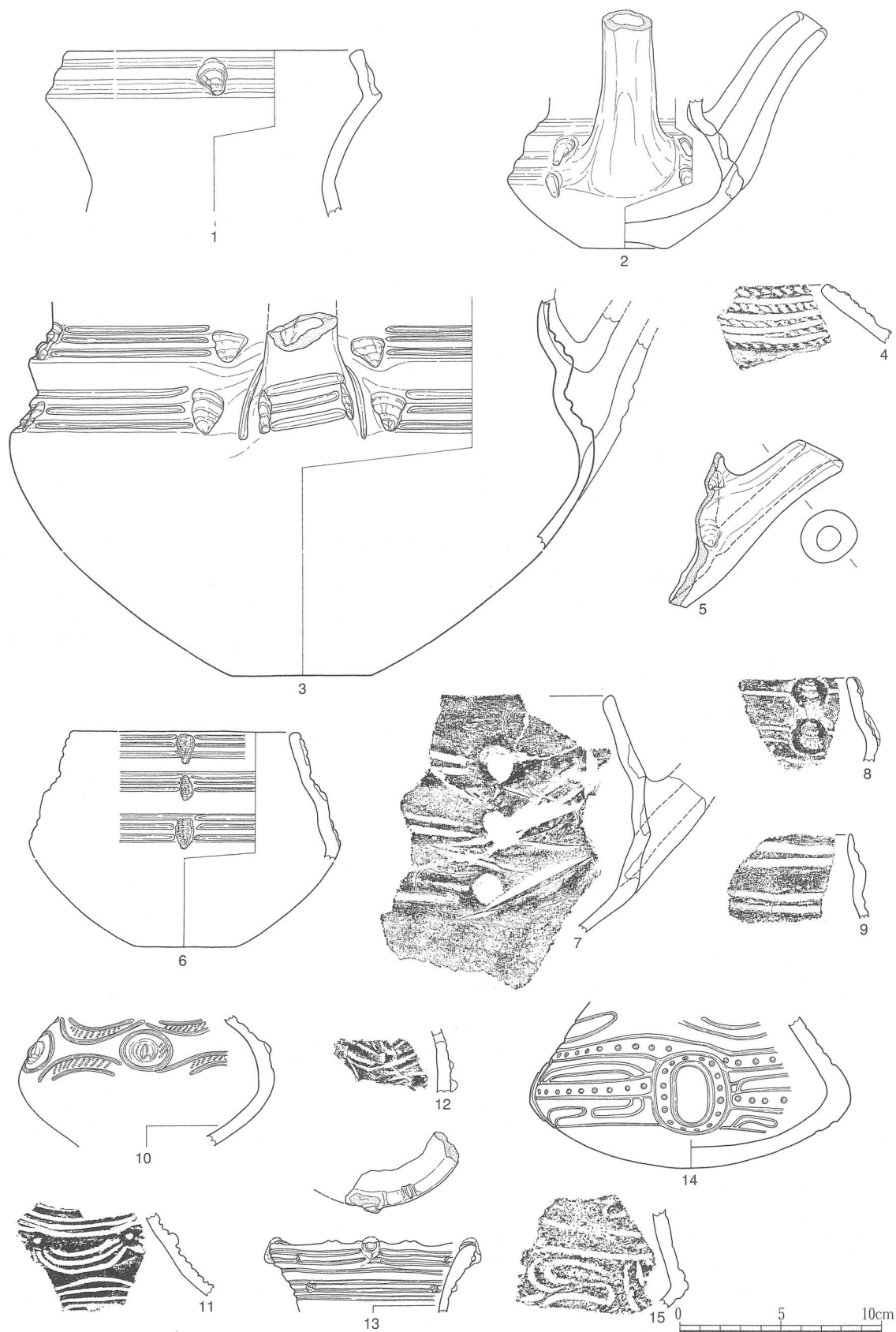
第98图 包含層出土土器⑬ (1/3) 1N区(7~9·12·13·20)·1S区(1·4~6·10·11·14~19·21)·
2N区(2)·2S区(3)



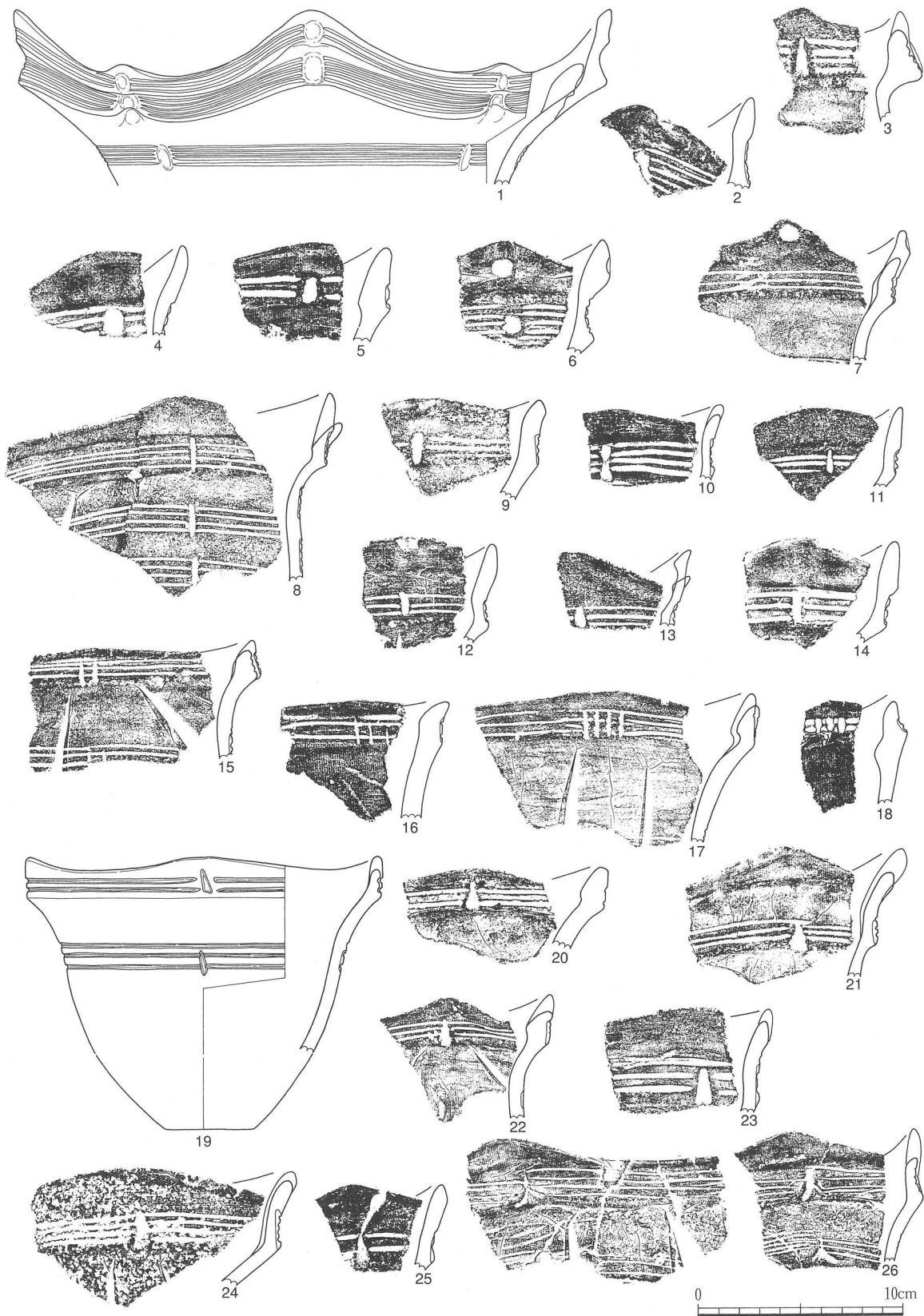
第99图 包含層出土土器⑰ (1/3) 1N区(2·3·6)·1S区(1·5·9·10·12~17)·2N区(4·7·8·11)



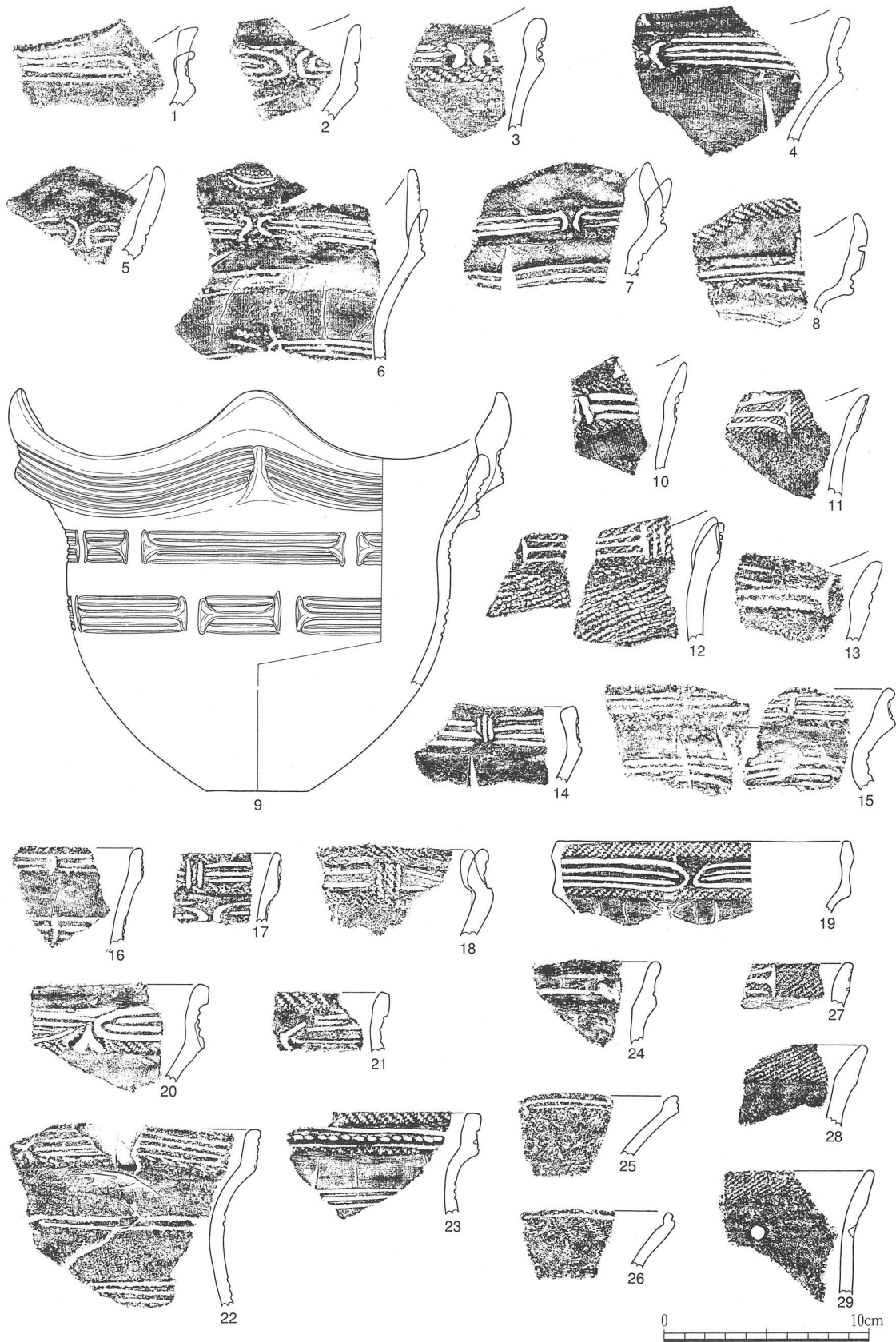
第100图 包含層出土土器^⑩ (1/3) 1N区(5·8·14)·1S区(1~3·6·7·9~11·13)·2N区(4)·2S区(12)



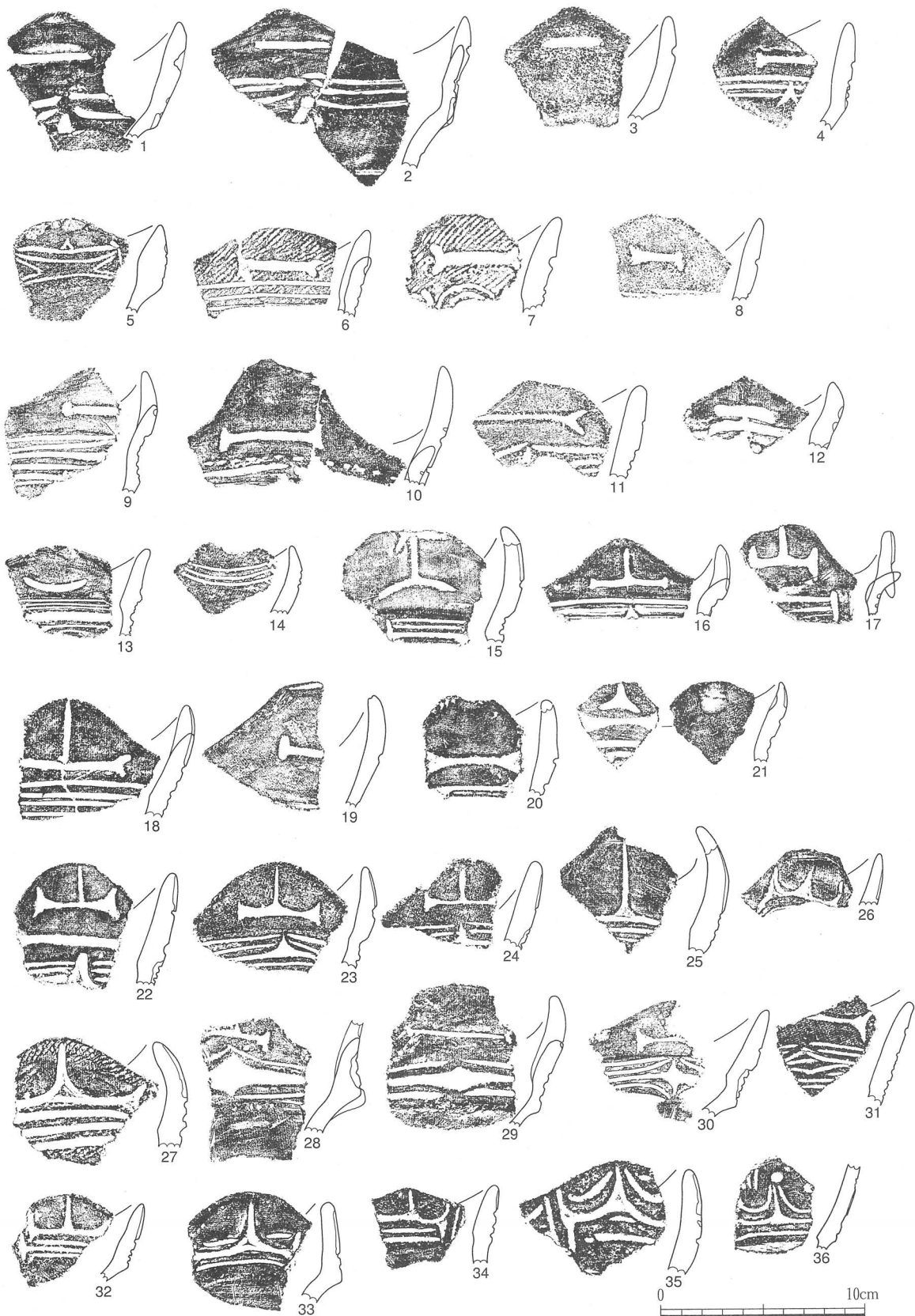
第101图 包含層出土土器⑱ (1/3) 1N区(6·10·11)·1S区(1·3·4·7·8·12·13)·2N区(5·9·15)·2S区(2)·不明(14)



第102图 包含层出土土器②(1/3) 1N区(7·10·12·13·19·23·24)·1S区(1~6·8·9·11·14~16·18·20·21·25)·2N区(22)·
2S区(17·26)

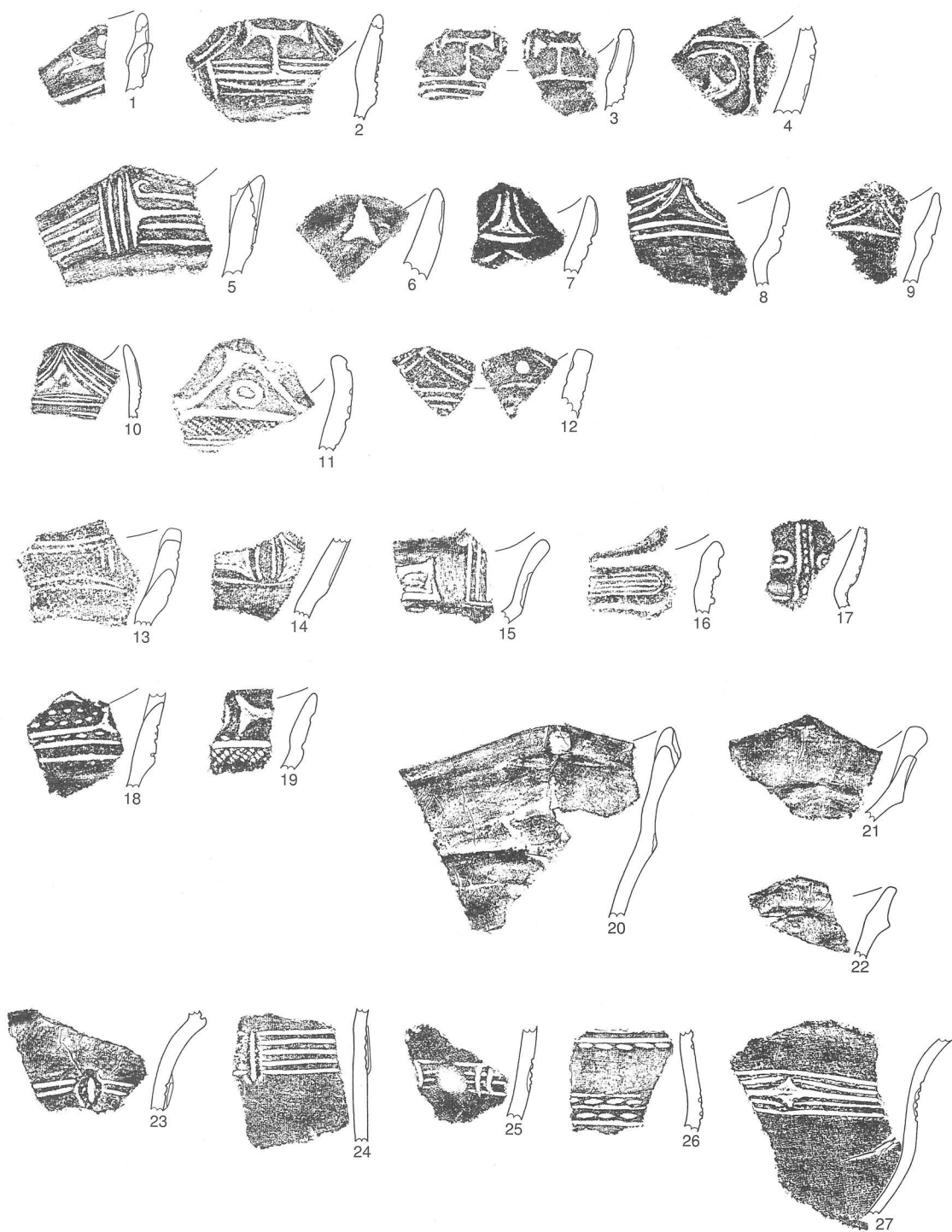


第103图 包含層出土土器② (1/3) 1N区(6·22·23)·1S区(2~5·7~14·17·19~21·24·27~29)·2N区(1·15·16)·
2S区(18·25·26)



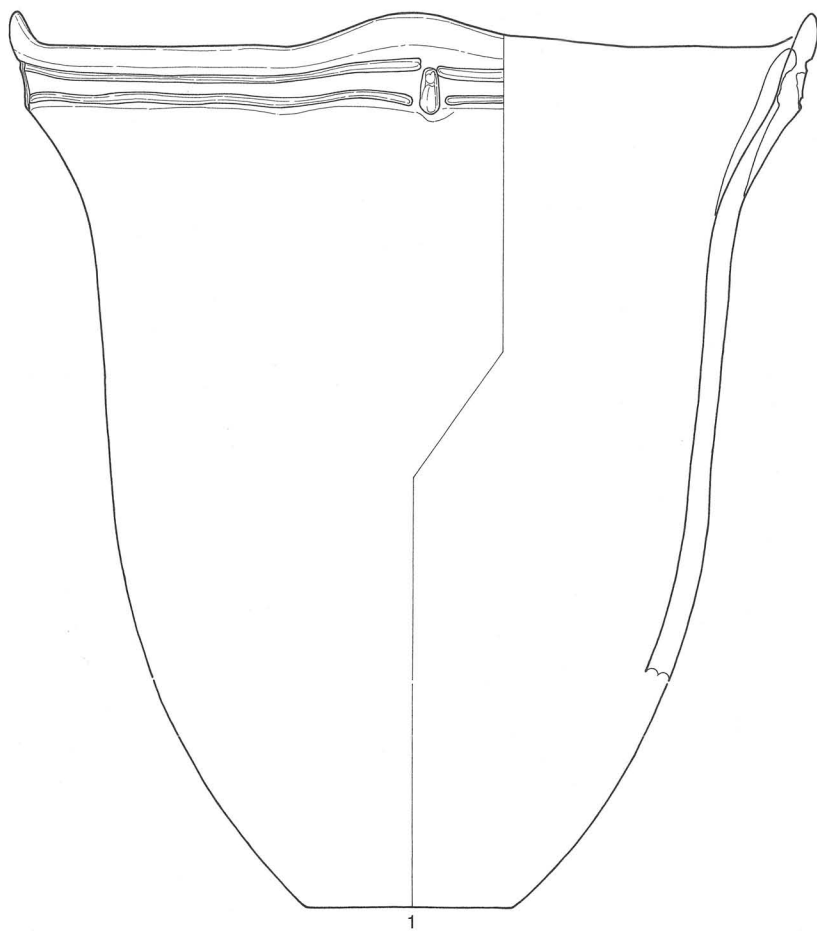
第104图 包含层出土土器② (1/3)

1N区(1·6·7·10·13·14·16·18·24·28·29)·1S区(2~5·12·15·17·
19~23·25~27·31·33~36)·2N区(8·9·11·30)·2S区(32)

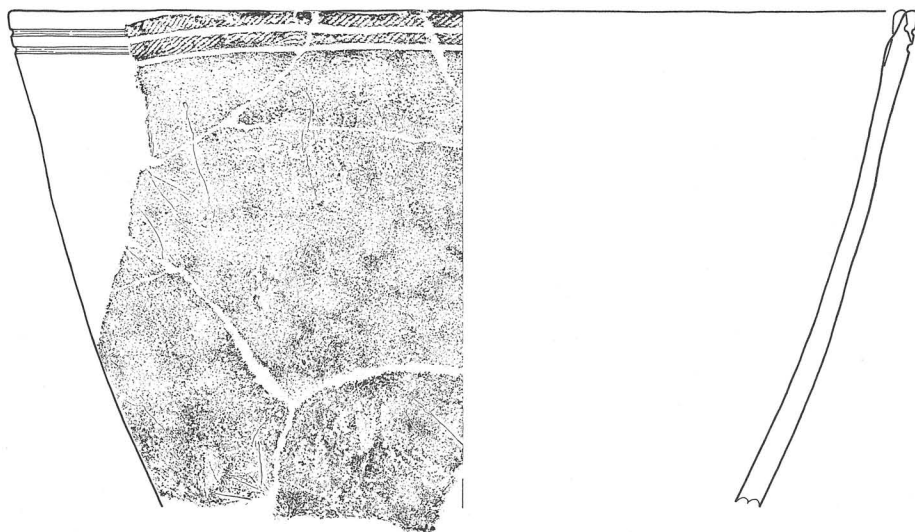


0 10cm

第105图 包含層出土土器② (1/3) 1N区(3·6·11)·1S区(1·2·4·5·8~10·13~27)·2S区(7·12)



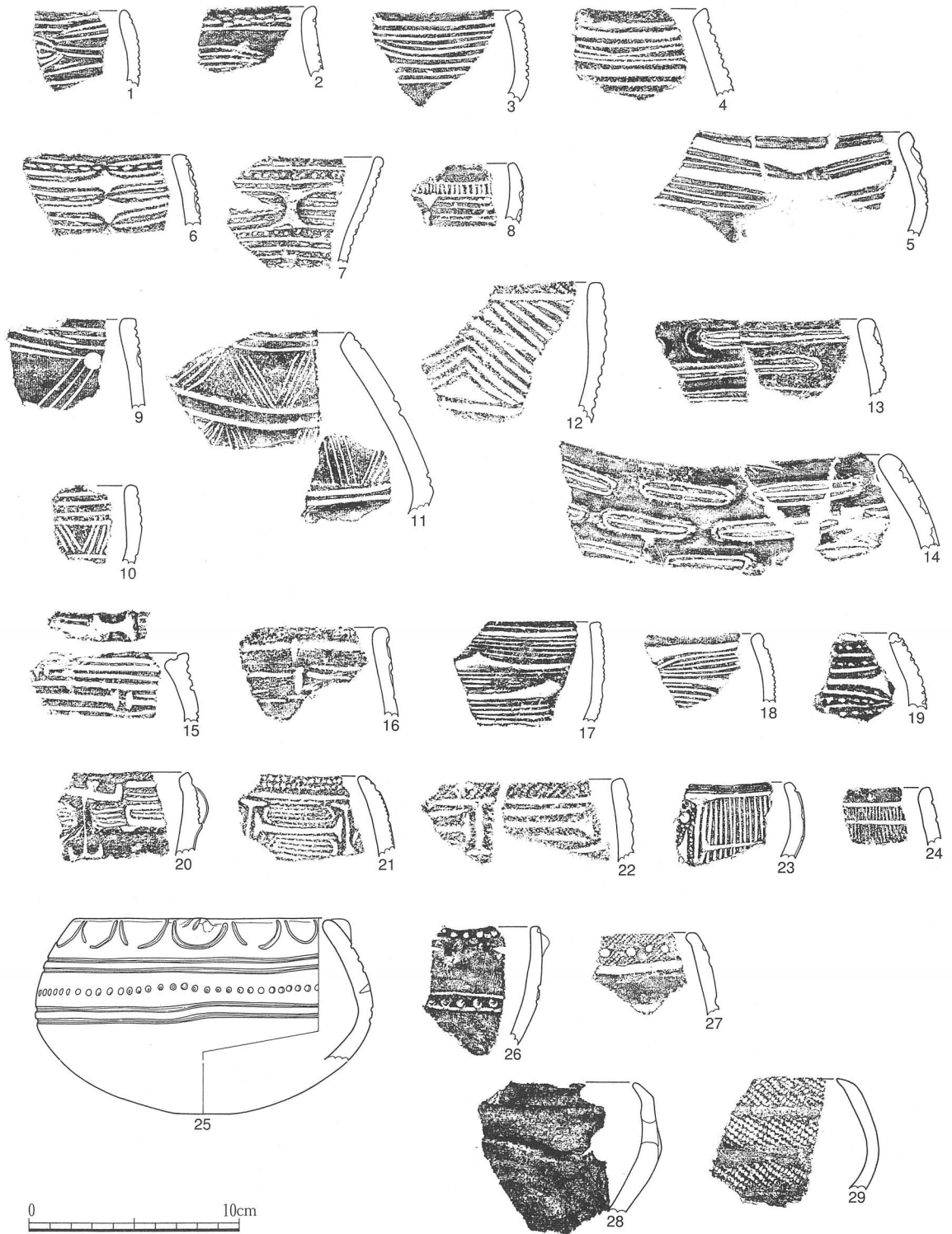
1



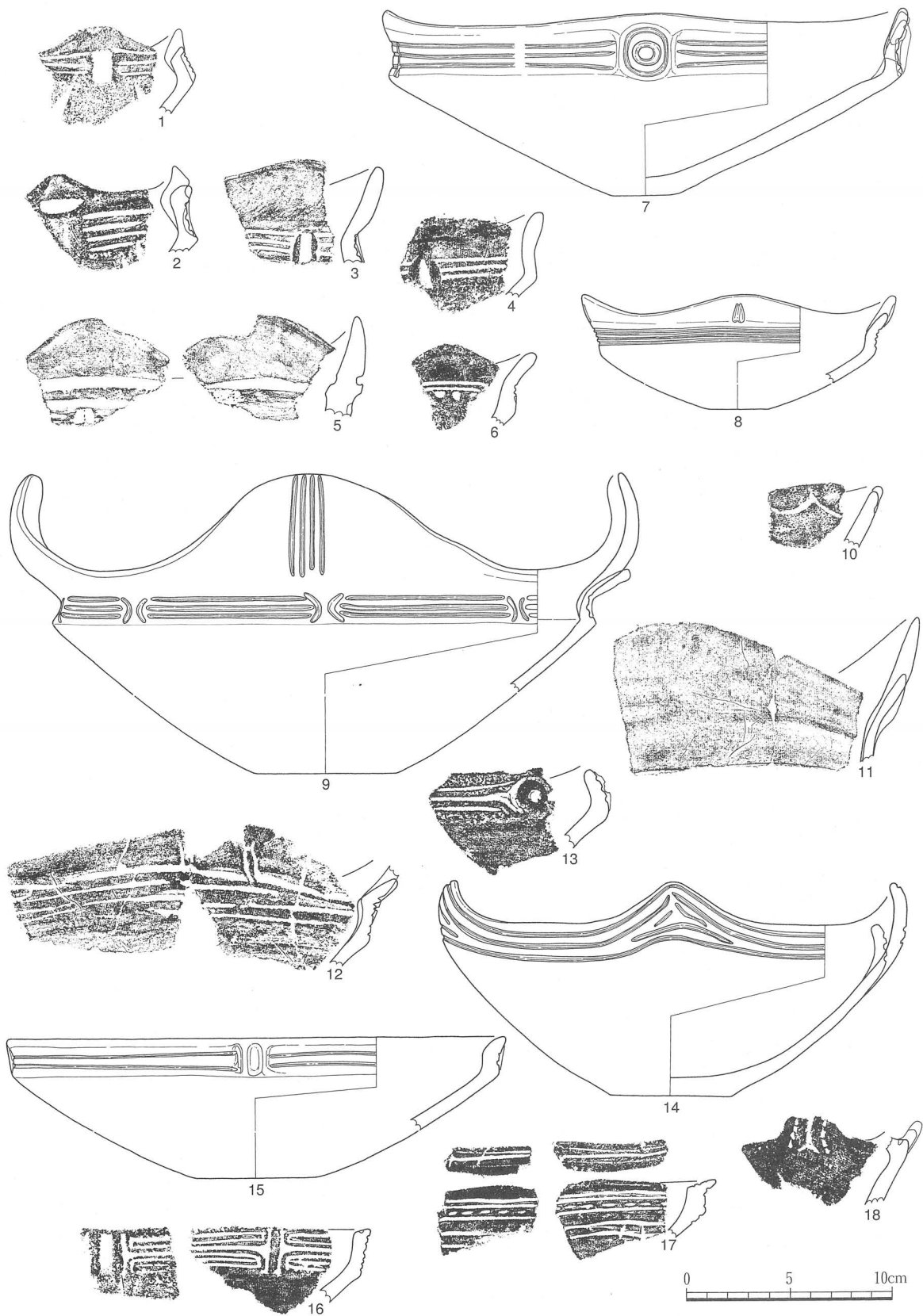
2



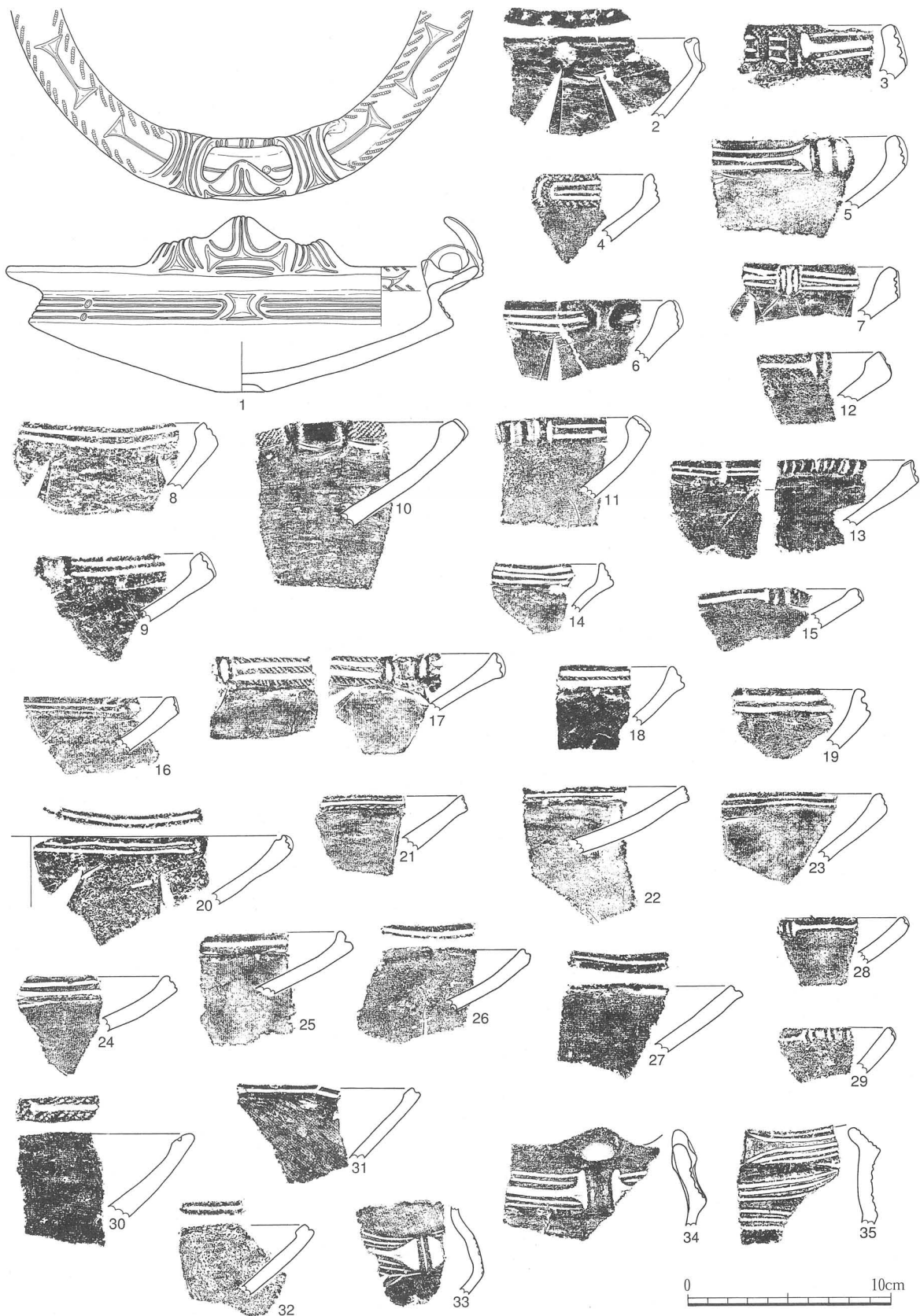
第106图 包含層出土土器④ (1/3) 1S区(1·2)



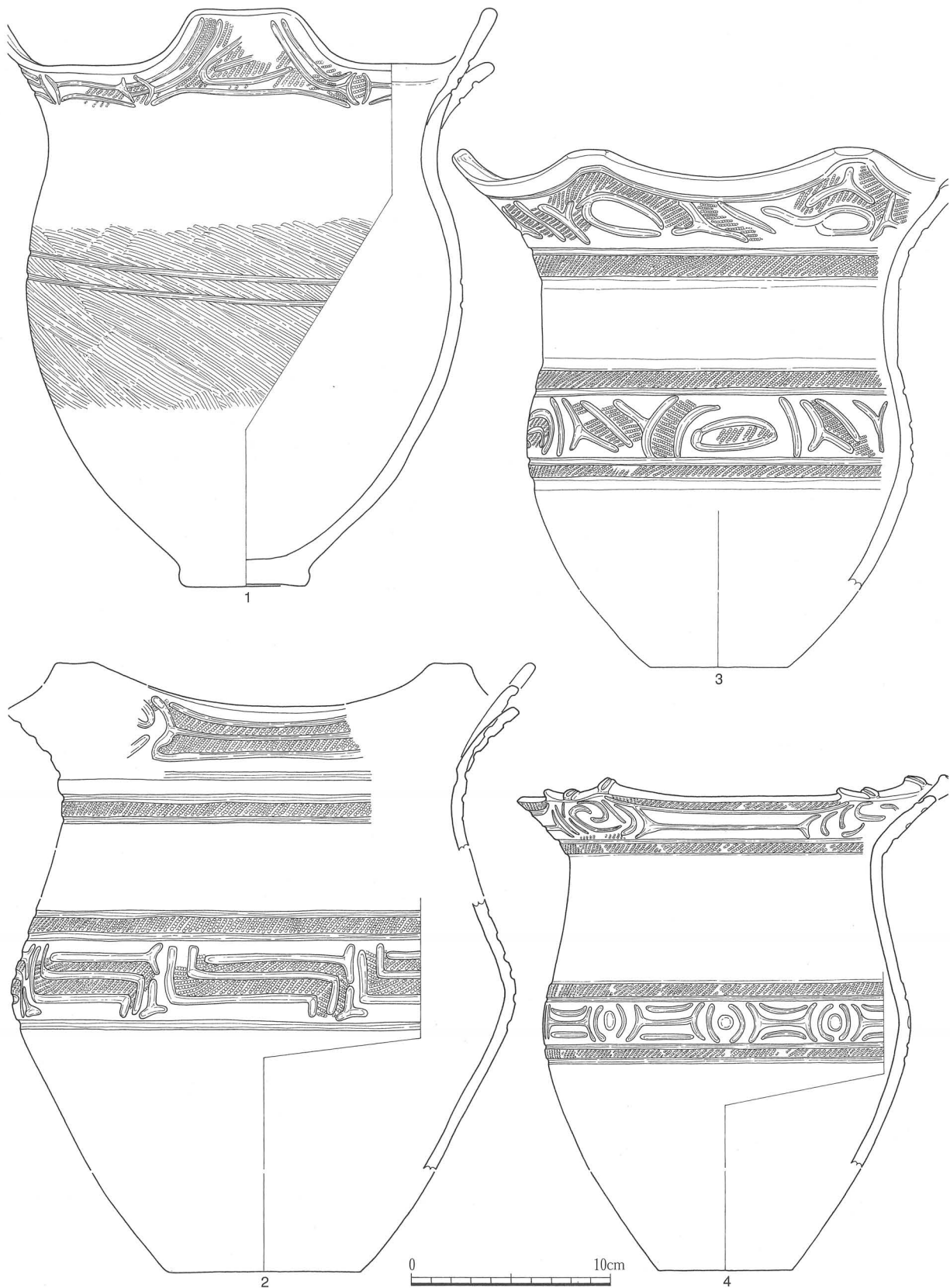
第107图 包含層出土土器 (1/3) 1N区(2·3·12·15·18·22)·1S区(1·4~6·9·11·13·16·17·19·20·23·24·26·28·29)·2N区(7·14·21·25·27)·2S(8·10)



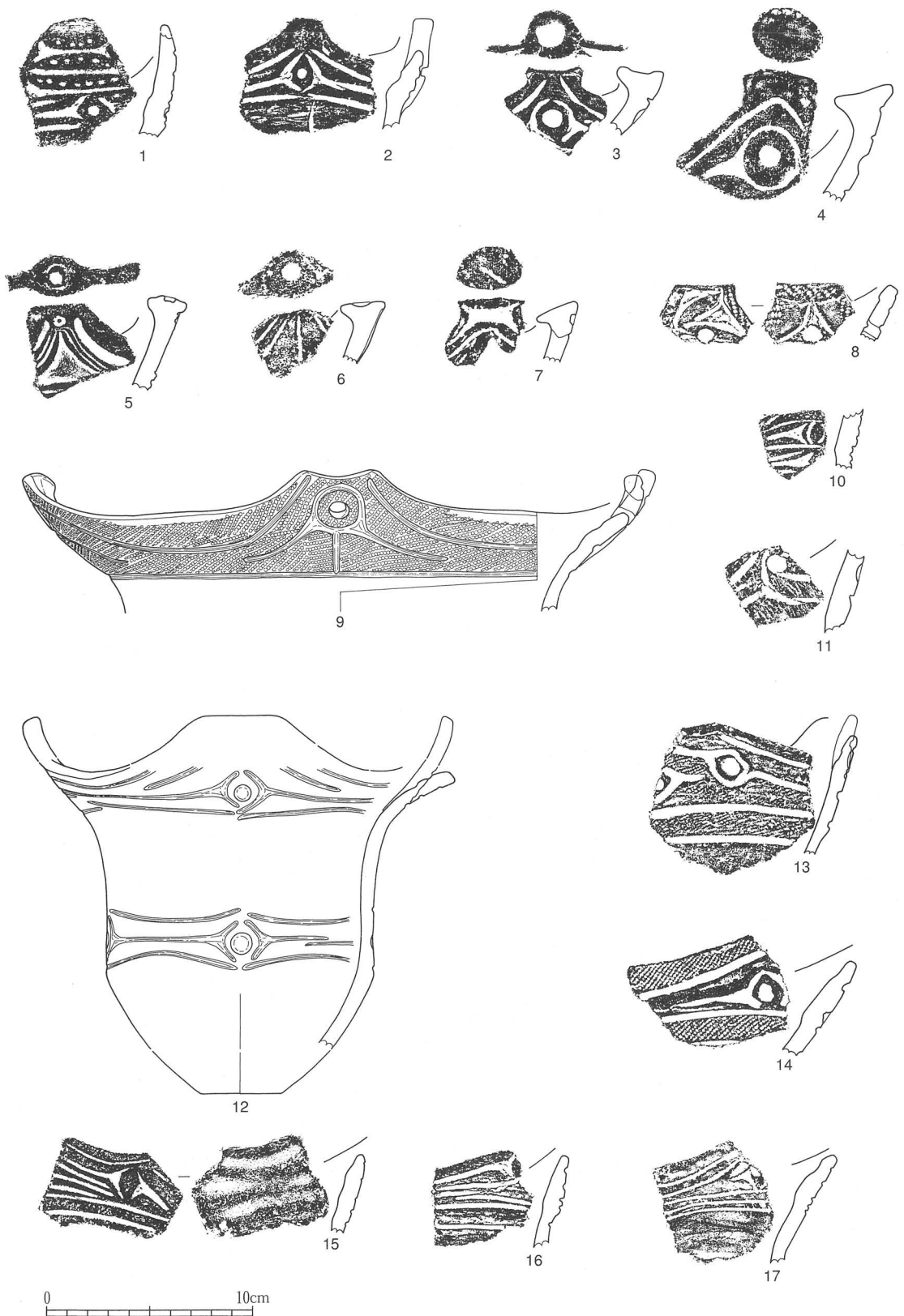
第108図 包含層出土土器② (1/3) 1N区(12·16)·1S区(2~4·6~9·11·13~15·17·18)·2N区(1·5)·2S区(10)



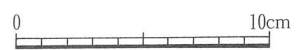
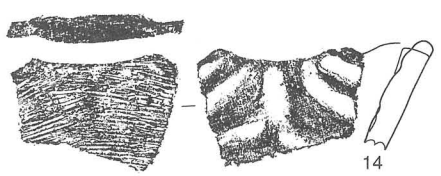
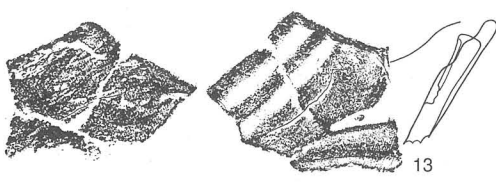
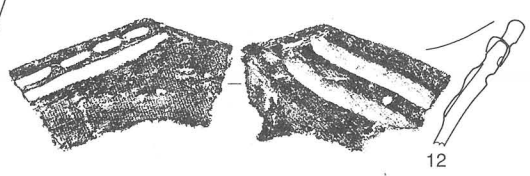
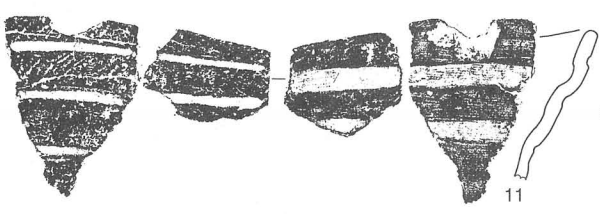
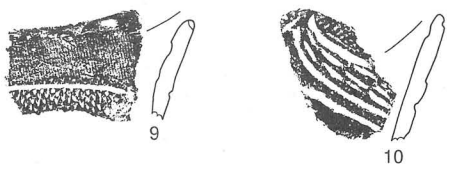
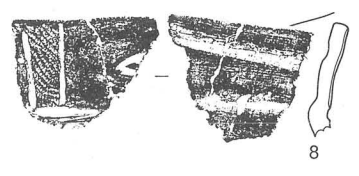
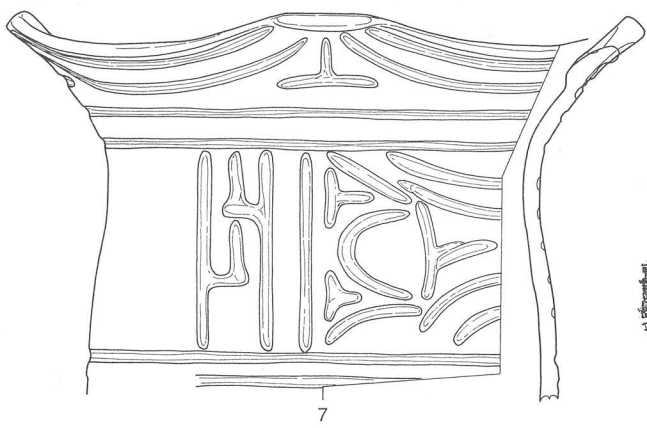
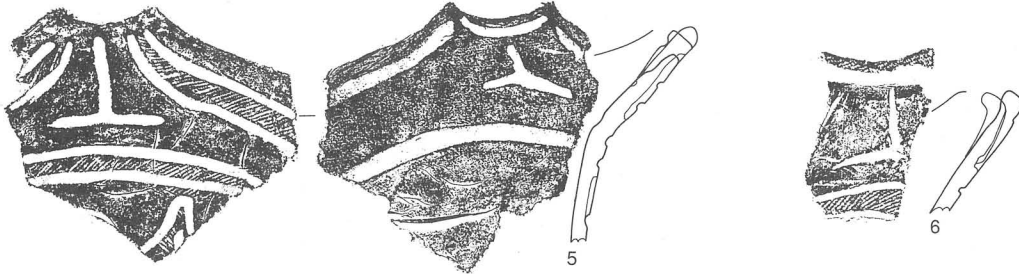
第109图 包含層出土土器⑦ (1/3) 1N区(8·9·16·17·33) 1S区(1~7·10·12~15·18~28·30·31·34) ·
2S区(11·29·32·35)



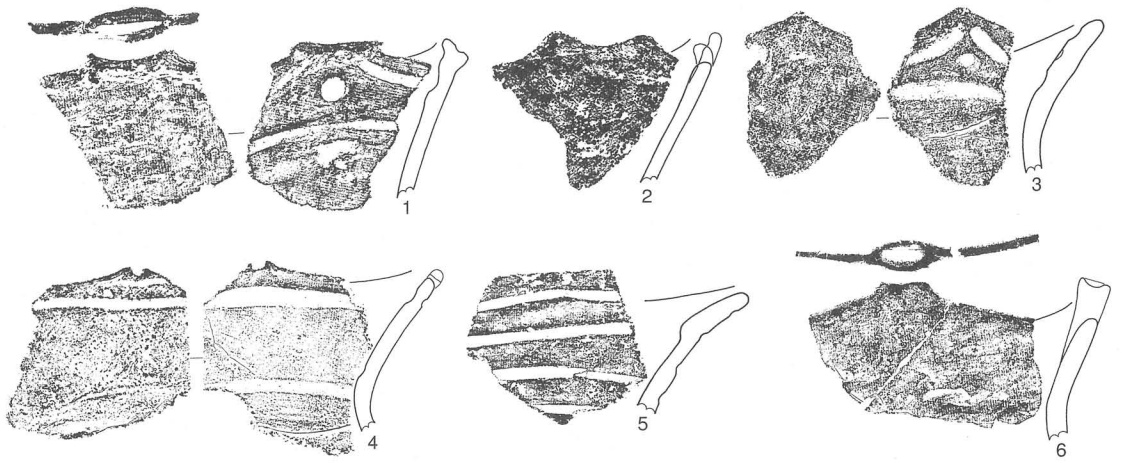
第110图 包含層出土土器²⁹ (1/3) 1S区(2~4)·2S区(1)



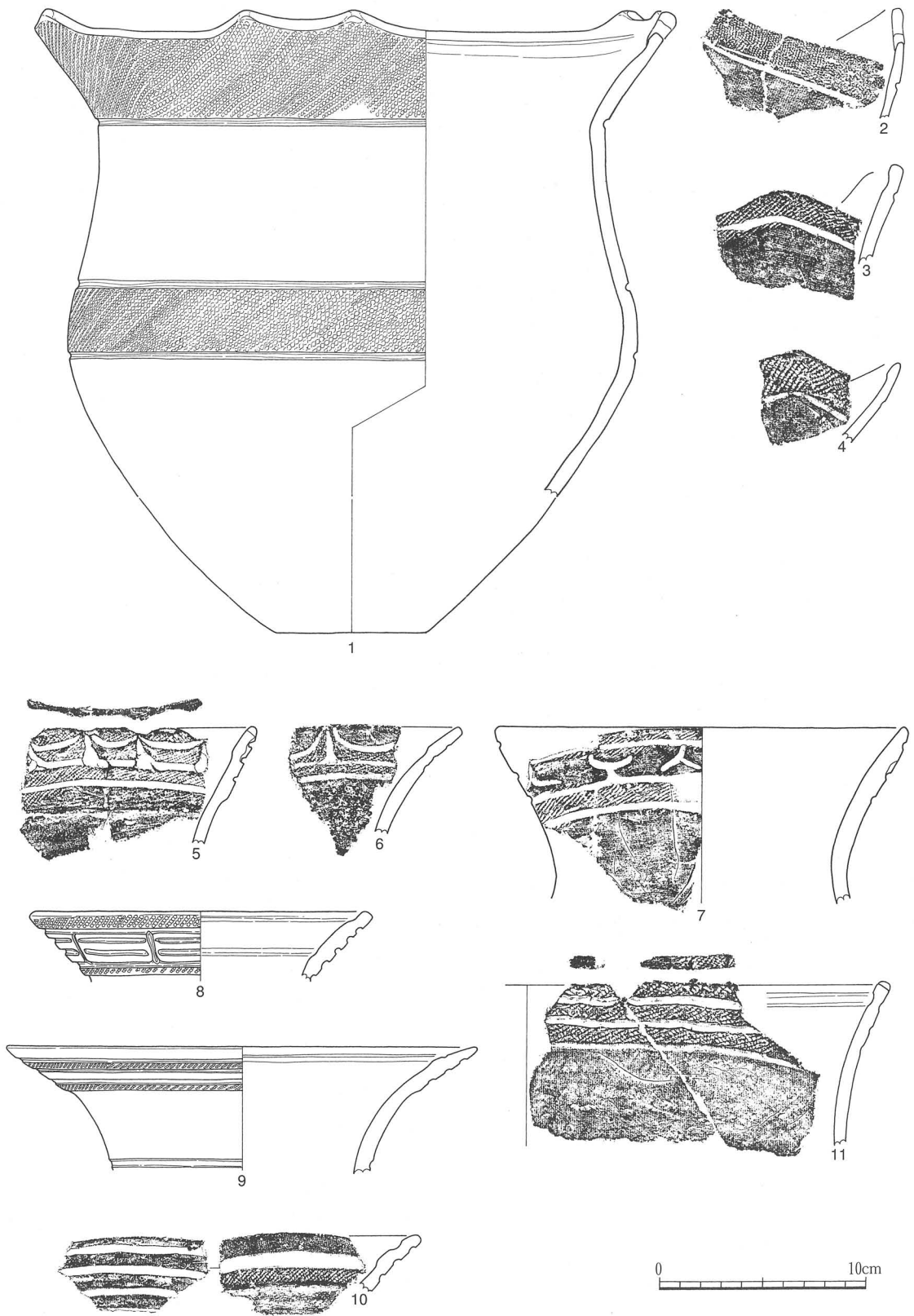
第111图 包含層出土土器② (1/3) 1S区(1·3~7·9·11~16)·2S区(2·8·10·17)



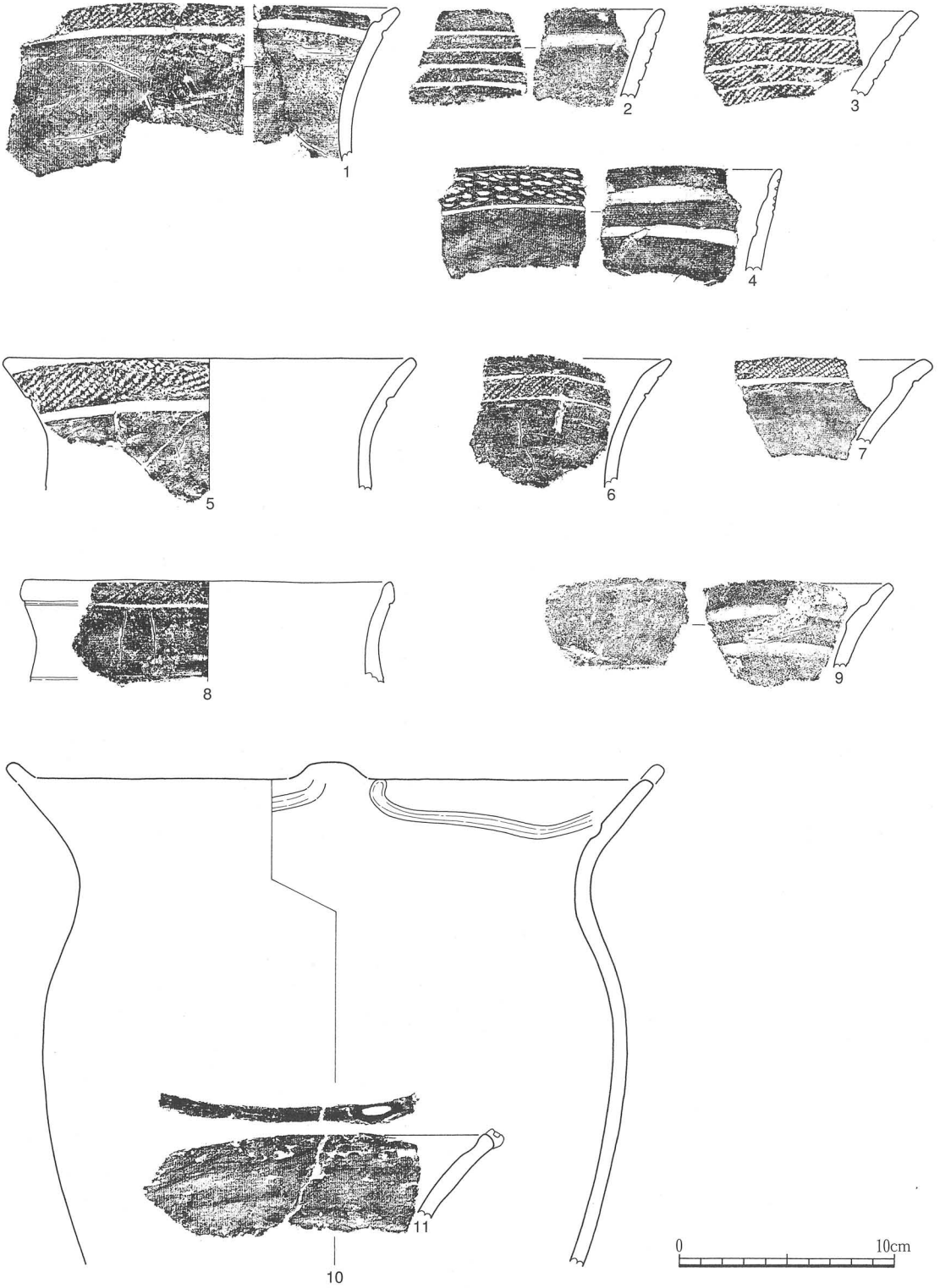
第112图 包含層出土土器③ (1/3) 1S区(1~14)



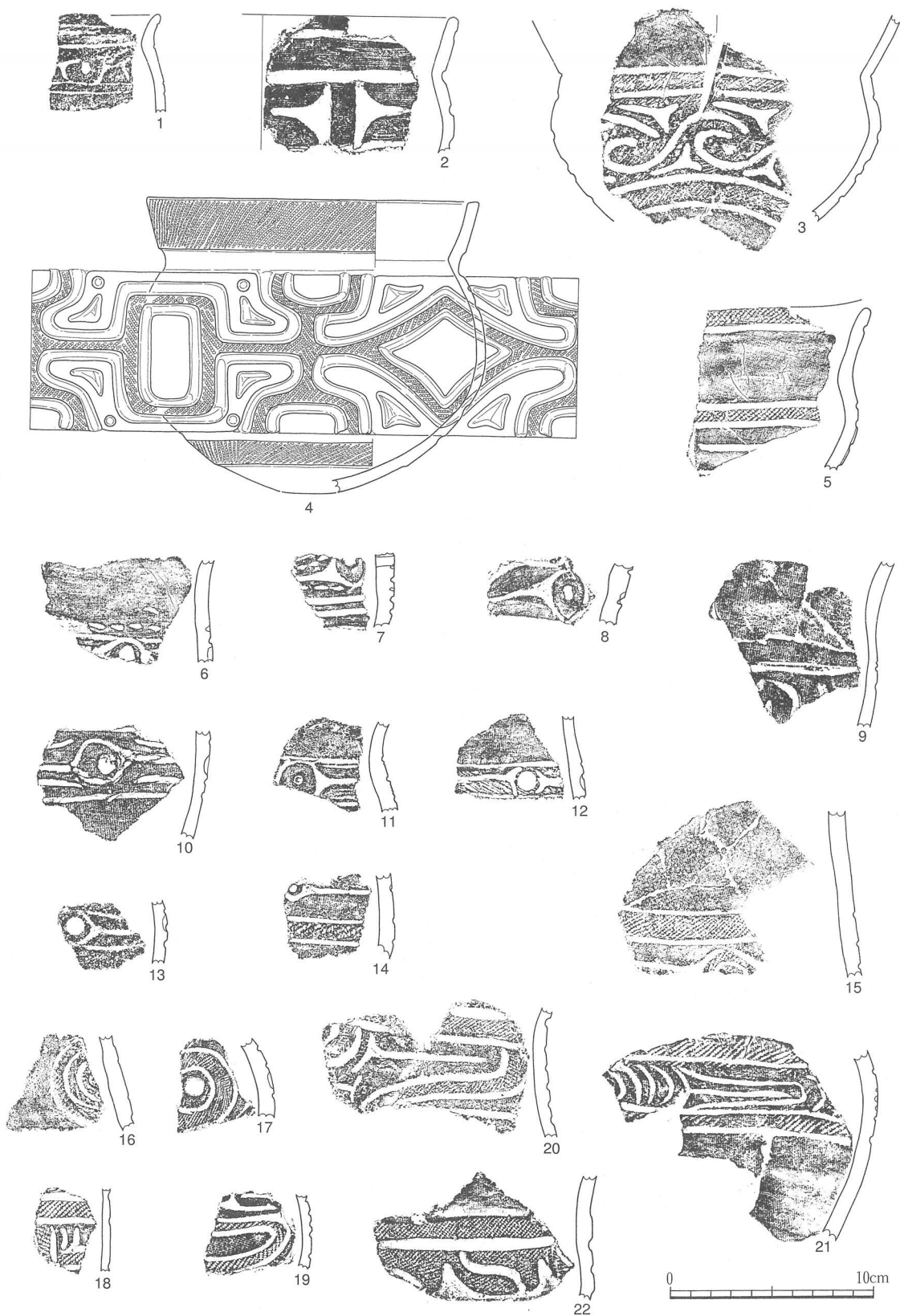
第113图 包含層出土土器③ (1/3) 1N区(6)·1S区(1~5·7~9)



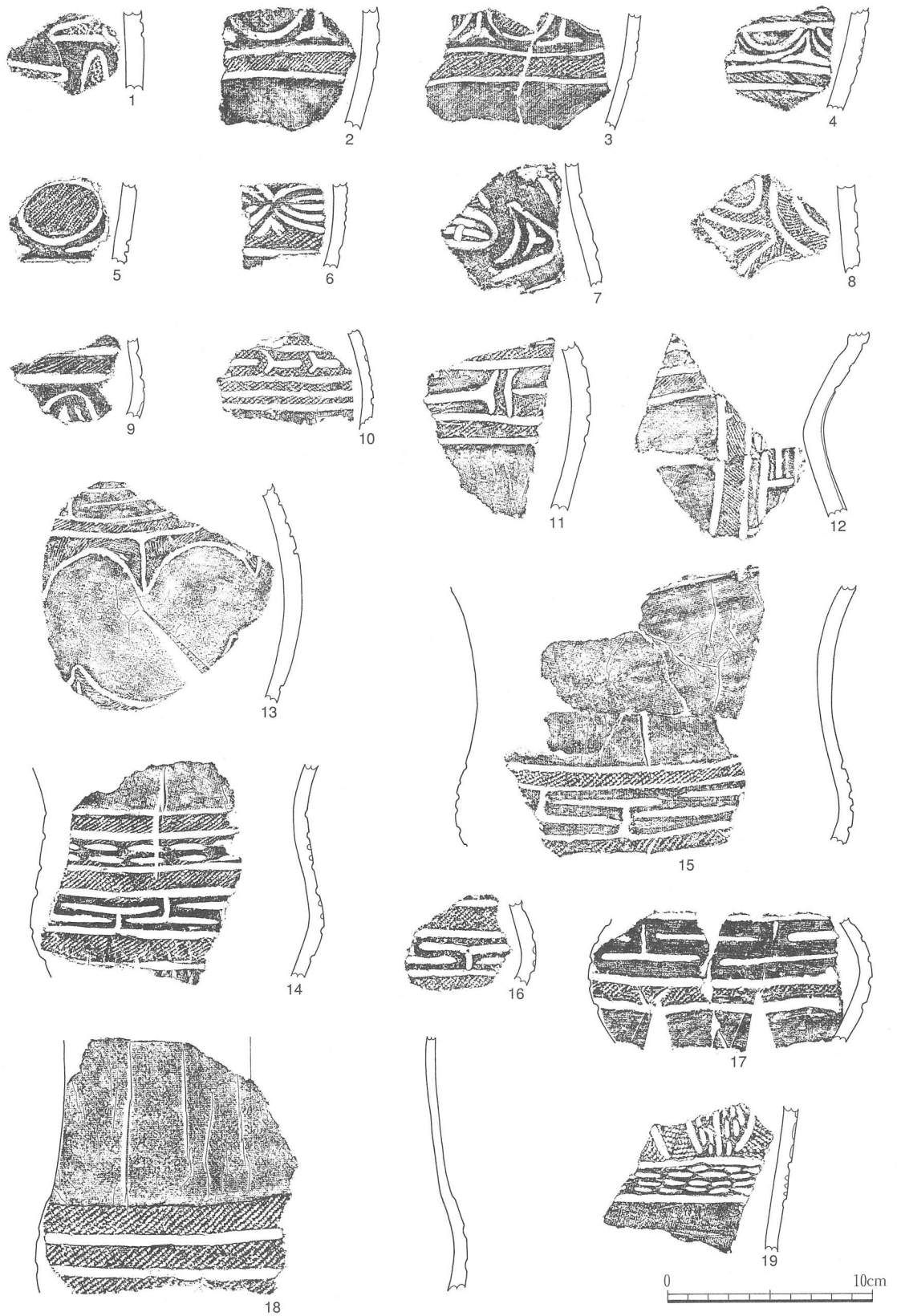
第114图 包含層出土土器③ (1/3) 1S区(1~11)



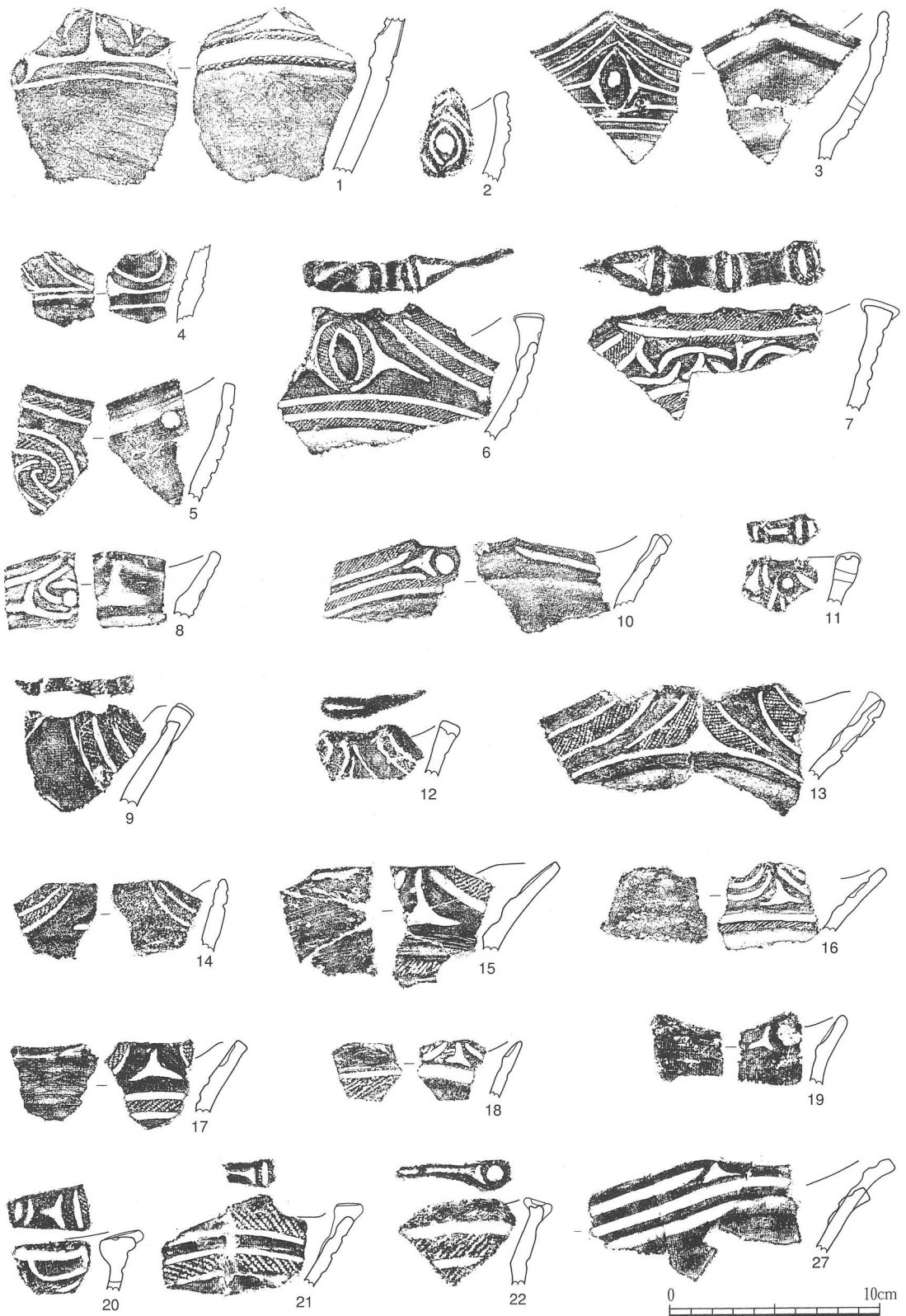
第115图 包含層出土土器③ (1/3) 1N区(9)·1S区(1~8·10·11)



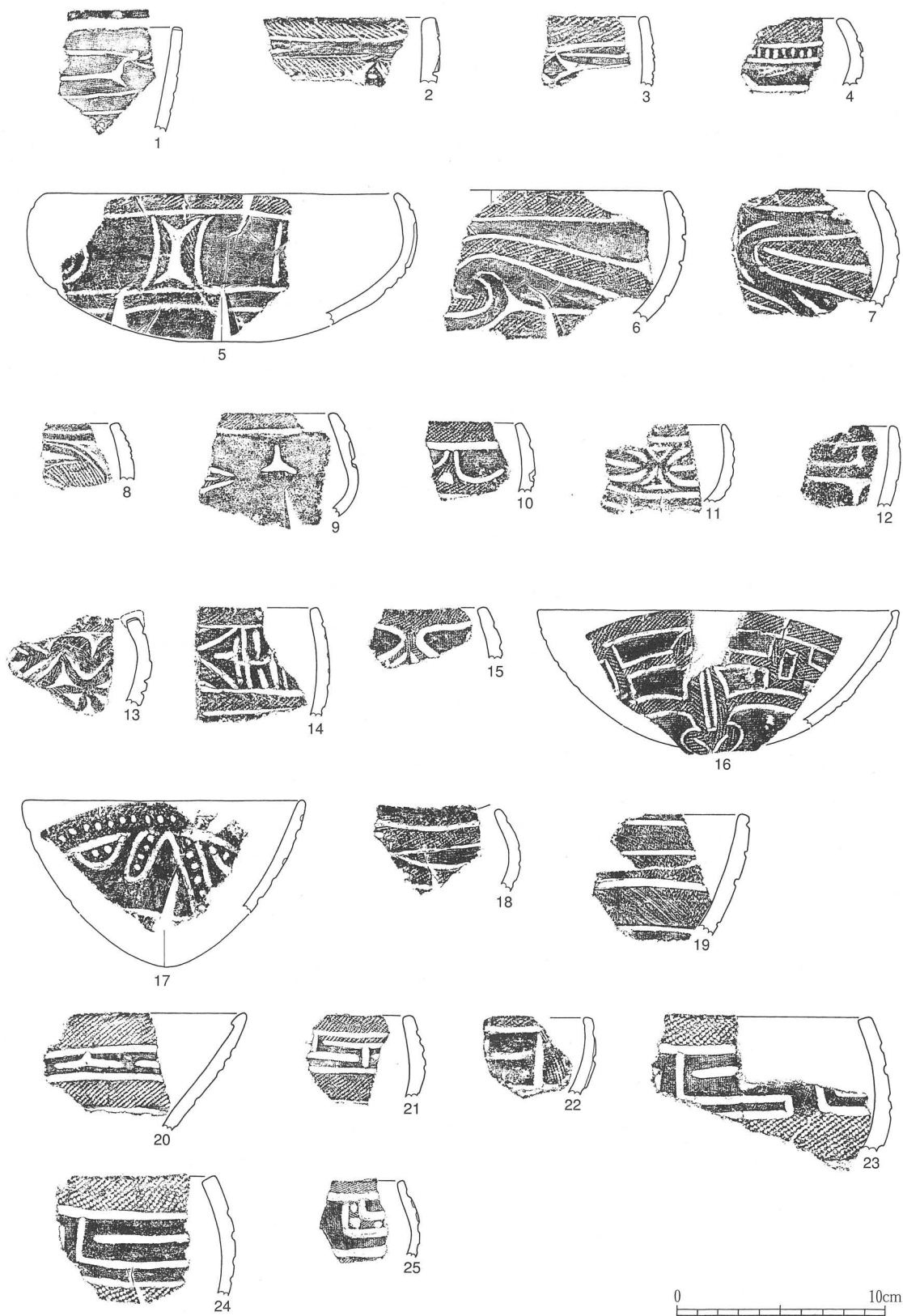
第116图 包含层出土土器³⁴ (1/3) 1N区(18)·1S区(1~14·17·19·21·22)·2N区(15·16·20)



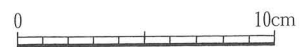
第117图 包含層出土土器③ (1/3) 1N区(9)·1S区(1~8·10~19)



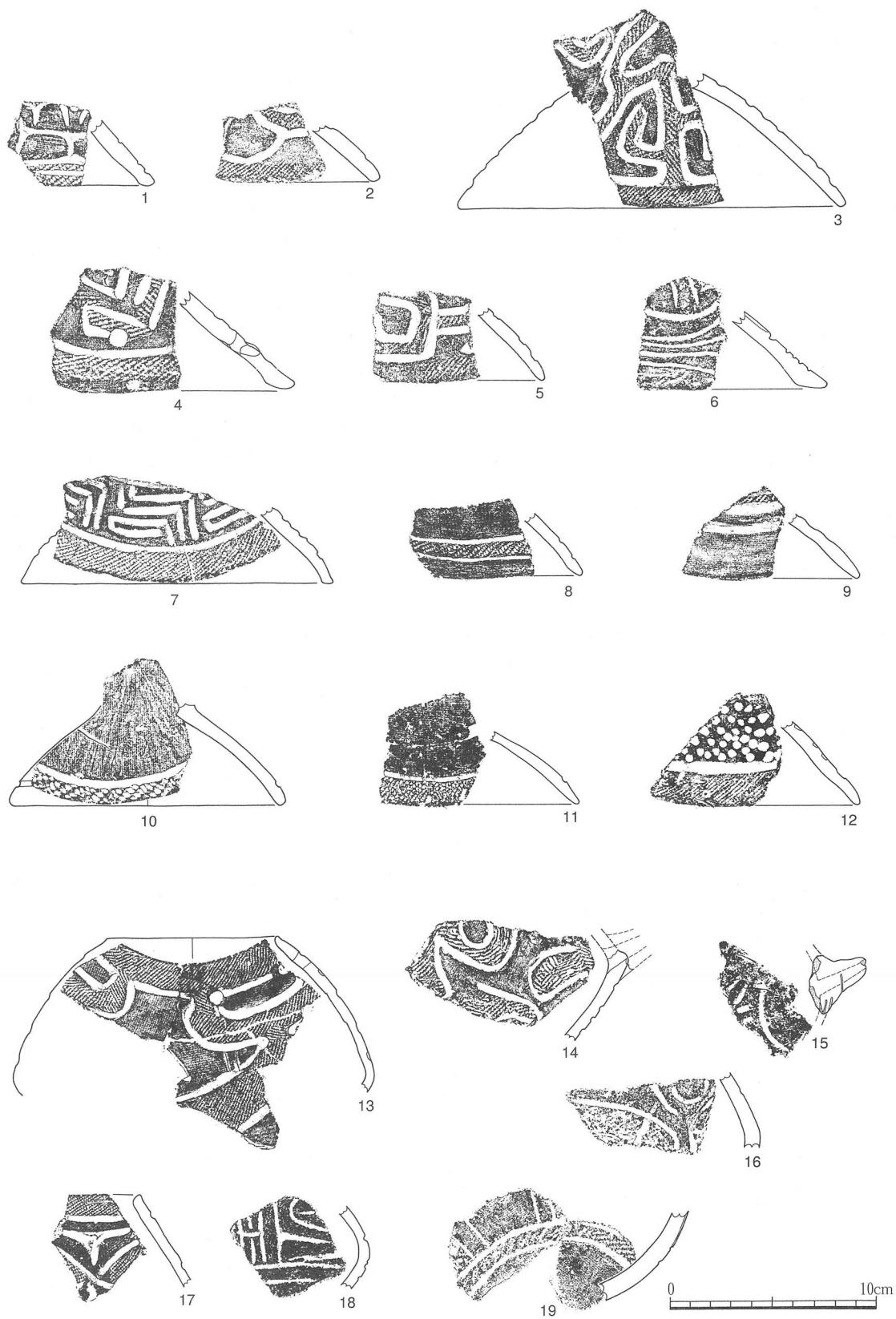
第118图 包含層出土土器③ (1/3) 1N区(8)·1S区(1~7·9·11·13~15·17~23)·2S区(10·12·16)



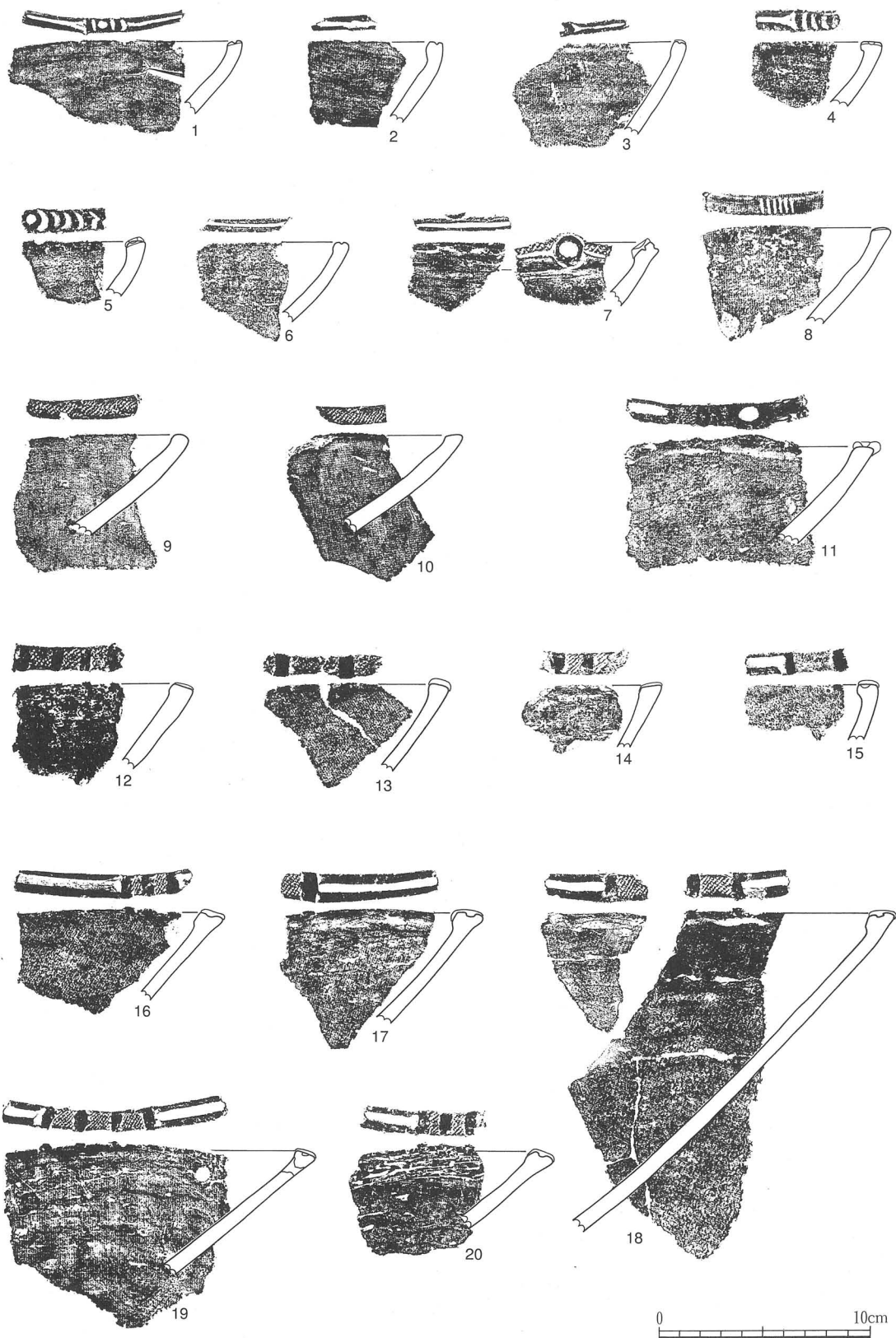
第119图 包含層出土土器③ (1/3) 1S区(1~10·12~25)·2S区(11)



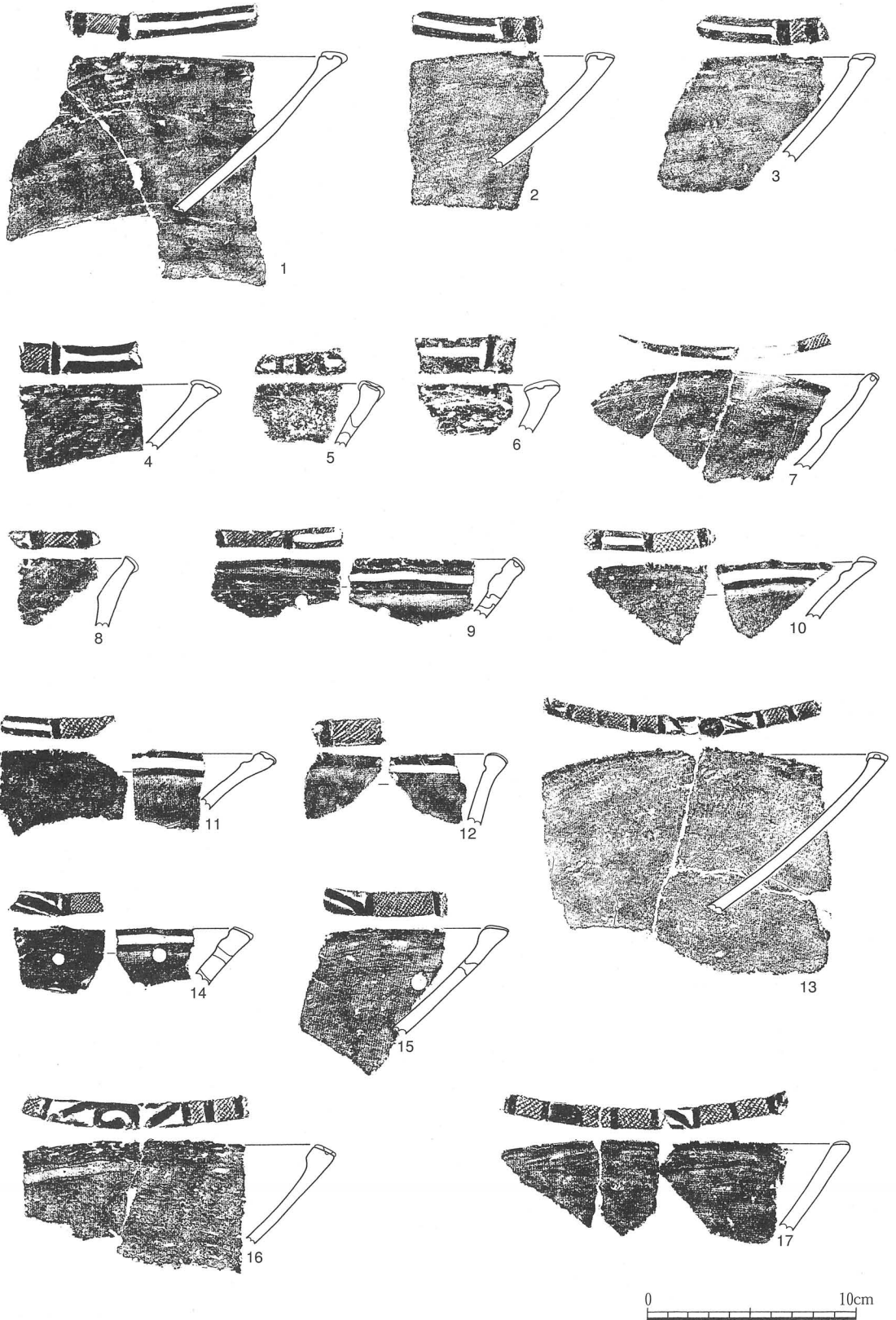
第120图 包含層出土土器³⁸ (1/3) 1S区(1~10·14·16~20·22~24)·2S区(11~13·15·21)



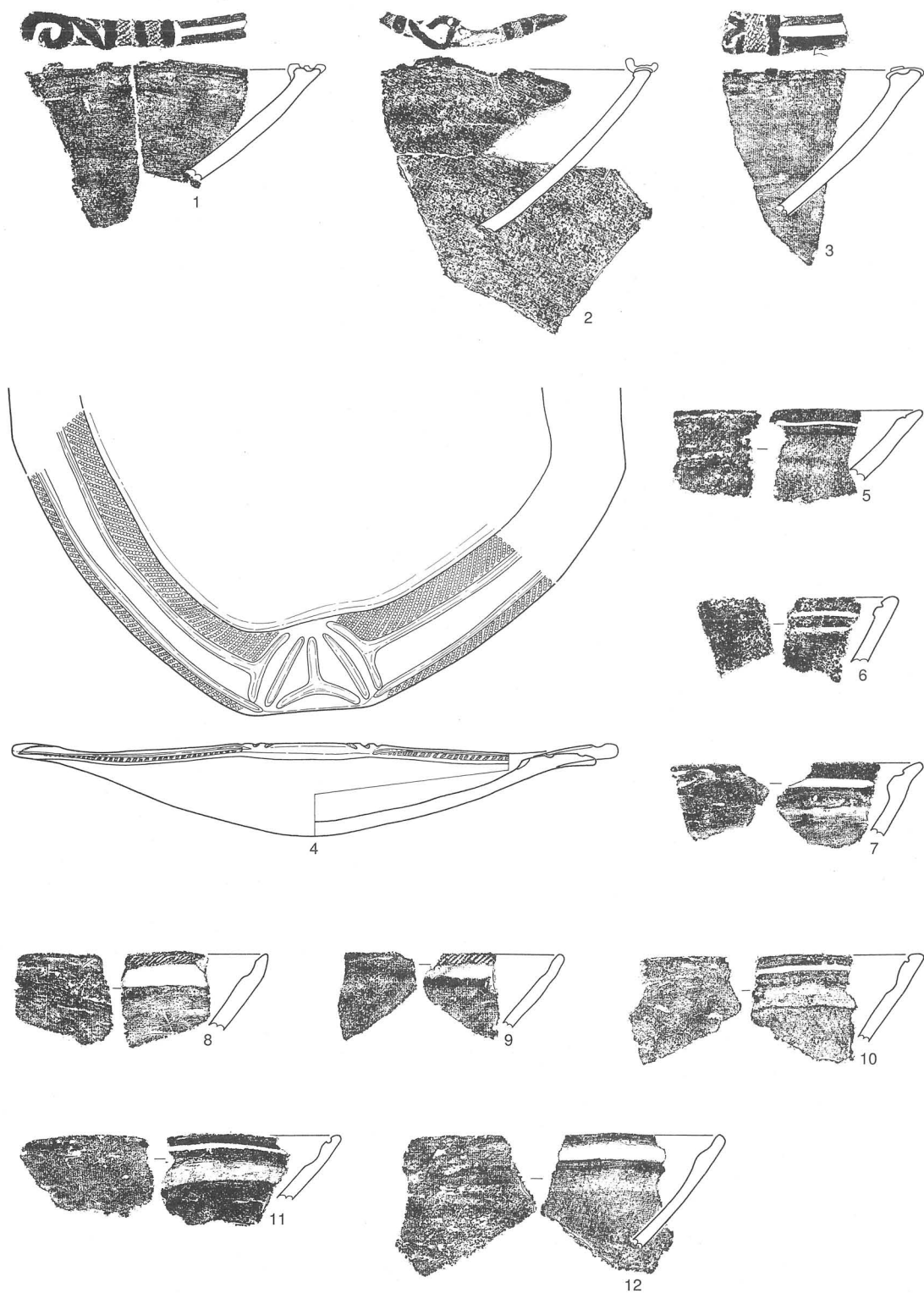
第121图 包含層出土土器³⁹ (1/3) 1N区(19)·1S区(1~8·10~15·17·18)·2N区(16)·2S区(9)



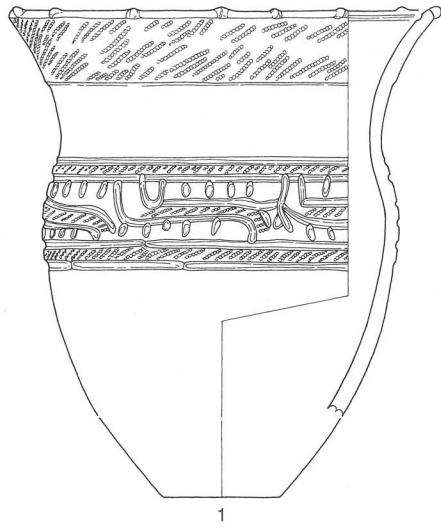
第122图 包含层出土土器④ (1/3) 1S区(1·2·4·5·7~13·16~20)·2N区(3·6·14·15)



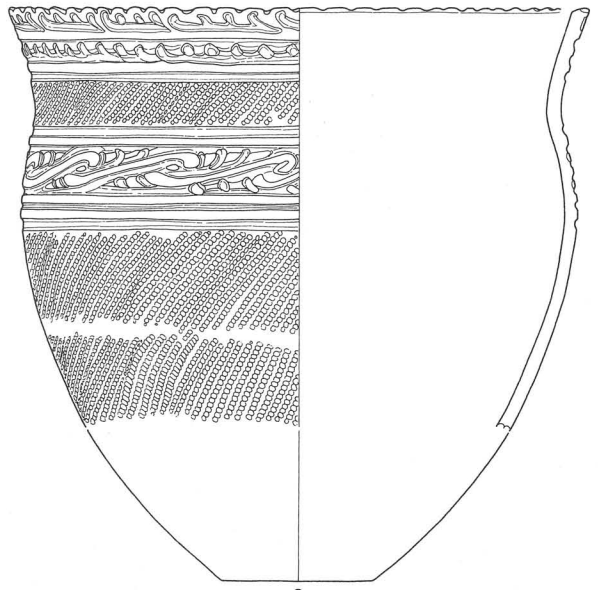
第123图 包含層出土土器④ (1/3) 1S区(1~7·9~11·13~17)·2S区(8·12)



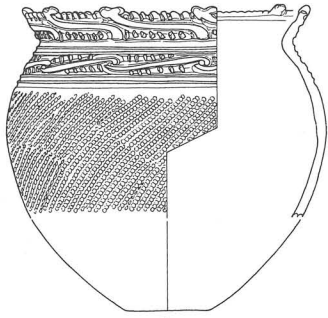
第124图 包含層出土土器④ (1/3) 1N区(7)·1S区(1~3·5·6·8~12)·2A区(4)



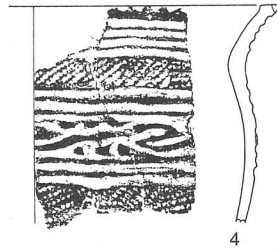
1



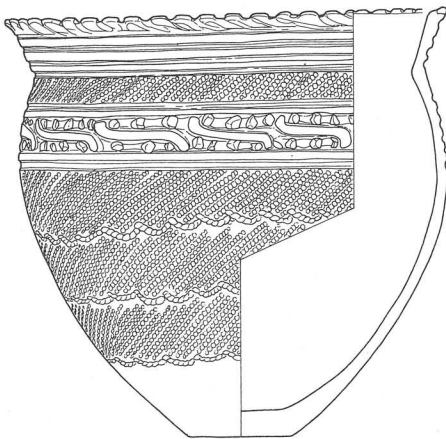
2



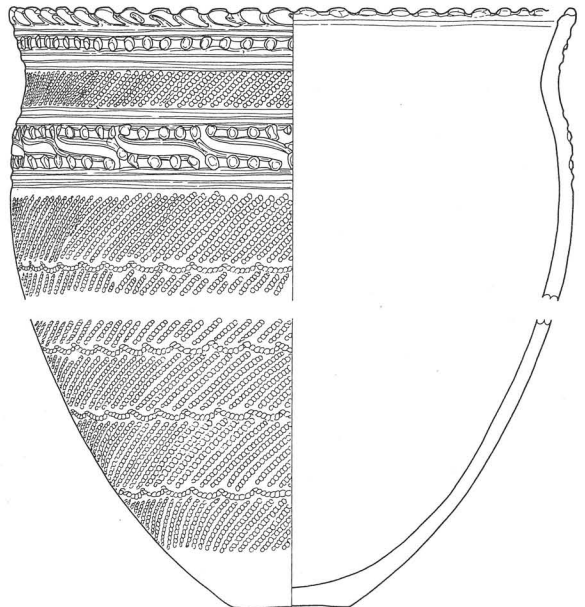
3



4



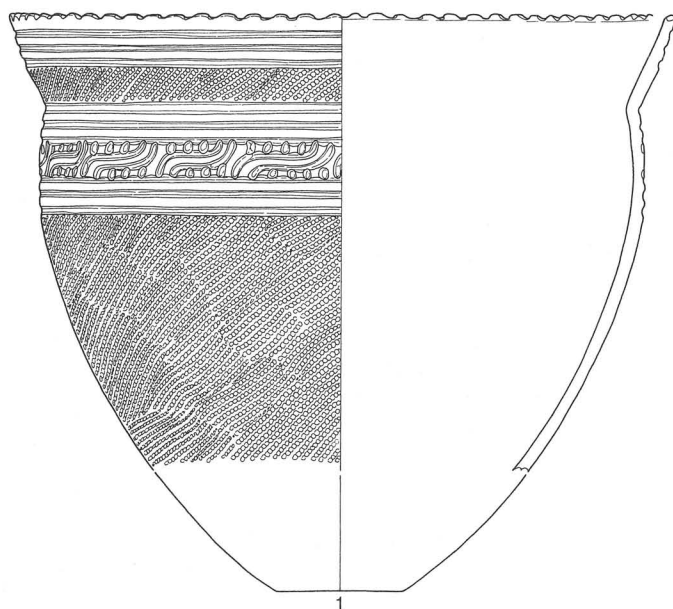
5



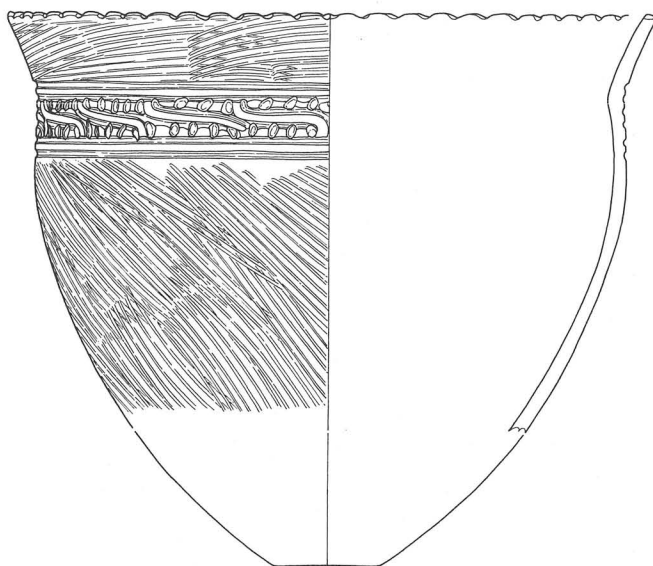
6



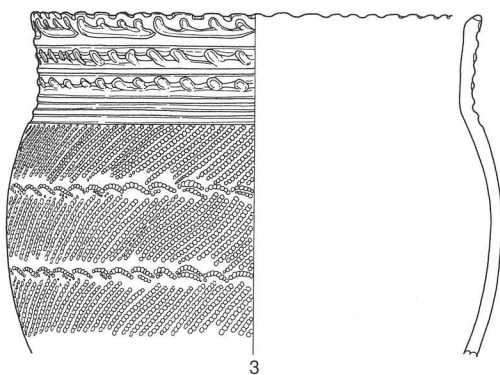
第125图 包含層出土土器④ (1/3) 1S区(1~6)



1



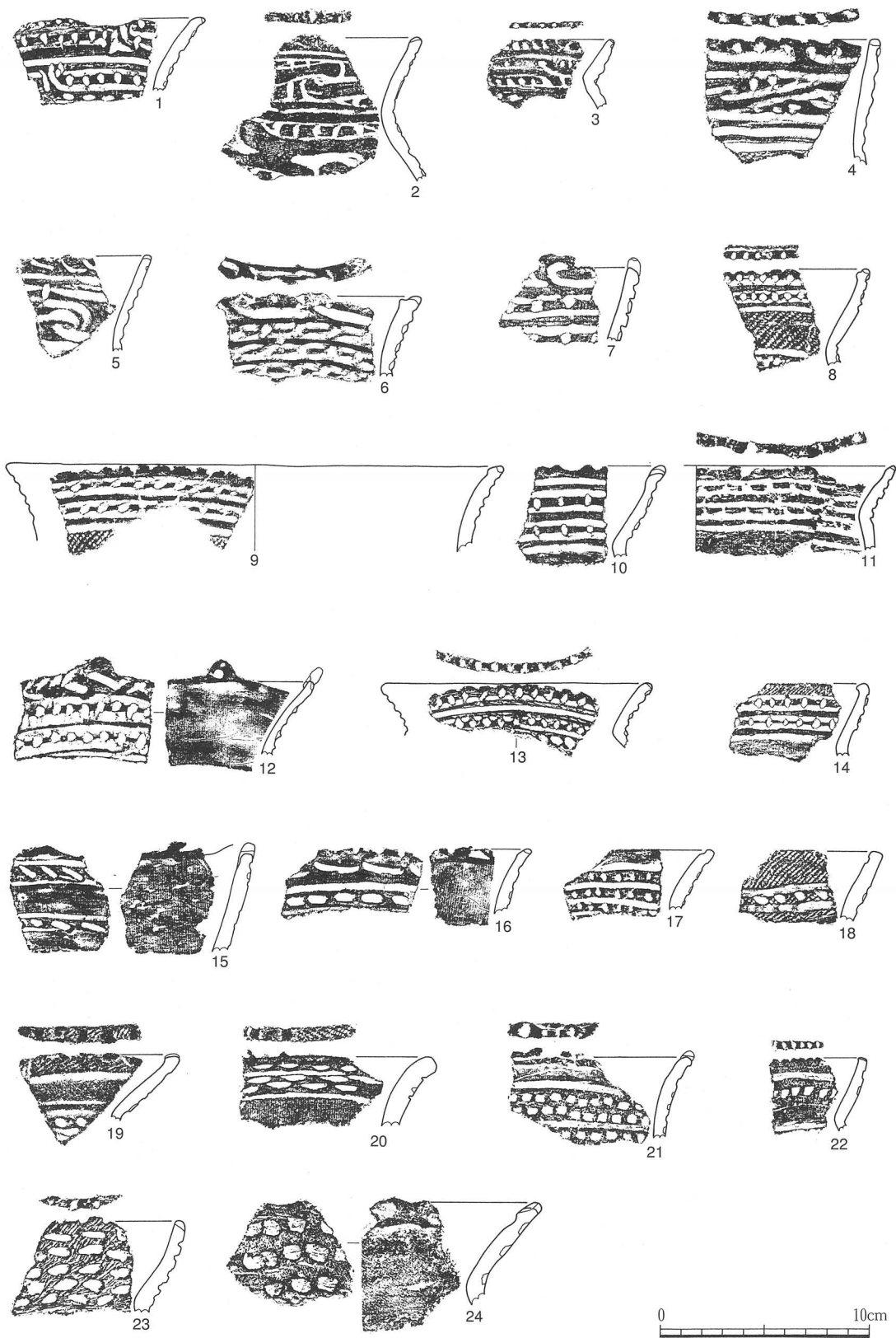
2



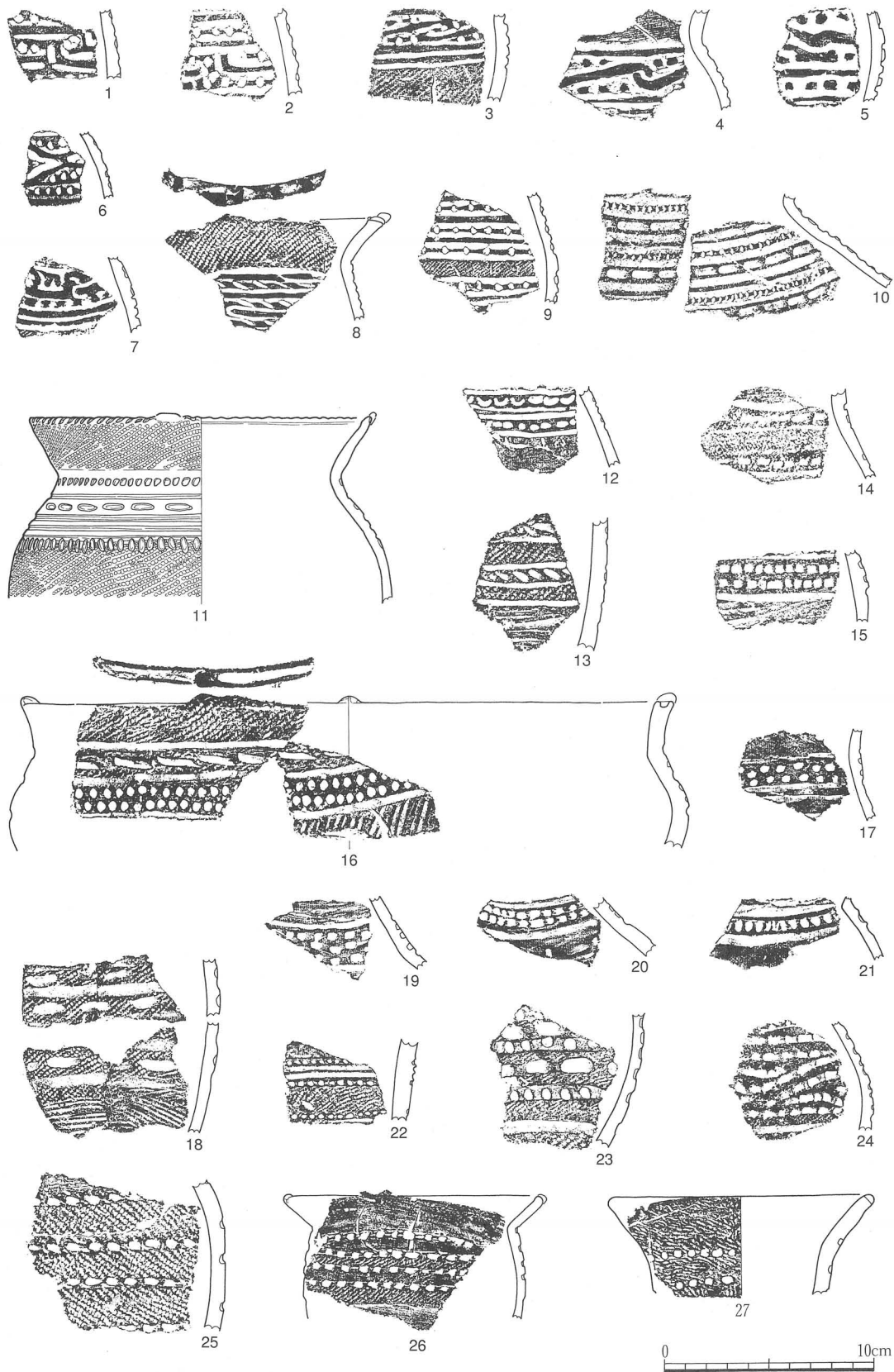
3



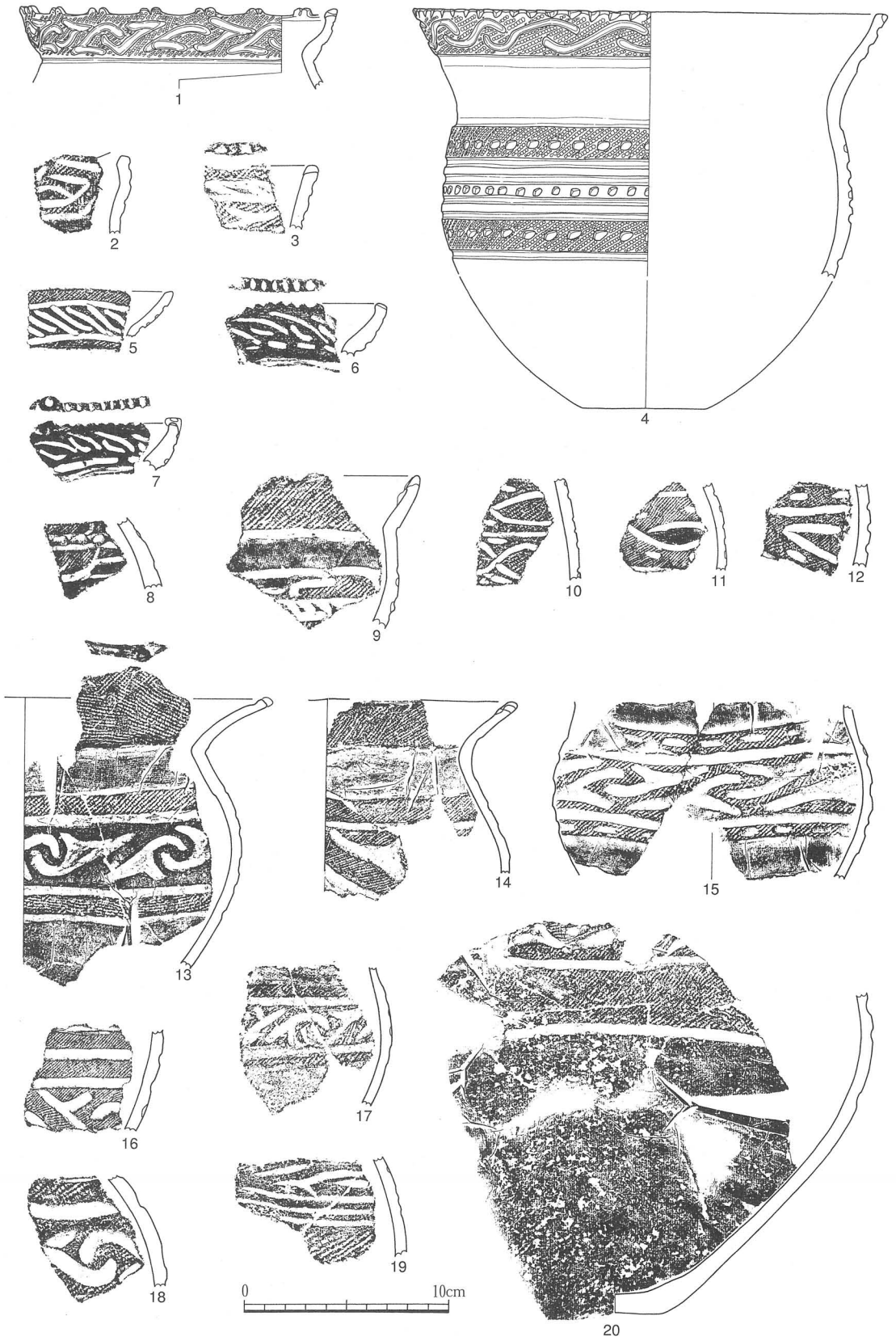
第126图 包含層出土土器④ (1/3) 1S区(1~3)



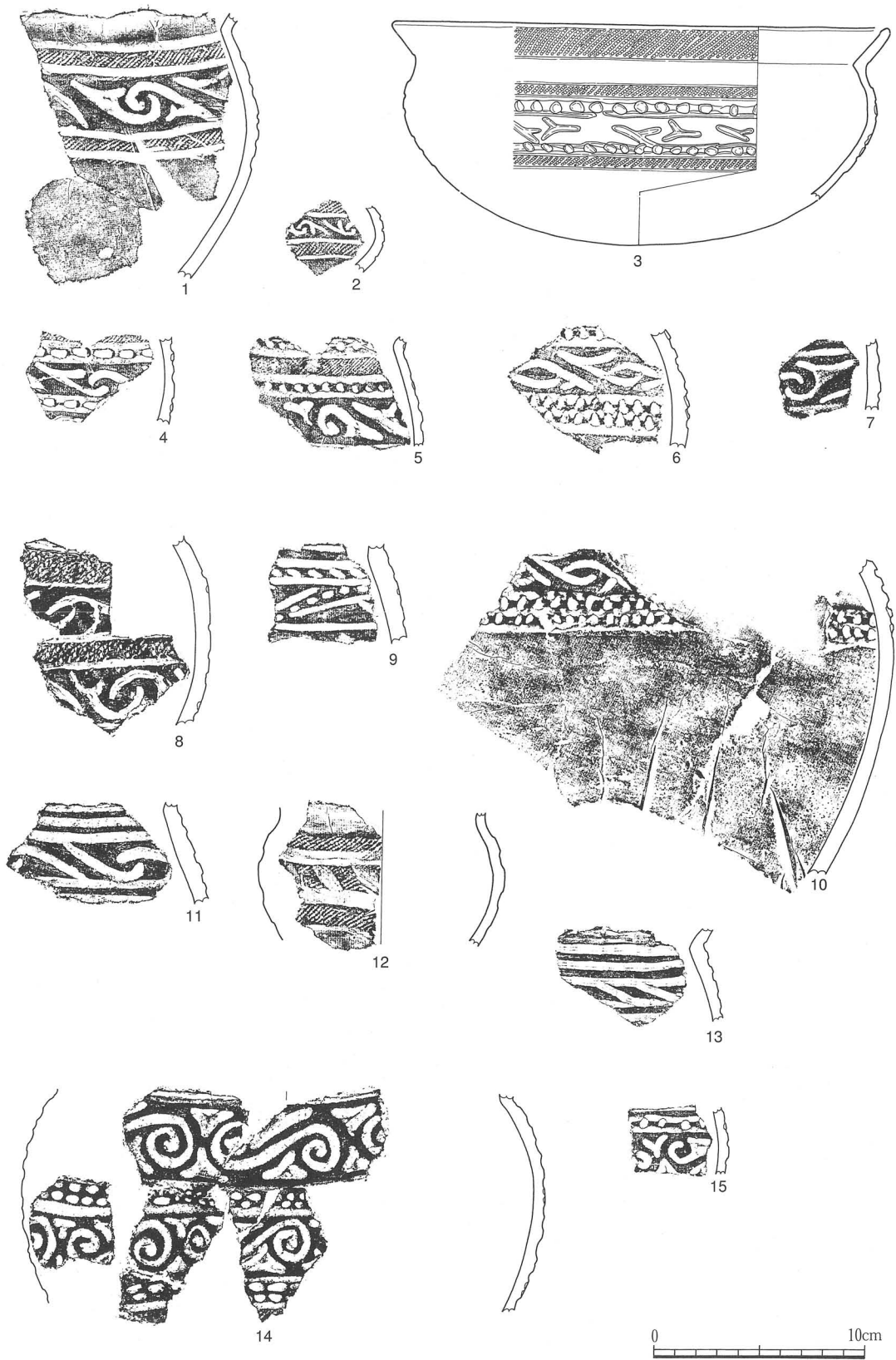
第127图 包含層出土土器④ (1/3) 1N区(5)·1S区(1~4·6~24)



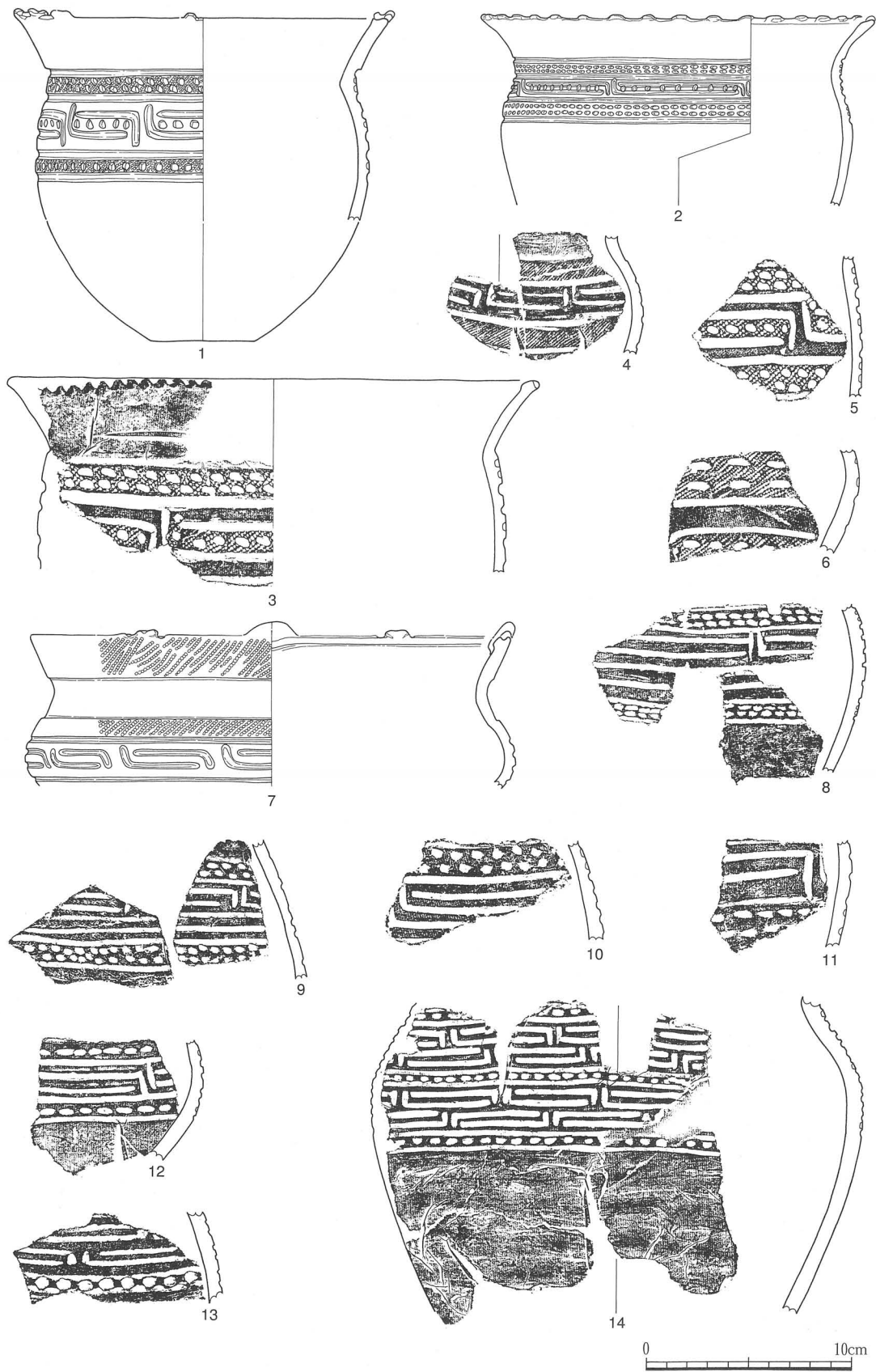
第128图 包含層出土土器④ (1/3) 1N区(14·15·21·24)·1S区(1·3~13·16~20·22·23·25~27)·
2N区(2)



第129图 包含層出土土器④(1/3) IN区(3·9·15)·IS区(1·2·4~8·10~16·18·20)·2N区(17)·2S区(19)



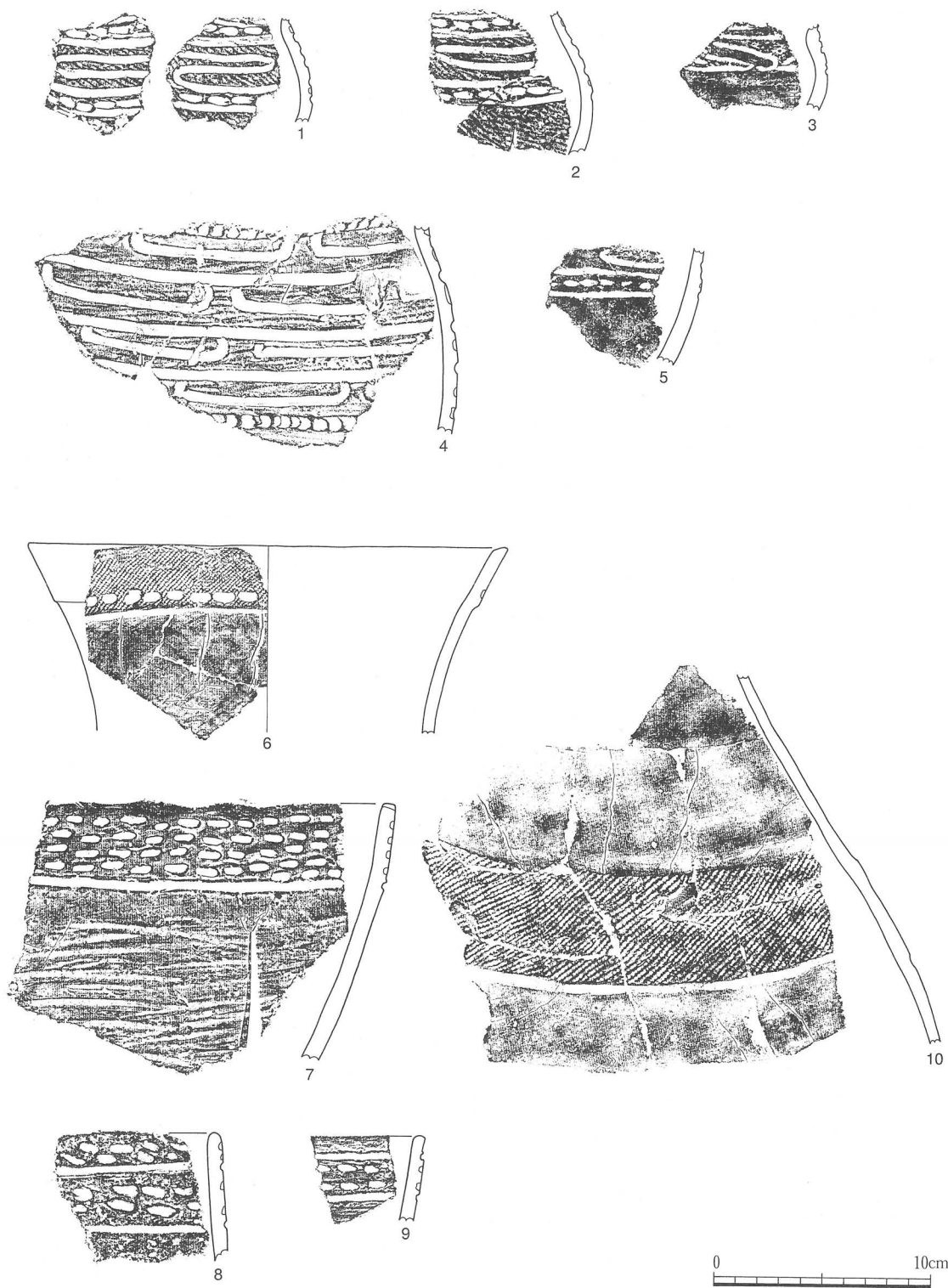
第130图 包含層出土土器④ (1/3) 1N区(2·13)·1S区(1·3~5·7~12·15)·2S区(6)·2A区(14)



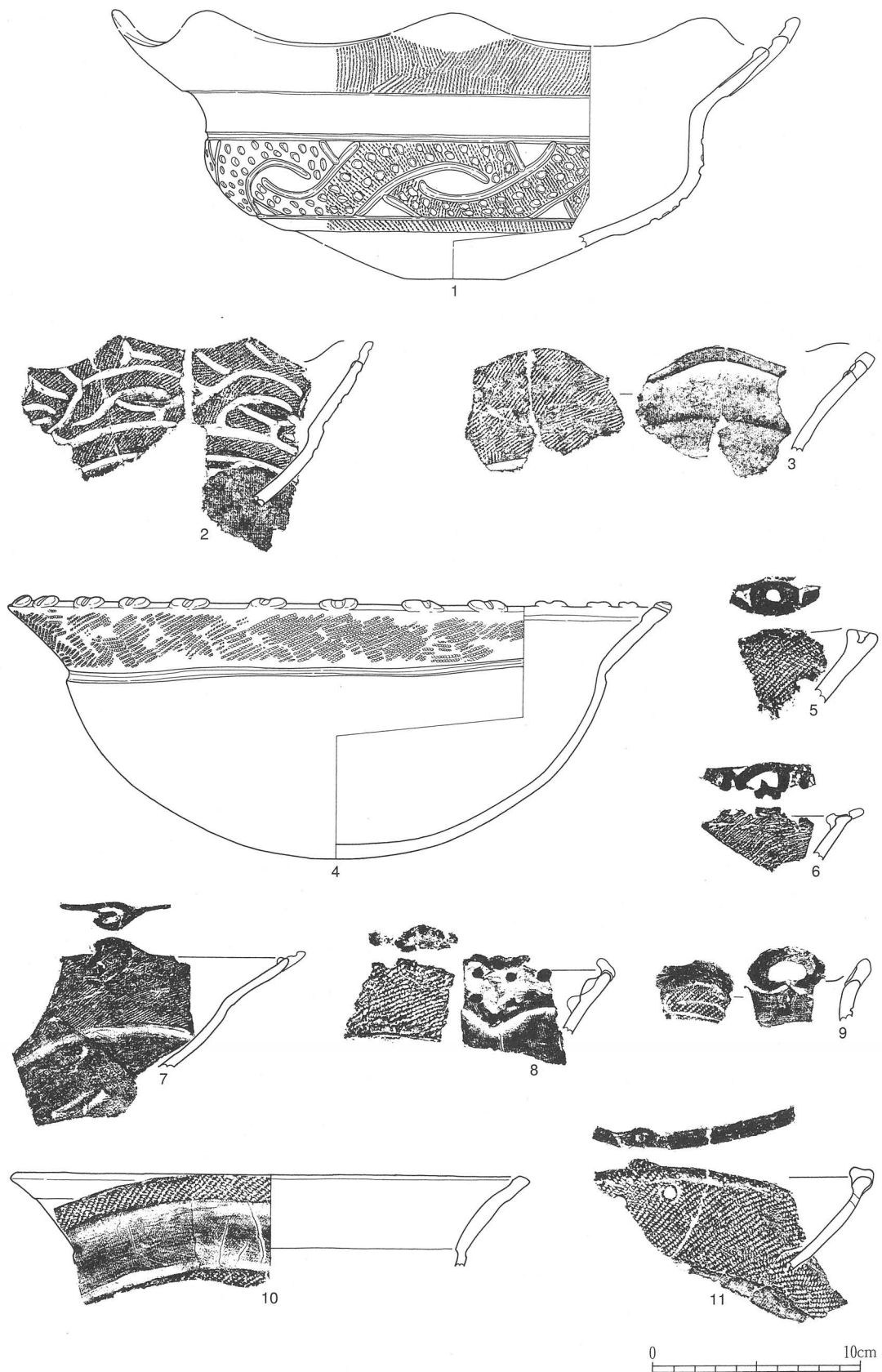
第131图 包含層出土土器④ (1/3) 1S区(1~14)



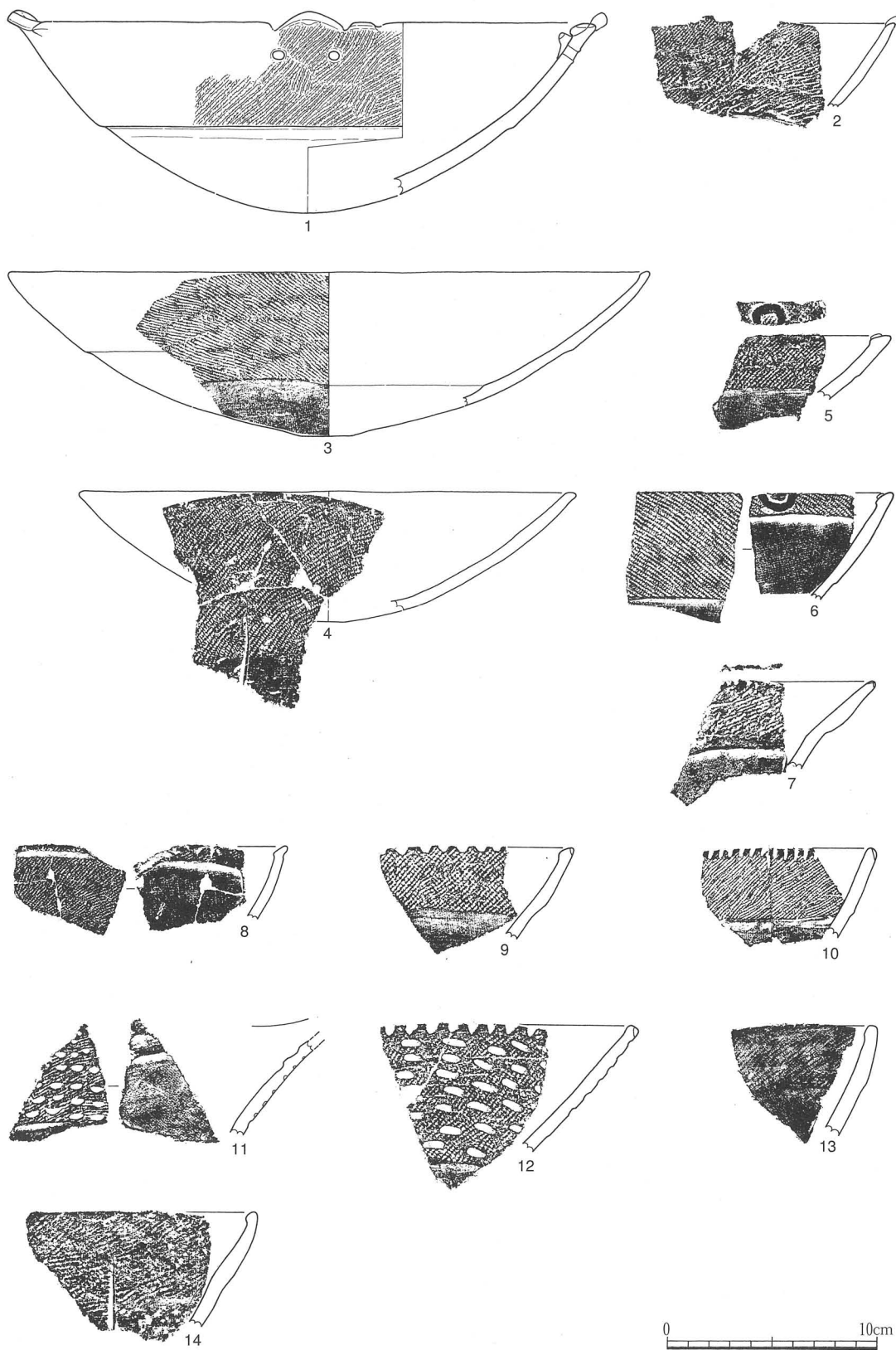
第132图 包含層出土土器⑤ (1/3) 1N区(5·6·17)·1S区(1~4·7·9~15)·2S区(8·16)



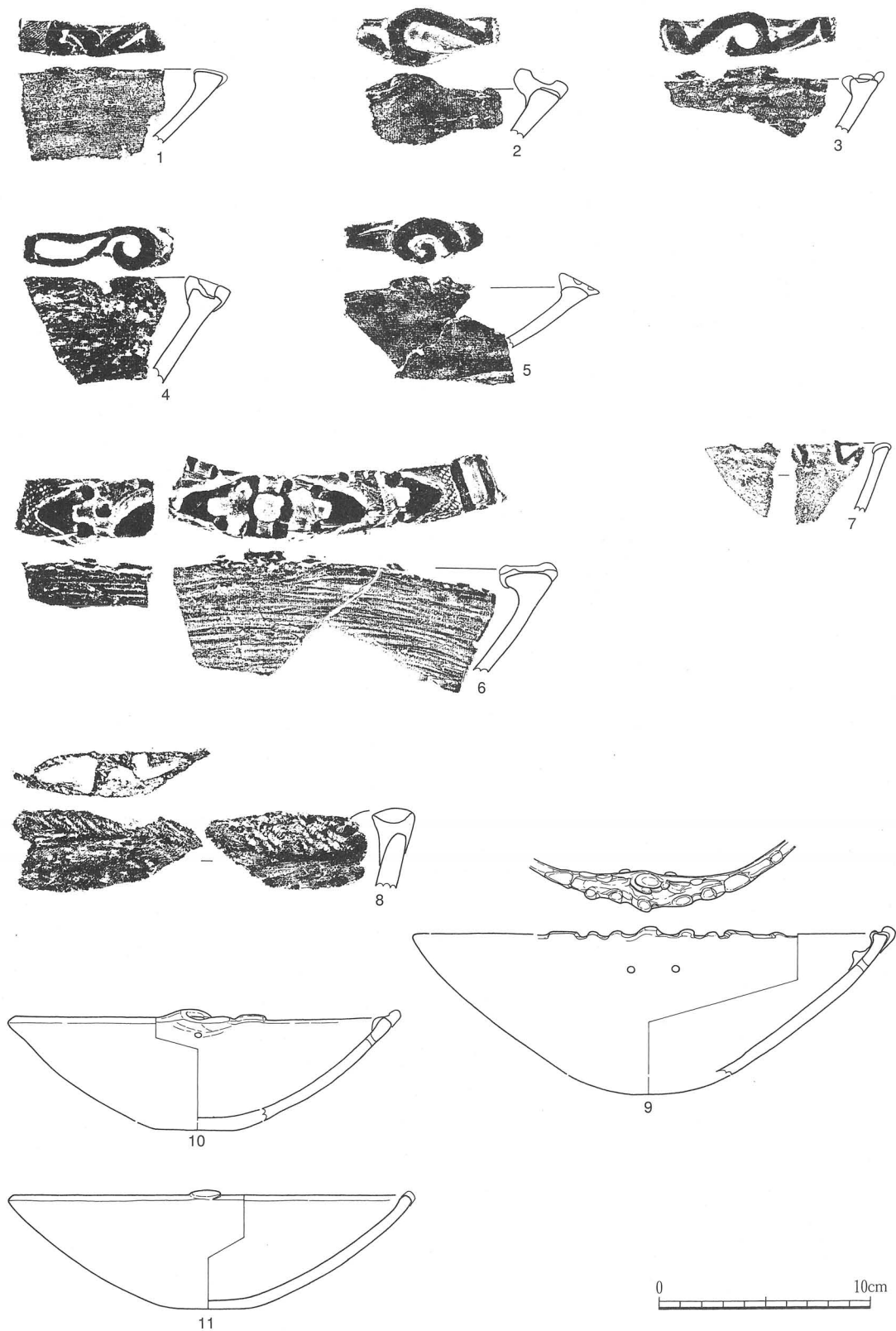
第133图 包含層出土土器⑤ (1/3) 1N区(5)·1S区(1~4·6~10)



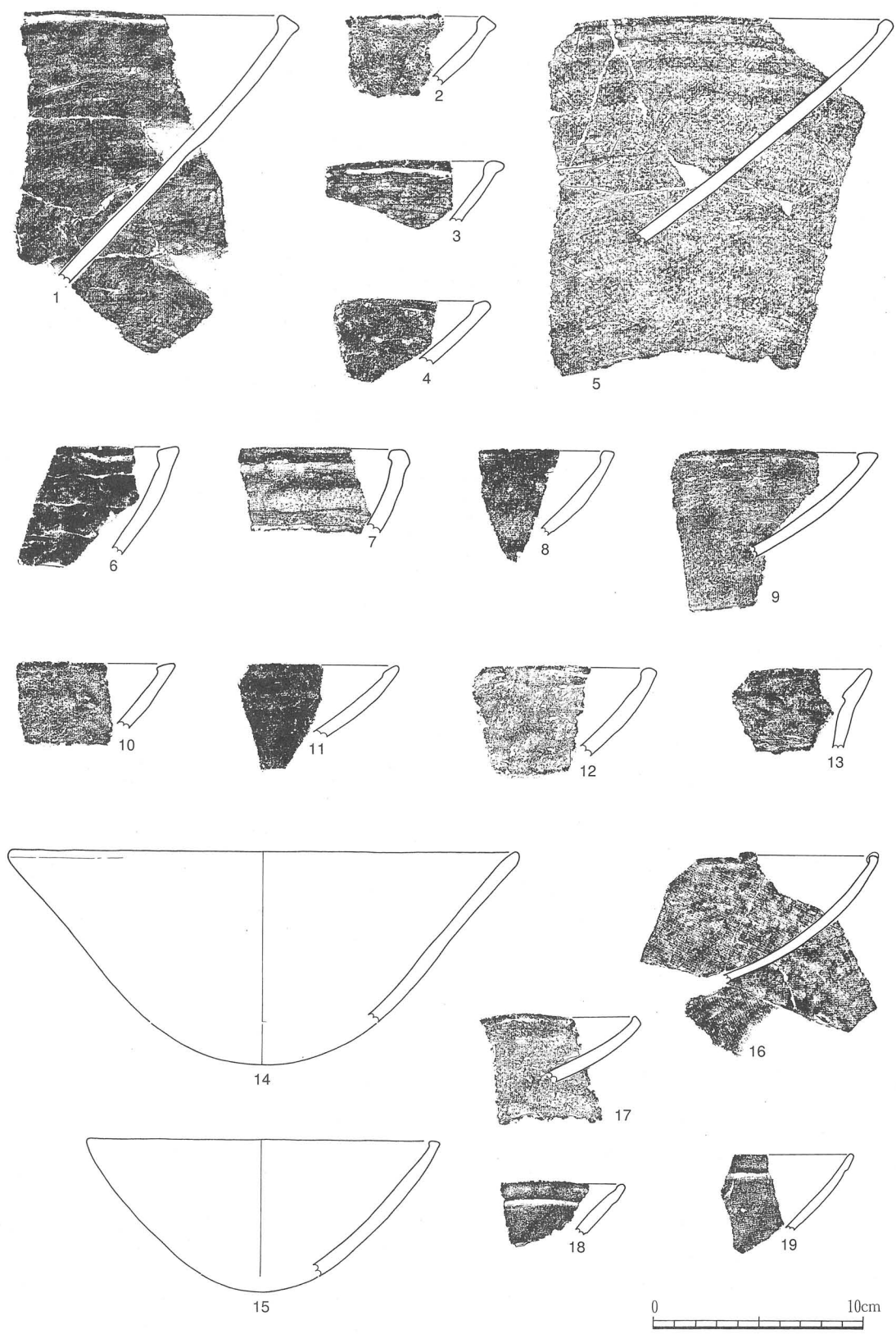
第134图 包含層出土土器② (1/3) 1N区(9)·1S区(1·2·4~8·10·11)·2S区(3)



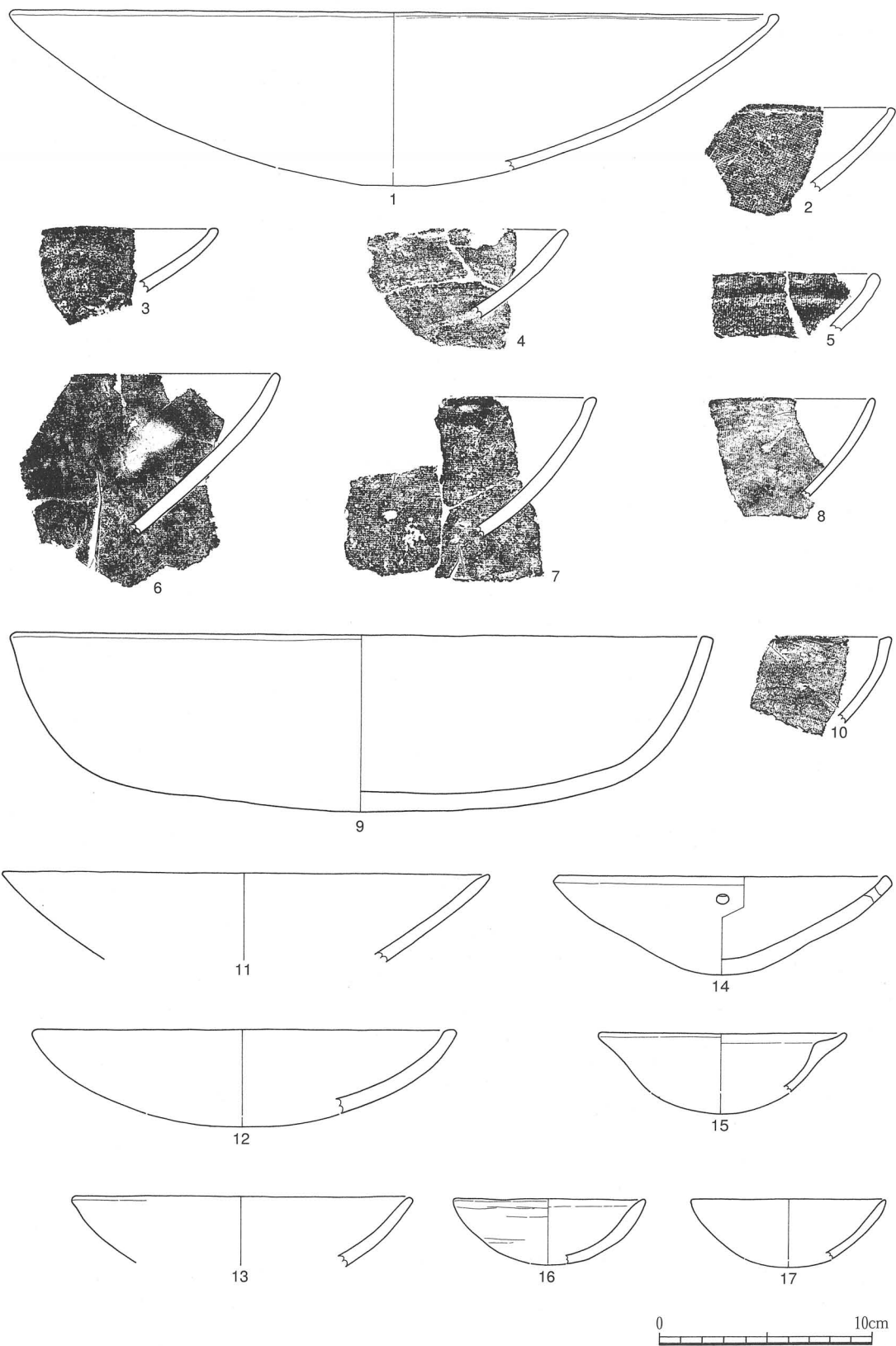
第135图 包含層出土土器⑤ (1/3) 1S区(1~14)



第136图 包含層出土土器⑤4 (1/3) 1N区(7)·1S区(2~4·6·8~11)·2S区(1)·2A区(5)



第137図 包含層出土土器⁵⁵ (1/3) 1S区(1~7·9~11·13~19)·2S区(12)·2A区(8)

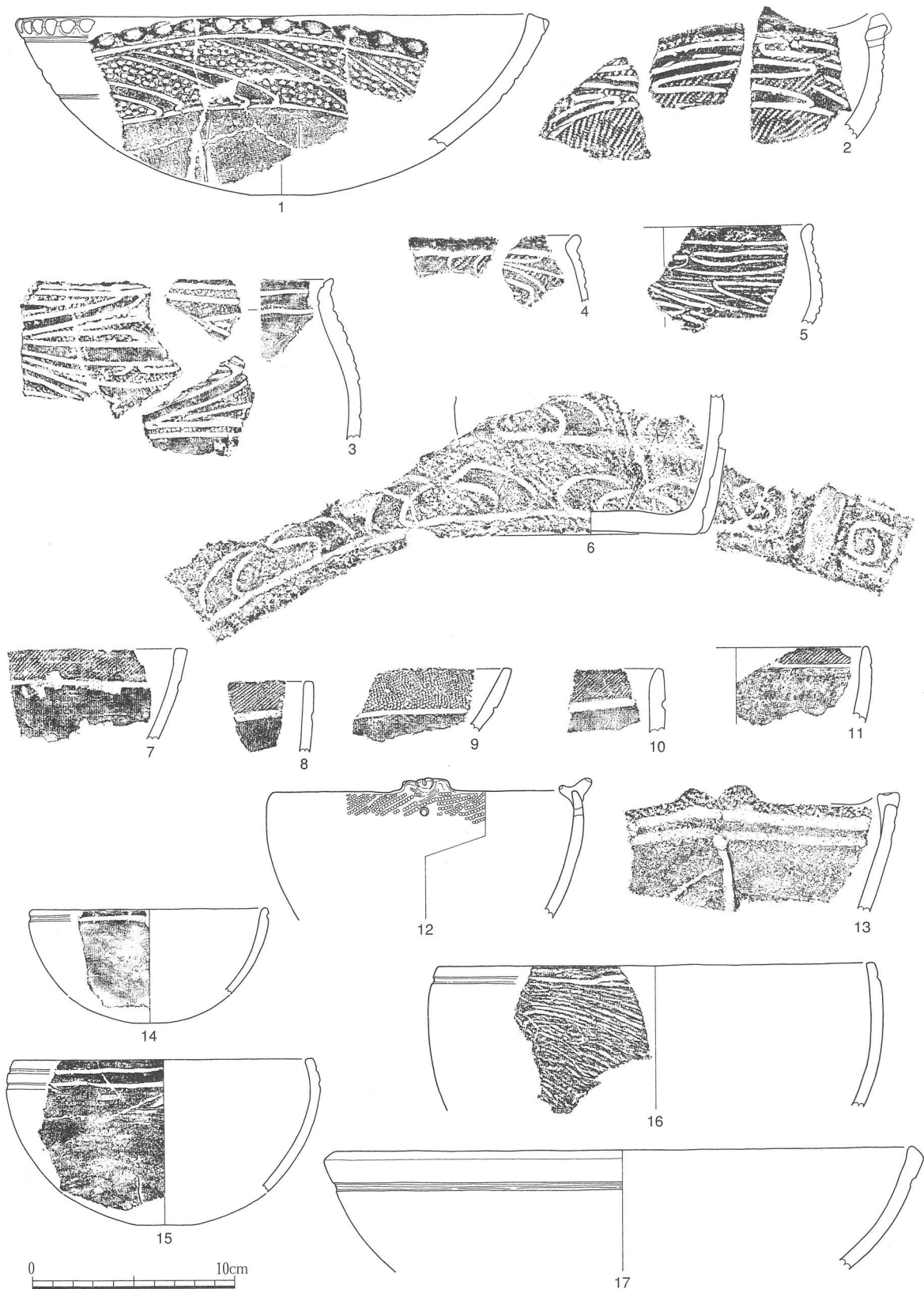


第138図 包含層出土土器⑤ (1/3) 1S区(1~3·5~17)·2N区(4)

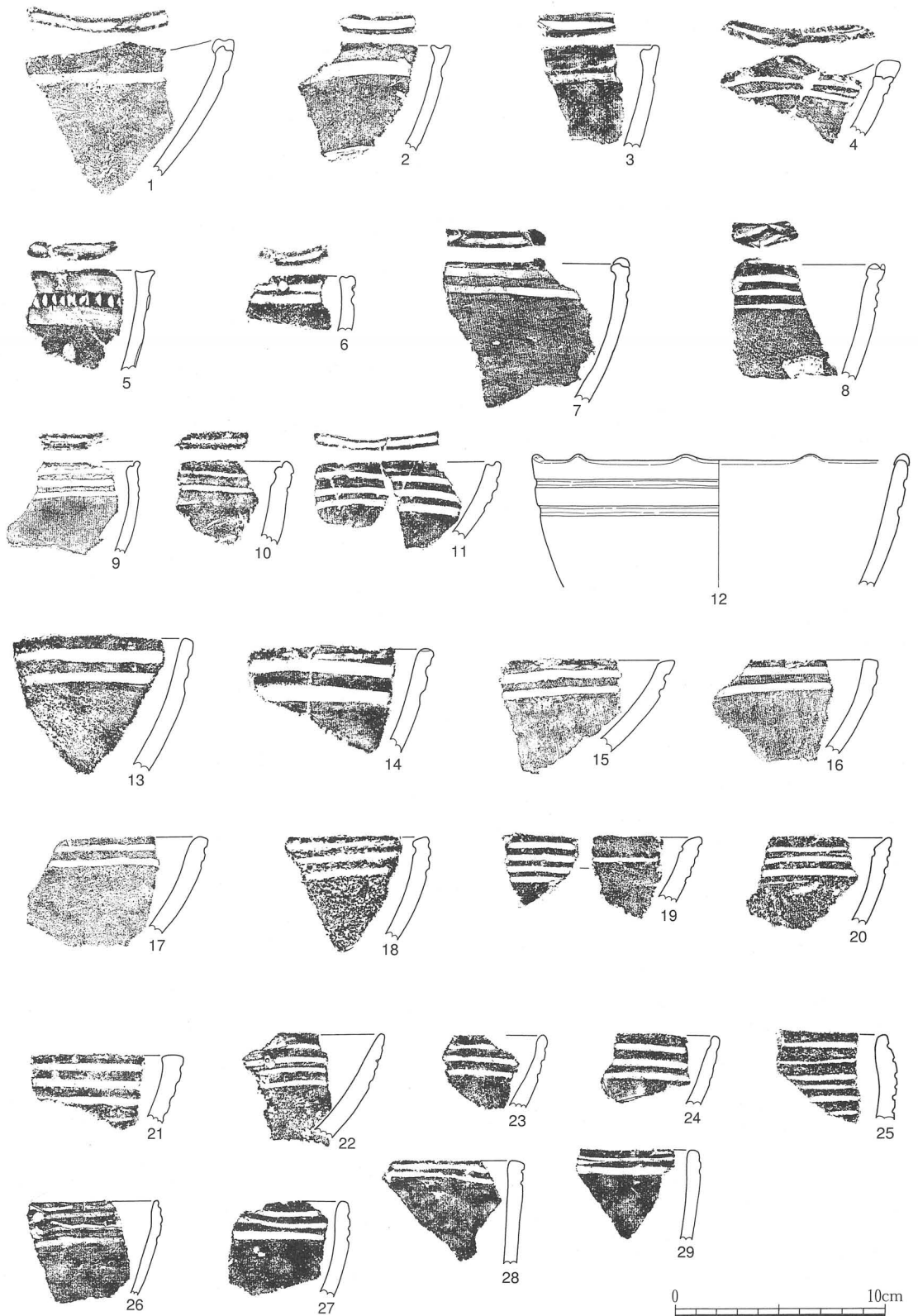


第139图 包含層出土土器⑤ (1/3)

1N区(15·24)·1S区(1~3·6~9·12~14·16~19·20·22·23·25~29)·2N区(5·21)·2S区(4·10·11)

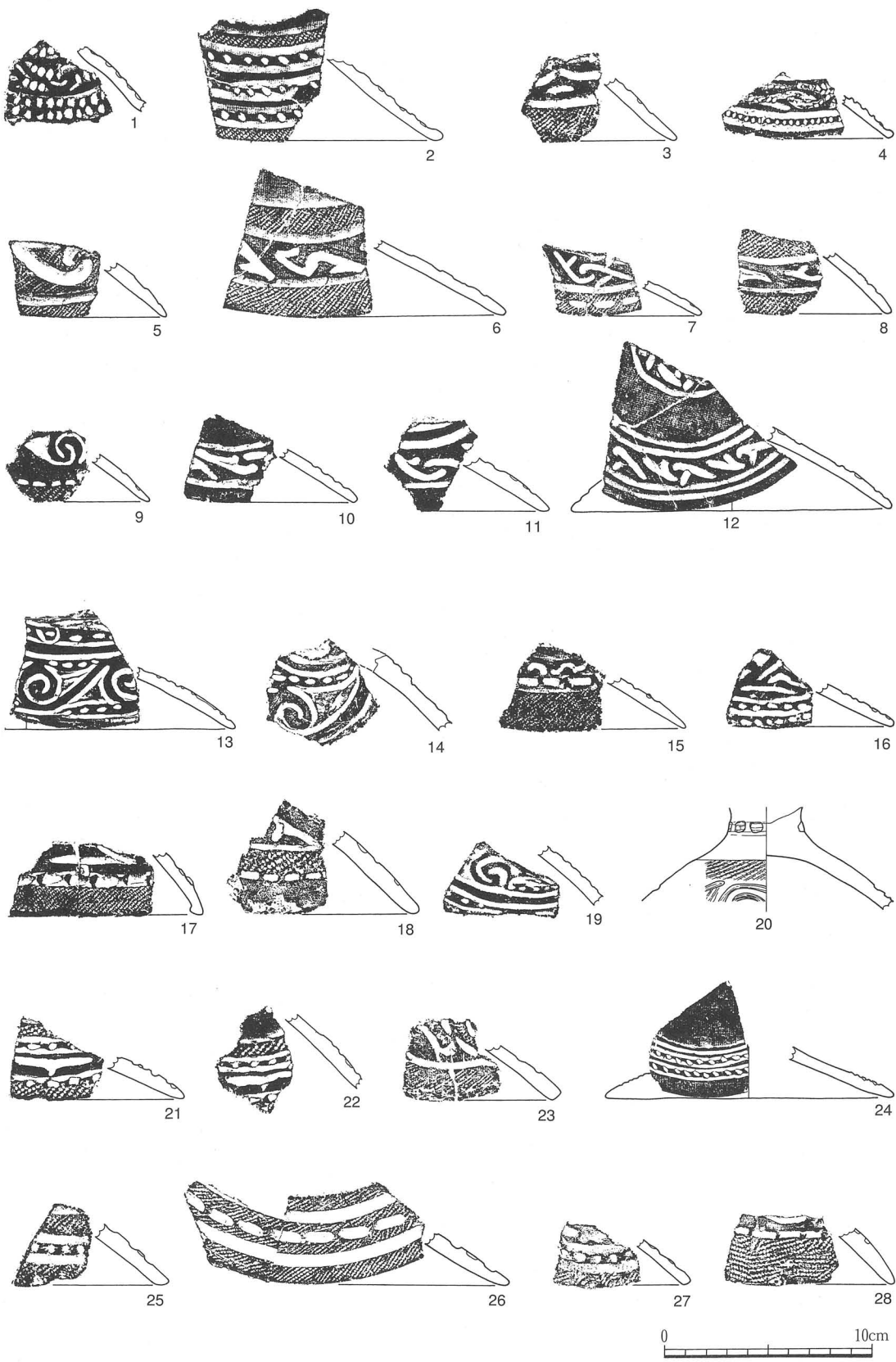


第140图 包含層出土土器⁵⁸ (1/3) 1N区(3·4·13·14)·1S区(1·2·7·9·11·12·15~17)·2N区(6)·
2S区(8·10)·2A区(5)

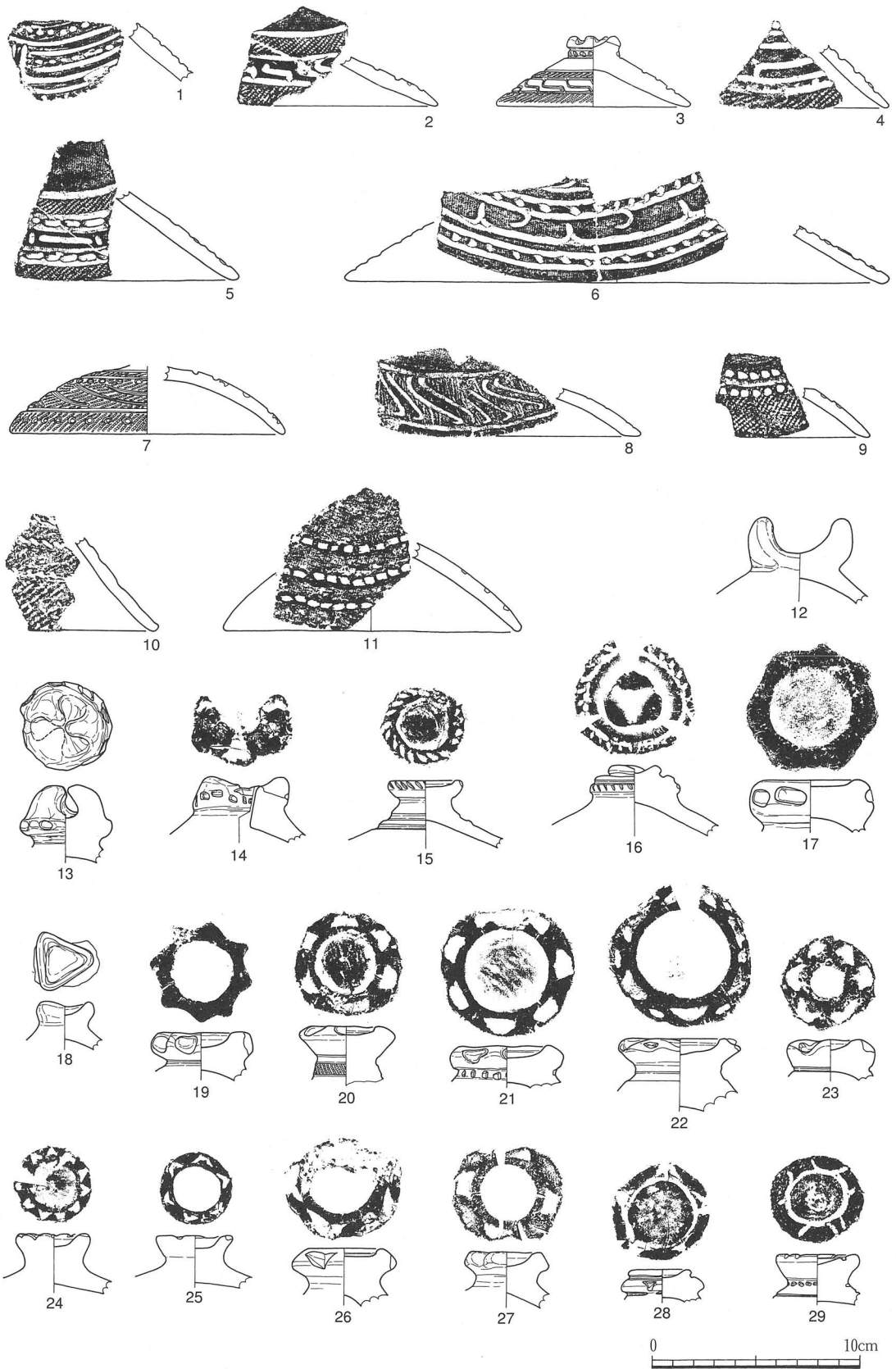


第141图 包含層出土土器⁵⁹ (1/3)

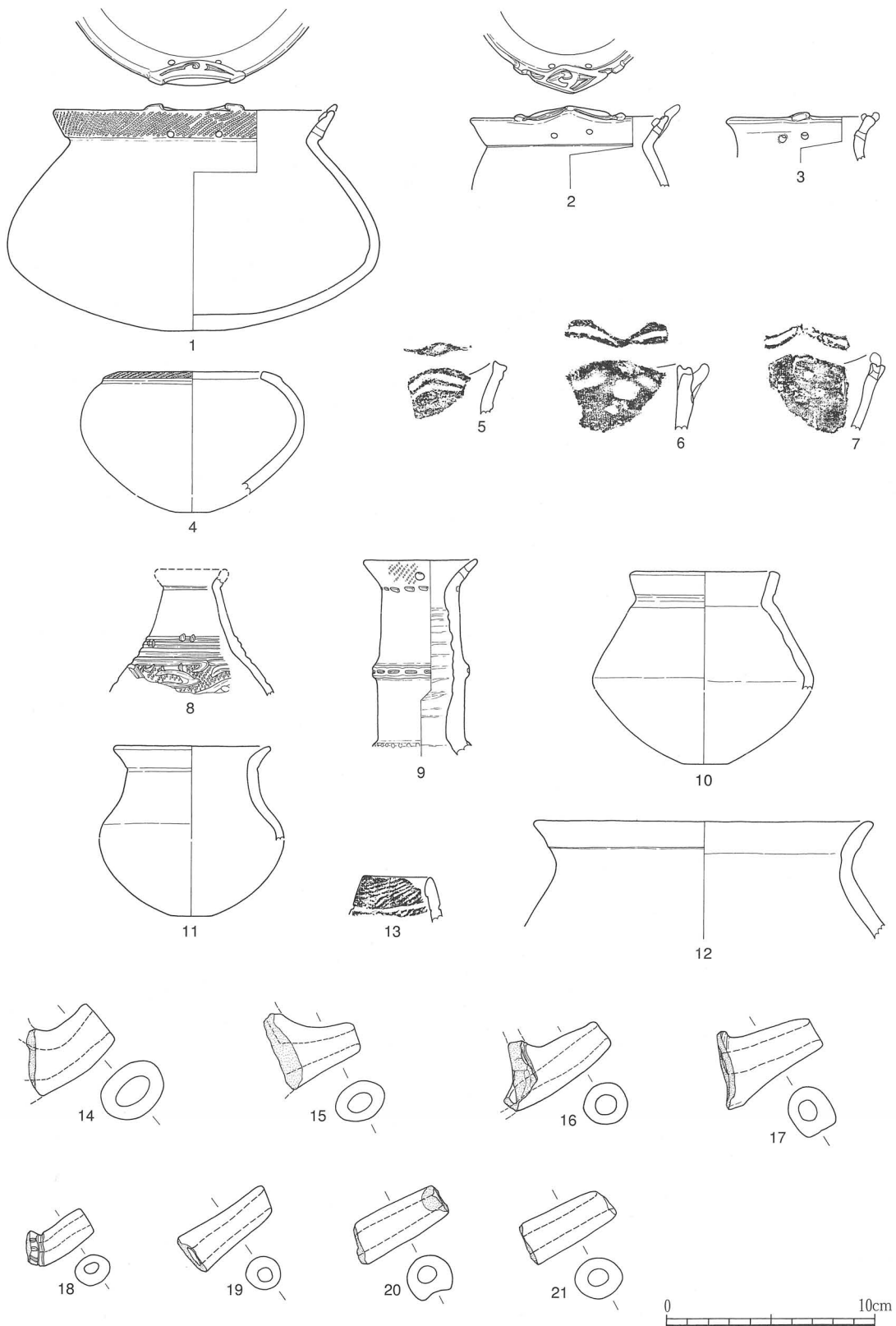
1N区(1·3·9·15~17)·1S区(5~8·11·12·19·20·25~29)·
2S区(2·4·10·13·14·18·21~24)



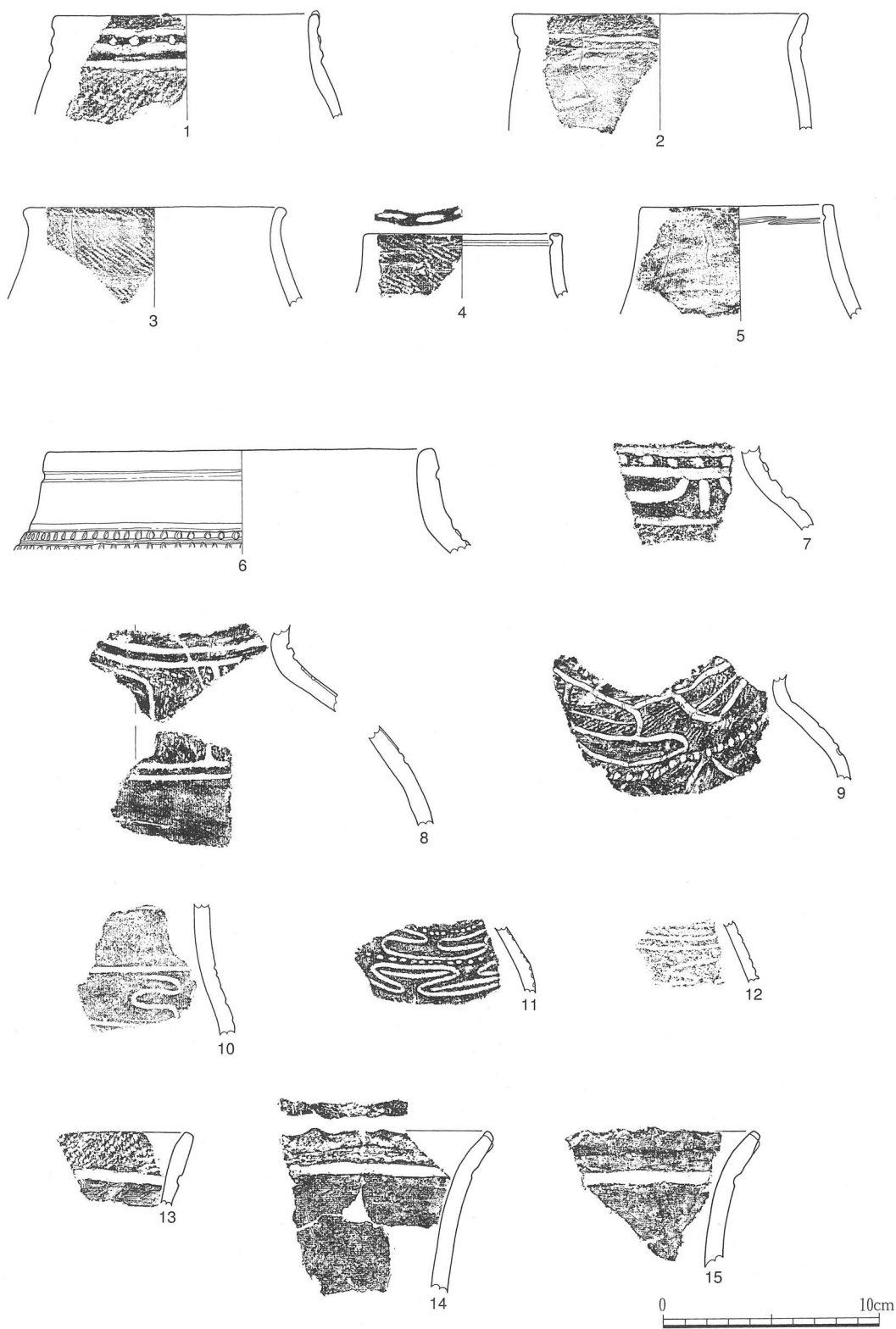
第142图 包含層出土土器⑥ (1/3) IN区(22)·1S区(1~17·19~21·24~26)·2N区(23·27)·2S区(18·28)



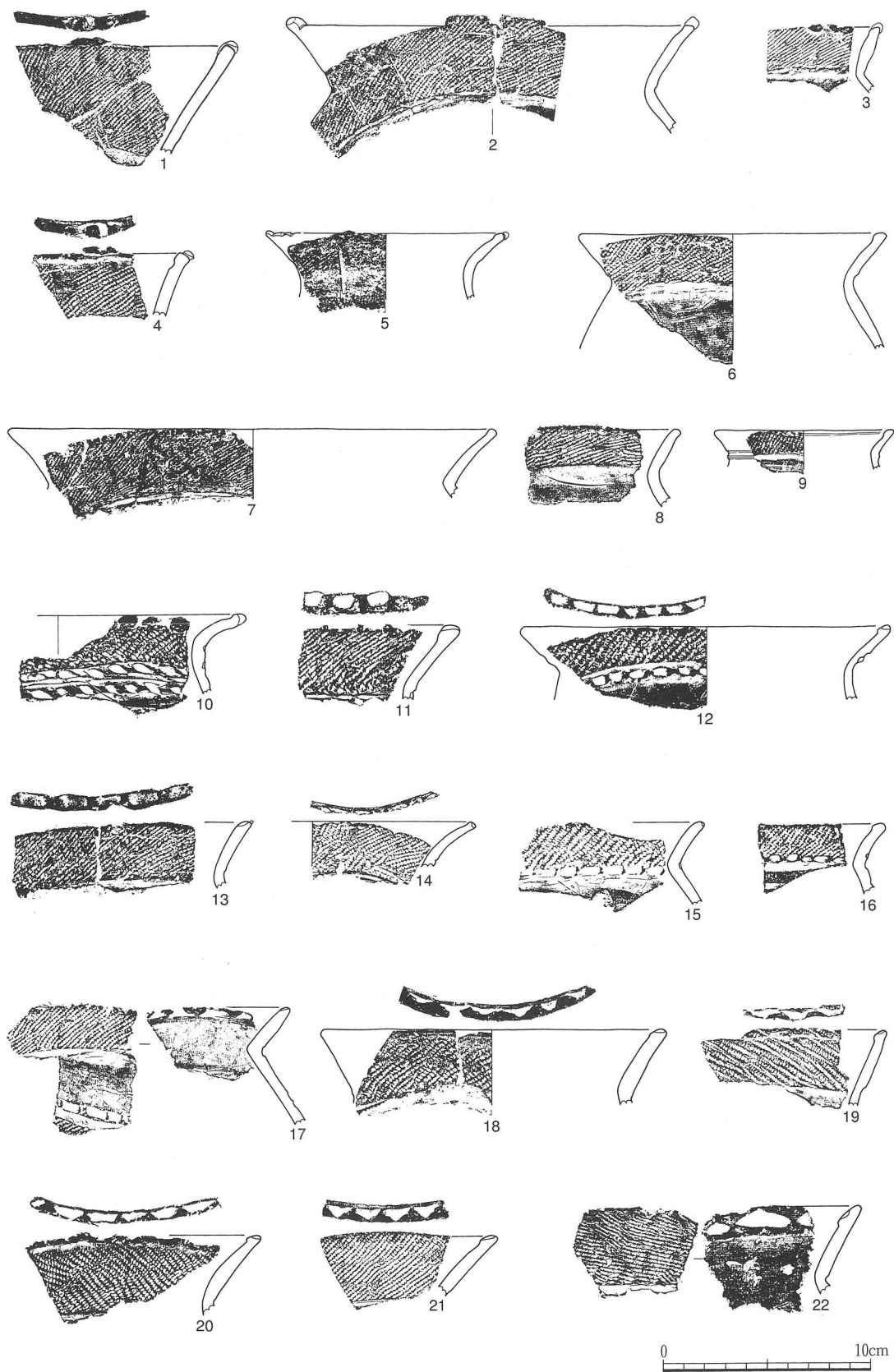
第143图 包含層出土土器⑥ (1/3) 1N区(4·16·29)·1S区(1·3·5~9·11·12·14·15·17~26·28)·
2N区(10)·2S区(27)·2A区(2·13)



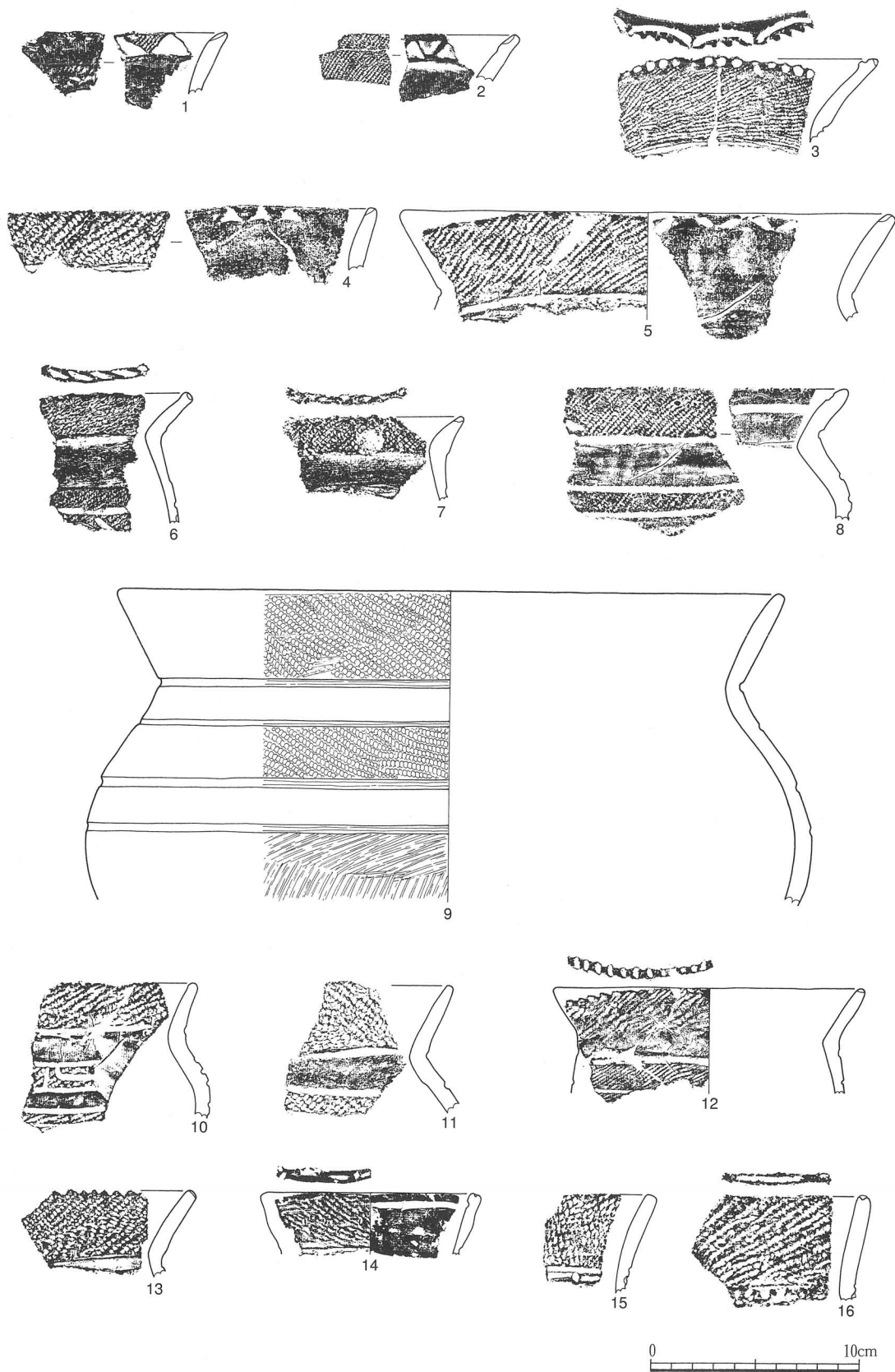
第144图 包含層出土土器② (1/3) 1N区(17·19)·1S区(1~4·6·8·11~13·16·18·20)·2N区(9·10)·2S区(5·7·14·15·21)



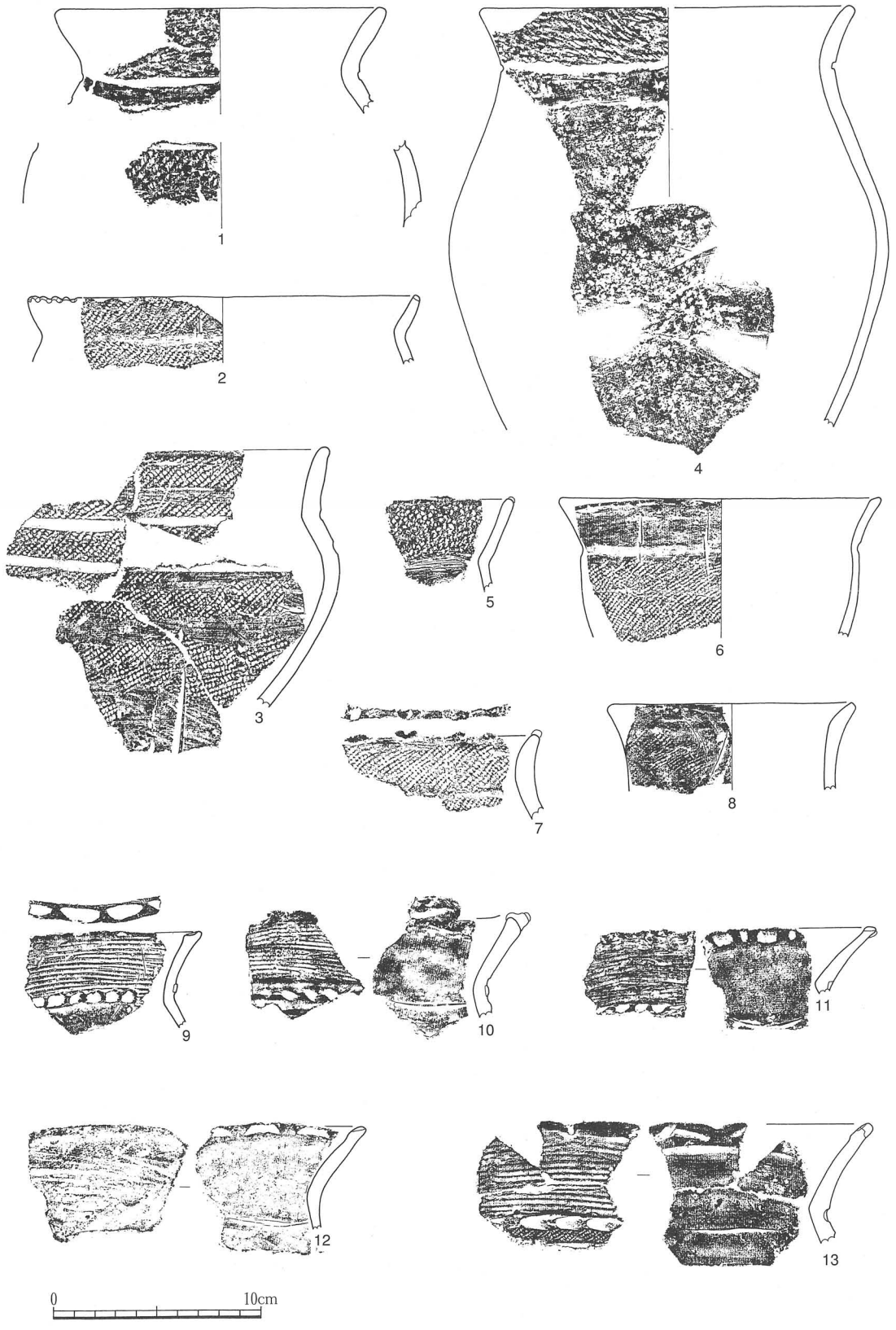
第145图 包含層出土土器⑥ (1/3) 1N区(10·12)·1S区(1·2·4·6~9·11~15)·2N区(3·5)



第146图 包含層出土土器⁶⁴ (1/3) 1N区(3·15·19)·1S区(1·2·4~14·16·18·20~22)·2N区(17)



第147图 包含層出土土器⁶⁵ (1/3) 1N区(8·11)·1S区(1~7·9·10·12~16)

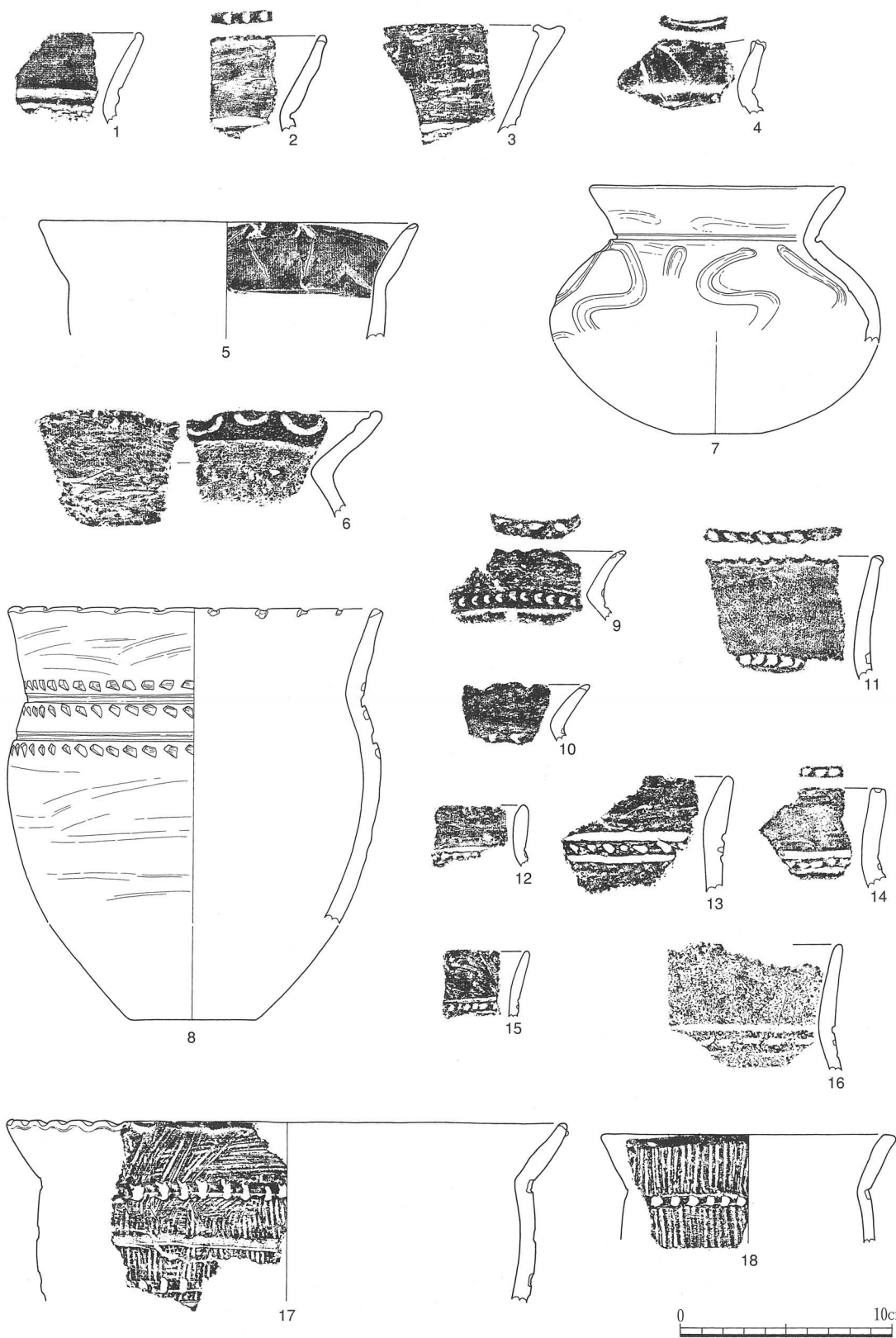


第148图 包含層出土土器⑥ (1/3) IN区(12)·1S区(1~6·8~11·13)·2S区(7)

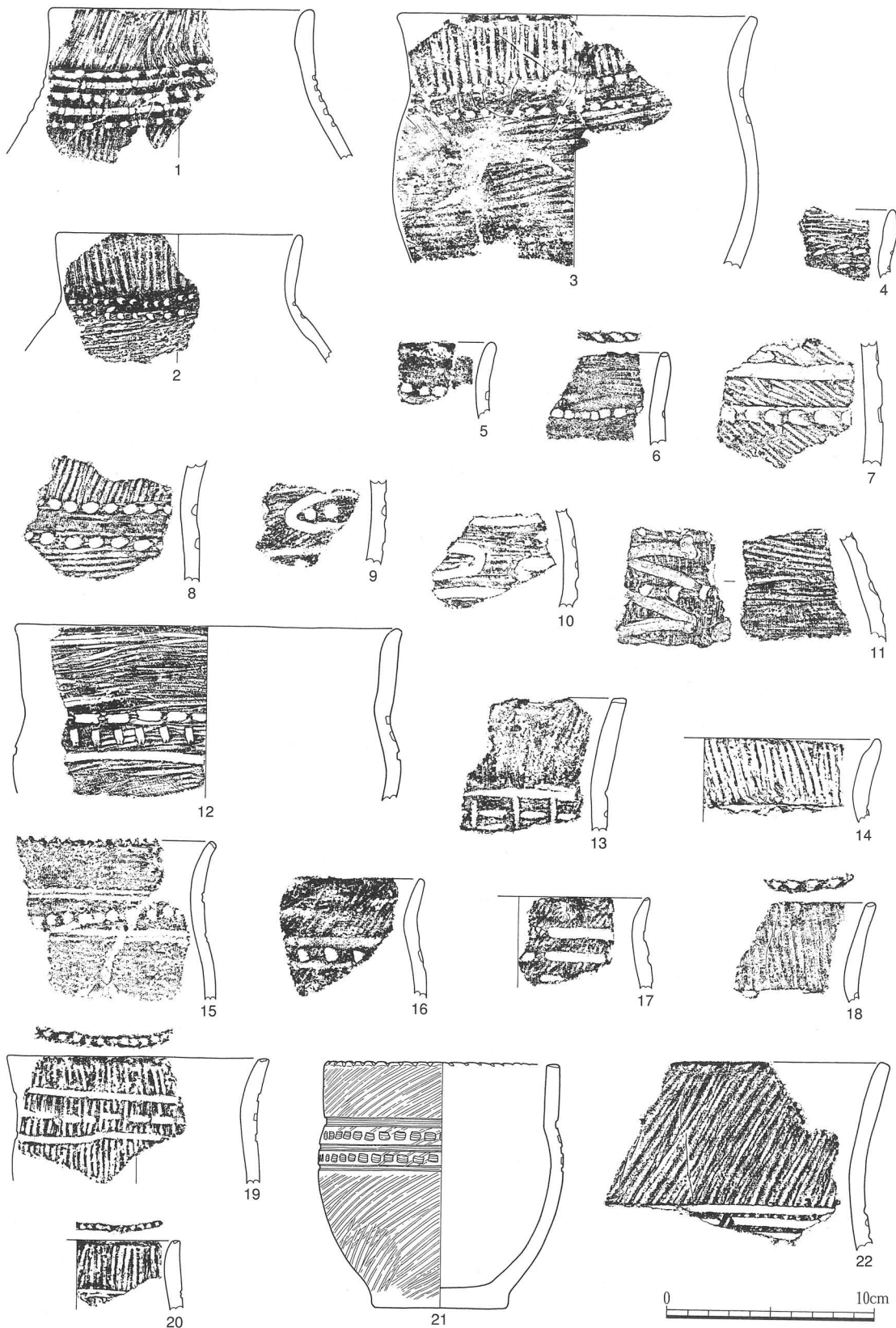


0 10cm

第149图 包含層出土土器⑦ (1/3) 1N区(7)·1S区(1~3·5·6·8~14)·2N区(4)

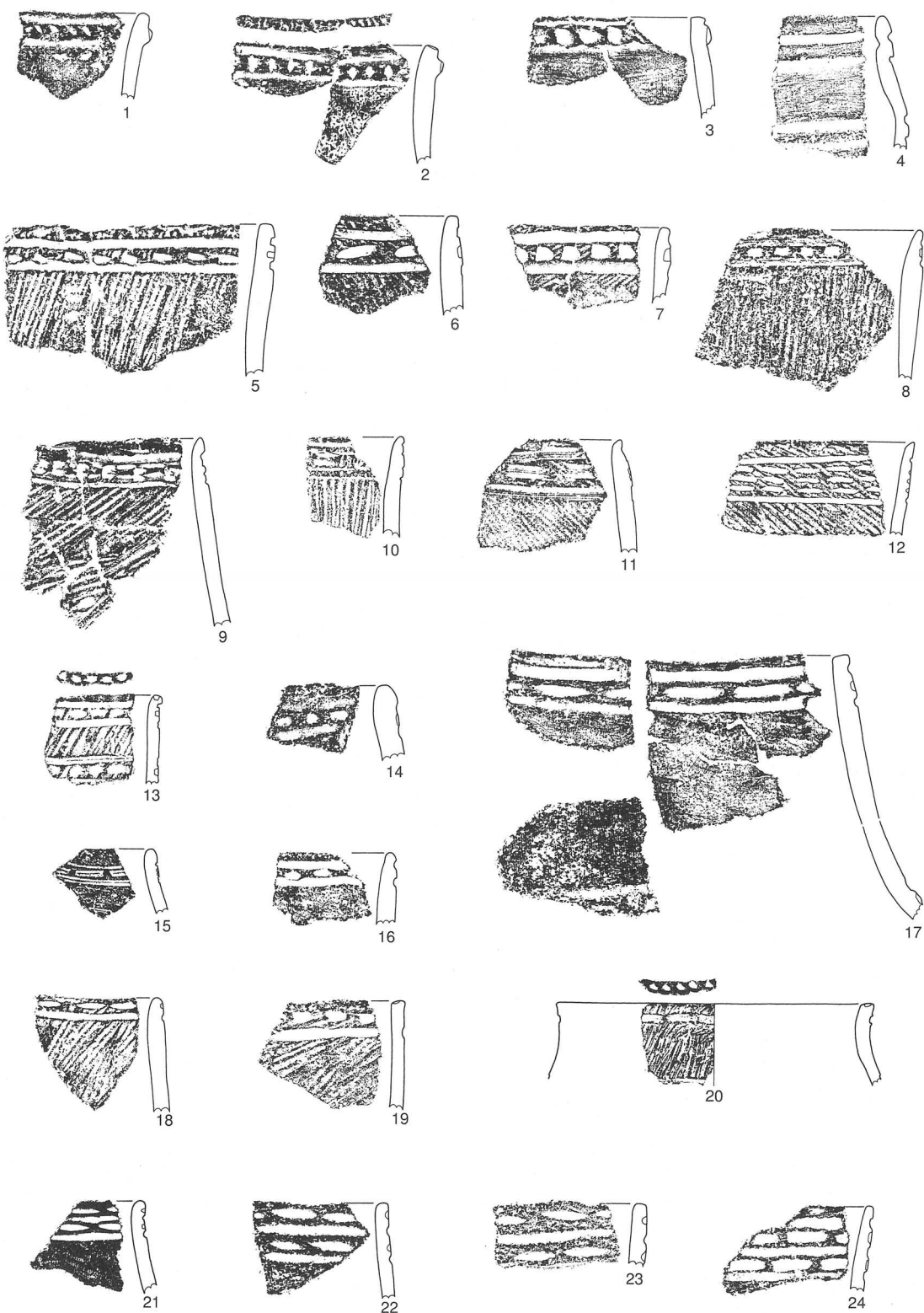


第150图 包含層出土土器⁶⁸ (1/3) 1N区(12·16)·1S区(1~11·13·15·17·18)·2S区(14)

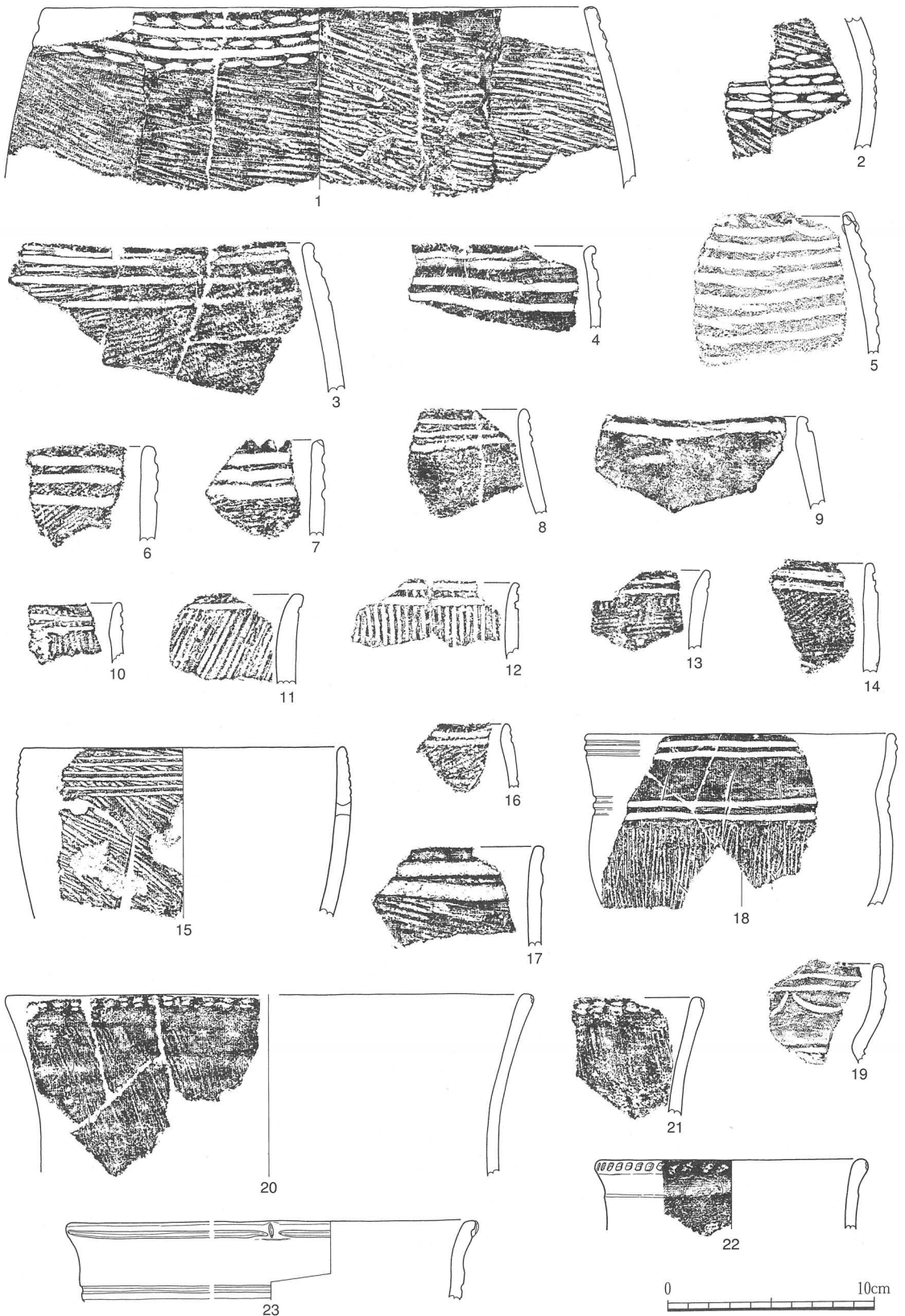


第151图 包含层出土土器^㉞ (1/3)

1N区(10·15·18)·1S区(1·2·6·8·11·12·16·19·20)·2S区(3~5·7·9·13·14·17)·3A区(21·22)

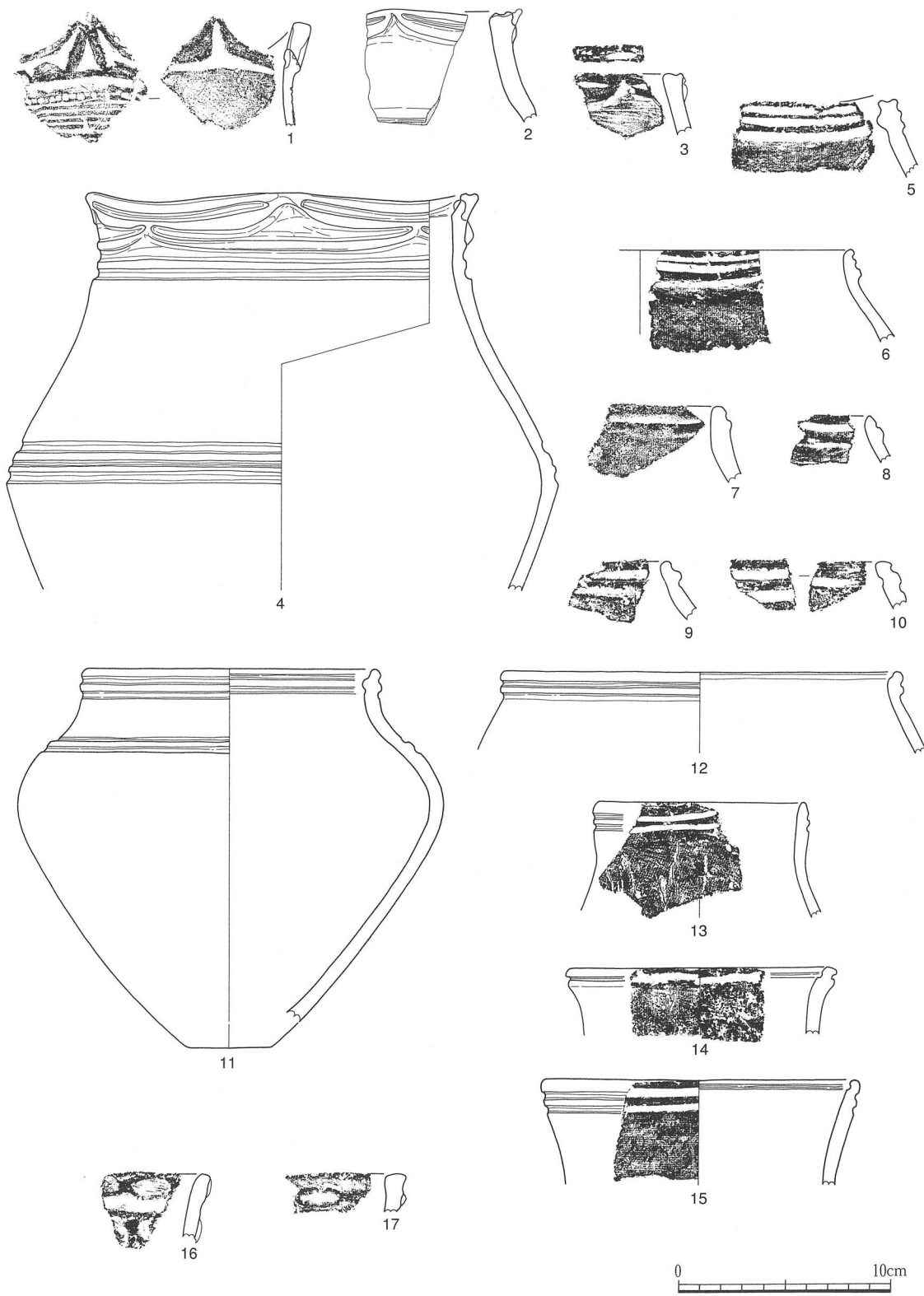


第152图 包含層出土土器⑦ (1/3) 1N区(10·19)·1S区(1·2·14·15·20·21)·2N区(4·13)·2S区(3·5·7·9·11·16~18·22~24)·2A区(8·12)·3A区(6)

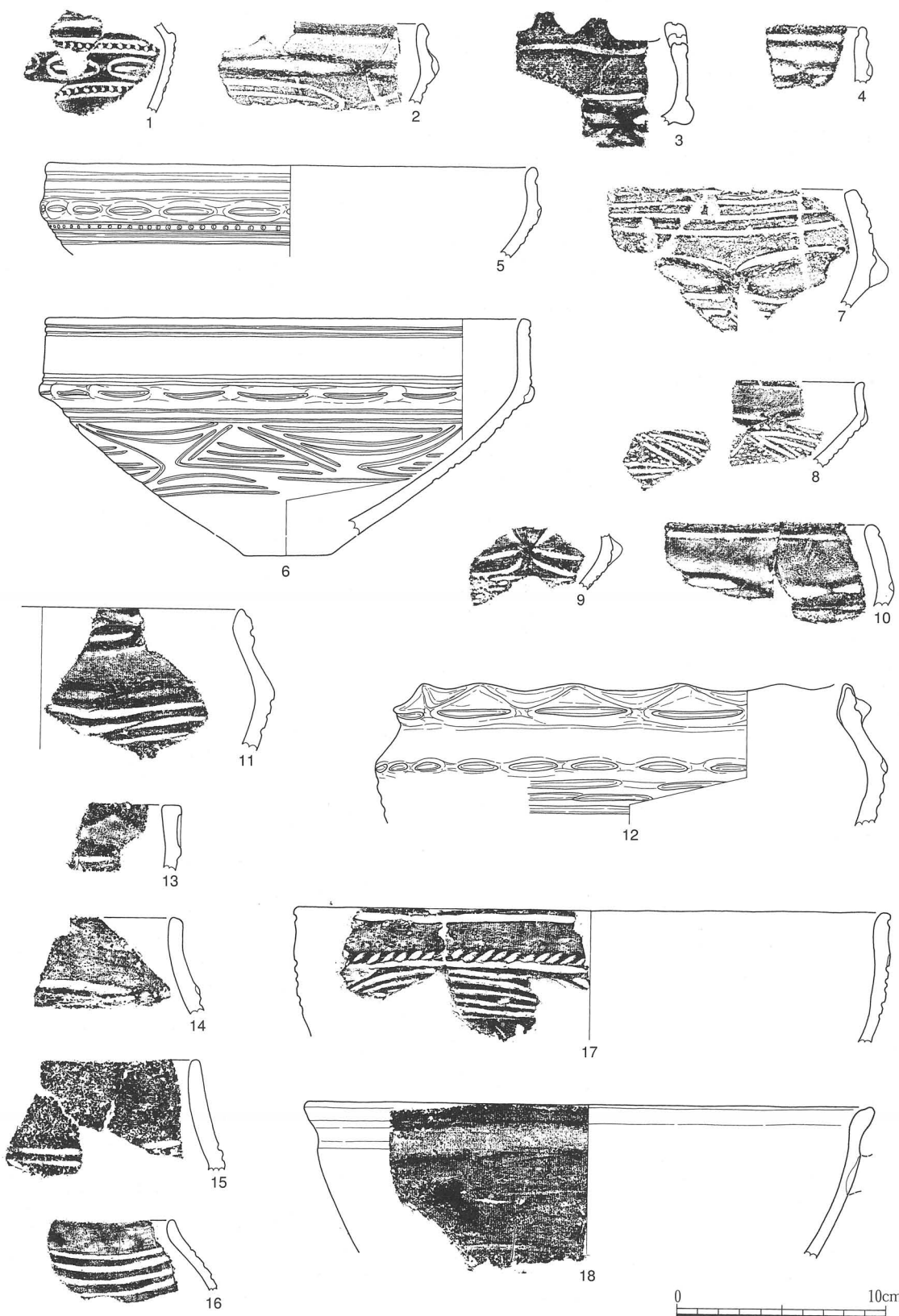


第153图 包含層出土土器⑦ (1/3)

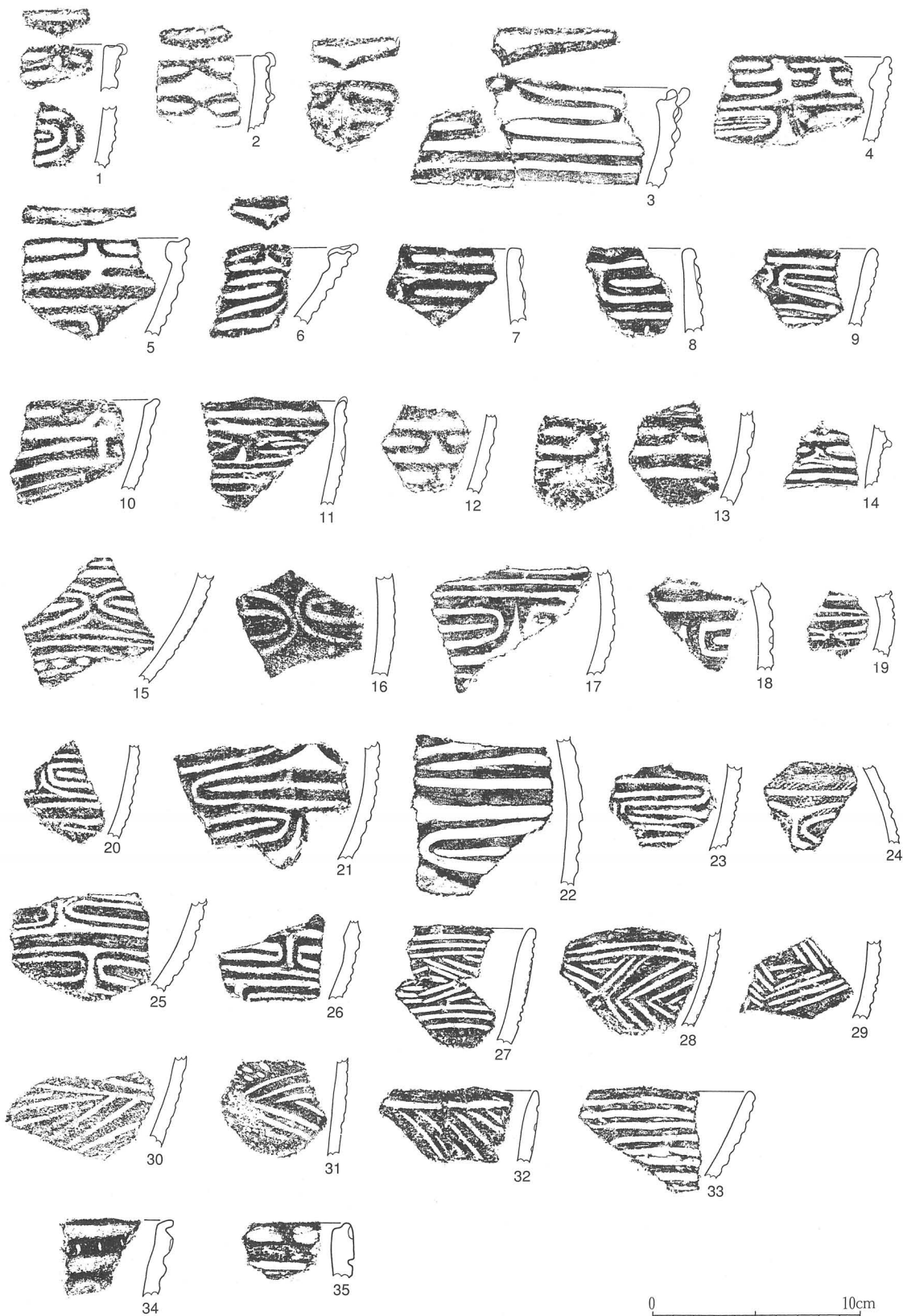
1N区(5·12)·1S区(7·11·18·21·22)·2S区(3·6·8·9·10·13·16·
19·20)·2A区(4·14·23)·3A区(1·2·15·17)



第154图 包含層出土土器⑦ (1/3) 1N区(17)·1S区(6·7·13~15)·2N区(1~4·12·16)·2S区(5·8~11)

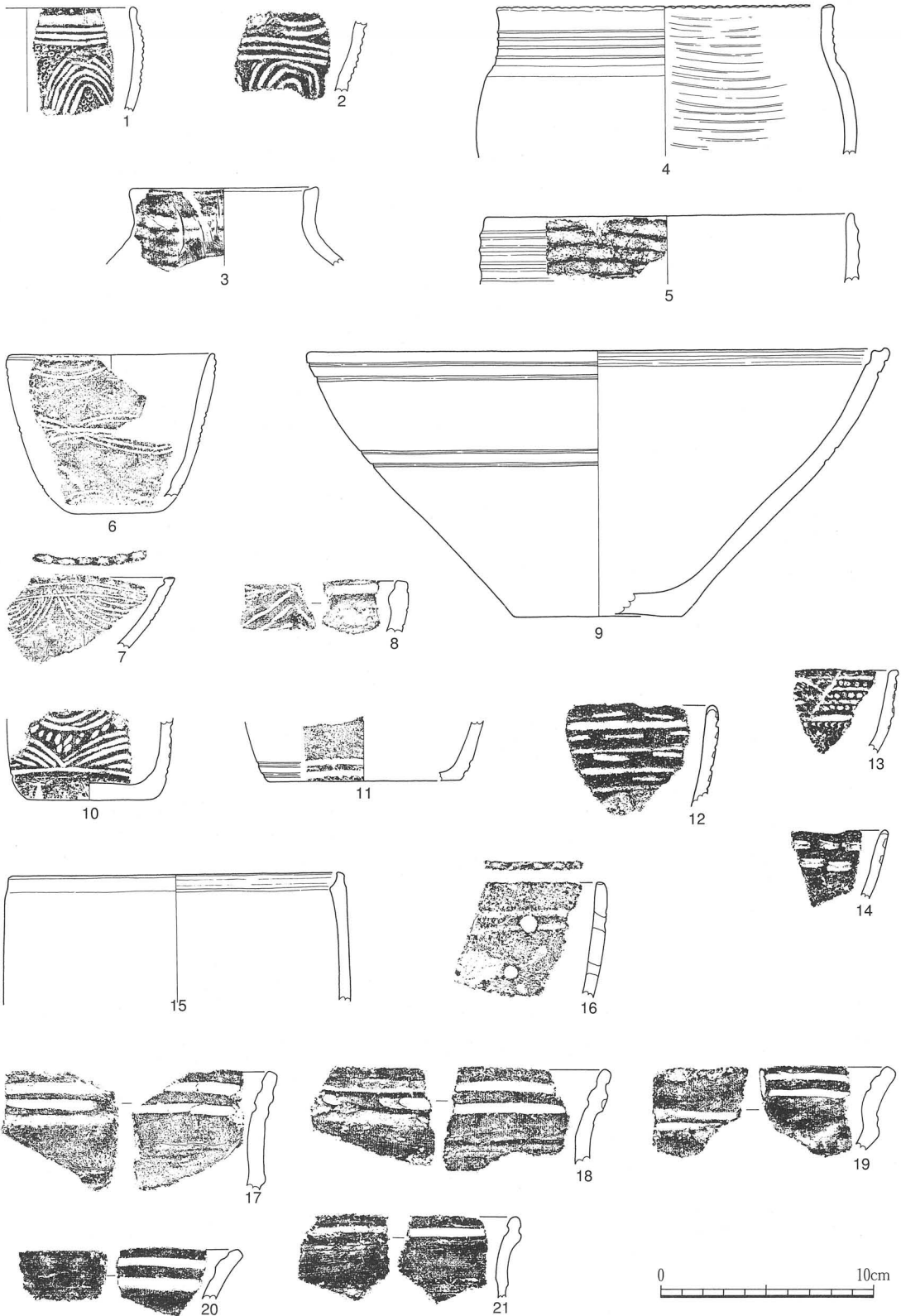


第155图 包含層出土土器⑦ (1/3) 1N区(2·7·8)·1S区(1·3·5·9·11)·2S区(4·6·10·15·16)·
2A区(12~14)·3A区(17·18)

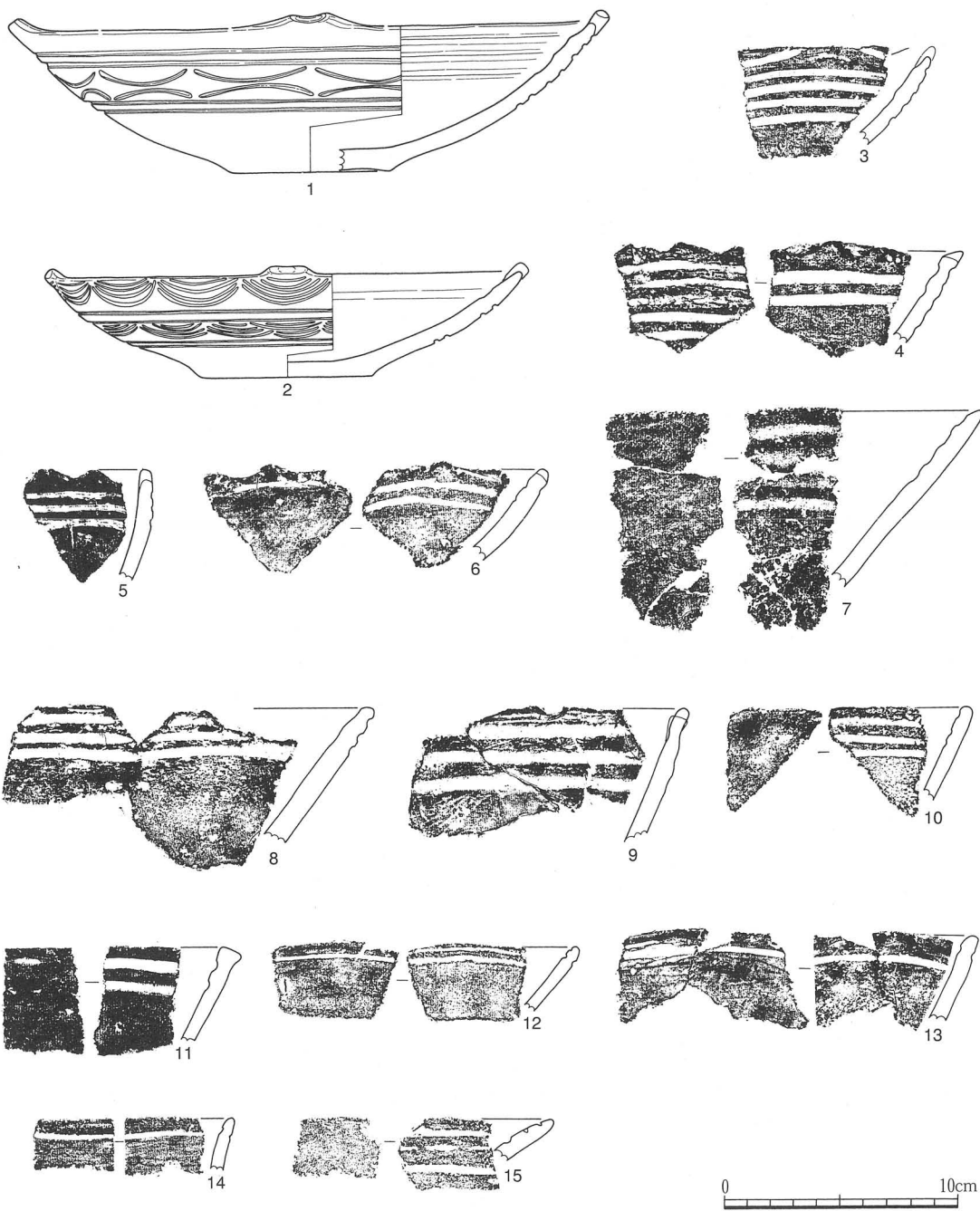


第156图 包含层出土土器⑦ (1/3)

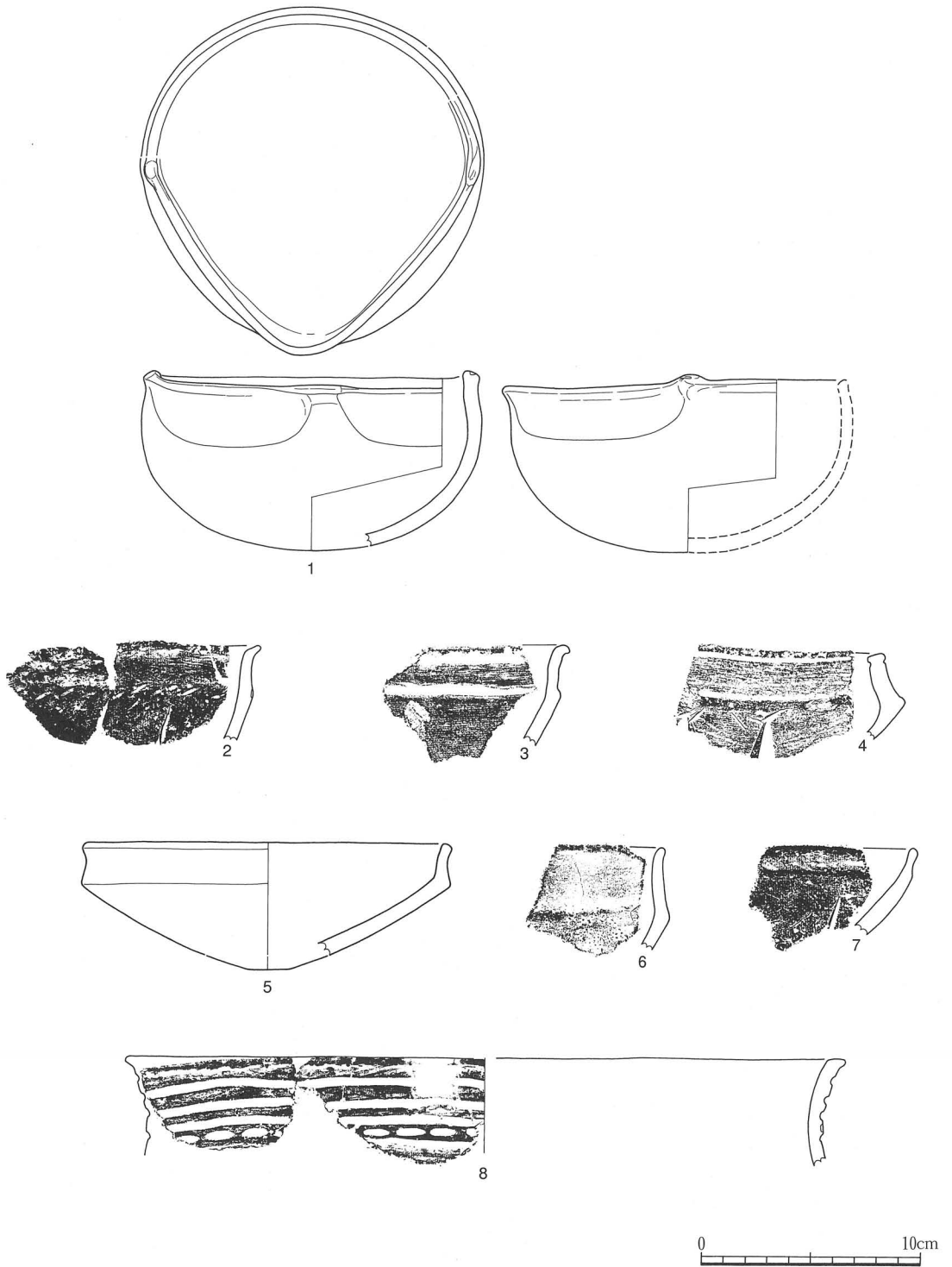
1N区(2·12·19·30)·1S区(6·7·15·16·29)·2N区(5·17·20·21·24·25)·2S区(1·3·4·9·10·13·18·22·23·27·28·31~33)·2A区(11·14·26·34·35)·3A区(8)



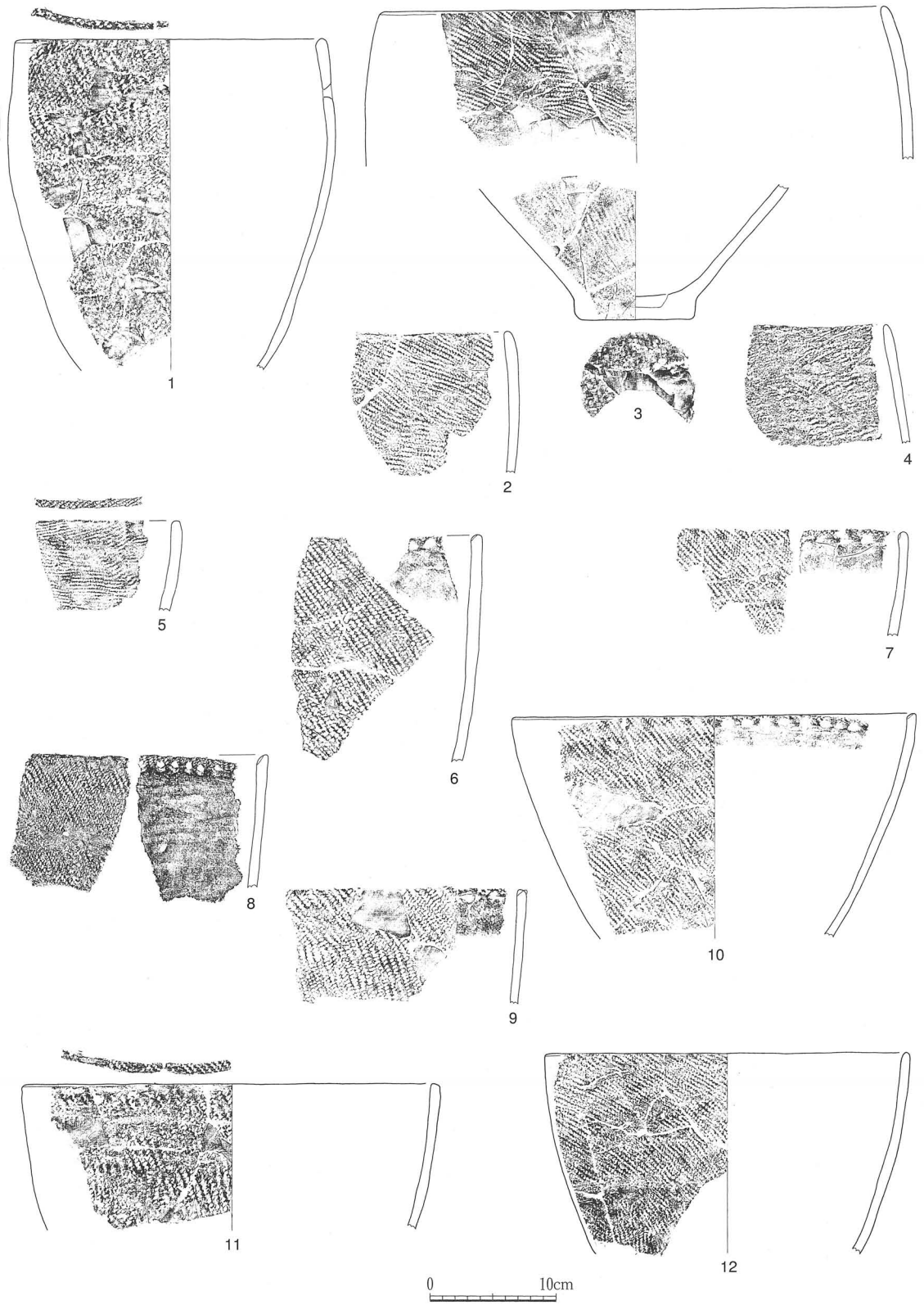
第157图 包含層出土土器⑦ (1/3) 1N区(11·17)·1S区(3·4·14·15·18~20)·2N区(6~8)·
2S区(9·16)·2A区(1·2·10·13·21)·3A区(5·12)



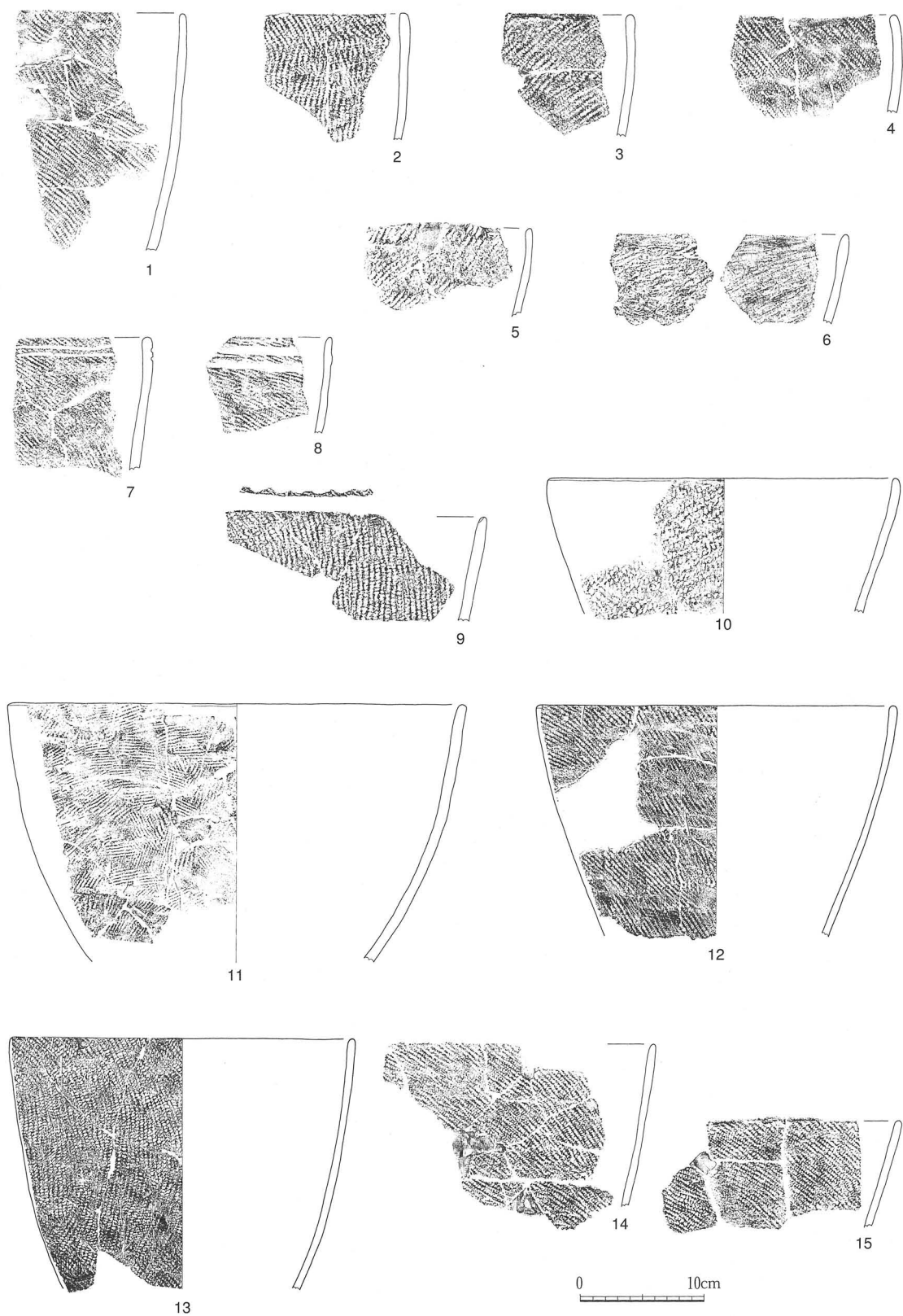
第158图 包含層出土土器⑦ (1/3) 1N区(14)·1S区(4·5·11)·2N区(2·3·15)·2S区(6·8~10·12·13)·2A区(7)·3A区(1)



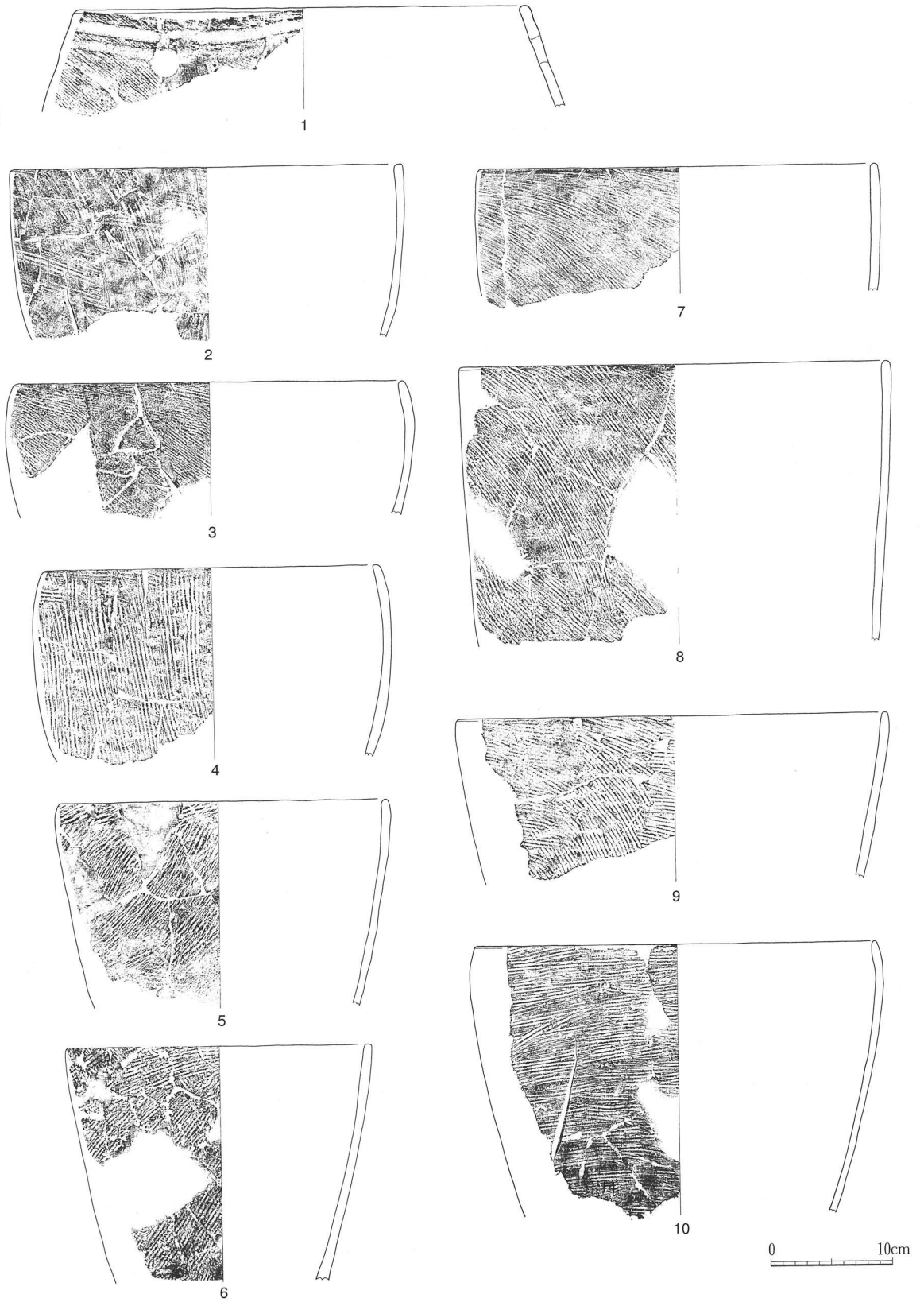
第159図 包含層出土土器⑦ (1/3) 1N区(5·6)·1S区(3·8)·2S区(1·4·7)·2A区(2)



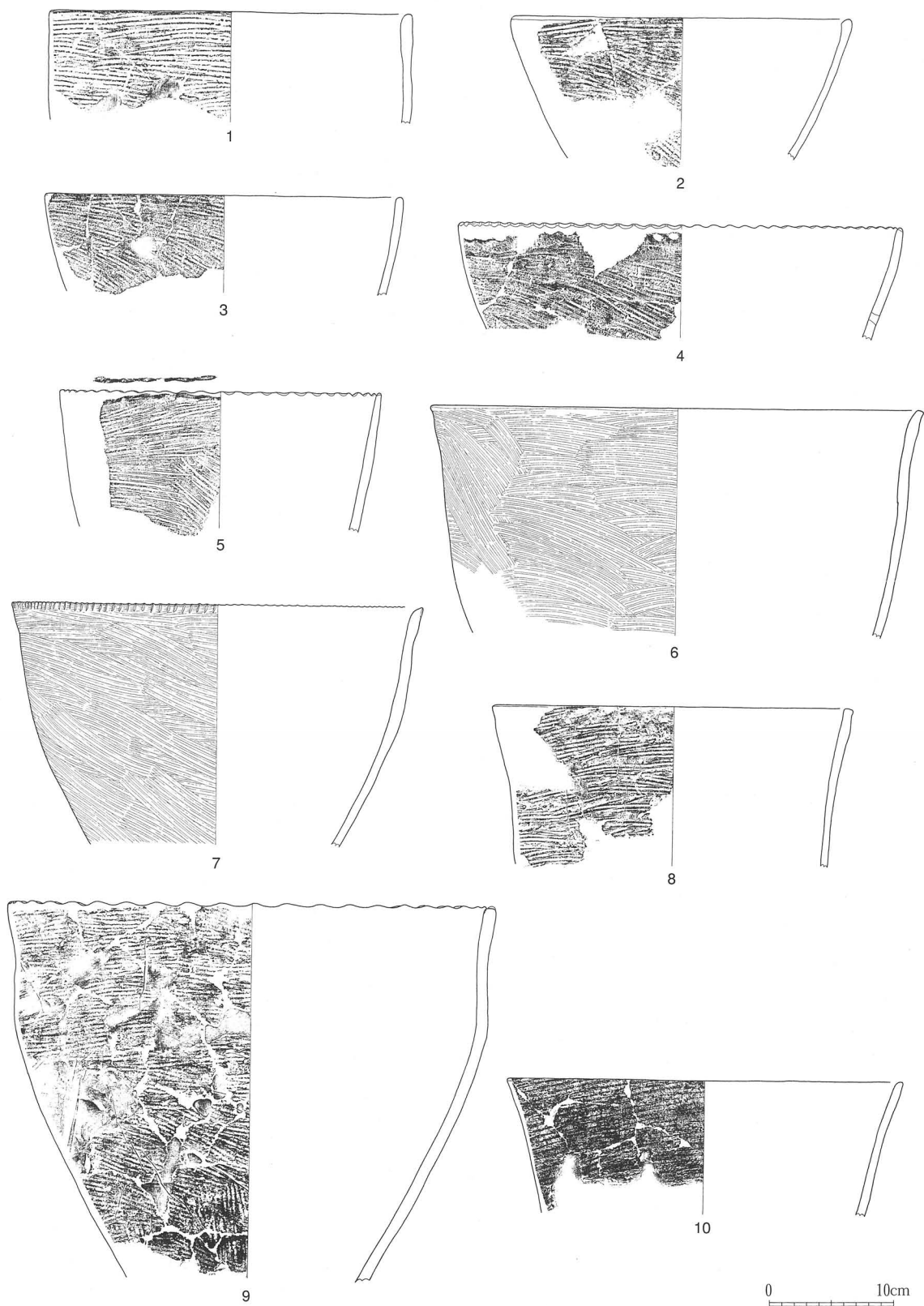
第160图 包含層出土土器^㉞ (1/5) 1N区(1·3·5~7·9~11)·1S区(8)·2N区(2·12)·2S区(4)



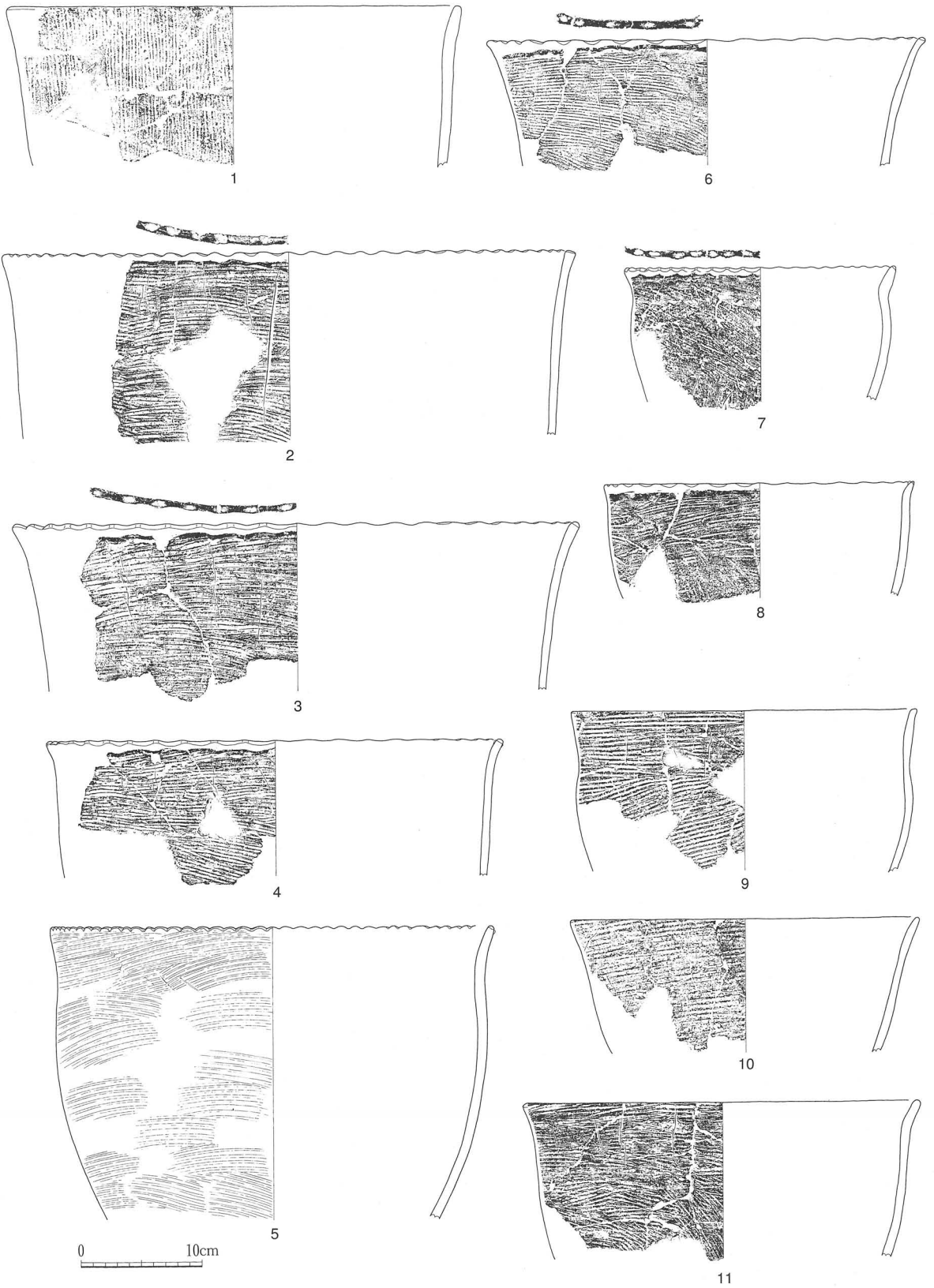
第161図 包含層出土土器[㊦] (1/5) 1N区(1~8·10·11·14·15)·1S区(12·13)·2S区(9)



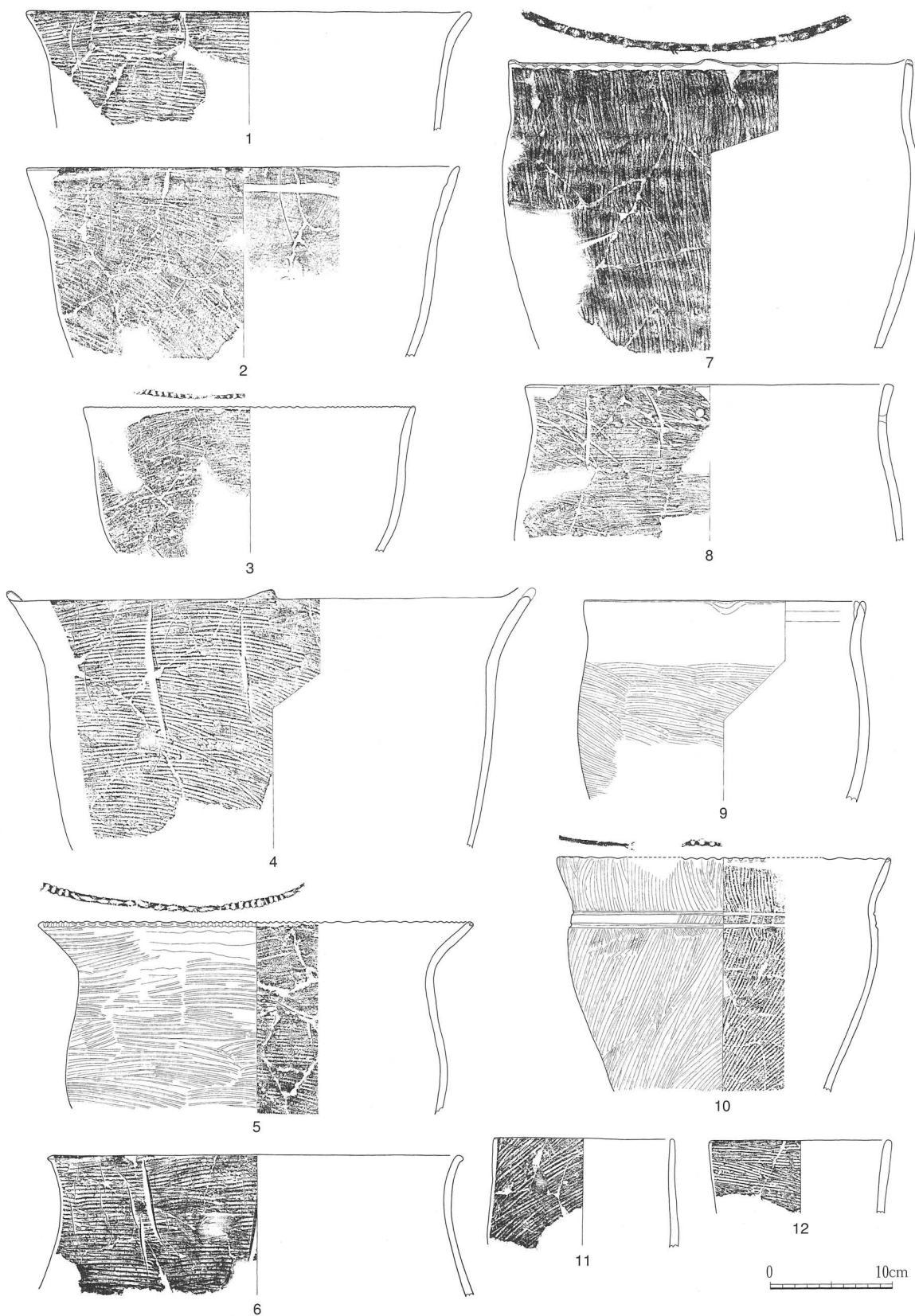
第162图 包含層出土土器⁸⁰ (1/5) 1N区(1·5)·1S区(3·4·7~10)·2S区(2·6)



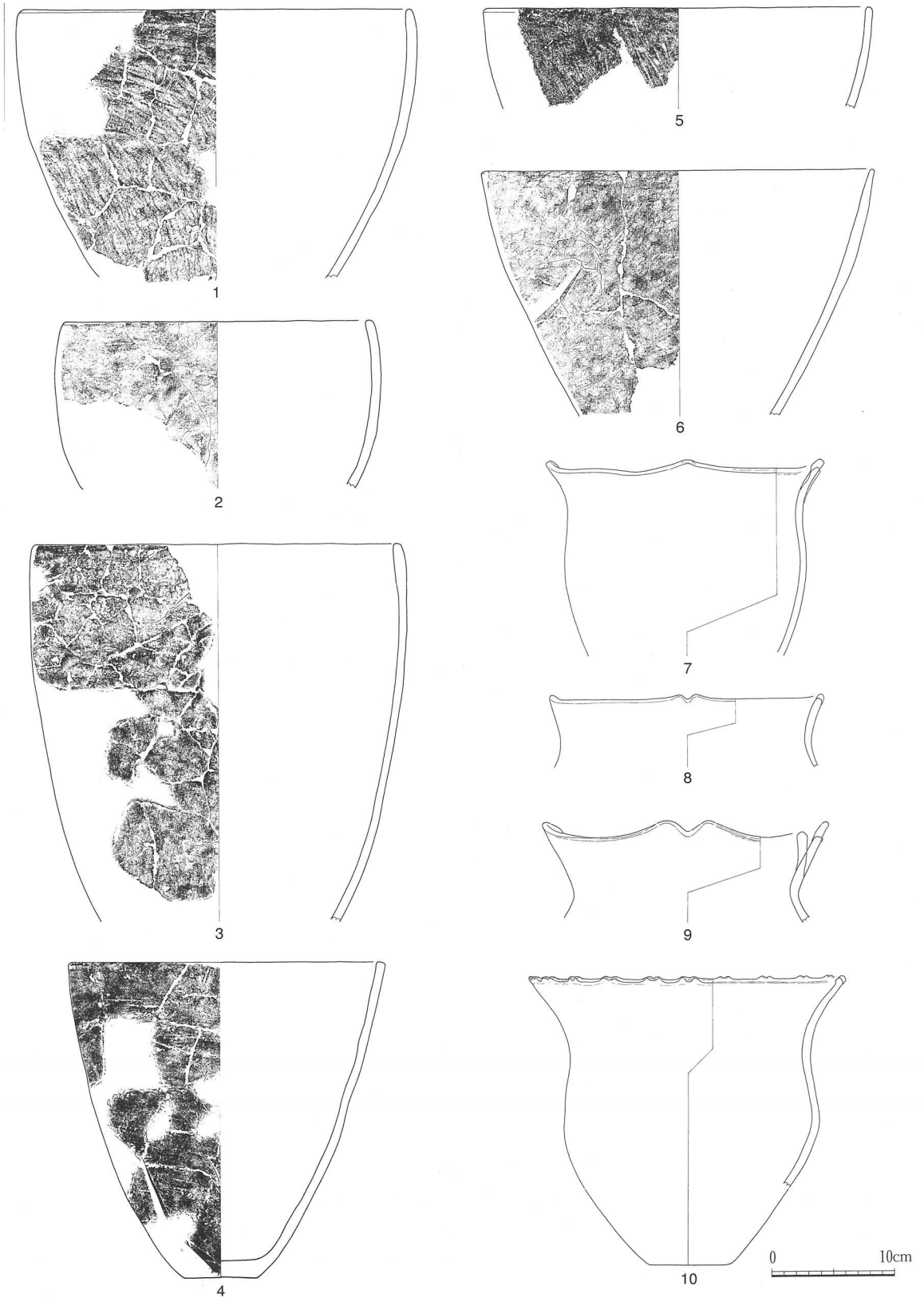
第163图 包含層出土土器⑧ (1/5) 1N区(1·2·7·9)·1S区(3~6·8·10)



第164図 包含層出土土器② (1/5) 1N区(1)・1S区(2~11)



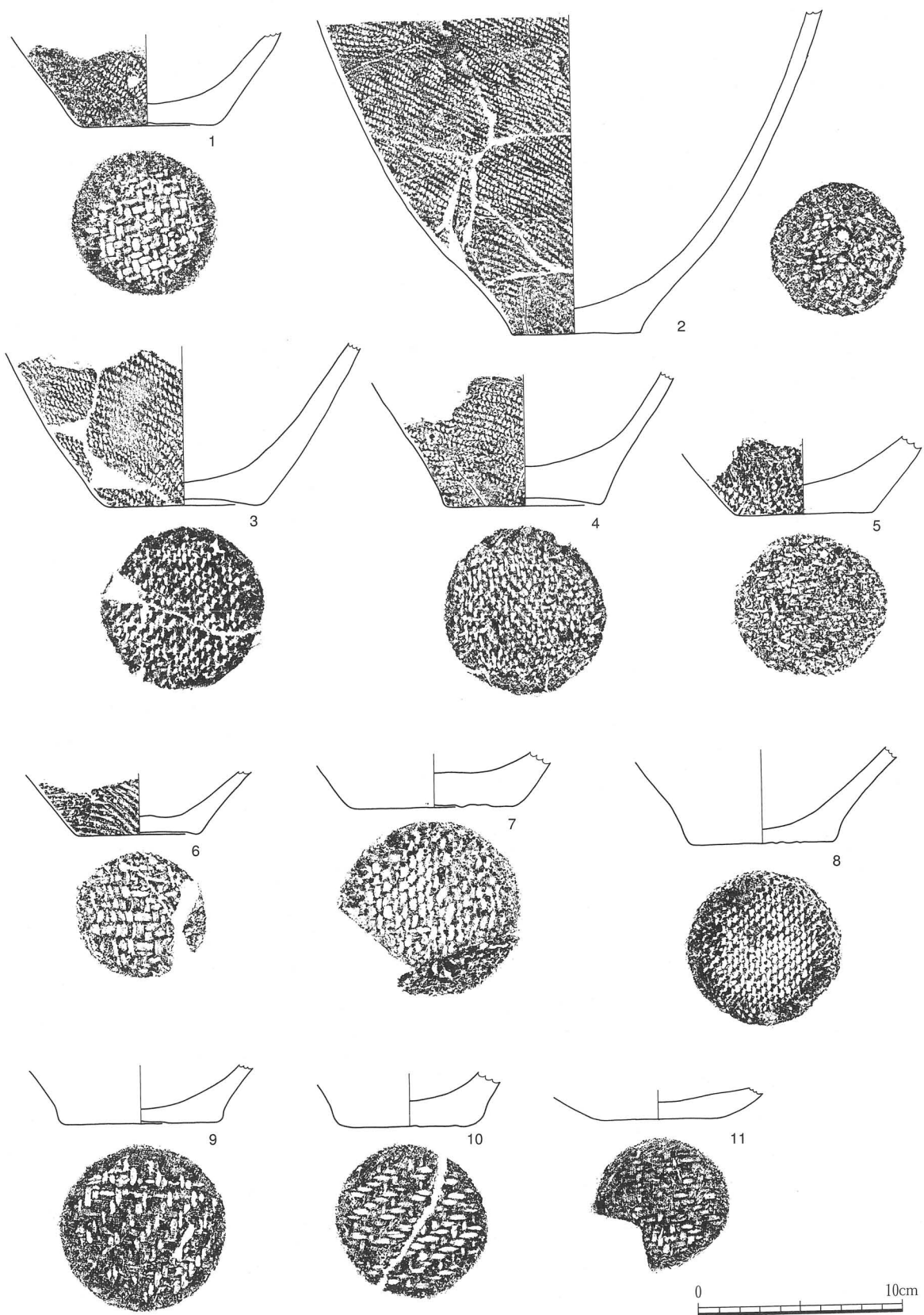
第165図 包含層出土土器⑧ (1/5) 1S区(1~12)



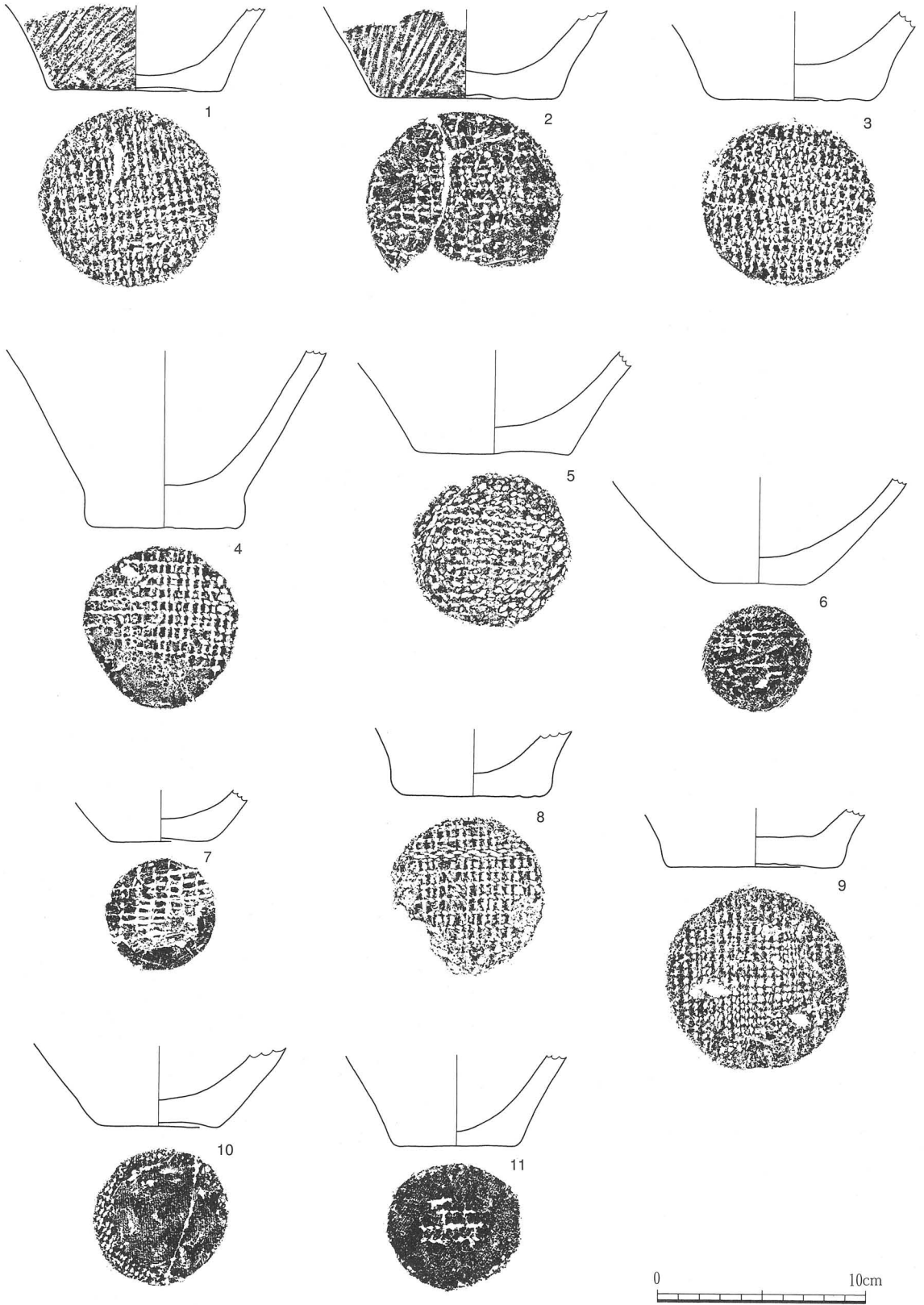
第166图 包含層出土土器④ (1/5) 1N区(2)·1S区(3~10)·2N区(1)



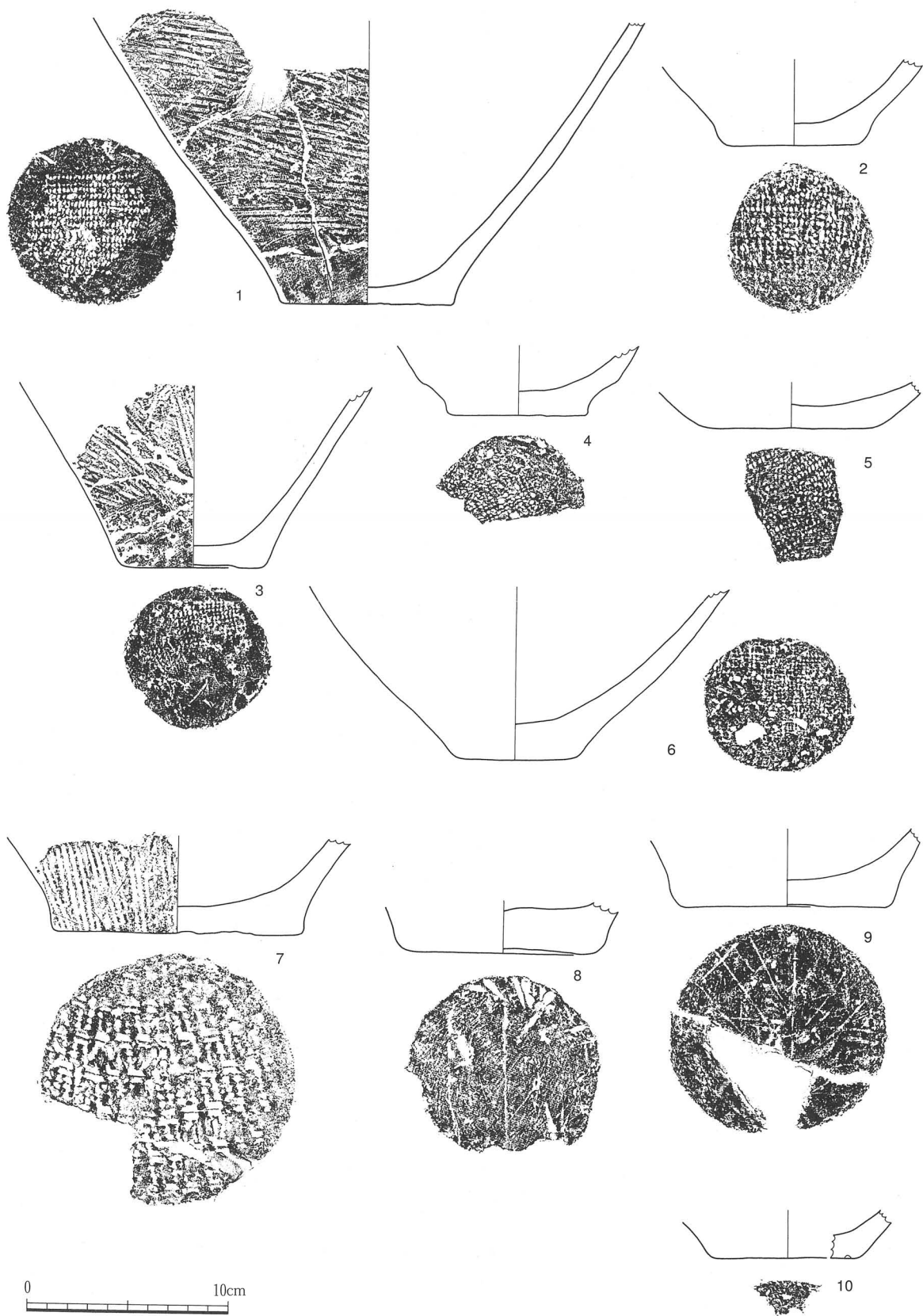
第167图 包含層出土土器⁸⁹ (1/5) 1N区(13)·1S区(1~7·9~12·14)·2S区(8)·3A区(15·16)



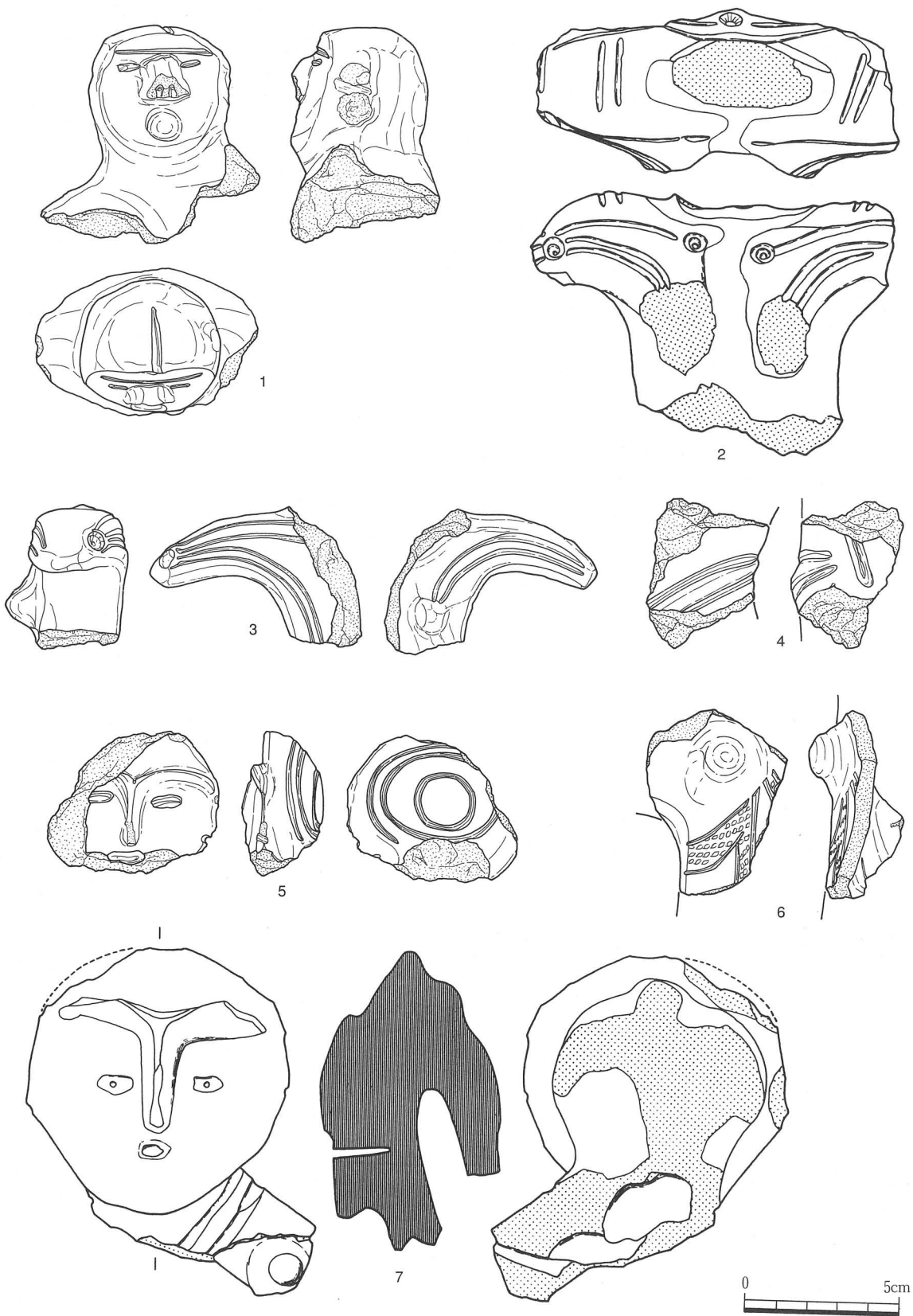
第168図 土器底部① (1/3)



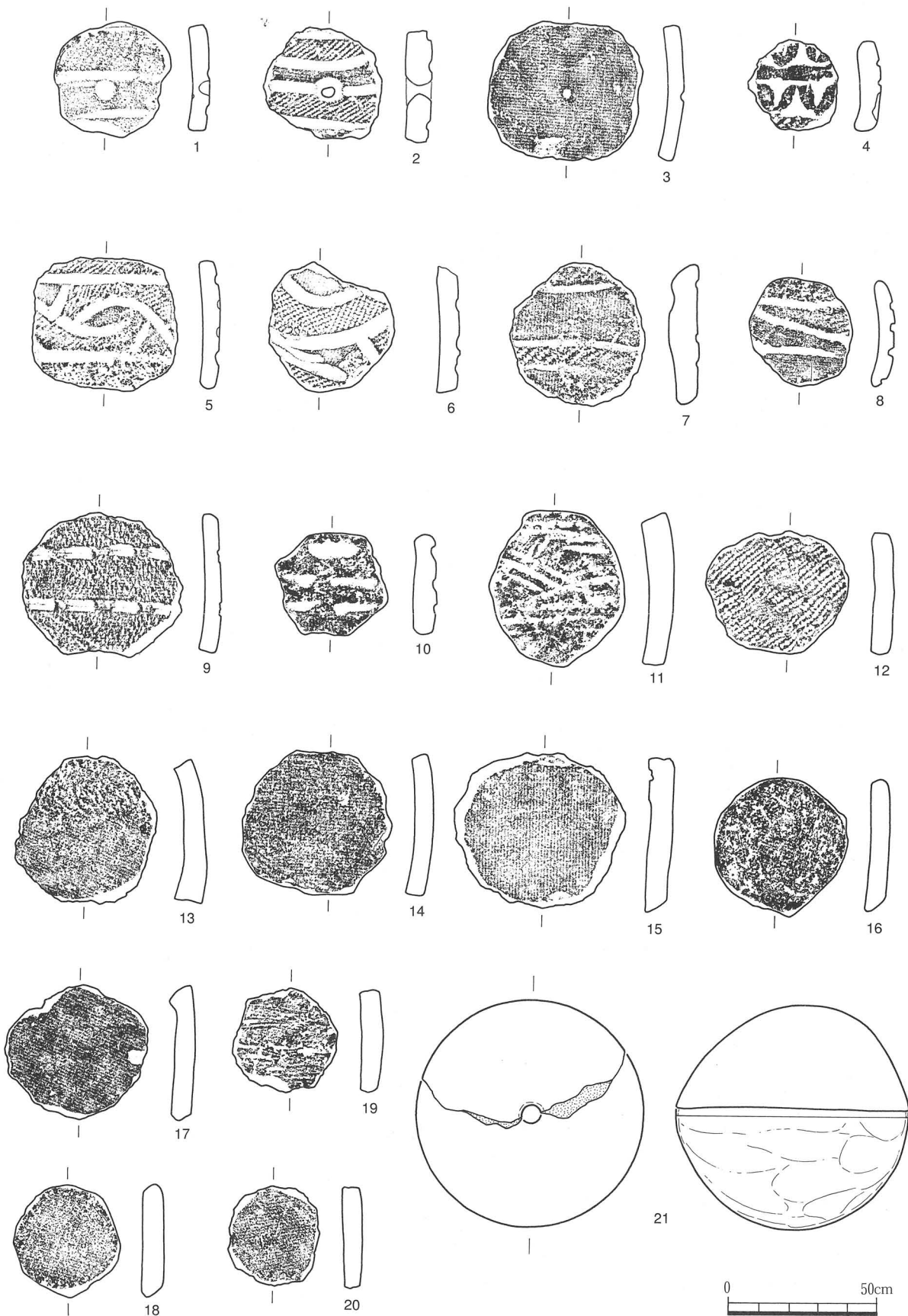
第169図 土器底部② (1/3)



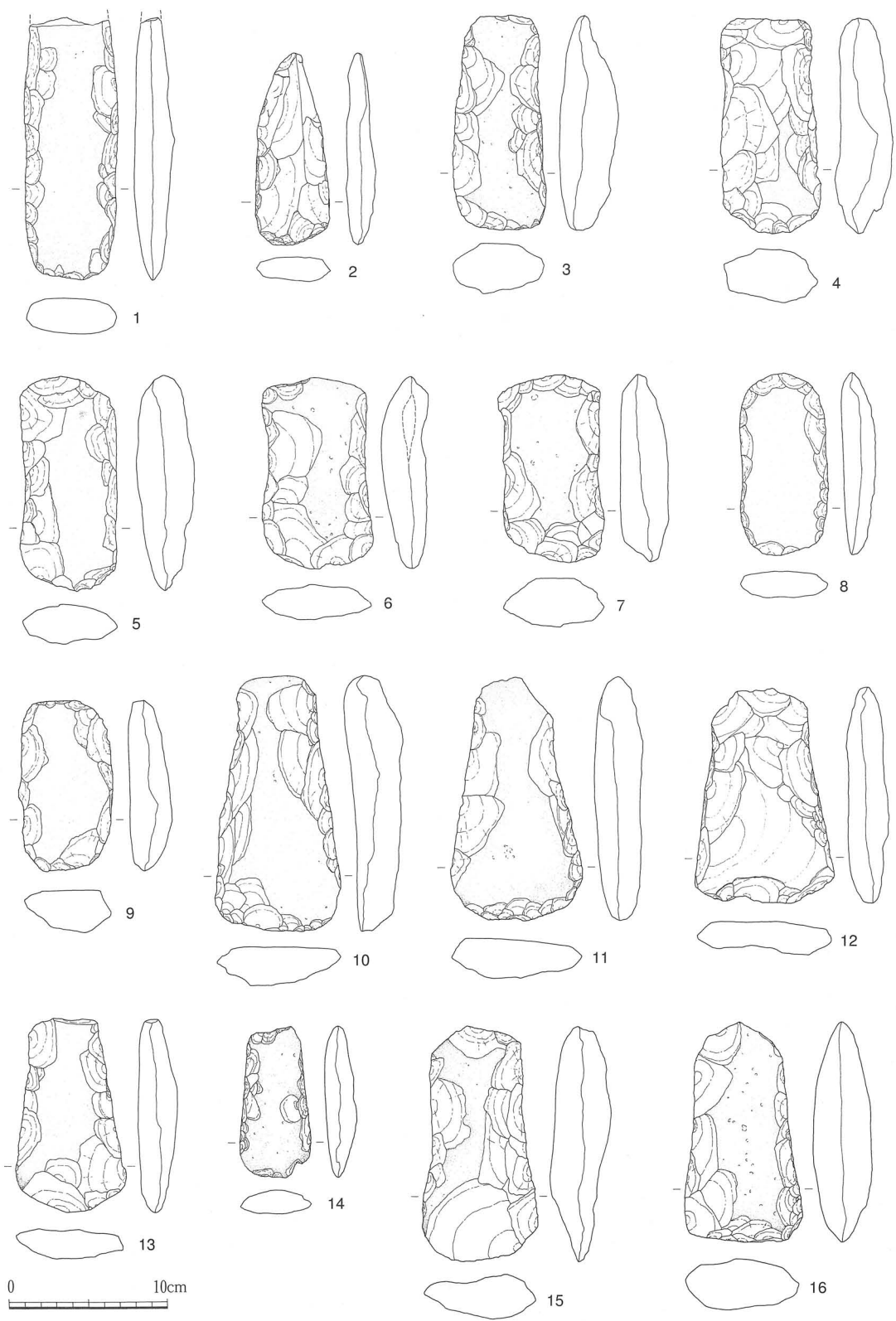
第170図 土器底部③ (1/3)



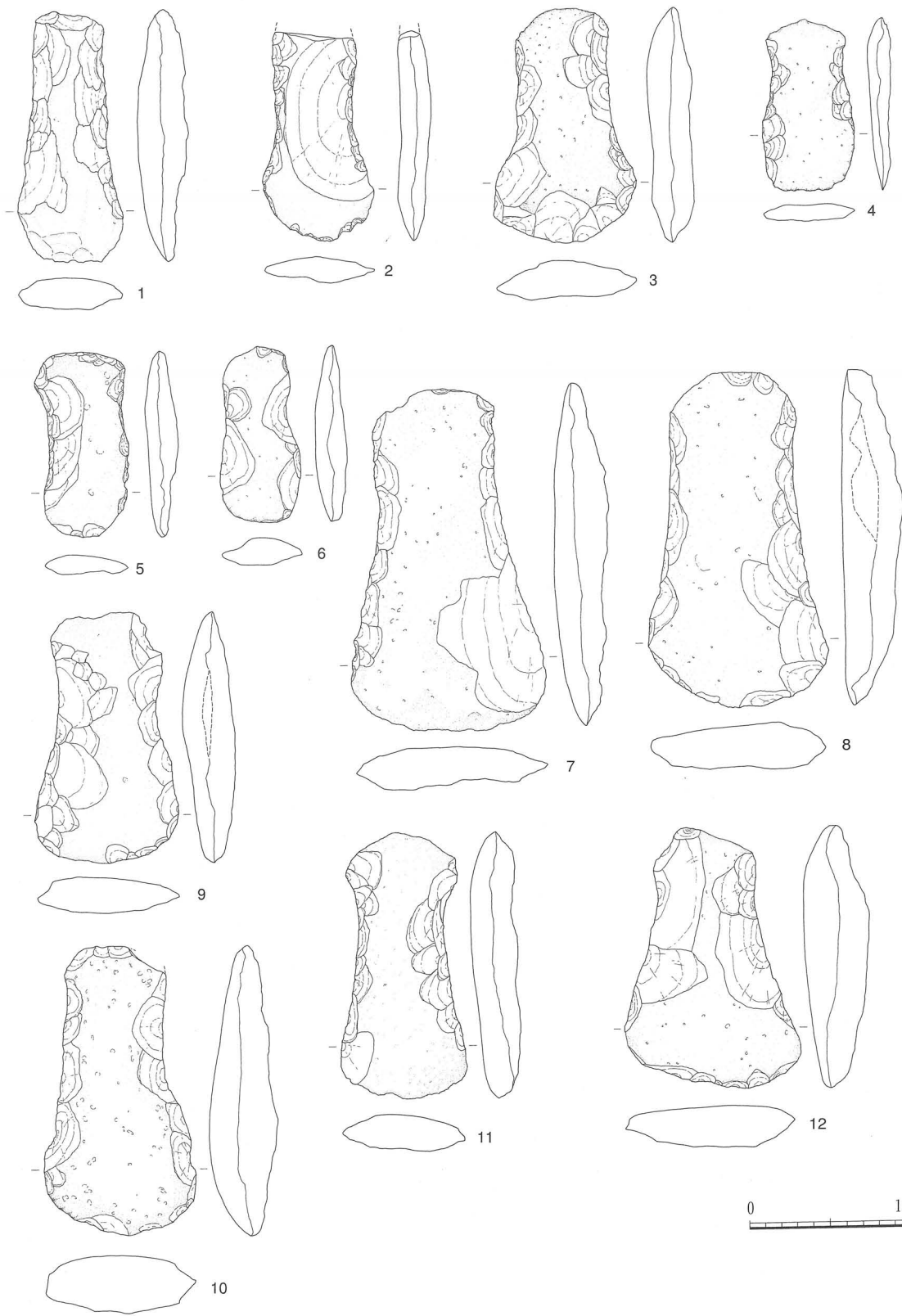
第171図 土製品① (1/2) 土偶(1~7)



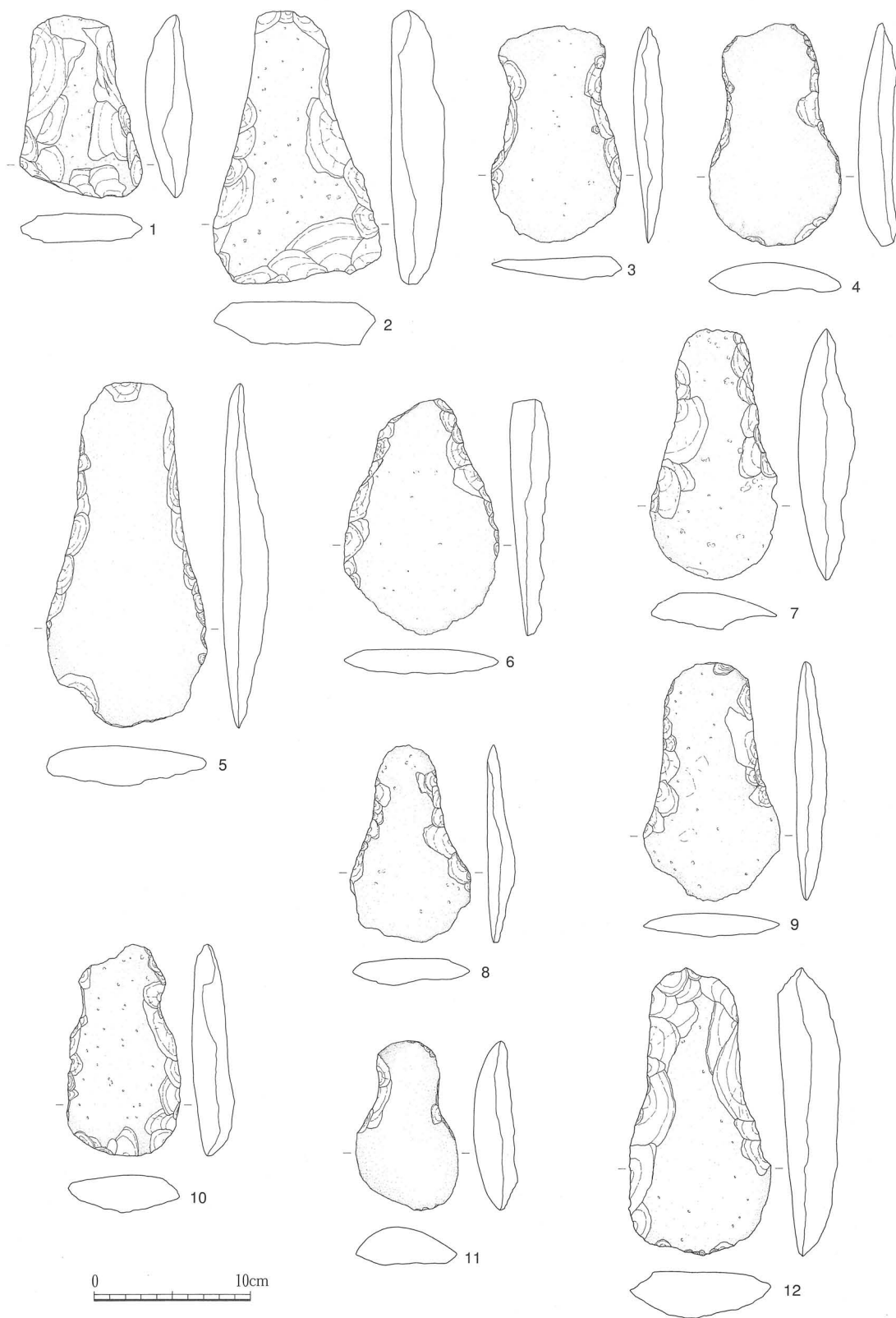
第172図 土製品② (1/2) 土製円盤(1~20) 有孔球状土製品(21)



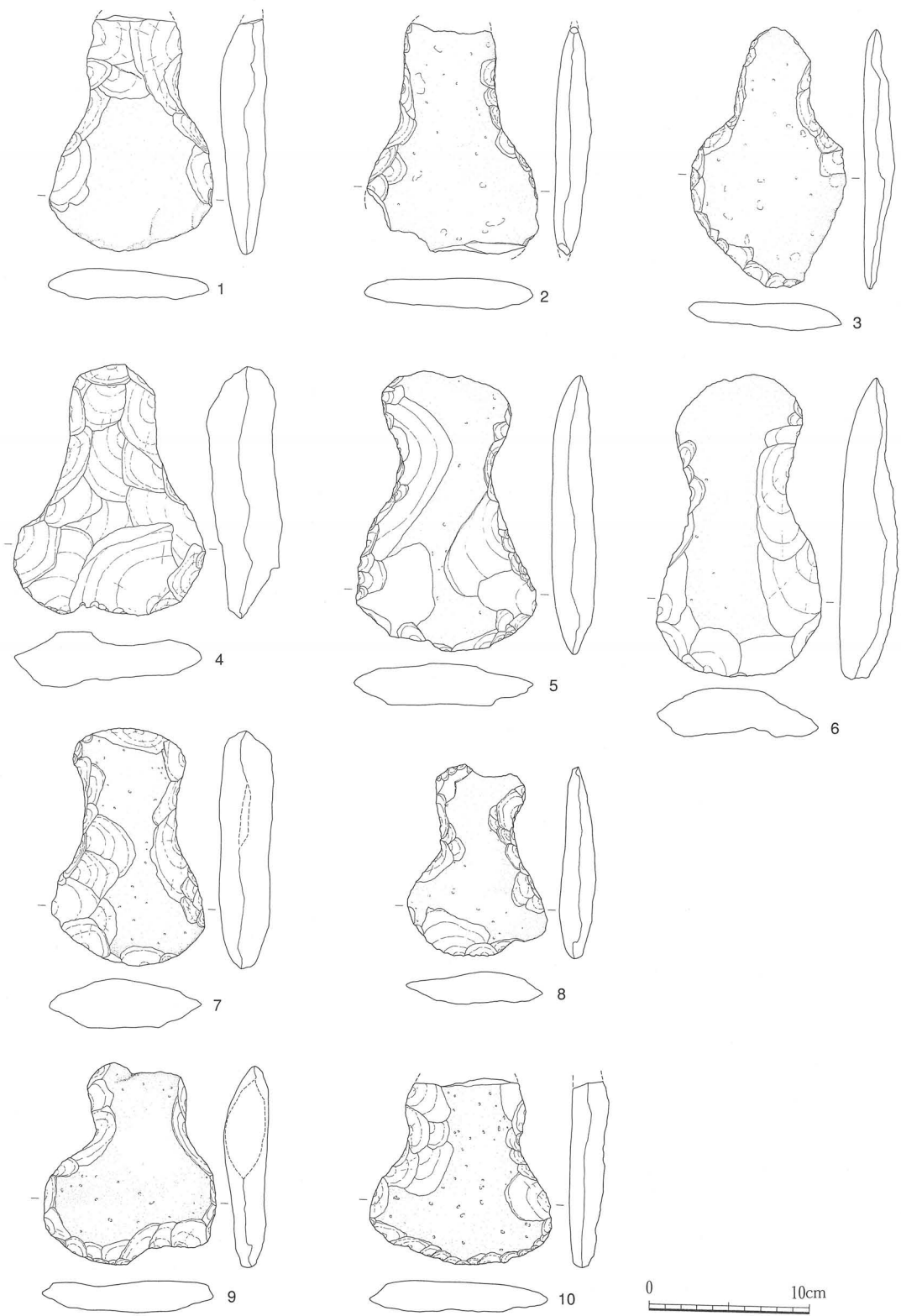
第173図 石器① (1/4) 打製石斧(1~16)



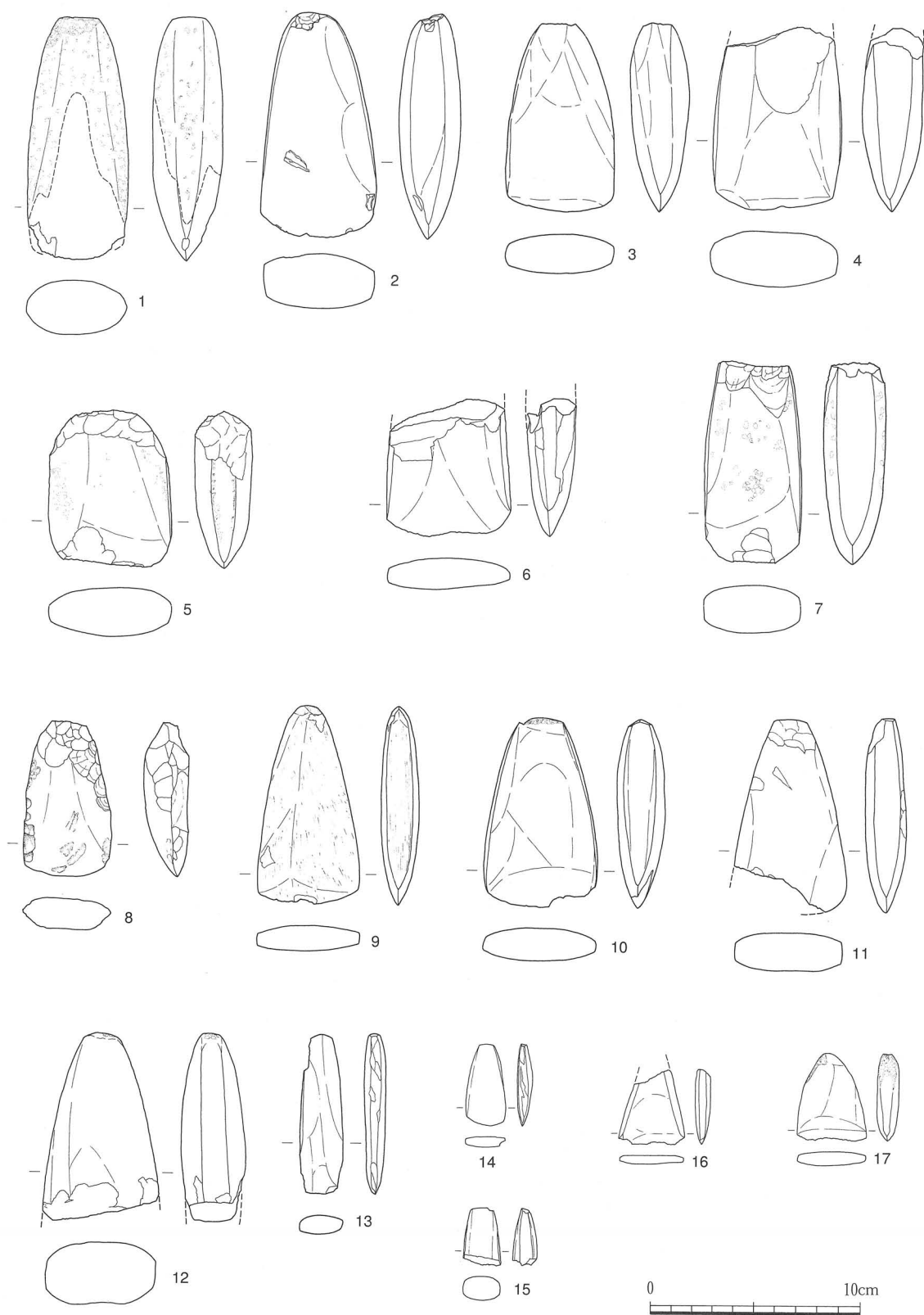
第174図 石器② (1/4) 打製石斧(1~10)



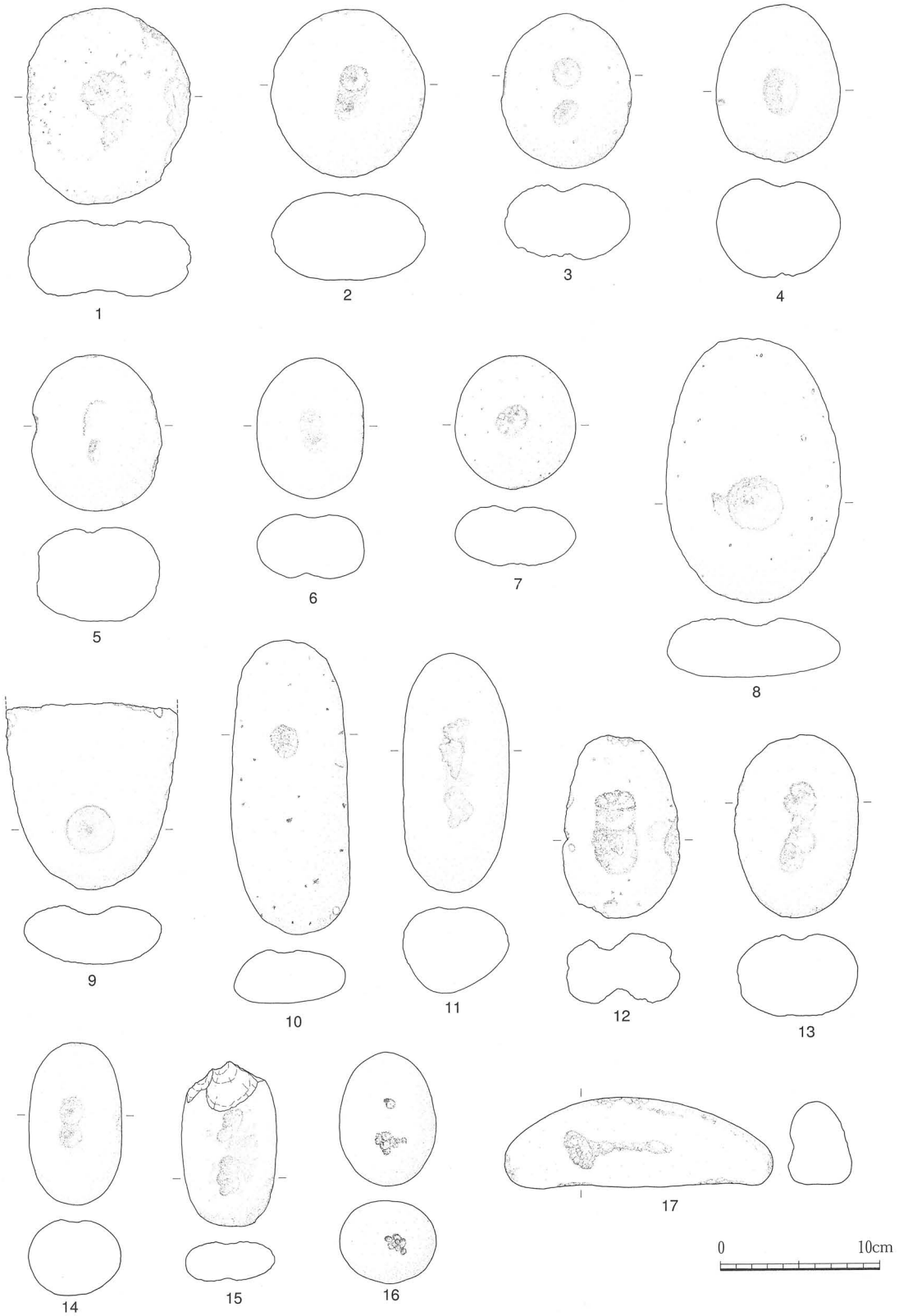
第175図 石器③ (1/4) 打製石斧(1~12)



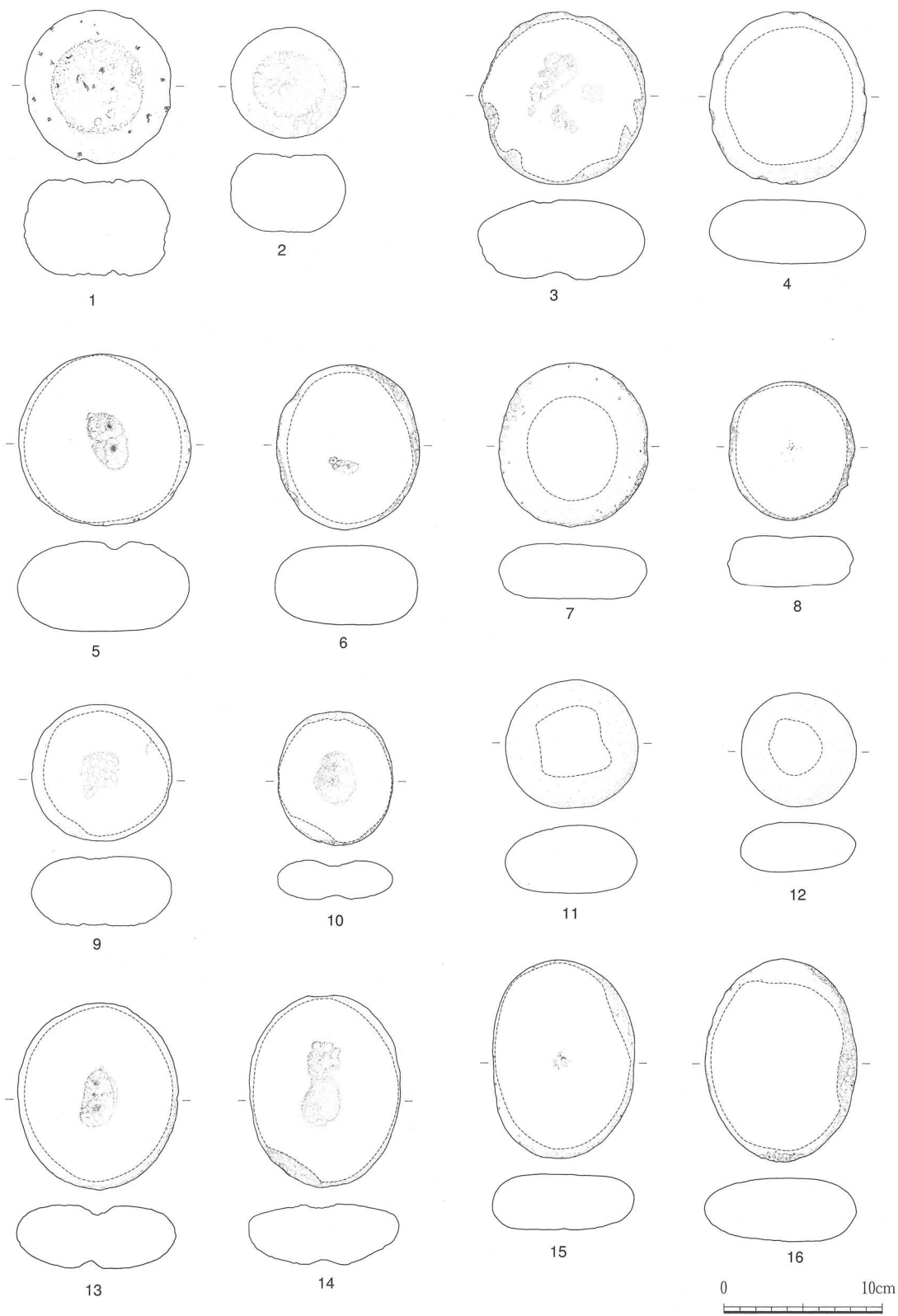
第176図 石器④ (1/4) 打製石斧(1~10)



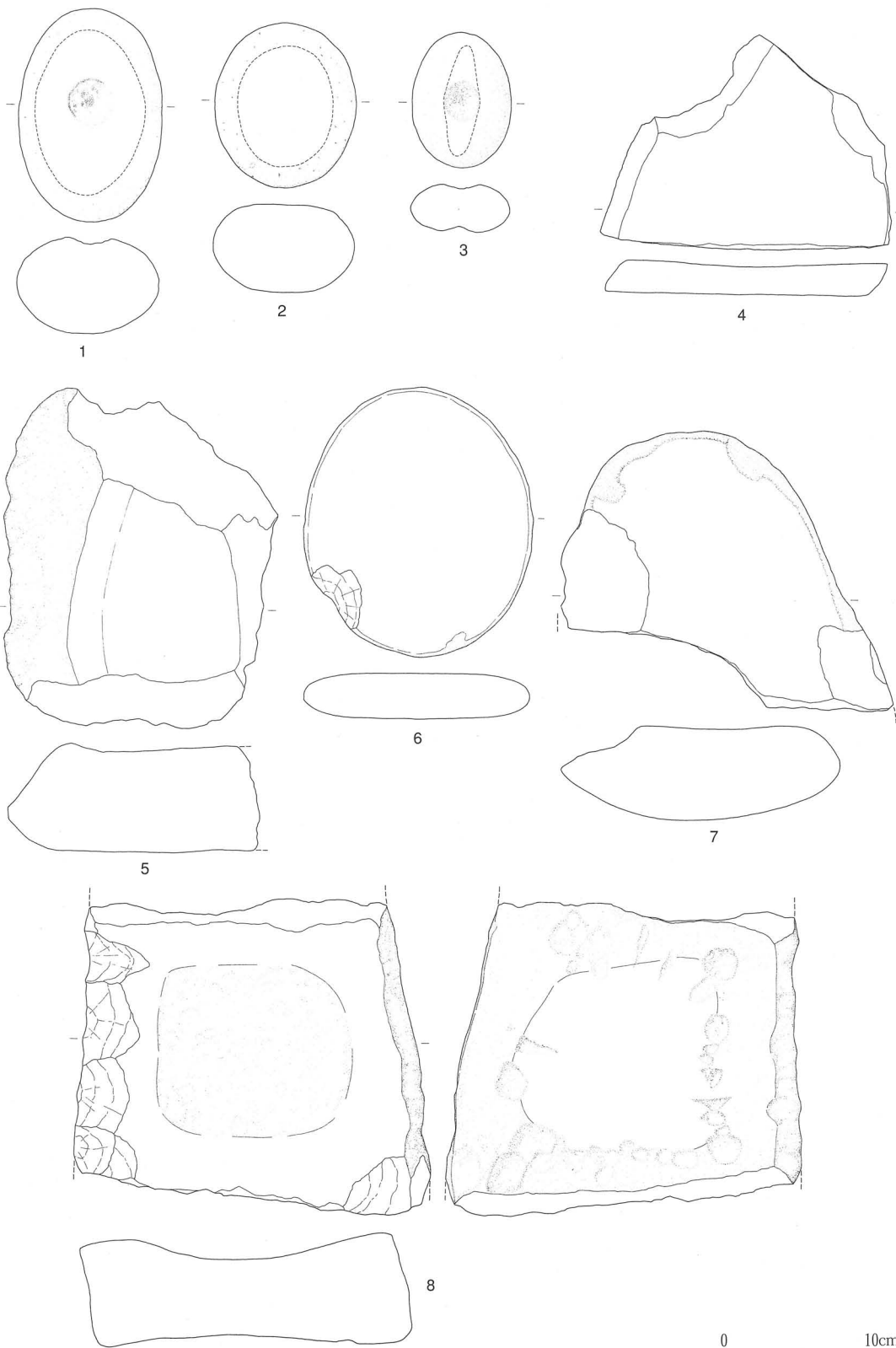
第177図 石器⑤ (1/3) 磨製石斧(1~17)



第178図 石器⑥ (1/4) 敲石(1~16)

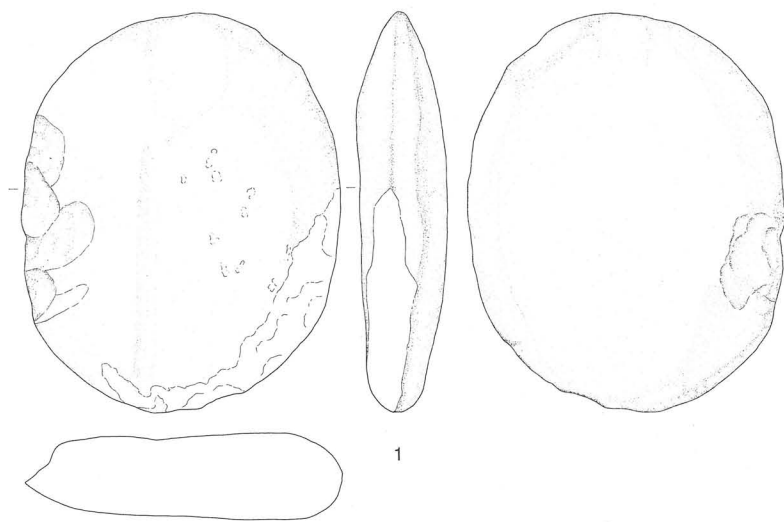


第179図 石器⑦ (1/4) 敲石(1・2)・磨石(3~16)

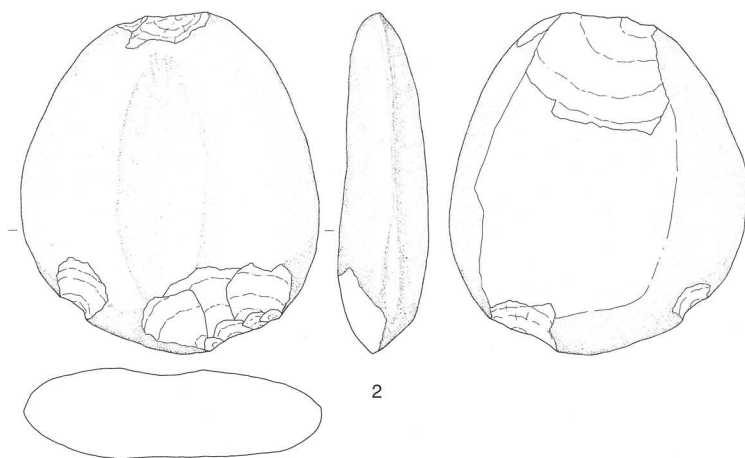


0 10cm

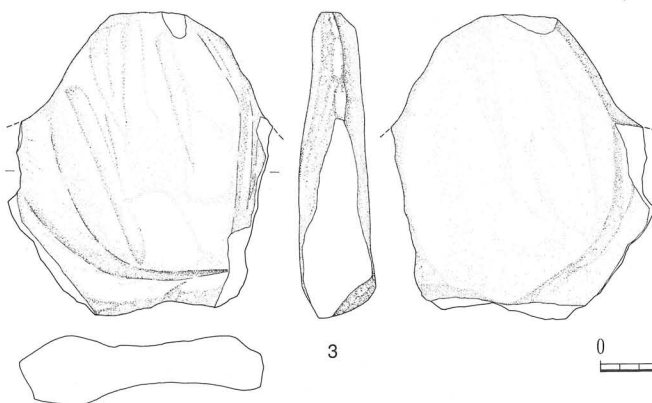
第180図 石器⑧ (1/4) 磨石(1~3)・石皿(4~8)



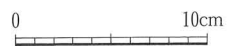
1



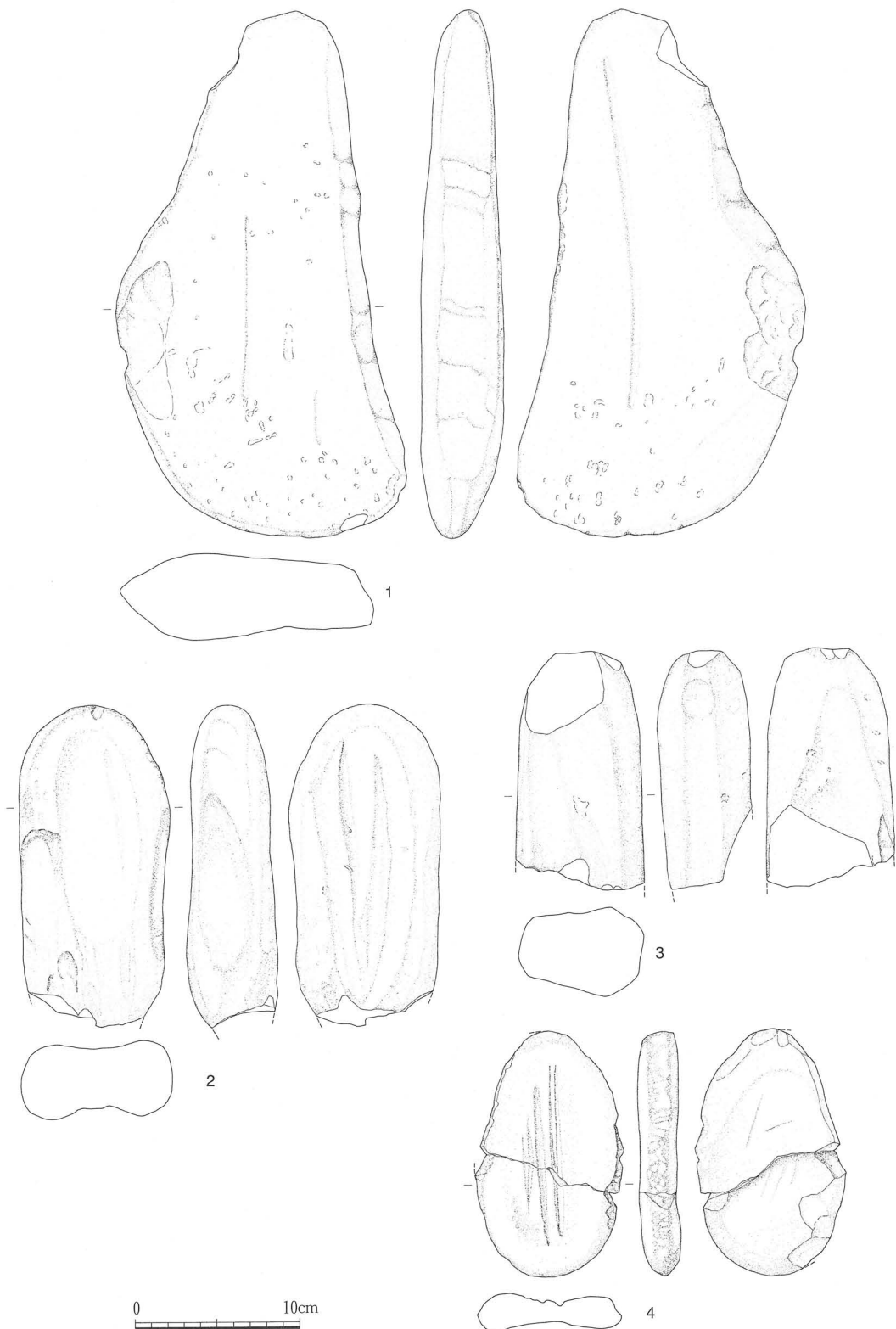
2



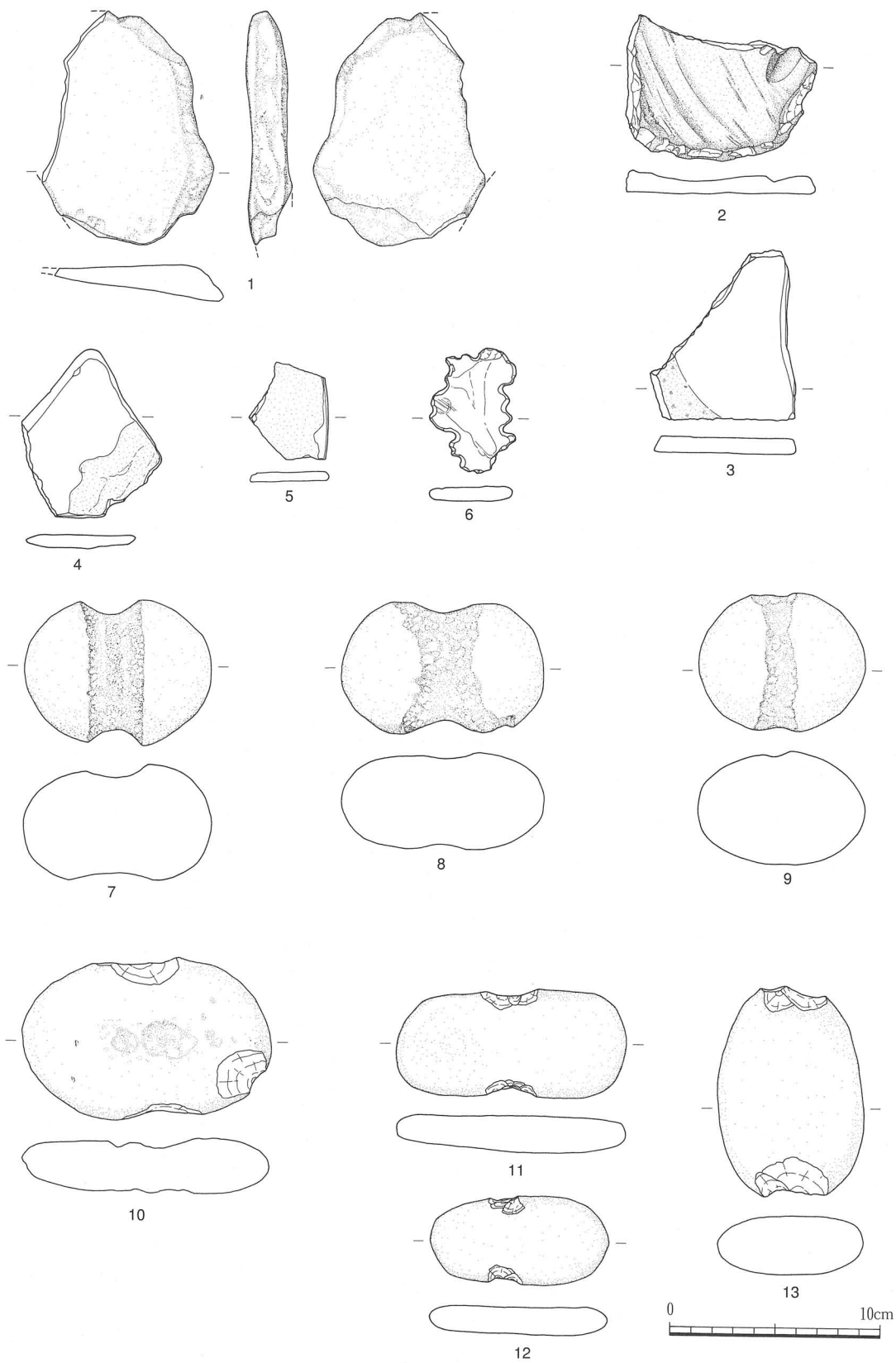
3



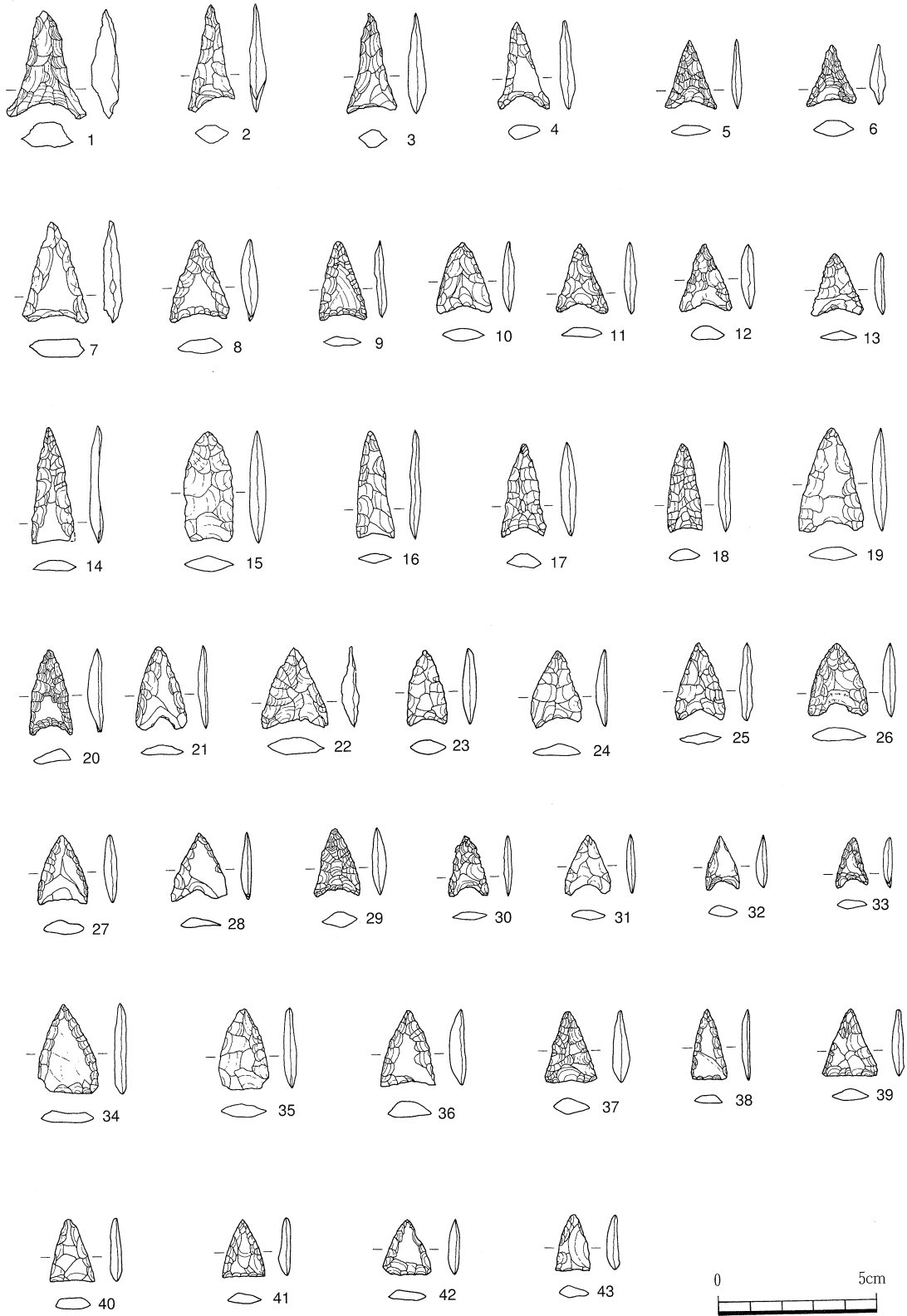
第181図 石器⑨ (1/4) 砥石(1~3)



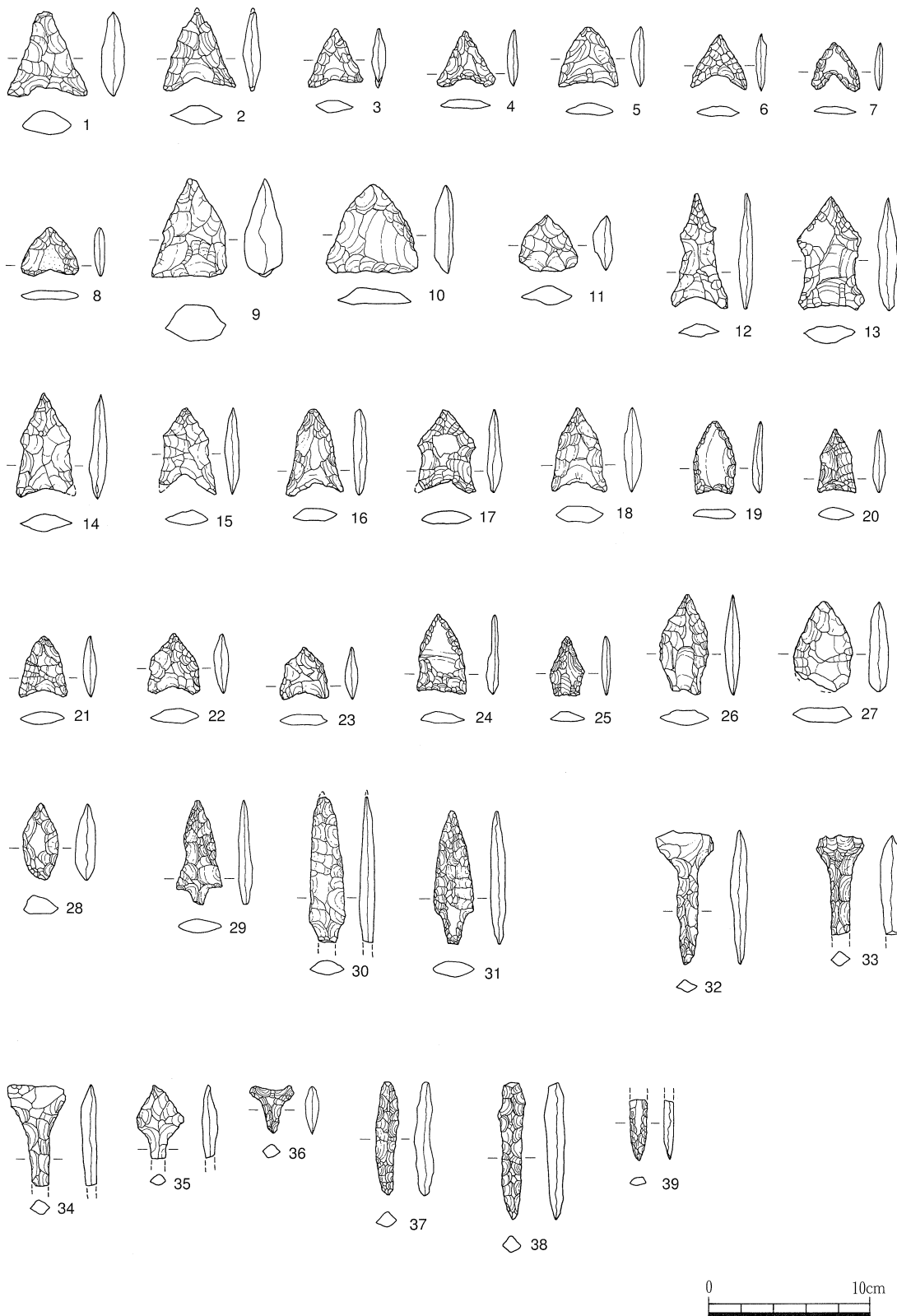
第182図 石器⑩ (1/4) 砥石(1~4)



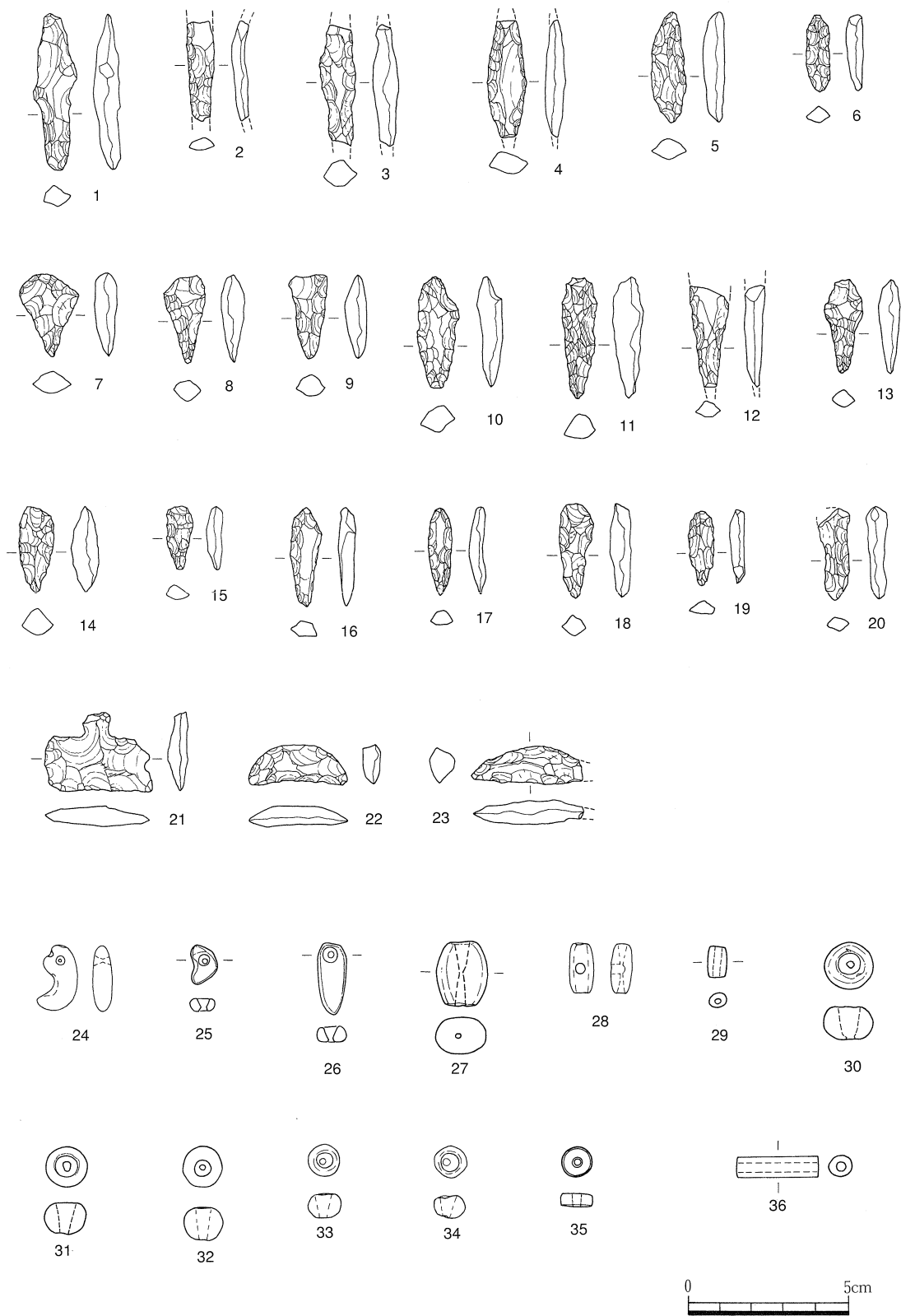
第183図 石器⑪ (1/3) 砥石(1~6)・石錘(7~13)



第184図 石器⑫ (1/2) 石鏃(1~43)



第185図 石器⑬ (1/2) 石鏃(1~31)・石錘(32~39)



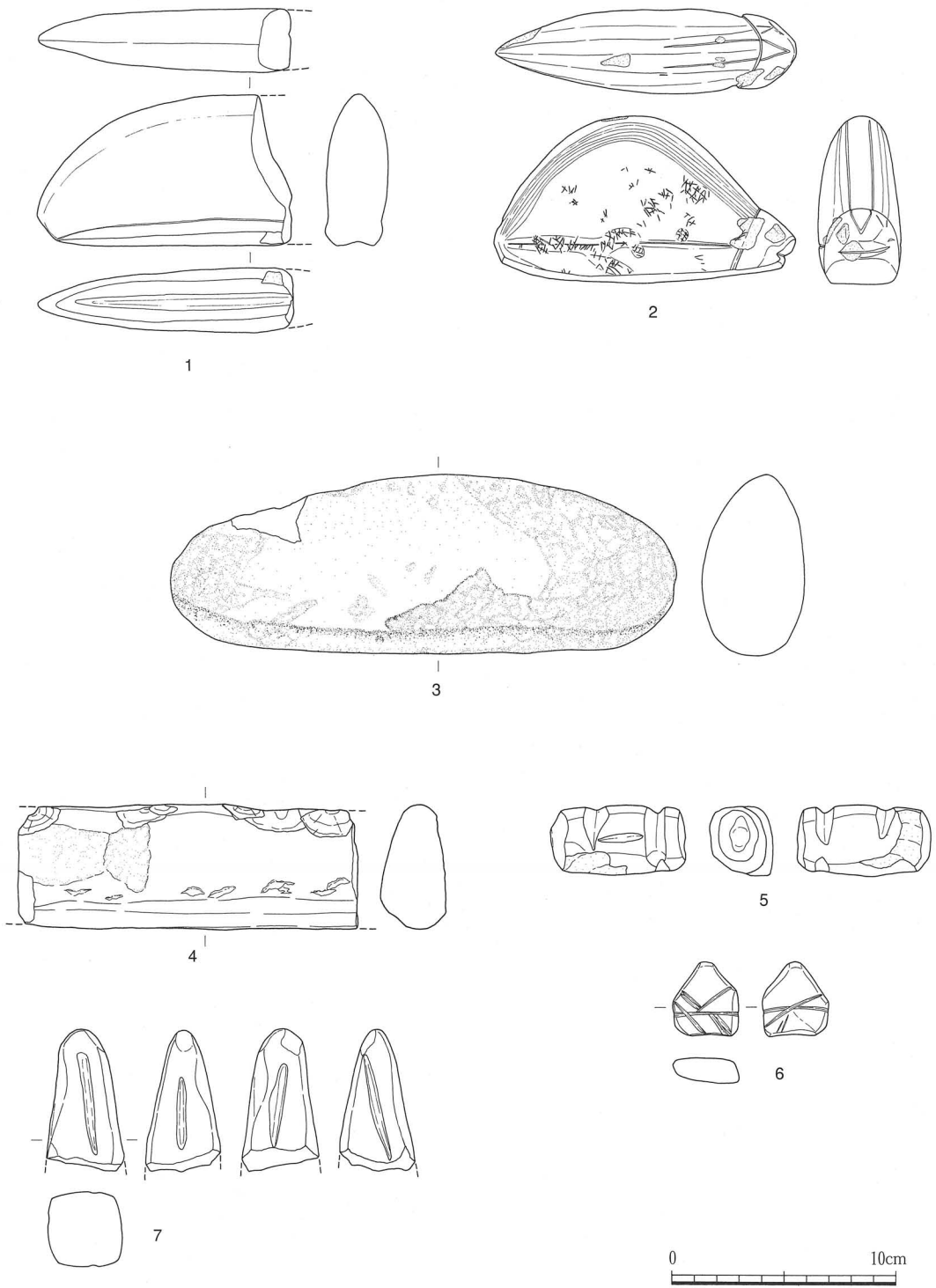
第186図 石器⑭・石製品① (1/2) 石錐(1~20)・石匙(21~23)・玉類(24~36)



第187図 石製品② (1/3) 石棒・石刀類(1~13)



第188図 石製品③ (1/3) 石棒・石刀類(1~4)・石冠(5~13)



第189図 石製品④ (1/3) 石冠(1~3)・その他(4~7)

土器出土位置表 (第83~172・190・191図) 表は左から土器番号・地区・グリッド・層位を表す。

第83図

1	1S	N2	2・3
2	1S	G1	4下
3	1S	K2	5
4	1N	C2	3
5	1N	B3	2下
6	1S	J2	4
7	1S	F2	
8	2N	D5 C6	3 3下
9	1N	B4	3下
10	1S	J2	5
11	1S	H2	5上
12	1S	H3	4下
13	1S	G1	4下
14	1S	I	
15	1N	B3	3
16	1S	E2	3
17	1S	E3	3
18	1S	J2	5
19	1S	H2	5下
20	1S	I2	5
21	1S	G2	
22	1S	I2	5
23	1S	I2	5
24	2S	E9	
25	1S	K2	4
26	2S	E2	3
27	2S	不明	
28	2S	E6	2下
29	1N	B3	3

第84図

1	1N	C3	3
2	1N	B3	3
3	1N	C3	3
4	1N	C3	3
5	2N	16住	
6	1S	I2	5
7	2S	D5	3
8	1S	G2	5下
9	1S	I2	
10	1N	B3	2下
11	1S	E3	4
12	1S	H2 J2	4 5
13	1N	B3	3

第85図

1	1S	J2	5下
2	1N	B3	3
3	1N	B3	3
4	1N	不明	2
5	1N	B3	
6	2N	B5	2下
7	2N	16住	
8	2N	B6 C6	
9	1S	K2	5
10	1N	B3	3
11	1S	H2	4下

第86図

1	1S	J2	5
2	1S	K2	5
3	1S	H2	5上
4	1S	I2	4
5	1N	河	
6	1N	不明	
7	1S	不明	5
8	1S	J2	5
9	1S	F3	4下
10	1S	J2	5

第86図

11	2N	D5	2下
12	1S	F2	3
13	1S	J2	5
14	1S	I2	5
15	1N	C3	2上
16	2N	B5	
17	2N	C5	2下
18	1N	B3	2上
19	1S	C2	3

第87図

1	2N	C6 C2	2
2	1S	I2	4下
3	1S	J2	5
4	1S	M2	4
5	1S	J2	5
6	1S	M2	4
7	1S	J2	5
8	1N	F3	3
9	1N	B3	3
10	1N	C3	3
11	1N	C3	2下
12	1S	J2	5
13	1N	B3	2下
14	1S	J2	5

第88図

1	1N	C3	3
2	1S	E3	3
3	1N	B3	3
4	1S	F2	4
5	1S	H1	4
6	2S	D7	3
7	1S	G2	5下
8	1N	C3	3
9	1S	F3	4
10	1S	J2	5
11	1S	H2	4下
12	1S	G2	3
13	1S	F3	3
14	1S	H2	5上
15	1S	H2	4下
16	2N	B3 B6	3
17	2N	C6	2下
18	1S	J2	3
19	2A	T10	2
20	1S	L2	4

第89図

1	1S	E3 E5	2 4
2	1S	J2	5
3	1S	E4	3上
4	1S	G2 H2	3 4
5	1S	I2	4
6	1S	H2	4下
7	1S	F2	3
8	1S	I2	5
9	1N	C3	3
10	2N	C5	2下
11	1N	B3	3
12	1S	E2	5
13	1S	E2	3
14	1S	J2	5

第90図

1	2N	C5	2下
2	1S	I2	5
3	1S	F2	4
4	1S	F2	4下

第90図

5	1S	H2	4
6	1S	H2	4
7	1S	J2	5下
8	1S	E3	3
9	1S	J2	4下
10	2S	E7	2下
11	1S	H2	5
12	1S	L3	3
13	1S	F3	3
14	1N	B3	3
15	1S	J2	
16	1N	B3	2下
17	1N	B3	3
18	1N	B4	3
19	1N	D2	2下
20	1S	J2	5
21	1S	I2	3
22	1S	K2	4
23	1S	K2	4
24	1S	J2	5

第91図

1	1S	E2	5
2	1S	H2	5下
3	1S	F2	4下
4	1S	F2	5上
5	1N	B3	3
6	2A	X10	2
7	1S	F2	4

第92図

1	1S	J2	5
2	2S	E6	2下
3	1S	P2	4
4	1S	E2	4
5	1N	C2	3
6	1S	H2	
7	1S	I2	3
8	1S	K2	2下
9	1N	B3	2下
10	1S	E3	4・5
11	1S	E3	2上
12	1S	I2	5
13	1S	L2	4

第93図

1	1N	B3	3
2	1S	K2	5
3	1S	I2	5
4	1S	F3	4
5	1S	H2	4
6	1S	I2	5
7	1S	H2	4
8	1S	I2	4
9	2S	D6	2
10	1S	H3	4下
11	1S	I2	5上
12	2N	B6	2下
13	1N	C3	3
14	2N	C6	2下
15	1S	H2 I2	5
16	1S	H2	4上
17	1S	E3 F3	3 4

第94図

1	1N	A3	
2	2N	B6	2下
3	1N	C3	3
4	1S	H2	4

第94図

5	1S	P85 土坑	
6	2S	D7	3
7	1N	C3	3
8	1S	F2	4下
9	1S	L2	3
10	2S	E5	3
11	1S	I2	5
12	1N	C3	2下
13	1N	C3	3
14	1S	不明	
15	1S	J2	5
16	1S	I2	5上
17	2N	C5	2下
18	1S	K2	4
19	2S	E5	
20	2S	E9	3下

第95図

1	1N	C3	3
2	1S	I2	5
3	1S	I2	5上
4	1S	J2	5
5	1N	B3	3
6	1S	G2	3
7	1S	H2	3
8	2S	E7	2下
9	1S	H2	3
10	1S	不明	
11	1N	河	
12	1N	C2	
13	2S	D5	2
14	1S	H2	
15	1N	河	
16	1S	H2	3
17	1S	K2	3
18	1S	K2	3下
19	1S	F1	3
20	1S	H2	3
21	1S	G2	2下
22	1S	G1	4下
23	1S	H2	4
24	2N	16住	

第96図

1	1N	B3	3
2	1S	G1	3
3	2S	F7	3
4	2N	16住	
5	1S	H2	4
6	2N	C9	2
7	1S	H2	4下
8	1S	H2	5
9	1S	E2	3
10	2N	C10	2
11	1S	E2	4
12	1N	B3	3
13	2S	D5	3
14	2N	B6	3
15	1S	J2 2	4
16	1S	J2	5
17	2N	B5	2
18	1S	J2	5
19	1S	I2	5
20	1S	J2	5
21	1S	I2	5
22	2S	D5	2
23	1S	J2	
24	1N	B3	3

第97図

1	1N	B3	3
2	2N	C5	2
3	1N	B3	2上
4	1S	H2 G3	4
5	1S	I2	4
6	1S	J2	5
7	2N	16住	
8	1S	E3	4下
9	1S	H2	5下
10	1S	F3 G2	4
11	1S	H2	4・4下
12	1N	C3	3
13	2S	E6	2下
14	1S	H2	4
15	1S	H2	4下
16	1S	J2	5
17	2N	C9	2下
18	1S	J2	3
19	1S	I2	4下
20	1S	H2	3
21	1S	E3	3

第98図

1	1S	J2	5
2	2N	16住	
3	2S	D5	3
4	1S	J2 I2 K2	4 5上 5
5	1S	K2	4
6	1S	I2	5
7	1N	C3	3
8	1N	B4	3上
9	1N	C3	2下
10	1S	H2	4
11	1S	I2	5
12	1N	B3	3
13	1N	B2	4
14	1S	K2	5
15	1S	F2	5
16	1S	J2	5
17	1S	E3	4下
18	1S	E4	3
19	1S	F2	3
20	1N	C2	3
21	1S	J2	3

第99図

1	1S	G2	4
2	1N	C3	3
3	1N	B3	3
4	2N	C6	2
5	1S	H2	
6	1N	B3	2下・3
7	2N	B・C	2下
8	2N	B6	3
9	1S	I2	5
10	1S	H2	4上
11	2N	C5	2下
12	1S	J2	4
13	1S	I2	4
14	1S	H	
15	1S	K2	4
16	1S	H2	4上
17	1S	I2	5

第100図

1	1S	J2	5
2	1S	G2	3

第100図

3	1S	I2	5上
4	2N	16住	
5	1N	B3	3
6	1S	H3	3
7	1S	H2	5上
8	1N	B4 B3	3上 3
9	1S	I2	5
10	1S	E4	3上
11	1S	I2	4中下
12	2S	F6	2
13	1S	H2	4
14	1N	B3	3

第101図

1	1S	H2	5
2	2S	E8	2下
3	1S	I2	5
4	1S	E2	3
5	2N	C6	3
6	1N	B3	2下
7	1S	不明	5
8	1S	I2	4
9	2N	C6	2下
10	1N	B3	3
11	1N	B3	3
12	1S	I2	5
13	1S	G2	4下
14	不明		
15	2N	B6	2

第102図

1	1S	H2	4下
2	1S	E3	3
3	1S	I2	5
4	1S	G1	3
5	1S	K2	
6	1S	E2	4
7	1N	河	
8	1S	H2	4
9	1S	E2	3
10	1N	B3	3
11	1S	K2	4
12	1N	C1	3
13	1N	B3	2
14	1S	G1	3
15	1S	I2	4下
16	1S	K2	4上
17	2S	F11	2
18	1S	J2	4
19	1N	C3	3
20	1S	E2	3
21	1S	E4	3上
22	2N	B6	2下
23	1N	B3	2
24	1N	B3	2下
25	1S	不明	3
26	2S	D7	2

第103図

1	2N	B5	2下
2	1S	E3	3
3	1S	H2·3	3
4	1S	M2	4
5	1S	F2	3
6	1N	河	
7	1S	I2	4中下
8	1S	E4	2上
9	1S	I2	4
10	1S	J2	5
11	1S	K2	
12	1S	I2	3
13	1S	G2	5下

第103図

14	1S	I2	5
15	2N	C6 B4	2 2下
16	2N	B5	2下
17	1S	F2	3
18	2S	D5	3
19	1S	I2	5
20	1S	G3	4
21	1S	F3	4
22	1N	C1	2
23	1N	A3	2下
24	1S	F2	4下
25	2S	F8	2
26	2S	E8	2
27	1S	I2	3
28	1S	I2	4
29	1S	J2	4

第104図

1	1N	B3	
2	1S	I2	5
3	1S	E4	3上
4	1S	F1	3
5	1S	I2	4
6	1N	C2	2上
7	1N	C2	2上
8	2N	C6	2下
9	2N	B6	2
10	1N	C2	2下
11	2N	C6	2下
12	1S	G2	3
13	1N	B3	2下
14	1N	不明	3
15	1S	I2	4
16	1N	河	
17	1S	I2·3	4
18	1N	B3	3
19	1S	I2·3	4
20	1S	E2	3
21	1S	F3	3上
22	1S	I2·3	3
23	1S	H2	3
24	1N	C2	2下
25	1S	I3	3
26	1S	E3	3
27	1S	K2	2
28	1N	B3	3
29	1N	C2	2下
30	2N	C5	2
31	1S	J2	3
32	2S	不明	
33	1S	K2	2
34	1S	H2	2下
35	1S	K2	2
36	1S	I2	4

第105図

1	1S	J2	4
2	1S	I2·3	
3	1N	C3	2上
4	1S	J2	3
5	1S	K2	3下
6	1N	C4	3
7	2S	D6	3
8	1S	F2·3	3
9	1S	不明	
10	1S	K2	3下
11	1N	C2	2
12	2S	F10	2下
13	1S	E2	3
14	1S	E3	3
15	1S	E4	3上
16	1S	G3	3

第105図

17	1S	I2	4
18	1S	L2	3
19	1S	L2	3
20	1S	F3	3
21	1S	G2	3
22	1S	E2	2
23	1S	G3	4
24	1S	H2	3
25	1S	不明	5
26	1S	I2·3	4
27	1S	L2	4

第106図

1	1S	I3	5
2	1S	I2	2下

第107図

1	1S	H2	3
2	1N	C3	3
3	1N	河	
4	1S	I2	3
5	1S	I2	5上
6	1S	I2	5上
7	2N	B11	2下
8	2S	E7	2下
9	1S	K2	4
10	2S	D6	2下
11	1S	E3	3
12	1N	河	
13	1S	H2	3
14	2N	16住	
15	1N	B3	2下
16	1S	E2	4
17	1S	E3	3
18	1N	C1	2下
19	1S	K2	2
20	1S	H2	3
21	2N	C6	2下
22	1N	河	
23	1S	K2	4
24	1S	H2	5上
25	2N	C5	
26	1S	J2	5
27	2N	16住	
28	1S	H3	3
29	1S	H2	4

第108図

1	2N	B5	2
2	1S	H2	4
3	1S	H1	4
4	1S	G2	3
5	2N	C5	2下
6	1S	I2	2下
7	1S	H1·2	4
8	1S	I2	4
9	1S	F3	4
10	2S	E6	2下
11	1S	H2	4
12	1N	C2	3
13	1S	J2	3
14	1S	H2	4
15	1S	I2	4
16	1N	C2·3	3
17	1S	H2	3
18	1S	E2	3

第109図

1	1S	I1·2	5·3
2	1S	E1	3上
3	1S	J2	3
4	1S	H3	4下
5	1S	E2	2
6	1S	H3	2
7	1S	H2	3

第109図

8	1N	C2	2上
9	1N	C2	2
10	1S	H2	3
11	2S	F6	3
12	1S	I2	3
13	1S	P2·3	2
14	1S	G2	2
15	1S	I2	3
16	1N	B3	2上
17	1N	C3	3上
18	1S	E2	3
19	1S	H2	5
20	1S	M2	4
21	1S	I2	3下
22	1S	E3	2上
23	1S	E2	4
24	1S	I2	5上
25	1S	E3	2上
26	1S	H2	4
27	1S	L2	3
28	1S	F3	2下
29	2S	E12	2
30	1S	L2	4
31	1S	M3	3
32	2S	E7	2下
33	1N	河	
34	1S	I2	4
35	2S	E5	2

第110図

1	2S	E7	2
2	1S	J2	4
3	1S	I2	3
4	1S	K2	4

第111図

1	1S	I2	4
2	2S	不明	2上
3	1S	K2	
4	1S	F2	3
5	1S	I2	4
6	1S	G1	4
7	1S	F3	2
8	2S	不明	
9	1S	H2	3
10	2S	F8	2下
11	1S	B1	
12	1S	J2	4
13	1S	I2	3下
14	1S	K2	3
15	1S	J1	3
16	1S	K2	
17	2S	E9	2下

第112図

1	1S	J2	3
2	1S	J2	3
3	1S	K2	4
4	1S	F3	3
5	1S	I2	4
6	1S	I2	4
7	1S	I2	3
8	1S	I2	3
9	1S	J2	4
10	1S	I2	2下
11	1S	H2	3
12	1S	H2	4
13	1S	I2	4
14	1S	H3	2下

第113図

1	1S	K2	4
2	1S	H2	2下
3	1S	I2	4
4	1S	J2	4

第113図

5	1S	H2	3
6	1N	C2	2
7	1S	J2	4上
8	1S	K2	3·4
9	1S	H2	3

第114図

1	1S	J2	4上
2	1S	E2	4
3	1S	J2	3
4	1S	I2	3
5	1S	H2	3
6	1S	I2	3
7	1S	H2	3
8	1S	K2	4
9	1S	F3	2下
10	1S	H2	4
11	1S	M2	4

第115図

1	1S	K2	4
2	1S	I2	3
3	1S	F3	3上
4	1S	J2	4
5	1S	H2	2下
6	1S	I2	3
7	1S	I2	4
8	1S	S2·3	2
9	1N	C1	
10	1S	J2	4
11	1S	J2	3下

第116図

1	1S	E3	2上
2	1S	J2	2下
3	1S	I2	4
4	1S	K2	3下
5	1S	H3	4下
6	1S	H2	3
7	1S	H2	2下
8	1S	H2	2下
9	1S	F3	2
10	1S	L2	4
11	1S	H2	4
12	1S	I2	2下
13	1S	M2	2
14	1S	H2	3
15	2N	C9	
16	2N	C5	2下
17	1S	J2	5
18	1N	不明	2
19	1S	J2	4下
20	2N	B9	2
21	1S	E2	2
22	1S	K2	4

第117図

1	1S	K2	3
2	1S	E2	2
3	1S	K2	3下
4	1S	E3	3上
5	1S	K2	
6	1S	K2	4
7	1S	J2	4下
8	1S	I2	3下
9	1N	C2	2下
10	1S	J2	3
11	1S	I2	3
12	1S	I2	4
13	1S	H2	3
14	1S	K2	4下
15	1S	K2	4
16	1S	L1	3
17	1S	K2	3下
18	1S	J2	4下

第117図

19	1S	K2	
----	----	----	--

第118図

1	1S	H2	4上
2	1S	F2	3
3	1S	E3	3
4	1S	F4	4
5	1S	H3	4下
6	1S	不明	
7	1S	J2	4
8	1N	B5	2
9	1S	I2	4
10	2S	不明	
11	1S	J2	3
12	2S	F6	
13	1S	I1	4
14	1S	K2	2下
15	1S	H2	3
16	2S	E5	3
17	1S	J2	3
18	1S	G4	4下
19	1S	F3	2下
20	1S	E3	3
21	1S	E4	2
22	1S	F1	3
23	1S	F3	4下

第119図

1	1S	H2	3
2	1S	I2	4
3	1S	I2	4
4	1S	H2	3
5	1S	I2	3
6	1S	I2	2
7	1S	J2	4下
8	1S	H3	4下
9	1S	I2	2
10	1S	K2	3~4
11	2S	不明	
12	1S	F2	3
13	1S	J2	3
14	1S	L2	3
15	1S	J2	2
16	1S	H2	2下
17	1S	I2	3
18	1S	不明	2
19	1S	K2	3
20	1S	H2	2
21	1S	I2	3
22	1S	H2	4
23	1S	G2	2下
24	1S	I2	3
25	1S	I2	4

第120図

1	1S	I2	2
2	1S	J2	2
3	1S	K2	4
4	1S	H2	3
5	1S	J2	4
6	1S	H2	4
7	1S	I2	3
8	1S	K2	4
9	1S	K2	4
10	1S	H3	2下
11	2S	F8	2下
12	2S	F8	2下
13	2S	D5	3
14	1S	J2	5
15	2S	F8	2
16	1S	K2	2下
17	1S	F2	3
18	1S	I2	4

第120図

19	1S	I2	4
20	1S	E2	3
21	2S	F6	3
22	1S	G3	4
23	1S	L2	4
24	1S	E3	3

第121図

1	1S	K2	4下
2	1S	I2	3
3	1S	J2	3下
4	1S	I2	3
5	1S	H2	3
6	1S	I3	4
7	1S	K2	3下
8	1S	L2	3
9	2S	F5	4H
10	1S	K2	
11	2N	B6	3
12	1S	F2	3
13	1S	J2	3下
14	1S	H2	4
15	1S	F3	3
16	2N	C9	
17	1S	不明	2上
18	1S	H2	3
19	1N	B2	3

第122図

1	1S	H2	3
2	1S	F3	3
3	2N	C7	2
4	1S	F3	4下
5	1S	H1	4
6	2N	C5	2下
7	1S	H2	3
8	1S	E2	3上
9	1S	H2	2
10	1S	J2	3
11	1S	I2	3
12	1S	L2	2
13	1S	J2	3
14	2N	C5	3
15	2N	B5	2
16	1S	J2	4
17	1S	K2	4上
18	1S	I2	3
19	1S	K2	4下
20	1S	H2	2下

第123図

1	1S	I2	
2	1S	I2	3下
3	1S	I2	3下
4	1S	K2	4下
5	1S	E2	3
6	1S	F2	3
7	1S	I2	4
8	2S	E6	2下
9	1S	K2	2
10	1S	H2	4
11	1S	J2	4
12	2S	E7	3
13	1S	I2	4
14	1S	J2	3下
15	1S	K2	4下
16	1S	I2	2
17	1S	E3	2

第124図

1	1S	I2	3
2	1S	J2	4下
3	1S	I2	3
4	2A	I10	3
5	1S	H2	3

第124図

6	1S	J2	4
7	1N	河	
8	1S	I2	4
9	1S	G3	2上
10	1S	H2	4下
11	1S	I2	4
12	1S	I2	4

第125図

1	1S	J2	4上
2	1S	K2	4
3	1S	L2	3
4	1S	E2	2
5	1S	J2	4
6	1S	J3	3

第126図

1	1S	J2	4上
2	1S	K2	4
3	1S	J2	4

第127図

1	1S	J2	3
2	1S	I2	2
3	1S	H2	2
4	1S	J2	
5	1N	C2	3上
6	1S	K2	3下
7	1S	I2	5上
8	1S	不明	2上
9	1S	I2	3
10	1S	K2	4
11	1S	I2	3
12	1S	E1	2
13	1S	K2	3
14	1S	J2	4
15	1S	F3	2
16	1S	J2	3
17	1S	E2	2
18	1S	J2	3
19	1S	H2	2下
20	1S	J2	3
21	1S	I2	
22	1S	J2	4
23	1S	H2	2下
24	1S	K2	3

第128図

1	1S	H2	3
2	2N	D7	2・3
3	1S	K2	4
4	1S	K2	2
5	1S	F4	4
6	1S	H3	2下
7	1S	I2	3
8	1S	I2	3
9	1S	K2	3
10	1S	L2	3
11	1S	J2	4
12	1S	I2	3下
13	1S	K2	4
14	1N	河	
15	1N	B3	2下
16	1S	J2	2・3
17	1S	H2	2
18	1S	I2	2下
19	1S	H2	3
20	1S	I2	4
21	1N	B3	2下
22	1S	H2	3
23	1S	K2	4
24	1N	河	
25	1S	K2	3
26	1S	J2	

第128図

27	1S	J2	3
----	----	----	---

第129図

1	1S	I2	3
2	1S	F3	3
3	1N	C2	2下
4	1S	J2	4
5	1S	K2	3
6	1S	J2	4
7	1S	I2	3
8	1S	G2	3
9	1N	河	
10	1S	K2	2下
11	1S	F1	3
12	1S	K2	2
13	1S	H2	3
14	1S	I2	3
15	1N	河	
16	1S	I2	3
17	2N	D5	2・3
18	1S	H2	2
19	2S	F9	2下
20	1S	J2	4上

第130図

1	1S	H2	4
2	1N	河	
3	1S	J2	4
4	1S	H2	2
5	1S	H2	4
6	2S	18住	
7	1S	K2	2下
8	1S	J2	4
9	1S	G3	2上
10	1S	I2	3
11	1S	I2	3
12	1S	K2	2
13	1N	河	
14	2A	P10	2
15	1S	H2	4

第131図

1	1S	K2	4
2	1S	L2	4
3	1S	J2	3
4	1S	H2	2
5	1S	I3	3
6	1S	E3	
7	1S	K2	4
8	1S	K2	3
9	1S	J2	4
10	1S	N2	4
11	1S	L2	4
12	1S	K2	
13	1S	H2	2下
14	1S	K2	4

第132図

1	1S	J2	3
2	1S	J2	4
3	1S	G2	2下
4	1S	M2	4
5	1N	A2	2下
6	1N	河	
7	1S	J2	
8	2S	D5	3
9	1S	I2	2下
10	1S	J2	3
11	1S	I2	4
12	1S	I2・3	
13	1S	I2	3
14	1S	H2	4
15	1S	G3	4
16	2S	D5	2
17	1N	河	

第133図

1	1S	J2	3下
2	1S	J2	2下
3	1S	F2	3
4	1S	K2	3
5	1N	C2	2上
6	1S	K2	3下
7	1S	J2	3
8	1S	J2	4
9	1S	I2	4
10	1S	J2	3

第134図

1	1S	J2	
2	1S	I2・3	
3	2S	E6	3上
4	1S	J2	4上
5	1S	I2	3
6	1S	J2	3
7	1S	L2	
8	1S	K2	2
9	1N	河	
10	1S	G3	4
11	1S	I2	4下
12	1S	K2	4下

第135図

1	1S	K2	2
2	1S	H2	2下
3	1S	K2	3
4	1S	不明	
5	1S	R2	2下
6	1S	L2	3
7	1S	I2	4
8	1S	不明	
9	1S	K2	3
10	1S	K2	4
11	1S	I	
12	1S	K2	2
13	1S	J2	4
14	1S	J2	4上

第136図

1	2S	F6	3
2	1S	J2	4
3	1S	H2	2下
4	1S	J2	3
5	2A	R10	2
6	1S	K2	3
7	1N	河	
8	1S	I2	4
9	1S	I2・3	
10	1S	H2	2
11	1S	I2	3

第137図

1	1S	I2	3
2	1S	H2	2下
3	1S	I2・3	2~3
4	1S	H3	2
5	1S	K2	4
6	1S	F2	3
7	1S	I2	4
8	2A	G10	3
9	1S	H2	2下
10	1S	K2	2
11	1S	L2	4
12	2S	不明	3
13	1S	K2	3
14	1S	H2	2下
15	1S	J2	3
16	1S	K2	3
17	1S	I2	3
18	1S	I2	3
19	1S	H2	2下

第138図

1	1S	J2	3下
2	1S	M2	3
3	1S	H3	2下
4	2N	16住	
5	1S	O2	4
6	1S	K2	3下
7	1S	J2	2下
8	1S	I2	3
9	1S	K2	4下
10	1S	I2	3
11	1S	K2	3
12	1S	J2	4上
13	1S	J2	4
14	1S	I2	3
15	1S	I2	2下・3
16	1S	H2	3
17	1S	I2	3

第139図

1	1S	H2	2下
2	1S	I2	3
3	1S	I2	3
4	2S	D9	3
5	2N	C5	2下
6	1S	I2	4
7	1S	J2	3
8	1S	E3	2上
9	1S	K2	3
10	2S	E7	2下
11	2S	F6	3
12	1S	F3	3
13	1S	E2	3
14	1S	F2	3
15	1N	河	
16	1S	E1	3
17	1S	E2	3
18	1S	E2	2
19	1S	G3	4下
20	1S	F3	3・4
21	2N	C6	2
22	1S	不明	2
23	1S	I2	3
24	1N	河	
25	1S	K2	3
26	1S	F3	3
27	1S	H4	4下
28	1S	G3・4	3
29	1S	不明	3

第140図

1	1S	H2	2
2	1S	E2	2上
3	1N	B2	2下
4	1N	B2	2下
5	2A	N10	2
6	2N	B5	2
7	1S	G1	4下
8	2S	F6	3
9	1S	K2	4
10	2S	F9	2
11	1S	H2	3
12	1S	K2	2
13	1N	B3	3
14	1N	河	
15	1S	G2	2下
16	1S	J2	4
17	1S	J2	2下

第141図

1	1N	河	
2	2S	E6	3
3	1N	河	
4	2S	D9	3

第141図

5	1S	H2	2下
6	1S	E1	3
7	1S	K2	2
8	1S	N2	4
9	1N	不明	2
10	2S	E8	2下
11	1S	E2	2
12	1S	K2	2
13	2S	E9	2下
14	2S	E11	3
15	1N	D2	2下
16	1N	C2	2下
17	1N	河	
18	2S	F9	2下
19	1S	L2	3
20	1S	J2	3下
21	2S	不明	4下
22	2S	18住	
23	2S	E5	3
24	2S	不明	
25	1S	J2	4
26	1S	J2	3
27	1S	E2	2
28	1S	E3	3上
29	1S	F2	3

第142図

1	1S	J2	
2	1S	H2	3
3	1S	F3	3
4	1S	J2	3
5	1S	I2	
6	1S	K2	3下
7	1S	H2	2下
8	1S	H2・3	
9	1S	K2	2下
10	1S	H2	
11	1S	L2	4
12	1S	K2	3下
13	1S	不明	
14	1S	H2	2下
15	1S	N2	2
16	1S	F1	3
17	1S	K2	3
18	2S	18住	
19	1S	F1	2
20	1S	H2	2
21	1S	K2	4
22	1N	C2	3
23	2N	B5	2
24	1S	K2	3
25	1S	F1	2
26	1S	H3	2
27	1S	I3	4
28	2N	C5	
29	2S	E5	2

第143図

1	1S	I2・3	2~3
2	2A	Q10	2
3	1S	E2	3
4	1N	C3	2上
5	1S	J2	4
6	1S	J2	3
7	1S	J2	3
8	1S	E3	2下
9	1S	J2	4
10	2N	B6	2
11	1S	K2	3下
12	1S	K2	3
13	2A	P10	2下
14	1S	F2	4下
15	1S	不明	2上

第143図

16	1N	不明	
17	1S	I2	2下
18	1S	L2	4
19	1S	H2	3
20	1S	K2	4下
21	1S	I2	2
22	1S	K2	2
23	1S	E3	2
24	1S	G2	2下
25	1S	K2	2
26	1S	I2	3
27	2S	18住	
28	1S	H2	3
29	1N	B2	3

第144図

1	1S	L2	3
2	1S	J2	4
3	1S	H2	3
4	1S	J2	3
5	2S	不明	
6	1S	O2	2
7	2S	E7	3
8	1S	K2	4
9	2N	C5	
10	2N	B5	2
11	1S	I2	3
12	1S	E3	ビット
13	1S	E2	3
14	2S	E6	3
15	2S	F9	2下
16	1S	J2	3
17	1N	河	
18	1S	K2	
19	1N	B2	
20	1S	I2	3
21	2S	D8	3

第145図

1	1S	J2	4
2	1S	H2	5下
3	2N	D5	2・3
4	1S	J2	2下
5	2N	C9	2
6	1S	J2	3
7	1S	N2	3
8	1S	E1	3・3上
9	1S	L2	3
10	1N	河	
11	1S	N2	2
12	1N	河	
13	1S	H2	2下
14	1S	I2	3
15	1S	H2	2下

第146図

1	1S	I2	3
2	1S	K2	3
3	1N	河	
4	1S	I2	3
5	1S	J2	3
6	1S	K2	4
7	1S	K2	3
8	1S	H2	2下
9	1S	I2	3
10	1S	K2	2
11	1S	K2	2
12	1S	L2	3
13	1S	L2	4
14	1S	I2	3
15	1N	不明	2
16	1S	E3	2上
17	2N	B7	

第146図

18	1S	K2	2
19	1N	河	
20	1S	J2	3
21	1S	H3	2下
22	1S	K2	3

第147図

1	1S	K2	4
2	1S	K2	
3	1S	H2	3
4	1S	E3	2
5	1S	E4	3上
6	1S	K2	3下
7	1S	D2	4
8	1N	不明	2
9	1S	O3	2
10	1S	F3	2
11	1N	C3	3下
12	1S	J2	4
13	1S	J2	3下
14	1S	M2	2下
15	1S	E3	2
16	1S	F2	4

第148図

1	1S	J2	3
2	1S	K2	4
3	1S	J2	3
4	1S	K2	3下
5	1S	J2	3下
6	1S	J2	3下
7	2S	E5	2
8	1S	H2	2
9	1S	I2	2下
10	1S	G3	2
11	1S	J2	3
12	1N	河	
13	1S	不明	2

第149図

1	1S	K2	2
2	1S	E2	2
3	1S	E4	2
4	2N	B5	2下
5	1S	E4	2上
6	1S	E3	2上
7	1N	河	
8	1S	E3	2
9	1S	L2	3
10	1S	E3	2上
11	1S	I2	3
12	1S	J2	3
13	1S	L2	4
14	1S	E3	2

第150図

1	1S	L2	4
2	1S	H2	2
3	1S	K2	3
4	1S	F3	3
5	1S	K2	3
6	1S	J2	3
7	1S	J2	3
8	1S	J2	3
9	1S	E2	4
10	1S	L2	3
11	1S	J2	3
12	1N	C2	2下
13	1S	M2	2下
14	2S	18住	
15	1S	J2	2下
16	1N	B2	3下
17	1S	K2	3
18	1S	J2	3

第151図

1	1S	E3	2下
2	1S	L2	4
3	2S	18住	
4	2S	18住	
5	2S	E7	2上
6	1S	K2	4
7	2S	18住	
8	1S	J2	3
9	2S	E7	3
10	1N	河	
11	1S	M2	3
12	1S	J2	2
13	2S	D9	2下
14	2S	F7	3
15	1N	C3	2上
16	1S	C2	3
17	2S	F6	3
18	1N	A2	河下
19	1S	不明	3
20	1S	E2	2
21	3A	O17	2
22	3A	不明	

第152図

1	1S	F3	3
2	1S	F3	4
3	2S	F6	3
4	2N	C6	2
5	2S	E10	2下
6	3A	P14	2
7	2S	F5	2
8	2A	H10	2
9	2S	E7	2下
10	1N	B2	3
11	2S	D9	2下
12	2A	Q11	2下
13	2N	B6	2下
14	1S	E3	ビット
15	1S	K2	2下
16	2S	不明	
17	2S	E12	2・2下
18	2S	F12	2下
19	1N	河	
20	1S	J2	3
21	1S	K2	3
22	2S	E8	2下
23	2S	E11	2
24	2S	不明	

第153図

1	3A	P14	2・2下
2	3A	不明	
3	2S	E6	2下
4	2A	R10	2
5	1N	不明	2
6	2S	D11	2
7	1S	F3	4
8	2S	F9	2下
9	2S	E6	2
10	2S	18住	
11	1S	F2	4下
12	1N	河	
13	2S	E5	2
14	2A	G10	2
15	3A	P14	2
16	2S	不明	
17	3A	Q12	2
18	1S	J2	2下
19	2S	不明	

第153図

20	2S	E5	
21	1S	不明	
22	1S	J2	2下
23	2A	P11	2

第154図

1	2N	B6	2
2	2N	B5	2下
3	2N	B5	2
4	2N	B10	
5	2S	18住	
6	1S	N2	3
7	1S	L2	3
8	2S	不明	
9	2S	18住	
10	2S	不明	
11	2S	D8	2下
12	2N	C7	2下
13	1S	J2	4
14	1S	E2	3
15	1S	J2	2下
16	2N	C5	3
17	1N	C3	2上

第155図

1	1S	F	4
2	1N	B3	2上
3	1S	K2	2
4	2S	18住	
5	1S	K2	2
6	2S	F8	2下
7	1N	B3	2下
8	1N	B2	3
9	1S	G1	3
10	2S	F5 D3	2 2
11	1S	R2	2下
12	2A	S10	2
13	2A	H9	2
14	2A	Q11	2
15	2S	18住	
16	2S	F10	2下
17	3A	P13	
18	3A	Q14	2

第156図

1	2S	F6	2
2	1N	不明	2
3	2S	F8	2下
4	2S	E11	2
5	2N	C7	
6	1S	L2	2下
7	1S	E3	ピット
8	3A	P17	2
9	2S	F6	2
10	2S	E11	
11	2A	P10	2
12	1N	C2	2上
13	2S	E9 E10	2下 3
14	2A	S11	4
15	1S	K2	2
16	1S	E3	2
17	2N	C5	2下
18	2S	F8	2下
19	1N	不明	2
20	2N	B9	2
21	2N	B5	2
22	2S	E5	3
23	2S	E5	3
24	2N	B9	2
25	2N	C5	2
26	2A	J10	2
27	2S	F9	2下

第156図

28	2S	F5	3
29	1S	K2	2
30	1N	不明	
31	2S	K2	2下
32	2S	E6 E5	2下 3上
33	2S	18住	
34	2A	S10	
35	2A	X10	2

第157図

1	2A	R10 1S O2	2下 2
2	2A	P10	2
3	1S	E2	4
4	1S	E2	3
5	3A	P14	2
6	2N	C7	2下
7	2N	C7	2下
8	2S	不明	2
9	2S	G7 F7	2下 3
10	2A	G10	2
11	1N	不明	河
12	3A	P15	2
13	2A	P10	2
14	1S	O2	3
15	1S	H2	2下
16	2S	18住	
17	1N	B3	2上
18	1S	M2	4
19	1S	E2	3
20	1S	F2	3
21	2A	P11	2下

第158図

1	3A	P15	2
2	2N	C7	2下
3	2N	B11	2
4	1S	J2	2下
5	1S	E2	2
6	2S	不明	
7	2A	H10	2
8	2S	18住	
9	2S	E11	3
10	2S	18住	
11	1S	L2	4
12	2S	E7	2
13	2S	F6	2
14	1N	C3	2上
15	2N	B5	2

第159図

1	2S	E5	3
2	2A	P11	2
3	1S	E2	2
4	2S	E11 E10	2 2
5	1N	不明	2
6	1N	C3	2上
7	2S	E5	2
8	1S	I2 K2	3 4

第160図

1	1N	C3	2上
2	2N	B6	
3	1N	C2	
4	2S	C7	3
5	1N	B3	3
6	1N	C3	
7	1N	C3	3
8	1S	J2	5下
9	1N	B3	3
10	1N	C3	3

第160図

11	1N	C3	3
12	2N	C5	3

第161図

1	1N	B3	3
2	1N	B3	3
3	1N	C3	2下
4	1N	B3	3
5	1N	C3	3
6	1N	A3	
7	1N	B3	3
8	1N	不明	3
9	2S	E3	3
10	1N	C2	3
11	1N	C3	3
12	1S	I2	4
13	1S	J2	5
14	1N	C3	2下
15	1N	C3	2上

第162図

1	1N	C3	
2	2S	D11	3
3	1S	K2	5
4	1S	L2	4
5	1N	C3	3
6	2S	E9	2
7	1S	I2	5
8	1S	I2	5
9	1S	K2	4
10	1S	J2	3下

第163図

1	1N	C3	3
2	1N	B3	3
3	1S	H2	4上
4	1S	不明	
5	1S	J2	3下
6	1S	K2	
7	1N	C3	2下
8	1S	J2	3下
9	1N	B3	2上
10	1S	I2	

第164図

1	1N	不明	2
2	1S	I2	
3	1S	J2	4
4	1S	J2	4
5	1S	K2	3
6	1S	J2	3
7	1S	不明	4
8	1S	H3	
9	1S	M2	2下
10	1S	H3	2下
11	1S	K2	4

第165図

1	1S	I2	3
2	1S	E3	2下
3	1S	F3	3
4	1S	K2	4
5	1S	J2	3
6	1S	I2	3
7	1S	K2	3
8	1S	J2	3
9	1S	F3	
10	1S	I3	3
11	1S	K3	3
12	1S	K2	2

第166図

1	2N	O3	3
2	1N	不明	2
3	1S	I2	2
4	1S	I	2~3
5	1S	不明	

第166図

6	1S	I2	4
7	1S	J2	4
8	1S	L2	3
9	1S	J2	4
10	1S	K2	4

第167図

1	1S	L2	3
2	1S	I2	3
3	1S	L2 J2	4
4	1S	K2	3
5	1S	H3	2下
6	1S	K2	
7	1S	K2	4
8	2S	E11	2下
9	1S	L2	3
10	1S	K2	4
11	1S	J2	4
12	1S	K2	3下
13	1N	C3	3
14	1S	不明	5
15	3A	O14	2下
16	3A	O14	2

第168図

1	2N	B5	2
2	1N	D3	3
3	1S	H2	4下
4	1S	I2	5
5	1N	A3	2下
6	2S	F12	2
7	2N	C6	2
8	1S	I2	4
9	1S	H2-3	4
10	1S	J2	3
11	1N	C3	2

第169図

1	1N	不明	
2	2N	C9	2
3	1S	I2	2下
4	1S	J2	2~3
5	1S	J2	4
6	1S	H2	
7	1N	C1	3
8	2N	B9	2
9	2S	E11	2下
10	1S	L2	3
11	1S	K2	4下

第170図

1	1S	J2	3
2	2S	不明	
3	1S	不明	4
4	1S	F3	4
5	1S	F1	3
6	1S	J2	3
7	1S	F3	3
8	2S	F5	4
9	1N	A1	
10	2N	C9	2

第171図

1	1S	H2	5
2	1S	J2	5
3	2N	B5	2下
4	2S	E5	3
5	2N	C7	2下
6	1S	H2	4
7	1S	L2	3

第172図

1	2S	E6	3
2	1S	L2	4
3	1S	J2	3
4	2S	E8	2下

第172図

5	2S	E11	
6	1S	H	2下
7	1S	J2	2下
8	1S	H2	2下
9	1S	J2	3
10	1S	M3	
11	1S	G3	4
12	1S	K2	3下
13	1S	J2	3
14	2S	E6	ピット
15	1S	K2	3下
16	2S	E6	
17	1S	K2	4
18	1S	H2	4
19	1S	J2	3
20	1S	L2	3
21	1S	J2	3

第190図

1	3A	P15	2
2	2A	P10	2
3	3A	P14	2
4	2A	P11	2
5	2A	R10	2
6	1N	河	
7	2A	P11	2
8	2A	S10	2
9	2A	P10	2
10	1S	J2	2下
11	3A	P16	2下
12	2A	P12	2
13	2S	F12	2
14	2A	P10	2
15	2A	S10 T10	2 2
16	1N	C2	2下
17	2A	K9	2
18	2S	D10	2
19	2S	F10	2
20	2S	D7	2
21	2A	P11	2
22	2S	F9	2下
23	2S	E6	2下
24	2A	S10	2
25	2A	V11	2

第191図

1	3A	P15	2
2	2A	X10	2
3	3A	P14	2
4	2A	S10	2
5	2A	S10	2
6	3A	P13	2
7	3A	P19	2
8	3A	P17	2
9	2S	E10	2
10	2S	18住	
11	2S	E11	2

石器・石製品一覧表

第173図

番号	器種	地区	グリッド	層位	長さmm	幅mm	厚さmm	重さg	石質
1	打製石斧	2S	F7	3	(167)	60	26	(307)	中粒砂岩 (中生代)
2	打製石斧	2A	L10	2	122	47	18	106	凝灰岩
3	打製石斧	2S	E5	2下	137	59	38	397	変質凝灰岩
4	打製石斧	1N	B2	2下	138	62	37	374	変朽安山岩
5	打製石斧	1S	L2	3	137	61	35	391	変質凝灰岩
6	打製石斧	1S	E3	2	122	70	28	311	火山レキ凝灰岩
7	打製石斧	2N	C8	2	120	67	31	367	変質凝灰岩
8	打製石斧	1S	I2~3	不明	116	53	21	190	細粒砂岩 (中生代)
9	打製石斧	不明			109	59	27	221	変質凝灰岩
10	打製石斧	1S	H2~3	不明	164	80	35	510	緑色凝灰岩
11	打製石斧	1S	G2~3	4	156	83	31	428	火山レキ凝灰岩
12	打製石斧	1S	J2	4	137	86	26	349	細粒砂岩 (中生代)
13	打製石斧	2N	C7	2下	123	70	25	126	変朽安山岩
14	打製石斧	2S	F11	2	96	45	19	98	変朽安山岩
15	打製石斧	1S	I2	3	150	73	36	412	火山レキ凝灰岩
16	打製石斧	2S	F6	2	141	73	36	426	変朽安山岩

第174図

番号	器種	地区	グリッド	層位	長さmm	幅mm	厚さmm	重さg	石質
1	打製石斧	2N	C6	2	163	63	32	348	変朽安山岩
2	打製石斧	2A	不明		(136)	71	20	(217)	緑色凝灰岩
3	打製石斧	2N	B7	2	152	91	29	422	火山礫凝灰岩
4	打製石斧	1S	H2~3	不明	111	56	15	109	火山礫凝灰岩
5	打製石斧	1S	G3	2	120	48	21	136	変朽安山岩
6	打製石斧	1S	M2	4	113	52	20	137	火山礫凝灰岩
7	打製石斧	1N	A2	河下	220	124	33	945	火山礫凝灰岩
8	打製石斧	2S	E9	2下	216	116	39	1,085	火山礫凝灰岩
9	打製石斧	2N	B5	2	162	92	34	519	火山礫凝灰岩
10	打製石斧	1S	J2	4下	187	98	34	(853)	岩
11	打製石斧	2N	B7	3	172	80	30	466	変朽安山岩
12	打製石斧	1S	R2	3	169	113	40	754	火山礫凝灰岩

第175図

番号	器種	地区	グリッド	層位	長さmm	幅mm	厚さmm	重さg	石質
1	打製石斧	2N	B10	2	118	78	28	277	緑色凝灰岩
2	打製石斧	1S	F3	2	176	107	33	726	変朽角閃石安山岩
3	打製石斧	1S	G3	2	139	82	18	236	角閃石安山岩
4	打製石斧	1N	C2	3	143	82	22	301	中粒砂岩 (中生代)
5	打製石斧	2S	E9	2下	221	103	29	632	中粒砂岩 (中生代)
6	打製石斧	2S	F9	2	152	98	25	348	石英安山岩
7	打製石斧	2S	F10	2下	162	81	35	390	火山礫凝灰岩
8	打製石斧	2N	C7	2下	127	76	27	147	火山礫凝灰岩
9	打製石斧	1N	C2	2	153	87	19	256	火山礫凝灰岩
10	打製石斧	1S	L2	4	136	73	25	394	火山礫凝灰岩
11	打製石斧	1S	J2	4	109	65	27	189	火山礫凝灰岩
12	打製石斧	2S	F5	2下	185	91	37	624	石英安山岩図

第176図

番号	器種	地区	グリッド	層位	長さmm	幅mm	厚さmm	重さg	石質
1	打製石斧	2S	E11	2下	(149)	101	29	439	緑色凝灰岩
2	打製石斧	1S	O2	4	(144)	(107)	22	344	火山礫凝灰岩
3	打製石斧	2N	C7	2	165	96	17	249	火山礫凝灰岩
4	打製石斧	不明			158	119	42	690	火山礫凝灰岩
5	打製石斧	2S	E8	2下	175	112	27	536	変朽安山岩
6	打製石斧	2A	R10	2	190	104	34	693	岩
7	打製石斧	不明			150	96	33	532	火山礫凝灰岩
8	打製石斧	1S	J2	3	121	87	23	217	火山礫凝灰岩
9	打製石斧	1S	E3	2	127	107	28	406	火山礫凝灰岩
10	打製石斧	2S	F10	2下	(118)	113	23	(356)	火山礫凝灰岩

第177図

番号	器種	地区	グリッド	層位	長さmm	幅mm	厚さmm	重さg	石質
1	磨製石斧	1N	A2	河中	118	48	33	(327)	緑色凝灰岩
2	磨製石斧	1975年調査			109	55.5	29.5	255	濃飛流紋岩類
3	磨製石斧	1S	N2	4	91	52	28	209	緑色凝灰岩

第177区

4	磨製石斧	2S	F10	2下	(89)	61	28	(258)	緑色凝灰岩
5	磨製石斧	3A	Q13	2	(76)	59	28	(193)	凝灰岩
6	磨製石斧	1S	不明	2上	(66)	59	(24)	(137)	濃飛流紋岩類
7	磨製石斧	2A	R11	2	(98)	47	29	(236)	濃飛流紋岩類
8	磨製石斧	2A	T10	2	75	42	23	95	凝灰質砂岩
9	磨製石斧	1S	I2	5	96	50	18	(132)	緑色凝灰岩
10	磨製石斧	1N	B2	ピット	92	55	23	(187)	珪質岩
11	磨製石斧	1S	I2	3	(94)	(53)	19	(127)	濃飛流紋岩類
12	磨製石斧	1S	E3	2	(91)	(55)	31	(228)	凝灰岩
13	磨製石斧	2N	B5	2	78	21	10	(27)	結晶片岩質
14	磨製石斧	2S	E7	2下	40	19	7	8.6	細粒砂岩 (古生代)
15	磨製石斧	1S	J2	3	(28)	(18)	(12)	(9.1)	輝緑凝灰岩
16	磨製石斧	1S	K2	2下	(36)	32	7	(12.4)	珪化白色凝灰岩
17	磨製石斧	1N	B2	ピット	42	32	10	21.8	黒色頁岩 (古生代)

第178区

番号	器種	地区	グリッド	層位	長さmm	幅mm	厚さmm	重さg	石質
1	敲石	1N	河		127	102	49	880	粗粒砂岩 (中生代)
2	敲石	2N	B5	3	108	99	57	864	中粒砂岩 (中生代)
3	敲石	1S	M2	2	100	83	50	413	軟石凝灰岩
4	敲石	1N	C3	2	102	79	64	568	緑色凝灰岩
5	敲石	1S	G2	3	101	83	60	695	粗粒砂岩 (中生代)
6	敲石	1S	G2	5	91	69	41	345	中粒砂岩 (中生代)
7	敲石	1S	E3	4上	86	76	39	346	粗粒砂岩 (中生代)
8	敲石	3A	P14	2	170	113	39	1059	変朽安山岩
9	敲石	1S	F2	2上	(121)	109	42	(706)	緑色凝灰岩
10	敲石	2S	F5	2下	190	76	37	806	緑色凝灰岩
11	敲石	2S	E5	2	154	67	55	789	緑色凝灰岩
12	敲石	2S	E5	3	118	74	46	406	軽石凝灰岩
13	敲石	2S	E10	2下	118	78	53	685	中粒砂岩 (中生代)
14	敲石	1S	J2	3	105	59	49	444	中粒砂岩 (中生代)
15	敲石	2N	B5	2下	(106)	61	26	(253)	中粒砂岩 (中生代)
16	敲石	1N	B3	2下	86	61	53	373	粗粒砂岩 (中生代)
17	敲石	2S	F10	2下	172	58	40	555	細粒砂岩 (中生代)

第179区

番号	器種	地区	グリッド	層位	長さmm	幅mm	厚さmm	重さg	石質
1	敲石	2A	J10	3	99	93	62	779	白色凝灰岩
2	敲石	1S	F4	2	71	74	50	370	粗粒砂岩 (中生代)
3	磨石	2A	O11	2下	111	105	51	830	粗粒砂岩 (中生代)
4	磨石	2S	E10	2下	111	100	42	685	粗粒砂岩 (中生代)
5	磨石	2S	E6	2下	110	109	58	1010	粗粒砂岩 (中生代)
6	磨石	2S	E5	2	105	91	51	736	粗粒砂岩 (中生代)
7	磨石	2A	G10	2	105	94	36	545	粗粒砂岩 (中生代)
8	磨石	1S	G3	2下	89	81	33	349	中粒砂岩 (中生代)
9	磨石	2N	C9	2	87	89	45	518	角閃石安山岩
10	磨石	2S	18号住		86	73	25	225	細粒砂岩 (中生代)
11	磨石	1S	L2	2	82	83	44	424	中粒砂岩 (中生代)
12	磨石	2S	E12	2	73	73	32	242	中粒砂岩 (中生代)
13	磨石	2S	E6	2下	120	102	40	719	中粒砂岩 (中生代)
14	磨石	2N	C7	3	123	96	39	616	中粒砂岩 (中生代)
15	磨石	2S	E9	2下	127	90	36	628	粗粒砂岩 (中生代)
16	磨石	2N	B8	2	130	96	41	763	粗粒砂岩 (中生代)

第180区

番号	器種	地区	グリッド	層位	長さmm	幅mm	厚さmm	重さg	石質
1	磨石	1S	P2	4	134	90	60	1063	中粒砂岩 (中生代)
2	磨石	2N	B5	2	104	87	56	704	粗粒砂岩 (中生代)
3	磨石	2A	Q11	2	85	62	31	225	細粒砂岩 (中生代)
4	石皿	1S	I2	5上	135	181	21	(690)	中粒砂岩 (中生代)
5	石皿	1S	H2	2	211	169	67.5	(2700)	凝灰岩
6	石皿	1S	H2	2下	179	143	28	1090	粗粒砂岩 (中生代)
7	石皿	1S	F2	2	174	208	59	(2450)	玢岩
8	石皿	2N	C7	2	198	221	76	(4200)	凝灰岩

第181区

番号	器種	地区	グリッド	層位	長さmm	幅mm	厚さmm	重さg	石質
1	砥石	1N	B4	2	212	164	48	2225	中粒砂岩 (中生代)

第181図

2	砥石	2A	P10	2	181	155	48	1610	中粒砂岩 (中生代)
3	砥石	2N	H3	3下	161	(133)	38	(835)	粗粒砂岩 (中生代)

第182図

番号	器種	地区	グリッド	層位	長さmm	幅mm	厚さmm	重さg	石質
1	砥石	1S	K2	3下	329	52	178	3690	粘板岩質砂岩(中生代)
2	砥石	1S	H3	4上	200	94	55	(1422)	粘板岩質砂岩(中生代)
3	砥石	1S	F3	3	(145)	78	55	(926)	中粒砂岩 (中生代)
4	砥石	2S	18号住		153.5	89	25	426	中粒砂岩 (中生代)

第183図

番号	器種	地区	グリッド	層位	長さmm	幅mm	厚さmm	重さg	石質
1	砥石	1S	I3	3	112	(81)	24	(186)	中粒砂岩 (中生代)
2	砥石	1S	F2	3	(70)	(91)	(1.1)	(82)	中粒砂岩 (中生代)
3	砥石	2N	B5	2下	(82)	(70)	(8)	(65)	細粒砂岩 (中生代)
4	砥石	1N	A3	3	(81)	(67)	(7)	(42)	細粒砂岩 (中生代)
5	砥石	2S	E7	3	(46.5)	(38)	(45)	(14)	細粒砂岩 (中生代)
6	砥石	1S	F3	3	(60)	(41)	(70)	(24)	粗粒砂岩 (中生代)
7	石錘	1N	C2	2	71	89.5	57	469	粗粒砂岩 (中生代)
8	石錘	1N	C1	3	64	97	48	398	角閃石安山岩 (第四紀)
9	石錘	3A	Q16	2	66.5	80	54.5	383	粗粒砂岩 (中生代)
10	石錘	1S	J2	3	78	120	27	320	中粒砂岩 (中生代)
11	石錘	2S	18号住		52.5	110	19	162	細粒砂岩 (中生代)
12	石錘	1N	B3	2下	43	86	13.5	79	細粒砂岩 (中生代)
13	石錘	1S	E3	4上	102	71	28	314	中粒砂岩 (中生代)

第184図

番号	器種	地区	グリッド	層位	長さmm	幅mm	厚さmm	重さg	石質
1	石鏝	1S	F3	2	34.6	25.0	8.2	4.0	メノウ質・フリント
2	石鏝	2S	E6	2上	34.2	14.6	5.6	1.5	輝石安山岩
3	石鏝	1S	E3	2	31.9	15.7	5.9	1.7	輝石安山岩
4	石鏝	1S	I2	4	26.8	16.3	4.7	1.2	輝石安山岩
5	石鏝	1S	J2	3	22.0	16.2	3.2	0.6	メノウ
6	石鏝	1S	H3	3	19.4	15.6	5.2	0.8	フリント
7	石鏝	1S	J2	2下	32.3	20.7	5.5	3.3	輝石安山岩
8	石鏝	2S	F5	2	26.0	18.6	5.5	2.0	輝石安山岩
9	石鏝	1S	J2	3	24.9	15.1	3.3	0.9	フリント
10	石鏝	1S	G2	2	22.7	17.8	3.8	1.3	輝石安山岩
11	石鏝	2S	E7	2	22.0	17.7	3.8	0.7	輝石安山岩
12	石鏝	1S	E2	2	21.4	16.4	4.3	1.1	輝石安山岩
13	石鏝	1S	G2	2下	19.6	16.5	3.2	0.6	輝石安山岩
14	石鏝	2S	F5	2	36.9	14.0	3.3	1.6	輝石安山岩
15	石鏝	2S	F8	2下	34.8	15.5	5.3	2.6	輝石安山岩
16	石鏝	1S	E2	2上	34.2	12.0	3.5	1.2	珪化凝灰岩
17	石鏝	2S	F8	2	29.2	14.5	4.8	1.4	輝石安山岩
18	石鏝	3A	P16	2	28.1	10.3	3.8	1.1	輝石安山岩
19	石鏝	1S	K2	3	32.8	20.8	4.3	2.1	輝石安山岩
20	石鏝	2S	E6	4下	26.8	13.6	4.6	1.4	フリント
21	石鏝	1S	I2	4	26.3	16.3	3.3	1.2	輝石安山岩
22	石鏝	1S	F2	2	25.2	21.2	5.5	2.0	メノウ
23	石鏝	3A	P15	2	24.2	13.0	4.8	1.2	珪化凝灰岩
24	石鏝	1S	G2	2下	24.5	16.2	3.6	1.1	輝石安山岩
25	石鏝	1S	I2	4	23.8	16.2	3.6	0.9	輝石安山岩
26	石鏝	1S	E2	2下	23.3	18.9	4.2	1.5	輝石安山岩
27	石鏝	1N	C2	3	22.0	16.0	4.2	1.2	フリント
28	石鏝	2S	D11	2下	21.7	17.5	3.6	(0.8)	輝石安山岩
29	石鏝	2N	C7	3	21.7	15.3	4.8	1.2	フリント
30	石鏝	1S	G2	4	19.2	12.9	2.8	0.5	輝石安山岩
31	石鏝	1S	R2	2	18.9	14.7	2.8	0.6	輝石安山岩
32	石鏝	1S	D2	2	17.0	10.8	3.7	0.5	フリント
33	石鏝	2S	E7	2下	15.6	10.1	3.2	0.3	輝石安山岩
34	石鏝	2A	R10	2	28.7	18.9	3.9	2.4	フリント
35	石鏝	1S	F2	2	25.8	15.7	4.0	1.6	輝石安山岩
36	石鏝	3A	Q18	ピット	24.1	17.4	5.2	1.9	輝石安山岩
37	石鏝	1S	G2	2	23.0	16.8	5.2	1.3	フリント
38	石鏝	1S	G2	4	22.2	11.0	2.8	0.6	玉ずい
39	石鏝	1S	R2	2	21.5	17.6	3.8	1.0	輝石安山岩

第184図

40	石鏝	2S	F9	2	20.0	14.5	4.1	1.1	細粒砂岩
41	石鏝	1S	F2	2上	18.8	13.6	4.1	0.9	輝石安山岩
42	石鏝	2S	E7	2	17.9	15.2	3.4	0.9	輝石安山岩
43	石鏝	2S	F5	2	17.7	11.1	4.0	0.7	輝石安山岩

第185図

番号	器種	地区	グリッド	層位	長さmm	幅mm	厚さmm	重さg	石質
1	石鏝	1S	H2	3	27.5	25.4	7.7	3.4	フリント
2	石鏝	2S	E7	2下	(24.7)	23.5	6.1	(2.1)	メノウ
3	石鏝	1S	H3	3	18.5	17.5	4.2	0.8	フリント
4	石鏝	1S	G2	2	18.0	18.5	3.5	0.7	輝石安山岩
5	石鏝	1S	F3	2	19.3	19.3	4.3	1.2	輝石安山岩
6	石鏝	2S	E7	2	17.7	17.6	3.2	0.6	輝石安山岩
7	石鏝	2S	D9	2下	15.5	14.9	2.5	0.4	輝石安山岩
8	石鏝	1S	H3	2下	15.1	18.0	3.4	0.8	輝石安山岩
9	石鏝	1S	F2	3	31.8	24.7	12.2	7.8	輝石安山岩
10	石鏝	1S	F3	2	28.4	28.7	6.7	5.8	輝石安山岩
11	石鏝	2S	18号住		18.0	19.0	6.3	1.5	輝石安山岩
12	石鏝	2A	S10	2	37.4	18.2	4.1	1.6	輝石安山岩
13	石鏝	1S	F1	3	35.9	20.5	5.9	3.7	フリント
14	石鏝	2S	E6	3	33.5	18.1	5.6	(2.4)	輝石安山岩
15	石鏝	1S	F3	3	28.1	18.9	4.5	(1.4)	フリント
16	石鏝	2N	B8	3	27.3	18.4	4.6	1.8	輝石安山岩
17	石鏝	1S	G2	2下	26.9	17.5	4.7	(2.2)	フリント
18	石鏝	2S	E9	2	26.5	18.9	6.0	2.0	輝石安山岩
19	石鏝	1S	E2	2	23.5	13.0	3.3	1.2	輝石安山岩
20	石鏝	2S	E7	2下	20.3	12.3	4.4	0.8	フリント
21	石鏝	1S	F3	3	20.0	15.6	4.2	0.9	輝石安山岩
22	石鏝	1N	河		19.5	16.7	4.7	1.2	輝石安山岩
23	石鏝	2S	6号溝		17.0	15.5	4.0	0.8	輝石安山岩
24	石鏝	1S	F3	2・3下	25.2	15.7	3.8	1.3	輝石安山岩
25	石鏝	不明			18.9	11.0	3.2	0.5	含鉄フリント
26	石鏝	2S	E6	3	32.0	15.6	4.8	21	輝石安山岩
27	石鏝	1S	E3	2上	(28.9)	18.1	6.5	3.4	輝石安山岩
28	石鏝	2S	E7	2下	24.7	11.3	6.5	1.9	輝石安山岩
29	石鏝	1S	F3	2	33.7	15.0	4.5	1.5	フリント
30	石鏝	3A	P14	2	46.7	11.7	4.9	2.5	フリント
31	石鏝	2S	18号住		42.8	73.0	5.0	2.6	含鉄フリント
32	石錐	1S	F2	2	42.8	18.7	5.5	2.0	輝石安山岩
33	石錐	1S	F2	3	(32.3)	15.2	7.4	(2.3)	フリント
34	石錐	2A	S10	2	(32.8)	18.3	5.0	(2.0)	輝石安山岩
35	石錐	1S	H3	3	(23.7)	15.6	5.1	(1.3)	輝石安山岩
36	石錐	1S	H3	3	(15.4)	13.9	4.1	0.5	フリント
37	石錐	2S	F5	2	36.2	6.6	6.0	1.4	フリント
38	石錐	2S	E7	2下	44.0	8.7	6.5	2.2	フリント
39	石錐	2N	C8	2下	(19.4)	5.8	3.2	0.4	珪化凝灰岩

第186図

番号	器種	地区	グリッド	層位	長さmm	幅mm	厚さmm	重さg	石質
1	石錐	2A	P11	2	50.6	13.6	8.9	5.1	輝石安山岩
2	石錐	2S	F5	2	(31.8)	9.2	5.8	(1.6)	輝石安山岩
3	石錐	2N	D5	2下	(38.6)	11.7	8.6	(3.7)	輝石安山岩
4	石錐	2S	18号住		(37.8)	12.7	6.8	(2.3)	輝石安山岩
5	石錐	1S	E3	2	35.3	11.2	7.5	3.1	輝石安山岩
6	石錐	2N	C8	2	24.8	7.2	5.5	1.1	フリント
7	石錐	3A	P14	2	26.7	19.4	7.5	3.0	輝石安山岩
8	石錐	2S	E11	2下	28.2	13.4	7.4	2.5	輝石安山岩
9	石錐	2A	V10	2	26.7	12.8	7.2	1.9	輝石安山岩
10	石錐	1S	H2	3	35.8	13.2	8.3	3.6	輝石安山岩
11	石錐	2S	E5		38.9	11.3	9.9	4.2	フリント
12	石錐	3A	P16	2	(32.6)	(13.0)	6.6	(2.7)	輝石安山岩
13	石錐	2S	E6	ピット	30.2	12.0	7.2	2.0	輝石安山岩
14	石錐	2S	E5	ピット	27.6	11.5	8.9	2.7	輝石安山岩
15	石錐	1S	F2	3	20.3	8.8	5.2	0.9	輝石安山岩
16	石錐	1S	K2	2下	30.8	9.6	5.8	1.8	輝石安山岩
17	石錐	2A	P11	2	27.8	7.4	5.3	1.1	輝石安山岩

第186図

18	石錐	1S	F2	2	30.0	10.9	7.1	2.1	フリント
19	石錐	1S	H3	3	23.5	8.0	4.9	1.1	フリント
20	石錐	3A	P14	2	(29.6)	(1.0)	(6.8)	1.7	輝石安山岩
21	石匙	1S	G2	4下	25.3	34.2	6.5	4.7	輝石安山岩
22	石匙	1S	H2	2	13.2	31.4	6.5	2.8	輝石安山岩
23	石匙	1S	H2	4	35.2	12.5	8.0	3.5	フリント
24	勾玉	1S	J2	2	21.4	11.3	5.5	1.7	含硬玉珪質岩
25	勾玉	2S	G7	4下	12.5	8.5	4.0	0.7	含硬玉珪質岩
26	垂飾り	1S	H2	不明	23.0	9.0	5.5	2.0	ロウ石質岩
27	長玉	2N	C7	2	21.5	16.5	11.5	5.9	含硬玉珪質岩
28	長玉	2S	C8	2下	15.9	7.9	6.4	1.6	珪質岩
29	長玉	2S	E7	2	10.0	6.0	4.0	0.5	火山礫凝灰岩
30	丸玉	1S	I2	3	15.0	15.0	10.5	3.8	含硬玉珪質岩
31	丸玉	3A	O16	2	13.0	13.0	10.5	2.1	含硬玉珪質岩
32	丸玉	3A	O16	2	12.8	12.8	10.6	2.4	含硬玉珪質岩
33	丸玉	1S	H2	3	11.2	11.2	7.7	1.0	珪質岩
34	丸玉	1S	F2	3	10.2	9.8	7.3	0.9	粘板岩 (古生代)
35	白玉	1S	K2	3	9.5	10.0	4.5	0.7	含硬玉珪質岩
36	管玉	2S	E11	2	26.0	6.5	7.0	2.1	石灰質岩

第187図

番号	器種	地区	グリッド	層位	長さmm	幅mm	厚さmm	重さg	石質
1	石棒	1N	B2	2下	(158)	38	24	(202)	粘板岩
2	石棒	1S	I3	3	(150)	69	42	(367)	凝灰岩
3	石棒	1S	J2	3上	(64)	29	25.5	(72)	粘板岩
4	石棒	2A	Q11	2	78	31	26	38	緑色凝灰岩
5	石棒	1S	F2	3	(66)	(26)	(9.4)	(26)	粘板岩
6	石棒	2S	不明	2上	(63)	24	18	(46)	粘板岩
7	石棒	1S	I2	3	(65.5)	34	22.5	(74)	粘板岩
8	石棒	2N	B6	2下	(67.5)	30	19	(49)	片麻岩
9	石棒	1S	E3	3	(90)	(46)	(39.5)	(225)	粘板岩
10	石剣	1S	E3	2	(100)	(61)	(26.5)	(180)	凝灰岩
11	石剣	1S	E3	2	(114)	(49)	(24)	(155)	凝灰岩
12	石棒か	2S	F11	2下	(110.5)	(52)	(24.5)	(108)	凝灰岩
13	石刀	2N	B6	2	(115)	(50)	(35.5)	(206)	緑色凝灰岩
14	石刀	2N	C8	2	(108)	(40)	(16.5)	(72)	凝灰岩
15	石刀	2N	C11	2	(86.5)	(39.5)		(70)	緑色凝灰岩
16	石刀	1S	I2	3	(63)	(34.5)	(21.5)	(70)	凝灰岩
17	石刀	2N	C11	2	(55)	(28.5)	(11)	(22)	粘板岩

第188図

番号	器種	地区	グリッド	層位	長さmm	幅mm	厚さmm	重さg	石質
1	石刀	2S	E6	3	36	(92.5)	27.5	(118)	凝灰質砂岩
2	石刀	1N	C2	ピット	124	33	18.5	(95)	粘板岩
3	石刀	2S	E7	3下	(58)	(26.5)	(13.5)	(37)	粘板岩
4	石刀	2S	E8	2下	(121.5)	22	15	(62)	黒色頁岩 (古生代)
5	石冠	1N	B2	2下	(51)	(110)	38	(167)	白色凝灰岩
6	石冠	1N	C2	2下	85	(84)	55	(296)	粗粒砂岩 (中生代)
7	石冠	2A	L10	2下	64	(64)	(47)	(142)	緑色凝灰岩
8	石冠	2N	B8	2下	(42)	77	(52)	(160)	シルト岩
9	石冠	2S	不明	2上	63	(64)	(55)	(163)	凝灰岩
10	石冠	2N	B8	2	67	89	60	462	緑色凝灰岩
11	石冠	1S	K2	4	67	59	39	240	粗粒砂岩 (中生代)
12	石冠	2N	C8	2	54	(76.5)	36	(136)	細粒砂岩 (中生代)
13	石冠	1S	J2	3	55	(86.5)	34	(113)	白色凝灰岩

第189図

番号	器種	地区	グリッド	層位	長さmm	幅mm	厚さmm	重さg	石質
1	石冠	2S	F11	2	68	(114)	29	(178)	白色凝灰岩
2	石冠	2S	E9	2下	75	136	37.5	256	緑色凝灰岩
3	石冠	2S	F7	3	81.5	226	48	1115	緑色凝灰岩
4	その他	1S	M2	3	57	(152)	(28.5)	(461)	石英粗面岩
5	その他	1N	B3	2下	32	60	28.5	(64)	凝灰岩
6	その他	2N	E6	2	33	30	11	16	緑色凝灰岩
7	その他	2N	B8	2	35	(64)	34.5	(67)	粗粒砂岩 (中生代)

第3節 弥生時代以降の遺構と遺物

ここでは弥生時代以降について扱うが、記述は遺構を主体とし弥生時代後期及び古墳時代後期の遺物については観察表を参照ねがいたい。遺構や土器の所属時期は、各編年研究（久田1988、谷内尾1984、田嶋1986・1988、石川考古学研究会1986）を参考にして判断した。

1 弥生時代前期～中期初頭の土器

柴山出村式に比定されるもので第190～191図に掲載した。全点包含層から出土したものである。土器は大きく分けて2S区と2・3A区の接する付近、この二つの地点にまとまって分布する。また、縄文時代晩期後葉の土器群の分布と同様になることに注意したい。土器は胎土に1～1.5mmほどのやや大きな砂粒を多量に含むものや赤彩を施すものが多くみられる。190図1～18は壺と考えられるものである。1・2は口縁端部を肥厚させ凸帯状となる。指頭により凹線や押圧を施す。3は突起をもち矢羽状の沈線を施す。4～6は凸帯の肥厚が大きいものである。4は口径123mmを測り、4・5の凸帯は指頭によりナデられる。7～9は指頭による幅広い凹線を施し凹線間が凸帯状となる。7には柵圧痕がみられる。11～13は凸帯をもつ肩部の破片である。施文に貝殻を用いることから東海地方の影響が考えられる。14は口径182mmを測る遠賀川系の壺で、頸部の低い凸帯には二枚貝の腹縁による刻みを入れる。15～18は肩から胴にかけての破片である。15は櫛状具による沈線文が施され、16の施文具は半裁竹管と考えられる。17は工字状文風の文様である。18は対弧文と小さな円形刺突が施文される。19・20は肥厚する口縁部に文様を施すもので広口の壺であろう。21は甕の口縁部で口唇部に小さな刻みを入れる。22～24は口縁部が内傾する壺に近い器形であろう。25はごく浅い凹線が施される。以上が190図の土器であり、赤彩痕が内外面に残るものは2・4・7～9・12、外面に残るものは10・13・21～23・25である。191図1・2は筒状の口縁部に沈線を施すもので、外面は赤彩される。口径は1が83mm 2は72mmである。3は口径167mm底径80mm器高47mmの皿形の土器で全面が赤彩される。4～6は小型土器の底部である。赤彩は4の外面、5の外面と外底面、6は全面に施されている。7・8は横方向の条痕文を地文とし、指頭による波状文を口縁部に施す壺である。7は口径253mmを測り内外面に赤彩痕が残る。9～10は東海地方との関連が想定されるもので、条痕文が施される。9の外面に赤彩痕が残る。191図9～11は中期初頭、他は前期後半に位置づけられるものであろう。

2 弥生時代後期

18号住居（第192図・第195～197図）

2S区南西端部に位置し、約1/2を検出した。隅丸方形の平面形をもつ支柱4本の竪穴式住居と推察する。推定規模は一辺9mで面積は65～70㎡程の大型のものとなる。壁高はほぼ20cm、幅30cm前後で深さ7～10cmの壁溝を廻らす。段構造の柱穴P1は楕円形で大きさ85×70cm、深さ32cmと40cmを測る。支柱穴のP1・P2間は4.3mである。床面の中央部は極めて堅緻である。床面からは2・5・8・12・17・24・25・40が出土している。弥生時代後期月影Ⅱ式の所産である。

土坑（P73・86・89～91・108）・ピット（P110）（第193図）

P73は1N区C3グリッドに位置し、楕円形を呈す。規模は140×115cm、深さ26cmを測る。月影Ⅱ式土器出土（第198図1～10）。

P86は1S区H3グリッドに位置し、楕円形を呈する。1/3ほどの検出のため規模等は不明。月影Ⅱ式土器出土（第202図1・2）。

P89は2N区C11グリッドに位置し、楕円形を呈す。規模は175×103cm、深さ20cmを測る。月影Ⅱ式土器出土（第202図3）。

P90は2N区C11グリッドに位置し、楕円形を呈する。規模は87×67cm、深さ17cmを測る。月影Ⅱ式土器の細片がみられた。P91は2N区C11グリッドに位置し、楕円形を呈す。規模は125×92cm、深さ36cmを測る。月影Ⅱ式土器出土（第202図4～7）。

P108は2A区O11グリッドに位置し、楕円形を呈する。規模は190×150cm、深さ25cmを測る。月影Ⅱ式土器が出土し、土坑内には自然礫が多数みられた（第202図8～12）。

P110は3A区P15グリッドに位置する土器埋納ピットである。径40cmの円形を呈し、深さは52cmである。埋納された甕（第205図16）はピットの底から28cm浮く状態であった。

河道跡（第43図・第199～201図）

1N区北西端、A1・2、B1・2グリッドで落ち込み部を確認している。第3章で述べた西河道跡の上流部分にあたり、検出地点は西から北へと流れを変える蛇行部の端部にあたるものであろう。河床は田面より190cmの深さを測り、遺構検出面とのレベル差は80cmあった。第199～201図1～45に示す出土土器は、河床及びこれより浮き出土している。ほぼ月影Ⅱ式土器であるが、13・37は古墳時代後期の甕とみられる。西側の土層観察では、弥生後期以降の土器包含層である黒褐色粘質土層が縄文期の包含層である灰褐色粘質土層を切りながら河床へ至っていた。

7号溝（第193図・第204図11～15）

3A区P13グリッドで検出した。深さは15cmを測るが、幅は50～120cmと変化する。月影Ⅱ式土器出土。

8号溝（第56・57図・第203図8・9）

3A区Q17グリッドからO15グリッドへ向かう溝である。幅は50～100cm、深さは30～40cmである。月影式土器出土。

9号溝（第57図・第203図10）

3A区P18グリッドで検出した。遺存は悪いが弧状に曲がる溝を確認した。幅40cm深さは3cmほどである。溝としたが、曲がる形状と東側のピット群の位置関係から竪穴住居の可能性もあるが、何分付近は遺存状態が悪く判断がつかぬ。月影式土器出土。

5号竪穴状遺構（第194図・第205図18～22）

3A区O18・19、P18・19グリッドにまたがり位置する。1/2ほどの検出で、平面形は隅丸方形状を呈するものであろう。東西の大きさは5.8mを測る。掘り方の遺存は悪く、東側の壁は一部高さ5～10cm残るが、西側は僅かに確認できうる状況であった。内部のピットは深さ20cmと30cmである。月影Ⅱ式土器出土。

6号竪穴状遺構（第194図・第205図23～28）

3A区O19・P19グリッドにまたがり位置する。小面積の検出で、平面形は円状を呈するものか。壁高はほぼ10cm、竪穴住居にみられる壁溝的な溝が一部でみられる。壁から内側80～90cmには、この壁に沿って幅50～75cm、深さ36cmの溝が存在する。月影Ⅱ式土器出土。甕24・25は壁際の同一地点から出土した。

4号竪穴状遺構（第55図）

2A区U10・11、V10・11グリッドにまたがり位置する。時期不明の遺構であるがここで取り上げた。隅丸長形状をなすものと推定する。幅4.2mを測り、長さは6mを超えるものである。礫層を深さ6cmあまりで掘り込み、掘り方の傾斜は緩い。底面は不整である。

3 古墳時代後期

15号住居跡（第207図・第211図1）

2N区東端C12・13グリッドに位置し、1/2程度を検出した竪穴式住居である。過半は用水溝によって破壊しているが、平面形は隅丸方形を呈しているようである。規模は3.5×2.3m以上、長辺の方位はN34°Eである。深さ16cmの床面は平坦で、幅14～20cm、深さ7cmの壁溝を持つ。深さ21cmのP1は支柱穴と推定する。出土土器は、隅の壁際で須恵器壺1の1点である。時期は7世紀前半頃か。

16号住居跡（第206図・第211図2～4）

2N区西側B5・6、C5・6グリッドにまたがり検出したカマド持つ竪穴式住居である。1号掘立柱建物に切られる。平面形は隅丸方形を呈し、規模は4.1×3.9m、面積は15.0㎡、長軸の方位はN63°Eである。床面まで深さ30cmを測る。カマドは南壁中央よりやや西側にずれて位置し、これを避けるように壁溝が廻り、支柱穴は存在しない。カマドは灰色や黄色土の粘性砂質土などを固めて構築され、焼土が厚く覆っていた。表面に近い灰色系の土は粘性がやや強いものであった。自然礫の芯材はみられない。カマドから外に向かって、船先状に浅く溝状の掘り込みがみられ、煙道と考えられ。該期の土器は、カマド内より埴1・甕胴部2が出土しているが量は少なく、鍋形土器と推定する底部3には灰の圧痕が残る。埴1は外面が横方向、内面は縦方向のミガキ手法により調整されるもので6世紀後半頃の所産か。

2号掘立柱建物（第207図）

2N区B6・C6グリッドに位置し、2号住居を切る。2間（3.5m）×2間（3.0m）、床面積10.5㎡で中央に束柱の柱穴をもつ。主軸方位はN12°Wである。柱間はやや不揃いで、桁行東側では北から1.9m・1.6m、梁行北側では西から1.4m・1.6mを測る。柱穴掘方は略円形が多く、一部略方形もみられる。4隅の柱穴は一回り大きく径50～60cm、深さ30～33cm、間ものは径25～40cm、深さ15～20cmである。

3号掘立柱建物（第208図）

1S区E2・3、F2・3グリッドに位置する。2間（3.8m）×2間（3.8m）、床面積14.4㎡で中央に束柱の柱穴をもつ。主軸方位はN15°Wである。柱間はやや不揃いで、桁行北側では東から2.0m・1.8m、梁行東側では北から1.9m・1.9mを測る。柱穴掘方は楕円・略円形が多く、一部略方形もみられる。梁行中間の柱穴はやや小さく、大きさ45～55cm、深さ25・30cm、桁行のものは大きさ40～85cm、深さ30～35cmである。中央の束柱穴は小さくかつ浅い。

4号掘立柱建物（第209図）

1S区P2・Q2グリッドに位置する。梁行3間（4.8m）の検出で、西側に桁が伸びるものと想定している。主軸方位はN81°Wとなる。柱間はやや不揃いで、北から1.7m・1.5m・1.6mを測る。柱穴掘方は楕円状で、大きさ45～55cm、深さ20～26cmである。

5号掘立柱建物（第209図）

1S区N2・O2グリッドに位置する。梁行2間（3.5m）、桁行1間（1.7m）の検出である。棟持の柱穴が45cm外側にずれて位置する。梁行柱間は北から1.7m・1.9mを測り、主軸方位はN81°Wである。柱穴掘方は楕円形で、大きさ34～63cm、深さ12～25cmである。

6号掘立柱建物（第210図）

3A区P14・15、Q14・15グリッドに位置する。未検出部を残すが、2間（4.3m）×2間（4.0m）、床面積17.2㎡で総柱の構造をもつものと推定する。主軸方位はN37°Eである。柱間はやや不揃いで、桁行北西側では北から2.3m・2.0m、梁行北東側では西から2.0m・2.0mを測る。柱穴掘方は略円形で、やや小さいものを除き径38～55cm、深さ50～62cmである。

7号掘立柱建物（第210図）

3A区P16・Q16グリッドに位置する。梁行2間（2.6m）、桁行1間（1.3m）の検出で、未検出部を残すが、2間×2間、床面積6.8㎡の総柱構造をもつものと推定する。主軸方位はN80°Wである。柱間はやや不揃いで、梁行北側では西から1.35m・1.25mを測る。柱穴掘方は略円形で、梁行中間のものはやや小さく、径25～35cm、深さ10・21cm、他は径48～50cm、深さ24～38cmである。

P111土坑（第194図・第203図1～7）

3A区東端P19・Q19グリッドに位置する大型の土坑である。規模は不明だが、隅丸方形状を呈するものか。掘り方の内側に深さ5～10cm幅25～60cmの段部を有し、ここより70cm落ち込む。月影Ⅱ式土器が多いことからこの時期と考えたが、甕3は古墳時代後期の5世紀後半～6世紀前半頃の所産と推定する。

5号溝（第44・45・52図・第211図5・6）

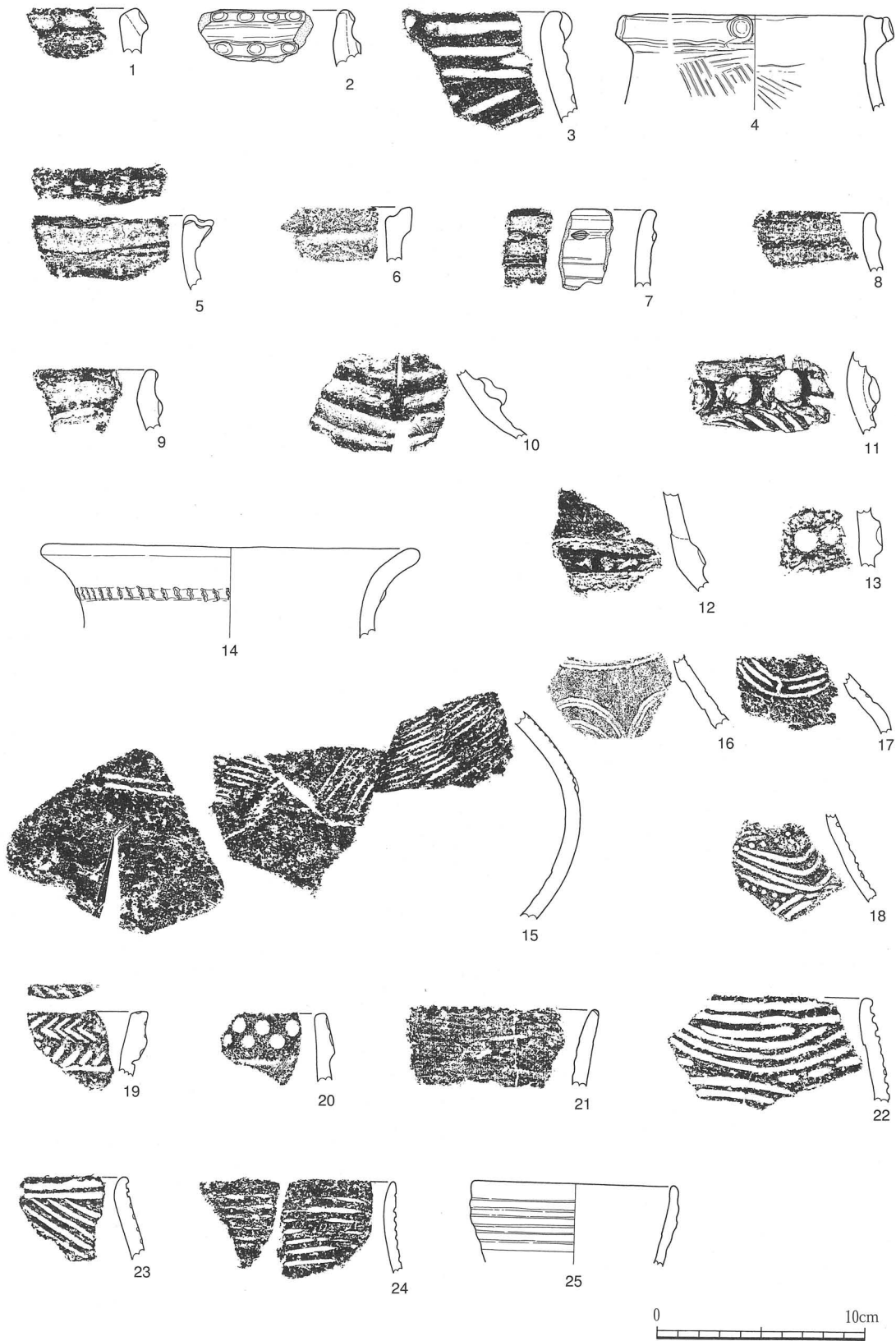
1S区北部H3からE2グリッドへ流路をもつ。2A区K10グリッドの溝と繋がるものであろう。幅50～65cm、深さは1S区で25cm、2A区では20cmを測る。1S区の溝内からの須恵器は7世紀前半頃のものであろう。

6号溝（第210・50・52図・第211図7～10）

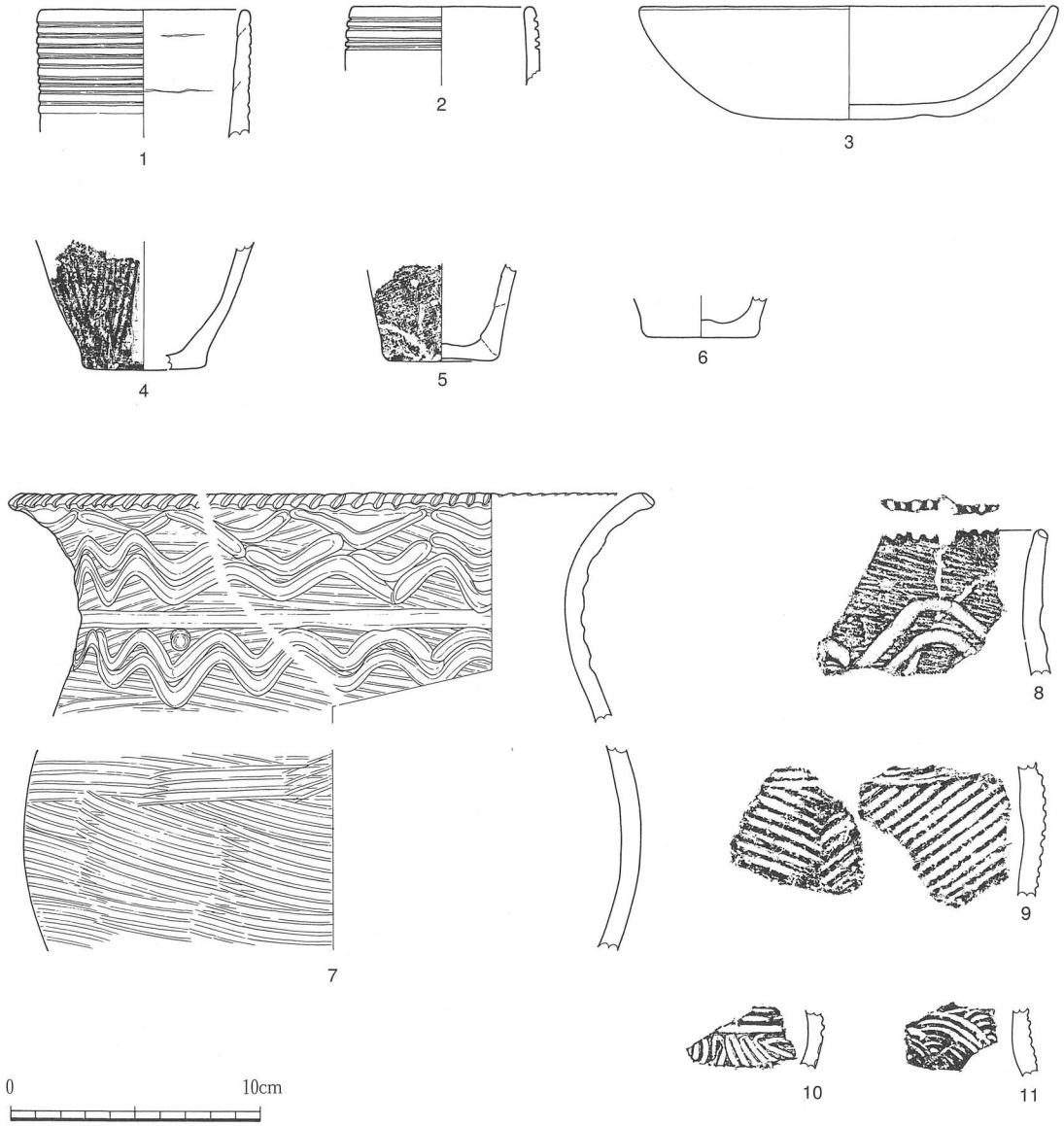
2A区I10グリッドで検出し、2S区G8グリッドの溝へ繋がる。幅80～110cm、深さは2A区で30cmを測る。2S区では、灰色の砂が堆積していた。2A区から土師器の甕が出土した。永町ガマノマ加里遺跡72号土坑・18号溝出土のものに類似し、6世紀前半頃の所産であらう。

10号溝（第57図・第211図11）

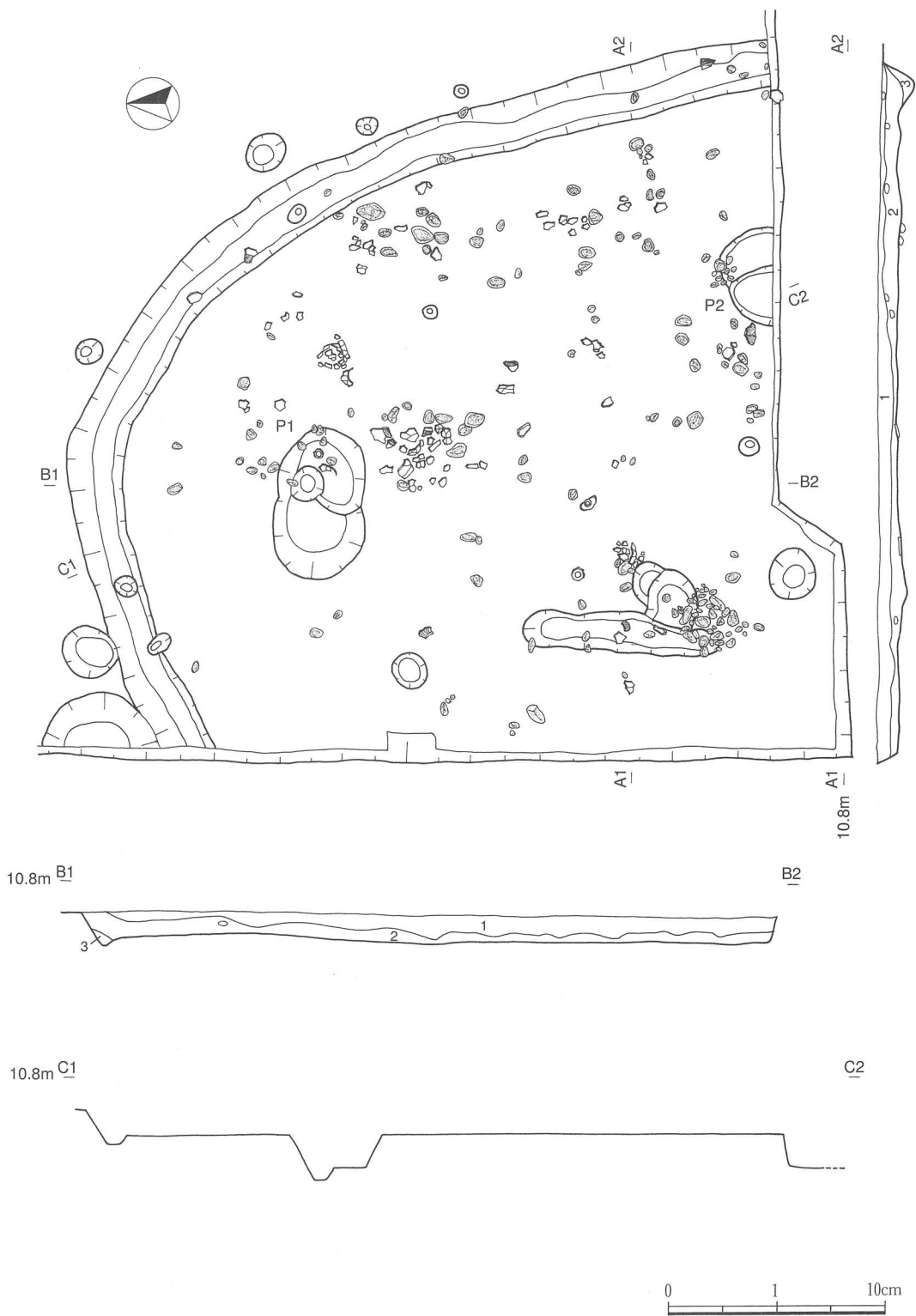
3A区O19、P18・19グリッドに鍵状に曲がり位置する。幅40～50cm、深さ3～10cmが一部で残存する。出土した土師器の甕は7世紀前半頃のものであろう。



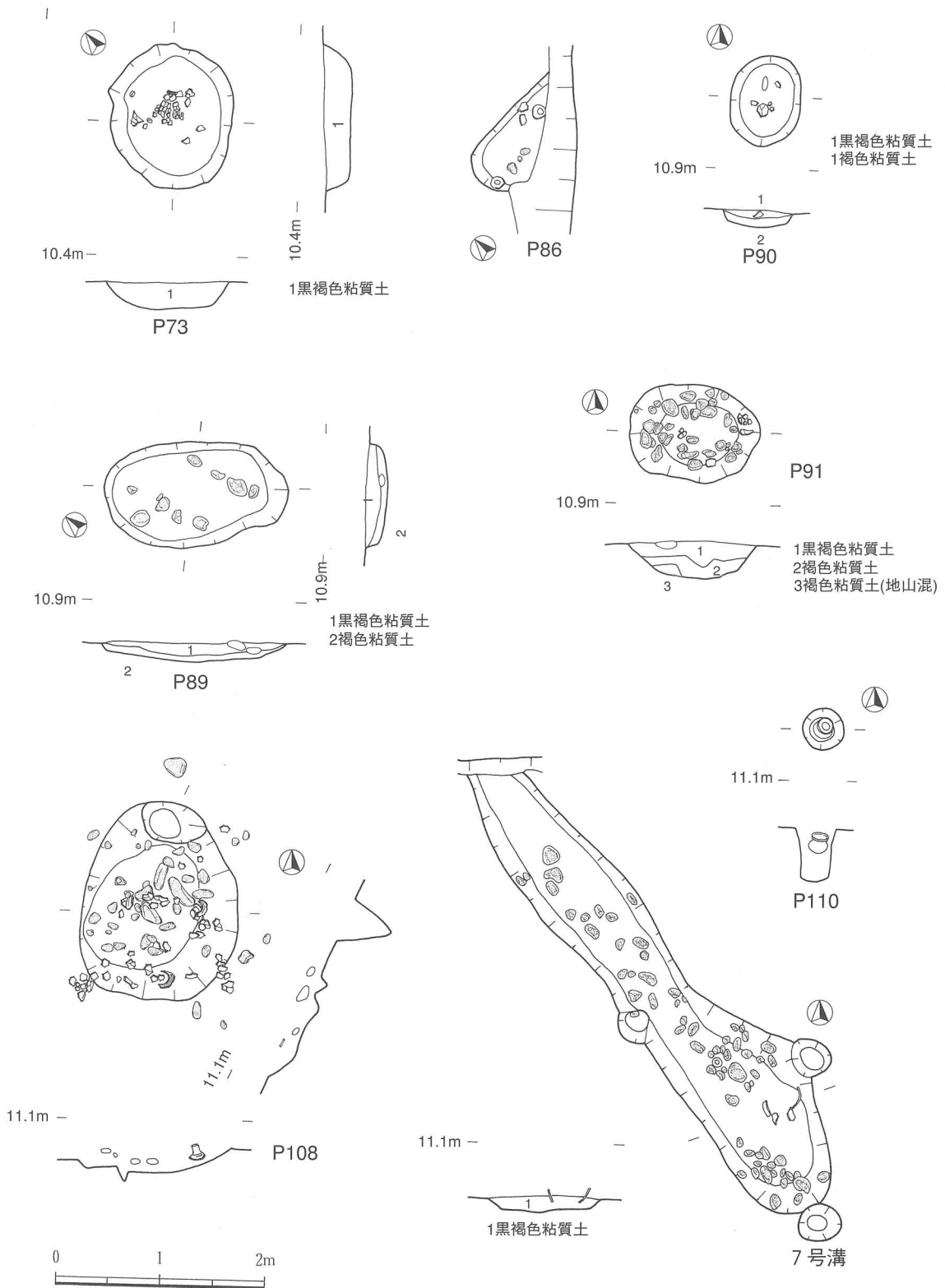
第190图 包含層出土土器⑧ (1/3) 1N区(6·16)·1S区(10)·2S区(13·18~20·22·23)·2A区(2·4·5·7~9·12·14·15·17·21·24·25)·3A区(1·3·11)



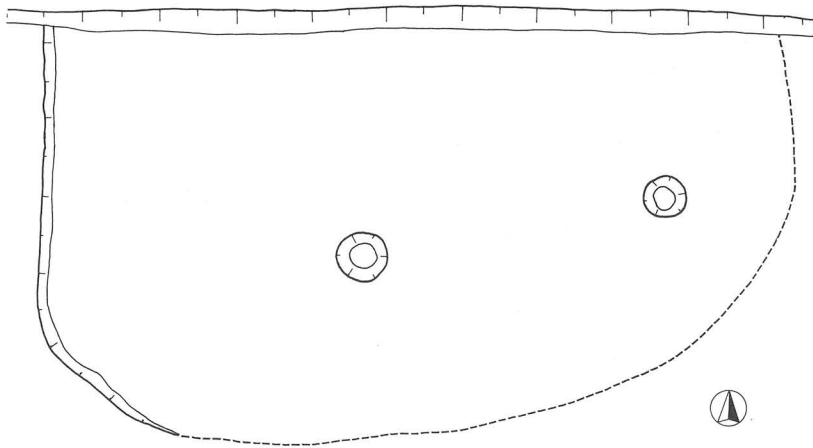
第191图 包含層出土土器⑧ (1/3) 2S区(9~11)·2A区(2·4·5)·3A区(1·3·6~8)



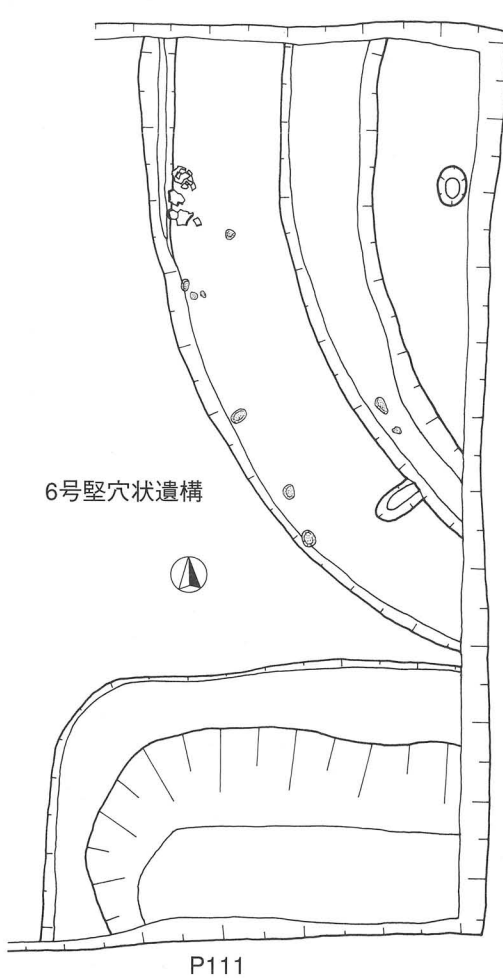
第192图 2 S区18号住居 (1/60)



第193図 1N区P73・1S区P86・2N区P89~91・2A区P108・3A区P110 7号溝 (1/60)

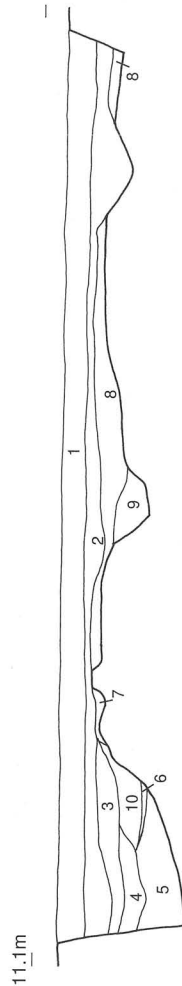


5号竖穴状遺構



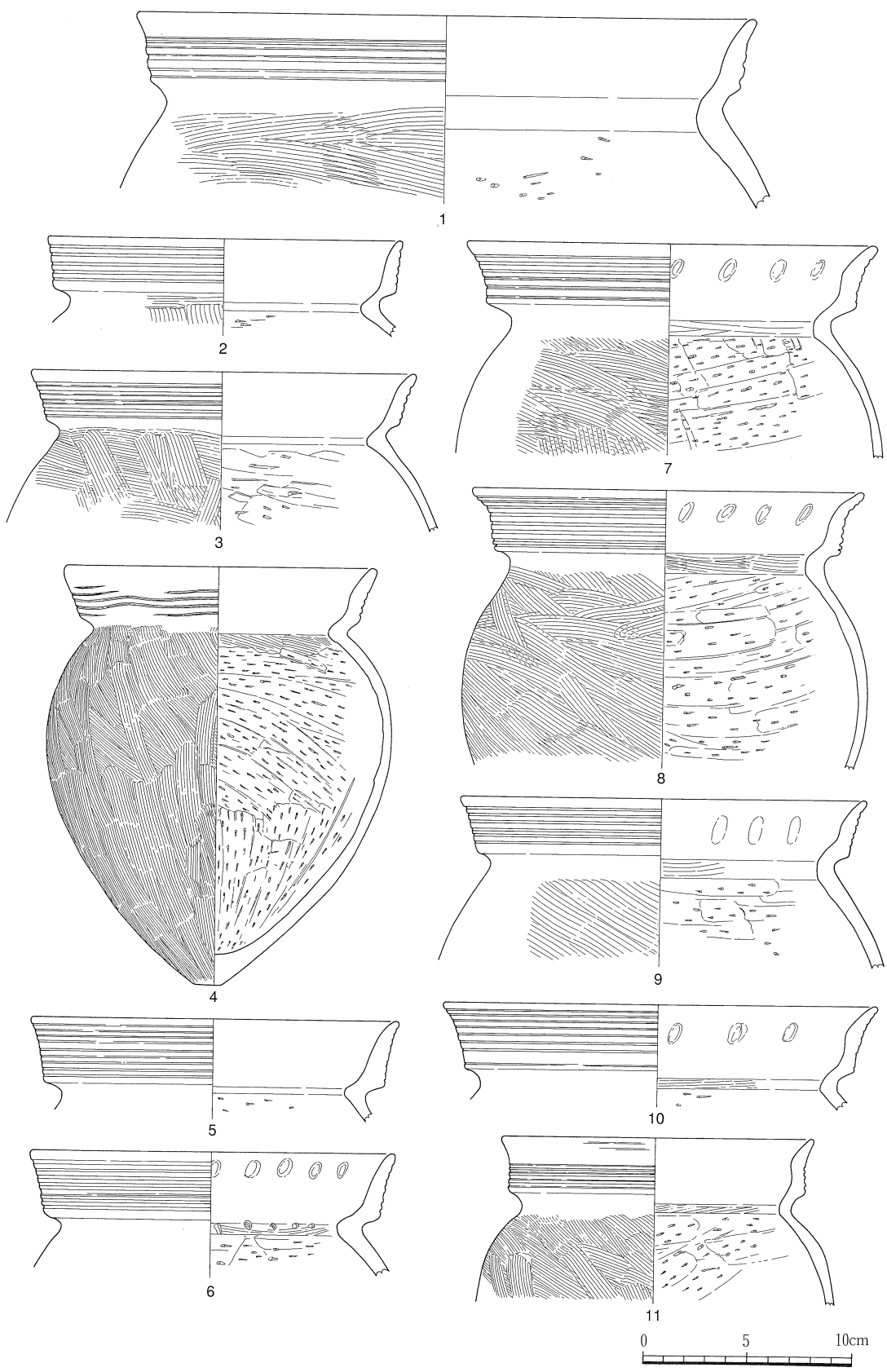
6号竖穴状遺構

P111

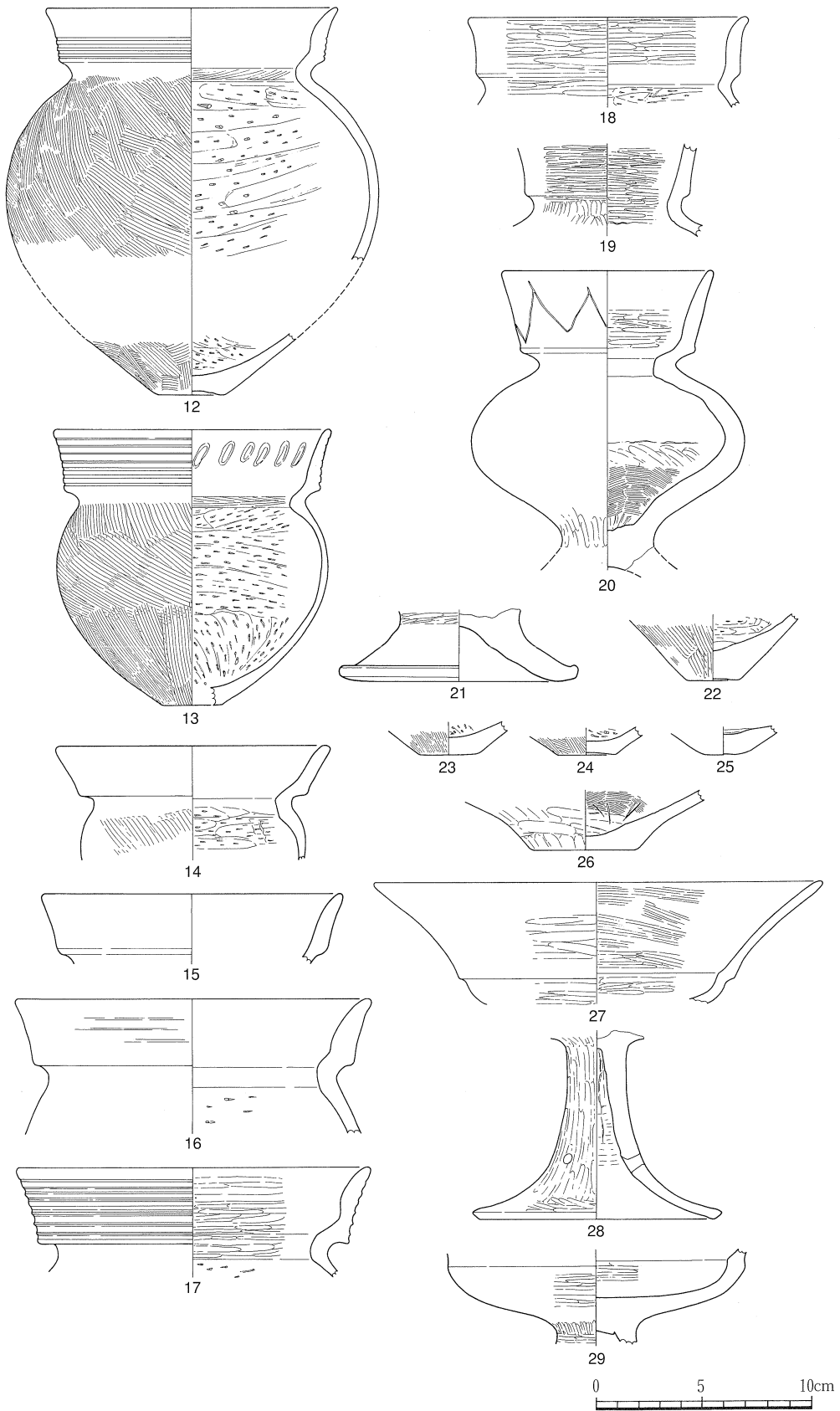


- 1耕作土
- 2暗黒褐色粘質土
- 3褐色粘質土(地山混)
- 4褐色砂混粘質土
- 5褐色粘質土
- 6黄色細砂質土
- 7黒褐色粘質土
- 8暗灰砂混粘質土
- 9濁灰色砂粘質土
- 10褐色砂混粘質土(地山混)
- 11灰褐色粘質土

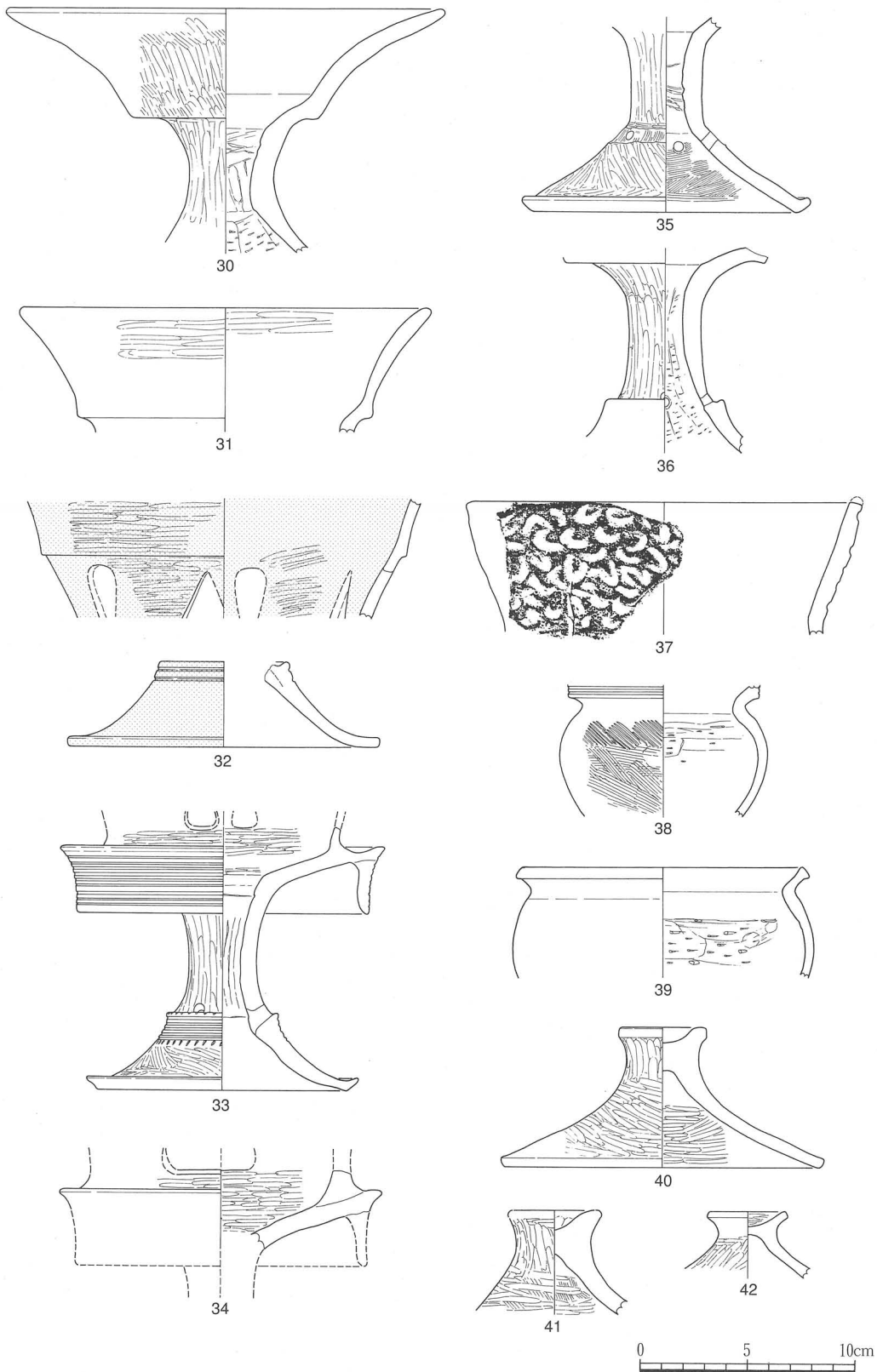
第194図 3A区 5・6号竖穴状遺構・P111 (1/60)



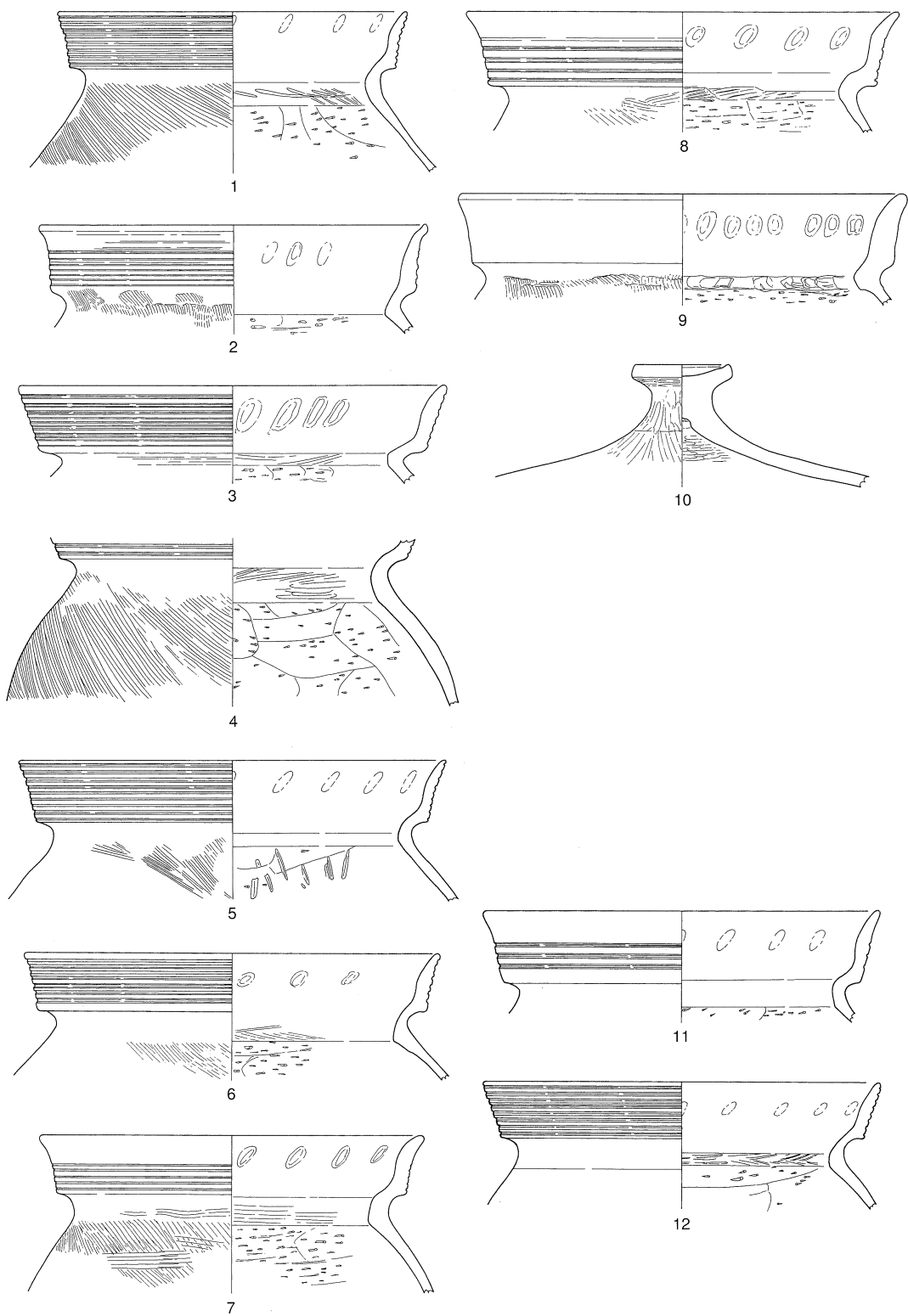
第195图 2S区18号住居跡出土土器① (1/3)



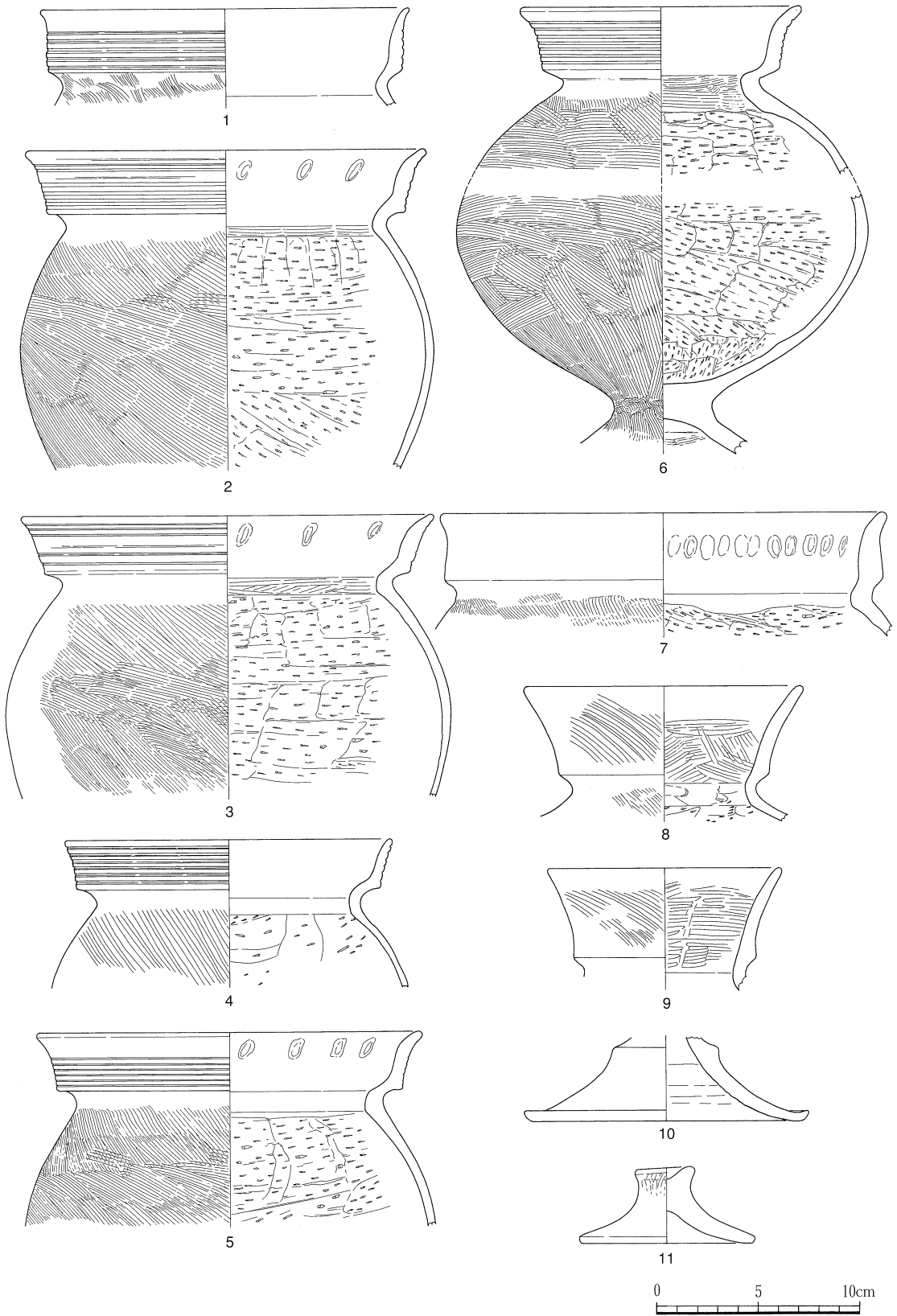
第196图 2S区18号住居跡出土土器② (1/3)



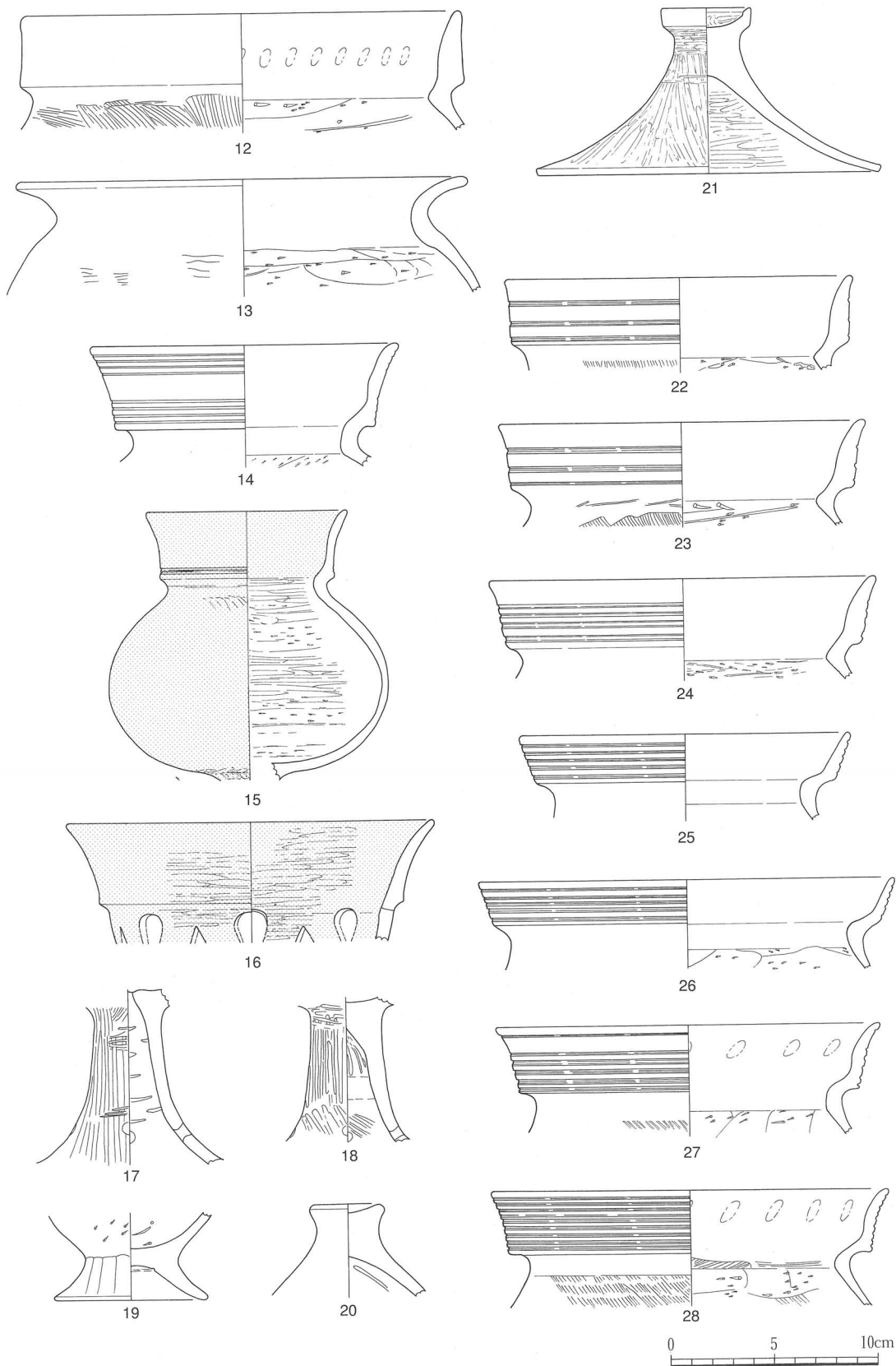
第197图 2S区18号住居跡出土土器③ (1/3)



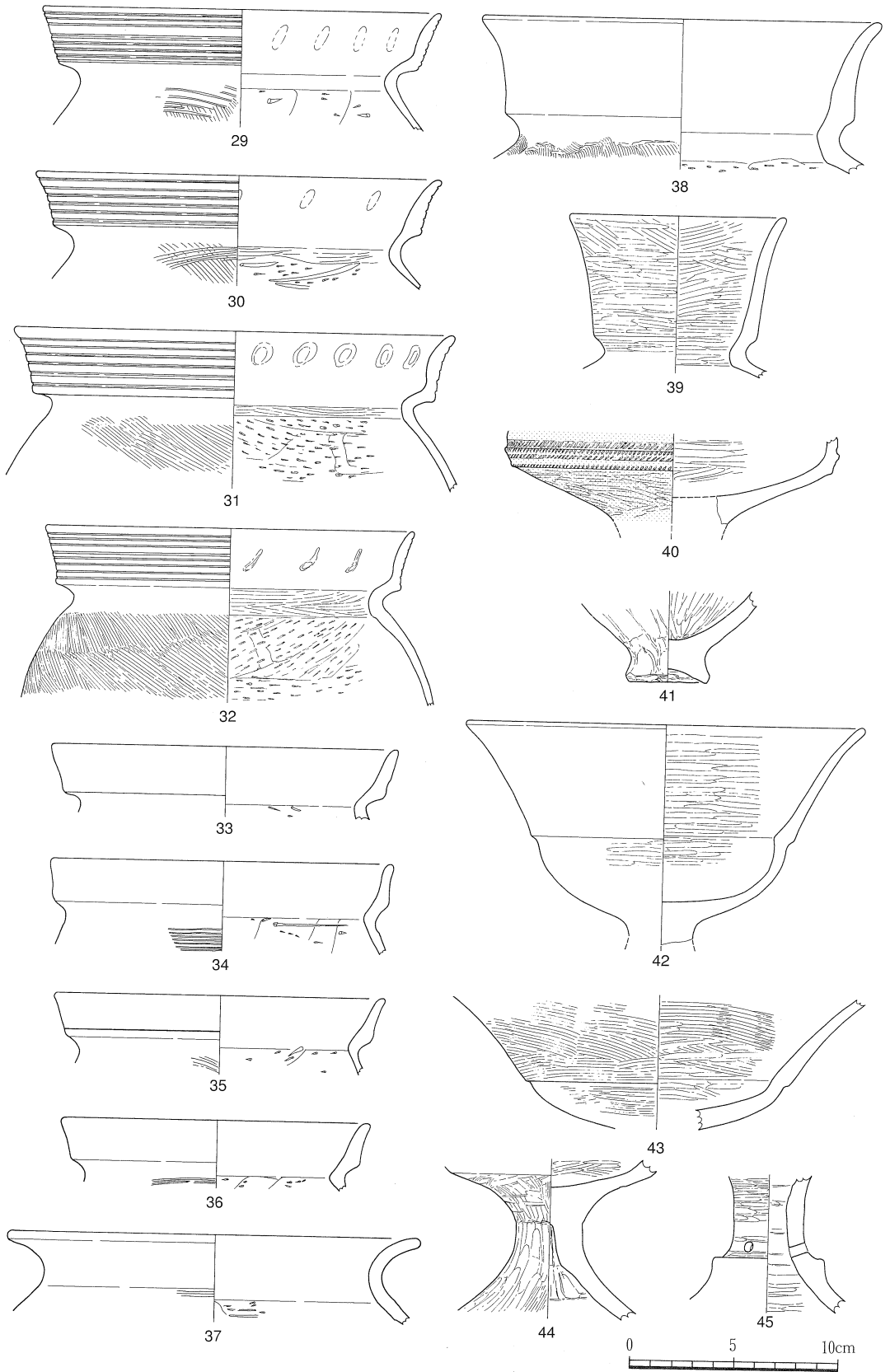
第198図 1N区出土土器① (1/3) P73(1~10)・包含層(11·12)



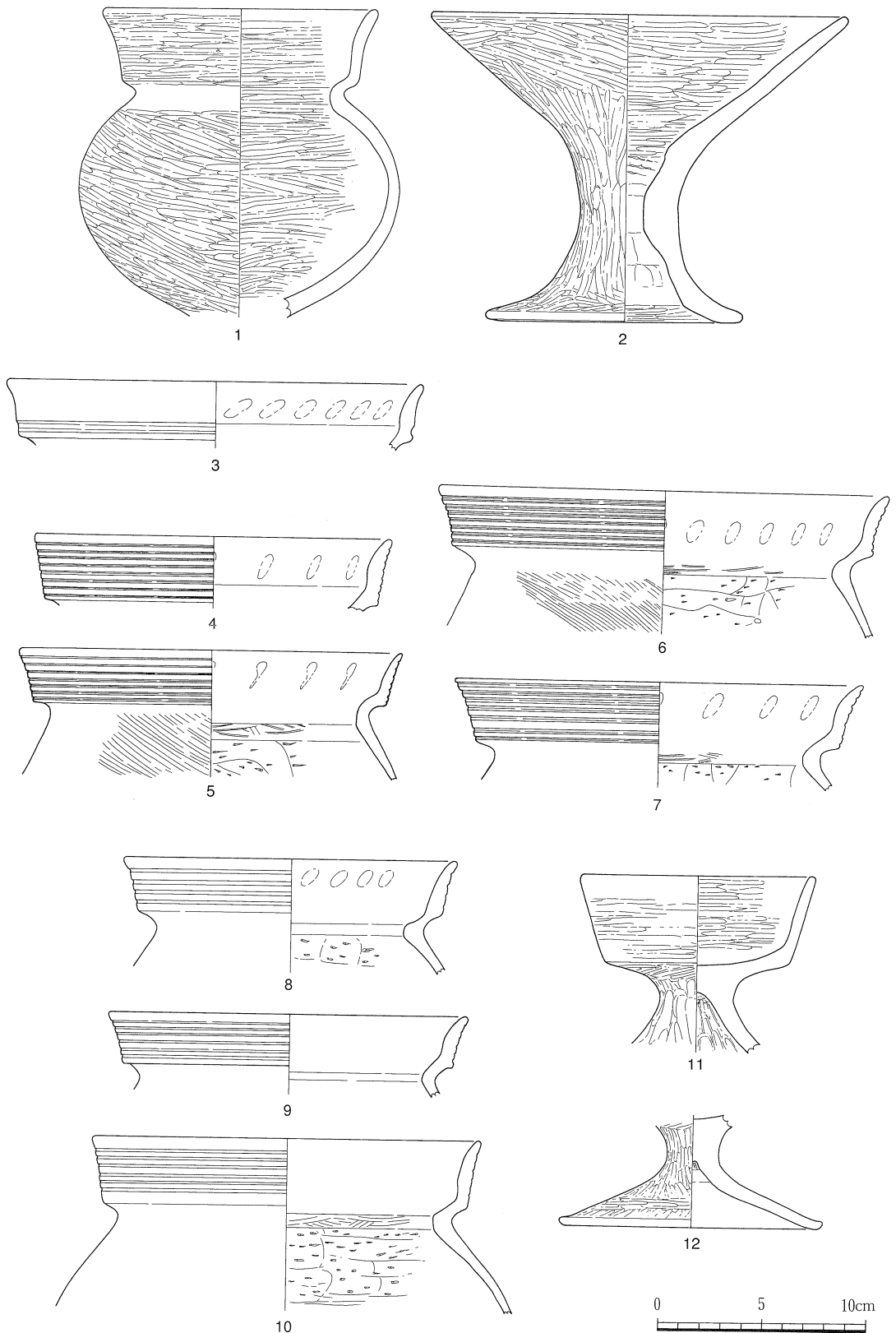
第199图 1N区河道出土土器① (1/3) 上層(1~11)



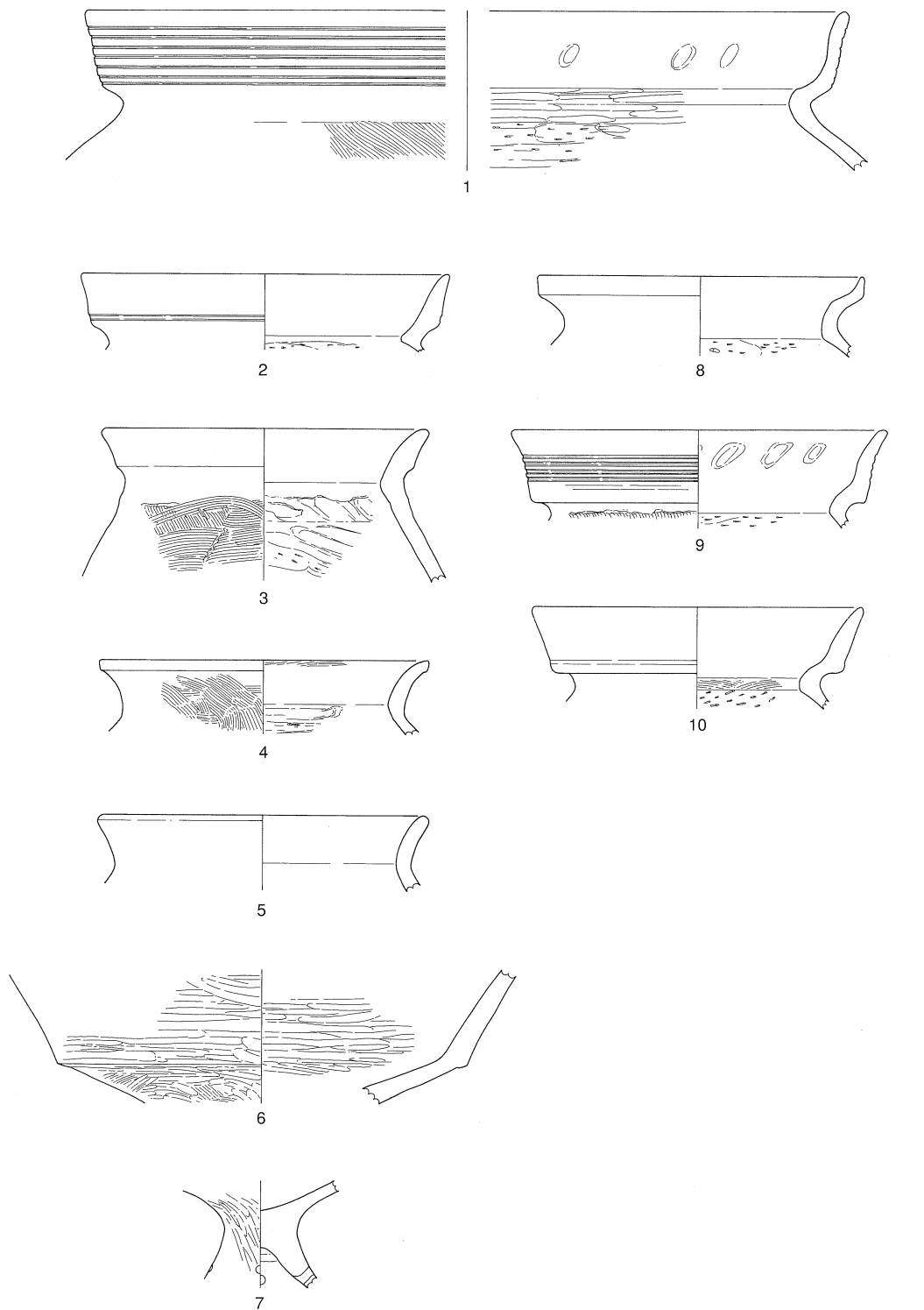
第200图 1N区河道出土土器② (1/3) 中層(12~21)·下層(22~28)



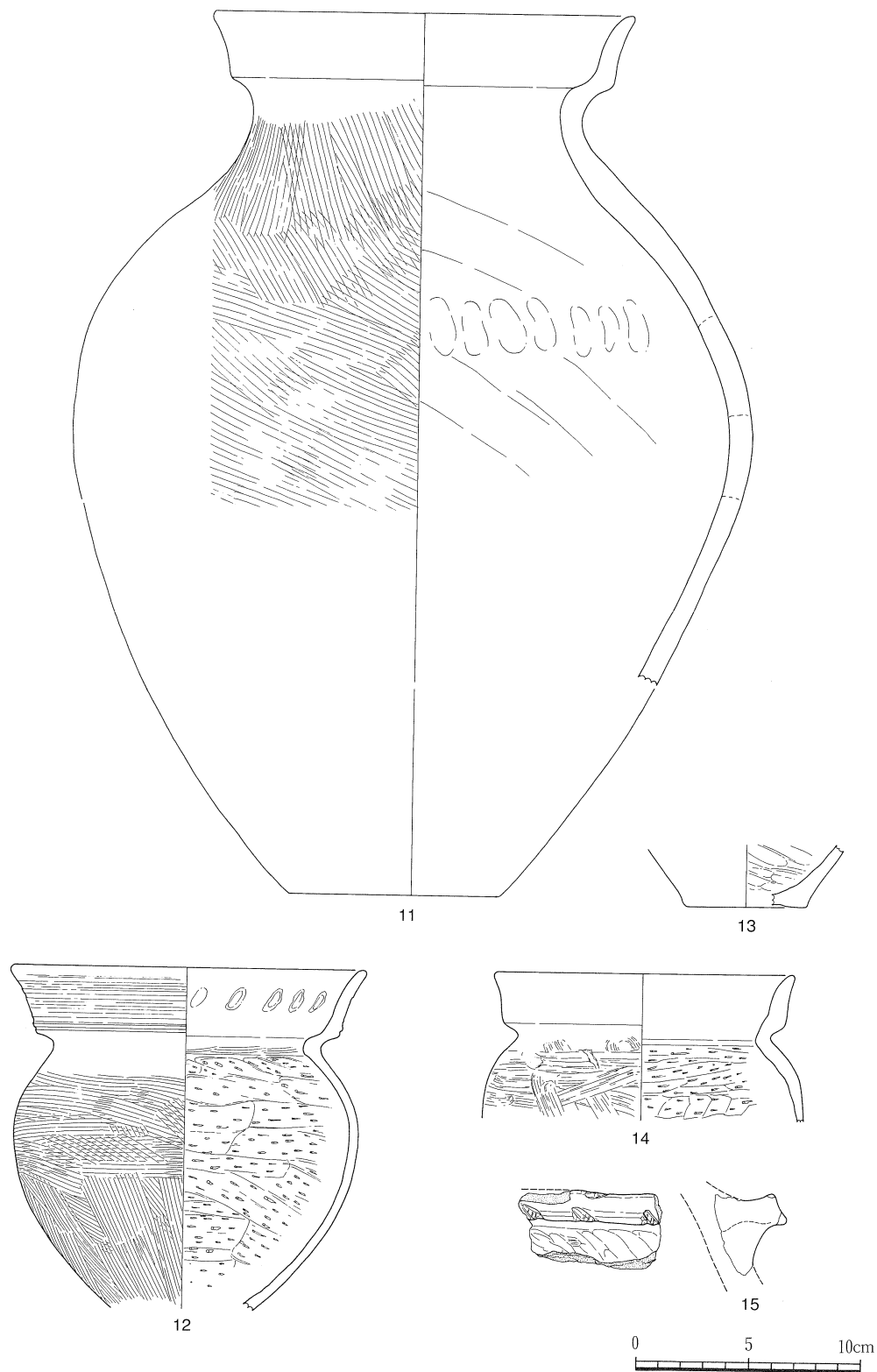
第201図 1N区河道出土土器③ (1/3) 下層(29~45)



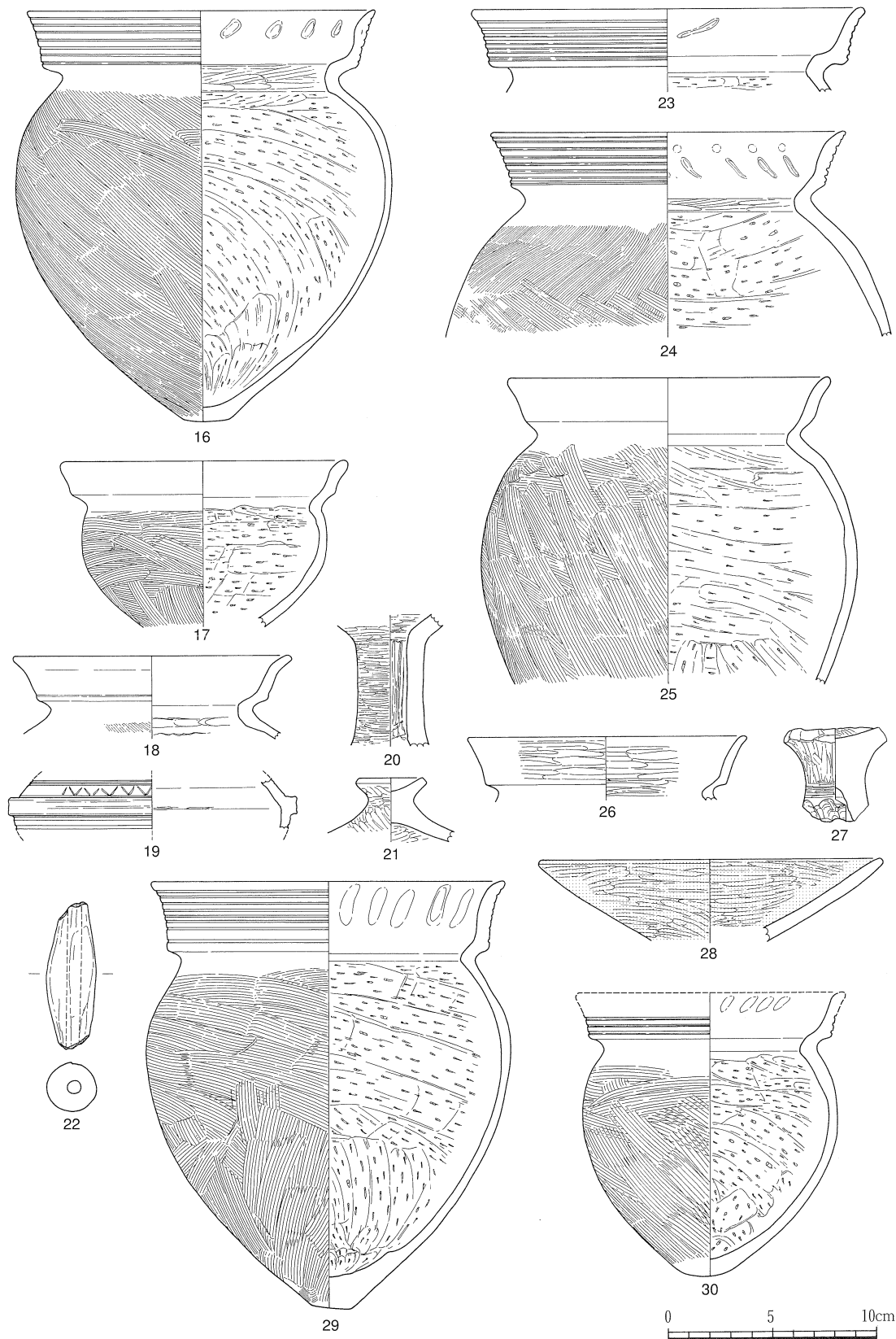
第202图 1S区P86 2N区P89·91 2A区P108出土土器 (1/3) P86(1·2)·P89(3)·P91(4~7)·P108(8~12)



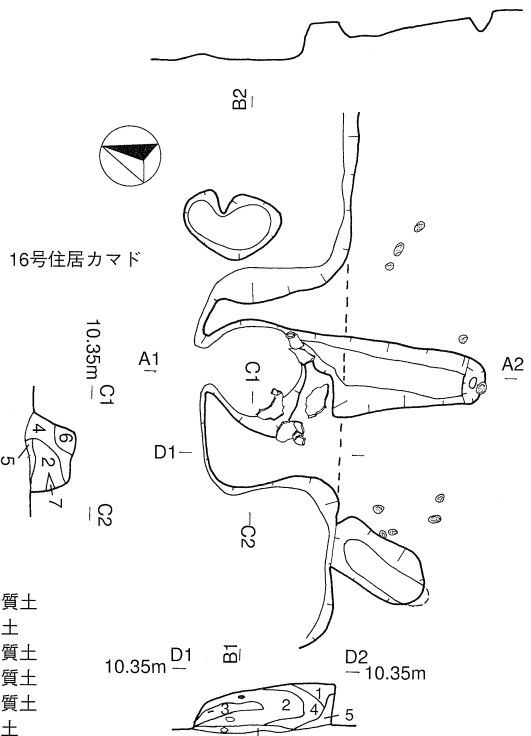
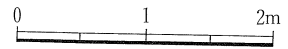
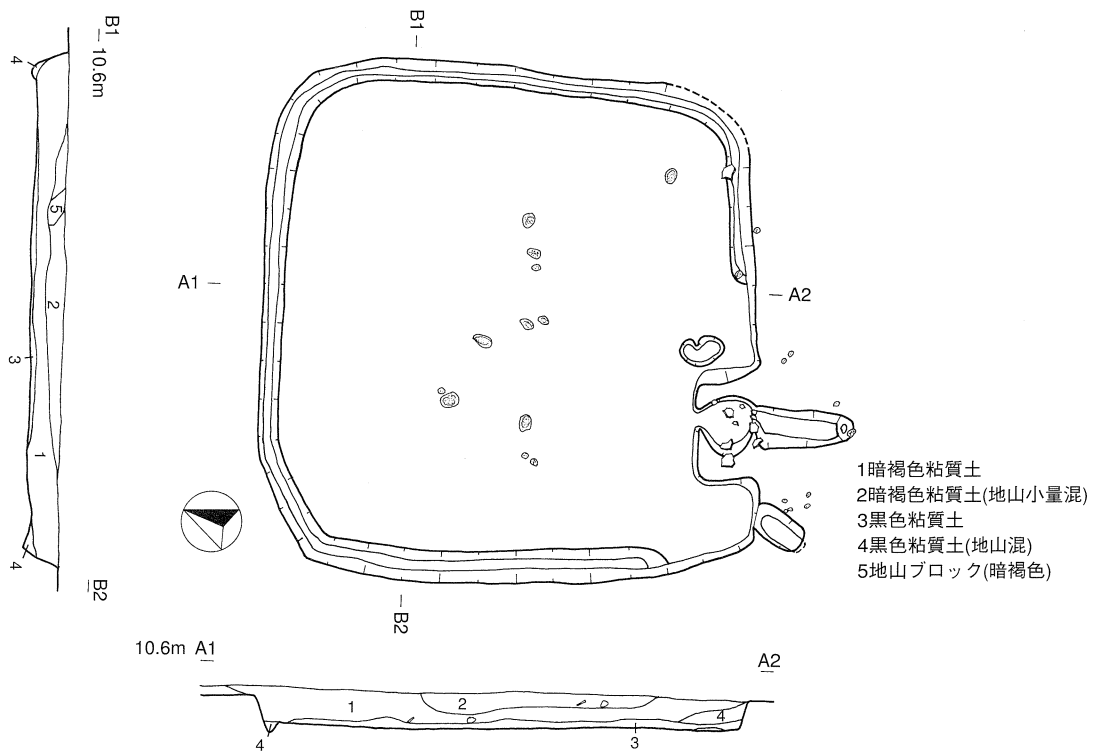
第203图 3 A区出土土器① (1/3) P111(1~7)·8号溝(8·9)·9号溝(10)



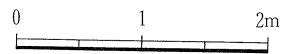
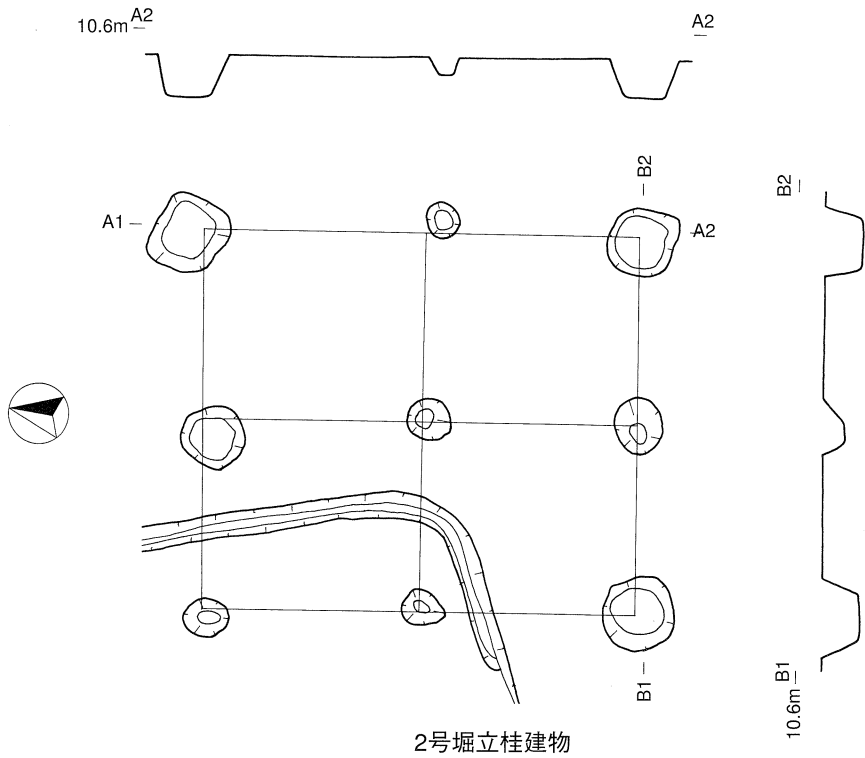
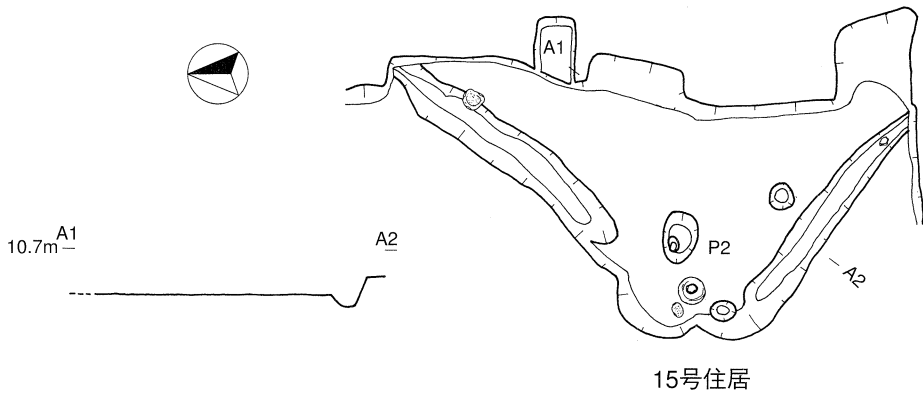
第204图 3A区出土土器② (1/3) 7号溝(11~15)



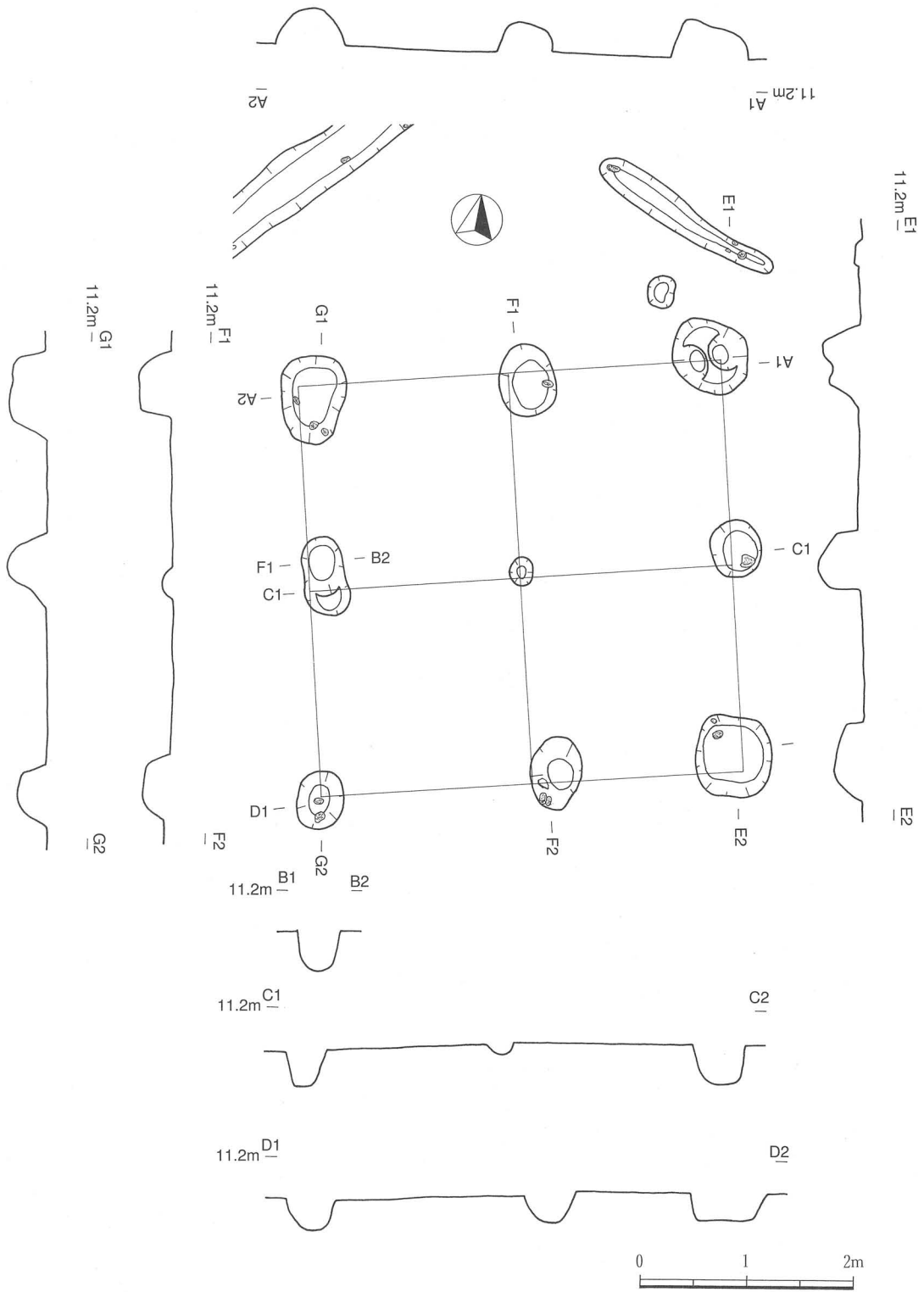
第205図 3A区出土土器③ (1/3) P110(16·17)・5号竖穴状遺構(18~22)・6号竖穴状遺構(23~28)・包含層(29·30)



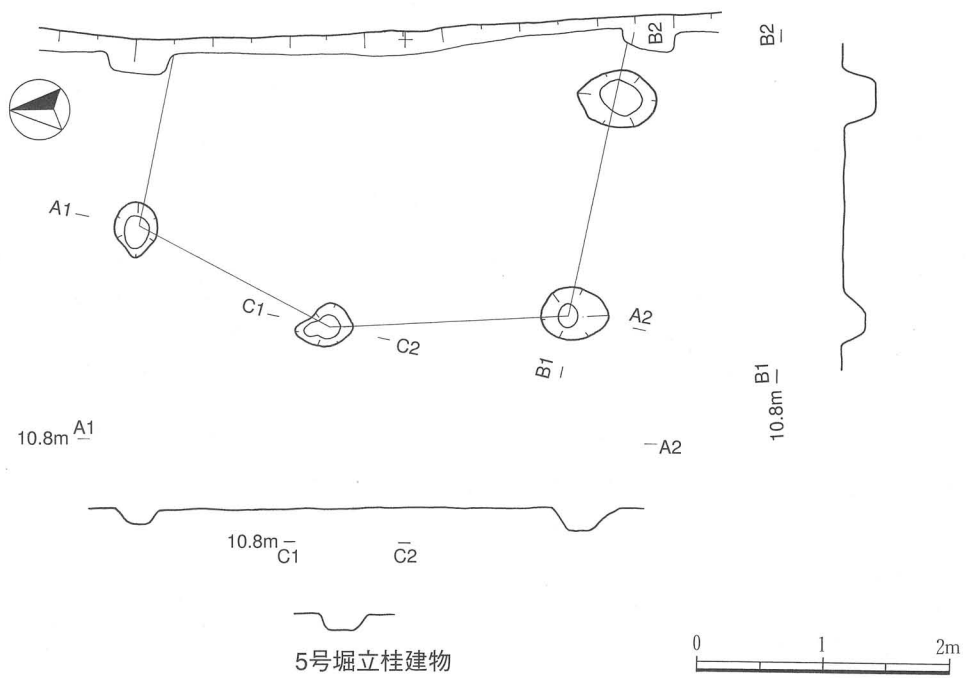
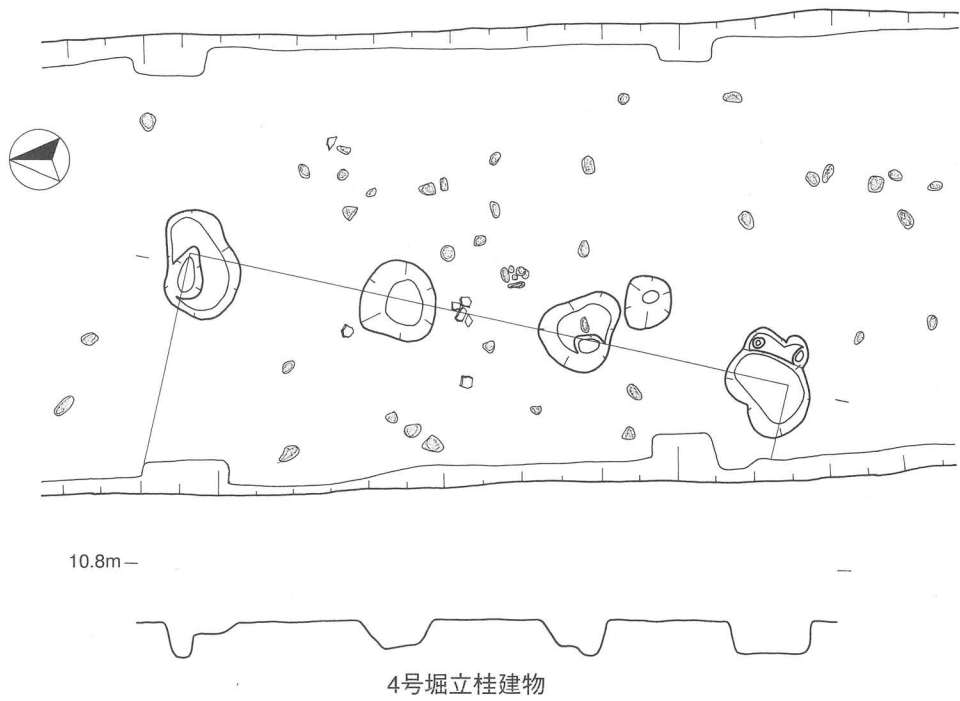
第206図 2N区16号住居 (1/60・カマドは1/30)



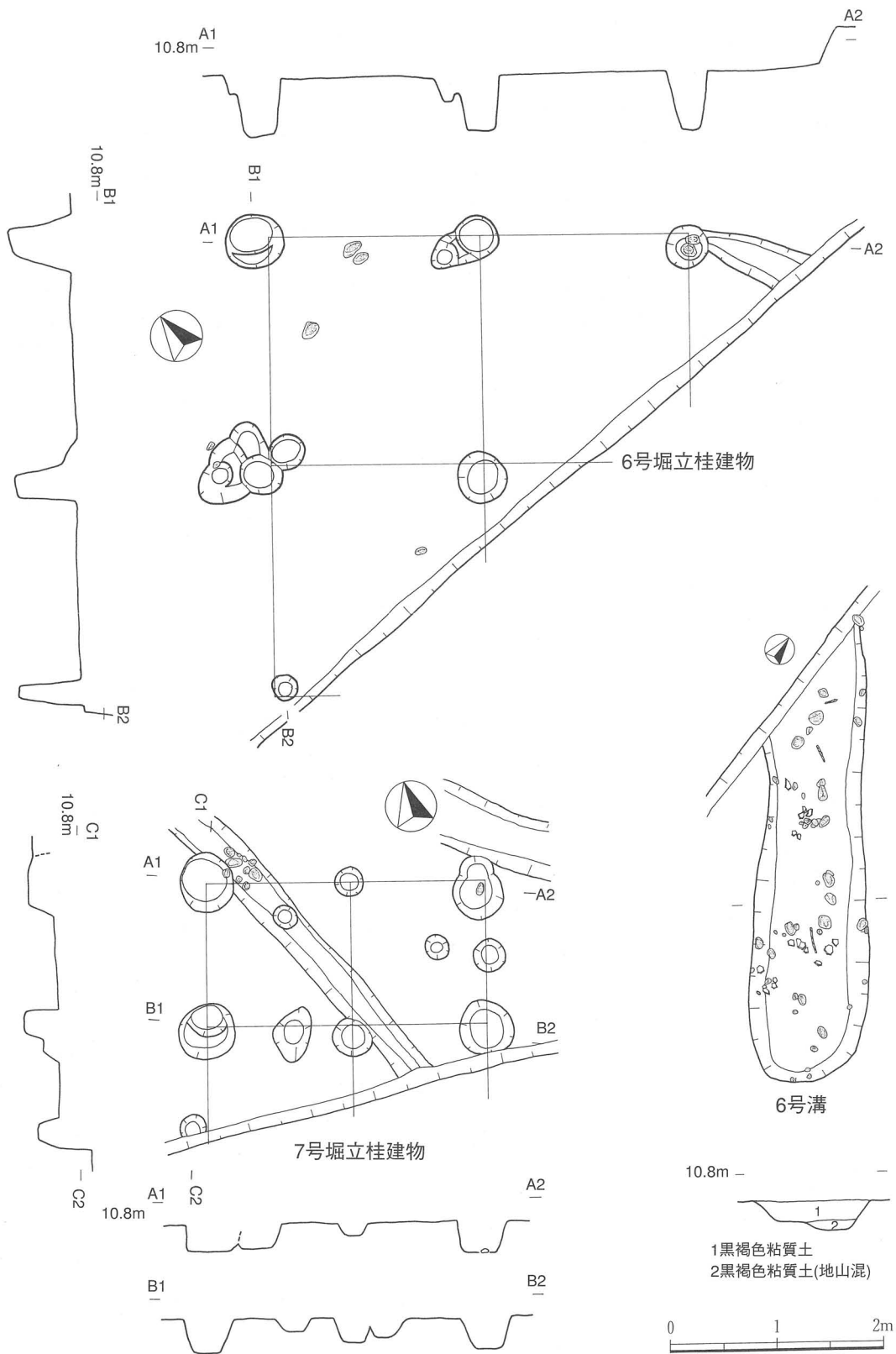
第207图 2N区 15号住居・2号掘立柱建物 (1/60)



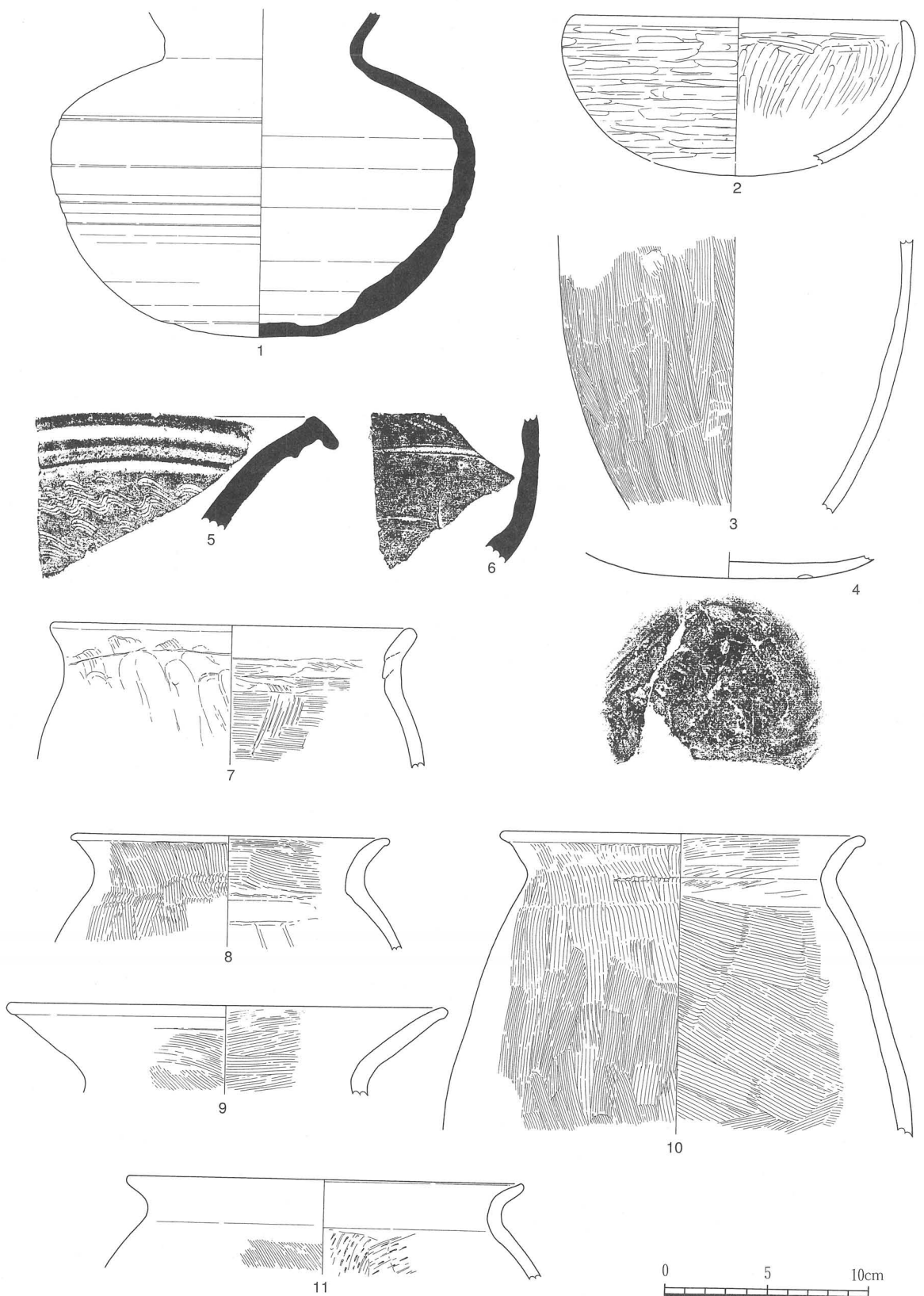
第208图 1S区3号掘立柱建物 (1/60)



第209图 1S区4・5号掘立柱建物 (1/60)



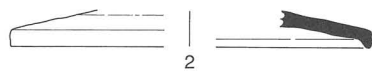
第210图 3A区6·7号掘立柱建物 2A区6号沟 (1/60)



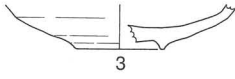
第211図 遺構出土土器 (1/3) 2N区 15号住居(1)・16号住居(2~4)・1S区5号溝(5・6)・2A区6号溝(7~10)・3A区10号溝(11)



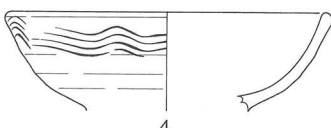
1



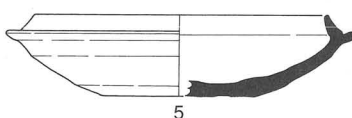
2



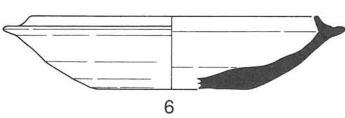
3



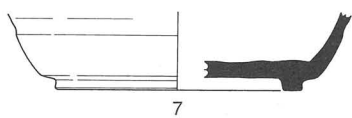
4



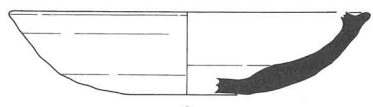
5



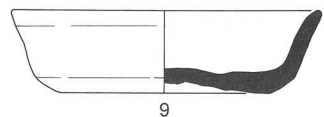
6



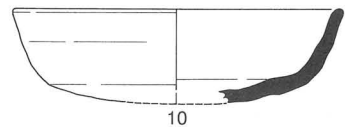
7



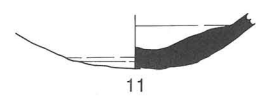
8



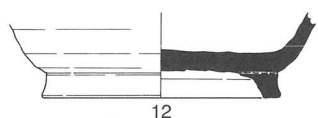
9



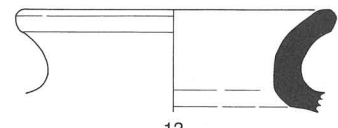
10



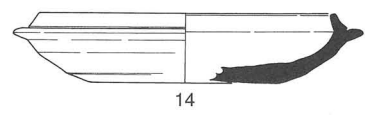
11



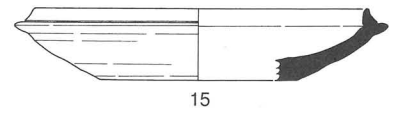
12



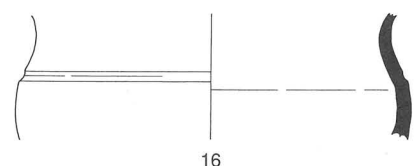
13



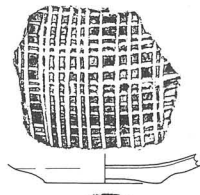
14



15



16



17



第212図 調査区土土器 (1/3)

土器観察表

胎土は主に海綿骨片、シャーモット、赤色粒、黒色粒、黒雲母の有無について観察し、また細礫は粒の大きさをS(1mm以下)、M(1~3mm以上)とし、量を0(ほとんど含まない)、1(少い)、2(やや多い)、3(多い)で表した。

図番	版号	器種	出土地点	法量 (cm)	調整	色調	焼成	胎土	遺存 状態	備考
第195図	1	甕	2 S区 18号住	口径29.4 頸径26.8	外 ナデ、ハケ 内 ナデ、ケズリ	褐色	良	S・M-2 石英 赤色粒	1/6	凹線3条
2		甕	2 S区 18号住	口径16.7 頸径14.9	外 ナデ、ハケ 内 磨耗、ケズリ	外 淡褐色 内 灰褐色	良	S・M-2 石英	1/4	擬凹線5条 床面
3		甕	2 S区 18号住	口径18.3 頸径15.7	外 ナデ、ハケ 内 磨耗、ケズリ	外 褐色 内 赤褐色	良	S・M-3 石英	1/3	擬凹線5条 床面
4		甕	2 S区 18号住	口径14.7 頸径12.2 胴径16.6 底径1.3 器高12.4	外 ナデ、ハケ 内 ナデ、ハケ、ケズリ	茶褐色	良	S-1	ほぼ 完	擬凹線5条か床面
5		甕	2 S区 18号住	口径17.4 頸径14.6	外 ナデ 内 ナデ、ケズリ	淡茶褐色	良	S-3 赤色粒	1/2	擬凹線9条 (一単位5条) 床面
6		甕	2 S区 18号住	口径17.3 頸径14.5	外 ナデ、磨耗 内 ナデ、ハケ、ケズリ	褐色	良	S・M-2	1/4	擬凹線7条 指頭圧痕 頸部内面にヘラ状工具 によるキザミ
7		甕	2 S区 18号住	口径19.4 頸径15.3	外 ナデ、ハケ 内 ナデ、ハケ、ケズリ	褐色	良	S-2 黒色粒	3/4	擬凹線6条 指頭圧痕
8		甕	2 S区 18号住	口径18.5 頸径15.1	外 ナデ、ハケ 内 ナデ、ハケ、ケズリ	褐色	良	S-2	ほぼ 完	擬凹線8条 指頭圧痕 床面
9		甕	2 S区 18号住	口径19.2 頸径16.5	外 ナデ、ハケ 内 ナデ、ハケ、ケズリ	橙褐色	良	S-3	1/4	擬凹線6条 指頭圧痕
10		甕	2 S区 18号住	口径20.7 頸径17.2	外 ナデ 内 ナデ、ハケ、ケズリ	外 淡褐色 内 黒褐色	良	S-2 黒色粒	1/4	擬凹線8条 (一単位6条) 指頭圧痕
11		甕	2 S区 18号住	口径14.8 頸径13.0	外 ナデ、ハケ 内 ナデ、ハケ、ケズリ	褐色	良	S-3 赤色粒	3/4	擬凹線4条 擬凹線4条
第196図	12	甕	2 S区 18号住	口径13.4 頸径11.2 胴径17.4 器高(18.3)	外 ナデ、ハケ 内 ナデ、ハケ、ケズリ	淡灰褐色	良	S-3 黒色粒	2/3	床面
13		甕	2 S区 18号住	口径12.8 頸径10.6 胴径12.7 底径2.8 器高13.1	外 ナデ、ハケ 内 ナデ、ハケ、ケズリ	褐色	良	S・M-2 黒雲母	1/2	擬凹線7条 指頭圧痕
14		甕	2 S区 18号住	口径12.6 頸径9.4	外 ナデ、ハケ 内 ナデ、ケズリ	明褐色	良	S-3 赤色粒多	1/4	
15		甕	2 S区 18号住	口径13.8	外 ナデ 内 ナデ	淡褐色	良	S-3 M-2 石英	小片	床面
16		甕	2 S区 18号住	口径16.4 頸径13.5	外 磨耗顕著 内 ナデ、ケズリ	淡灰褐色	良	S-3 海綿骨片少 赤色粒	1/3	床面
17		壺	2 S区 18号住	口径16.4 頸径12.7	外 ナデ 内 ナデ、ミガキ、ケズリ	褐色	良	S-2 M-1 赤色粒	2/3	(擬)凹線7条
18		壺	2 S区 18号住	口径12.8 頸径11.6	外 ミガキ 内 ミガキ、ナデ、ケズリ	淡褐色	良	S-1 黒雲母	1/3	上・下層
19		壺	2 S区 18号住	頸径7.0	外 ミガキ 内 ミガキ、ナデ	淡褐色	良	0	小片	
20		壺 (台付)	2 S区 18号住	口径9.7 頸径6.5 胴径12.8	外 ミガキ→ナデ 内 ミガキ→ナデ、ナデ、ハケ	明褐色	良	S-1 黒色粒	ほぼ 完	ヘラ条工具による山形 連続文
21		脚台部	2 S区 18号住	底径11.2	外 ミガキ、ナデ 内 ナデ	褐色	並	S・M-3 黒雲母	完	
第196図	22	底部	2 S区 18号住	底径2.4	外 ハケ 内 ケズリ	褐色	並	S-2 赤色粒	2/3	外底面ケズリ
23		底部	2 S区 18号住	底径3.8	外 ハケ 内 ケズリ	褐色	並	S-2	1/4	外底面ハケ
24		底部	2 S区 18号住	底径2.8	外 ハケ 内 ケズリ	褐色	並	S-2	完	外底面ハケ
25		底部	2 S区 18号住	底径1.8	外 ケズリ→ナデ 内 ナデ	外 灰褐色 内 褐色	並	0 赤色粒	完	外底面ケズリ→ナデ 上層
26		底部	2 S区 18号住	底径5.0	外 ミガキ、ケズリ 内 ハケ、ナデ	褐色	並	L-2 黒雲母多	1/2	外底面ナデ
27		高坏	2 S区 18号住	口径20.9	外 ミガキ→ナデ、ミガキ 内 ハケ→ナデ、ミガキ	淡褐色	並	0	1/4	
28		高坏 (脚部)	2 S区 18号住	胴径2.8 底径11.2	外 ミガキ 内 ケズリ、ハケ→ナデ	淡灰褐色	並	0	3/4	透孔3箇所

図版 番号	器種	出土地点	法量 (cm)	調整	色調	焼成	胎土	遺存 状態	備考
29	高坏	2 S区 18号住	胴径14.8	外 ミガキ→ナデ 内	赤褐色	並	M-1	1/6	
第197図 30	器台	2 S区 18号住	口径20.2 胴径3.9	外 ミガキ 内 ミガキ、ケズリ	橙褐色	並	S、M-2 シャーモット	1/3	
31	結合器台	2 S区 18号住	口径18.7	外 ミガキ 内 ミガキ→ナデ	褐色	並	M-1	小片	
32	結合器台	2 S区 18号住	底径14.3	外 ミガキ、ミガキ→ナデ 内 ミガキ→ナデ、ミガキ	赤褐色	並	S-2 黒色粒	1/4	透し推定で9箇所 赤彩
33	結合器台	2 S区 18号住	受部15.0 底径11.6	外 ミガキ、ミガキ→ナデ、ナデ 内 ミガキ、ナデ	橙褐色	並	0 石英	2/3	裾部沈線5条 上下に斜行キザミ 透孔3箇所、上層
34	結合器台	2 S区 18号住	受部14.8	外 ミガキ、ナデ 内 ミガキ	褐色	並	M-1 シャーモット少	小片	
35	器台 (脚部)	2 S区 18号住	胴径3.3 底径12.4	外 ミガキ、ナデ 内 ナデ、ケズリ、ハケ、ナデ	淡褐色	並	S-1 海綿骨片少 黒雲母	1/3	透孔5箇所 剥離面が巡る 上層
36	器台 (胴部)	2 S区 18号住	胴径3.4	外 ミガキ、摩耗 内 ナデ、ケズリ	橙褐色	並	S-1 黒色粒	3/4	透孔4箇所
37	不明	2 S区 18号住	口径 (18.0)	外 内 ミガキ→ナデ	灰褐色	並	S-3 赤色粒多	小片	端部に突帯貼付 外面に半環状沈線を充填
38	甕	2 S区 18号住	胴径9.7	外 ナデ、タタキ、ハケ 内 ナデ、ケズリ→ナデ	橙褐色	並	S-2 M-1 石英	1/6	
39	甕	2 S区 18号住	口径13.7 頸径12.4 胴径14.0	外 ナデ、摩耗 内 ナデ、ケズリ	淡橙褐色	並	S-2 M-1	1/3	
40	蓋	2 S区 18号住	つまみ3.9 口径14.8 器高6.5	外 ミガキ、ナデ 内 ミガキ	橙褐色	並	S-1 シャーモット	1/3	床面
41	蓋	2 S区 18号住	つまみ4.4	外 指押さえ→ナデ、ハケ→ミガキ 内 ハケ→ミガキ	褐色	並	L-1	完	
42	蓋	2 S区 18号住	つまみ3.5	外 ミガキ、ナデ、ミガキ 内 ナデ、ミガキ	褐色	並	S-2 赤色粒	完	上層
第198図 1	甕	1 N区 P73	口径16.2 頸径13.8	外 ナデ、ハケ 内 ナデ、ハケ、ケズリ	橙褐色	並	S-3 赤色粒 石英	1/3	擬凹線8条
2	甕	1 N区 P73	口径17.8 頸径15.6	外 ナデ→ハケ 内 ナデ、ケズリ	褐色	並	S-3 M-2 石英	小片	擬凹線4条、上半はナ デ消し 指頭圧痕
3	甕	1 N区 P73	口径19.6 頸径15.9	外 ナデ 内 ナデ、ハケ、ケズリ	褐色	並	S-2 黒雲母	小片	擬凹線7条 指頭圧痕
4	甕	1 N区 P73	頸径14.5	外 ナデ、ハケ 内 ナデ、ハケ、ケズリ	橙褐色	並	S-3	1/3	
5	甕	1 N区 P73	口径19.8 頸径16.7	外 ナデ、ハケ 内 ナデ、ケズリ	橙褐色	並	S-2 赤色粒	1/4	擬凹線9条 指頭圧痕
6	甕	1 N区 P73	口径19.2 頸径16.4	外 ナデ、ハケ 内 ナデ、ハケ、ケズリ	橙褐色	並	S-3 赤色粒	小片	擬凹線7条 指頭圧痕
7	甕	1 N区 P73	口径17.8 頸径14.6	外 ナデ、ハケ 内 ナデ、ハケ→ナデ、ケズリ	褐色	並	S-2 シャーモット少	1/3	擬凹線5条 指頭圧痕
8	甕	1 N区 P73	口径20.2 頸径16.3	外 ナデ、ハケ 内 ナデ、ハケ、ケズリ	茶褐色	並	S-1 黒色粒 黒雲粒	1/4	擬凹線5条 指頭圧痕
9	甕	1 N区 P73	口径20.4 頸径18.4	外 ナデ、ナデ、ハケ 内 ナデ、ケズリ	褐色	並	S-1 黒色粒	1/6	指頭圧痕
10	蓋	1 N区 P73	つまみ4.4	外 ナデ、ミガキ 内 ミガキ	橙褐色	並	0 赤色粒	1/4	
11	甕	1 N区 包含層	口径16.4 頸径15.2	外 ナデ 内 ナデ、ケズリ	淡褐色	やや 不良	S-3 M-1	1/6	擬凹線3条 指頭圧痕
12	甕	1 N区 包含層	口径16.4 頸径15.2	外 ナデ、ハケ(摩耗) 内 ナデ、ハケ、ケズリ	淡橙褐色	並	S・M-2 赤色粒	1/4	擬凹線8条 指頭圧痕
第199図 1	甕	1 N区 河道跡 上層	口径18.2 頸径16.0	外 ハケ 内 ナデ、ケズリ	橙褐色	やや 不良	S・M-2	1/6	擬凹線5条
2	甕	1 N区 河道跡 上層	口径19.4 頸径15.8 胴径20.4	外 ナデ、ハケ 内 ナデ、ハケ、ケズリ	茶褐色	並	S-2 赤色粒 石英	2/3	擬凹線7~8条 指頭圧痕
3	甕	1 N区 河道跡 上層	口径20.0 頸径16.2 胴径21.9	外 ナデ、ハケ 内 ナデ、ハケ、ケズリ	褐色	並	S-3 シャーモット少 石英	1/4	擬凹線5条 指頭圧痕
4	甕	1 N区 河道跡 上層	口径16.0 頸径13.0	外 ナデ、ハケ 内 ナデ、ケズリ	茶褐色	やや 不良	S-3 赤色粒	1/4	擬凹線6条

図 番	版 号	器 種	出土地点	法 量 (cm)	調 整	色 調	焼成	胎 土	遺存 状態	備 考
5		甕	1N区 河道跡 上層	口径18.8 頸径15.1	外 ナデ、ハケ 内 ナデ、ケズリ	褐色	良	S-1	2/3	擬凹線6条 指頭圧痕
6		甕 (台付)	1N区 河道跡 上層	口径13.5 頸径9.1 胴径20.2	外 ナデ、ハケ 内 ナデ、ハケ、ケズリ、ハケ	茶褐色	並	S-2 赤色粒	完	擬凹線7条
7		甕	1N区 河道跡 上層	口径21.7 頸径20.5	外 ナデ、ハケ 内 ナデ、ケズリ	褐色	並	0 黒雲母少	1/2	
8		壺	1N区 河道跡 上層	口径13.5 頸径9.0	外 ナデ→ハケ、ハケ 内 ナデ、ハケ、ナデ、ケズリ	淡橙褐色	並	S-2 黒色粒 黒雲母	1/4	
9		壺	1N区 河道跡 上層	口径11.2 頸径8.0	外 ナデ→ハケ、ナデ 内 ナデ→ハケ、ナデ	橙褐色	並	0	1/6	
10		脚裾部	1N区 河道跡 上層	底径13.3	磨耗顕著	橙褐色	並	S-1 赤色粒	1/4	
11		蓋	1N区 河道跡 上層	つまみ2.9 口径8.4	外 ナデ、ミガキ 内 ミガキ→ナデ	橙褐色	並	0	完	
第200図 12		甕	1N区 河道跡 中層	口径20.8 頸径20.2	外 ナデ、ハケ 内 ナデ、ケズリ	褐色	並	M-1 黒雲母	1/6	指頭圧痕
13		甕	1N区 河道跡 中層	口径21.4 頸径17.8	外 ナデ、ハケ 内 ナデ、ケズリ	淡褐色	良	S-1 石英	1/4	
14		壺	1N区 河道跡 中層	口径14.6 頸径10.8	外 ナデ 内 ナデ、ケズリ	褐色	並	S-1 シャーモット	2/3	擬凹線8条
15		壺 (台付)	1N区 河道跡 中層	口径9.5 頸径7.6 胴径13.4	外 ミガキ、ナデ、ミガキ 内 ミガキ、ミガキ+ケズリ	赤褐色	並	0	1/2	赤彩
16		結合器台	1N区 河道跡 中層	口径17.6	外 ミガキ 内 ミガキ	橙褐色	並	S-1	1/4	赤彩
17		高環 脚部	1N区 河道跡 中層		外 ミガキ 内 ケズリ	茶褐色	並	S-1 赤色粒	ほぼ 完	透孔4箇所
18		高環 脚部	1N区 河道跡 中層		外 ミガキ 内 絞り目、ハケ	橙褐色	良	S-1 海綿骨片	完	透孔4箇所
19		脚台部	1N区 河道跡 中層	底径7.4	外 ケズリ 内 ケズリ、ナデ	褐色	並	S-2 石英	ほぼ 完	
20		蓋	1N区 河道跡 中層	つまみ3.6	外 摩耗 内 ケズリか(摩耗) 外 ナデ、ミガキ	橙褐色	並	S-2 シャーモット S・M-1	1/3	
21		蓋	1N区 河道跡 中層	つまみ4.3 口径16.4	内 ミガキ、ナデ、ミガキ 外 ナデ、ハケ	褐色	並	S・M-2	1/4	
22		甕	1N区 河道跡 下層	口径16.6 頸径14.6	内 ナデ、ケズリ	褐色	並	S・M-3 石英 S-2	1/3	擬凹線3条
23		甕	1N区 河道跡 下層	口径17.6 頸径14.6	外 ナデ、ハケ 内 ナデ、ケズリ	淡褐色	並	M-1 S・M-2	1/3	擬凹線3条
24		甕	1N区 河道跡 下層	口径18.8 頸径15.5	外 ナデ 内 ナデ、ケズリ	褐色	並	S-3 赤色粒	1/4	擬凹線4条
25		甕	1N区 河道跡 下層	口径15.8 頸径12.6	外 ナデ 内 ナデ、ケズリ	橙褐色	並	S・M-1	小片	擬凹線5条
26		甕	1N区 河道跡 下層	口径20.0 頸径17.0	外 ナデ 内 ナデ、ケズリ	淡茶褐色	並	S-1 赤色粒	1/4	擬凹線5条
27		甕	1N区 河道跡 下層	口径19.4 頸径15.8	外 ナデ、ハケ 内 ナデ、ケズリ	淡褐色	並	S-1 赤色粒	小片	擬凹線6条 指頭圧痕
28		甕	1N区 河道跡 下層	口径19.0 頸径15.4	外 ナデ、ハケ 内 ナデ、ハケ、ケズリ	橙褐色	良	S-2 赤色粒	1/6	擬凹線9条 指頭圧痕

図 版 号	器 種	出土地点	法 量 (cm)	調 整	色 調	焼成	胎 土	遺存状態	備 考
第201 図 29	甕	1 N区 河道跡 下層	口径19.0 頸径15.0	外 ナデ、ハケ 内 ナデ、ケズリ	淡褐色	並	S-1 黒雲母少	小片	擬凹線 8 条 指頭圧痕
30	甕	1 N区 河道跡 下層	口径19.2 頸径15.6	外 ナデ、ハケ 内 ナデ、ハケ、ケズリ	淡橙褐色	良	S-2 黒色粒	1/4	擬凹線 6 条 指頭圧痕
31	甕	1 N区 河道跡 下層	口径20.8 頸径17.2	外 ナデ、ハケ 内 ナデ、ハケ、ケズリ	褐色	並	S-1	1/6	擬凹線 6 条 指頭圧痕
32	甕	1 N区 河道跡 下層	口径17.4 頸径14.7	外 ナデ、ハケ 内 ナデ、ハケ、ケズリ	橙褐色	並	M-1 海綿骨片多	3/4	擬凹線 8 本 指頭状圧痕
33	甕	1 N区 河道跡 下層	口径16.4 頸径13.6	外 ナデ、ナデ 内 ナデ、ケズリ	暗褐色	並	石英 S-1	1/6	
34	甕	1 N区 河道跡 下層	口径16.2 頸径14.8	外 ナデ、ハケ 内 ナデ、ケズリ	黒褐色	並	海綿骨片少	1/6	
35	甕	1 N区 河道跡 下層	口径15.6 頸径13.4	外 ナデ、ハケ 内 ナデ、ケズリ	褐色	並	0 黒雲母 S-1	1/6	
36	甕	1 N区 河道跡 下層	口径14.5 頸径12.4	外 ナデ、ハケ 内 ナデ、ケズリ	褐色	並	海綿骨片 黒雲母	1/4	
37	甕	1 N区 河道跡 下層	口径19.6 頸径16.2	外 ナデ 内 ナデ、ケズリ	淡褐色	良	S・M-2 黒雲母 0	小片	
38	壺	1 N区 河道跡 下層	口径18.7 頸径15.3	外 ナデ、ハケ 内 ナデ、ケズリ	褐色	並	黒色粒 0	完	
39	壺	1 N区 河道跡 下層	口径10.3 頸径6.7	外 ミガキ 内 ミガキ	橙褐色	並	黒雲母 S・M-2	完	
40	台付裝飾壺	1 N区 河道跡 下層	胴径16.0	外 ナデ、ミガキ 内 ミガキ	橙褐色	並	S-1 シャーモット	1/3	赤彩
41	底部	1 N区 河道跡 下層	底径3.7	外 ナデ、指押さえ、ケズリ 内 ミガキ	褐色 黒褐色	並	M-1	1/3	
42	高坏	1 N区 河道跡 下層	口径18.8	外 ミガキ(摩耗) 内 ミガキ	赤褐色	並	0	小片	
43	高坏	1 N区 河道跡 下層		外 ハケ→ミガキ 内 ハケ→ミガキ	淡褐色	並	S-1 シャーモット多	小片	
44	高坏	1 N区 河道跡 下層		外 ケズリ、ミガキ 内 みがき、ケズリ→ミガキ、ナデ	褐色	並	S-1	完	
45	脚部	1 N区 河道跡 下層		外 ミガキ 内 ケズリ→ナデ、ミガキ	橙褐色	並	M-1 シャーモット	1/3	透孔 3 箇所
第202 図 1	壺	1 S区 P86	口径12.8 頸径9.9 胴径15.3	外 ミガキ、ナデ、ミガキ 内 ミガキ	外 淡灰褐色 内 橙褐色	並	S-1	1/3	
2	器台	1 S区 P86	口径19.8 胴径4.7 底径12.0 器高14.8	外 ミガキ 内 ミガキ、ケズリ、ナデ、ミガキ	橙褐色	並	S-2 赤色粒 S-3	3/4	内・外面に煤付着
3	甕	2 N区 P89	口径19.8	外 ナデ 内 〃	褐色	やや 不良	M-2 黒色粒	小片	凹線 1 条 指頭圧痕
4	甕	2 N区 P91	口径16.4 頸径14.5	外 ナデ 内 ナデ	褐色	並	S-2 赤色粒	小片	擬凹線 8 条 指頭圧痕
5	甕	2 N区 P91	口径18.2 頸径15.2	外 ナデ、ハケ 内 ナデ、ハケ、ケズリ	橙褐色	並	S-2 シャーモット	小片	擬凹線 7 条 指頭圧痕
6	甕	2 N区 P91	口径21.4 頸径18.0	外 ナデ、ハケ 内 ナデ、ハケ、ケズリ	淡褐色	並	S-3 シャーモット	1/6	擬凹線 7 条 指頭圧痕
7	甕	2 N区 P91	口径19.4 頸径15.6	外 ナデ 内 ナデ、ハケ、ケズリ	淡褐色	並	S-3 シャーモット多	1/4	擬凹線 7 条 指頭圧痕
8	甕	2 A区 P108	口径15.7 頸径12.8	外 摩耗顕著 内 摩耗、ケズリ	橙褐色	並	S・M-3 シャーモット	1/4	擬凹線 4 条 指頭圧痕
9	甕	2 A区 P108	口径17.0 頸径14.2	外 摩耗顕著 内 摩耗顕著	橙褐色	並	0	小片	擬凹線 6 条
10	甕	2 A区 P108	口径18.4 頸径16.0	外 ナデ、摩耗 内 ナデ、ハケ、ケズリ	橙褐色	並	M-1 海綿骨片少	1/6	擬凹線 6 条

図番	版号	器種	出土地点	法量 (cm)	調整	色調	焼成	胎土	遺存 状態	備考
11		高坏	2 A区 P108	口径11.0	外 ミガキ 内 ミガキ、ケズリ	橙褐色	並	S-1 黒色粒	完	
12		高坏 (脚部)	2 A区 P108	底径12.2	外 ミガキ 内 ミガキ、ナデ、ミガキ→ナデ	褐色	並	S-1	小片	
第203 図 1		甕	3 A区 P111	口径33.8 頸径30.7	外 ナデ、ハケ 内 ナデ、ミガキ、ケズリ	褐色	並	0 石英	1/6	擬凹線7条 指頭圧痕
2		甕	3 A区 P111	口径16.4 頸径13.9	外 ナデ 内 ナデ、ケズリ	橙褐色	並	S・M-1 石英	小片	洗線1条
3		甕	3 A区 P111	口径14.3 頸径12.4	外 ナデ、ハケ 内 ナデ、ケズリ→ナデ	褐色	並	0 黒色粒多	小片	
4		甕	3 A区 P111	口径14.7 頸径12.6	外 ナデ、ハケ 内 ハケ、ナデ、ケズリ	淡褐色	並	S-1 赤色粒	小片	
5		甕	3 A区 P111	口径14.6 頸径13.2	外 ナデ 内 ナデ	茶褐色	並	S-3 赤色粒	小片	
6		高坏	3 A区 P111		外 ミガキ、ハケ→ミガキ 内 ミガキ	橙褐色	並	0	小片	
7		高坏 (脚部)	3 A区 P111	胴径3.2	外 ミガキ 内 ミガキ、ケズリ、ナデ	橙褐色	並	0 黒色粒多	ほぼ 完	
8		甕	3 A区 8号溝	口径14.4 頸径12.2	外 摩耗顕著 内 摩耗、ケズリ	橙褐色	並	S-2 シャーモット	小片	
9		甕	3 A区 8号溝	口径16.6 頸径13.2	外 ナデ、ハケ 内 ナデ、ケズリ	褐色	並	S・M-2 黒色粒	小片	擬凹線4条 指頭圧痕
10		甕	3 A区 9号溝	口径14.6 頸径10.9	外 ナデ 内 ナデ、ハケ、ケズリ	褐色	並	S-2 赤色粒少	1/6	
第204 図 11		壺	3 A区 7号溝	口径18.7 頸径14.8 胴径30.5	外 摩耗、ハケ 内 ナデ、摩耗、ナデ	外 橙褐色 内 淡褐色	並	S・M-1 黒色粒 S-3	2/3	内面胴部中程に指頭圧 痕
12		甕	3 A区 7号溝	口径15.6 頸径11.9 胴径15.5	外 ナデ、ハケ 内 ナデ、ハケ、ケズリ	褐色	並	石英 0 赤色粒	1/2	擬凹線8条か 指頭圧痕
13		底部	3 A区 7号溝	底径5.4	外 ミガキ 内 ナデ	褐色	並	S-1 黒色粒	小片	外底面ケズリ
14		甕	3 A区 7号溝	口径13.2 頸径11.3	外 ナデ 内 ナデ、ケズリ	暗茶褐色	並	0	1/6	
15		甕 (突帯)	3 A区 7号溝		外 ナデ、ミガキ	橙褐色	並	0	小片	上下より交互の斜行 キザミ
第205 図 16		甕	3 A区 P110	口径16.6 頸径13.2 胴径18.0 底径2.2 器高20.1	外 ナデ、ハケ 内 ナデ、ハケ、ケズリ	褐色	並	0 シャーモット 0	完	擬凹線7条 指頭圧痕
17		鉢	3 A区 P110	口径13.5 頸径11.3 胴径11.8	外 ナデ、ハケ 内 ナデ、ケズリ	褐色	並	M-1 黒色粒 S-1	2/3	
18		甕	3 A区 5号竪穴状遺構	口径13.2 頸径9.8	外 ナデ、ハケ 内 ナデ、ケズリ	淡褐色	並	S・M-1 黒雲母	1/6	
19		台付装飾壺	3 A区 5号竪穴状遺構	胴径14.0	外 ナデ 内 ナデ	褐色	並	S-1 シャーモット	小片	洗線上3条、下2条 ハの字状連続文
20		器台 (筒胴部)	3 A区 5号竪穴状遺構	胴径3.2	外 ミガキ 内 ミガキ、紋り目、ナデ	淡褐色	並	0 赤色粒	完	
21		蓋	3 A区 5号竪穴状遺構	つまみ3.4	外 ミガキ 内 ミガキ	褐色	並	0	1/3	
22		土錘	3 A区 5号竪穴状遺構	長さ(7.2) 径2.4	外 ミガキ→ナデ	淡灰褐色	並	0 赤色粒	完	孔径7mm
23		甕	3 A区 6号竪穴状遺構	口径18.6 頸径15.0	外 ナデ 内 ナデ、ケズリ	褐色	並	S-2 赤色粒	小片	擬凹線6条 指頭圧痕
24		甕	3 A区 6号竪穴状遺構	口径16.9 頸径13.8	外 ナデ、ハケ 内 ナデ、ハケ、ケズリ	橙褐色	並	黒色粒	1/4	擬凹線8条 小円・指頭圧痕
25		甕	3 A区 6号竪穴状遺構	口径15.2 頸径12.7 胴径18.1	外 ナデ、ハケ 内 ナデ、ハケ→ナデ、ケズリ	淡灰褐色	並	S-2 赤色粒	2/3	
26		壺	3 A区 6号竪穴状遺構	口径13.3 頸径10.4	外 ミガキ、ナデ 内 ミガキ	淡褐色	並	S-1	小片	
27		高坏 (柱状部)	3 A区 6号竪穴状遺構	胴径2.9	外 ミガキ 内 ミガキ、ケズリ→ナデ	〃	並	0 黒色色多	完	下部に2次加工、磨面 あり(打ち欠き6箇所)
28		高坏小	3 A区 6号竪穴状遺構	口径16.3	外 ミガキ 内 ミガキ	茶褐色	並	M-i 海綿骨片多	1/4	赤彩
29		甕	3 A区 包含層	口径16.8 頸径14.2 胴径17.6 底径2.0 器高20.8	外 ナデ、ハケ 内 ナデ、ケズリ	褐色	並	ほぼ 完		擬凹線8条 指頭圧痕

図番 版号	器種	出土地点	法量 (cm)	調整	色調	焼成	胎土	遺存 状態	備考
第205図 30	甗	3A区 包含層	口径(12.7) 頸径10.2 胴径12.3 底径1.8 器高(13.8)	外 ナデ、ハケ 内 ナデ、ケズリ	茶褐色	並	S-1	2/3	擬凹線現状で3条 指頭圧痕 外底面ケズリ
第211図 1	壺	2N区 15号住	頸径9.8 胴径21.0	外 ナデ、ナデ、ケズリ 内 ナデ、ナデ、ケズリ	灰色	良		体部 完	肩部灰かぶり
2	埴	2N区 16号住	口径16.2	外 ナデ、ミガキ 内 ナデ、ミガキ	灰色	良	M-3	1/4	
3	甗	2N区 16号住		外 ハケ 内 ナデ	褐色 灰褐色	良		1/3	
4	鍋 底部	2N区 16号住	底径9.8		淡橙褐色	良			底面糊痕
5	甗	1S区 5号溝		外 ナデ、櫛描波状文 内 ナデ	外 青灰色 内 淡灰色	良	S-3 M-1	少片	波状文9目
6	壺	1S区 5号溝		内 ナデ	外 青灰色 内 淡灰色	良	S-2 赤色粒少	少片	櫛状具押圧文 洗線1条
7	甗	2A区 6号溝	口径17.6 頸径16.7	外 ナデ、ナデ 内 ナデ、ハケ→ナデ	橙褐色	並	石英		
8	甗	2A区 6号溝	口径15.4 頸径13.4	外 ハケ、ハケ 内 ハケ、ナデ	褐色	並			
9	甗	2A区 6号溝	口径21.9 頸径14.0	外 ハケ 内 ハケ	橙褐色	並			
10	甗	2A区 6号溝	口径17.8 頸径15.3	外 ハケ、ナデ、ハケ 内 ハケ、ナデ、ハケ	橙褐色	並			
11	甗	3A区 10号溝	口径19.6 頸径17.6	外 ナデ、ハケ 内 ナデ、ケズリ	橙褐色	並		小片	
第212図 1	坏蓋	2N区 包含層	口径14.1	外 ナデ 内 ナデ	灰色	良			
2	坏蓋	2N区 包含層	口径14.0		青灰色	良			
3	埴	2N区 包含層	底径3.4		外 淡紫褐色 内 灰釉	良			
4	埴	2N区 包含層	口径12.8		灰釉				
5	坏	2S区 包含層	口径11.4 底径5.9 器高3.3	外 ナデ 内 ナデ	灰色	良			
6	坏	2S区 包含層	口径11.3 底径6.4 器高2.9	外 ナデ 内 ナデ	明灰色	並			
7	坏	2S区 包含層	底径9.7	外 ナデ 内 ナデ	外 暗灰褐色 内 灰褐色	良			外面自然釉付着
8	坏	2A区 包含層	底径5.0	外 ナデ 内 ナデ	灰褐色	並			
9	坏	2A区 包含層	口径12.0 底径8.3 器高3.3	外 ナデ 内 ナデ 底面ハケ目め残る	灰褐色	良			
10	坏	2A区 包含層	口径12.8 底径(5.5) 器高(3.8)	外 ナデ 内 ナデ	明灰褐色	並			
11	坏	2A区 包含層	底径5.0	外 ナデ 内 ナデ	灰褐色	良			
12	坏	2A区 包含層	底径9.4	外 ナデ 内 ナデ	青灰褐色	良			
13	壺	2A区 包含層	口径12.0	外 ナデ 内 ナデ	灰褐色	並			
14	坏	3A区 包含層	口径11.6 器高2.8	外 ナデ 内 ナデ	灰褐色	並			
15	坏	3A区 包含層	口径13.0 器高2.9	外 ナデ 内 ナデ 底面ケズリ	灰褐色	並			
16	壺	3A区 包含層	頸径13.9 胴径13.5		灰褐色	並			
17	おろし皿	3A区 包含層	底径4.5	外 ナデ 底面回転糸切り痕	褐色	良			瀬戸美濃 外面スス付着

第5章 御経塚遺跡出土の石器の石器圏についての考察

藤 則雄 (金沢大学教授)

はじめに

野々市町御経塚遺跡ツカダ地区(第16次調査)から出土した約300点に及ぶ石器について、その石質(石材)を鑑定した。

原始人達が生活の道具として使用した土器と共に石器は、彼等にとっては生活してゆくうえで必需品であったに違いない。従って、石器を製作するために必要な石材を求めるに一日の労働時間の幾分かをさいて探し求め、そして得られた石材から、その石材に適した石器の製作のために稼働したに違いない。石材獲得のためには、可能な限り生活の場の最寄りにその適地を求めたり、得られぬ石材の場合には、硬玉(ヒスイ)の例のように、近辺集落との交易によって物々交換して得られたであろう可能性もある。

ともあれ、原始人達の生活の場からの石器の石材を調査することによって、当時の生活圏・石器圏が推察できるのである。石器圏を考察するには、玉類・磨製石斧・石棒・石刀等の石材を調査することが必要となる。また、その遺跡がかつて裕福な集落であったか否か、更に、当時の生活圏の中で重要な集落であったか否かを検討するにも玉類・磨製石斧等の石材を調べると判る。

1 磨製石斧

本遺跡からの石質の種類には5種類ある。濃飛流紋岩等(白亜紀後期~古第三紀)の凝灰岩類が4点で、新第三系の緑色凝灰岩と共に最多石質である。総じて、凝灰岩類が全体の90%にも達する。何れの石材の源石も手取川流域に分布するが、本遺跡跡の立地する手取川扇状地にある原地性の石材である。

表1 磨製石斧の石質と分布地

石質	個数(個)	頻度(%)	最寄りの分布地
凝灰質砂岩	1	8.3	手取川中流
凝灰岩	2	16.7	手取川中流
緑色凝灰岩	4	33.3	手取川中流
濃飛流紋岩類	4	33.3	手取川中流
珪質岩	1	8.3	手取川中流
計	12	100	

2 打製石斧

表2に示すように、10種類の石質によりなる。これ等の中で最多石材は、火山礫凝灰岩類の22点・約45%である。これに次いで変朽安山岩類の9点(約20%)である。何れの石材も手取川流域一帯に分布するが、本遺跡が立地する手取川扇状地を構成する礫として多数存在する石材である。

表2 打製石斧の石質と分布地

石質	個数(個)	頻度(%)	最寄りの分布地
角閃石安山岩	1	2	手取川中流・直海谷川
変朽安山岩	9	18	手取川中流・直海谷川
石英安山岩	2	4	手取川上流
玢岩	2	4	手取川上流・直海谷川上流
凝灰岩	1	2	手取川中流
緑色凝灰岩	4	8	手取川中流
火山礫凝灰岩	22	44	手取川中流
変質凝灰岩	4	8	手取川中流
細粒砂岩(中生代)	2	4	手取川上流
中粒砂岩(中生代)	3	6	手取川上流
計	50	100	

3 石皿

石皿は4種類の石材よりなる。何れの石材も手取川中・上流域とその支谷一帯に広く分布している石材である。石皿は、その大きさが大きく、本遺跡近辺に分布する礫を利用したものと推察される。

4 砥石

石質は3種類あるが、何れも中生代手取層群の砂岩系の岩石である。粒径が岩石により、それぞれに揃っていることと採取しやすいことによって、利用されたのであろう。これ等の岩石は、何れも手取川扇状地の構成礫層中に多く含まれている。

表3 石皿の石質と分布地

石質	個数(個)	頻度(%)	最寄りの分布地
玢岩	1	20	手取川上流・直海谷川
粗粒砂岩(中生代)	1	20	手取川上流
中粒砂岩(中生代)	1	20	手取川上流
凝灰岩	2	40	手取川上流
計	5	100	

表4 砥石の石質と分布地

石質	個数(個)	頻度(%)	最寄りの分布地
粘板岩質砂岩	2	20	手取川上流
中粒砂岩(中生代)	6	60	手取川上流
粗粒砂岩(中生代)	2	20	手取川上流
計	10	100	

5 凹石・磨石

石質は8種類の多くに及ぶが、類型化すると、安山岩類・手取層群の砂岩・凝灰岩類の3つに大別することができる。何れの岩石も手取川流域に分布し、且つ手取川扇状地に分布する礫であり、異地性の石材はない。

6 石錘

石質としては、白山々系のいわゆる第四紀火山を構成する角閃石安山岩類と中生代手取層群の砂岩類である。何れも手取川上流域に分布する岩石である。

表5 凹石・磨石の石質と分布地

石質	個数(個)	頻度(%)	最寄りの分布地
角閃石安山岩	1	2.8	手取川中流・直海谷川
変朽安山岩	1	2.8	手取川中流・直海谷川
細粒砂岩(中生代)	3	8.3	手取川上流
中粒砂岩(中生代)	11	30.5	手取川上流
粗粒砂岩(中生代)	13	36.1	手取川上流
緑色凝灰岩	4	11.0	手取川中流・能美丘陵
白色凝灰岩	1	2.8	手取川中流
軽石凝灰岩	2	5.6	手取川中流・能美丘陵
計	36	100	

表6 石錘の石質と分布地

石質	個数(個)	頻度(%)	最寄りの分布地
角閃石安山岩(第四紀)	1	16	手取川上流(白山々系)
細粒砂岩(中生代)	2	28	手取川上流
中粒砂岩(中生代)	2	28	手取川上流
粗粒砂岩(中生代)	2	28	手取川上流
計	7	100	

7 かつお節型石器

石質は、緑色凝灰岩1点、細粒砂岩(中生代)1点、白色凝灰岩1点、及び凝灰質砂岩1点である。何れの石材も手取川扇状地に分布している。

表7 かつお節型石器

石 質	個数(個)	頻度(%)	最寄りの分布地
細粒砂岩(中生代)	1	25	手取川上流
凝灰質砂岩	1	25	手取川中流
緑色凝灰岩	1	25	手取川中流
白色凝灰岩	1	25	手取川中流
計	4	100	

8 おいねずみ形石製品

石材は新第三紀の凝灰岩に属し、その分布は手取川中流域であるが、その礫は手取川扇状地にも分布している。

表8 おいねずみ形石製品

石 質	個数(個)	最寄りの分布地
緑色凝灰岩	1	手取川中流
白色凝灰岩	1	手取川中流
計	2	

9 石棒・石剣・石刀

石材は9種で、大別すると片麻岩類1点(5%)、中生代手取層群の堆積岩類3点(15%)、粘板岩(古生代)7点(35%)、凝灰岩類7点(35%)、及びその他である。

粘板岩(古生代)は九頭竜川上流または新潟・富山県境に分布する、いわゆる異地性の岩石であるが、他の岩石は何れも手取川上～中流である。比較的硬い石材であるので、手取川扇状地にも広く分布している。

10 玉類

石材は6種で、表10に示すように含硬玉珪質岩の7点(約55%)が最高頻度である。この石材は、新潟県青海川に分布する。異地性の岩石である。他に古生代の粘板岩が1点ある。他の石材は何れも手取川中・上流域に分布し、その礫は、本遺跡が立地する手取川扇状地を構成している。

表9 石棒・石剣・石刀の石質と分布地

石 質	個数(個)	頻度(%)	最寄りの分布地
粘板岩	7	35	九頭竜川上流・青海川
黒色頁岩(中生代)	2	10	手取川上流
泥岩	2	10	手取川中流
細粒砂岩(中生代)	1	5	手取川上流
凝灰岩	1	5	手取川中流
緑色凝灰岩	2	10	手取川中流
白色凝灰岩	3	15	手取川中流
変質凝灰岩	1	5	手取川中流
片麻岩	1	5	手取川上流
計	20	100	

表10 玉類の石質と分布地

石 質	個数(個)	頻度(%)	最寄りの分布地
粘板岩	1	8	九頭竜川上流・糸魚川
石灰質岩	1	8	手取川上流
ロウ石質岩	1	8	倉ヶ岳・能美丘陵
火山礫凝灰岩	1	8	手取川中流
珪質岩	2	15	手取川中流
含硬玉珪質岩	7	53	新潟県青海・糸魚川
計	13	100	

11 石冠

石材の種類は5種類で、表11に示すように、シルト岩（中生代）1点（14%）、粗粒砂岩（中生代）2点（28%）、凝灰岩類4点（56%）である。何れの石材も手取川中・上流に分布している岩石である。

12 磨製石斧（小型）

石質は4種類にすぎないが、1点を除きすべて異地性の石材である黒色頁岩（古生代）、輝緑凝灰岩、及び細粒砂岩（古生代）である。

表11 石冠の石質と分布地

石 質	個数(個)	頻度(%)	最寄りの分布地
シルト岩(中生代)	1	14	手取川上流
粗粒砂岩(中生代)	2	28	手取川上流
凝灰岩	1	14	手取川中流
緑色凝灰岩	2	28	手取川中流
白色凝灰岩	1	14	手取川中流
計	7	100	

表12 磨製石斧（小型）の石質と分布地

石 質	個数(個)	頻度(%)	最寄りの分布地
珪化白色凝灰岩	1	25	手取川中流
黒色頁岩(古生代)	1	25	九頭竜川上流・青海川
輝緑凝灰岩	1	25	九頭竜川上流・青海川
細粒砂岩(古生代)	1	25	九頭竜川上流・青海川
計	4	100	

13 石錐

石質は、輝石安山岩・フリント・凝灰岩の3種で、何れの石材も原地性である。

14 スクレイパー（石匙）

石質は輝石安山岩に限定される。

表13 石錐の石質と分布地

石 質	個数(個)	頻度(%)	最寄りの分布地
輝石安山岩	19	71	手取川上流
フリント	8	25	手取川上流
凝灰岩	1	4	手取川上流
計	28	100	

表14 スクレイパー（石匙）の石質

石 質	個数(個)	頻度(%)	最寄りの分布地
輝石安山岩	2	100	手取川中流

表15 石鏃の石質と分布地

石 質	個数(個)	頻度(%)	最寄りの分布地
フリント	19	25.3	手取川中流
輝石安山岩	49	65.3	手取川中流
玉ずい	1	1.3	手取川中流
メノウ	3	4.0	手取川中流
珪化凝灰岩	2	2.4	手取川中流
細粒砂岩(中生代)	1	1.3	手取川上流
計	75	100	

15 石鏃

石質の種類は6種類に及ぶが、何れも手取川流域に分布し、それ等の礫は、手取川扇状地の構成礫の中に散見できる石である

第6章 まとめ

ここでは御経塚遺跡ツカダ地区である第3・4章の調査を一括し、集落の状況を若干検討してまとめにしたい。調査区が南北に長いので、便宜上、第3章調査地は北部調査区、第4章調査地を南部調査区として記述を進めたい。

縄文時代

今回の調査によって環状集落とされる遺跡東部の分布範囲を概ねおさえることができた。分布は1983年報告書に提示された範囲を若干越えることになるが、この地区では晩期後葉に集落の新たな展開が想定される。北部調査区の東河道跡や南部調査区の2S区東端付近が分布の東限と考えられる。

南部調査区で17・19・20号住居を検出した。1N区では20号住居と同様な半截木柱の痕跡を残す柱穴を検出しており住居立地の可能性をもつ地区である。19・20号住居は柱穴が円形に配置されるもので本遺跡（野々市教委1983）や新保本町チカモリ遺跡（南1983）に類例が見られる。木柱根を多数検出した新保本町チカモリ遺跡（以下チカモリ遺跡と略す。）と比較してみたい。チカモリ遺跡の建物は、集落の中心位置に占地し木柱根の大きい「特殊家屋」と、これを環状に取り囲む「一般家屋」に区分されている。「一般家屋」の木柱根は、直径4.2～5.8mの規模に円形配置され、円形プランの「特殊家屋」では直径が5.6～8mの範囲となつて一回り規模を大きくする傾向が認められる。19・20号住居は集落の中心を外れた東部に位置し、直径は5号が5.8m、6号が約5mであることから「一般家屋」に属し、いわゆる通常の住居に相当するものである。

17号住居は略長方形プラン2×1間の柱穴配置を採るもので、チカモリ遺跡に規模3.5×5mの「長方形プラン家屋址」として1例見られるが、この建物は「特殊家屋」とされている。平面規模では3号住居がやや小さいだけでほとんど同級の建物であるが、集落での位置や柱穴の掘方が小さいことから同類には扱えないものである。やはり通常の住居に属するものであろう。

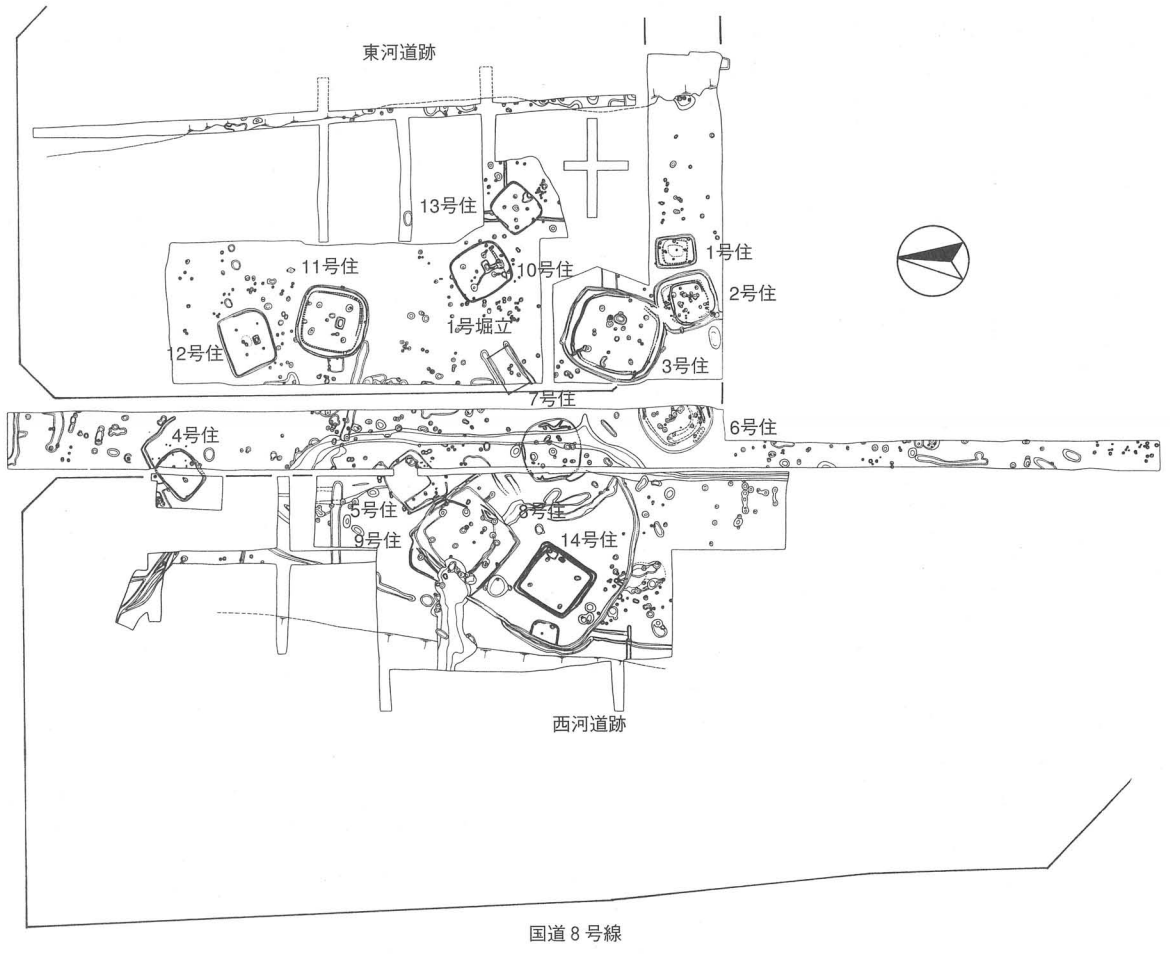
住居の柱穴配置には円形と略長方形の2種が認められた。時期差か系統の違いかなど検討課題が残る。また住居の基盤方法においても、竪穴式あるいは平地式となるものかは現在のところ不明としか言わざるを得ない。

出土土器の下限から各遺構の時期を土器型式に置換え以下に整理した。

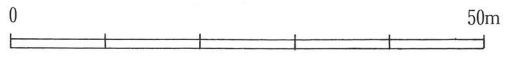
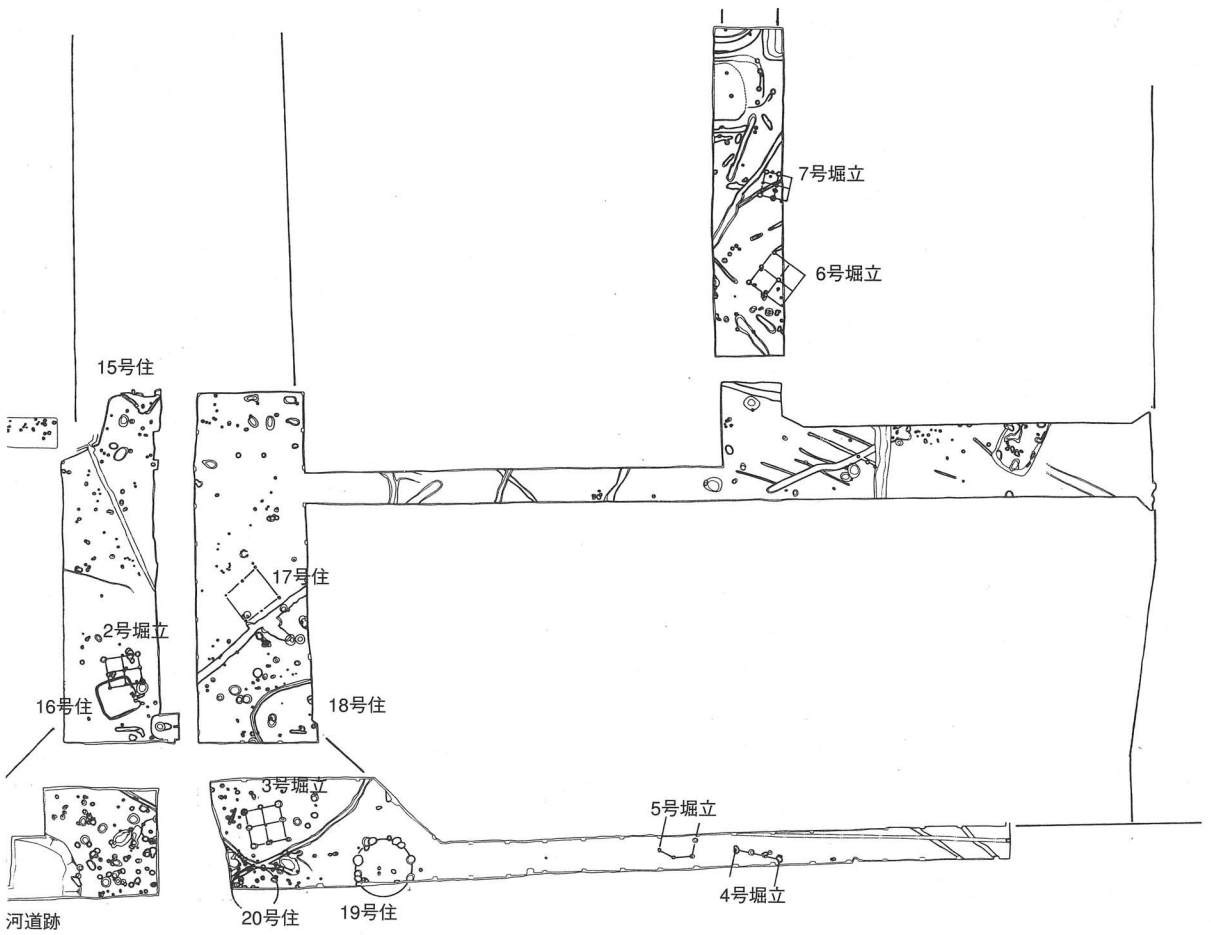
北部調査区 P06・07・20～22・30～32・1号土器棺 下野

南部調査区 1N区

P38 井口Ⅱ	P39 酒見	P40 井口Ⅱ	P41 井口Ⅱ	P42 井口Ⅱ
P43 井口Ⅱ	P44 井口Ⅱ	P45 井口Ⅱ	P46 不明	P47 八日市新保
P48 井口Ⅱ	P49 下野	P50 中屋	P51 不明	P52 井口Ⅱ
P53 八日市新保	P54 中屋	P55 中屋	P56 中屋	P57 中屋
P58 不明	P59 井口Ⅱ	P60 下野	P61 井口Ⅱ	P62 不明
P63 不明	P64 中屋	P65 下野	P66 下野	P67 中屋
P68 不明	P69 井口Ⅱ	P70 中屋	P71 井口Ⅱ	P72 不明
2号竪穴状 井口Ⅱ	2号土器棺 下野?	落込み状 井口Ⅱ		



第213図 御経塚遺跡ツカダ地区調査区全体図 (1/800)



1S区

19号住居 中屋~下野	20号住居 下野	P74 中屋	P75 中屋	P76 中屋
P77 中屋	P78 下野	P79 下野	P80 下野	P81 井口Ⅱ
P82 八日市新保	P83 御経塚	P84 八日市新保	P85 下野	

2N区

3号竪穴 井口Ⅱ
P87 井口Ⅱ
P88 井口Ⅱ

2S区

P92 下野	P94 下野	P96 下野	P97 御経塚?
P98 中屋	P100 不明	P101 下野	P102 下野
P103 中屋	P104 不明		

3A区

P109 下野

遺構は、時期によって分布地区を異なるものとしている。井口Ⅱ式期の遺構は1N区に集中し、1S・2N区での遺構も1N区に近接して分布するもので、1N区の遺構と共に一つの群を構成している。比較的検出数の少ない八日市新保式期、御経塚式期の遺構と中屋式期の遺構は、1N・1S・2S区で井口Ⅱ式期と同様な分布傾向となる。下野式期の遺構は北部調査区と1N区と近接する地点の1S区、そして2S区の3地区に分かれた広範囲に分布が認められる。各型式期の遺構分布と包含層から出土する同時期の土器量は、遺構分布密度と出土量が比例する密接な関係となっている。この関係は、集落内の生活地点を時期によって異にしていた状況を示すものと考えられよう。

とくに、下野式後半期の土器分布は、北部調査区・2S区・2A区3A区の接する付近、この3地区に集中が見られ、弥生時代前期の柴山出村式土器と分布が重なることや遺構密度の少ない地区で分布する点に注意したい。国道8号線西側の調査地では柴山出村式土器が確認されていないことから、集落東端部となるツカダ地区におけるこの状況は、縄文時代晩期末頃に集落構造の新たな変化が始まったことを推測させるものである。そして、西日本の影響を色濃く受ける凸帯文系土器と刳圧痕をもつ浅鉢第155図17の出土は、次に迫る水田稲作を基調とする弥生文化の萌芽を窺い知るもので、大きな変化への胎動として捉えられよう。

弥生時代以降

北部と南部の調査区で少量の柴山出村式土器を検出したが、遺構は不明な状況である。縄文土器と混在するなか先学の編年研究をもとに分離したが、理解不十分のため判断に迷ったことは確かである。矛盾の点は御寛容願いたい。遠賀川系土器第20図5・190図14の波及は先に述べたように先行段階で既に受容の下地が整っていたことを物語るものである。壺第190図7の口縁部には明瞭な刳圧痕があり、刳は短粒のジャポニカ種と考えられ、また先の縄文時代晩期の鉢、第170図10の底部、古墳時代後期の底部第211図4に残る刳圧痕も同種と思われる。

南部調査区2S区では新たに弥生時代後期の18号竪穴住居1棟を検出した。この住居だけの単独棟には疑問を有するものがあり、この地区に住居群の存在を推定するものである。北部調査区の竪穴住居を含め住居の検出は計11棟となった。当該期の遺構は、北部調査の住居群、3A区の5・6号竪穴状遺構やあすなる団地地区での竪穴住居の検出など広範囲の分布が確認されており、西河道と東河道に挟まれた微高地上に幾つかの群を形成して居住していたものと考えられる。古墳時代初頭では北部調査区の竪穴住居2棟と掘立柱建物1棟のグループが確認されるにすぎない。

6世紀後半～7世紀の古墳時代後期では、北部調査区で竪穴住居1棟、南部調査区で竪穴住居2

棟、掘立柱建物6棟を検出している。掘立柱建物の時期は調査区の遺物から7世紀代に収まるものと判断している。建物について下表にまとめた。このなかで16号住居は6世紀代のものと考えている。

ツカダ地区古墳時代後期建物一覧 () 内は推定値

遺構	桁×梁	規模(m)	桁柱間(m)	梁柱間(m)	面積(m ²)	軸方位	柱穴
5号住居	外柱2×2	外柱5.5×4.2	2.8・2.7	2.0・2.2	23.1	N43° W	外周主柱方式の竪穴
		竪穴5.7×4.8			25.3		
15号住居		?×3.5				N34° E	不明
16号住居		4.1×3.9			15.0	N63° E	不明
2号掘立	2×2(東)	3.5×3.0	1.9・1.6	1.4・1.6	10.5	N12° W	略円・略方
3号掘立	2×2(東)	3.8×3.8	2.0・1.8	1.9・1.9	14.4	N15° W	略円・略方
4号掘立	?×3	?×3.9		1.7・1.5・1.6		N81° W	略円
5号掘立	?×2	?×4.6		1.7・1.9		N81° W	略円
6号掘立	2×2(総)	4.3×4.0	2.3・2.0	2.0・2.0	17.2	N37° E	略円
7号掘立	2×2(総)?	2.6×(2.6)	1.35・1.25	1.3・(1.3)	(6.8)	N80° W	略円

掘立柱建物6棟のうち2・3・6・7号の4棟が倉庫様の2×2間構造となる。いずれも建物の中心に柱穴をもつが、2・3号掘立柱建物の柱穴は浅く東柱構造になるものと考えられる。住居と推定する建物は、桁行規模の不明な4号・5号掘立柱建物があり、面積は20~30m²であろう。4号掘立柱建物は棟持柱が外側に位置し、5号掘立柱建物とは構造が若干異なるものである。

次に建物の軸方位によって整理してみたい。掘立柱建物は、A群(2・3号掘立)、B群(4・5・7号掘立)、C群(6号掘立)の3群に分けられる。竪穴住居の方位は90度の補正を加えるとN34~63°Eの範囲に収まるものである。このなかで、15号住居の方位はC群の6号掘立柱建物と近似している。現時点では、掘立柱建物のA~C3群から最低3段階の時期区分を想定するものである。しかし、竪穴住居と掘立柱建物が併存したか否かは不明である。

最後にあすなる団地地区(旧御経塚B遺跡)の掘立柱建物を下表に紹介しておく。

あすなる団地地区掘立柱建物一覧(御経塚B遺跡第2次調査)(湯尻1983、第14表改変加筆)

遺構	桁×梁	規模(m)	桁柱間(m)	梁柱間(m)	面積(m ²)	軸方位	柱穴形
Ⅱ-1	4×2	7.0×3.6	1.75	1.8	25.2	N10° E	
Ⅱ-2	4?×2	?×4.0		2.0		N5° E	
Ⅱ-3	4×3	6.0×4.2	1.5	1.4	25.2	N25° E	円形
Ⅱ-4	2×2(東)	4.0×3.6	2.0	1.8	14.4	N15° E	円形
Ⅱ-5	3×2	4.5×3.6	1.5	1.8	16.2	N10° E	
Ⅱ-6	2×2(東)	4.0×4.0	2.0	2.0	16.0	N36.5° E	
Ⅱ-7	3×2	5.8×4.0	1.93	2.0	23.2	N10° E	
Ⅱ-8	4×2	6.4×4.2	1.6	2.1	26.88	N42° E	

建物の構造や規模はツカダ地区と同様な傾向を示し、極端な例は認められない。軸方位はB群と一致するⅡ-1・5・7と近似するⅡ-2~4、C群に一致するⅡ-6があり、A群に相当する建物は見られない。遺構の分布状況は知らないが、軸方位の一致する建物はツカダ地区の建物と併存した可能性をもつものであろう。

引用・参考文献

- 石川県石川郡押野村史編集委員会 1964 「石川県押野村史」
- 石川日出志 1985 「中部地方以西の縄文晩期浮線文土器」『信濃』第52号 信濃考古学会
- 小島俊彰 1981 「井口式土器」『縄文文化の研究4』雄山閣
- 酒井重洋 1976 「上市町丸山眼目新丸山A遺跡」『大境』第6号 富山県考古学会
- 高堀勝喜他 1983 『御経塚遺跡』野々市町教育委員会
- 田嶋明人 1988 「古代土器編年軸の設定」『シンポジウム 北陸の古代土器研究の現状と課題』石川考古学研究会・北陸古代土器研究会
- 田嶋明人他 1986 『漆町遺跡 I』石川県立埋蔵文化財センター
- 土肥富士夫・久田正弘 1986 『小島六十刈遺跡』七尾市教育委員会
- 野々市町教育委員会 1984 『御経塚ツカダ遺跡』
- 野々市町教育委員会 1983 『史跡御経塚遺跡—保存整備報告書—』
- 橋本 正・酒井重洋・久々忠義 1980 『富山県井口村井口遺跡発掘調査概要』井口村教育委員会
- 久田正弘他 1988 『八田中遺跡』石川県立埋蔵文化財センター
- 西野秀和 1983 『上田うまばち遺跡』押水町教育委員会・石川考古学研究会調査団
- 増山 仁 1987 『金沢市矢木ジワリ遺跡・矢木ヒガシウラ遺跡』金沢市教育委員会
- 南 久和 1983 『金沢市新保本町チカモリ遺跡 —遺構編—』金沢市教育委員会
- 南 久和他 1986 『金沢市新保本町チカモリ遺跡 —第4次発掘調査兼土器編—』金沢市教育委員会
- 谷内尾晋司 1983 「北加賀における古墳出現期の土器について」『北陸の考古学』石川考古学研究会
- 湯尻修平 1983 「柴山出村式土器について」『北陸の考古学』石川考古学研究会々誌第26号
- 湯尻修平 1983 「加賀・能登における掘立柱建物の類型と性格」『東大寺横江荘遺跡』松任市教育委員会・石川考古学研究会



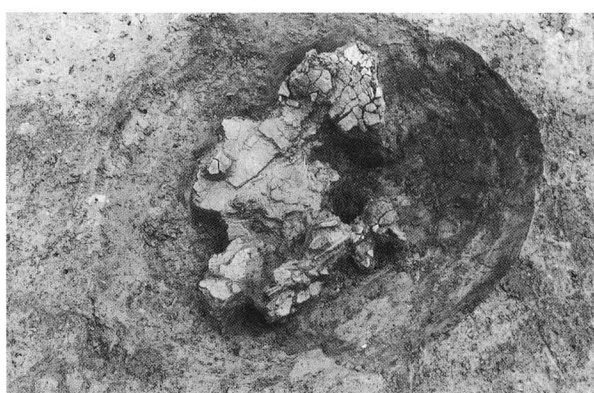
P06



P22



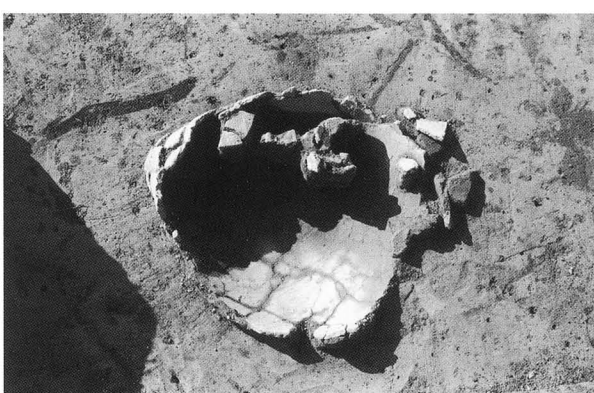
P07



P30



P20



1号土器棺



P21



東河遺跡 (14次・西より)



西河道跡 (20次・北より)



西河道跡縄文土器出土状況



西河道跡Eトレンチ



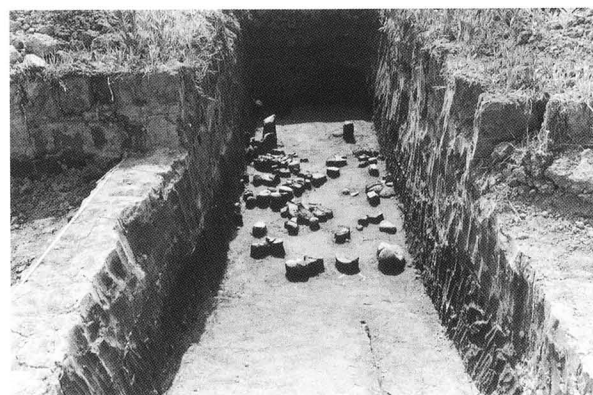
同上 (11図6の上に重なる13図17)



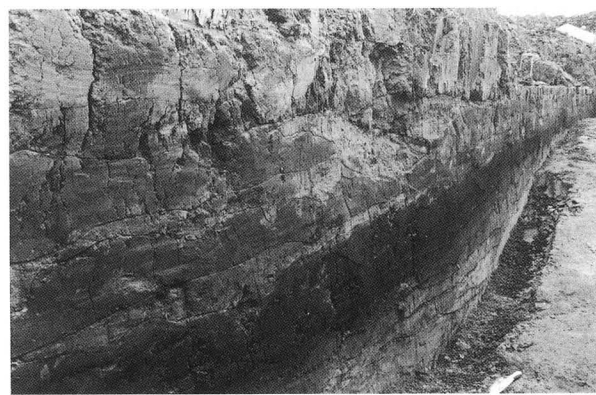
同上



同上 (11図6)



西河道跡Hトレンチ



Hトレンチ土層状況



8-1



8-2



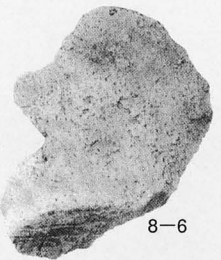
8-3



8-4



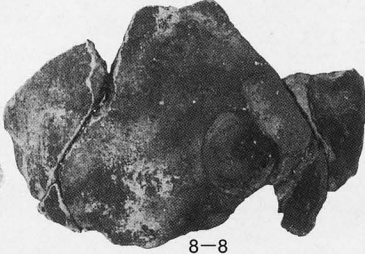
8-5



8-6



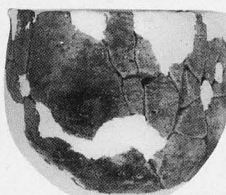
8-7



8-8



8-9



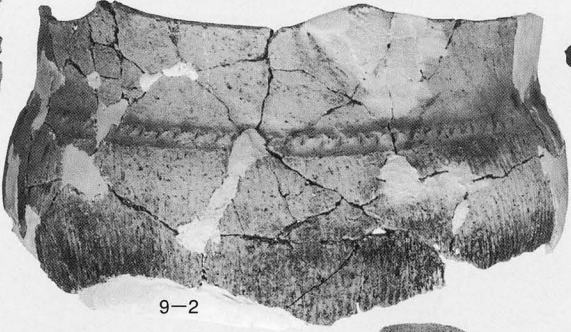
8-10



8-11



9-1



9-2



9-3



9-4



9-5



9-6



9-8



11-1



11-2



11-3



11-4



11-5



11-6



11-7



11-8



12-12



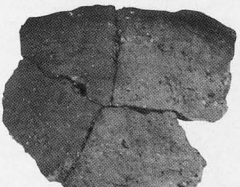
11-9



11-10



11-11



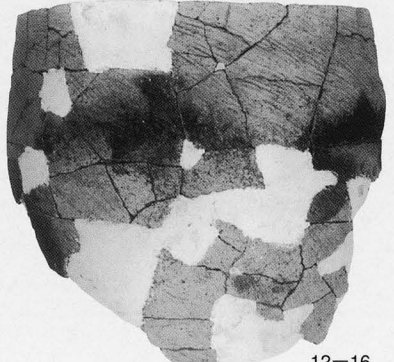
12-13



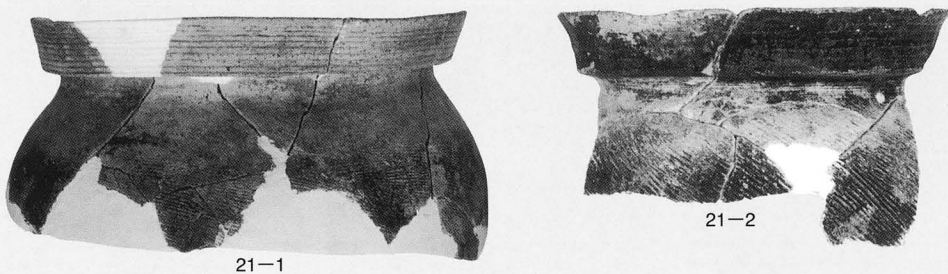
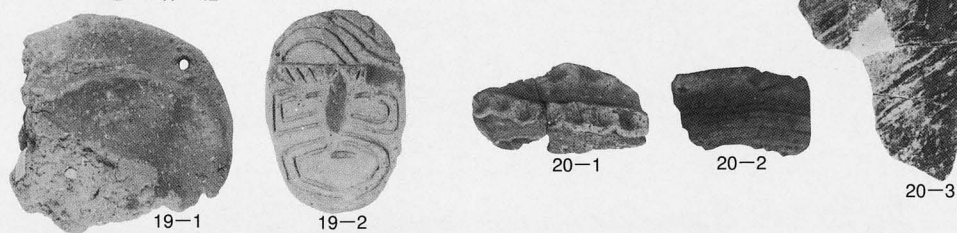
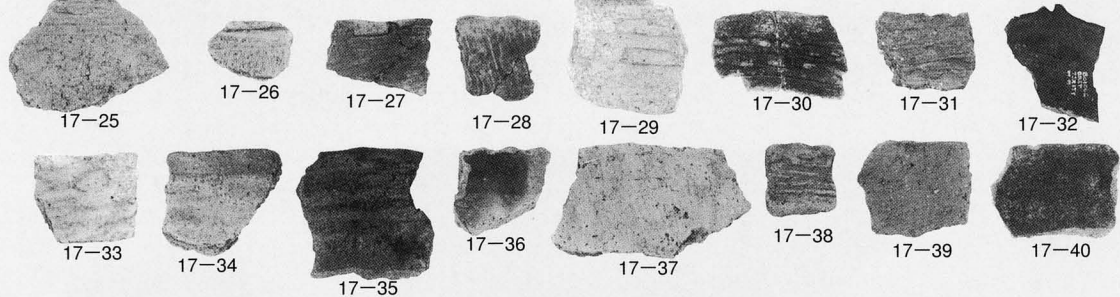
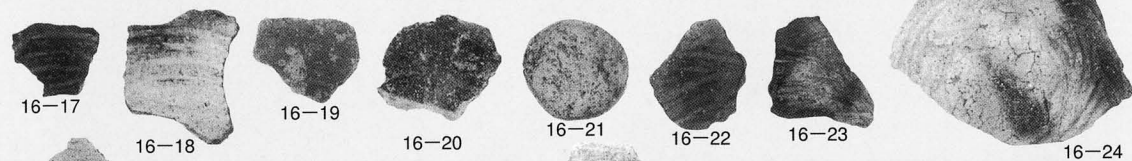
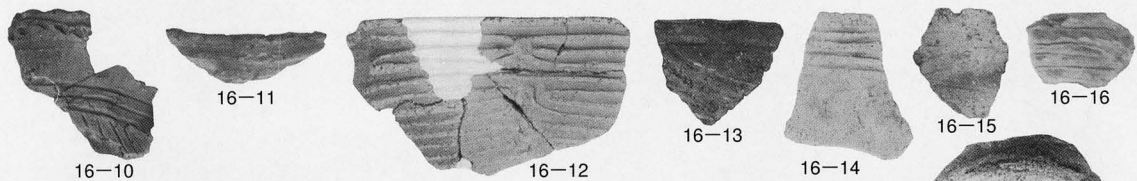
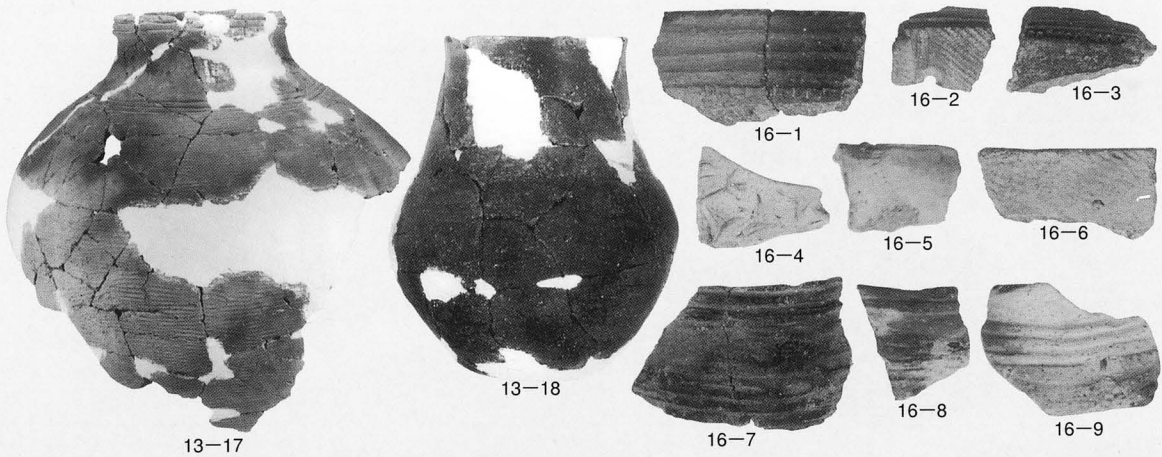
12-14



12-15

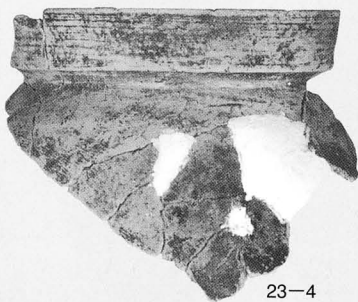


12-16





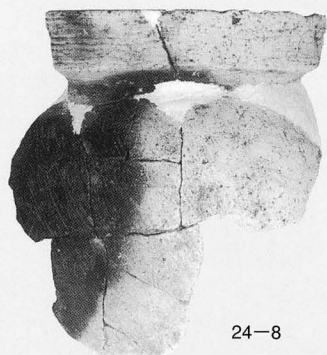
23-1



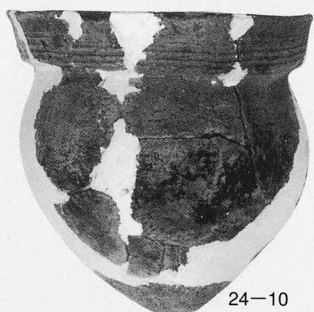
23-4



23-5



24-8



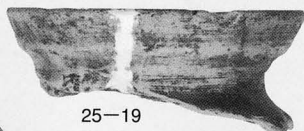
24-10



24-12



25-18



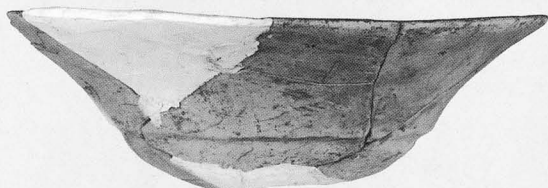
25-19



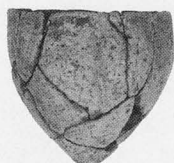
25-24



26-31



26-26



26-33



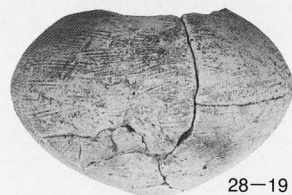
27-1



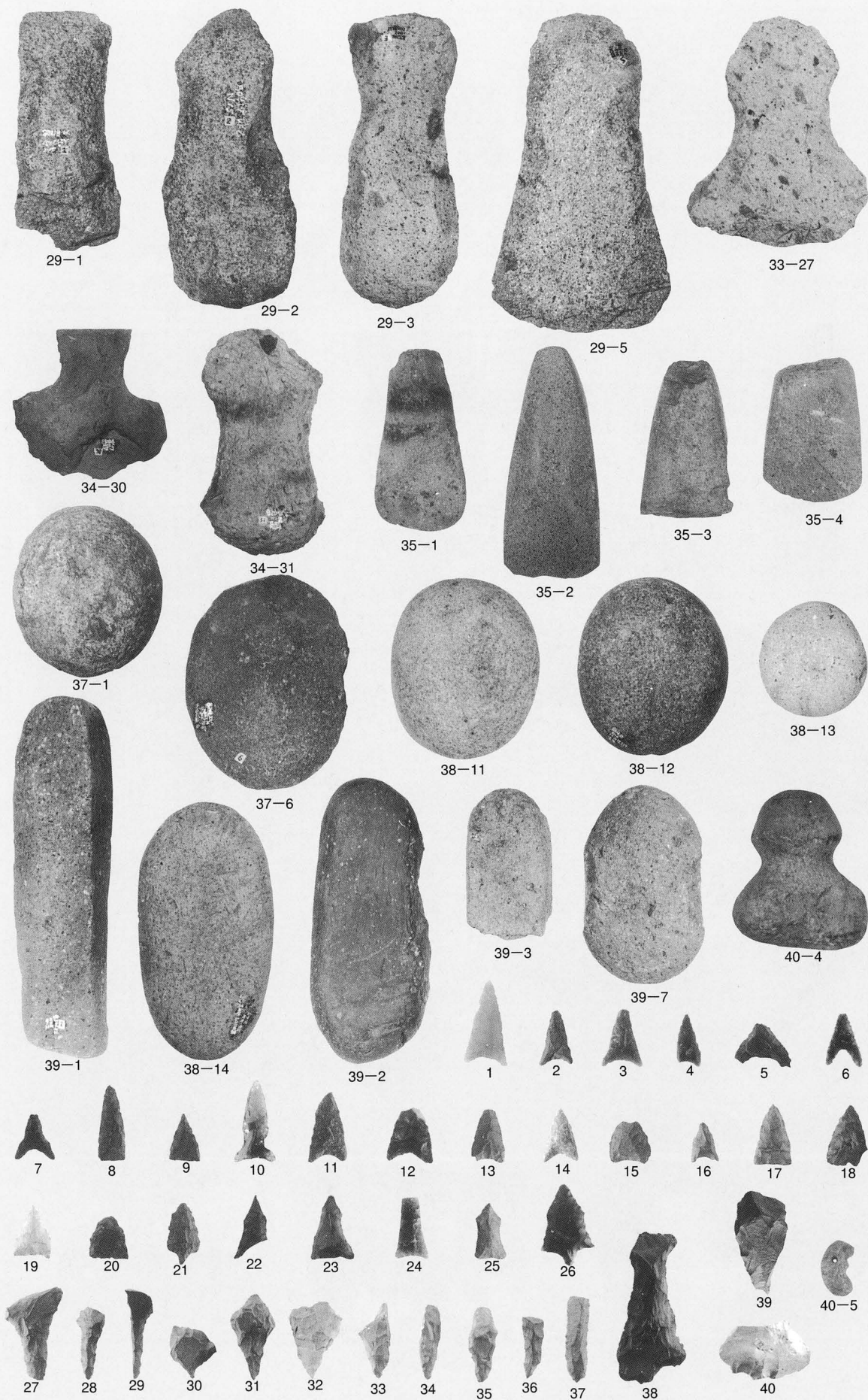
27-7



28-14



28-19

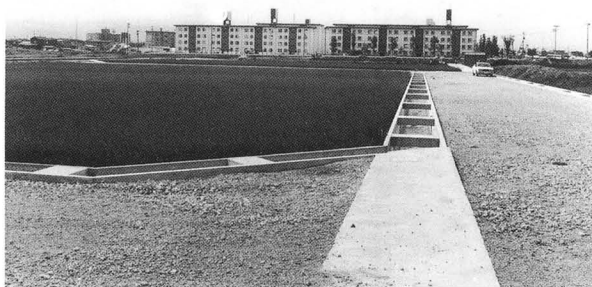




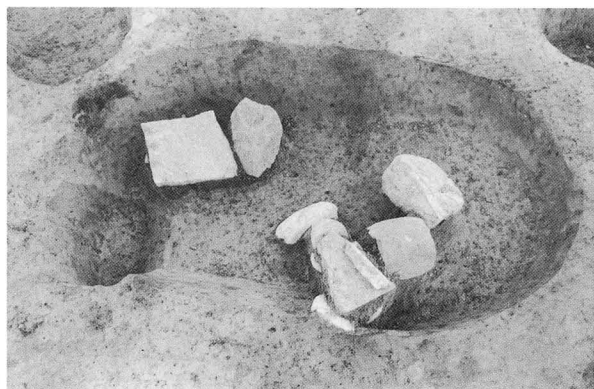
遺跡遠景（北より）



1N区P46



遺跡近景（北より）



1N区P59



1N区近景（西より）



1N区P67



1N区2号竪穴状遺構・落ち込み状（南より）



1N区2号土器棺



1N区1号埋甕



1S区19号住居（北より）



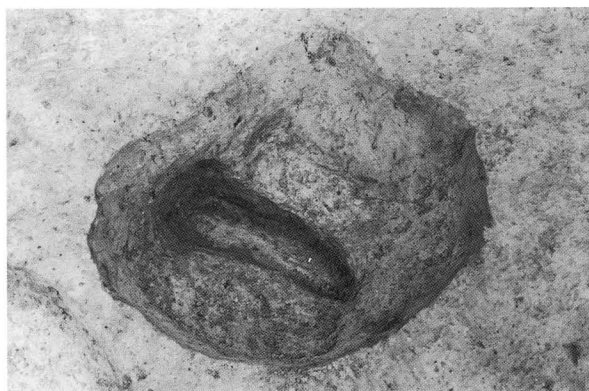
1N区河道跡（北西より）



1S区20号住居（東より）



1N区P73



20号住柱穴 P 1（半截木柱の痕跡）



1S区3号掘立柱建物と5号溝（北より）



1S区P85



1S区P86



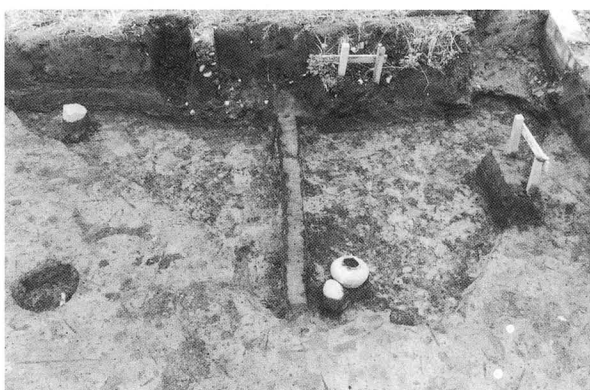
2N区16号住居



2N区近景 (西より)



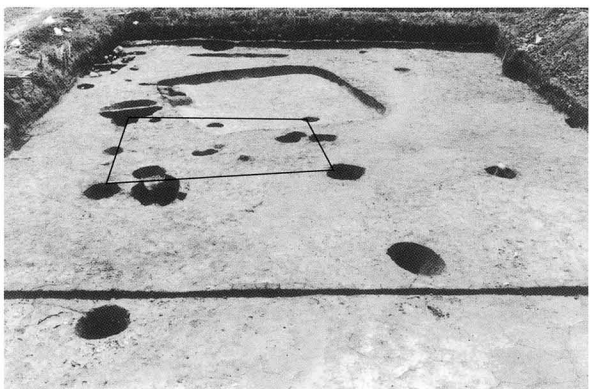
16号住居カマド



2N区15号住居



2N区3号埋甕



2N区2号掘立柱建物 (東より)



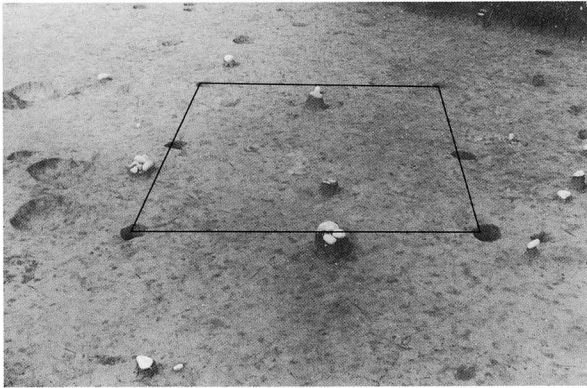
2 N区P91



2S区近景



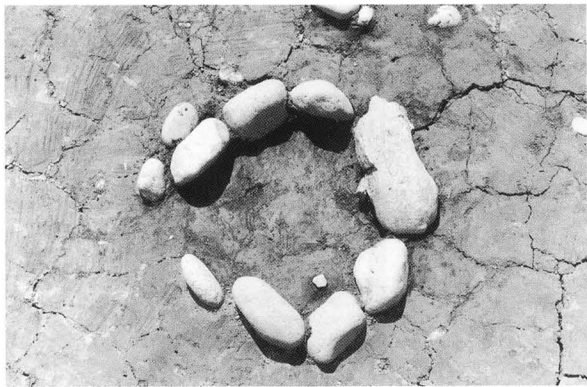
2S区P98



2S区17号住居 (南東より)



2S区P95・P93・P94 (左上から)



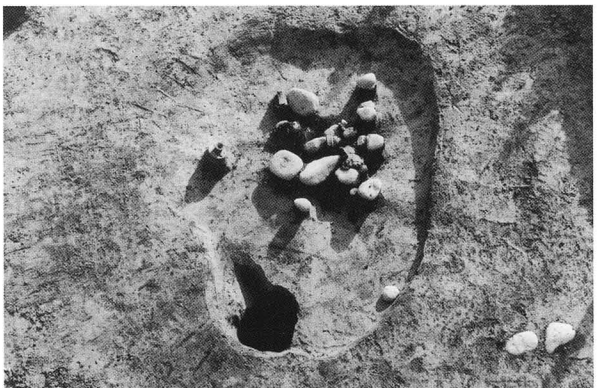
2S区1号炉



2A区南半部近景 (北より)



2S区18号住居



2A区P108



2A区豎8号穴状遺構 (北より)



3A区P109(左)・7号溝 (右)



3A区近景 (西より)



3A区5号豎穴状遺構 (東より)



3A区6号掘立柱建物



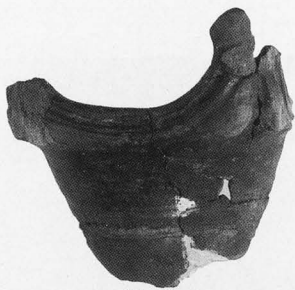
3A区6号豎穴状遺構 (北より)



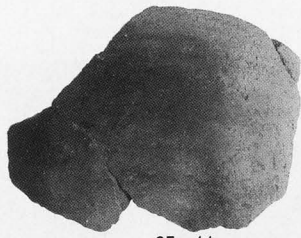
7号掘立柱建物・8号溝



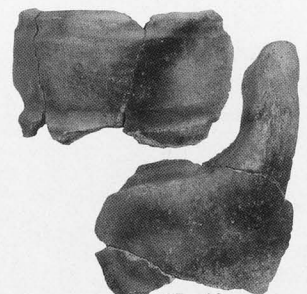
3A区P111 (北より)



64-3



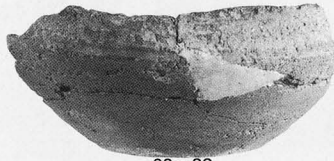
65-11



65-16



66-2



68-22



68-23



71-2



69-1



72-3



74-19



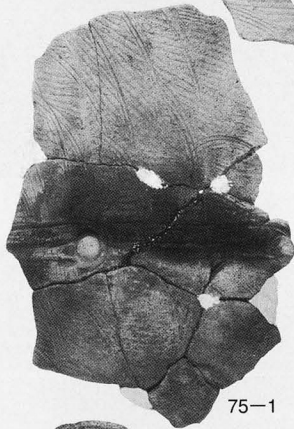
75-5



76-1



83-4



75-1



77-5



83-1



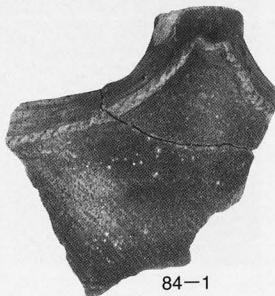
83-5



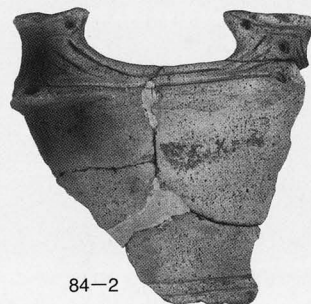
83-26



83-5



84-1



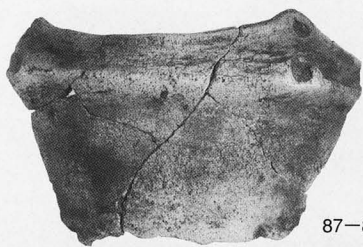
84-2



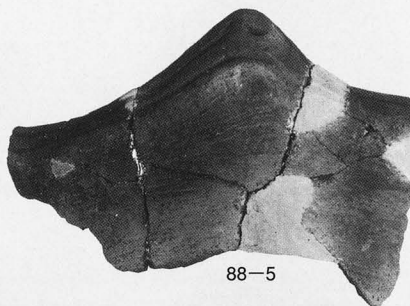
84-8



86-14



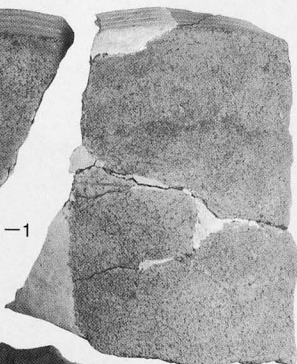
87-8



88-5



91-1



91-2



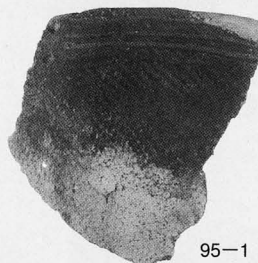
91-7



93-15



94-4



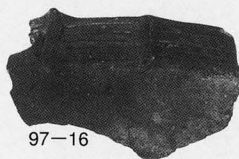
95-1



97-1



97-3



97-16



98-7



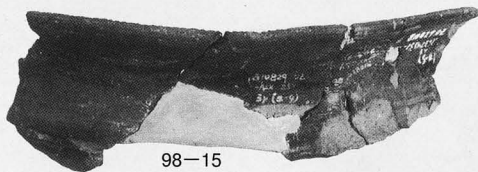
97-4



98-8



98-11



98-15



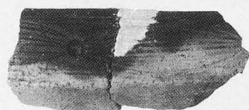
99-17



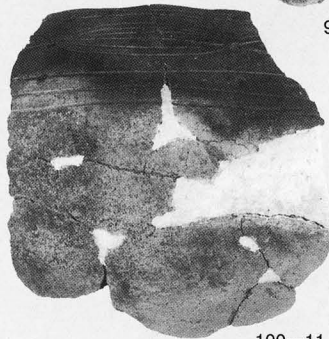
100-1



100-5



100-8



100-11



101-3



101-7



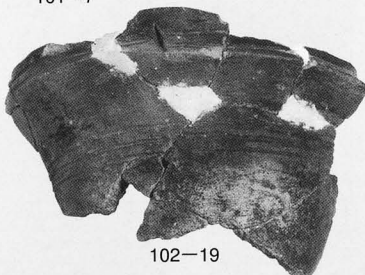
101-10



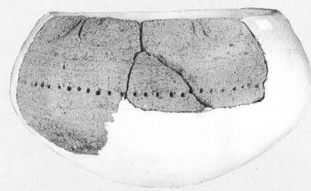
101-14



102-1



102-19



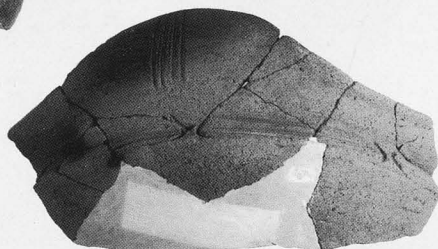
102-25



103-9



107-14



108-9



108-8



108-14



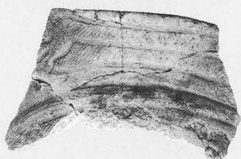
108-15



109-1



110-1



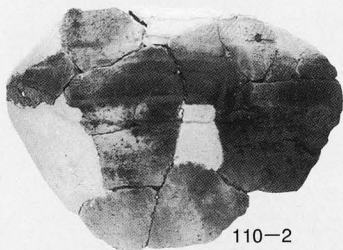
110-2



110-3



110-4



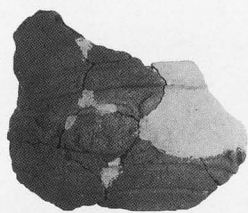
111-9



111-12



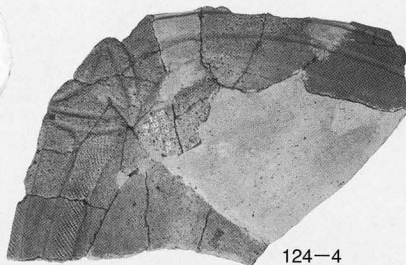
112-7



116-3



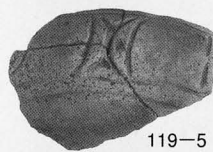
116-4



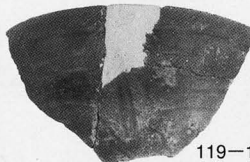
124-4



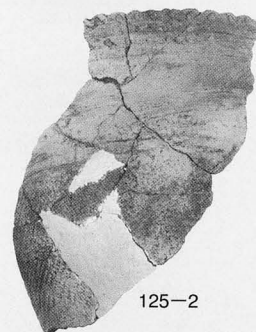
125-1



119-5



119-16



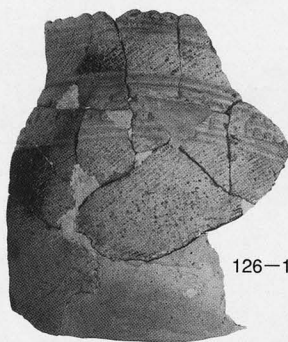
125-2



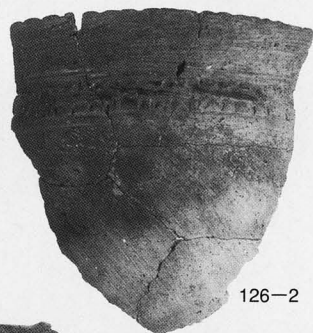
125-34



125-4



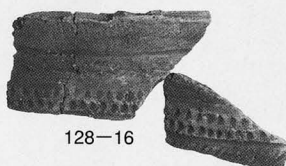
126-1



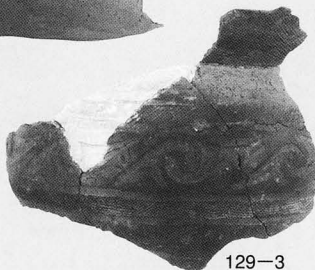
126-2



126-3



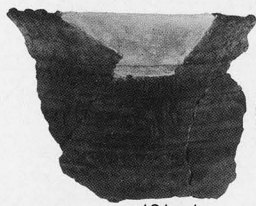
128-16



129-3



129-14



131-1



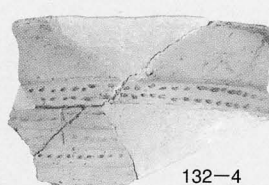
131-2



131-7



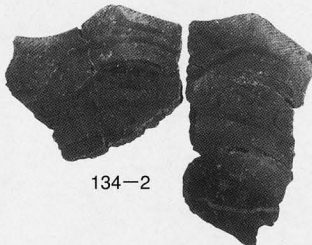
132-1



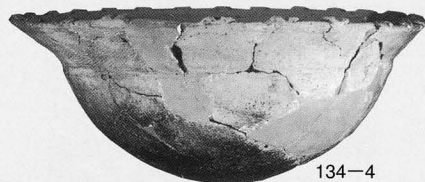
132-4



134-1



134-2



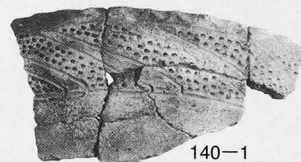
134-4



139-1



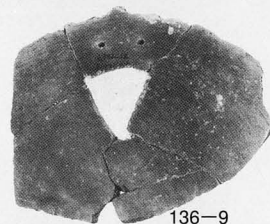
139-10



140-1



140-5



136-9



139-2



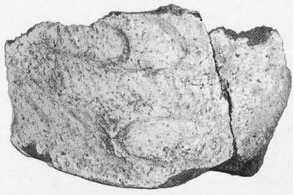
140-2



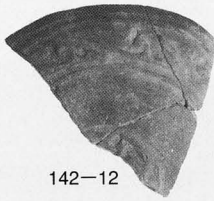
140-3



139-9



140-6



142-12



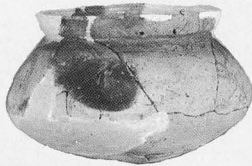
143-3



143-6



143-7



144-1



144-8



144-9



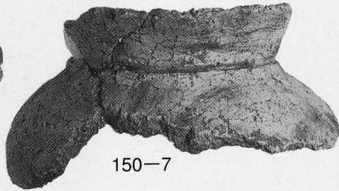
144-11



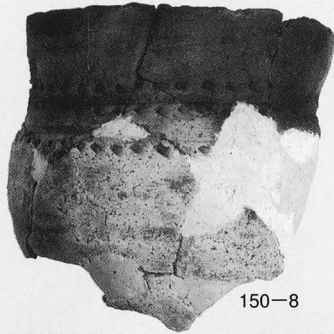
145-8



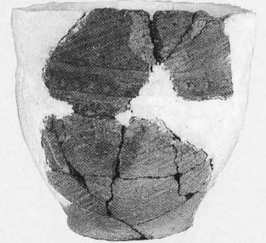
145-9



150-7



150-8



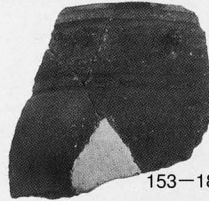
151-21



153-1·2



153-18



153-20



153-23



154-5



154-6



154-1



154-2



154-3



154-4



154-17



154-16



155-5



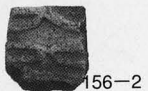
155-17



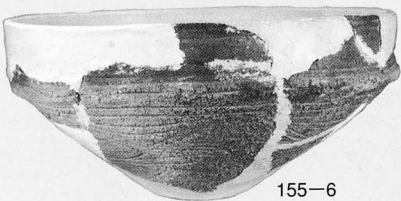
155-18



156-1



156-2



155-6



155-17
糊压痕



156-3



156-4



156-5



155-12



156-7



156-8



156-9



171-1



171-2



171-3



171-5



171-7



173-1



173-2



173-3



173-4



173-5



173-6



173-7



173-8



173-9



173-10



173-11



173-12



173-13



173-14



173-15



173-16



174-1



174-2



174-3



174-4



174-5



174-6



174-7



174-8



174-9



174-10



174-11



174-12



175-1



175-2



175-3



175-4



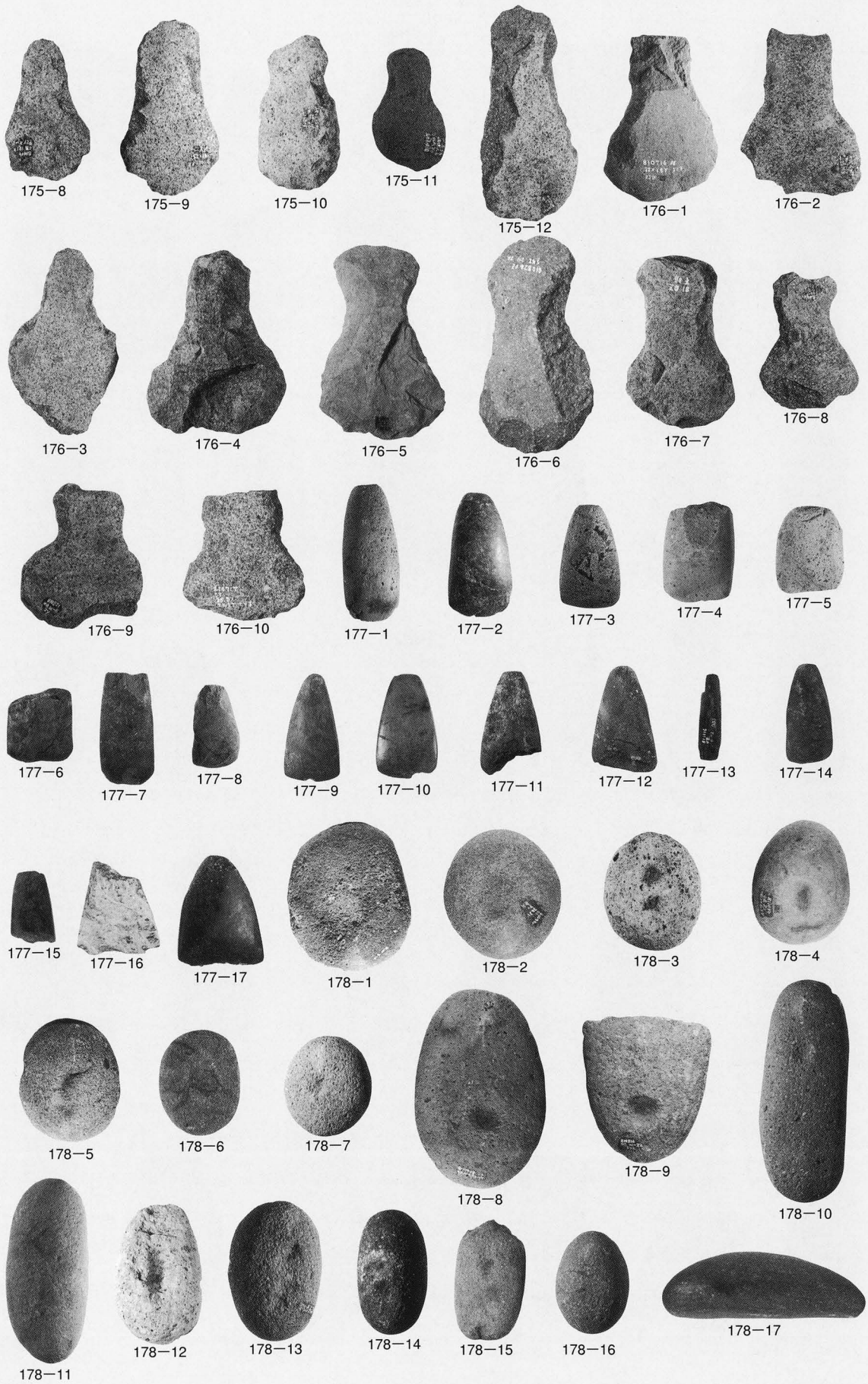
175-5



175-6



175-7





179-1



179-2



179-3



179-4



179-5



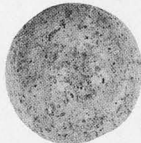
179-6



179-7



179-8



179-9



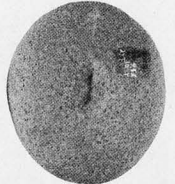
179-10



179-11



179-12



179-13



179-14



179-15



179-16



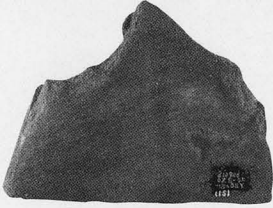
180-1



180-2



180-3



180-4



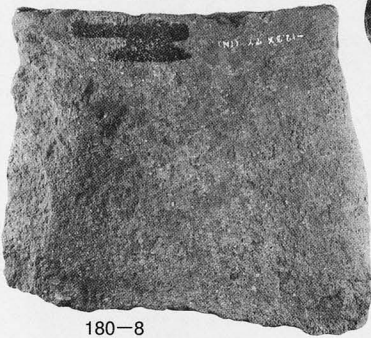
180-5



180-6



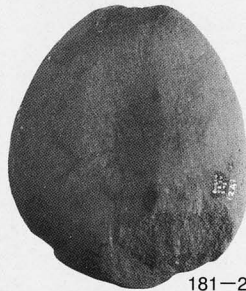
180-7



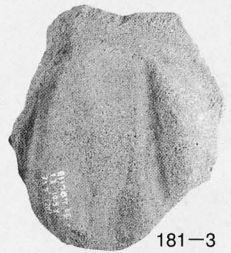
180-8



181-1



181-2



181-3



182-1



182-2



182-3



182-4



183-1



183-2



183-3



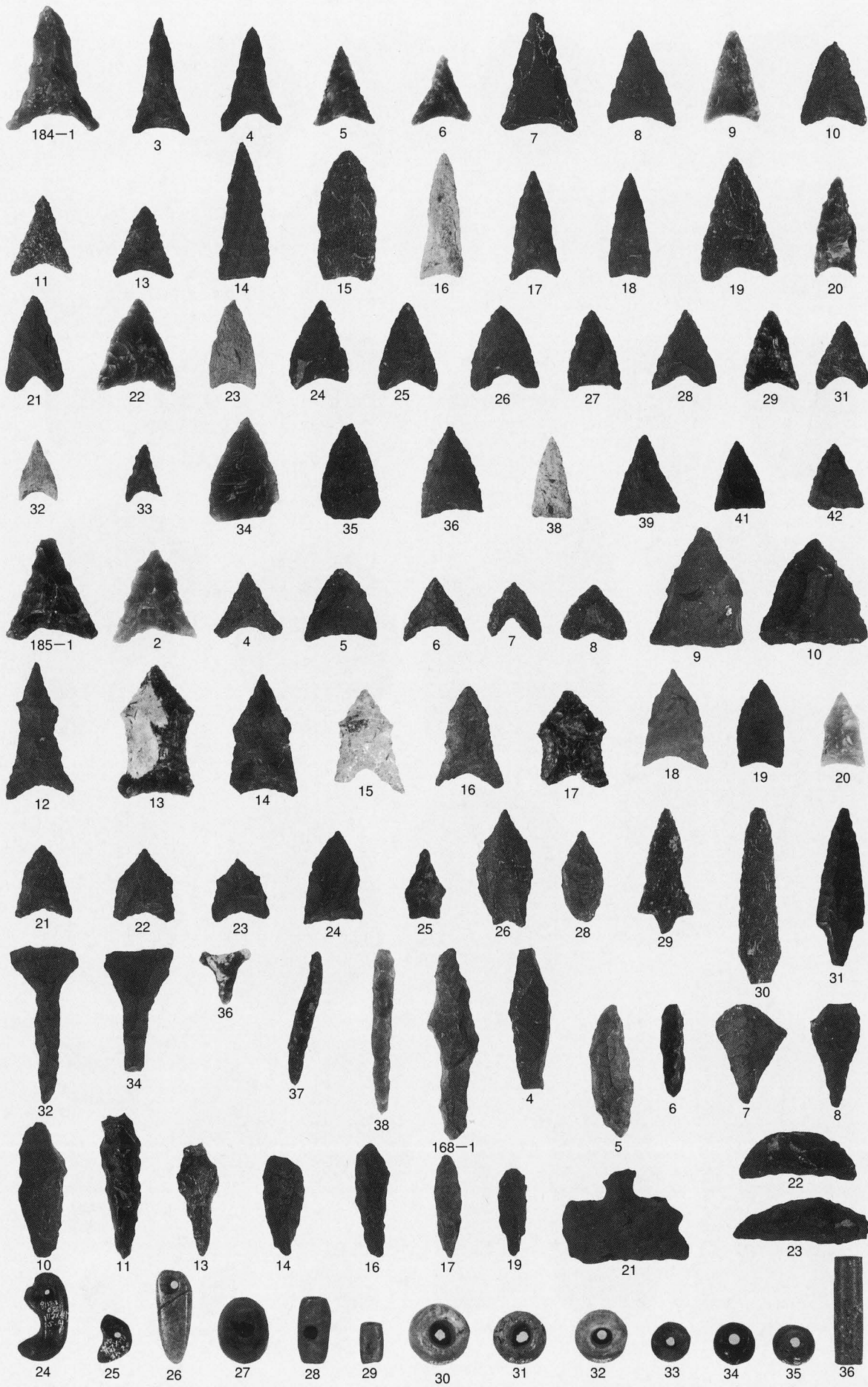
183-4



183-5



183-6





183-7



183-8



183-9



183-10



183-11



187-12



187-13



187-3



187-4



187-5



187-6



187-7



187-8



187-1



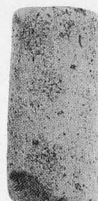
187-2



187-9



187-10



187-11



187-12



187-13



187-14



187-15



187-16



187-17



188-1



188-2



188-3



188-4



188-5



188-6



188-7



188-8



188-9



188-10



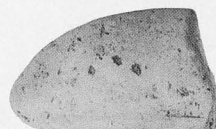
188-11



188-12



188-13



189-1



189-2



189-3



189-4



189-5



189-6



189-7



156-10 156-11 156-32 156-33 156-34 156-35 157-1 157-2



157-3 157-4 157-9 158-5



158-7 158-5



159-1 159-2 159-3 159-4



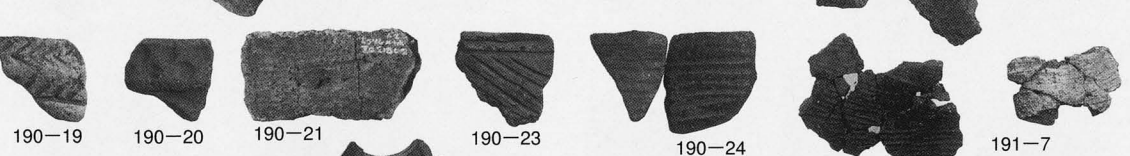
159-5 159-6 170-11 190-1 190-3 190-5 190-6



190-7 190-9 190-10 190-11 190-12 190-13 190-14



190-15 190-16 190-17



190-19 190-20 190-21 190-23 190-24 191-7



190-25 191-1 211-2



191-2 211-1



191-3 211-4 211-9 204-11



211-7 211-6

御経塚遺跡Ⅱ

発行日 1989年3月
発行者 石川県野々市町教育委員会
〒921 石川県石川郡野々市町本町5-4-1
電話 0762-48-8545
印刷 北國書籍印刷株式会社
